山形県埋蔵文化財センター調査報告書第226集
蝉田遺跡第1・2次発掘調査報告書　第一分冊　本文編
公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

蝉田遺跡

第１・２次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 226 集

第一分冊　本文編

２０１７

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

蝉田（せみた）遺跡

第１・２次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 226 集

第一分冊　本文編

平成 29 年

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

1 次調査区全景（南から）

2 次調査区全景（南から）

1 次調査区全景（東から）

1 次調査区全景（東から）

完形土器

油煙付着土器

黒色土器

墨書土器

ヘラケズリ土器

序

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、蝉田遺跡の調査成果をまとめたものです。

蝉田遺跡は、山形県内陸部に位置する村山市にあります。村山市は東に奥羽山脈の甑岳、西に出羽丘陵の月山・葉山に囲まれ、中央には最上川が北流しています。恵まれた豊かな自然が広がる市内には、各時代の 150 ヶ所を超える遺跡が確認されています。

この度、東北中央自動車道（東根～尾花沢間）の建設事業に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される、蝉田遺跡の発掘調査を実施しました。調査では、奈良・平安時代の掘立柱建物跡や河川跡などの遺構が検出され、土師器、須恵器、墨書土器、木製品などの多くの遺物が出土し、多大な成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　廣瀬　渉

凡　例

1　本書は、東北中央自動車道（東根～尾花沢間）建設に係る「蝉田遺跡」の発掘調査報告書である。本文編と写真図版編の二分冊とした。

2　既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

3　調査は国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託により、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

4　本書の執筆は、齊藤主税・後藤枝里子が担当し、三浦秋夫、黒坂雅人、伊藤邦弘、須賀井新人が監修した。

5　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ⅹ系（世界測地系）により、高さは海抜高で表す。方位は座標北を表す。

6　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

SK…土坑	SD…溝跡	SB…掘立柱建物跡　SP…ピット	SA…掘立柱列跡
SG…河川跡	SX…性格不明遺構	EB…掘立柱建物構成柱穴	EP…掘立柱列構成柱穴
RP…登録土器	RQ…登録石器	RW…登録木製品	RW…登録金属製品

7　遺構・遺物実測図の縮尺・網点の用法は各図に示した。また遺構図中の遺物は 1/10 の縮尺で採録した。

8　遺物実測図の断面黒塗りは須恵器を表す。また、拓影断面図の配置は左から外面・断面・内面の順に掲載した。

9　基本層序および遺構覆土の色調記載については、2008 年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

10　発掘調査、整理作業および本書を作成するにあたり、下記の方々から御指導と御助言をいただいた。（敬称略）

首都大学東京都市教養学部教授　山田昌久
国立歴史民俗博物館　三上喜孝
秋田城跡歴史資料館　伊藤武士
奈良文化財研究所　中村一郎
宮城県教育委員会　村田晃一

調 査 要 項

遺跡名	蝉田（せみた）遺跡		
遺跡番号	208-151		
所在地	山形県村山市大字西郷（にしごう）字蝉田		
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所		
調査受託者	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター		
受託期間	平成 24 年 4 月 6 日～平成 25 年 3 月 29 日		
	平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日		
	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日		
	平成 27 年 4 月 9 日～平成 28 年 3 月 31 日		
	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日		
現地調査	平成 24 年 5 月 22 日～ 11 月 30 日		
	平成 25 年 5 月 23 日～ 12 月 13 日		
調査担当者	平成 24 年度	調査課長	斉藤敏行
		考古主幹	伊藤邦弘
		専門調査研究員	齊藤主税（調査主任）
		調査研究員	庄司昭一
		調査員	吉田満
	平成 25 年度	調査課長	斉藤敏行
		考古主幹	伊藤邦弘
		専門調査研究員	齊藤主税（調査主任）
		調査研究員	庄司昭一
		調査員	吉田満
	平成 26 年度	整理課長	伊藤邦弘
		専門調査研究員	齊藤主税（整理主任）
		調査員	後藤枝里子
	平成 27 年度	整理課長	伊藤邦弘
		調査研究専門員	齊藤主税（整理主任）
		調査員	後藤枝里子
	平成 28 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹	須賀井新人
		調査研究専門員	齊藤主税（整理主任）
		調査員	後藤枝里子

調査指導　山形県教育庁文化財・生涯学習課

調査協力　東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所
村山東根土地改良区
村山市教育委員会
山形県村山教育事務所

業務委託　基準点測量業務　株式会社三和技建
遺構測量業務　株式会社イビソク（平成 24 年度）
日本特殊撮影株式会社（平成 25 年度）
理化学分析業務　パリノ・サーヴェイ株式会社
株式会社加速器分析研究所
公益財団法人山梨文化財研究所
株式会社吉田生物研究所
株式会社パレオ・ラボ
木製品保存処理　公益財団法人山梨文化財研究所
株式会社吉田生物研究所
株式会社東都文化財保存研究所

発掘作業員	穐葉敏一	阿部博幸	芦野美雪	石川英子	石川政子	大戸信昭	大場信行
	大類千代子	大類寛	奥山和子	尾崎たつ子	小野ゆう子	折原たつ子	柿崎亮子
	狩野ふみ	菊地孝	工藤勝美	工藤文雄	工藤美智子	倉金正一	黒沼貞子
	後藤義満	今野博子	笹崎梨奈	笹原功	佐竹由士	佐藤孝子	地主保子
	柴田みよ江	鈴木忠雄	須藤昭信	須藤美知子	関美恵子	髙橋エミ	髙橋敬子
	髙橋惣太郎	延沢好文	原田幸三	布施勝彦	堀澄雄	増川多美子	松田義洋
	間宮慶彦	三浦経夫	村川雅弘	森芳子	矢口和子	矢萩みち子	山口裕美子
	横山正利						（五十音順）
整理作業員	青木昭一	荒木恵理子	伊藤あかね	伊藤可奈子	伊藤瑞	石山聡	遠藤和彦
	遠藤榮	加藤志佳	川崎ちづる	後藤幸子	柴田敏夫	嶋田真奈美	高野優
	土屋彩	長谷川公一	星川麗子	吉田由美			（五十音順）

目　次

Ⅰ　調査の経緯
　　1　調査に至る経過 …… 1
　　2　調査の方法と経過 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境
　　1　地理的環境 …… 5
　　2　歴史的環境 …… 5
Ⅲ　遺構
　　1　遺構の分布 …… 11
　　2　検出された遺構 …… 11
Ⅳ　遺物 …… 23
Ⅴ　理化学分析
　　1　1次調査火山灰分析（1）…… 51
　　2　1次調査火山灰分析（2）…… 55
　　3　2次調査火山灰分析 …… 58
　　4　出土木製品の樹種同定（1）…… 62
　　5　出土木製品の樹種同定（2）…… 65
　　6　出土木製品の樹種同定（3）…… 70
　　7　出土木製品の樹種同定（4）…… 84
　　8　出土木材・炭化材の樹種同定（5）
　　…… 94
　　9　出土漆器の塗膜分析（1）…… 103
　　10　出土漆器の塗膜分析（2）…… 107
　　11　放射性炭素年代測定（1）…… 114
　　12　放射性炭素年代測定（2）…… 119
Ⅵ　総括 …… 124

報告書抄録 ……巻末

表

表 1　遺跡地名表…… 10
表 2　テフラ分析結果（1）…… 52
表 3　重軽鉱物分析結果（1）…… 53
表 4　テフラ分析結果（2）…… 56
表 5　テフラ分析結果（3）…… 60
表 6　重軽鉱物分析結果（2）…… 60
表 7　器種別の樹種構成（1）…… 63
表 8　樹種同定結果一覧（1）…… 63
表 9　器種別の樹種構成（2）…… 67
表 10 樹種同定結果一覧（2）…… 67
表 11 出土木製品同定表…… 74
表 12 樹種同定結果…… 86
表 13 樹種同定結果一覧（3）…… 95
表 14 分析対象一覧……104
表 15 生漆の赤外吸収位置とその強度……104
表 16 赤色塗膜層等の X 線分析結果 ……104
表 17 塗膜分析結果……105
表 18 調査資料……109
表 19 漆器の断面観察結果……109
表 20 測定試料および処理……115
表 21 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果……116
表 22 放射性炭素年代測定結果（1）……120
表 23 放射性炭素年代測定結果（2）……121
表 24 遺物観察表……317
表 25 木製品観察表……359

図　版

第 1 図　調査区概要図…… 4
第 2 図　地形分類図…… 8
第 3 図　遺跡位置図…… 9
第 4 図　重軽鉱物組成（1）…… 53
第 5 図　火山ガラスの屈折率（1）…… 53
第 6 図　砂分の状況・重軽鉱物（1）…… 54
第 7 図　火山ガラスの屈折率（2）…… 56
第 8 図　テフラ…… 57
第 9 図　重軽鉱物組成（2）…… 60
第 10 図　火山ガラスの屈折率（3）…… 60
第 11 図　砂分の状況・重軽鉱物（2）…… 61
第 12 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（1）…… 64
第 13 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（2）…… 68
第 14 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（3）…… 69
第 15 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（4）…… 76
第 16 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（5）…… 77
第 17 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（6）…… 78
第 18 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（7）…… 79
第 19 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（8）…… 80
第 20 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（9）…… 81
第 21 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（10）…… 82
第 22 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（11）…… 83
第 23 図　蝉田遺跡出土の木材①…… 88
第 24 図　蝉田遺跡出土の木材②…… 89
第 25 図　蝉田遺跡出土の木材③…… 90
第 26 図　蝉田遺跡出土の木材④…… 91
第 27 図　蝉田遺跡出土の木材⑤…… 92
第 28 図　蝉田遺跡出土の木材⑥・塗膜断面…… 93
第 29 図　出土の木材・炭化材①…… 96
第 30 図　出土の木材・炭化材②…… 97
第 31 図　出土の木材・炭化材③…… 98
第 32 図　出土の木材・炭化材④…… 99
第 33 図　出土の木材・炭化材⑤……100
第 34 図　出土の木材・炭化材⑥……101
第 35 図　出土の木材・炭化材⑦……102
第 36 図　漆器塗膜の赤外吸収スペクトル……105
第 37 図　漆製品の塗膜構造と反射電子像……106
第 38 図　塗膜分析写真（1）……109
第 39 図　塗膜分析写真（2）……110
第 40 図　塗膜分析写真（3）……111
第 41 図　塗膜分析写真（4）……112
第 42 図　塗膜分析写真（5）……113
第 43 図　暦年較正結果①……117
第 44 図　暦年較正結果②……118
第 45 図　暦年較正結果③……122
第 46 図　暦年較正結果④……123
第 47 図　全体割付図……129
第 48 図　遺構配置図①……130

第 49 図　遺構配置図②……131
第 50 図　遺構配置図③……132
第 51 図　遺構配置図④……133
第 52 図　遺構配置図⑤……134
第 53 図　遺構配置図⑥……135
第 54 図　遺構配置図⑦……136
第 55 図　遺構配置図⑧……137
第 56 図　掘立柱建物跡 SB70 ……138
第 57 図　掘立柱建物跡 SB84・柱穴 SP93・94・97 ……139
第 58 図　掘立柱建物跡 SB84 ……140
第 59 図　掘立柱建物跡 SB26・掘立柱列 SA18 ……141
第 60 図　掘立柱建物跡 SB26（1）……142
第 61 図　掘立柱建物跡 SB26（2）……143
第 62 図　掘立柱列 SA109・柱穴 SP35・36 ……144
第 63 図　掘立柱列 SA83・土坑 SK46・16・
　　柱穴 SP13・45……145
第 64 図　土坑 SK46・16・柱穴 SP13・45……146
第 65 図　土坑 SK1・2・8・9……147
第 66 図　土坑 SK1・2・8・9・81 ……148
第 67 図　土坑 SK11 ……149
第 68 図　土坑 SK12・15・17 ……150
第 69 図　土坑 SK14 ……151
第 70 図　土坑 SK4・5・66・67 ……152
第 71 図　土坑 SK34・47・柱穴 SP98・99……153
第 72 図　土坑 SK82 ……154
第 73 図　土坑 SK111 ……155
第 74 図　土坑 SK115 ……156
第 75 図　土坑 SK116・117・119・柱穴 SP118 ……157
第 76 図　土坑 SK122・123・175・203……158
第 77 図　土坑 SK112・113・114・性格不明遺構 SX153 ‥159
第 78 図　土坑 SK40・59・柱穴 SP49・51・54……160
第 79 図　柱穴 SP48・52・55・57 ……161
第 80 図　柱穴 SP106・107・108……162
第 81 図　溝跡 SD3・性格不明遺構 SX104・105（1）……163
第 82 図　溝跡 SD3・性格不明遺構 SX104・105（2）……164
第 83 図　溝跡 SD130 ……165
第 84 図　溝跡 SD131 ……166
第 85 図　溝跡 SD132・133・137・138・139・
　　土坑 SK141（1）……167
第 86 図　溝跡 SD132・133・137・138・139・
　　土坑 SK141（2）……168
第 87 図　河川跡 SG6 割付図 ……169
第 88 図　河川跡 SG6 ① ……170
第 89 図　河川跡 SG6 ② ……171
第 90 図　河川跡 SG6 ③ ……172
第 91 図　河川跡 SG6 ④ ……173
第 92 図　河川跡 SG6 ⑤ ……174
第 93 図　河川跡 SG6 ⑥ ……175
第 94 図　河川跡 SG6 ⑦ ……176
第 95 図　河川跡 SG6 木製品分布① ……177
第 96 図　河川跡 SG6 木製品分布② ……178
第 97 図　河川跡 SG6 木製品分布③ ……179
第 98 図　河川跡 SG6 木製品分布④ ……180
第 99 図　河川跡 SG6 木製品分布⑤ ……181
第 100 図　河川跡 SG6 木製品分布⑥ ……182
第 101 図　河川跡 SG6 木製品分布⑦ ……183
第 102 図　河川跡 SG50 ……184
第 103 図　河川跡 SG6・50（1）……185
第 104 図　河川跡 SG6・50（2）……186
第 105 図　SB26・SA109・SP45・49・52・99 出土遺物 ‥‥187
第 106 図　SB70 出土遺物 ……188
第 107 図　SP93・106・107 出土遺物 ……189
第 108 図　SK1・2・4・出土遺物……190
第 109 図　SK5・8・9 出土遺物 ……191
第 110 図　SK9・11 出土遺物 ……192
第 111 図　SK13・14・15・34 出土遺物 ……193
第 112 図　SK34 出土遺物 ……194
第 113 図　SK40・46・66・67 出土遺物 ……195
第 114 図　SK81・82 出土遺物……196
第 115 図　SK111・115 出土遺物 ……197
第 116 図　SK116・117・119・124・127・128・141
　　出土遺物……198
第 117 図　SK141 出土遺物（1）……199
第 118 図　SK141 出土遺物（2）……200
第 119 図　SK185・186・187・188・189・190・193・195・
　　201、SX43・104・105・120・121・134・149・
　　184 出土遺物 ……201
第 120 図　遺構付近出土遺物……202
第 121 図　SD3 出土遺物 ……203
第 122 図　SD69・95・131・132・138・139・140・148・
　　191 出土遺物 ……204
第 123 図　SD130 出土遺物（1）……205
第 124 図　SD130 出土遺物（2）……206
第 125 図　SG50 出土遺物（1）……207
第 126 図　SG50 出土遺物（2）……208
第 127 図　SG6 出土遺物（1）……209

第128図　SG6出土遺物（2）……210
第129図　SG6出土遺物（3）……211
第130図　SG6出土遺物（4）……212
第131図　SG6出土遺物（5）……213
第132図　SG6出土遺物（6）……214
第133図　SG6出土遺物（7）……215
第134図　SG6出土遺物（8）……216
第135図　SG6出土遺物（9）……217
第136図　SG6出土遺物（10）……218
第137図　SG6出土遺物（11）……219
第138図　SG6出土遺物（12）……220
第139図　SG6出土遺物（13）……221
第140図　SG6出土遺物（14）……222
第141図　SG6出土遺物（15）……223
第142図　SG6出土遺物（16）……224
第143図　SG6出土遺物（17）……225
第144図　SG6出土遺物（18）……226
第145図　SG6出土遺物（19）……227
第146図　SG6出土遺物（20）……228
第147図　SG6出土遺物（21）……229
第148図　SG6出土遺物（22）……230
第149図　SG6出土遺物（23）……231
第150図　SG6出土遺物（24）……232
第151図　SG6出土遺物（25）……233
第152図　SG6出土遺物（26）……234
第153図　SG6出土遺物（27）……235
第154図　SG6出土遺物（28）……236
第155図　SG6出土遺物（29）……237
第156図　SG6出土遺物（30）……238
第157図　SG6出土遺物（31）……239
第158図　SG6出土遺物（32）……240
第159図　SG6出土遺物（33）……241
第160図　SG6出土遺物（34）……242
第161図　SG6出土遺物（35）……243
第162図　SG6出土遺物（36）……244
第163図　SG6出土遺物（37）……245
第164図　SG6出土遺物（38）……246
第165図　SG6出土遺物（39）……247
第166図　SG6出土遺物（40）……248
第167図　SG6出土遺物（41）……249
第168図　SG6出土遺物（42）……250
第169図　SG6出土遺物（43）……251
第170図　SG6出土遺物（44）……252
第171図　SG6出土遺物（45）……253
第172図　SG6出土遺物（46）……254
第173図　SG6出土遺物（47）……255
第174図　SG6出土遺物（48）……256
第175図　SG6出土遺物（49）……257
第176図　SG6出土遺物（50）……258
第177図　SG6出土遺物（51）……259
第178図　SG6出土遺物（52）……260
第179図　SG6出土遺物（53）……261
第180図　SG6出土遺物（54）……262
第181図　SG6出土遺物（55）……263
第182図　SG6出土遺物（56）……264
第183図　SG6出土遺物（57）……265
第184図　SG6出土遺物（58）……266
第185図　SG6出土遺物（59）……267
第186図　SG6出土遺物（60）……268
第187図　SG6出土遺物（61）……269
第188図　SG6出土遺物（62）……270
第189図　SG6出土遺物（63）……271
第190図　SG6出土遺物（64）……272
第191図　SG6出土遺物（65）……273
第192図　SG6出土遺物（66）……274
第193図　SG6出土遺物（67）……275
第194図　SG6出土遺物（68）……276
第195図　SG6出土遺物（69）……277
第196図　SG6出土遺物（70）……278
第197図　SG6出土遺物（71）……279
第198図　SG6出土遺物（72）……280
第199図　SG6出土遺物（73）……281
第200図　SG6出土遺物（74）……282
第201図　SG6出土遺物（75）……283
第202図　SG6出土遺物（76）……284
第203図　SG6出土遺物（77）……285
第204図　SG6出土遺物（78）……286
第205図　SG6出土遺物（79）……287
第206図　SG6出土遺物（80）……288
第207図　SG6出土遺物（81）……289
第208図　SG6出土遺物（82）……290
第209図　SG6出土遺物（83）……291
第210図　SG6出土遺物（84）……292
第211図　SG6出土遺物（85）……293
第212図　SG6出土遺物（86）……294
第213図　SG6出土遺物（87）……295

第214図　SG6出土遺物（88）……296
第215図　SG6出土遺物（89）……297
第216図　SG6出土遺物（90）……298
第217図　SG6出土遺物（91）……299
第218図　遺構外出土遺物（1）……300
第219図　遺構外出土遺物（2）……301
第220図　遺構外出土遺物（3）……302
第221図　墨書・刻書土器文字集成（1）……303
第222図　墨書・刻書土器文字集成（2）……304
第223図　墨書・刻書土器文字集成（3）……305
第224図　墨付着土器集成図（1）……306
第225図　墨付着土器集成図（2）……307
第226図　炭化物付着土器集成図（1）……308
第227図　炭化物付着土器集成図（2）……309
第228図　炭化物付着土器集成図（3）……310
第229図　炭化物付着土器集成図（4）……311
第230図　炭化木製品集成図（1）……312
第231図　炭化木製品集成図（2）……313
第232図　斎串集成図……314
第233図　非ロクロ土器坏集成図……315
第234図　土器集成図……316

写真図版

巻頭写真1　1次調査区全景
巻頭写真2　2次調査区全景
巻頭写真3　1次調査区全景（俯瞰）
巻頭写真4　出土遺物写真（1）
巻頭写真5　出土遺物写真（2）
巻頭写真6　出土遺物写真（3）

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

遺跡は、村山市の東部に位置し、村山市役所から北西1.5km の名取地区の蝉田集落の水田・畑地・果樹・宅地などの自然堤防に立地する。遺跡の北側を市道浮沼名取線が走る。

今回の調査は、東北中央自動車道（東根～尾花沢間）建設に伴う緊急発掘調査として実施した。

東北中央自動車道の東根～尾花沢間（延長 23km）は、東根市羽入～尾花沢市尾花沢に至る高速道路で、平成14 年に開通した山形上山～東根間と事業継続中の尾花沢新庄道路を接続し、並行する国道 13 号の渋滞緩和や信頼性の高いネットワークの充実を図るうえで重要な区間である。

蝉田遺跡は、周知の遺跡である。遺跡の東側隣接地に東北中央自動車道の建設が計画されたため、平成 23 年11 月に山形県教育委員会により遺跡の東側部分の事業地について、遺跡の有無、範囲と状況を確認するための試掘調査が実施された。その結果、11 箇所の試掘トレンチのうち９箇所のトレンチから溝跡や柱穴などが検出され、平安時代の須恵器や土師器が出土した。このことから、遺跡範囲が東側まで広がることが確認された。北側部分（2 次調査）については用地取得の関係上、次年度に繰り越された。

これにより、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所と山形県教育委員会で遺跡の取り扱いに係る協議が行われた。その結果、平成 24 年度は約 6,000m^2 の緊急発掘調査（第 1 次調査）を実施して、北側部分の未取得地部分については、取得した後に試掘調査を行い、その結果から判断することとなった。

平成 24 年 10 月に山形県教育委員会による北側部分の未調査区の試掘調査が行われた。その結果、設定した３本のトレンチの内２本から土坑、溝跡、柱穴などの遺構が検出されたことから記録保存のための緊急発掘調査が必要と判断された。そこで、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所と山形県教育委員会で遺跡の取り扱いに係る協議を行い、平成 25 年度に工事範囲内に係る部分の約5,000m^2 について緊急発掘調査（第２次調査）を行うことで合意した。

2　調査の方法と経過

第 1 次調査

調査に先立ち、平成 24 年 5 月 10 日に山形県埋蔵文化財センターにおいて、関係機関と埋蔵文化財センターによる平成24年度の「東北中央自動車道（東根～尾花沢）に係る名取地区、清水地区、本飯田地区遺跡発掘調査事前打ち合わせ」を開催して、発掘調査工程や方法などの調整と最終確認を行った。

調査は 5 月 22 日から開始した。最初に調査区を設定し、それに沿って周縁の線掘りを行い、遺構と遺物の検出できる深さを確認した。重機による表土除去は 5 月29 日から開始した。大雨による冠水などの影響により中断もあったことから、すべて終了したのは 6 月 29 日であった。

表土除去と併行して、一部を手掘りで掘り下げ、遺構の検出面を平らにする面削りなどを進めた。

6 月 14 日には委託業務による基準点と 4 × 4m を 1 単位とするグリッドの設置を行った。グリッドは山形県全域を囲むように南北を X 軸、東西を Y 軸として、1 グリッドあたり 40km 四方の大グリッドを設定。さらに、大グリッド 1 つを南から北へ 00 ～ 99、西から東へ 00 ～ 99 と 400m 四方の中グリッド、さらに中グリッド 1 つを 4m 四方の小グリッドに分割した。そのため、グリッド番号は「大グリッド南北・東西、中グリッド南北・東西、小グリッド南北・東西」の順で表すため AA0000-0000 の 10 桁のアルファベットと数字で示すこととした。その基準を基にグリッド名を基準杭に付した。本報告書では、大中グリッドの表記は省略し、小グリッドのみ表記している。

面削り作業終了後は、遺構を検出するための面整理作業と遺構配置図の作成を行った。

遺構検出終了後は、調査区全体の写真撮影を行い、各

遺構に登録番号を付けた。

遺構の精査は覆土をベルト状に残す、又は半截して掘り下げ、土層の写真撮影、断面図作成、覆土観察の後に完掘した。遺物は、完形品及び一括土器などについて登録番号を付し、他は遺構毎またはグリッド毎に取り上げていった。

11 月 22 日には委託業務の図化のための調査区全体の空中写真撮影を実施した。そして、これに先立ち 11 月 11 日には調査の成果を広く公表する発掘調査説明会を開催し多くの参加者を得た。現地の調査は 5 月 22 日から 11 月 30 日まで実施した。

第 2 次調査

平成 25 年 2 月 21 日に国土交通省山形河川国道事務所において、平成 25 年度調査予定の東北中央道・国道 112 号・113 号関係遺跡の事務所設置場所や土置き場などの協議を工事計画図面を基に行った。国土交通省側から、事務所の設置場所を提示されたが、積雪で現地の状況が確認できないことから、融雪を待って現地を確認後に再度協議することで了承を得た。

現地確認後の 4 月 12 日に再度、平成 25 年度調査予定の東北中央道関係遺跡の事務所設置場所や土置き場の協議を国土交通省山形河川と山形県埋蔵文化財センター及び関係機関である NEXCO 東日本、東北電力も交えて行った。その結果、道路建設工事計画との調整を図り、松橋遺跡に隣接する北側部分を事務所用地とすることで合意した。

調査開始前の平成 25 年 5 月 7 日には山形県埋蔵文化財センター会議室において、関係機関と埋蔵文化財センターによる「平成 25 年度国土交通省山形河川国道事務所・山形県県土整備部関係遺跡発掘調査事前打ち合わせ」を開催し、発掘調査工程や方法などの調整と最終確認を行った。

調査は 5 月 23 日から開始した。最初に調査区の範囲を設定し、それに沿って周縁の線掘りと、一部拡張して手掘による掘り下げを行い遺構と遺物の検出できる深さを確認した。重機による表土除去は 6 月 4 日から開始して 6 月 14 日に終了した。

検出面を平坦にする面削り作業を行った後に遺構と遺物を検出する面整理作業を 6 月 14 日から 7 月 24 日まで行い、併行して遺構配置図の作成と検出状況の写真撮影も進め、各遺構に登録番号を付した。また、6 月 18 日には委託業務による基準点を設置している。基準点及び方眼グリッドは第 1 次調査の方法に準拠した。

遺構の掘り下げは覆土をベルト状に残す、又は半截して掘り下げ、土層の写真撮影、断面図作成、覆土観察の後に完掘した。遺物は、完形品及び一括土器などについて登録番号を付し、他は遺構毎またはグリッド毎に取り上げていった。

発掘調査も終盤に近づいた 10 月 5 日には調査の成果を広く公表する調査説明会を、松橋遺跡と合同で開催して多くの参加者を得た。そして、11 月 16 日に調査区全体の空中写真撮影を実施した。その後、主な遺構の完掘平面図を作成、11 月 29 日に機材撤収を行った。11 月 27 日から 12 月 13 日の期間で調査区を埋め戻し、調査を終了した。

現地の調査は埋め戻しも含めて 5 月 23 日から 12 月 13 日までの実働 98 日間実施した。

整理作業

整理作業は、平成 26 ～ 28 年度に行った。

平成 24 年度は出土した遺物を水洗いする洗浄作業とその後、遺物に遺跡名と出土地点などを書く注記作業の基礎整理を行った。

洗浄は、遺物を水に浸けながらブラシを使って表裏面や割れた面の土を落として、すすぎを行い綺麗にしていった。

注記は、遺物を乾燥させた後に白のポスターカラーで細い筆を使用して遺跡名と出土地点などを遺物に書いていった。遺跡名は「セミタ」、出土地点は遺構名やグリッドなどを明記し、現場で登録したものには登録番号を付した。記名後はラッカーを塗り、消えるのを防ぐ処置を施した。

遺物の基礎整理と併行して現場で作成した平面図と断面図、撮影した遺構の写真などの整理を進め、併行して地形・遺構測量業務の委託図面の校正も行った。

平成 25 年度は第 2 次調査で出土した遺物の洗浄作業と注記作業の基礎整理から開始した。注記は 1 次調査の出土遺物と区別するため遺跡名を「セミタ 2 次」とし、他は 1 次調査の整理を踏襲した。

平成 26 年度、基礎整理終了後は、接合作業を開始した。接合作業は、第 1・2 次調査で出土した遺物を対象に登

録遺物、遺構、調査区毎に分け、土師器、須恵器、黒色土器、石製品などに分類した後、登録遺物と遺構ごとに接合を行い、さらに遺構周辺のグリッド出土遺物の接合を進めた。

遺物の整理作業と併行して現場で作成した平面図と断面図、遺構の写真などの整理と、地形・遺構測量業務の委託図面の校正も進めた。

また、第 1・2 次調査で採取した土壌と出土した骨、炭化材、火山灰、木材を放射性炭素年代測定、テフラ分析・屈折率測定、土壌理化学分析、樹種同定を行うための理化学分析や保存処理を業務委託した。

接合作業が終了した後は、補強するために部分的に強力な接着剤や修復剤を補填する作業を行い平成 26 年度の整理作業は終了した。

平成 27 年度は、4 月 9 日から開始した。平成 26 年度からの続きで、遺物の接合と接合した遺物の補強作業、保存処理木製品の実測などを行った。接合・補強が終了した後は、遺構出土遺物と登録遺物を中心に状態の良いものを抽出した。

抽出した遺物は実測を行い図面を作成した後に、底部や表裏面の拓本を採り、遺物観察表の作成を行った。

遺物の整理作業と併行して、遺構図の作成を進めた。遺構の平面図と断面図を整合させ、デジタルトレースをして遺構の個別図を作成し、断面の土層注記と共に編集を行った。

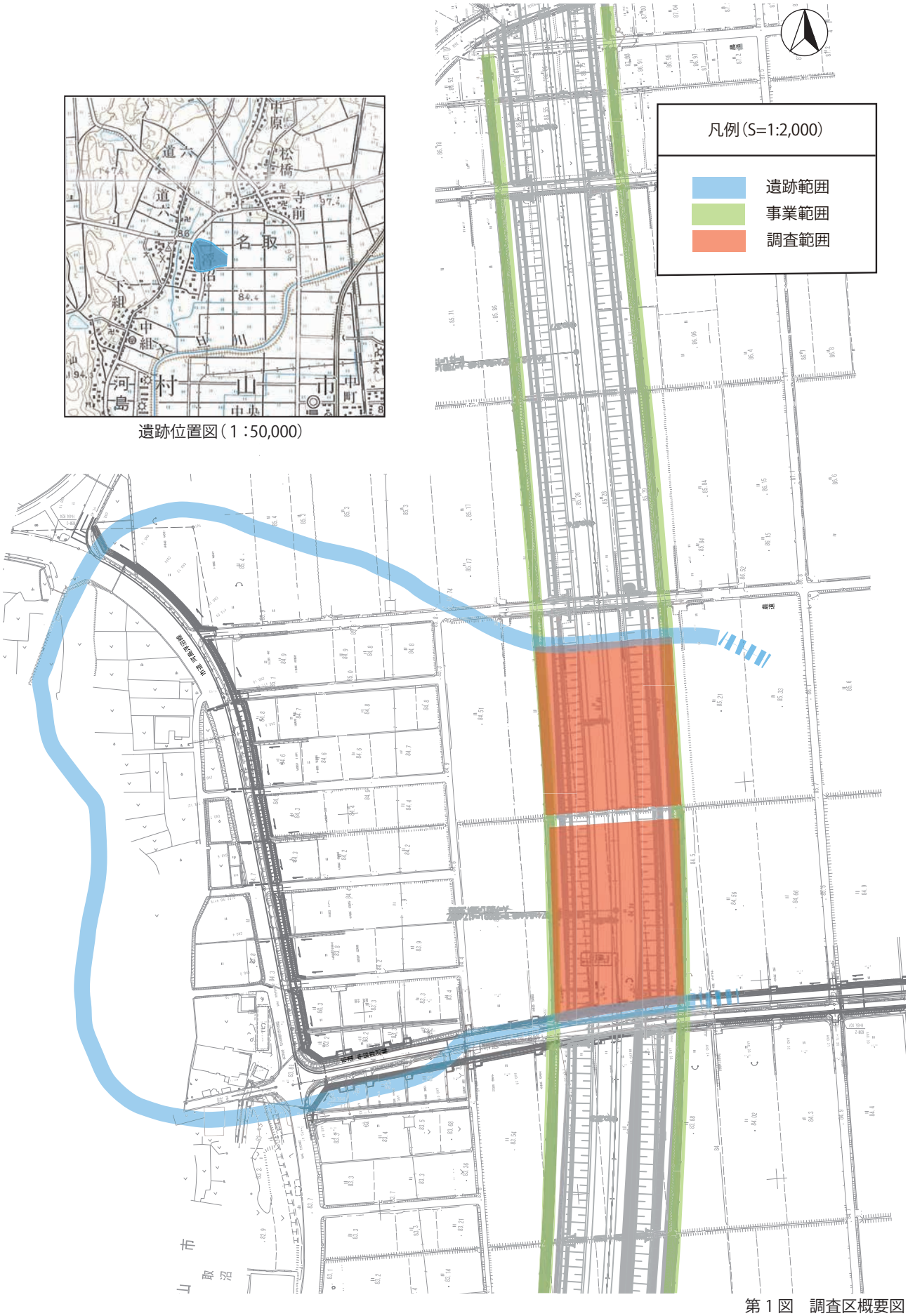
遺物実測図はデジタルトレースを行い、拓本と組み合わせて編集を行った。

遺構の写真は現場で撮影した中から、報告書に掲載するものを抽出した。

実測と拓本が終了した遺物は、写真撮影のための準備として欠損箇所を補填する復元作業をした。

平成 28 年度は、出土遺物の単体または集合での写真撮影を行い、報告書に掲載する写真を選別した。そして、前年度に作成した個別の遺構図版・遺物図版・観察表・写真図版の版組と編集作業を行い、その後に本文を執筆した。そして、原稿の修正や校正を行い、報告書を印刷・刊行した。

遺跡位置図（1：50,000）



第 1 図　調査区概要図

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

遺跡は、山形県のほぼ中央にある村山市の東部に位置し、村山市役所から北西へ約 1,500m の名取地区西郷地区、蟬田集落の自然堤防上に立地する。標高は 84 ～ 85m を測る。

村山市は、東を奥羽山脈、西は朝日連峰に挟まれた山形盆地の北部に位置し、市域は東西 22.1km、南北 14.9km の東西に長い形状を呈する。面積は約 196km^2 を測り、地形区分は、山地・火山地が 117km^2、丘陵地が 9km^2、台地段丘が 41km^2、低地が 29km^2 となる（山形県企画調整部土地対策課 1981）。

山形盆地の中央を最上川が蛇行しながら北流し、市を東西に二分する。東側は低地と奥羽山脈の甑岳などの山々がそびえ、そこから源を発する大沢川、大旦川により楯岡扇状地が形成される。この扇状地と最上川沿岸部の丘陵地帯に挟まれるように、河間低地や後背湿地などの平地が形成される。西側は東側より標高が高くなる傾向があり、最上川の旧河床が隆起して台地となった河岸段丘が多数形成され、周辺に多くの遺跡が点在する。地形は、葉山の側火山である大高根山東部丘陵、最上川の下刻や側刻による最上川河岸段丘、東流して最上川に注ぐ富並川河岸段丘からなる。

東西を山に挟まれたこの地域の気候は、典型的な盆地型で、夏は暑く冬の寒さは厳しい。年間の平均気温は 11℃前後であるが、夏冬の温度差は 50℃前後にもなることがある。

但し、周囲の山々により冬の北西季節風や梅雨季の「ヤマセ」が遮られ、他地域と比べ比較的温暖な気候となることから、稲作やさくらんぼ、ラ・フランス、桑などの栽培が盛んな地域としても知られている。地形により栽培される作物は変化し、河間低地・後背湿地では稲作が活発に行われ、最上川などにより形成された河岸段丘・自然堤防上では果樹栽培が行われている。一方、当地域は豪雪地帯としても知られ、冬になると盆地特有の冷え込みと日本海から流れ込む湿った空気が奥羽山脈にぶつかり、多量の雪を降らせる。

この地域の表層地質は、凝灰質砂岩、シルト岩および礫岩である。この地質は、尾花沢盆地南東の荒町から峯岸に至る朧気川南岸を模式地とする凝灰質砂岩・硬質頁岩の互層を主とする地層である。尾花沢盆地を大きく取り囲むように、西の舟形町松橋峠から、葉山の東側、袖崎、鶴子、田沢を経て福原北部にかけて広く分布する。下半部は凝灰質砂岩と頁岩の互層、上半部は砂質頁岩であり、黒色頁岩で代表される古口層に相当するものである。層厚は 150 ～ 300m である（山形県企画調整部土地対策課 1981）。

調査区の大部分を占める土壌は、表層腐植質黒ボク土壌に属する。この土壌は非固結火成岩を母材とし、堆積様式は風積で、主に段丘・台地に分布し、畑地として利用されている。土性は強粘～粘質で、有効土層は 1m と深い。また、強酸性で、りん酸の固定力が大で、塩基、有効りん酸などの養分の少ない生産力の低い土壌である。調査区の一部では表層多腐植質多湿黒ボク土壌に属する。この土壌は黒色の多腐植層で、強酸性で、りん酸の固定力が大きく、塩基・有効りん酸などの養分の少ない生産力の低い土壌である（山形県企画調整部土地対策課 1979）。

当遺跡は河島山段丘の北麓部に囲まれた低位段丘上に位置し、村山市の 8 地区（大倉、袖崎、西郷、大久保、冨本、戸沢、大高根、楯岡）の西郷名取地区に属し、調査区周辺は田畑として多く利用されている。

名取地区は、村山市東部で南端を大旦川、東縁を奥羽本線が走る農業地域であるが、名取山と清水山を切り開き集団桑園とし養蚕も盛んに行われている。近年、山形農山漁村元気再生計画による大規模な水利施設の整備や農地基盤整備などの大規模な開発事業が進められた。

2　歴史的環境

蟬田遺跡は、村山市東部の最上川右岸の河島山丘陵南麓に広がる微高地に位置する平安時代の集落跡であり、周辺にも多くの遺跡が所在している。

旧石器時代の遺跡では、県指定史跡の河島山遺跡と平成 24 年度に当センターが発掘調査を行った清水西遺跡がある。

河島山遺跡は旧石器から中世に及ぶ複合遺跡で、東南緩斜面の畑地から杉久保型ナイフ、石刃、彫刻刀、掻器などの旧石器時代の石器群が出土したのをはじめ、周辺から縄文・弥生時代の遺跡も見つかっている。さらに、西南稜上には円墳があり、そのほか経塚や板碑・五輪塔などが数多くみられる。

清水西遺跡は台形石器および平坦打面で剥離された厚手石刃を素材にしたナイフ形石器群などが出土している。遺跡の性格としてはキャンプサイトもしくは一定期間の居住域として利用されたことが明らかになっている。

縄文時代の遺跡は早期から晩期まで数多く確認されている。中でも、最上川の支流である富並川によって形成された河岸段丘上に立地する西海渕遺跡は縄文時代中期の代表的な遺跡である。縄文集落がほぼ全域にわたり調査され、縄文中期の直径 140m 規模の大環状集落であることが明らかになっている。

遺跡は平成 2・3 年に約 13,500m^2 が調査された。集落の中心より広場・墓域・土坑群・住居跡・掘立柱建物跡が放射状に同心円状に配置される。全体で 5 重構造の大環状集落である。住居群には規模が 10 ～ 15m の大型住居跡が 26 棟以上検出されている。このほか円形・楕円形の住居跡は 30 棟以上が検出されている。

中央広場は直径 15 ～ 17m ほどの大きさで、その外側の直径 15 ～ 35m の範囲に 1.5m 前後の小判型を基本とする墓坑群 150 基が環状に分布する。この墓坑からは子供の手形が残る手形付土製品が出土している。遺跡から出土した縄文土器・石器は約 1,000 箱にも及ぶ膨大な資料である。

この西海渕遺跡は日本の縄文集落の研究にとってきわめて重要な成果を提供した遺跡である。

また西海渕遺跡から南へ 1.5km の最上川と富並川の低位段丘上に位置する川口遺跡は後期前葉集落跡である。平成元年に調査され、13 棟の住居跡、墓坑・石棺墓 45 基、土坑ピットが 1,500 基が検出された。後期の川口遺跡においても直径 60m ほどの環状の遺構配置が窺えるとされている。多量の縄文土器や石器の他に、石刀の初期のものや、パン状炭化物やアスファルト塊が出土している。

同じく富並川の段丘状に位置する宮の前遺跡は圃場整備事業や国道改良事業に伴い調査が行われている。後期末葉から晩期の遺跡である。住居跡は少ないが、直径 60cm に及ぶ柱穴群や埋設土器などが多数見つかっている。また、大量の遺物が出土する「捨て場」が見つかっている。縄文時代後期末葉から晩期後葉までの土器、石器などが出土する拠点的な集落であることが明らかになっている。

また、平成 26・27 年度に発掘調査を行っている羽黒神社西遺跡では、石囲炉跡やフラスコ状土坑などが見つかり、多くの土器や石器が出土している。

弥生時代の遺跡は限られるが、最上川左岸の自然堤防上に里向山遺跡と早房Ｄ遺跡が所在している。また、大沢川左岸の楯岡扇状地に立地する作野遺跡の 2 次調査では県内でも類例の少ない弥生時代初頭に属すると考えられる住居跡が見つかっている。

古墳時代では、河島山古墳群と名取古墳がある。河島山古墳群は、河島山 1 号墳・2 号墳からなる。1 号墳は、河島山山頂付近の東斜面に位置する円墳で、墳丘頂部は径約 8m、墳丘の底径は約 24m、高さ約 4m、墳丘周辺には幅約 4m の周溝を有している。凝灰岩製の箱型石棺で、副葬品は確認されていない。2 号墳は、同山の南西にある丸森山山頂付近に位置する。1 号墳同様、円墳で周囲に周溝を有する。両古墳とも本格的な発掘調査は行われていない。名取古墳は、河島山から北に 3km、河島山に連なる丘陵の西側で最上川の自然堤防上に位置する。内陸部最北限の円墳といわれ、墳丘頂部は径約 10m、墳丘の底径は約 36m、高さ約 2.4m、墳丘全周に周溝がめぐる。

奈良・平安時代の遺跡は、河島山ニュータウンの宅地造成や東北中央自動車道建設工事に伴い、発掘調査が行われた西原Ｃ遺跡、松橋遺跡、田向遺跡、田向 2 遺跡、経塚森遺跡、清水遺跡などがある。西原Ｃ遺跡は、平成 7 年に村山市教育委員会による発掘調査が行われ、掘立柱建物跡、竪穴住居などが多数確認された。中でも掘立柱建物跡は広範囲にわたり 20 棟以上検出されている。出土遺物には、土師器・須恵器のほか、須恵器坏底部に「石」と書かれた墨書土器、土製紡錘車や砥石などの石

製品がある。また、当センターが平成 22 年と 25 年の 2 度にわたり発掘調査を行った松橋遺跡は、掘立柱建物跡、井戸跡などが多数検出された。特に掘立柱建物跡では建物の 2 面または 1 面に庇をもつものが検出され、注目される。土師器や須恵器、中世陶磁器が出土しており、9 世紀後半から 10 世紀前半の平安時代前期と 15 世紀の中世の集落跡であることが明らかとなっている。

また、本遺跡の北 3km に所在する清水遺跡はその範囲が東西 380m、南北 1,300m の広大な遺跡で、平成 22 ～ 26 年に東北中央自動車道関連事業の範囲内を 1 ～ 8 次に分けて調査を行っている。その結果、多くの竪穴住居や土坑が見つかっている。5・7 次調査では、区画溝に囲まれた建物跡群などや、墨書土器なども出土しており、集落跡あるいは郡衙の施設とも考えられる。

近年の開発事業に伴う発掘調査により、村山市の古代の様相が明らかになりつつある。

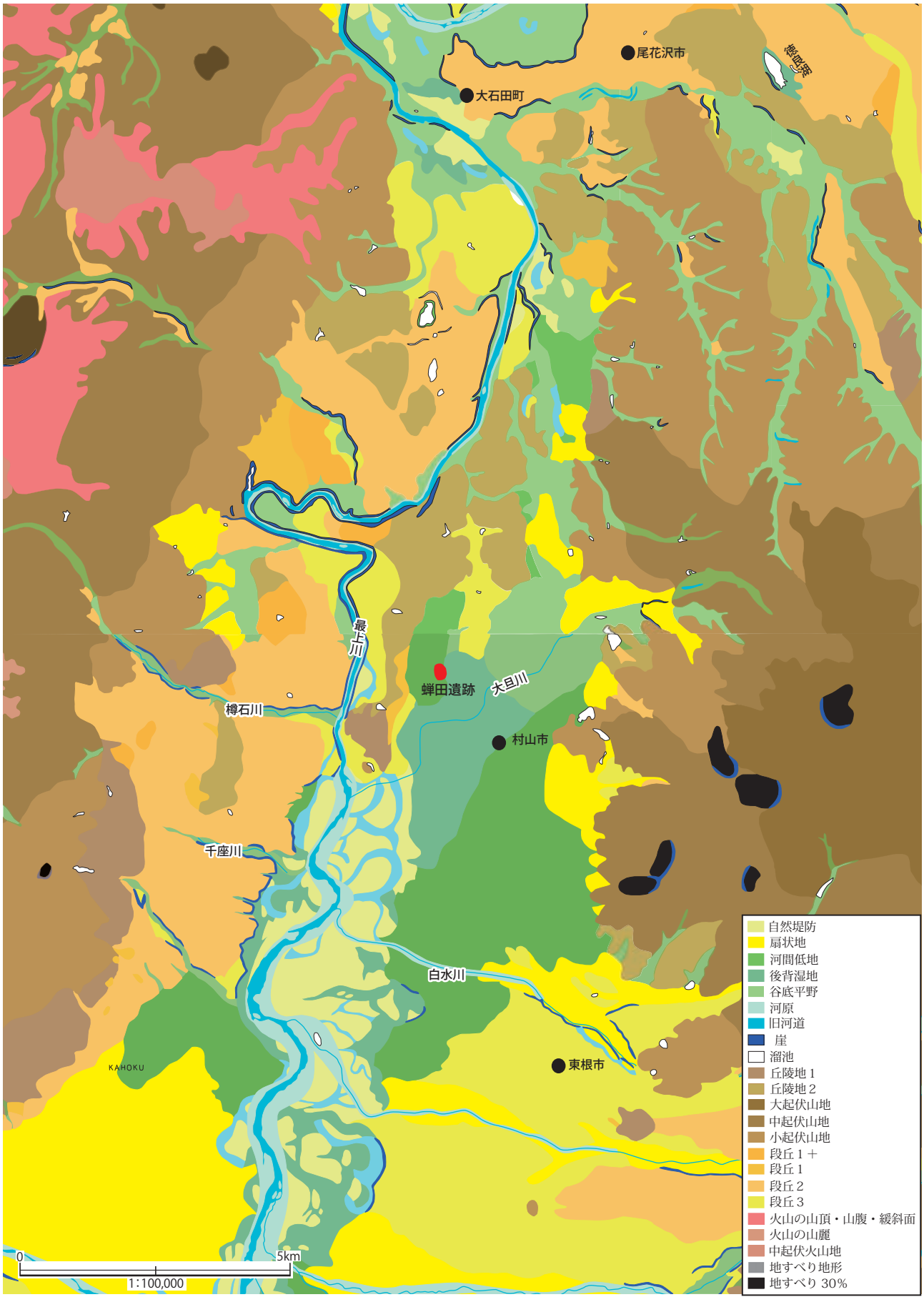
中世では河島山館跡、楯岡城、白鳥館跡などがある。河島山館跡は、山頂と東側の山腹と 2 箇所に分かれ、山頂はチャシ址一の丸と呼ばれる鉢巻式山城で、空堀と土塁に囲まれた円形の曲輪である。チャシ址二の丸は二重の空堀で曲輪は削平されず、自然地形のままである。両者の築城年代は異なる解釈が出されているが、詳細は不明である。また、河島山からは多数の板碑や五輪塔などが完形・破片を合わせて 70 基以上確認されている。河島山を開墾した際に出土したとされているが、現在は山頂の一隅にまとめられている。板碑の石材は、凝灰岩で様式はいずれも成生型を呈し、大きいもので 90cm を測る。明確な時期は不明であるが、室町時代末頃から桃山時代初めと考えられている。

白鳥館跡は平成 12 年に発掘調査が行われ、柱痕が残存する建物跡が多数検出され、青磁や緑釉三彩盤などの陶磁器や古銭、木製品等多くの遺物が出土している。

楯岡城は、村山市街地の北東に隣接する楯山に築かれた連郭式の山城で、別名舞鶴城とも呼ばれている。南側の山裾に館があり、館を中心に城下町が開けていた。楯山は甑岳の西側に伸びる台地で、その先端の西楯山は、標高 209m で山腹は急斜面である。三方に伸びた尾根に大小の曲輪を段々と連続的に配置する。頂上の曲輪も平坦で、櫓などの建物跡が築かれていたと考えられている。頂上からは近隣の市町村が一望できる。中楯山の頂上曲輪も平坦で南東部に建物跡が確認されているが、詳細は不明である。曲輪の東西は掘切で区切られており、楯岡城の沿革については『最上楯岡元祖記』には、承元 2 年（1208）に櫛山月楯に開城したが四代にして没落、弘長元年（1261）に奥州より里見氏が入部して楯岡に開城、本城と名付けたとあり、五代 144 年続いたとされる。室町時代に入り、山形城主斯波兼頼の孫、最上満直の四男最上伊予守満国が応永 13 年（1406）に入部、楯岡氏を名乗って満国以後七代 190 年間続く。楯岡城は、最上氏にとって北進における重要な拠点であったとされる。七代満茂・八代光直が活躍した近世期に両楯山が城下と共に整備された。元和 2 年（1616）、最上義光の実弟で最後の城主である楯岡光直が封じられた後は、最上氏家中でも重要な地位を築く。元和 8 年（1622）最上氏が改易になったことにより楯岡城は廃城となった。

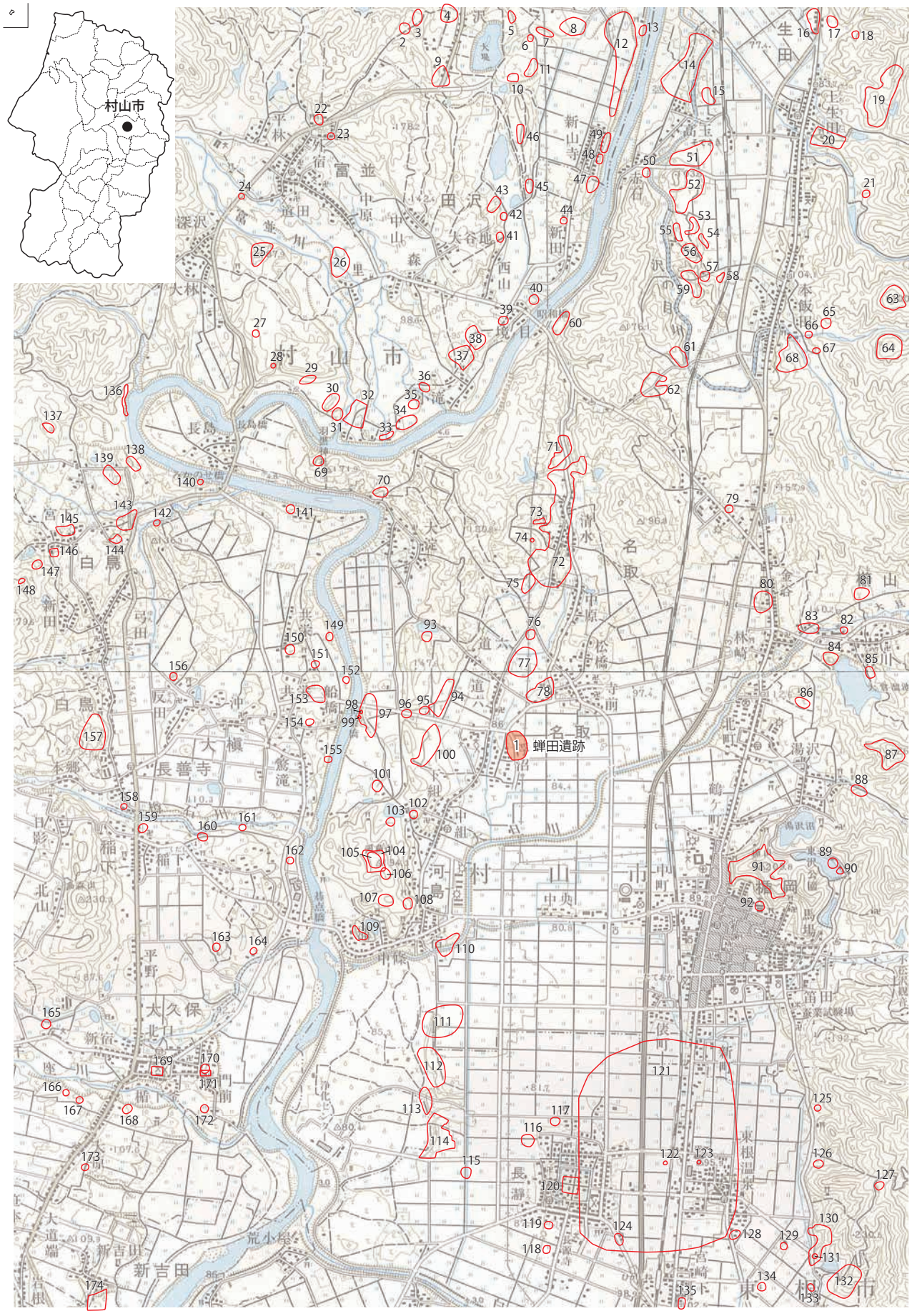
また、同年の名取村（現在の村山市名取・一部楯岡地区）は最上氏領から山形藩領になる。名取村は浮沼・中原・清水・境ノ目の枝郷がある。寛永 20 年（1643）からは幕府領、安政 2 年（1855）以降は松前藩領と移り変わり明治期を迎える。

明治維新後の村山市は、行政区画の変遷に伴い旧幕府領は明治 2 年（1869）に酒田県、また翌年には山形県に編入された。近現代における名取村は、明治 11 年（1878）に北村山郡に属し、明治 22 年（1889）には名取・大淀・長島・河島が合併し、西郷村の大字となり、昭和 29 年から村山市の大字名となった（佐藤 2011）。



※本図は『土地分類基本調査　楯岡』(山形県企画調整部土地対策課　1982)、同じく『尾花沢』・『月山』・『左沢』の「地形分類図」を合成し、加筆したものである。

第２図　地形分類図



※国土地理院発行 5 万分の 1 地形図「尾花沢」・「楯岡」使用

第 3 図　遺跡位置図

表１　遺跡地名表

No.	市町村	遺跡名	種別	時代
1	村山市	蟬田遺跡	散布地	平安
2	大石田町	田沢沼西Ｂ遺跡	集落跡	縄文中
3	大石田町	田沢沼西Ａ遺跡	集落跡	縄文中・晩
4	大石田町	坂下遺跡	集落跡	縄文前
5	大石田町	羽根沢Ｄ遺跡	散布地	縄文早・前
6	大石田町	羽根沢Ａ遺跡	集落跡	縄文
7	大石田町	羽根沢Ｅ遺跡	集落跡	-
8	大石田町	羽根沢Ｆ遺跡	集落跡	縄文後・晩
9	大石田町	久伝遺跡	集落跡	縄文中・晩
10	大石田町	羽根沢Ｃ遺跡	集落跡	縄文前、平安
11	大石田町	羽根沢Ｂ遺跡	集落跡	縄文中
12	大石田町	小野原遺跡	集落跡	旧石器、縄文、平安
13	大石田町	馬坂遺跡	散布地	縄文前
14	村山市	落合遺跡	集落跡	縄文中、平安
15	村山市	八合田遺跡	散布地	縄文中、弥生後
16	村山市	北島遺跡	集落跡	縄文、奈良・平安、中世
17	村山市	清水脇２遺跡	集落跡	縄文、平安
18	村山市	清水脇遺跡	集落跡	縄文
19	村山市	土生田楯山遺跡	城館跡	中世
20	村山市	土生田楯跡	城館跡	-
21	村山市	南沢遺跡	集落跡	縄文
22	村山市	古道遺跡	集落跡	縄文
23	村山市	中山遺跡	集落跡	縄文
24	村山市	宮の前遺跡	集落跡	縄文草～晩、平安、中世
25	村山市	富並楯跡	城館跡	中世
26	村山市	西海渕遺跡	集落跡	縄文
27	村山市	深沢・向山遺跡	集落跡	縄文中
28	村山市	里向山遺跡	集落跡	縄文、弥生
29	村山市	里向山Ｂ遺跡	集落跡	縄文
30	村山市	里向山Ｃ遺跡	散布地	縄文
31	村山市	里向山Ｄ遺跡	散布地	縄文
32	村山市	川口遺跡	集落跡	縄文
33	村山市	早房Ａ遺跡	集落跡	縄文
34	村山市	早房Ｂ遺跡	集落跡	縄文
35	村山市	早房Ｃ遺跡	集落跡	縄文
36	村山市	早房Ｄ遺跡	集落跡	縄文、弥生
37	村山市	小滝Ａ遺跡	集落跡	縄文
38	村山市	小滝Ｂ遺跡	集落跡	縄文
39	村山市	小滝Ｃ遺跡	散布地	縄文
40	村山市	境ノ目遺跡	集落跡	縄文
41	村山市	西山Ａ遺跡	集落跡	縄文
42	村山市	西山Ｂ遺跡	散布地	縄文
43	村山市	西山Ｃ遺跡	集落跡	縄文
44	村山市	田沢新田遺跡	集落跡	縄文
45	大石田町	長峯山Ｂ遺跡	集落跡	縄文中
46	大石田町	長峯山Ａ遺跡	集落跡	縄文
47	村山市	新山寺Ｃ遺跡	散布地	-
48	大石田町	新山寺Ｂ遺跡	集落跡	縄文中
49	大石田町	新山寺Ａ遺跡	集落跡	縄文前
50	村山市	赤石遺跡	集落跡	縄文早・前・晩
51	村山市	沼田２遺跡	散布地	縄文中、平安
52	村山市	沼田遺跡	遺物包蔵地	縄文前・中・晩、平安
53	村山市	北原４遺跡	散布地	縄文中、平安
54	村山市	北原３遺跡	散布地	縄文
55	村山市	壁山２遺跡	散布地	縄文
56	村山市	北原２遺跡	散布地	縄文、平安
57	村山市	壁山遺跡	集落跡	縄文
58	村山市	北原遺跡	生産遺跡	縄文、近世以前
59	村山市	沢田遺跡	散布地	縄文、平安
60	村山市	本飯田赤石遺跡	散布地	縄文、平安
61	村山市	大原口遺跡	集落跡	縄文
62	村山市	東熊野苗畑遺跡	集落跡	縄文
63	村山市	高館山遺跡	城館跡	-
64	村山市	十字山館跡	城館跡	-
65	村山市	北沢遺跡	散布地	縄文
66	村山市	高来沢Ａ遺跡	集落跡	縄文
67	村山市	高来沢Ｂ遺跡	集落跡	縄文
68	村山市	飯田楯跡	城館跡	中世
69	村山市	小坂遺跡	集落跡	縄文中
70	村山市	浦遺跡	散布地	縄文
71	村山市	清水北遺跡	散布地	縄文、平安
72	村山市	清水遺跡	散布地	縄文、平安
73	村山市	羽黒神社西遺跡	集落跡	縄文
74	村山市	清水西遺跡	集落跡	旧石器、縄文
75	村山市	経塚森遺跡	散布地	平安
76	村山市	田向２遺跡	集落跡	平安
77	村山市	田向遺跡	散布地	縄文中
78	村山市	松橋遺跡	散布地	平安、中世
79	村山市	第二農場遺跡	集落跡	縄文
80	村山市	位碑田遺跡	集落跡	縄文
81	村山市	白山道遺跡	集落跡	縄文
82	村山市	大倉小学校遺跡	集落跡	縄文晩
83	村山市	矢島遺跡	集落跡	縄文早～前
84	村山市	見附楯跡	城館跡	中世
85	村山市	勝負平遺跡	集落跡	弥生？
86	村山市	当岳遺跡	集落跡	縄文中、奈良・平安
87	村山市	楡山楯跡	城館跡	中世
88	村山市	ハバ遺跡	集落跡	縄文、奈良
89	村山市	東沢遺跡	集落跡	縄文
90	村山市	東沢公園窯跡	窯跡	平安
91	村山市	楯岡城跡	城館跡	中世
92	村山市	楯岡小学校遺跡	集落跡	奈良
93	村山市	草伊賀遺跡	集落跡	縄文
94	村山市	草伊賀Ｂ遺跡	集落跡	平安
95	村山市	西原Ｂ遺跡	集落跡	平安
96	村山市	西原Ａ遺跡	散布地	縄文
97	村山市	後原遺跡	集落跡	縄文早、平安
98	村山市	後原遺跡	墳墓	中世
99	村山市	後原遺跡	石造物	中世
100	村山市	西原Ｃ遺跡	集落跡	縄文、奈良・平安
101	村山市	後久保遺跡	集落跡	縄文、奈良
102	村山市	河島山口Ａ遺跡	集落跡	縄文
103	村山市	河島山口Ｂ遺跡	集落跡	縄文
104	村山市	河島山館跡	城館跡	-
105	村山市	河島山古墳群	古墳	古墳
106	村山市	河島山館跡	城館跡	中世
107	村山市	河島山遺跡	集落跡	旧石器
108	村山市	塩川前山遺跡	集落跡	弥生
109	村山市	河島・丸森遺跡	集落跡	縄文
110	村山市	八反稲干原遺跡	散布地	縄文、平安
111	村山市	河島八反遺跡	散布地	平安
112	東根市	八反遺跡	集落跡	平安
113	東根市	沼袋遺跡	集落跡	平安
114	東根市	長瀞本楯館跡	城館跡	中世
115	東根市	月山堂遺跡	集落跡	平安
116	東根市	扇田遺跡	集落跡	弥生、古墳
117	東根市	北方遺跡	集落跡	平安
118	東根市	軍町遺跡	集落跡	平安
119	東根市	南方遺跡	集落跡	平安
120	東根市	長瀞城跡	城館跡	中世
121	東根市	本郷条里制跡	条里遺構	-
122	東根市	仙台原遺跡	古墳	古墳
123	東根市	大塚古墳	古墳	古墳
124	東根市	白金遺跡	集落跡	平安
125	東根市	荷渡し遺跡	集落跡	平安
126	東根市	たきの沢遺跡	集落跡	縄文
127	東根市	小池山遺跡	集落跡	縄文、平安
128	東根市	本郷遺跡	集落跡	縄文、平安
129	東根市	上江Ｂ遺跡	集落跡	縄文、平安
130	東根市	兵備山楯跡	城館跡	中世
131	東根市	兵備山遺跡	-	縄文
132	東根市	堂の前楯跡	城館跡	中世
133	東根市	堂の前遺跡	集落跡	平安
134	東根市	上江Ａ遺跡	集落跡	縄文
135	東根市	宮崎遺跡	集落跡	平安
136	村山市	柏木森館跡	城館跡	中世
137	村山市	トウボウ遺跡	集落跡	縄文
138	村山市	アコウギ２遺跡	散布地	縄文
139	村山市	アコウギ１遺跡	散布地	縄文後・晩
140	村山市	小国沢遺跡	集落跡	縄文、奈良
141	村山市	鹿の子沢Ａ遺跡	集落跡	縄文
142	村山市	長峯遺跡	集落跡	縄文
143	村山市	念仏壇Ａ遺跡	集落跡	縄文
144	村山市	念仏壇Ｂ遺跡	集落跡	縄文
145	村山市	宮下遺跡	散布地	縄文
146	村山市	白鳥館跡	城館跡	中世、近世
147	村山市	平林遺跡	集落跡	縄文
148	村山市	毛倉森館跡	城館跡	-
149	村山市	棚子遺跡	集落跡	縄文、平安
150	村山市	鹿の子沢Ｂ遺跡	集落跡	縄文
151	村山市	袋遺跡	集落跡	縄文、奈良
152	村山市	川口Ａ遺跡	集落跡	縄文、奈良
153	村山市	船橋遺跡	集落跡	縄文後
154	村山市	鹿の子沢Ｃ遺跡	集落跡	縄文
155	村山市	川口Ｂ遺跡	集落跡	縄文
156	村山市	北原遺跡	集落跡	奈良
157	村山市	白鳥城跡	城館跡	中世
158	村山市	水口遺跡	集落跡	縄文中
159	村山市	川前遺跡	集落跡	縄文
160	村山市	稲下遺跡	集落跡	旧石器～弥生
161	村山市	山の外遺跡	集落跡	縄文
162	村山市	川口遺跡	集落跡	縄文
163	村山市	小谷楯跡	集落跡	奈良
164	村山市	一木の森遺跡	集落跡	縄文
165	村山市	中山Ｂ遺跡	集落跡	縄文
166	村山市	高崖遺跡	集落跡	縄文
167	村山市	西浦遺跡	集落跡	奈良
168	村山市	赤坂遺跡	集落跡	奈良
169	村山市	大久保城跡	城館跡	-
170	村山市	宝鏡寺遺跡	集落跡	縄文
171	村山市	大久保古城跡	城館跡	中世
172	村山市	市の町遺跡	集落跡	平安
173	村山市	狼沢遺跡	集落跡	縄文
174	河北町	伊達城跡	城館跡	中世

Ⅲ　遺　　構

1　遺構の分布

南側の 1 次調査区では平安時代の掘立柱建物跡と土坑・柱穴・ピット・溝・流路等が検出された。この他に近世とみられる溝も検出されている。この調査区は広く水田を耕作する低地に位置する。北調査区（2 次調査区）の南側から南調査区（1 次調査区）の北側では深い鞍部が広がりを見せる。

遺構の分布は調査区北側（2 次調査区）では、南の 1 次調査区から続く低い鞍部があり、粘土質の地山である。これから北及び東に徐々に標高を上げ地盤の安定した地区が形成されている。中央部から東側や北側に遺構の広がりが推測される。

南側調査区（1 次調査区）では中央部に位置する流路 SG6 を境にして、北側では鞍部が広がる。東側では土坑や溝跡などが見られる。

この東側部分は北半では、周囲よりも 40 ～ 60cm 標高が高く地盤の安定した地区である。調査区中央部を東から西へ、西流すると見られる自然流路 SG6 の周辺部分、特にその南側、SB26 掘立柱建物跡付近が調査区内でやや微高地になっており、地盤が最も安定した地区である。そのため、調査区の中でも柱穴列等多く検出された。

この中央部から北側は徐々に落ち込み調査区北端では 1.5m 程の深さに達する。そして農業用水路を挟み、2 次調査区の南端に通じる。この隣接する 2 次調査区の南端中央部は田面から約 2 m の深さまで削り、ようやく地山が見えている。この深い鞍部は南北 25m、東西 30m の範囲で降雨時期には随時水が滞留していたと見られる。今回の調査でも常時排水しない限り水位が上がり冠水する。遺構は全く検出されず、平安時代の集落が所在していた当時も雨天時は水が溜まる光景が見られたのではないか。

何れにせよ遺構の中心は SG6 から東側、特に北東方向に広がると予測させる検出状況である。

2　検出された遺構

掘立柱建物跡 SB26（第 59・60・61 図）

本址はグリッド 8406 付近に位置する。EB22、EB23、EB24、EB25、EB28、EB29、EB30 の 7 基の柱穴から構成される。EB24 と EB30 の間には柱穴が確認できていない。

2 × 2 間の建物跡であったと見る。北側総長 6.8m、南面 6.20m、東面 4.80m、西面 4.84m。柱間は 2.7m と 2m の東西に長い建物である。柱穴は隅丸方形で直径約 70 ～ 90cm、深さ約 50cm を測る。

堆積土は掘方の土（1 ～ 3 層）とアタリ（抜きとり？）の層で主に構成される。一部掘方上面プランから火山灰が斑に混入しているのが見られる（上層）。十和田 a 火山灰の 10C1/4 以降に建てられた痕跡か、あるいは降灰後、整地された土（灰混入）が埋まったものと考えられる。掘方の下層は、粘土質の土が堆積している。遺物の出土は極わずかで、破片資料が多い。

柱穴の精査では平面プラン確認時にアタリが確認され、平面図に記録している。EB24 と EB30 の真ん中に柱穴が存在するか確認のため、一段下げたが検出されていない。柱穴が確認できない事から「コ」の字を呈する遺構と考えた。

SB26 の柱穴

EB22

規模は上端 75.5 × 74.5cm、下端 72 × 61.5cm、2 段目上端 32 × 27.5cm、下端 10.5 × 15cm、深さ 54 ～ 59cm、柱痕跡アタリは 39.5 × 43cm で大きすぎるため抜き取り痕の可能性がある。遺物は須恵器坏片が 3 点出土している。

EB23

規模は上端 95.5 × 77.5cm、下端 54.5 × 60cm、深さ 49cm、柱痕跡アタリは 35 × 29.5cm を測る。遺物は須恵器坏片が 2 点出土している。

EB24

規模は上端 85.5 × 75.5cm、下端 61.5 × 50.5cm、

深さ 44cm を測る。柱痕跡アタリは径 34cm を測る。遺物は出土していない。

EB25

規模は上端 62.5 × 54.5cm、下端 32.5 × 46.5cm、深さ 44cm。遺物は土師器坏片など多数出土している。

EB28

規模は上端 82 × 69.5cm、下端 57.5 × 52.5cm、深さ 45cm を測る。遺物は出土していない。

EB29

規模は上端 78.5 × 69cm、下端 55.5 × 71.5cm、深さ 39cm。須恵器片や土師器片が数点出土している。

EB30

規模は上端 62.5 × 61cm、下端 48.5 × 42.5cm、深さ 47cm を測る。土師器片が 2 点出土している。

柵列 SA18（第 59 図）

EP19 ～ 21 を柵列としたが、掘立柱建物跡 SB26 に付随する「庇」などの柱穴の可能性がある。

柱穴の平面形は円形ないし楕円形である。直径約 75 ～ 95cm、深さ 30 ～ 50cm を測り、大型でしっかりした掘方の柱穴である。総長は 4 m を測り、柱間距離は EP21 - 20 が 1.7m、EP20 - 19 が 2.3m である。やや柱間距離の差が大きいため柵列ではなく SB26 に伴う可能性もあると考えた。SB26 とは、柱穴の規模、深さなど類似点が多い。柱穴から白色土ブロック（火山灰）の出土がないことは SB26 との時期差の可能性も考えられる。

EP19

規模は上端 97.5 × 98.5cm、下端 64.5 × 81.5cm、深さ 32cm、柱痕跡アタリは 31.5 × 32.5cm を測る。土師器坏片 1 点が出土している。

EP20

規模は上端 94 × 74cm、下端 54.5 × 37.5cm、深さ 56cm、アタリ 49.5 × 40.5cm を測る。須恵器の甕片が 3 点出土している。

EP21

規模は上端 60.5 × 76.5cm、下端 36.5 × 52.5cm、深さ 39cm（一部は 53cm）、柱痕跡アタリは 38.5 × 29.5cm を測る。土師器坏・甕片が 2 点出土している。

掘立柱建物跡 SB70（第 56 図）

グリッド 7806 に位置する。EB71、EB72、EB73、EB74、EB75、EB76、EB77、EB78、EB79 より構成される。

SB70 は 2 × 2 間の掘立柱総柱建物跡である。北側柱列と南側柱列は総長 2.6m、柱間距離は 1.3m である。東側柱列総長 2.5m、柱間距離は 1.25m である。西側柱列総長 2.4m で柱間距離は 1.2m である。

柱穴は隅丸方形で径 40 ～ 55cm を測る。深さ約 30 ～ 40cm を測る。各柱穴より柱根が出土している。柱根の大きさは直径 10 ～ 15cm である。検出時にはアタリが確認できた。

堆積土は黒褐色粘土が主として堆積しており、一部シルトが混入するものがある。火山灰（白色土）の堆積は、確認されていない。断面は柱根の部分のみ深くなる。遺物は土師器片が数点出土しているだけである。

SB70 の柱穴

EB71

平面形は円形である。掘方規模は上端 48 × 53cm、下端 44 × 48.5cm、柱根検出のピットは上端 36.5 × 35.5cm、下端 21 × 21cm 、柱根の太さは 15 × 9cm。深さは中段まで 5.8 ～ 4cm、柱根まで 19cm、底面まで 39.2cm、柱根アタリの規模は径 18.5cm である。柱根以外の遺物は出土していない。

EB72

平面形は円形である。掘方規模は上端 53 × 52cm、下端 44 × 45cm、柱根検出のピットは上端 27 × 23.5cm、下端 16 × 14cm、深さは中段まで 11cm、底面まで 33.5cm。柱根は径 18.5 × 20.5cm である。須恵器坏片が 1 点出土している。

EB73

平面形は円形。掘方規模は上端 53.5 × 54.5cm、下端 49.5 × 51cm 、柱根検出のピットは 32.5 × 25cm、下端 21.5 × 18cm、深さは底面まで 35.5cm、柱根は径 17.5cm である。柱根以外の遺物は出土していない。

EB74

平面形は楕円形。掘方規模は上端 39.5 × 43cm、下端 33 × 39cm、柱根検出のピットは上端 27 × 25.5cm、柱根の太さは 14 × 13cm。底面までの深さは 33cm を測る。柱根以外の遺物は出土していない。

EB75

平面形は隅丸方形。掘方規模は上端 54.5 × 46cm、下端 28 × 22cm、柱根径 18.5 × 19.5cm を測る。底

面までの深さ 33.3cm、柱根アタリ 24 × 26cm を測る。柱根以外の遺物は出土していない。

EB76

平面形は楕円形。掘方規模は上端 56.5 × 54.5cm、下端 47 × 49cm、柱根検出のピットは上端 38 × 39.5cm、下端 31 × 30.5cm、深さ 33.8cm、柱根は径 24 × 22.5cm を測る。柱根以外の遺物は出土していない。

EB77

平面形は方形。掘方規模は上端 42.5 × 43cm、下端 27 × 31cm、深さ 37cm を測る。柱根径は 13.5 × 14.5cm を測る。柱根以外の遺物は出土していない。

EB78

平面形は円形。掘方規模は上端 47.5 × 48cm、下端 44.5 × 40cm、柱根検出のピット上端 24.5 × 17.5cm、下端 11.5 × 10cm。底面までの掘り込みの深さ 39.8cm である。柱根アタリ 22.5 × 17.5cm を測る。遺物は須恵器坏片、土師器坏片が各 1 点出土している。

EB79

平面形は円形。掘方規模は上端 43.5 × 49.5cm、下端 33.5 × 42cm、柱根ピット上端 32 × 25cm、下端 18 × 17cm。掘り込みの深さ 35cm、柱根アタリは径 22.5 × 21.5cm。柱根以外の遺物は出土していない。

掘立柱建物跡 SB84（第 57・58 図）

EB85、EB86、EB87、EB88、EB89、EB90、EB91、EB92 から成る。

グリッド 9108 に位置する。2 × 2 間の掘立柱建物跡である。建物規模は北側柱列総長は 3.8m、柱間距離は西から 2m、1.8m である。南側柱列総長 3.8m、柱間距離は 1.9m である。東側柱列総長 3.7m、柱間距離は北から 1.9m、1.8m である。西側柱列総長 3.8m、柱間距離は 1.9m である。柱穴平面形は楕円形である。径約 40cm。掘り込みが浅い柱穴が多く、特に東側柱列で非常に浅く、深さ 6 ～ 11cm 程である。

覆土は黒褐色・暗褐色・灰黄褐色の粘質シルトで、ほぼ 1 層である。粘質シルトを基本とするが、EB85・87 は粘土のみの堆積である。柱根は残っていない。周辺は重機掘削の際、若干掘り過ぎてしまった。

SG6 に隣接している。本址周辺には同規格の柱穴があり、特に SP93 は柱根が残る。本址建物に伴うことも考えられるが、これに対応する柱穴は見つかっていない。

SB84 の柱穴

EB85

平面形はやや隅丸方形である。掘方規模は上端 32.5 × 39.5cm、中端 16 × 14.5cm、底面は 4 × 5.5cm、掘り込みの深さは 20cm を測る。柱痕跡は直径 29cm である。遺物は出土していない。

EB86

平面形は円形である。掘方規模は上端 25 × 22cm、下端 9 × 10cm、底面までの掘り込みは 12cm 程である。柱痕跡は 14.5 × 17.5cm である。遺物は出土していない。

EB87

平面形は方形である。掘方規模は上端 31 × 35cm、下端 11 × 10cm、底面までの掘り込みは 27cm である。柱痕跡は見られない。遺物は出土していない。

EB88

平面形は楕円形である。掘方規模は上端 40.5 × 30.5cm、下端 30 × 22.5cm、最低面は 7 × 8cm、掘り込みは 21cm 程である。柱痕跡アタリは 21 × 23.5cm である。遺物は出土していない。

EB89

平面形は楕円形。掘方規模は上端は 39 × 46cm、下端は 35 × 31.5cm、掘り込みの深さは 6 cm と浅い。遺物は出土していない。

EB90

平面形は円形。掘方規模は上端 17 × 19cm、下端 8.5 × 12cm、深さは 8 cm と浅い。柱痕跡アタリは 17.5 × 16cm である。遺物は出土していない。

EB91

平面形は不整円形。掘方規模は上端 33.5 × 36cm、下端 6 × 8cm、掘り込みの深さ 4 ～ 6cm である。柱痕跡アタリは径 13.5cm である。遺物は出土していない。

EB92

平面形は楕円形。掘方規模は上端 40 × 36.5cm、下端 24.5 × 10cm、掘り込みの深さは 8 ～ 11cm と浅い。柱痕跡アタリは 18 × 26cm。遺物は出土していない。

SP93

EB87 の南に位置する柱根が残る柱穴跡である。平面形は円形。掘方規模は上端 23 × 30cm、下端 15 × 20cm、掘り込みの深さ 14cm、柱根は径 10cm を測る。遺物は出土していない。

SP94

SP93 の南に位置する。平面形は円形。掘方規模は上端 26 × 26cm、下端 20.5 × 19.5cm、掘り込みの深さ 12cm を測る。柱痕跡アタリは径 20cm である。遺物は出土していない。

SP97

SB84 内に位置する。平面形は不整形。掘方規模は上端 26.5 × 38cm、下端 4.5 × 7cm。掘り込みの深さ 16cm。柱痕跡アタリは 16.5 × 12cm を測る。建物に伴う柱穴ではないと見られる。遺物は出土していない。

柵列 SA83（第 63 図）

EP61・EP62・EP63・EP64・EP41・EP44 の 6 基の柱穴から構成される。全長 8.82m を測る。

柱穴の規模は径 40 ～ 50cm、深さ 30 ～ 50cm である。柱穴は円形又は楕円形、北側が深く、南側は浅い（地山はほぼ平坦）。柱間距離は約 1.6m。遺物は土器片がわずかに出土している。柱穴の規模、柱間などから「柵」等の区画施設の可能性がある。

EP61

平面形は円形。掘方規模は上端 29.5 × 28cm、下端 23 × 22.5cm、深さ 16.5cm を測る。遺物は出土していない。

EP62

平面形は楕円形。掘方規模は上端 38.5 × 40.5cm、下端 21 × 21cm、深さ 37.6cm を測る。遺物は出土していない。

EP63

平面形は楕円形。掘方規模は上端 36.5 × 40cm、下端 19.5 × 14cm、深さ 32.8cm を測る。遺物は出土していない。

EP64

平面形は楕円形。掘方規模は上端 55.5 × 38.5cm、下端 47.5 × 31.5cm、深さ 51.7cm を測る。平面形は楕円形、断面は円柱形でしっかりとした掘り込みである。遺物は須恵器坏 1 点が出土している。

EP41

平面形は円形。掘方規模は上端 49.5 × 46cm、下端 37.5 × 32.5cm、2 段目の上端 15.5 × 14.5cm、下端 7.5 × 7cm、深さは中段まで 25.2cm、低面まで 39.7cm を測る。遺物の出土は無い。

EP44

平面形は円形。掘方規模は上端 42.5 × 46.5cm、下端 12.5 × 10.5cm、深さ 26cm。遺物の出土は無い。

SP45・SP13（第 64 図）

グリッド 8403 の SA83 付近に位置する。重複する小ピットである。SP45・13 は柵列の柱穴とは認定していないが、柵列軸線上に位置する。平面形は両者ともに円形。掘方規模は SP45 は上端 55.5 × 38.5cm、下端 47.5 × 31.5cm、深さ 51.7cm を測る。立体形は円筒形でしっかりとした掘り込みである。SP13 は掘方規模は上端径 30cm、下端径 10cm、深さ 25cm である。覆土は黒褐色粘質シルトを主体とし、土器片・焼土・炭化物粒を少量混入する。遺物は SP45 からは土師器坏・須恵器甕、SP13 からは土師器甕体部片が出土している。

柵列 SA109（第 62 図）

本址は SB26 の南に隣接し、グリッド 8207 ～ 8307 に位置する。EP37・EP38・EP39 の 3 基の柱穴で構成され、総長 5.2m を測る。柱穴の平面形は 3 基ともに隅丸方形で、1 辺 60cm 以上の大型柱穴である。SB26 の EB30 に隣接し、これらと規模・柱間距離共に同様で、さらに一直線上に並ぶことから、SB26 と関連する柱穴と考える。

しかし、覆土はそれぞれの柱穴で異なる。暗褐色～黒褐色、黄褐色～褐灰色、黄褐色～黒褐色の 3 通りの覆土が見られる。

EP37

平面形は隅丸方形、掘方規模は上端 72 × 62cm、下端 46 × 35cm を測る。掘り込みの深さ 34cm を測る。遺物は須恵器坏片 1 点が出土している。

EP38

平面形は隅丸方形、掘方規模は上端 68 × 58cm、下端 38 × 31cm、掘り込みの深さ 47cm を測る。遺物は須恵器坏片、甕片が 1 点ずつ出土している。

EP39

平面形は隅丸方形、掘方規模は上端 70 × 54cm、下端 37 × 26cm、掘り込みの深さ 40cm を測る。須恵器坏底部片、土師器口縁部・体部片が数点出土している。

柵列 SA109 付近にはいくつかの柱穴、ピットが所在する。特に SP35・SP36 は本址の EP37 と共に、SB26 の南側柱列を構成する可能性が高い柱穴である。ただ、

SB26 の北側柱列には SP35・SP36 と対応する柱穴が EB25 の 1 基のみであることから、やや不明な点が残る。

SP35（第 62 図）

グリッド 8306 に位置する。SB26 の南面に位置する。平面形は隅丸方形、掘方規模は上端 66 × 55cm、下端 36 × 29cm。掘り込みの深さ 44cm を測る。SP35 は SB26 の南面に位置し、SB26 の柱穴の可能性もある小ピットである。覆土は黒褐色粘質シルトと灰黄褐色粘土を主体とする堆積土である。遺物は出土していない。

SP36（第 62 図）

グリッド 8306 に位置する。SP35 同様、SB26 の南面に位置し、SB26 の柱穴の可能性を有する小ピットである。平面形は東西に長い隅丸長方形。掘方規模は上端 80 × 44cm、下端 52 × 19cm、掘り込みの深さ 30 ～ 46cm を測る。覆土は炭化物を僅かに混入する黒褐色粘質シルト～灰黄褐色粘土を主体とする。遺物は土師器坏片 1 点が出土している。

土坑 SK1（第 65・66 図）

グリッド 9314 に所在する。この地区は調査区の中でも、僅かに標高が高く、地盤の非常に安定した地区で、この他にも多量の炭化物と共に土師器片などを出土する大小の土坑が多数見つかっている地区である。

SK1 は当初 SK9・SK2 の土坑と連なり検出された遺構である。検出時は、SK9 と SK2 は 1 基の土坑として検出し、SK1 と SK2 の 2 基の土坑の連なりとしていた。その後掘り下げたところ、SK2 は 2 基の土坑であることが分かり別番号を付した。SK1 の平面形は隅丸長方形を呈する。南北 3.9m、東西 2.1m、掘り込みの深さ 11 ～ 22cm を測る。底面はほぼ平坦である。

SK1 は、土層観察ベルトを残して掘り下げた。ベルトには、炭化物が多量に検出される範囲が面的に検出された。この面は縞状に複数の層が見られた。この炭化物層の下層は、白色土粒や炭化物を混入する黒褐色粘質土層、底面付近は炭化物を混入する黒褐色砂質土層である。本来は全体に炭化物層が堆積していた遺構であったと見られる。SK1・9・2 の空撮時のベルトの高さは、これら炭化物の検出面である。炭化物層には土器片や白色土が混入する。SK1 の炭化物層は、確認面から 7 ～ 10cm 掘り下げた面で検出されている。この炭化物層面からさらに 10cm 程掘り下げると底面に至る。底面はやや砂質土である。遺物は小破片が多く、図化した遺物は須恵器片含む 6 点である。他は土師器坏や甕の小片が多数出土している。

土坑 SK2（第 65・66）

平面形は隅丸方形に近い。規模は南北 2.6m、東西 1.62m を測る。SK2 は、SK9 と同一遺構として検出されたが、後に別遺構と判明した。

SK2 は、SK1・9・2 を通して南北に土層観察ベルトを残して掘り下げた。底面は凹凸があり、3 ～ 10cm の深さを測る。ベルトを掘り下げる際、確認面から 1 ～ 2cm 程で炭化物面が検出された。このため、遺構全面に炭化物面が広がっていたが精査時に掘り過ぎたと見られる。この他の覆土は黒褐色粘質土層で炭化物粒や白色砂粒を混入する。本址は掘り込みは非常に浅いが、しっかりしたプランと規模である。しかし遺物は少なく、図化可能なものは 2 点である。この他に土師器小片が 20 数点出土しているのみである。SK1 や SK9 に比べ、SK2 が極端に遺物の出土が少ないことは、検出面からの掘り込みが浅いことに起因していると見られる。

土坑 SK4（第 70 図）

グリッド 9015 に所在し、溝 SD3 の南側に位置する。平面形はほぼ円形だが、一部西に膨らむ箇所が見られ、楕円形を呈する。規模は南北 1.9m、東西の膨らむ箇所で 2.4m を測る。西側のプランは、掘り過ぎた可能性があり、元々は円形と見られる。断面形は舟底形を呈する。確認面から 10 ～ 16cm で黒色の炭化物層が検出された。炭化物層は 2 ～ 3cm から 3 ～ 4cm と薄い堆積層である。あまり焼けた面は見られない。底面までの深さは全体で 14 ～ 18cm と浅い。

炭化物層は全面に見られ、その面から、土師器小片が散乱して出土している。覆土中からも、土師器片が出土している。また、中央部からは木製品が出土し、39（RP416）の土師器坏底部も出土している。出土遺物は細かい土師器片が多数出土しているが、図化可能なものは少ない。土師器坏の破片がかなり多いが、甕片も含まれる。土師器坏片は二次焼成を受け、器面が磨滅剥落し細かく割れているものが多く、接合復元できるものは少ない。

土坑 SK5（第 70 図）

グリッド 8815 に位置する。平面形は円形を呈する。

規模は南北 1.35m、東西 1.85m を測る。覆土は土坑全体に炭化物混入。中央部は特に炭化物が集中し、下から焼土や灰？が出土。その下の底面は非常に固い。遺物は土師器小片が多量に出土しているが、図化可能な物は少ない。確認面から底面の深さは 3 ～ 6cm と非常に浅い。

SG6 北東側で SK1 ～ 5 等が検出されたこの地区は、表土除去の際に検出面まで非常に浅いため、表土のみの除去で遺構検出した地区である。よって SK5 の掘り込みは、元々浅いものと思われる。この地区で検出された SK1 ～ 5・9・66・67・81 は、どれも浅い土坑が多い。この状況から、これらが炭化物を多量に出土しているものが多いことから、地面を少し掘り窪めて、土器や木製品を燃やした遺構で残りは流路に捨てたなど何らかの祭祀儀式が行われた可能性も考えられる。

土坑 SK8（第 65・66 図）

グリッド 9414 付近に所在する。平面形は溝状を呈する。北側で「L」字状に屈曲する。全長 4.75m、幅 55cm、掘り込みの深さ 15cm である。覆土は黒褐色粘質シルト、灰黄褐色砂質粘土で上層に炭化物を多く混入する。西側から掘り進め、当初遺物が比較的出土したため土坑と考えた。しかし、東に掘り進めるに従い、溝状であることが分かった。出土遺物は、小破片が多数出土しているが図化できたものは少ない。土師器坏片が多く、内黒高台坏・須恵器壺片なども出土している。

土坑 SK9（第 65・66 図）

グリッド 9214 ～ 9314 に位置する。SK1 と SK2 に隣接する。平面形は隅丸長方形。規模は南北 3.9m、東西 1.9m。本址はベルトを残して掘り下げたところ、土師器小破片が多量に出土した。ほとんどが小破片での出土であるが、中には、ほぼ完形のもの等があり、図化した。また、このベルトを掘り下げたところ、炭化物を多量に出土する面が検出された。中心部分では、灰層と見られる範囲（白色層）も検出された。本来、全面あるいは、広範囲に炭化物層・灰層があったものと見られる。しかし、掘り下げ時にベルト以外を掘り過ぎてしまったものである。炭化物層は確認面から、2 ～ 7cm 掘り下げると現れる。そこからさらに 6 ～ 8cm 掘り下げると底面に至る。

遺物は小破片が多数出土している。SK1、SK2 土坑と 3 基連なる中で、本址が最も多量に遺物が出土している。小破片が非常に多く散乱した状況である。ほとんどが小細破片のバラバラの出土だが、接合して完形近くに復元できたものもあった。この様な出土状況から遺物は意図的に割られて廃棄されたと見られる。

土坑 SK11（第 67 図）

グリッド 8302 付近に位置する。平面形は長楕円形の大型土坑である。規模は南北 5.33m、東西 2.22m、確認面からの深さ 14 ～ 27cm である。底面は凹凸があり、壁は垂直に掘り込まれる。土色変化の範囲をプランとしたが明確ではない。

本址では内部に小穴がいくつか見られた。南側ではピット SP31・32 が検出されている。このピットは炭化物が混入している範囲を掘り下げピットとした。SP31 は、確認面から底面までの深さは 20 ～ 10cm を測る。SP32 は深さ 22 ～ 11cm である。SP32 内には土師器底部片など、その南には土師器坏等が出土している。SP31 と SP32 の間には 60・61（RP525）の土師器坏が出土している。SP31 と SP32 は、SK11 の確認面と同レベルで確認された。本址に伴うピットではない可能性がある。土坑内には他にもいくつかのピットが見られる。遺物は「佛」線刻の土師器小壺や内外に炭化物・油煙付着の土師器坏など比較的多数出土している。

土坑 SK12（第 68 図）

グリッド 8204 に位置する。平面形は長楕円形である。規模は南北 4.4m、東西 1.5m を測る大型土坑である。壁はやや斜めに掘り込まれ、底面は平坦で舟底型を呈する。確認面からの深さは約 25cm 程である。覆土は灰黄褐色粘質シルトと黒褐色粘質シルトを主体とする。炭化物粒を微量混入している。遺物は土師器坏片等が 9 点出土している。

土坑 SK14（第 69 図）

グリッド 8205 に位置する。平面形は長楕円形である。規模は南北 6.92m、東西 1.41m である。確認面からの深さは 20 ～ 40cm である。内部に幾つかのピット群が見られる。北側の柱穴群は掘り込みは 20 ～ 40cm としっかり掘り込まれた柱穴が多い。南側の柱穴群は掘り込みが 10cm 程で浅いが、東壁に接するピットは 23cm の掘り込みを持つ。覆土は暗褐色粘質シルト～黒褐色粘質シルトを主体とし、炭化物や火山灰と見られる白色土を少量混入している。遺物には須恵器坏、土師器坏など多

くの小破片が出土している。

土坑 SK15（第 68 図）

グリッド 8102 に位置する。平面形は円形である。規模は 70 ～ 75cm で、確認面からの深さは 26cm を測る小ピットである。覆土は黒褐色粘質シルトを主体とする。火山灰と見られる白色土や炭化物を混入する覆土である。遺物は内外面刷毛目調整の土師器甕上半部、須恵器甕片など少量が出土している。

土坑 SK16（第 64 図）

EP41 付近に隣接する。平面形は楕円形、規模は上端 70 × 88cm、下端 67 × 77cm、深さ 24cm を測る。ほぼ、垂直に掘りこまれる小土坑である。底面はほぼ平坦である。覆土は暗褐色粘質シルト～黒色粘質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

土坑 SK17（第 68 図）

グリッド 8105 に位置する。SK14 の南に隣接して所在する。平面形は楕円形である。規模は南北 1.5m、東西 1 m を測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底面は平坦で一部 10cm 程掘り窪めた部分がある。確認面までの深さは 18 ～ 23cm 程で、西側ではやや浅く、東側ではやや深い。検出時に西側壁を僅かに破壊してしまった。覆土は黒褐色粘質シルトが主体で、1 層・3 層には火山灰と見られる白色土がブロック状に混入する。遺物は小破片で土師器坏・甕片が出土している。

土坑 SK34（第 71 図）

グリッド 8504 に位置する。SK34 の平面形は小判型の楕円形を呈する。規模は南北 2.03m、東西 1.37m を測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面からの掘り込みは 34cm 程である。覆土は炭化物を少量混入するオリーブ黒色粘質土､黒褐色粘質土である。

遺物は内部から非常に大きな須恵器大甕が出土している。大型の破片が潰れた状況で出土し、近接する流路 SG6 からもこの大甕と接合する破片が多数出土している。この大甕は出土遺物から全体の約 5 割を復元した。他に同一個体と見られる破片が出土しているが接合しない。この状況は壊れた土器を土坑 SK34 や流路 SG6 に廃棄したとことが推定される。それではどこから持ってきて捨てたのだろうか。やはり隣接している掘立柱建物跡 SB26 から廃棄されたと考えるのが妥当であろう。

SK34 からはこの他にも須恵器の壺等が出土している。この壺も SK34 内だけでなく SK82 や EP20 から出土した小破片と接合している。EP20 は SK34 に近接しているが、SK82 は約 20m 離れた土坑である。

土坑 SK40（第 78 図）

グリッド 8306 に位置する。掘立柱建物跡 SB26 の南側、柵列 SA109 付近に位置する。平面形は隅丸方形～小判型を呈する。規模は 154 × 60cm、深さ 26cm を測る。底面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は暗褐色粘質シルト・黒褐色粘質シルトを主体とする。遺物は須恵器・土師器の坏小破片が少量出土している。

土坑 SK46（第 64 図）

グリッド 8503 に所在する。柵列 SA83 の EP62 と EP63 に接して所在する。平面形は円形～やや楕円形である。規模は上端 120 × 100cm、下端 90 × 92cm、掘り込みの深さ 24cm である。平面プランはやや掘り過ぎの可能性がある。覆土は黒褐色粘質土～黒色粘質土を主体としている。焼土、炭化物、白色土（火山灰？）が多く混入している。遺物は土師器坏片や須恵器片が多数出土している。

土坑 SK47（第 71 図）

グリッド 8504 に所在する。SK34 の西側、SK46 の東に位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は 85 × 50cm、掘り込みの深さ 16 ～ 30cm を測る。覆土には焼土、炭化物を少量混入する。遺物は土師器甕片 1 点出土。SK46 と類似の土坑と考える。

土坑 SK59（第 78 図）

グリッド 8307 に位置する。SD69 の西、SA109 に隣接する。平面形は楕円形を呈している。規模は 124 × 95cm、確認面からの深さは 42cm を測る。底面は平坦で、壁は垂直に掘り込まれる。覆土は、にぶい赤褐色粘質シルトで炭化物層が縞状（帯状）に堆積する。この他に、黒褐色粘質シルトを主体とする。2・3・4 層は掘り過ぎの可能性がある。遺物は出土していない。

土坑 SK66（第 70 図）

グリッド 8912 に位置する。平面形は不整楕円形を呈する。規模は 170 × 150cm、確認面からの深さは 4 ～ 6cm を測り、非常に浅い。覆土は木炭粒を含む黒色粘土質シルトを主体とし、地山のにぶい褐色砂を混入する堆積土も見られる。本址の確認面では炭化物粒・焼土？や土器片が検出され､その範囲を SK66 のプランとした。

精査では炭化物層は検出されず、ピットが 3 基検出された。また、土坑の掘り込みも明確ではないが、二次焼成（磨滅）を受けた土師器坏片が多数出土している。遺物はこの他に土師器･須恵器の甕片も少量出土している。

土坑 SK67（第 70 図）

グリッド 8912 に位置し SK66 に隣接する。規模は 254 × 200cm を測る。確認面から底面までの深さは 5 ～ 14cm である。覆土は焼土粒、炭化物を混入する黒色土～黒色粘質土を主体とする。本址は炭化物層が、広範囲に検出された。他の SK1・2・4・5・9・81 などと同様の土坑と見られる。しかし、焼土範囲も検出されていることが、他の土坑とやや異なるところである。本来は、広範囲に炭化物や焼土が残っていた可能性もある。また、北側の「灰層」の範囲は堆積土が白く、炭化物層とは異なる。灰の堆積層あるいは、火山灰の可能性が考えられる。遺物は小破片で土師器坏片が多数出土しており、須恵器高台坏片や土師器甕片も少量出土している。

土坑 SK81（第 66 図）

グリッド 9213、SD3 溝跡に隣接する。平面形は楕円形を呈する。規模は 165 × 115cm を測る。本址は、遺構確認時に、ほぼ底面が出てしまっていた。平面的な検出状況だが、現状でわずかに 3 ～ 6cm 程の掘り込みが見られる。本来は、土坑 SK1・2・4・9 などと同様に 10 ～ 20cm の掘り込みがあったものと推定する。全面に炭化物層が見られ、そこに土器が張り付いている状況である。中央には 89 など比較的大きめの土師器坏片も出土しているが、ほとんどは、土師器坏・甕の小破片で 50 片ほどが出土している。

本址は暗渠により東側が破壊される。炭化物層は、2 ～ 5cm 程の堆積で、下層にはわずかに焼土が堆積する。全面炭化物で真黒である。土師器小片もいくつか検出されている。炭化物層の検出など共通する特徴から、SK1・2・4・9 の土坑と同様の何らかの焼成・祭祀に関わる遺構と見られる。

土坑 SK82（第 72 図）

グリッド 8100 に位置する。平面形は不整形で、西側の調査区外地区に続いている。規模は南北 4.25m、東西 3.13m を測る。壁は非常になだらかに掘り込まれ、底面はほぼ平坦である。確認面からの掘り込みの深さは 10 ～ 20cm である。覆土は最上面に地山の粘土と同様の黄褐色粘土が堆積し、その下層には炭化物粒を混入する黒褐色粘質土を主体とする堆積である。1 層の地山風の堆積土は整地されたものの可能性もある。遺物は比較的多数出土している。土師器の坏や甕である。特に底部網代痕がある体部ヘラケズリの非ロクロ土師器、刷毛目調整の高台坏､内外刷毛目調整の甕などが出土している。この他に遺物は土師器坏が小破片で多数出土している。須恵器壺片は 20m 程離れた SG6 出土片と接合している。

土坑 SK111（第 73 図）

2 次調査区のグリッド 1008 に位置する。平面形は円形を呈する。規模は 80 × 73cm を測る。確認面から底面までの深さは 80cm を測り、その最低面から箱状の木製品が出土した。壁は垂直またはややオーバーハングして底面に至る。覆土は黒色粘質シルト～黒褐色粘質土を主体とする。内部から出土した箱状の木製品は、天井板と底板は無く、4 枚の板材を鉄釘で結合して方形の筒状にしている。側面には取っ手穴が見られる。用途不明の木製品である。検出の際に最上面にて近世陶磁器片が出土している。この他の遺物は無い。

土坑 SK112（第 77 図）

2 次調査区グリッド 1515 に位置する。底面に柱痕跡（アタリ）の土色変化が見られることから大型の柱穴と見られる。南側にはこれに続くピットが無いことから、北側に調査区を拡張して関連する柱穴を探したが見つからなかった。平面形は整った円形を呈する。規模は上端 80 × 73cm、下端 35 × 30cm を測る。確認面からの深さは 40cm を測る。底面のアタリの規模は 22cm、深さ 4cm である。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。覆土は灰黄褐色砂質土ブロックを混入する黒色シルトを主体とした堆積土が見られる。遺物は出土していない。

土坑 SK113（第 77 図）

2 次調査区グリッド 1515 に位置する。当初 SK112 と並び検出されて柱列と見られたが、精査の結果、浅い小ピットで SK112 とは性格が異なることが分かった。平面形は不整形で非常に浅い。攪乱の可能性もある。規模は 135 × 65cm を測る。確認面からの深さは 10cm。壁は底面から緩やかに立ち上がる。覆土は黒色シルトを主体とした堆積土が見られた。遺物は出土していない。

土坑 SK114（第 77 図）

グリッド 1515 に位置する。SK113 に隣接している。

状況は SK113 と同様である。攪乱の可能性もある。規模は 105 × 60cm を測る。確認面からの深さは 10cm 程を測る。壁は底面から緩やかに立ち上がる。覆土は黒色シルトを主体とした堆積土が見られた。遺物は出土していない。

土坑 SK115（第 74 図）

2次調査区のグリッド1515に位置する。平面形は整った円形を呈する。規模は 260 × 240cm の円形である。深さは確認面から 165cm である。確認面から 25cm の深さまでは黒色粘質土が堆積し、その下層には黄灰色粘土が堆積している。ここまでは一気に堆積したと見られる。その黄灰色層を挟んで、2 層と同様の黒色粘質土や黒褐色粘質土が 110cm 堆積している。その下層は暗オリーブ灰色砂が 25cm 程堆積している。底面は概ね平坦でほぼ垂直に立ち上がり、その後大きく外反して確認面に至る。遺物の出土は検出段階の最上面から最下層に近い地山風の堆積土や 14 層でも出土している。

土坑 SK116（第 75 図）

グリッド 1514 の 2 次調査区に位置する。平面形は整った円形を呈する。規模は 86 × 78cm で、確認面からの深さは 16cm を測る。壁はやや凹凸のある底面から緩やかに立ち上がり、舟底型を呈する。覆土は炭化物を僅かに混入する黒褐色シルトを主体とする。遺物は坏 1 点、甕片 2 点が出土している。

土坑 SK117（第 75 図）

グリッド 1616 の 2 次調査区に位置する。平面形は不整円形を呈する。規模は上端 58 × 67cm で、確認面からの深さは 24cm を測る。このプランから南西方向に 30cm の張出し部分が見られる。張出し部分の掘り込みは 5cm 程の深さである。壁は平坦な底面からほぼ垂直に立ち上がる。覆土は黒色粘質シルト～褐色粘質シルトを主体とした堆積土が見られた。柱穴の可能性が考えられる。遺物は須恵器片と土師器片が 4 点ほど出土している。

小穴 SP118（第 75 図）

2 次調査区グリッド 1616 に位置する。平面形は整った円形を呈する。規模は 32cm で、確認面からの深さは 6cm と浅いピットである。覆土は黒色粘質土を主体とした堆積土が見られた。遺物は土師器坏片 2 点が出土している。

土坑 SK119（第 75 図）

グリッド 1515、2 次調査区の東端中央付近に位置する。平面形は整った楕円形を呈する。規模は 74 × 52cm で確認面からの深さは 26cm を測る。壁は平坦な底面からなだらかに立ち上がる。覆土は灰黄褐色～黒褐色粘質シルトの土層である。遺物は須恵器坏片、土師器甕片が 6 点ほど出土している。

土坑 SK122（第 76 図）

2 次調査区グリッド 0906 に位置する。平面形は不整楕円形を呈する。規模は 120 × 70cm で、確認面からの深さは 16cm を測る。壁はほぼ平坦な底面から緩やかに立ち上がる。断面形は舟底型を呈する。覆土は黒色粘質シルト～褐色粘質シルトの土層である。遺物は出土していない。

土坑 SK123（第 76 図）

2 次調査区グリッド 1107 に位置する。平面形は不整形である。底面は凹凸が多い。規模は直径約 100cm 前後で、確認面からの深さは 13cm を測る。覆土は黒褐色粘質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

土坑 SK141（第 86 図）

2 次調査区グリッド 1015・1115 に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は 268 × 137cm で、確認面から底面までの深さは 18cm を測る。壁は平坦な底面から緩やかに立ち上がる。断面舟底型を呈する。覆土は黒色粘質シルトを主体とした堆積土が見られ、底面付近には灰黄褐色砂質土ブロックを混入する堆積土も見られる。遺物は須恵器の大甕片などがバラバラに散乱していた。この他に土師器甕が小片で多数出土し、須恵器坏片も少量出土している。

土坑 SK175（第 76 図）

2 次調査区グリッド 1305 に位置する。平面形は不整形を呈する。規模は 135 × 175cm で、確認面からの深さは 37cm を測る。底面は凹凸がある。覆土は褐色～黒褐色粘土の堆積土である。遺物は出土していない。

土坑 SK203（第 76 図）

2 次調査区グリッド 1106 に位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は 80 × 50cm、確認面からの深さは 54cm を測る。壁は底面から擂鉢状に立ち上がり、断面逆三角形を呈する。覆土は黒色粘土を主体とした堆積土が見られた。土層の堆積は良好であるが遺物は出土して

いない。また、この他に周囲に遺構は見当たらない。

小穴 SP48（第 79 図）

グリッド 8307、SB26 と SD69 の間に位置する。平面形は円形を呈する。規模は 80 × 70cm、深さ 62cm を測る。覆土は灰黄褐色～暗褐色粘質シルトを主体とする。確認面に近い上層の堆積土には焼土・炭化物を多量に混入している。SB26 に関連する大型の柱穴か。遺物は土師器坏・甕片が 40 片ほど出土している。

小穴 SP49（第 78 図）

グリッド 8305、SA18 の南端付近に位置する。平面形は円形を呈する。規模は直径 50cm、深さは確認面から 44cm を測る。覆土は白色土粒・炭化物を微量混入する黒褐色粘質シルト～粘土を主体とする。遺物は須恵器坏片が僅かに出土している。

SB26 に関連する柱穴と見られる。

小穴 SP51（第 78 図）

グリッド 8305 に位置し SP49 の南に隣接する。平面形は楕円形を呈する。規模は上端 53 × 35cm、深さ 10cm の小穴である。覆土は炭化物を微量に混入する暗褐色粘土を主体とする。遺物は無い。

SP49 同様 SB26 に関連する柱穴と見られる。

小穴 SP52（第 79 図）

グリッド 8407 に位置する。SB26 から 4m 程、東側に所在する。平面形は楕円形を呈する。規模は 75 × 50cm である。確認面からの掘り込みの深さ 30 ～ 40cm を測る。覆土には火山灰・焼土・炭化物などを混入する。堆積土などの状況が SK46 と類似した土坑である。遺物は小破片の土器が多い。図化したものも小破片が多く、SP48 出土遺物と接合する物もある。

小穴 SP54（第 78 図）

グリッド 8306 に位置し、SA109 の中に所在する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は直径 65 × 45cm、深さ 38cm。底面は平坦で、壁は垂直に掘り込まれる。覆土は黒褐色粘質シルト・粘土を主体とする。SB26 に関連する柱穴と見られる。遺物は須恵器坏片 2 点出土。

小穴 SP55（第 79 図）

グリッド 8307 に位置し、SA109 の EP37 の東に所在する。平面形は隅丸長方形。規模 80 × 65cm、深さ 28cm を測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。周辺の SB26、SA109 と同様規模のピットであるが、掘り込みが浅く様相が異なる。覆土は炭化物粒を少量混入する黒褐色粘質シルトである。SB26 に関連するものか。遺物は出土していない。

柱穴 SP57（第 79 図）

グリッド 8207 に位置し、SA109 に隣接して所在する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は 60 × 48cm、深さは確認面から 42cm を測る。覆土は褐灰色粘土、黒褐色粘質シルト、黒色粘質シルトを主体とする。上層の堆積土には炭化物粒を僅かに混入する。遺物は出土していない。

柱穴 SP106（第 80 図）

グリッド 9315 に位置する。SK9 の東に隣接する柱穴である。3 基の柱穴が重複した様相を呈し、中心に柱根が残る。規模は東西に 110cm、南北 50cm 程である。確認面からの掘り込みの深さは西側で 32cm、東側で 20cm の深さがある。柱根が出土している中心の底面までの深さは 39cm である。柱根の太さは 20cm 程である。覆土は黒色粘質土で、にぶい黄褐色粘質土ブロックを多く混入する。遺物は柱根の他に土師器坏片が 8 点出土している。

柱穴 SP107（第 80 図）

グリッド 9115 に位置する。SK2 の東に隣接して検出された。東西に 2 基重複した柱穴である。切り合いは明確ではない。西柱穴の規模は 55 × 55cm、深さ 47cm を測る。東柱穴は規模 70 × 55cm で、深さは 36cm を測る。東柱穴には太さ 18cm ほどの柱根が残る。覆土は黒色粘質土で、にぶい黄褐色粘質土ブロックを多く混入する。

本址は、終盤まで全く未確認で、SK2 完掘写真撮影の際に発見した。遺物は柱根の他に土師器坏片が 5 点出土している

柱穴 SP108（第 80 図）

グリッド 9315 に位置する。SK1 と SK9 の中間付近の東に所在する。3 基の柱穴が重複した様相を呈する掘方である。柱根は検出されていない。規模は 65 × 62cm である。確認面からの掘り込みの深さは西側で深さ 30cm、中心部 37cm、東側で 23cm の深さである。覆土は SP106・SP107 と同様な堆積土であるが、やや砂質である。柱根は出土していない。遺物は土師器片が 2 点出土している。

性格不明遺構 SX104・105（第 81・82 図）

グリッド 9312 に位置する。SD3 と北側に重複して所在する。当初 SD3 と切り合いが明確でなかったが、最終的に SD3 を切っていると判断した。覆土は黒褐色粘質土を主体とする。機能不明の遺構である。風倒木の可能性も考えられる。遺物は比較的多数出土しているが、ほとんどが小破片である。全体を窺える遺物は少ない。

性格不明遺構 SX153（第 77 図）

グリッド 1906 に位置しており、2 次調査区に所在する。平面形は楕円形を呈する。規模は 185 × 100cm で、確認面からの深さは 21cm を測る。底面は凹凸が多く、やや舟底型を呈する。覆土は黒褐色粘質シルトと褐色シルトを主体とした堆積土である。遺物は出土していない。

溝跡 SD3（第 81・82 図）

当初、西側から掘り進め遺物が集中して出土した状況から土坑 SK3 としたが、後に訂正した。さらに SK3 の南東側部分に SD68 と付したが、後に SD3 に統一した。

本址の東端部には、掘り込み 10 ～ 15cm 程のプランが検出され本址を切っている。この地区からは 9 世紀後半の須恵器坏が出土し、土師器は少ない。周辺の土師器を多数出土する SK1 ・SK2・SK4・SK5 などとは異なる時期の遺構である。SD3 では近畿地方兵庫県の川端窯跡出土遺物と同様の底部の特徴的な須恵器坏が出土している。

SD3 の規模は幅 80 ～ 100cm で、確認面からの深さは 20 ～ 30cm 程である。断面形は U 字形である。覆土は黒色粘質土～黒褐色粘質土で炭化物粒を混入する。特に確認面付近は炭化物粒が多く、遺物も多く出土している。遺物は須恵器坏・土師器坏・内黒土器片・土師器甕など多数出土している。

溝跡 SD95

1 次調査区南端から東壁まで L 字に検出された溝である。プラン検出時に SG50 の上面でプランが検出されたため、SG50 と切り合い、これを切る。SD95 は浅い溝で、幅 100 ～ 50cm、深さ 7 ～ 8cm の掘り込みである。底面は平坦で、断面 U 字型を呈する。本址はかなり細く浅い溝であるが、遺物は土師器坏など少量出土している。

溝痕 SD96

1 次調査区南東端付近に所在する。規模は幅 160 ～ 200cm、深さ 20cm 程で、底面は平坦である。壁はやや斜めに立ち上がる。断面は U 字型を呈する。掘り込みの深さなど、比較的しっかりした規模の溝跡だが遺物は出土していない。

溝跡 SD130（第 83 図）

2 次調査区グリッド 0112 ～ 2313 に位置する南北に走る溝跡である。調査区北端の東寄りの調査区外から伸びている。南側は調査区南端まで伸びる。北半は素掘りの溝跡だが、グリッド 1511 から南側では、石積みの部分が見られる。暗渠か。覆土は黒褐色粘質土～褐色粘質土で炭化物粒を混入する。遺物は古代の須恵器甕片が多数見られる。同様に、近世陶磁器、古銭などが多く出土している。さらに、縄文時代の石器やキセルなども出土している。近世～近代の所産と見られる。

溝跡 SD131（第 84 図）

グリッド 0515 ～ 1215 に位置する。2 次調査区に所在する。調査区の東端から西に向かい、南へ L 字型に屈曲して延びる。東端では試掘トレンチにより壊され検出されていない。さらに東に延びるのかは確認出来ていない。溝の幅は 50 ～ 70cm、断面 U 字型で底面は平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土はにぶい黄褐色砂質土～黒色土である。遺物は土師器・須恵器の坏や甕片が 40 点程出土している。

溝跡 SD132（第 85 図）

グリッド 1014 ～ 1115 付近に所在する溝跡である。長さは 4.4m と比較的短い。規模は幅 40cm、確認面からの深さは 18cm を測る。底面は平坦で、断面 U 字型を呈する。北東から南西へ延びた溝の南端は屈曲する。覆土は褐色砂粒を多量に混入する黒色粘質シルトを主体とする。遺物は土師器の坏、甕片が 4 点程出土している。SD132・137・138・139 は平行した溝である。SD131 とはやや軸方向が異なる。

溝跡 SD133（第 85 図）

グリッド 1215 に位置する。SD131 と SD132 の間に所在する溝跡である。長さは 1.8m と短い。規模は幅 30cm、確認面からの深さは 5cm を測る。掘り込みの非常に浅い溝である。底面は平坦、壁は垂直で断面 U 字型を呈する。覆土は褐色砂を多量に混入する黒色粘質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

溝跡 SD137（第 85 図）

グリッド 0915 ～ 1116 付近に所在する溝跡である。

調査区外の北東側から北西へ延びる。SK141・142 と重複しこれに切られる。規模は幅 50cm、長さは 12.4m 程である。確認面からの深さは 80cm を測る。底面は平坦、壁は垂直で、断面 U 字型を呈する。覆土は褐色砂粒を多く混入する黒色粘質シルト。遺物は須恵器・土師器の坏片が 4 点出土している。

溝跡 SD138（第 85 図）

グリッド 0915 ～ 1016 付近に所在する溝跡である。調査区外の北東端から北西へ延びる。規模は幅 40cm、長さは 8.2m 程である。確認面からの深さは 14cm を測る。底面は平坦で、壁は垂直に掘り込まれ断面 U 型を呈する。覆土は褐色砂を多量に混入する黒色粘質シルトである。遺物は土師器甕片が 1 点出土している。

溝跡 SD139（第 85 図）

グリッド 0816 に所在する。調査区端の北東端から北西へ延びる溝跡である。規模は幅 50cm、長さは 3m 程である。確認面からの深さは 4cm を測る。底面は平坦、壁は垂直で、断面 U 字型を呈する。覆土は褐色砂を多量に混入する黒色粘質シルトである。遺物は土師器の甕片が 2 点出土している。

溝跡 SD140（第 84 図）

グリッド 0115 ～ 0215 に所在する溝跡である。調査区の最南端に近い。途中 9m 程、検出できなかったが方向的に SD131 の延長上に位置することから同一の溝の可能性が強いと考えた。規模は幅 60cm、長さは 7m 程である。確認面からの深さは 7cm を測る。底面は平坦で、壁は垂直で断面 U 字型を呈する。覆土は褐色砂を多量に混入する黒色粘質シルトである。遺物は土師器の坏・甕片が 3 点出土している。

溝跡 SD148

グリッド 1411 ～ 0711 に所在する溝跡である。SD130 の東側を添うように並走している。規模は幅 30 ～ 70cm と、長さは 31.8m 程である。確認面からの深さは 15cm 程である。底面は平坦で、壁は垂直、断面 U 字型を呈する。覆土は褐色粘質土である。遺物は須恵器・土師器甕、古銭、陶磁器が出土している。

溝跡 SD191

グリッド 0516 に位置する。調査区東端に所在する溝跡である。SD133 と同様に非常に小規模な溝跡である。規模は幅 30cm と、長さは 2.1m 程である。確認面からの深さは 5cm 程で浅い。底面は平坦、壁は垂直で、断面 U 字型を呈する。覆土は黒色粘質シルトである。遺物は出土していない。

河川跡 SG6（第 87 図～ 104 図）

調査区中央部を東から西に流れる自然流路である。東側で SG50 と重複している。SG50 よりも長期間流れていた河川跡と見られる。SG6 の周辺部や河畔には掘立柱建物跡、柱列、土坑が多数検出される。特にその南側、SB26 掘立柱建物跡付近が調査区内でも微高地になっており、地盤が最も安定した地区であるからと推定する。

SG6 は自然流路と考えているが運河的な性格も考えられる。遊佐町の上高田遺跡、南陽市加藤屋敷遺跡、他の平安時代の遺跡では何れも流路があり、木製品や墨書土器などの遺物が多数出土している。これは偶然ではなく、平安時代の主たる遺跡では自然流路を運河として利用するため、集落が流路の傍に作られた。あるいはそのような集落の傍の流路は人口の運河として整備された可能性があると推定する。

SG6 では灰白色土（火山灰？）の大きな範囲が検出された。レンズ状に堆積し、特に流路の北側に厚く堆積してる状態が見られるが、南側の側面でも一部見られる。グリッド 8706、8707、8809 地区で顕著に見られた。

河川跡 SG50（第 102・104 図）

SG50 はグリッド 7709 ～ 8512 に所在する。検出時のプランでは SG6 の東端から伸びるものである。SG6 に切られるという状況の切り合い関係である。また、遺物の出土状況も SG6 とは全く異なり非常に少ない。この様な状況からも SG6 が機能していた時期には SG50 は機能をほぼ停止していたと考えられる。

規模は、幅 5m から 6m である。深さは最も深い所で 2.1m である。SG6 付近から 40m 程南へ延びて、調査区外へ出る。壁は斜めに立ち上がる。

底面は平坦。覆土は暗褐色粘質シルト、黒褐色粘土、黒色粘土である。火山灰風の白い粘質土が堆積している。

遺物は底面近くから縄文時代の石篦や石匙なども出土している。この他、須恵器坏などの古代の遺物もわずかに出土している。

Ⅳ　遺　　物

1 次調査･2 次調査で出土した遺物は約 200 箱である。出土遺物の 8 割以上は河川跡 SG6 出土である。須恵器、土師器、木製品、祭祀遺物などが出土している。

掘立柱建物跡 SB26 出土遺物（第 105 図 1・2）

EB25 より 1・2 の土器が出土している。1 は非ロクロ整形の土師器で底部丸底である。口縁部の 2/3 を欠く。口縁部をナデ調整し、やや外反させている。しかし、内外面は器面磨滅剥落し、調整は不明である。2 は須恵器坏、約 1/5 の遺存の破片である。回転糸切り離しの底部である。口縁部付近は灰色だが下半部は赤褐色を呈する。1 は器形としては古墳時代中期～後期にある「埦」に似る。しかし、磨滅しているとは言え、器肉の厚さがかなり薄いことが異なる。2 は 9 世紀後半の時期なので両者の時期には大きな差がある。

柵列跡 SA109 出土遺物（第 105 図 3・4）

EP37 と EP39 から出土している。3 は墨書土器片、4 は須恵器坏底部片で、両者共に 9 世紀後半と見られる。SA109 では全体で 7 点の破片資料が出土し、その内 3 点は須恵器である。少量ながら須恵器の割合が高い。

柱穴 SP45 出土遺物（第 105 図 5・6）

本址は SA83 付近に位置する柱穴である。5 の土師器は口縁部～体部の 1/2 を欠損している。内外面非常に磨滅している。また､口縁部は白色だが他は黒色である。黒色土器かと思われるが、内外面のミガキ・ケズリ調整などは確認できなかった。6 の須恵器壺下半部は外面ヘラケズリ、内面ナデ調整。13.5m 離れた SG6 出土土器片と接合している。9 世紀後半～ 10 世紀と見られる。

柱穴 SP49 出土遺物（第 105 図 7）

本址は SB26、SA18 付近に位置する柱穴である。7 の須恵器高台坏底部片が出土している。造り出し風の底部である。他に土師器坏片、須恵器坏片がわずかに出土している。9 世紀後半に比定される。

小穴 SP52 出土遺物（第 105 図 8 ～ 13）

本址は SD69 の西に隣接する小穴である。遺物が多数出土している。8・9 は器面が磨滅した土師器坏である。8 は、小型の土師器坏で 1/3 程の遺存である。内面は横のカキ目調整、外面は横方向のナデ調整がわずかに見られる。器肉が厚く、非ロクロ調整の土師器である。9 は 1/3 程の遺存で、8 同様に器面が磨滅している。しかし、わずかに内面カキメ風の横の調整、外面はナデ調整が見られる。器肉厚く非ロクロ調整である。器形は 8 とやや異なり器形が口縁部で内湾している。10 は甕底部、磨滅剥落している。11・12 は土師器甕。11 は長胴の甕で外面は上半から底部方向へのヘラケズリ調整が見られる。12 は口縁部～胴部 1/6 以下の遺存の小型甕片で内外面、磨滅剥落している。調整は明確でないがヘラケズリ調整と見られる。13 は須恵器坏口縁片。これらの遺物は 10 世紀前半の時期と見られる。

小穴 SP99 出土遺物（第 105 図 14）

SA18、SB26 付近に位置する。小ピットである。SP99 は細長い溝と接する。14 は網代の土師器坏底部片。この他土師器坏片が 6 点ほど出土している。

掘立柱建物跡 SB70 出土遺物（第 106 図 15 ～ 23）

全ての柱穴より柱根が出土している。その内、遺存状態の良い物を図化した。EB71 出土の 15 は半分に割れている。EB73 出土の 16・17 の柱根は二個で一個体である。EB74 では 18 が出土しており比較的遺存は良い。EB76 からは 19 の小片が出土している。EB77 は 20・21 が出土し同一固体である。EB79 は 22・23 が出土しており、これも同一固体である。

柱穴 SP93 出土柱根（第 107 図 24）

SP93 は SB84 の南に隣接する小柱穴である。24 の柱根のみが出土している。柱根は太さ 20cm に満たず細いが、本遺跡でも最も良好な遺存の柱根の一つである。

柱穴 SP106 出土柱根（第 107 図 25）

SK9 に隣接して検出された柱穴である。25 は最も良好な柱根の一つで､規模は長さ 40cm､太さ 16cm である。

柱穴 SP107 出土柱根（第 107 図 26）

SK2 に隣接して検出されている。一部欠損だが 26 も非常に残りが良い。長さ 43cm、太さ 12 ～ 15cm。

土坑 SK1 出土遺物（第 108 図 27 ～ 33）

27 ～ 32 は土師器高台坏。33 は須恵器甕片である。

27・28 は内面黒色処理の土師器高台坏である。内面ミガキ調整、外面はロクロ調整。29 は内外面ロクロ調整の土師器高台坏である。30 はロクロ調整の土師器坏。口縁部の 1/3 を欠くがその他は完形である。31 は底部完形、体部は 1/3 の遺存である。32 は口縁部 1/3 の遺存である。33 は須恵器の甕小片で外面にタタキ目、内面に同心円文アテが見られる。29 ～ 32 の胎土に 0.5 ～ 2mm の赤色粒が目立つ。本址の遺物は二次焼成を受け、磨滅し器面剥落している。ほとんどが粉々の破片で出土しているが、特に 29 ～ 30 はかなりの形まで復元出来た。10 世紀前半と見られる。

土坑 SK2 出土遺物（第 108 図 34・35）

34 は小型の土師器甕底部で網代痕が見られる。35 は底部回転糸切り離しの土師器坏である。両者共に非常に磨滅している。SK2 は出土遺物が少なく、この他に土師器小片が 20 数点出土しているのみである。10 世紀前半の時期かと見られる。

土坑 SK4 出土遺物（第 108 図 36 ～ 41）

36 ～ 38 はロクロ調整の土師器である。36 は口縁部～底部約 1/2 の遺存の内外面ロクロ調整の坏である。37 は 1/3、38 は 1/4 の遺存の口縁部片である。39 は土師器小型甕底部。外面ヘラケズリ～ナデ調整、内面は不明である。40 は回転糸切りの土師器坏底部片で外面に赤色塗彩が残る。41 は木製品である。先端部炭化しており、付け木である。36 ～ 38 は内外面磨滅剥落著しいが、良く似ており、同一個体としてもおかしくない。このほか、土師器坏片甕片など多数出土しているが全て磨滅剥落しており、二次焼成を受けていると見られる。二次焼成の土器片、炭化層面と付け木、赤色塗彩の土器片の出土。特別な土坑祭祀が行われた土坑と見られる。赤彩のハケメの土師器甕小片 1 点も出土している。10 世紀前半の時期と見られる。

土坑 SK5 出土遺物（109 図 42 ～ 48）

42 ～ 45 は内外面ロクロ調整の土師器坏である。42 の底部は完形で、体部～口縁部は 2/3 の遺存である。43 は底部完形で体部 1/6 の遺存である。44 は口縁部 1/2 弱の遺存。45 は底部片で 1/2 の遺存。46 は土師器高台坏底部である。47 は土師器甕で内外面ハケメ調整である。48 は鉄製品の刀子。これら図化した遺物の他にも土師器坏・甕片が出土しているが、全て二次焼成を受け、磨滅剥落した土器片である。SK4 と同様である。10 世紀前半の時期が考えられる。

土坑 SK8 出土遺物（第 109 図 49 ～ 51）

49 ～ 51 が SK8 出土である。49 は小さな高台を有する内面黒色処理の土師器高台坏。非常に磨滅している。50 は須恵器甕片、51 は壺肩部 1/2 弱遺存の破片である。この他土師器坏小破片が数十点出土しているが器面は全て磨滅剥落している。10 世紀前半の時期が考えられる。

土坑 SK9 土坑出土遺物（第 109・110 図 52 ～ 59）

52 ～ 59 が出土している。52 はほぼ完形の土師器坏で口縁部内面には油煙が全体に付着している。内外面ロクロ調整で磨滅している。53・54 はロクロ調整の土師器高台坏である。両者ともに、高台を欠損する。53 は体部が 1/6 以下の遺存で、内外面磨滅している。54 は高台以外、ほぼ完形。内外面ロクロ調整で、内外磨滅している。55 は底部～体部の土師器坏破片。口縁部を打ち欠いている。底部はナデ調整、切り離し技法は不明である。56 は内面黒色処理の土師器高台坏。高台を欠くが他は完存である。外面は非常に磨滅している。57 は内面黒色処理の土師器高台坏底部、約 1/3 の遺存である。外面は非常に磨滅している。58・59 は石製品である。58 は石皿状の石片で、被熱している。59 は砥石片で、割れ口が磨滅している。表裏に穿孔痕が残るが貫通はしていない。この他に土師器坏片、黒色土器片など小破片で多数出土しているが、いずれも磨滅している。時期は 10 世紀前半と見られる。

土坑 SK11 出土遺物（第 110 図 60 ～ 66）

60 ～ 66 が出土している。土師器坏はロクロ調整される。60 は完形の土師器坏で内外磨滅剥落している。61 は土師器坏、体部～底部 1/2 の遺存である。底部回転糸切り離し。器形や造りは甕風だが、器肉が非常に薄く、上半部が端部に近いと思われるため、坏か鉢の可能性がある。62 は土師器坏で、口縁部に油煙が多量に付着している。口縁部は打ち欠かれたものと見られる割れ方である。63 は土師器小型壺である。底部の高台、頸部から体部の 1/3 を欠損する。胴部には「佛」の線刻が施される。底部にも平行線の細い線刻が見られる。64 は土師器坏の体部下半部で口縁部を波状に打ち欠かれている。内外面非常に磨滅しているが内面上部に油煙、底部付近に炭化物が付着している。65、66 は須恵器片

である。65 は蓋、口縁部の 2/3 と摘みを欠損している。口縁は打ち欠いている。66 は壺の上半部破片。内外面ロクロ調整である。SK11 の土師器については 10 世紀前半、須恵器は 9 世紀代と見られる。

柱穴 SP13 出土遺物（第 111 図 67）

67 は土師器甕小片でタタキ目が見られる。この他には土師器片が数点出土したのみである。

土坑 SK14 出土遺物（第 111 図 68）

68 は須恵器高台坏。口縁部～底部 1/2 の遺存である。底部回転ヘラ切り離し、内外面ロクロ調整である。本址はこの他に須恵器坏片、土師器坏片が少量出土している。形態や造りは古い要素だが、小型の造りから、9 世紀前半～中頃の時期が考えられる。

土坑 SK15 出土遺物（第 111 図 69 ～ 71）

69 は土師器坏底部片である。70 は須恵器甕片で外面平行タタキ目、内面平行アテである。71 は非ロクロ調整の土師器甕である。口縁部はナデ調整、外面は縦のハケメ、内面は全面横のハケメ調整である。口縁部は強く外反し、口唇部に凹部を有している。この他には土師器片が 4 点ほど出土している。これらは 10 世紀前半の時期が考えられる。

土坑 SK34 出土遺物（第 111・112 図 72 ～ 75）

SK34 内からは 74 の非常に大きな大甕が中央に据えられたように出土した。74 は丸底の大甕、外面平行タタキ目、内面は平行アテ。口縁部はナデ調整で内面に輪積みの痕跡が残る。74 は河川跡 SG6 から出土した破片多数と接合している。72 も大甕口縁部で縦方向のヘラケズリ（ナデ）、横方向のカキメ風のヘラナデが施される。内面は横方向のヘラケズリ（ヘラナデ）の後に横方向のカキメ風ヘラナデ調整が施される。本址の破片と、SG6 出土のさらに大きな破片が接合しており、口縁部全体の約 1/4 が復元された。内面に輪積み痕が残る。73 は大甕胴部片である。外面平行タタキ目、内面は平行アテが施される。74 と同一個体と見られる。75 は広口壺の胴部である。外面上半部は横方向のロクロ調整、下半部は縦のヘラケズリ、最下半部はタタキ目。内面は上半部ロクロ調整、最下半部斜めのナデ調整が施される。本址は須恵器の出土の多さから、9 世紀後半の時期と見られるが坏は出土していない。10 世紀まで下る可能性もある。

土坑 SK40 出土遺物（第 113 図 76・77）

76 は須恵器坏の口縁部 1/6 の破片。内外面ロクロ調整である。77 はハケメの土師器甕破片。この他に、土師器坏細片が少量出土している。9 世紀後半の時期が考えられる。

土坑 SK46 出土遺物（第 113 図 78 ～ 82）

78 ～ 82 が出土している。78 は土師器高台坏で高台を欠損する。79・80 は土師器坏の下半部である。両者共に、口縁部を波状に欠損し打ち欠かれた様相を呈する。79 は回転糸切り離しの小型の底部から直線的に立ち上がる。80 は回転糸切り離しの底部からやや内湾して立ち上がる。81 は広口壺の口縁部約 1/2 の遺存でナデ調整が見られる。82 は甕底部。外面はヘラケズリ、内面ヘラナデ。底部タタキ目整形。81・82 の須恵器は 1/2 弱の遺存である。78 ～ 80 は内外ともに器面が非常に磨滅している土師器である。これらの時期は 10 世紀前半の所産と見られる。

土坑 SK66 出土遺物（第 113 図 83 ～ 85）

83・84 は土師器坏。両者とも非常に器肉が薄い。内外面ロクロ調整であるが、内外面ともに磨滅剥落している。83 は口縁部を打ち欠かれた状況で底部は回転糸切り離しと見られる。口縁部はわずかに遺存するだけだが、底部～体部は 2/3 の遺存である。85 は土師器甕底部。これら 3 点の胎土には赤色粒の混入が目立つ。この他の遺物は須恵器片を含む土師器小片 20 数点と少ない。これらの出土遺物は 9 世紀後半から 10 世紀前半の時期と見られる。

土坑 SK67 出土遺物（第 113 図 86 ～ 88）

86 は口縁部がわずかに残る土師器坏で、胎土に赤色粒を多量に混入する。88 は須恵器高台坏。1/2 弱の遺存である。内面に墨が多量に付着している。87 は土師器甕の底部で網代痕を有する。外面はハケメ調整後ヘラケズリ・ヘラナデ調整が施され、内面はナデ調整である。胴部の器肉は非常に薄く、割れ口は磨滅している。86・88 ともに磨滅しており、特に 86 は磨滅著しい。これらは 9 世紀後半から 10 世紀前半の時期と見られる。

土坑 SK81 出土遺物（第 114 図 89・90）

89 は土師器坏で底部～口縁まで 1/2 弱の遺存である。内外面ロクロ調整後、内面はミガキ調整又はミガキ調整風のナデ調整を施されているのが特徴である。90 は土師器甕で 1/4 の遺存。外面ロクロ調整だが、内面磨滅

のため不明。この他、土師器坏の小破片 50 数点が出土している。これらは 9 世紀後半から 10 世紀前半の時期と見られる。

土坑 SK82 出土遺物（第 114 図 91 ～ 100）

91 ～ 94 は土師器の坏である。91 は口縁部 1/3、体部 1/2 の遺存である。内外面ロクロ調整で内面磨滅している。92 は口縁部 1/2、体部 2/3 の遺存である。内外面ロクロ調整後、ナデ・ヘラミガキ調整でロクロ目を消している。器肉は非常に薄い。器形は底部からやや内湾気味に膨らんで立ち上がり、口縁部付近で外反する。93 は内外面ロクロ調整である。口縁部内面に油煙が一部付着している。口縁の 1/3 を欠損しているため不明だが油煙は全体に付着していた可能性がある。内外面磨滅、または再調整しているためか、ロクロ調整が不鮮明である。94 は口縁部約 1/6 遺存の小片である。内外面磨滅しているが､油煙が内外に残る。95 は土師器高台坏、底部 1/2 弱の遺存である。二次焼成を受け、胎土に赤色粒を多く混入しているのが目立つ。96 は非ロクロ調整の土師器高台坏である。外面ヘラケズリ後ナデ調整、ヘラミガキ調整を施す。内面はハケメ調整後、ナデ調整を施す。底部には網代痕が残る。内外面、特に内面磨滅している。97 は非ロクロ整形の土師器甕である。内外面ハケメ調整である。口縁部～胴上半部の約 1/3 が遺存している。98 は土師器甕底部で約 1/6 の遺存である。外面ヘラケズリ、内面ナデ調整。平坦な底部周縁から中央部になだらかに外反し、中央部が外側に凸状に飛び出した形状である。99 はロクロ調整の須恵器坏口縁部の 1/4 片、内外に墨痕が付着する。100 は須恵器壺肩部の 1/4 片、内外面ロクロ調整及び外面ヘラケズリ調整である。SG6 出土の破片と接合しているが、本址で出土している部分の破片には墨痕の付着が見られる。この SK82 出土遺物は全体に磨滅したものが多い。これらは 10 世紀前半の時期と見られる。

土坑 SK111 出土遺物（第 115 図 101・102）

101 は磁器。確認面で検出された。近世江戸期のものと見られる。102 は埋設されていた箱状木製品である。天井板と底板は無い。側面に把手風の四角窓がある。鉄釘により 4 枚の板が結合されている。これらは近世の時期と見られる。

土坑 SK115 出土遺物（第 115 図 103 ～ 110）

103 ～ 106 は土師器坏である。103 は口縁部の 1/3 弱を欠損する。底部は回転糸切り離しで、外面ロクロ調整を施す。内面はナデ調整でロクロ目の凹凸を平滑にしている。内外面磨滅した部分多いが、特に外面では器面剥落部分が多い。104 は口縁部の 1/5 を欠損する。内外面ロクロ調整で、内外面に炭化物、特に外面には多量に広範囲に付着している。回転糸切り離しの底部である。粗砂を多量に混入しているのが目立ち、最大 8mm ほどの粗砂も混入している。105・106 は回転糸切り離しの底部片。105 には炭化物が多量に付着している。107 は非ロクロ調整の土師器高台坏。外面ヘラケズリ調整、内面は磨滅のため不明瞭だが、ナデ調整と見られる。108 は土師器甕の底部小片である。平底だが中央部が外に凸状に膨らむ形状と見られる。割れ口を含めた内外面に炭化物が多量に付着する。109 は須恵器坏の口縁部細片、110 は須恵器高台坏小片である。これらは 9 世紀後半から 10 世紀前半の時期と見られる。この他、大礫、小礫も出土している。

土坑 SK116 出土遺物（第 116 図 111）

111 は土師器坏で内外面ロクロ調整を施す。内外面の器面剥落著しく口縁部の 2/3 を欠く。器面が剥落していることを考慮しても、器肉は非常に薄い。この他、甕細片が 2 点出土しているが、非常に磨滅している。これらは 9 世紀後半から 10 世紀前半の時期と見られる。

土坑 SK117 出土遺物（第 116 図 112・113）

112・113 が出土している。112 は須恵器蓋の天井部片、113 は土師器甕口縁部約 1/6 片である。内外面非常に磨滅している。

土坑 SK119 出土遺物（第 116 図 114）

114 は須恵器坏底部片である。回転糸切り離しで底部と体部に墨書がある。釈文不明。

土坑 SK124 出土遺物（第 116 図 115）

115 は須恵器坏の細片、わずかな遺存だが底部回転ヘラ切り離し技法と見られる。

土坑 SK127 出土遺物（第 116 図 116・117）

116 は須恵器坏の底部片。117 は須恵器甕の細片で、かなり磨滅している。

土坑 SK128 出土遺物（第 116 図 118）

118 は須恵器大甕の小片。外面タタキ目、内面平行アテと同心円文アテである。

土坑 SK141 出土遺物（第 116 ～ 118 図 119 ～ 138）

119 ～ 123 は土師器甕である。ほとんどが小破片である。119 は口縁部片、120 はハケメ調整の小破片、121・122 は内外ハケメの小破片である。123 は底部片で回転糸切り離しである。内外面はヘラケズリ、ナデ等の調整が施される。124 は須恵器坏で 1/4 の遺存である。125 は須恵器大甕の口縁部片、1/8 の遺存である。外面タタキ目後横方向のナデ調整を施し、内面に横方向のヘラケズリとナデ調整を施す。126 ～ 138 は須恵器大甕破片で、少なくても 2 個体ある。126 ～ 131・133 は同一個体である。外面平行タタキ目、内面平行・同心円文アテである。132・134 ～ 138 も同一個体である。外面平行タタキ目、内面同心円文アテである。前者は大型の須恵器甕である。後者は前者よりもやや小ぶりな須恵器甕である。この他に内外面ハケメ調整の土師器甕片が多数出土しているが復元できなかった。土師器は何れも器面磨滅している。これらは須恵器大甕を除き 9 世紀後半から 10 世紀前半の時期と見られる。

第 119 図は SK185 ～ SX184 までの出土遺物。139 ～ 163 は小破片が多い。

土坑 SK185 出土遺物（第 119 図 139）

139 は須恵器甕底部細片。砂目の底部で外面ヘラケズリ調整である。

土坑 SK186 出土遺物（第 119 図 140）

140 は網代痕の土師器甕底部片。非常に磨滅している。

土坑 SK187 出土遺物（第 119 図 141）

141 は須恵器坏底部片、回転糸切り離しである。

土坑 SK188 出土遺物（第 119 図 142 ～ 144）

142 は網代痕の残る土師器甕片。143 は須恵器甕片、タタキ目と同心円文アテである。144 は須恵器甕頸部細片。内外面ナデ調整である。

土坑 SK189 出土遺物（第 119 図 145）

145 は須恵器蓋の細片である。

土坑 SK190 出土遺物（第 119 図 146）

146 は須恵器甕の口縁部で内外面ナデ調整を施す。器面磨滅著しい。

土坑 SK193 出土遺物（第 119 図 147）

147 は土師器坏の底部、回転糸切り離しである。

土坑 SK195 出土遺物（第 119 図 148）

148 は須恵器壺の胴部破片。磨滅している。

土坑 SK201 出土遺物（第 119 図 149）

149 は土師器坏の底部。非常に磨滅し剥落している。

性格不明遺構 SX43（第 119 図 150）

150 は須恵器長頸壺の頸部 1/2 片である。器面磨滅している。

性格不明遺構 SX104（第 119 図 151 ～ 153）

151 は土師器坏の 1/6 片である。非常に磨滅している。152 は土師器の甕口縁部片 1/6、内外面非常に磨滅している。153 は須恵器長頸壺の胴部上半の 1/6 片である。内外面カキ目調整である。

性格不明遺構 SX105（第 119 図 154・155）

154 は内面ヘラミガキ調整で黒色処理を施す、土師器高台坏の底部である。底部外面の約 1/2 も黒色を呈している。155 は土師器甕底部破片。外面ヘラケズリ調整後ナデ調整、底部はナデ調整。内面は磨滅しており調整不明である。

性格不明遺構 SX120（第 119 図 156 ～ 158）

156 ～ 158 が出土。156 は土師器高台坏底部、胎土に赤色粒の混入が目立つ。磨滅著しい。157 須恵器坏の底部片。回転糸切り離しで磨滅著しい。158 は須恵器底部片、全体磨滅で調整は不明である。

性格不明遺構 SX121（第 119 図 159）

159 は須恵器坏の底部細片。回転糸切り離しである。

性格不明遺構 SX134（第 119 図 160）

160 は須恵器の甕細片。外面は平行タタキ目、内面は平行アテである。

性格不明遺構 SX149（第 119 図 161・162）

161・162 は須恵器甕の小破片。外面は平行タタキ、内面平行アテである。

性格不明遺構 SX184（第 119 図 163）

163 は須恵器蓋 1/4 片。外面ロクロ調整で天井部は回転ヘラケズリ調整である。焼成良くない。

遺構付近出土遺物（第 120 図 164 ～ 179）

164 ～ 166 は SK1・8 付近の出土遺物。何れも土師器坏底部である。164 は内外面磨滅して調整が分かりにくいが、外面はナデ・ミガキ調整の可能性がある。非常に器肉が薄い。165・166 は器面磨滅で調整不明である。165 は器肉が厚く、166 はやや薄い。167・168 は SK8・104 付近の出土遺物、土師器坏である。167 は底部 4.2cm と本遺跡で最も底径の小さな坏である。

底部は 1/3、体部 2/3、口縁部 1/2 弱の遺存である。内外面ナデ調整を施す。器面は磨滅しており、特に内面の磨滅が著しい。168 は内外面非常に磨滅しており調整不明。169 は SK11 付近出土の土師器坏底部。内外面磨滅して、調整不明である。これらは 10 世紀前半の時期と見られる。170 ～ 174 は SK66・67 付近出土の土師器である。170 は坏底部片で、内外磨滅している。171 は底部径 4.2cm で 167 同様の蝉田遺跡で最も小型の土師器坏である。底部は 2/3、体部は 1/4 の遺存で、底部回転糸切り離しである。172 は約 1/6 の遺存の坏口縁部片である。内外面磨滅している。173 は 1/4 弱の遺存の坏。底部は完形。回転糸切り後ナデ調整で糸切り痕を消している。内面は特に磨滅している。174 は高台坏底部、1/3 弱の遺存である。内外面磨滅剥落が著しく、赤色粒の混入目立つ。175・176 は SK82 付近出土の土師器坏、両者ともに細片である。175 は口縁部に油煙の付着が見られ、176 は内外面に炭化物が付着する。177・178 は SX104 付近出土の土師器坏。口縁部 1/4 ～ 1/6 の遺存である。179 は SD69 付近出土の土師器高台坏。口縁部～底部 1/3 の遺存である。器面磨滅剥落著しい。これら 164 ～ 179 の遺物は 10 世紀前半の時期と見られる。

溝跡 SD3 出土遺物（第 121 図 180 ～ 194）

180 ～ 182 は土師器坏である。180 は口縁部 1/2 の遺存。底部より直線的に立ち上がる。内外面磨滅剥落のため、調整は不明である。181 は口縁部～底部 1/3 の遺存。回転糸切り離しの底部からやや膨らんで立ち上がり、口縁部で強く外反する。磨滅している。182 は回転糸切り離しの底部。183 は土師器の甑と見られる。胴部下半を欠く。口縁部は 2/3、胴部は 1/2 弱の遺存である。外面に把手が付き、縦のヘラケズリ調整、内面には横のナデ調整、口縁部は横方向ナデ調整が施される。184 ～ 187 は内面黒色処理の土師器高台坏である。184・185 は器面磨滅している。184 は底部回転糸切り離し、185 は底部切り離し不明である。187 は造り出し高台と見られる、高台の低い底部である。188 ～ 194 は須恵器で 188 ～ 190 は坏である。188 は 2/3 弱の遺存。体部に墨書され「定」と見られる。底径が大きい坏。189 は口縁部 1/6 の遺存、赤色粒の混入が目立つ。内外面磨滅している。190 は口縁部の 1/6 を欠き、底部に特徴を持つ。回転糸切り離しの底部と、体部の境界にくびれ（抉り）があり、底部と体部が明確に分かれている。県内ではあまり見られない器形の坏である。類例は兵庫県の川端窯にある。191 は回転糸切り離しの高台坏底部である。192 は格子目タタキと平行アテの須恵器甕片である。193・194 は蓋。遺存 1/6 ～ 1/8 の細片。これらは 9 世紀後半の時期と見られる。

溝跡 SD 出土遺物（第 122 図 195 ～ 212）

SD69 では 195 ～ 199 が出土している。195・196 は漆器である。195 は皿状で浅い、196 は椀状で深い。両者ともに内面赤漆、外面黒漆塗布している。197 は須恵器壺底部である。台付きであるが台部を欠損する。外面に自然釉がかかる。198 は須恵器甕の細破片。外面平行タタキ目と内面平行アテである。199 は縄文時代の石器、剥片である。

SD95 では 200・201 が出土している。200 は土師器坏、口縁部～底部 1/2 弱の遺存である。底部回転糸切り離しで内外面にロクロ調整を施す。その後、内面ナデ調整でロクロ目の凹凸を平滑にしている。201 は須恵器の壺片で内外面ナデ調整を施す。

SD131 では 202 ～ 205 が出土している。202 は土師器坏の底部で磨滅著しい。203 は土師器坏で 2/3 の遺存。全体に磨滅剥落し脆弱である。全体に器肉薄い。内外磨滅のため不確実であるが、ロクロ目の凹凸が見られないので、ナデ等の調整を施していると見られる。204 は須恵器甕底部細片、砂目底である。205 は須恵器甕細破片。外面平行タタキ、内面ナデ調整である。

SD132 では 206 の須恵器甕の細片が出土している。外面は平行タタキ目、内面に平行アテである。

SD138 では 207 の須恵器甕の細片が出土している。外面平行タタキ目、内面は不明である。

SD139 では 208 の土師器甕の口縁細片が出土している。内外面磨滅剥落し、調整不明である。

SD140 では 209 の須恵器甕の細片が出土している。外面は平行タタキ目、内面平行アテである。

SD148 は 210・211 が出土している。210 は須恵器甕の細片、外面平行タタキ目と平行アテである。211 は口縁部を打ち欠かれている他は完存の 17 世紀前半の肥前陶器皿である。内面には釉薬が全面に掛り、外面は底部周辺には釉薬が掛らない。

SD191 からは 212 の須恵器高台坏の細片が出土している。底部回転糸切り離しである。

溝跡 SD130 出土遺物（第 123・124 図 213 ～ 234）

213 は土師器高台坏で内面に炭化物が付着し、内外面ロクロ調整を施す。内外面は非常に磨滅している。214 は須恵器高台坏の底部、回転糸切り離しである。215 は須恵器壺の細片。216・217 は須恵器甕の細片で外面タタキ目、内面平行アテである。218 は須恵器壺細片、非常に磨滅している。219・220・222 は 18 世紀後半の肥前磁器皿、221 は 18 世紀の肥前磁器碗。224 は 16 世紀末～ 17 世紀初頭の肥前陶器皿である。223・225 ～ 229 は近世後半の陶器である。230 は石皿、中央部に凹部が見られる。231・232 は金属製品のキセルである。233 は曲げ物の底板。1/2 の遺存である。234 は木製品で下駄と見られる。

河川跡 SG50 出土遺物（第 125・126 図 235 ～ 250）

235 ～ 240 は土師器である。235 ～ 237 は坏で、235 は 1/4 弱の遺存、底部は回転糸切り離しである。器面磨滅著しい。236 は口縁部細破片で、内外に炭化物が付着している。237 は回転糸切りの底部片。磨滅著しい。238 は甕口縁部～胴部上半の細破片である。上半部はロクロ調整、下半部はヘラケズリである。内面には横方向のナデ調整を施す。239・240 は内面黒色処理で、239 は坏で外面は非常に磨滅している。240 は高台坏である。241 は須恵器高台坏。本遺跡の須恵器では最も古い時期の 8 世紀後半と考える。内外面ロクロ調整後、ナデ調整を施す。底部は回転ヘラ切り離し。242 は須恵器の大型壺片。高台がほとんど破損している。243 は石匙、244 は石篦で、縄文時代の石器である。245 ～ 250 は木製品である。245 は曲物の底板で 1/2 の遺存である。246 は下端部が上方から斜めに切られた板材である。247 は上端が半円状の板状品。248 は長さ 47cm、太さ 3cm の棒状品。下端に向かい細くなる。249 は長さ 27cm、幅 7cm 程の割り材。250 は長さ 13cm、太さ 4cm の棒状を呈する。248 ～ 250 は自然遺物の可能性がある。

河川跡 SG6 出土遺物（第 127 ～ 216 図）

蝉田遺跡の出土遺物の約 8 割以上は河川跡 SG6 出土である。須恵器・土師器（黒色土器・非ロクロ土器）・陶器・石製品・金属製品・木製品・縄文時代石器などが多量に出土している。木製品は柱材､床材など建築部材、食器、農具、祭祀具、工具、装身具、用途不明木製品など多種多様である。

須恵器（第 127 ～ 136 図）

第 127 図（251 ～ 269）

底部の回転ヘラ切り離しの坏をまとめた。251 は口縁部から体部中位まで遺存した坏。体部上半はわずかに遺存するのみである。252 は底部から口縁部 1/2 の遺存である。口唇部のほとんどを磨滅で欠いている。外面底部付近は橙色を呈する。251・252 は 8 世紀の所産と見られる。253 は身の浅い坏で、口縁部～体部上半の 1/2 弱を欠く。9 世紀前半の時期と見られる。252 と 253 は底部が外側に凸状に膨らむ。254・255 は底部 1/2 の遺存である。体部から口縁部のほとんどを欠く。254 は底部に平行の 2 条の沈線状の置き台痕が見られる。254・255 共に同様の底部の回転ヘラ切り離し痕跡などから、8 世紀後半の時期と見られる。256・259 は底部回転糸切り。256 は底部 1/2 弱、体部わずかな遺存である。器高は 3.5cm 前後、底径 6.4cm 前後の平らな器形。底部は糸切り部分が僅かに凸状に盛り上がる。259 は磨滅のため底部調整不明だが、回転糸切り離しと見られる。6.5cm の底径に 5cm 近い器高というやや身の深い坏である。256 が 9 世紀前半、259 は 9 世紀中頃～後半と言う時期が考えられる。257 は底部から体部の 1/3 の遺存。底部回転ヘラ切り離しの坏で白色の須恵器である。257・258・260・262 は器高 3.5cm 前後、底径 9cm 前後の浅い坏である。これらは底部回転ヘラ切り離しであるが、回転糸切り離しの 256 と器形が類似している。よってこれらの時期も 9 世紀前半と見られる。258 は底部に墨書の一部が見られる。258・260・262 は細片で法量はやや誤差が大きい。261・263 ～ 269 は回転ヘラ切り離しの坏である。割れ口が磨滅した土器が多い。263 は約 1/2 の底部。265 は底部から体部の 1/2 の遺存。265 は器面の厚さから、現状の端部は口唇にほぼ近い部分と見られるので、258 等と同じ器高の浅い坏と見られる。この他はみな細片による復元実測である。257・258・260 ～ 263・265・267 ～ 269 は焼成が不十分な白い色調の須恵器である。

第 128 図（270 ～ 285）

270 ～ 285 は底部回転糸切り離しの坏である。270

は SD3 出土 190 と同様の底部である。底部と体部の境に明瞭な抉りが入る土器である。底部は約 1/2、口縁部は 1/6 の遺存である。190 との相違は、190 の底部は中央部が凸状に外に膨らむが 270 は逆に内側に凹状に窪む。これ以外の器形は 190 と同様である。271 は 1/2 弱の遺存である。内外面ロクロ調整、底部は磨滅で不明確だが、わずかに回転糸切り離しの痕跡が見られる。その後に底部周縁部をナデ調整していると見られる。272 は本遺跡の須恵器で最も小形の坏である。1/2 の遺存で、外面はヘラケズリ後ナデやミガキ調整でロクロ痕を消している。内面もナデ調整を施している。胎土に海綿骨針が混入する。273 は土師器坏、約 1/3 の遺存である。内外面ロクロ調整で、底部回転糸切り離しである。口縁部は強く外反する。274 は完形出土の土師器坏。内外面ロクロ調整後、内面はロクロ痕をナデ調整で平滑にしている。外面のロクロ目痕は細かく、間隔が狭い。口縁部外面はやや肥厚して外反する。器肉は非常に薄く、焼成も良好である。内面見込に炭化物が付着し、外面に鋭利な刃物によると見られる切り込み線がある。線刻よりも深く太い。275 は 1/2 弱の遺存である。底径・口径ともに 272 と同様である。外面はロクロ調整。内面はロクロ調整後、横方向のナデ調整が見られる。276 は土師器坏。口縁部～底部の 2/3 の遺存である。回転糸切り離しの底部から緩やかに内湾しながら立ち上がる体部である。277 は白色の須恵器坏で完形である。全く破損もひび割れも見られない。内面はロクロ目の凹凸が目立つが外面はほとんど目立たない。ナデ調整など行っている。底部は回転糸切り離し、一部ナデ調整を施す。金雲母混入。278 は本址で最も浅い須恵器坏で、皿に近い器形である。口縁の 3/4 を欠く。体部は回転糸切り離しの底部から直線的に立ち上がる。内面はロクロ調整痕目立つが、外面は目立たない。ナデ調整を施して、平滑に調整していると見られる。底径 7cm、口径 13.2cm、器高 3.2cm である。279 は土師器坏。口縁部 1/2 の遺存で底部はわずかに残る。内外面ロクロ調整で底部回転糸切り離しである。280 は小型の須恵器坏で口縁部 1/4、底部 1/2 の遺存。内外面はロクロ調整で内外磨滅している。281 は土師器坏、底部を欠く。高台坏の可能性がある。282 ～ 285 は口縁部を欠く。285 は胎土と内面中央部が赤褐色を呈する。

第 129 図（286 ～ 302）

286 ～ 302 は墨書された須恵器である。286 ～ 296 は底部に墨書されている。286 は「真」、287 は「今」、口縁部の割れ方は打ち欠いたような割れ方である。288 は外面墨書、内面墨汁痕が見られる。289 は外面に墨書されるが、文字不明である。290 は内面墨痕、外面墨書があるが文字不明である。291 は底部に墨書され「定」と見られるが、他の墨書と異なり、大ぶりな書き方である。時期的に新しい書き方の可能性もある。292 ～ 294 は底部に墨書され「定」と見られる。295 は文字になっていない。296 は文字不明である。297・298 の墨書は「定」と見られる。299 は「太」。300 ～ 302 は文字不明である。286・287・289・292・294・295・296 の坏は、その破損状況から口縁部から体部を打ち欠かれたと推定される。

第 130 図（303 ～ 316）

303 は内外面に炭化物が付着している赤褐色の須恵器である。底部外面のみ灰色を呈する。304・305 は内面に墨痕が見られる。内面は非常に磨滅しており、転用硯と見られる。打ち欠かれている。306 は土師器坏、回転糸切りの底部外面に墨が付着する。307 は内面に墨が付着し、308 ～ 311 は墨書される小破片。312 ～ 314 は須恵器蓋。312 は完形で内面に朱がほぼ全面に付着している。313 は 1/2 弱の遺存。314 は摘みが大きな逆高台型の蓋片で 1/4 の遺存。口唇部のほとんどを欠損し、内面のほぼ全面に墨が付着する。315・316 は須恵器高台坏。315 は身が深い器形であり、埦とするべきか。1/4 の遺存である。回転ヘラ切り離しである。316 は底部～体部 1/2 の遺存。回転ヘラ切り離しである。8 世紀後半の所産の可能性がある。

第 131 図（317 ～ 329）

317 ～ 323 は須恵器の高台坏である。317 は内外面ロクロ調整で内面に墨が多量に付着している。内面の墨痕は「筆直しの痕」と考えられる。底部回転糸切り離しである。318 は口縁部を欠くが、ほぼ口縁部に近いと見られる。底部は回転ヘラ切り離しである。319 は底部 1/2 弱の遺存である。「官」の刻書がある。この刻書について、ヘラ書きで文字が小さくまとまるのは古い物の特徴で焼成前に書いているのは役所に納入するためと考えられる、と教示頂いた。320 は壺の可能性もある

底部である。内面及び割れ口が磨滅している。内面は研磨されているため、転用硯の可能性もある。321・322は 1/2 の遺存である。両者共に磨滅しており、割れ口まで磨滅している。321 は底部回転ヘラ切り離し、322は底部回転糸切り離しである。墨が付着している。323は高台部を欠損している。1/2 弱の遺存である。底部回転糸切り離し、10 世紀に入る可能性を指摘された。

324 ～ 329 は須恵器の長頸壺である。324 は胴部上半 1/6 の遺存で長頸部は、ほぼ完存。内外面カキ目調整、その後に外面はナデ調整を施す。325 は口縁から胴部上半の約 1/2 の遺存。内外面ロクロ調整を施す。頸部と胴部上半の接合部外面に凸帯が見られる。326 ～ 329 は長頸壺口縁部、細破片である。328 は外面に自然釉が見られる。324 ～ 327 は口唇部が大きく外反するが、328・329 は口唇部外反が小さい。

第 132 図（330 ～ 340）

330・331・334 も須恵器の長頸壺である。330 は口唇部が強く外反し、火ぶくれも見られる。大型の壺である。331 の口縁部は外反して立ち上がり口唇部が直立する。334 は頸部から胴部上半の 1/2 の遺存である。上半部はロクロ調整とカキメ風の調整も一部見られる。下半部は横のヘラケズリ後、縦のヘラケズリ。頸部と胴部の境に凸帯を有する。内面はロクロ調整で器肉が厚い。

332・333・336 ～ 339 は須恵器広口壺である。332は口唇部が強く外反し、333 はやや内湾する。336・339 は小型の広口壺である。336 は内外面ロクロ調整で、その後外面はナデ調整を施す。339 は外面のロクロ目の凹凸が大きい。337 は内外面をロクロ調整する。割れ口が磨滅している。338 は内外面に、自然釉がかかる。割れ口は磨滅している。

335 は内外ロクロ調整で外面は一部カキメ調整、下半部縦のヘラケズリ。割れ口が磨滅している。334 と同一個体と見られる。340 は底部から胴部中位の壺。胴部はわずかに遺存している。

第 133 図（341 ～ 349）

341・342 は壺底部から胴部下半である。341 は内外ロクロ調整で外面に輪積み痕が見られる。342 は内外面ロクロ調整。割れ口も含め、全体が非常に磨滅している。341 と 342 は胎土に 5mm 以上の砂粒を含む粗砂を多量に混入する。343・345 は同一個体。内面に墨が付着している。344・346 は底部外面中心部が窪んでいる。特に 346 は高台の内側にさらに低い高台状の「内輪」が見られる。347 は土師器。小型甕で底部は回転糸切り離しである。348 は手付瓶と見られる。口縁～頸部と胴部の 1/2 弱を欠く。内外面ロクロ調整で外面下半は回転ヘラケズリ調整を施す。高台を有し、底部付近に貼り付け把手の一部が残る。「灰釉写し」と見られる。底部は回転ヘラケズリ又はナデ調整され、さらに中央部は指ナデされる。底部切り離しは消されているが回転糸切り離しと見られる。349 は須恵器の広口壺の細片である。内外面ナデ調整で、外面中位に稜を有している。

第 134 図（350 ～ 355）

350 ～ 355 は須恵器甕の口縁部から底部の細片である。350 は外面に平行タタキ目、内面に同心円文アテが見られる。内外面の胴部上半端から口縁部にはナデ調整。このナデ調整には木口状の工具を使用している。351 は内面に横方向のヘラケズリ後、ナデ調整を施す。352 は大甕の口縁部の大型破片。353 は外面タタキ目の後、横方向のナデ調整を施す。354 は 351 と非常によく似た口縁片である。355 は甕底部片である。外面は平底の底部から、直立的に立ち上がる。ヘラケズリ調整である。

第 135 図（356 ～ 360）

356 は大型の甕、約 1/2 の遺存である。口縁部と底部を欠く。外面に平行タタキ目、内面に同心円文アテが見られる。357 ～ 360 は甕口縁部から胴部上半部である。外面に平行タタキ目、内面に同心円文アテが見られる。358 は白色の須恵器甕の頸部片である。360 は全面に自然釉がかかる口縁片である。外面に櫛描の波状文を施す。内面にはカキメとナデ調整が見られる。

第 136 図（361 ～ 364）

361 ～ 364 は大甕の胴部小破片。外面にタタキ目と内面に同心円文アテや平行アテが見られる。364 の内面アテは特殊な形である。

土師器（第 137 ～ 171 図）

第 137 図（365 ～ 379）

365 ～ 379 は体部ロクロ調整で底部回転糸切り離しの坏。365 はほぼ完形で内外面ロクロ調整、外面のロクロの凹凸は見られるが、内面は平滑。胎土に金雲母が

目立つ。366 は完形で、全く破損やひび割れなどは見られない。外面はロクロ調整、内面はヘラミガキ調整で、黒色処理は見られない。367 は口縁部の 1/3 を欠く。内外面ロクロ調整で、胎土に赤色粒が目立つ。368 は 1/2 の遺存。内外面ロクロ調整で外面に二次焼成がある。369 は底部の角張りが特徴的である。体部は直線的に立ち上がる。胎土に赤色粒が目立つ。内面は磨滅している。370 は口縁部の 1/6 を欠く。内外面のロクロ目はやや磨滅している。371 は完形で、全く破損は無いが、やや歪みが大きい。外面はロクロ調整、内面はロクロ後ミガキ風のナデ調整。器高は 3 ～ 4cm 程と低い。底部回転糸切り離しは雑である。372 は口縁部から底部 1/4 の遺存である。373 は外面のロクロ目が細かい。内面は、ヘラミガキ風のナデ調整を施して平滑にしている。374 は小型の坏。底径・器高とも 5cm に満たない。内外面ロクロ調整を施す。375 は口縁部の 1/3 を欠く。口縁部が強く外反する器形である。胎土に赤色粒が目立つ。376 は口縁部の 1/2 と体部の 1/3 を欠く。底部の回転糸切り離しが雑である。胎土に赤色粒目立ち、5 ～ 8mm の粗砂も混入する。377 は口縁の 1/2 を欠く。内外面ロクロ調整で、胎土に赤色粒が目立つ。378 は底部回転糸切り、整った造りである。379 は歪みが大きい。内外面ロクロ調整。その後、内面ナデ調整を施して下半のロクロ目が消されている。371 と歪み具合や、内面調整などが似ている。

第 138 図（380 ～ 394）

380 ～ 394 は底部回転糸切り離し、内外面ロクロ調整の土師器坏である。380 はロクロ調整後、内面にややナデ調整を施す。胎土に金雲母が目立つ。381 は完形で全く破損がない。ロクロ調整後、内外面ややナデ調整が施される。胎土に金雲母が目立つ。382 は少しひび割れがあるが完形である。底部やや丸く膨らみながら立ち上がる。383 は口縁部の 2/3 を欠く。384 は口縁部から体部の 1/2 弱を欠く。胎土に赤色粒が目立つ。385 も胎土に赤色粒が目立つ。口縁部はわずかに欠損する。386 は底部 1/2、体部 1/4 の遺存である。割れ口も含め、内外面が磨滅している。387 は底部平坦で範囲明瞭。口縁部の 1/2 を欠く。外面には煤状炭化物が付着している。器肉は薄い。388 は口縁部の 1/2 を欠く。389 は口縁部の 1/3 を欠く。底部は体部との境界が明確な稜を有する。388・389 は口縁部の一部を欠く以外破損は見られない。390 は 1/2 の遺存。底部が凸状に飛び出す小型の坏。10 世紀第 1 ～ 2 四半期の可能性が指摘された。391 は底部完形、体部 1/2 の遺存である。底部の切り離しが雑である。392 は内外面の器面がやや剥落しているが、わずかに口縁部を欠くほかは完形である。393 は一部口縁を打ち欠いている。このほかは完形である。外面は磨滅している。394 は口縁の 1/3 を欠く。内面に柿渋様の塗布がある。外面は磨滅で内面と同様の塗布があったかは不明。

第 139 図（395 ～ 409）

395 ～ 409 は内外面ロクロ調整、底部回転糸切り離しの土師器坏である。395 は体部の 1/3 を欠損し、内面黒ずむ。付着物の可能性がある。396 は口縁部の 1/6 を欠くほかは完形である。口縁部外面に油煙付着している。底部の範囲明瞭である。397 は口縁部の 1/6 を欠くほかは完形である。底部範囲は明瞭。ロクロ目の凹凸はしっかりしている。398 は口縁部～体部の 1/4、底部の 1/2 の遺存。内外面磨滅している。399 も内外磨滅している。底部角やや丸く、底部範囲が明瞭でない。400 は口縁部の 1/4 を欠くが、そのほかは完形。内外面に塗布物があり、特に内面に多量に塗布される。底部の回転糸切り離しは雑である。401 は口唇部の一部をわずかに欠くが、完形である。底部範囲は明瞭である。402 はひび割れが少しあるが、完形。400 と 402 は器肉が厚く重い土器である。403 はほぼ完形である。4cm 程の小さい底部で小型坏である。404 は完形。底部は明確な輪郭をしている。405 は口縁部の 1/2 を欠く。底部の切り離しは雑である。406 は口縁部の 1/2 弱を欠く。底部やや凸状に飛び出す。407 は口縁部～体部の 1/2 弱を欠く。体部二次焼成受け、体部に穿孔がある。408 は口縁の一部と外面が剥がれている。火はねと見られる。底部に明確な稜を持ち底部範囲は明瞭である。409 は口縁部 1/4、底部～体部 1/2 の遺存。底部は明瞭である。胎土に赤色粒が目立つ。

第 140 図（410 ～ 424）

410 ～ 424 は土師器坏。内外面ロクロ調整、底部回転糸切り離しである。410 は口縁部の 1/3 を欠くほかは完形である。底部は整った明確な逆台形。411 は口縁部の 1/2 を欠く。底部は丸みを帯び、やや凸状に飛

び出す。底部中央部は上底である。412 は全体の 1/3 の遺存。内面が磨滅し底部はやや丸みを持つ。413 は口縁部 1/6 の遺存。底部は 1/6 欠損するが、逆台形状の明確な底部である。414 は僅かに口縁を欠くが、他は完形。415 は口縁部～底部の 1/3 の遺存。内面はヘラミガキ風のナデ調整を施す。416 は約 1/2 の遺存。内外面のロクロ目の凹凸が大きい。417 は口縁部 1/2 弱、底部 1/2 の遺存。底部は逆台形で明確な形である。418 は口縁部 1/2 弱を欠損。底部はやや丸みを帯びた形状である。419 は器形が整った逆台形を呈する。内外面はロクロ調整後ナデ調整を施す。底部も回転糸切り離し後、ナデ調整を施す。特に、外面はロクロ目を消している。特異な器形と調整の土器である。420 は口縁部 1/3 の遺存、底部は完形である。やや丸みを帯びる底部である。421 は底部の一部を欠く。底部は回転糸切り離し後ナデ調整で、糸切り痕を消している。口縁部は磨滅する。422 は底部から口縁部の 1/3 を欠く。器高 4.0cm、口径 12.8cm、底径 6.0cm と浅く小型である。ロクロ目の凹凸はほとんど見られない。423 は口縁部わずかに遺存する。底部付近は完形。424 は口縁部の 1/2 を欠く。胎土に赤色粒目立つ。底部の輪郭明確である。

第 141 図（425 ～ 439）

425 ～ 439 は内外面ロクロ調整、底部回転糸切り離しの土師器坏である。425 は 1/4 の遺存。底部輪郭明瞭、内面ナデ調整。赤色粒目立つ。426 は口縁部 1/4 の遺存、底部はほぼ完形。胎土に赤色粒が目立つ。427 は口縁部の 1/3 を欠く。底部 4.8cm、口径 12.5cm と小型の土器である。底部範囲は明瞭で、やや器肉は厚い。428 は口縁部 1/2 弱の遺存だが底部は完形。底部は雑な造りで不正円形である。内面のロクロ目の凹凸が大きい。429 は口縁部の 1/2 弱を欠く。内面のロクロ目の間隔が狭く器肉薄い。底部範囲は明瞭である。430 は口縁部をわずかに欠く。内面の 1/4 にヘラミガキ調整が見られる。内面は平滑に調整される。器肉は非常に薄く、底部範囲は明瞭である。二次焼成受ける。431 はひび割れが若干見られるが、完形である。内面ヘラミガキ調整又はナデ調整で光沢のある調整である。底部範囲は明瞭で凸状に飛び出す。432 は口縁部 1/2 弱の欠損。底部範囲は明瞭で器肉薄く、丁寧な造りである。433 は口縁部 1/4 を欠くほかは破損していない。内外面には、やや磨滅した箇所があり、炭化物の付着が見られる。胎土に赤色粒が目立つ。底部は丸みがあり、体部との境界は不明瞭である。434 は 1/2 弱の遺存である。内外面ナデ調整を施している。底面は丸く、範囲は明瞭でない。435 は口縁部を僅かに欠くほかは完形である。底部からやや丸く立ち上がる。内面には塗布物がある。436 は口縁部の 1/2 を欠損する。底部 4.8cm の小型の坏である。437 は口縁部 1/2 弱の遺存。底部は完形で 4.5cm の小型である。438 は完形である。内面下半はヘラミガキ風のナデ調整でロクロ目を消している。底部範囲は明瞭。439 は口縁の一部を欠く。底部範囲は明瞭である。外面ロクロ目の凹凸大きく、内面は平坦である。器肉はやや薄い。

第 142 図（440 ～ 454）

440 ～ 454 は内外面ロクロ調整、底部回転糸切り離しの土師器坏である。440 は完形で全く破損していない。内面はナデ調整によりロクロ目を消し、ほとんど平滑にしている。体部外面に数条の傷がある。焼成前に刻まれた痕跡である。底部範囲は明瞭。441 は口縁をわずかに欠くがほぼ完形である。口径は 12.0cm、器高 4.6cm の小型坏。内外面ロクロ調整だが、ほとんど消している。441 は他のロクロ調整後にナデて消している坏と異なり、器面は非常に荒い。砂粒が多く混入していることも影響しているが、仕上げが粗雑で雰囲気は非ロクロの坏に似る。442 は口縁の一部を欠く以外完形である。底部範囲は明瞭である。二次焼成を受け、砂粒多く器面が荒い。体部は底部から直線的に立ち上がるが、体部上位で膨らみ口縁に至る。443 は体部～口縁部の 1/2 の遺存である。底部は完形である。底部外面は切り離し、造りともに非常に雑である。444 は口唇部のほとんどを欠き、体部の 1/2 弱も欠く。口唇部は非常に薄く、体部はやや内湾して立ち上がる。445 は口縁部と底部の一部を欠く。器肉の厚い土器で、内外面やや磨滅している。胎土に赤色粒が目立つ。446 は約 1/2 の遺存である。外面のロクロ目の凹凸は明確であるが、内面は平滑に調整している。非常に丁寧な造りで器肉も薄い。底径は 4.8cm と小型である。447 は口縁部の 1/2 を欠き、大きく歪んでいる。底部の切り離しや整形が非常に雑で、底径も不明確である。448 は底面から口縁の 1/2 弱を欠く。器肉が厚く底部は凸状に外側に飛び出す。口唇部

が内湾して立ち上がるのは本遺跡ではほとんど見られない。449 は体部の 1/3 が遺存、底部は完形である。底部 4.8cm と小型である。450 は口縁の一部を欠くほか完形である。器形の歪んだ土師器で二次焼成を受ける。底部は若干飛び出し歪む。451 は体部 1/3 の遺存で底部は完形。丁寧な造りだが底部整形がやや雑である。二次焼成受ける。452 は体部 1/3 の遺存で底部は完形。外面の下半をヘラケズリ調整。内面は細い溝状のロクロ調整後、ナデ調整を施している。底部もナデ調整で糸切り痕を消している。本遺跡のロクロ土師器ではあまり見られない造りの小型坏である。453 は口縁の 2/3 を欠く。歪んだ土器で底部はわずかに凸状を呈する。454 は 1/4 の遺存。大型の坏で底部範囲は明瞭である。器肉厚く、外面はやや磨滅している。

第 143 図（455 ～ 463）

455 ～ 463 は墨書される土師器坏である。全て「定」が記されている。463 は「ウ冠」のみであるが「定」と推定する。455 は完形で出土している。体部中央に墨書「定」が記される。回転糸切り離しの 5cm 程の底部はわずかに飛び出ている。内外面ロクロ調整だが、内面はナデ調整されて褐色に塗布される。塗布物は不明である。456 は体部の 1/2 弱を欠く。器肉が薄く底部範囲は明瞭である。457 は口縁の一部を欠くが、ほぼ完形で出土し、その後幾つかに割れたが接合している。内外面のロクロ調整、底部の回転糸切り離しは丁寧で整っている。458 は口縁部がやや強く外反する。口縁部は 1/6、体部は 1/2 弱の遺存である。内外面ロクロ調整であるが、外面はナデ調整でロクロ目を消して平滑にしている。内面はロクロ目の凹凸が残る。底面は逆台形状の明瞭な輪郭を示している。459 は口縁をわずかに欠くが、ほぼ完形で出土した。内外面ロクロ調整で口縁部は強く外反している。底部範囲は明瞭に造られる。460 は全体の 2/3 が遺存している。底部範囲は明瞭である。体部に墨書され、破損により一部不明であるが「定」と読める。内面に墨が付着し、「筆直し」の痕跡と見られる。461 は口縁部の 1/4 を欠く。底部 4.5cm 程で非常に小型の坏である。内外面ロクロ調整。体部の墨書「定」は一部破損部分に係る。内面には墨痕が見られるがやや薄い。「筆直し」の痕跡と見られる。胎土に赤色粒が目立つ。462 は口縁～体部の 1/2 を欠く。体部墨書の他に内外面に墨痕又は炭化物が多量に付着している。特に外面に多量に付着し墨書を読み難くしている。外面は「火はね」で器面剥がれている部分もあり、その剥がれた面も黒色物が付着している。底部範囲は明瞭である。463 は口縁の 1/2 弱を欠く。内面ナデ調整を施し平滑にしている。外面から内面の一部に二次焼成の痕跡が見られる。体部は広めの底部からほぼ直線的に立ち上がり、器形は箱型を呈する。器肉やや厚い。内面底部付近の変色部分は調整痕ではなく、流路での水性有機物、植物が堆積した痕跡である。

第 144 図（464 ～ 474）

464 ～ 474 は墨書された土師器坏である。464 は内外面ロクロ調整の整った土器である。底部はやや歪みがある。底径 6.6cm と大きく、器肉薄い。胎土に赤色粒が目立つ。墨書されるが文字は不明。465 は明瞭に造られた底部からやや内湾しながら立ち上がる。内面の口唇部に稜線が見られ、体部の墨書は「中」と「口」と読める。胎土には雲母片が目立つ。口縁部の一部を欠く。466 は口縁の一部を欠くほかは、完形で出土した。体部の墨書は「不」と見られる。内外面ロクロ調整で底部は 4.8cm と小型である。底部は明瞭に作られるが全体の器形は歪む。内面に広範囲に墨の付着が見られるが、かなり薄れている。467 は約 1/2 の遺存。底径 5cm、口径 12.6cm、器高 4.3cm と非常に小型である。体部に「直」の墨書が記される。内外面のロクロ調整は凹凸が少なく平滑的である。内面は表面が暗褐色を呈しており、胎土の白色との差が何らかの塗布によるものか焼成に由来するか不明である。底部は明瞭に造られており、体部は直線的に立ち上がる。468 は完形で器形はやや歪んでいる。底部中心が少し外に飛び出す。口縁部は強く外反する。内面はヘラナデ調整、ミガキ調整が行われる。底部の 1/2 はその範囲が明瞭でない。体部墨書は「丁」又は「人」で底部にかかる。469 は約 1/6 の細片。口径、底径は誤差があり 1cm ほど小型になる可能性がある。体部墨書「定」と見られるが、「ウ冠」の書き方、形が他の「定」と異なる。470 は完形。底部に穿孔がある。整った器形で、底部は明瞭に造られている。口唇部も鋭角である。穿孔は外面からと見られ、全くひび割れも見られない。内面は暗褐色を呈する塗布が見られるが、塗布物は不明である。内面ロクロ調整の他に調整は見られ

ない。胎土に金雲母が目立つ。471 は口縁～体部の 1/2 が欠損している。底径 4.8cm、口径 12.3cm、器高 4.5cm の非常に小型の土師器坏である。内面はロクロ後ヘラミガキ調整される。底面は明瞭である。外面墨書されるが、文字は不明。472 は体部の 1/3 弱～ 1/4 の遺存で底部は完形である。底部近くに墨書される。文字は不明。底径は 4.8cm と小型である。全体に歪み、内湾する器形。本遺跡では特異な器形である。ロクロ調整の凹凸はあまり目立たない。473 は底部 1/2、体部 1/3 弱の小破片。内外面はロクロ調整。底部は回転糸切り離し。体部に墨書される。「定」か。474 は口縁から体部 1/3 弱の遺存、底部は完形。全体に丁寧な造りで非常に整った形の土師器坏である。底部範囲は明瞭な造りで胎土に赤色粒を混入する。外面に墨痕が見られる。文字ではない様である。

第 145 図（475 ～ 485）

475 ～ 485 は墨書や線刻の記される土師器坏である。475 は口縁部の 1/2 を欠く。墨書され「以」似の文字だが不明である。内外面に炭化物が広範囲に付着している。底部はやや丸みを帯びる。476 はわずかにひび割れがあるが、完形土器である。底径 5.4cm、口径 13cm 前後の小型の坏である。体部外面に墨書「田」が記される。整った器形の坏である。やや器肉厚く、底部の輪郭は明瞭である。477 は口縁部の 1/3 を欠く。バラバラに散乱して出土した破片を接合した。器形は整っており口唇部を鋭角的に造りだすが、底部はやや広く雑な造りである。内面に墨痕が見られる。478 は 1/3 程の遺存。外面に墨書されるが、文字不明。底部の回転糸切り離しは雑である。479 は口縁部の 1/3 を欠く。体部に墨書があり「ウ冠」であることから「定」と見られる。底部はやや丸いが、回転糸切り離しの範囲は明瞭で全体に丁寧に造られ、器形の整った坏である。口縁部は強く外反し、口唇部は鋭角である。内面に暗褐色物質の塗布が見られるが、塗布物は不明である。480 は口縁部の 1/2 を欠く。体部外面の底部付近に墨書されるが欠損部分があり全容は不明である。内外面はクレーター状に器面剥落しており遺存状態は良くない。内面にカキメ状の調整が見られ、その後ナデ調整される。外面はロクロ調整である。底部はやや丸い。481 は完形土器であるが全体に歪む。体部に墨書され「定」と見られる。底部は輪郭が明瞭な部分と丸みを帯びた部分がある。底部器肉厚く、胎土に粗砂の混入多い。482 は接合されているが、出土時点では完形で出土している。底径 4.6cm、口径 12.2cm、器高 3.8cm と非常に小型の坏である。内外面ロクロ調整で内面は平滑に仕上げられている。体部外面に墨書されるが文字は不明である。底部範囲は明瞭である。10 世紀第 1 四半期～第 2 四半期の可能性のある土師器坏である。483 は出土時には完形で出土している。底径 5.5cm、口径 11.8cm を測り、蝉田遺跡で最も小型の土器の一つである。底部は回転糸切り離し後、周縁部をナデ調整して回転糸切り離し痕を一部消している。内面にカキメ痕が残り、その後ナデ調整を施して、平滑に仕上げている。内面に墨痕が少量見られる。外面はロクロ調整である。484 は完形である。全く破損していない。内外面ロクロ調整で口縁部は強く外反している。体部外面に墨書され「左」の可能性がある。底部範囲は明瞭だが、雑に造られている。器肉厚い印象である。

485 は底部片。断面も含め磨滅している。内外面ロクロ調整と見られるが、外面は磨滅し明確ではない。底部外面に線刻「×」が見られる。胎土に赤色粒を多量に混入。

第 146 図（486 ～ 490）

486 ～ 490 は墨書や炭化物付着の土師器坏。内外面ロクロ調整である。486 は 1/4 の遺存。底部外面に墨書「真」が記され内面に墨痕が見られる。口縁部は灰色、体部下半から底部は橙色である。487 は完形である。体部外面に墨書され、口縁部の内面に油煙 4 ヶ所が見られる。口縁部～体部はやや歪んでいる。口縁部は強く外反し、底部輪郭は明瞭であるが雑に造られる。内面暗褐色の塗布物が見られる。488 は口縁部の 1/4 を欠くほかは完形で出土した。その後、取り上げ時に割れてしまっている。内面に墨汁痕が全面にあり外面にも垂れた痕跡が見られる。内面は平滑に仕上げられる。外面体部には墨書され断片的ではあるが「ウ冠」と見られることから「定」の文字と推定される。底部輪郭は明瞭だが、周縁部がやや丸みを帯びる。489 は完形の坏。内外面に墨痕が見られ、さらに暗褐色の塗布が見られる。内面の墨痕は「筆直し」と見られる。底部範囲は明瞭な造りである。器肉は口唇部まで厚く、胎土に赤色粒が目立つ。外面はやや磨滅している。490 は口縁部～体部の 1/2 弱が遺存する。底部はほぼ完形である。体部外面に墨書

されるが、文字は不明である。内面に墨が多量に付着している。底部範囲は明瞭だが、やや丸みを帯びる。胎土に粗砂粒を多量に混入する。

第 147 図（491 ～ 496）

491 ～ 496 は内外に墨や油煙など炭化物が付着している土師器坏である。491 は口縁部から体部 1/4 弱の遺存である。底部は完形である。内外面はロクロ調整で、内面に墨が付着している。口縁部は外反し、底部の範囲は明瞭だが一部丸みを帯びる部分もある。全体に丁寧な造りで整った器形である。492 は口縁部の 1/6 を欠くほかは、完形に近い形で出土した。外面に墨書があるが、二条の線状を呈し、文字ではないと見られる。この他に内外面に墨が付着している。外面のロクロ目の間隔は細かく、内面のロクロ目の間隔は広い。底部範囲は明瞭な部分もあるが、半分は丸く不明瞭である。493 は完形土器である。口縁部外面に煤・墨が付着している。内面にはロクロ調整痕がきれいに残るが外面はナデられて、ほとんど消えている。丁寧に造られ整美な器形の坏に仕上がっている。回転糸切り離しの底部は、範囲明瞭で、整った逆台形を呈する。中央部は若干窪み、上げ底である。494 は 1/2 弱の遺存である。内外面に煤・油煙などの炭化物が全面に多量に付着している。5.0cm の小型の底部はやや丸みを帯びる。口唇部はやや強く外反する。495 は口唇部に欠損が見られる。底径 5cm、口径 12.2cm の小型の土器である。本遺跡の中でも小形の坏の一つである。口縁部外面に煤などが付着している。底部範囲は明瞭で整った逆台形を呈する。496 は口縁部から体部 1/4 の遺存である。底部は完形である。内外面に炭化物が多量に付着しており、特に内面には多量に付着している。一部断面にも炭化物の付着が見られることから、割れた後も火を受けていると見られる。外面のロクロ目の凹凸はほとんど無い。底部範囲は整った円形で凸状に張出し明瞭である。

第 148 図（497 ～ 502）

497 は口縁の一部を欠くがほぼ完形である。内外面ロクロ調整で全体に磨滅しており口唇部の一部も欠く。かなり動いた土器の様相を呈する。口縁部内面に油煙の痕跡が残る。底部範囲は磨滅しているが明瞭である。498 は口縁部の 1/2 を欠損し、内外面に墨が付着している。全体に整った器形の土師器で底部範囲は明瞭である。胎土に粗砂の混入が多い。499 は口縁部の 1/3 を欠く。内外面に墨が多量に付着している。また内面には横方向のロクロナデ調整にヘラナデ風の単位が見られる。外面はロクロ調整だが変色している部分などもあり二次焼成を受けた可能性がある。また器面の磨滅部分も多い。底部の輪郭は明瞭である。500 は口縁部の 1/4 弱を欠く。この他は完形で出土した。内外面に油煙・炭化物など多量に付着している。特に内面に多い。器形は少し歪み、底部範囲は明瞭だが不整形である。501 は完形である。内外面に炭化物が多量に付着している。特に口縁部内面付近が多い。底部内面及び外面は磨滅している。外面底部は特に磨滅しており、回転糸切り離し痕はほとんど消えている。胎土に赤色粒を多量に混入する。502 は完形である。底部付近にわずかにひび割れがある。丁寧な造りで整った器形の坏で胎土も精製されている。口唇部は外反し鋭角な張出しで、底部範囲は明瞭である。内面に褐色・緑色の付着物がある。

第 149 図（503 ～ 508）

503 ～ 508 は墨や油煙炭化物の多量に付着した土師器坏である。内外面ロクロ調整、回転糸切り離しである。503 は完形で出土していたが、取り上げ時に破損している。内外面には多量の炭化物が付着している。底部からやや内湾気味に膨らんで立ち上がり口縁部で強く外反する。鋭角な口唇部である。内面はロクロ調整後、細いヘラミガキ痕が見られる。底部範囲は明瞭で、胎土に赤色粒を混入する。504 は完形で全く破損していない。内外のロクロ調整は良好に残る。全体の器形はやや歪み、底部範囲は明瞭だが、やや雑な造りである。口縁部内面に油煙が多量に付着している。外面体部にも炭化物が広範囲に付着している。505 は完形である。破損は全く見られない。口縁部は外反し、口唇部は鋭角である。非常に整った器形で底部は明瞭だが、やや雑な造りの底部である。回転糸切り離しの底部に「置き台の痕」が沈線状に残る。内面には広範囲に暗褐色の塗布物が付着し、さらに炭化物が多量に付着している。506 は底部 1/2、体部 1/6 の遺存。底部範囲は明瞭に造られる。内面に漆が大量に付着しており「漆容器」「漆パレット」の可能性がある。507 は口縁部の 1/4 を欠く。他は全く破損していない。回転糸切り離しの底部から内湾気味に立ち上がり、口縁は強く外反する。口唇部内面はわずかに

内湾しているのが特徴的である。口唇部外面には鋭角的な稜が見られる。全体に丁寧に造られ、整美な器形である。内面に墨や炭化物が付着し、底部の範囲は明瞭で外側に凸状に飛び出す。508 は完形で、破損は無い。口縁部わずかに歪むが、整った器形である。口唇部はやや丸みを帯びる。底部範囲は明瞭で外面にわずかに墨痕が見られる。

第 150 図（509 ～ 515）

509 ～ 515 は墨・炭化物などの付着物のある土師器坏である。509 は完形である。内外面ロクロ調整後、外面下半部は横方向のナデ調整を施す。底面から内湾気味に立ち上がる体部は、口縁部付近で強く外反する。底部範囲は明瞭で凸状に飛び出す。全体に丁寧で整った造りである。内面には暗褐色の塗布が見られ、底部の中心付近には墨又は炭化物の付着が見られる。510 は完形で、破損は全く無い。内外面はロクロ調整後、内外面共にナデられている。底部は明瞭に造られ、直線的に立ち上がる体部は口縁付近でやや外反する。内面に墨と暗褐色の付着物がある。511 は口縁部の 1/3 を欠く、この他は全く破損していない。底部 5.1cm、口径 12.2cm、高さ 4.6cm の小型の坏である。口唇部は丸みを帯びる。底部の造りは明瞭である。全体の雰囲気は「厚ぼったい」である。器肉は薄いが厚そうに見える。内外に墨・炭化物付着している。512 は 1/2 の遺存。底部の範囲は明瞭で、体部は直線的に立ち上がる。内外面ロクロ調整で、ロクロ目の凹凸が大きい。内面に暗褐色の塗布と墨・炭化物の付着が見られる。513 は 1/2 の遺存である。底部 5.1cm、口径 12cm の小型の坏。底部範囲は明瞭である。内外面ロクロ調整で、ロクロ目の凹凸は小さい。内面に墨付着と赤色塗彩が見られる。最も小形の土器の一つである。514 は坏というよりも、身の深い碗型である。口縁部から体部の一部を欠く。底部は回転糸切り離しで丸底である。体部は内湾して立ち上がる。内外面に炭化物が大量に付着している。外面のロクロの凹凸は明瞭だが、内面の凹凸はほとんど見られず平滑である。515 は白色の須恵器様で完形。破損部分全くない。幅広く明瞭な底部から、体部は緩やかに直線的に立ち上がる。口縁部はやや歪み、口唇部に油煙が付着している。

第 151 図（516 ～ 530）

516 ～ 530 は体部に墨書された土師器坏である。516 ～ 524 は「定」の文字である。516 の口唇部は丸みを帯びて外反する。517 は「ウ冠」なので「定」と考えられる。519 は「ウ冠」が長い。524 は内面に油煙が大量に付着している。526 も「定」と考えられる。他は文字不明である。530 は口唇部内面に炭化物が帯状に付着している。

第 152 図（531 ～ 550）

531 ～ 549 は墨書された土師器坏の断片である。544 は「本」ないしは「奉」と見られる。547 は細い墨書の一部が割れ口付近に見られる。548 は内面に墨の付着が見られる。

第 153 図（551 ～ 591）

551 ～ 591 は墨書や炭化物付着の土師器坏小片である。559 は「ウ冠」と見られる。560・563 は「定」、564 は「左」と見られる。568 は「ウ冠」なので「定」と推定される。553・557・561・562 は墨ではなく炭化物付着と見られる。558・562・566・569 は口縁部内面に油煙・炭化物が付着する。584・589 は炭化物付着の可能性がある。586 は内面への墨付着である。

第 154 図（592 ～ 610）

592 ～ 599 は墨書や炭化物付着、赤彩の土師器坏である。592 は二文字、上の文字は不明、下の文字はにんべん「亻」の文字と見られ、「佛」の可能性がある。594 は「身」と見られ、595 は「左」である。「群佐」と言う文字があり、類例である。596・598 は内面にも墨が付着している。599 は墨付着の内面カキメの土師器甕である。

600 は内面に漆が付着している。601 は内面に墨が付着している。602 は内面に炭化物多量に付着する。603 は底部から体部 1/3 の遺存。内面全面に炭化物が付着している。604・605 は内面に墨が少量付着する。606 は内面に炭化物が比較的多量に付着する。607 は内面に漆が付着している。608 は須恵器に分類すべきか迷うところである。609・610 は外面が赤彩される。609 は内外面、磨滅している。610 は底部回転糸切り離しのミニチュア坏である。605・606・608・609 は口縁部の破損状況から口縁部を打ち欠かれたと考えられる。やや断面が磨滅している。

第 155 図（611 ～ 626）

611 ～ 626 はロクロ調整の土師器の高台坏、皿であ

る。611 は体部の 1/2 を欠く。内外面ロクロ調整で底部に高台を有し、回転糸切り離しである。口縁部は強く外反し口唇部は丸い形状を呈する。高台は太く短く、しっかりとした安定した高台である。全体に丁寧な造りである。内外面磨滅している。胎土に赤色粒が多量に混入する。内面の底部付近に暗褐色の塗布物が見られる。612 は高台部を欠く。これ以外は完形で出土した。内外面ロクロ調整で、特に内面のロクロ目は横の筋状にきれいに残る。高台部の割れ口は磨滅している。胎土に赤色粒を少量混入。613 は高台部を欠損する。内外面ロクロ調整であるが外面のロクロ目の凹凸は明確な一方、内面はナデられて平滑である。外面の一部に器面の剥落があり、「火はね」と見られる。内面には暗褐色の塗布が見られる。赤色粒を少量混入する。614 は口縁の 1/2 を欠く。底径は小型で体部から口縁部は直線的に外反する。高台も含め全体に器肉薄く、整った造りだが、口縁部一部歪む。赤色粒少量混入。615 は大型の高台坏。口縁部 1/2 と高台を欠く。口縁部は大きく外反している。内面にはクレーター状に剝がれた痕が多数見られ、二次焼成を受けたと見られる。この痕跡は外面にも少し見られる。この様に荒れた器面で粗砂粒が多量に混入。616 は完形。内外面クレーター状の無数の剥落が見られる。高台部鋭く外反する。口縁は外反し口唇部も比較的鋭角である。内面に柿渋とみられる暗褐色の塗布が見られる。617 は高台の 1/3 を欠く。器高が低く、体部は直線的に外反して立ち上がる。口縁部は歪んでいる。内外面にクレター状の剥落が無数にある。重い土器である。618 は体部の一部と高台のほとんどを欠く。内外面ロクロ調整で、内面はその後ヘラミガキやヘラナデで平滑に調整される。器面磨滅で荒れている。口縁部はやや強く外反し、歪んでいる。619 は口縁部 1/6、底部 1/2 の遺存。高台は欠損している。白い須恵器か。内外面磨滅している。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至り外反する。620 は口縁部 1/2 を欠く。高台は高く、体部は内湾して立ち上がり口縁に至り外反する。内面底部付近はロクロ調整後、ヘラナデやヘラミガキ風に調整され、ロクロ目を平滑にしている。高台は細く高いがしっかりしている。621 は完形の高台付の皿。口縁部はかなり歪んだ部分がある。高台は高くしっかりしている。内面には赤色塗彩が見られる。赤色粒が少量見られる。蝉田で唯一の最も小形で完形の高台皿。622 は底部のみの遺存。白い須恵器か。胎土に金雲母目立つ。整った器形の高台坏である。623 は口縁部を欠く。内面はミガキ風の調整が施されている。底部外面には菊花文が見られ高台は僅かに内湾する。器肉が厚い。624 は網代痕が見られる。625 はミニチュアの高台と見られる。砂質の胎土で他にあまり見られない胎土である。626 は皿である。高台部と体部の 2/3 を欠く。胎土に赤色粒を多く混入する。色調は赤色塗彩様の鮮やかな橙色を呈する。

第 156 図（627 ～ 636）

627 ～ 636 は墨書や炭化物を付着する内外面ロクロ調整の高台坏である。627 は 1/2 の遺存である。体部は直立的に立ち上がり、高台は直立する。内外面は磨滅して荒れている。内面に暗褐色の塗布物が見られる。胎土に細砂粒を多量に混入する。628 は底部にひび割れが見られるが完形である。高台は直立的で、体部は直線的に立ち上がり口縁に至り、わずかに外反する。体部には墨書「日」が記される。胎土に砂粒が多量に混入し目立つ。丁寧な造りの器形の整った坏であるが、やや重い、器肉厚そうに見える。629 は口唇部を 4 か所ほどわずかに欠いている。高台部はしっかりとした造りで、体部は直線的に立ち上がり口縁部でやや強く外反する。口唇部は細い。体部外面に墨書が見られるが、文字は不明である。やや磨滅部分はあるが丁寧な造りで整った器形である。630 は口縁部～体部の 1/2 弱を欠く。体部、高台ともに器肉が非常に薄く、シャープな造りである。外反する口縁部は特に薄い。体部に墨書されるが文字は不明である。631 は体部 1/4、底部 1/2 弱の遺存。外面に墨書され「定」と見られる。内面に漆が付着する。高台の一部を欠く。632 は完形の高台坏。高台はやや内湾する。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至り外反する。全体に丁寧に造られるが、口縁が歪んでいる。やや重く厚い土器である。内面に墨の付着が見られ「筆直し」と見られる。さらに内面には暗褐色の塗布物が見られる。この他に内面にはほぼ全面に、オレンジ色の鉄分が多量に付着している。外面は磨滅している。633 は口縁部がわずかに残り、底部は完形である。内面は磨滅しているが、炭化物が多量に付着している。外面にも墨の付着が見られる。この時期の墨書は底部に書かないと言う事から「筆直し」と見られる。634 は口縁部～

体部の 1/2 弱の遺存。底部は完形である。体部に墨書されるが、文字は不明である。高台部をほとんど欠く。口縁部はわずかに外反する。胎土に赤色粒を少量混入する。635 は口縁の一部を欠く。高台はやや高く、ほぼ直立し体部は直線的に立ち上がる。胎土に赤色粒を混入する。底部には菊花文が見られる。636 は底部片。体部外面に墨書の断片が見られるが、大きく破損しているため文字は不明である。

第 157 図（637 ～ 645）

637 ～ 645 は土師器甕である。内外面ロクロ調整、ヘラケズリ調整などの口縁部～胴部片である。637 は口縁から胴部上半の 1/3 の遺存である。外面の口縁部から胴部上半は横方向のナデ調整、下半は縦のヘラケズリ。内面も同様のナデ調整だが、炭化物の付着はない。内外面に輪積痕が少し残る。胎土には赤色粒を多く混入している。638 は 1/8 以下の小破片で口縁下部に炭化物が付着している。639 は口縁部 1/6 片。胴部外面に炭化物が多量に付着している。器肉は薄い。640 は胴部 1/2 の遺存、外面に炭化物がやや多く付着する。内面にもわずかに付着している。外面のロクロ調整は 7 ～ 5mm ほどの溝状部分が多く見られ、ヘラなどの工具を使用していると見られる。下半はヘラケズリ、内面横方向のナデ調整である。641 は 1/3 弱の口縁部～胴部片。外面ロクロ調整と縦のヘラケズリ調整。内面は横の細かいハケメ風のナデ調整である。外面のロクロは 640 と同様に細い溝状でヘラなどの工具を使用していたと見られる。642 は小型甕の口縁部片。3 片の破片が接合しているが、その内の 1 片の内外に炭化物が多量に付着している。器肉薄くシャープで整った造りである。643 は小型甕口縁部片で、1/4 の遺存。器肉薄く整った造りである。644 は口縁部 1/2 弱の遺存である。やや口縁部歪む。645 は内面に炭化物が多量に付着する。割れ口にも炭化物が付着していることから土器が割れた後に炭化物が付着した状況である。

第 158 図（646 ～ 653）

646 ～ 653 はロクロ調整の土師器甕、口縁部～胴部片である。646 は口縁部 1/4、胴部 1/8 ほどの遺存の破片である。外面はロクロ調整と縦のヘラケズリ。内面はカキメ状、木口状の工具での縦のヘラナデ調整が施される。口縁部外面に炭化物が付着している。647 は口縁部片。外面ロクロ調整が溝状を呈するため、ヘラ状工具などを使用していると見られる。外面に炭化物が多量に付着している。シャープな造りである。648 は口縁部～胴部上半の 1/6 片。口唇部はやや直立する。649 は胴部の 1/3 弱を欠損する、胴部上半部。外面に炭化物が多量に付着。口縁部内外面は横ナデ調整。胴部外面はロクロ調整、縦のヘラケズリを施す。内面はヘラナデ調整である。650 は口縁部 1/3 片。口縁部内面にカキメ調整が見られる。全体に磨滅している。651 は口縁部の 1/4 片。口縁部が直立しているのが特徴的である。外面と割れ口に炭化物が付着している。652 は外面ロクロ調整後にヘラケズリされる。内面は木口状（ハケメ風）の縦のナデ調整が見られる。外面には炭化物の付着が見られる。653 は口縁部から胴部上半の 1/6 片。外面に多量の炭化物の付着が見られ、口唇部外側に平坦面を持ち直立する。

第 159 図（654 ～ 658）

654 ～ 658 は土師器甕の口縁部片である。654 は 1/6 片。口縁部が短い器形で口縁部外面に断面三角形の凸帯が巡る。外面に多量に炭化物が付着する。外面はロクロ調整と縦のヘラケズリ調整、内面はナデ調整である。655 は羽釜。内外面に炭化物が付着する。器肉薄く、シャープな造りである。656 は口縁部細片である。657 は口縁部 1/4 片で外面に炭化物が多量に付着する。内外面にカキメ調整が見られる。658 は 1/4 弱の破片。内外面に炭化物が多量に付着する。外面のロクロ目は 5 mm ほどの幅である。ヘラなどの工具を使用していると見られる。

第 160 図（659 ～ 675）

659 ～ 666、668・669 は、ヘラケズリ調整が見られる土師器甕である。659 は胴部 1/3 片で内外に炭化物が付着する。外面ヘラケズリ調整である。660 は砂目の底部 1/4 片である。外面ヘラケズリ、内面ヘラナデが見られる。661 は底部のみの遺存。非ロクロ整形でヘラケズリが見られる。外面に溝状の擦痕が多数ある。砥石代わりに使われた可能性がある。662 は外面ヘラケズリ、内面ロクロ調整。底部に「火はね」による剥落箇所が見られる。663 は底部細破片。内面に炭化物が付着している。664 は 1/2 弱遺存の底部。やや磨滅している。665 は胴部下半部。底部は丸底に近いが胴部

との境界に明確な稜を有する。外面全面に炭化物が大量に付着している。現在でも手に付着するほどの炭化物である。外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ調整である。666は底部の1/4片。665と同様の底部の形態である。667は小型甕底部。外面はヘラミガキ調整。内面には炭化物が多量に付着している。668の底部はヘラケズリ、ナデ調整。非常に厚い器肉で、661と似る。669は甕底部、ヘラケズリされ底部は回転糸切り離しである。厚い器肉である。670は底部片で1/2弱の遺存。内外面ロクロ調整され、その後、外面は回転ヘラケズリ、底部は回転糸切り離しである。内面に炭化物が付着する。671は底部片。外面ヘラナデ・ヘラケズリ調整が施される。内面にはカキメが残る。全体が磨滅している。672は底部～胴部下半。内外ロクロ調整され底部は回転糸切り離しである。673は底部。外面に置き台跡の2条の沈線が見られる。外面に炭化物が付着する。674は壺の底部、高台部。底部周縁部に爪痕が見られる。675は甑である。須恵器様の焼成と整形で、外面にタタキ目が見られる。

第161図（676～685）

676～685は非ロクロの土師器甕である。内外面ハケメ調整が施される。676・679・681・682は口縁部1/4片である。口縁部横ナデ調整が施される。677は1/6～1/8の口縁部～胴部上半の小片。口縁部外面は横ナデ、内面ハケメ調整である。678は内外面、口縁部までハケメ調整。その後、外面のみナデ調整される。外面に炭化物がやや多く付着している。680は小型甕1/4片。内外面に炭化物多量に付着している。683は小破片。内外面に細い木口状のヘラケズリ調整が見られ、内面口縁下部に炭化物が付着している。684は1/4片。内外面に炭化物多量に付着。685は底部片。外面ハケメ後ナデ調整で底部に網代痕が見られる。

第162図（686～702）

686～702は内外面ハケメ調整、底部に網代痕のある非ロクロ調整の土師器甕である。686は口縁部のほとんどを欠く。外面に炭化物が広範囲に多量に付着する。内面には暗褐色物質の塗布がなされていると見られる。687は底部の1/4片、688･691は底部の1/2片である。689・690・694・699は底部の細片。692は1/4片、693は1/6片である。695～697は小片、698は1/2の遺存で内外面磨滅している。700は器肉薄い、特に底部は非常に薄い。701は外面ナデ、内面ヘラミガキ調整の鉢。702はハケメと網代痕のある鉢。ロクロ土師器的な焼成・胎土である。

第163図（703～728）

703～728は網代痕のある土師器甕底部である。ほとんどが小片・細片である。703は外面に炭化物が多量に付着している。底部付近には指頭痕が見られる。内面はハケメ調整である。704は内外ハケメ調整である。705は外面ハケメ調整、内面ナデ調整である。706は外面ヘラケズリ、内面と底部はナデ調整である。707は底部は網代痕があるがナデ調整で不鮮明である。708は底部の1/4片。709～713・715～728は底部細片である。714の底部は完形。720・725は外面に炭化物が付着する。726・728は内面に炭化物が付着する。727は焼成が非常に良く堅固な須恵器風の焼成である。

第164図（729～739）

729～739は内面黒色処理の高台坏である。外面はロクロ調整、内面は黒色処理でヘラミガキが施される。729は口縁部1/3、体部1/2の遺存である。口縁部に穿孔があり口縁部付近でやや外反する。内面は横と縦のヘラミガキである。底部はヘラケズリ調整され、高台部は外反する。体部の器肉が薄く、高台の端部は非常に薄く鋭角的である。730は口縁部の1/4弱を欠く。口縁部はやや強く外反するが口唇部は5mmほど面取りされて平坦部を造り直立する。内面のヘラミガキは細いミガキの後に、体部中位から底部付近まで単位の太いミガキを放射状に施す。外面には墨書されるが文字は不明である。高台と体部の器肉は非常に薄くシャープである。丁寧に造られて整美な土師器である。底部は回転糸切り離しである。731は大型の高台坏。口縁部～体部の1/2の遺存。底部は完形である。高台は厚くしっかりした造りである。内面の黒色処理は黒色に失敗している部分も広い範囲で見られる。外面は少し磨滅している。732は口縁部～底部の1/4片。外面に炭化物を多量に付着する。器肉は内面黒色処理のため、内面側から外面側へ厚さの2/3までが黒色に変化していた。733は口縁部の2/3と高台の一部を欠く。器肉は薄く、シャープな造りである。体部は直線的に立ち上がり口縁部に至り外反する。器形は若干歪み、底部には菊花文が見られる。734は完形である。内面は横のヘラミガキ調整後、体

部中位から底部にかけて単位の異なる太いヘラミガキを放射状に施す。高台部や体部の器肉は厚くしっかり作られる。口唇部外面や体部の器面は磨滅している。体部に墨書され、文字ではなく記号と見られる。外面が汚れており、墨書は分かりにくい。735 は 1/2 の遺存。体部は直線的に立ち上がるが、高台は強く外反している。底部には菊花文が見られる。内面は光沢のあるミガキでは無く、つや消しの様なミガキ調整。その後、指頭によるナデ調整が行われる。器肉は薄く、遺存は少ないが、丁寧な造りで整美な器形の高台坏である。736 は口縁部の 1/2 弱を欠損する。高台は低く、しっかり造られ、口縁部はやや肥厚している。内面のヘラミガキは細い単位の他に体部中位から底部にかけて太い単位のミガキも見られる。外面体部に墨書が見られるが文字ではない。底部は回転糸切り離しだが、ナデ調整で消されている。737 は体部 1/2 の遺存、底部は完形である。器肉は体部から高台まで、厚くしっかりした造りである。内面のヘラミガキは横方向のヘラミガキの後に、縦の放射状のヘラミガキが施される。外面の口縁部付近を中心に炭化物が付着している。738 は口縁部の 1/3 を欠く小型高台坏。小型だがしっかりした造りで、高台は直立する。内面は横方向のヘラミガキ調整を施す。外面には墨書されるが、文字は不明である。底部には墨が多量に付着している。739 は口縁部と高台の一部を欠く。内面にも剥落部分が見られる。内面のヘラミガキは底部付近で放射状の調整が見られる。高台は直立している。全体に器肉は薄く、やや歪む。胎土に赤色粒を多く混入している。

第 165 図（740 ～ 753）

740 ～ 753 は土師器高台坏である。内面ヘラミガキ調整で黒色処理を施され、底面は回転糸切り離しである。740 は口縁部～体部の 1/3 弱の遺存で底部は完形である。内面のヘラミガキは体部では横方向、底面付近では縦方向である。底部周縁部はやや広めにナデられて回転糸切り離し痕が消されている。741 は口縁部をわずかに欠く。内面は磨滅して黒色処理が剥落している部分がある。体部の内面は細いヘラミガキ、底面付近は縦のヘラミガキが施される。口縁部は外反し、口唇部は丸みを帯びる。口縁部外面は口唇部から下部に 2cm 幅で、色調が灰色を呈する。その下部は薄い黄橙色である。742 は口縁部から体部 1/2 の遺存、底部完形。体部は内湾して立ち上がり、口縁部が僅かに外反する。外面はヘラケズリ後ナデ調整される。内面は横のヘラミガキと底面付近の縦の放射状のヘラミガキが見られる。口縁部外面の一部まで黒色処理され、ヘラミガキが施される。蝉田遺跡では基本的に、黒色にした箇所はわずかな部分もミガキ調整が行われている。742 は丁寧な造りで整美な器形である。743 は口縁部の 1/2 弱を欠く。高台は非常に低く小型である。削り出し高台の可能性もある。体部外面に墨書され「定」と見られる。内面のヘラミガキは、非常に光沢を放つミガキである。体部下位から底面付近は放射状のヘラミガキである。丁寧な造りの整美な器形である。744 は完形の小型坏である。体部は直線的に立ち上がる。外面はやや磨滅しており、器形はやや歪んでいる。内面のヘラミガキは縦と横にランダムである。磨滅や歪みはあるが丁寧でしっかりした造りである。745 は口縁部から体部の 1/2 弱を欠く。体部は直線的に立ち上がる。高台は小さく低く、造り出し高台風であるが、743 よりも厚くしっかり造られる。体部外面に墨書「定」が記される。内面のヘラミガキは底面付近は縦の放射状に施される。胎土に赤色粒が少量混入する。746 は高台と口縁部の一部を欠く。体部は直線的に立ち上がる。内面のミガキは非常に細く、底面付近では縦方向にランダムに調整している。体部外面に墨書「定」が記される。747 は口縁部の 1/4 弱を欠く。高台は造り出し風で低く小さい。体部は直線的に立ち上がり、口縁に至りわずかに外反する。内面のヘラミガキは光沢のあるミガキで、底面付近は放射状のヘラミガキである。内外面磨滅して少し荒れており、胎土には赤色粒を少量混入する。体部外面に墨書「定」が記される。748 は小型坏の口縁片である。外面に墨書されるが文字は不明。内面は細いヘラミガキが施される。749 は口縁部 1/2 弱の遺存。高台の痕跡がわずかに見られた。外面磨滅している。750 は 1/2 弱の遺存の小型高台坏。外面は口縁部がやや強く外反している。内面のヘラミガキはランダムである。751 は大型の高台坏。破損状況から体部は打ち欠かれていると見られる。内面は黒色処理が広い範囲で失敗している部分も見られる。752 は底部のみの遺存。内面ヘラミガキでその単位は太い。外面はヘラケズリやナデ調整である。753 は完形である。本遺跡で最も小形の高台坏である。内面ヘラミガキ調整が施さ

れるが黒色処理はなされていない。失敗したものと見られる。底面付近のヘラミガキは縦の放射状で単位は非常に細い。外面に付着物が見られる。丁寧な造りで整った高台坏である。

第 166 図（754 ～ 771）

754 ～ 771 は黒色処理の土師器高台坏で口縁部を欠いている。底部はほとんどが回転糸切り離しであるが、数点はヘラケズリ調整やナデ調整で切り離し痕を消しており、不明な物も見られる。756 は底部外面の 3 か所に油煙が付着している。757 は外面に炭化物が付着している。底部はヘラケズリ調整で、高台部は非常に薄く、シャープである。758 は外面には墨書されるが文字は不明である。760 は外面に炭化物が付着している。762 は底部に沈線が見られ、線刻の可能性もあるが器面磨滅しており不明確である。763 は底部に菊花文が見られ、炭化物が少量付着している。764 ～ 771 は高台が非常に低く小さい。造り出し高台と見られる。767 は底部がナデ調整され、切り離し技法は不明。

第 167 図（772 ～ 787）

772 ～ 774 は内面黒色処理される高台坏である。772 は体部 1/3 の遺存。高台が 5.2cm と最も小形の高台坏の一つ。高台部は造り出し風に見え、低く細いが、貼り付けの痕跡が見られるため、貼付け高台である。底面付近は放射状のヘラミガキ調整である。773 も 772 と同様の低い高台である。774 は内面の底面付近には半円状の細い刺突が多数見られる。細い爪か刃物痕である。外面は磨滅しており、切り離し技法は不明である。

775 ～ 782 は高台を有しない内面黒色処理の土師器坏である。775 は口縁部 1/4、体部 1/2 の遺存である。底部は凸状に飛び出す底部である。内面のヘラミガキは、横の細いヘラミガキ調整後、太いヘラミガキが口縁から底部に向かい放射状に全周する。776 は口縁部の 1/4 弱を欠く。内外ともに非常に磨滅しており、器面には大小のクレーター状の剥落が無数に見られる。底部は高台の可能性もあるが不明である。777 は出土時は口縁部 1/4 の遺存で体部下半は完存である。その後周囲から出土した口縁片が接合し、全体の 2/3 まで復元できた。この出土状況や破片の状況から、口縁部を打ち欠いて廃棄したものと推定する。内面のヘラミガキは体部中位から底面にかけて放射状に施される。内面の黒色処理は外面の口縁まで及び、その黒色部分のみミガキ調整が施される。外面下部はロクロ調整後、回転ナデ調整が施されている。底部は回転糸切り離しで一部剝がれている。778 は口縁部から底部の 1/4 の遺存。内外面磨滅している。内面には表面にクレーター状の剥落が見られる。779 は完形。底面の範囲は明瞭で、体部は直線的に立ちあがる。内面のヘラミガキは体部中位～底面は放射状に施される。やや歪んでいるが、器肉が薄く整った造りの坏である。780 は 1/2 弱の遺存。内面では体部中位～底面付近に放射状に太いミガキ調整が施される。口縁部はやや強く外反している。781 にも内面の底面付近に放射状にミガキ調整が施される。782 は非ロクロの坏で、内外面ヘラミガキ調整で底部もヘラケズリとヘラミガキ調整である。

783 ～ 787 は墨書される内面黒色処理の土師器細片である。文字は不明である。

第 168 図（788 ～ 810）

788 ～ 810 は底部に網代痕の残る土師器である。788 ～ 798 は内面黒色処理とヘラミガキ調整が施される。788 ～ 790 は非ロクロの土師器である。788 は口縁部 1/3 の遺存で底部は完形である。高台部は欠損する。外面はヘラケズリ後ナデ調整またはミガキ調整を施される。内外面磨滅しており、特に外面は小さなクレーター状に剥落している。網代痕の底部は高台部のほとんどを欠く。内面のミガキは底面付近は放射状を呈する。789 は口径 12cm の小型坏である。口縁部 1/2 が遺存し高台部を欠く。外面ヘラケズリ後ナデ調整を施される。790 は口縁部の 1/3 の破片。外面ヘラケズリ後ナデ調整施される。794 は外面ナデ調整で高台の外面に墨痕が見られる。

799 ～ 801 は非ロクロ調整、非黒色処理の土師器高台坏である。799 は口縁部から体部の 1/2 を欠く。内面ヘラミガキ調整、外面ヘラケズリ後ナデ調整と見られる。内外面が磨滅しており、特に外面の磨滅が著しいため器面調整・底部の網代痕が見えにくい。胎土に金雲母目立つ。800 は口縁部の 1/4 を欠く。器面は磨滅しており、内面の一部と、底面を含めた外面全面に小さいクレーター状の無数の剥落が見られる。外面はヘラケズリ後ナデ調整、口縁部は横ナデ調整である。内面は横方向のナデ調整である。ナデの痕跡が良く整っていることか

ら回転台もしくは、ロクロを使用している可能性がある。内面に柿渋とみられる暗褐色の塗布物が見られる。801は底部のみの遺存。外面はヘラケズリ、内面はナデ調整である。底部外面に墨が付着している。内面に小さく「×」の線刻がある。802は内外面に炭化物が付着し、外面に沈線状の置き台痕が見られる。803～810は網代痕の見られる底部細片である。810は網代の底部外面が赤色塗彩されている。

第169図（811～821）

811～820は内外面の両面が黒色処理される高台坏、皿などである。811は高台坏である。口縁部1/4、底部1/2の遺存である。底部には回転糸切り離し痕と菊花文が見られる。内外面全面にヘラミガキ調整が施される。口縁部の内外面にはヘラミガキ調整前の横ナデ痕が少し残る。やや内湾気味に立ち上がる体部は口縁部で外反する。外面は磨滅している。本品はSG6のグリッド8715と8713出土の2片の接合だが、8715出土品は磨滅しているが、8713出土品は磨滅が見られない。丁寧な造りで整った両黒土器である。812は口縁部の1/6片。811と接合はしないが同一個体の可能性が大きい。グリッド8713出土で器面の磨滅は見られない。813は口縁部を欠く高台皿と見られる。体部の1/3、底部の2/3の遺存である。体部の端部付近にはロクロ調整痕が残る。SG6のグリッド8613の出土で器面の磨滅はみられない。丁寧な造りで整った器形である。815～818は割れ口など非常に磨滅している高台坏の底部である。819は底部外面に線刻文字「中」が記される。底部切り離し技法は回転糸切り離しである。820は耳皿である。全面を黒色処理している。湾曲する体部の約1/2を欠損する。内外面ヘラミガキ調整で内面にはロクロ調整痕が見られる。底部は回転糸切り離しである。

821は土師器の小型壺である。丸底の完形土器である。口唇部は僅かに残るが破損部分多い。非常に短い口縁部である。胴部はヘラミガキで、底部近くまで、炭化物付着している。斑に剥がれた部分多いが、黒色処理の痕跡と考えられる。内面はナデ調整である。

第170図（822～825）

822～825は非ロクロの土師器坏、底部は網代痕が残る。822は完形土器である。外面はヘラケズリ後ナデ調整、内面は横方向のナデ調整、底面付近はヘラミガキ調整が施される。体部は直線的に立ち上がる。内面全体に炭化物が多量に付着している。口縁部外面付近にも少量付着。823は口縁の1/6を欠く。外面ヘラケズリ後ナデ調整。口縁部付近に輪積み痕が残る。内面はナデ調整。内外面ともに磨滅している。内面に炭化物付着。網代の底部は4.8cmと小型で隅丸方形に近い。重量がやや重い土器である。824は小型の坏で完形である。外面はヘラケズリ、内面は横方向のナデ調整である。内外面丁寧な造りで整った坏である。口縁部外面付近に炭化物の付着が見られる。口縁部はわずかに外反し、口唇部は丸みを帯びる。内外に輪積み痕が少し残る。825は完形である。外面はヘラケズリで輪積み痕が広範囲に残る。内面は横方向の木口状工具のヘラナデ、その後ヘラミガキ風のナデ調整。底部は4.5cmと非常に小型で、楕円形である。やや上げ底である。体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みがある。

第171図（826～832）

826～832は内面黒色処理または内外面黒色処理の土師器甕である。826～830は口縁部片である。826は外面に大量の炭化物が付着している。827・828は内面から外面の口縁まで黒色処理される。831は外面に炭化物が付着している胴部片である。832は甕底部。外面に大量の炭化物が付着している。内面は底面まで黒色処理される。外面全体がヘラケズリ、その後底部はナデ調整。

第172図（833～846）

833～838は灰釉陶器。833は短頸壺、834～836は壺胴部片。837は長頸壺の頸部。838は壺底部。美濃産で10世紀前半の所産と見られる。839は土製紡錘車、840は砥石で底面に円形の浅い穿孔が見られる。841は双孔の円盤状を呈する石製品である。842は金属製品で刀子。843～846は骨片である。

第173図（847～849）

847・848は石皿と見られる大型礫。平坦面が見られる。849は被熱の礫片で凝灰岩である。

木製品（第174～217図）

第174図（850～857）

850～852は漆器である。850は（盤状）漆器皿の口縁部片である。851は方形の板状品。852は漆器皿

の底部片である。850・852は小破片であるが優品である。853は大型の木製容器の口縁部である。854・856は埦である。856は器面粗く厚い底部である。855と857は薄い木地で丁寧な造りである。

第175図（858～863）

858～863は曲物底板である。858は底板と側板が残る。桜皮で結合される。外面に先の鋭い金属器による細い傷が多数見られる。蝉田遺跡で最も残りの良い曲物である。859は完形の底板、周縁部に5ヶ所、中央部に2ヶ所の穿孔がある。中央部には大小の穿孔が見られる。860・861は約1/2の遺存の曲物底板。860は周縁に2ヶ所の桜皮、861は3ヶ所の桜皮が見られる。862・863は約1/4の遺存。862は両面に刃物によると見られる鋭い傷が多数ある。863は桜皮が良く残り、片面に鋭い傷が見られる。

第176図（864～869）

864～868は曲物底板である。864は1/2弱を破損しており、内外面焼けて炭化している。865は1/2の遺存。内面の一部が円形に炭化している。側面に木釘が見られる。866～868は1/2の遺存。866は両面に炭化物が大量に付着している。867は周縁部の破損が多く、表面に傷が多数見られる。868は周縁部に穿孔が1ヶ所見られる。裏面には筋状の腐食が見られる。

第177図（870～877）

870～877は、曲物底板、側板である。870はほぼ完形の薄い底板。871は1/4の底板。表面に多数の傷が見られる。872～877は曲物の側板。872は穿孔が2ヶ所と桜皮が見られ片面が炭化している。873は2ヶ所の穿孔や炭化部分が見られる。874は大型の曲物側板。桜皮が残り、炭化物の付着も見られる。875は穿孔2ヶ所があり、裏面は炭化している。876はちぎれた側板片である。端部は炭化している。付け木の可能性もある。877は側板片、両端破損している。

第178図（878～891）

878～890は曲物側板である。878・880・882・883は裏面が炭化している。884は中央部にやや大きな穿孔が1つ見られる。887は2ヶ所の穿孔が見られる。889・891は非常に薄い曲物片である。

第179図（892～899）

892～899は曲物側板である。893は片面に斜めの傷が見られる。894は非常に薄い、895・897は2枚の板が重なる。898はL字型の加工が見られる。899は抉りが見られる。

第180図（900～906）

900から905は曲物側板。900は桜皮が残る。901は湾曲した側板。木釘が見られる。902～904は桜皮。905は、しっかりした板。906は桶の蓋に使われた木製品。両端付近はやや細くなり、三角頭状の端部に至る。

第181図（907～913）

907は側板。908は厚い板状品、端部は斜めに加工され裏面に擦痕が多数見られる。909は三角柱の木製品。形状から栓の可能性がある。910は板状品、中央部に直線状の沈線が見られる。911～913はへら状品。911は先端部を破損しており、912も破損部分が多い。911・912は扁平なへら状を呈する。913は匙状で片面に凹部を造る。

第182図（914～915）

914は鍬先。外面に溝状に破損が見られる。先端部はやや色の変化が見られ、鉄の刃先を装着していたものと見られる。915は鍬の柄と見られる。この二つが同一個体の確証はないが、両者とも完形品である。915は出土時は完形であったが破損した。

第183図（916・917）

916は鍬、1/2の遺存。917は鋤の未製品と考えたが上端が加工されている。転用品の未成品か。

第184図（918～925）

918～925は木錘である。922～924は片側扁平だが加工されるため、破損品の再加工と見られる。924は樹皮が残る。925は中央部を削り、細く加工している。両端部をやや丸く加工しているが、未製品と見られるほどわずかな加工である。

第185図（926～930）

926・927・928は木槌。926はかなり遺存状態が悪い。これは出土地点がSG6の上層のため、水分の少ない土壌に埋没していたためであると思われる。927は完形の木槌である。整った製品である。928はやや扁平な木槌、柄の大部分を破損している。929は両端に溝上の切り込みが巡る小型の棒状品である。930はL字の板状品である。

第186図（931～936）

931 は板材、建築部材か。4 ヶ所の穿孔があり、端部には大きな円形の穿孔が見られる。端部はやや丸みを帯び炭化している。932 は棒状品。両端部は破損して折れており、片側を削り、細く加工している。片面には傷が多数見られ、全体に炭化物が付着している。933 は両端に 2 孔が開けられる。荷札状の薄い板状品である。表面に付着物がある。934 は棒状品。先端部はやや丸く加工され、反対側は折れている。935 はやや厚い板状品。936 は建築部材、両端折れている。表面は丁寧に加工されている。

第 187 図（937 ～ 942）

937・939 は下駄である。937 は、ほぼ完形である。前面に 1 孔、側面左右に 1 孔ずつ開けられている。底面には歯が 2 本残る。939 は表面の中心部に 3 孔が見られる。側面中央部から後側は欠損しており、その欠損部分に 4 ヶ所の穿孔痕が見られる。どの様な意図か不明である。938 は厚い板材。表裏共に、炭化している。表面は平坦で、裏面は断面形がやや斜めである。下駄の未成品の可能性がある。949 ～ 942 は横櫛である。940・941 は破損している。942 は右側が端部である。この形状から約 1/2 の遺存と推定する。

第 188 図（943 ～ 945）

943 は大型の建築部材。3 ヶ所のやや方形の穿孔（ほぞ穴？）がある。両端はやや半円状に加工されている。944 は太く厚い板材である。両端削り、やや丸く加工している。表裏にも削り痕が多数見られる。建築材か。945 は断面三角形の杭材。先端部を削り尖鋭している。

第 189 図（946・947）

946・947 は非常に厚い床材である。946 は厚さ 6cm、947 は 4 cm である。高床倉庫の床材と推定される。

第 190 図（948 ～ 955）

948 は断面三角形の割材。先端部を削り、尖鋭にしている。また、先端部は炭化している。949 ～ 951・953 は表面の樹皮が残り、先端部を削り尖らせる杭材。949 は先端部に向かい、やや湾曲する。950 は細く先端部、良く尖鋭化している。951 は太い杭材。953 は先端部を幅広に削り、平坦部を作り出している。952 は三角錐状の木製品。先端部を削り、尖らせている。上端部も加工しているが、折れている。954 は先端部のみ加工して尖らせる。他の大部分は加工せず、丸木の状態である。955 は先端部を尖らせて。先端部を切っている。全体に丁寧に削り加工しているが、上部は折れる。

第 191 図（956 ～ 965）

956 ～ 965 は杭・棒状品である。956 は 70cm の大型の棒状品である。先端部をわずかに尖らせている。957 は先端部を加工して、尖らせている。その上部は丸木の状態で樹皮のみ剥がれている。958 は面取りされる板材。平坦面と、稜があり断面三角形を呈する面もある。側面も面取りされる。959 は先端部三角形の割材。960 は両端を削り加工している。中央部は丸木で、樹皮が残っている。961 は棒状品。両端を削り加工している。木錘の未成品と見られる。962 は杭状品。先端尖るが、反対側も削り加工されている。963・964 は表面と両端部の全体を加工している短い木材。965 は両端を削り、中央部は加工されない丸木。これら 963 ～ 965 の太く短い加工品の用途は不明である。

第 192 図（966 ～ 974）

966 ～ 974 は杭または杭状の木製品などである。あまり加工は見られない。966 は断面三角形の割材。967 は先端がやや細く加工。968 は杭の端材。969・970・973 は全体が磨滅して丸くなった材と見られる。人為的か自然的か不明。971・972 は杭状で先端部は非常に良く炭化している。974 は杭先端部、先端部を細く加工している。上部に穿孔が見られる。

第 193 図（975 ～ 986）

975 ～ 986 は大小の角材である。975 は表裏、側面、両端の全体を加工している角材。976 は断面方形の角材。両端を加工している。三角形に加工した端部も見られる。977 は断面三角形の角材。978 は片側を斜めに加工し、もう一方は平坦に加工される角材。979 は細い角材、片側の端部は平坦に加工される。もう片側は折れている。980 は細い角材。表裏とも平坦である。981 は端部の片側を斜めに加工している。982 は断面三角形に加工され、端部を斜めに加工される。983 ～ 986 は、断面方形の細い角材である。983 は端部を丸く加工し、985 は端部を斜めに加工している。両者とも折れた角材である。984 は両端部が折れている。986 は両端を斜めに加工する短い板材である。断面のやや厚い板材である。

第 194 図（987 ～ 996）

987 ～ 996 は大小の板材である。987 は平坦な厚い

板材、上部は斜めに加工している。下部は折れている。988 は両端が折れている板材である。989 は両端が折れている板材。丁寧な加工である。990 は端部の片側を丸く仕上げる板材。もう一方は折れている。991 ～ 996 は片側が折れている板材が多い。991 は下端はやや斜めに加工する。993・996 は断面三角形の板材で 994 は小型長方形の板状品である。

第 195 図（997 ～ 1000）

997 は端部がＬ字に加工されている。反対側は折れており、中心部には 3 ヶ所の穿孔が見られる。998・999 は大型の板材である。井戸枠の可能性がある。998 は 3 か所に四角の穿孔痕があるが、貫通していない。他に 2 ヶ所の穿孔が見られる。端部はＵの字に加工される。999 は 1 m 以上の大型板材である。1000 は 1 ヶ所に穿孔がある板材である。

第 196 図（1001 ～ 1009）

1001 は細い板材。上部が端部で、下部は折れている。4 ヶ所の方形の穿孔が見られる。穿孔は斜めに入っている。1002 は長方形にも見えるが側面が円形に曲がる様相も見えるので曲物底板の可能性が高い。表面には溝状の破損部分が見られ、3 ヶ所の穿孔も見られる。左側面中央付近の穿孔は方形を呈する。1003 は方形の薄い板材。中央に 1 ヶ所の穿孔があり、上部を山形に加工している。表面に刃物傷が見られる。1004 は細い板状品である。折れた端部近くに穿孔がある。1005 は方形の厚い板材である。1006 は断面三角形の部材。上部に穿孔が 1 ヶ所見られる。1007 は上部がＬ字型に加工された、角材。下部付近に 2 ヶ所の「木釘」が見られる。非常に丁寧に造られている。1008 は部材、端部はＬ字型に加工され、その中に丸い穿孔が 1 ヶ所ある。1009 はＬ字型の建築部材片。端部側面には貫通していない穿孔痕が 2 ヶ所ある。反対側の端部は破損し折れている。

第 197 図（1010 ～ 1027）

1010 は細い板状品である。下端部付近に方形の穿孔が見られる。1011 は板材で端部を斜めに加工している。1012 は串状品。上部はやや丸い棒状、下部は薄い板状に加工している。上部はＶ字に加工している。斎串の可能性も考えられる。1013 は板材で周囲を削り台形に加工し、片面に刃物による傷が多数ある。1014 は厚い板材、下端部を斜めに切る。1015 は磨滅した部材。凸状の加工が見られる。1016 も斜めに切り加工される板材。両端部を加工している。厚さは異なるが 1014 とよく似ている。1017 ～ 1020 は端部を斜めに切り加工している。1018・1019 は角材。端部を鋭く斜めに加工している。1021 は角材、両端折れている。1022・1023 は板状品。1022 は端部斜めに加工。1023 は両端が折れている。1024 は半割材、両端を加工している。下部は斜めに切られ、上部は平坦に加工している。1025 は角材。端部は斜めに加工される。片側は折れている。1026 は板材、両端折れる。1027 は棒状品。尖頭状を呈する。

第 198 図（1028 ～ 1037）

1028 は全体に平坦に面取りされる。上部は板状、下部は棒状で端部は斜めにカットされる。1029 は下端を斜めに加工する板材である。1030・1031 は板状品。1030 は断面三角形の板材。1031 は両面が削られるが、そのほかに加工は見られない。1032 は板材。1033 は下端を三角状に加工される。1034 は板状品。かなり遺存が悪い。下端を三角に加工しており、上端もその可能性がある。上端と中央部に穿孔 2 ヶ所がある。1035 ～ 1037 は板状品の小片。

第 199 図（1038 ～ 1048）

1038 ～ 1042 は棒状品である。両端を丸く加工しているが、他は加工されない。1042 には樹皮がわずかに残る。1043 も棒状品、縦に溝上の凹部が見られる。1044 は完形の棒状品である。上端と下端から穿孔されている様に空洞である。それとは別に下端には横方向からの穿孔が見られる。上端部やや黒ずみ、炭化の可能性がある。1045 は杭状品である。120cm の長い丸木状の杭。下端のみ削り加工している。1046 は自然遺物で、サルノコシカケである。1047 は板状に磨滅、1048 は丸く磨滅している。両者ともに自然遺物の可能性がある。

第 200 図（1049 ～ 1059）

1049 ～ 1051、1054 ～ 1055、1057 ～ 1059 は全体が磨滅して丸い形状である。自然遺物の可能性もある。1052 は細長い板状品。全体に磨滅している。下端は折れている。1053・1056 は楕円形で平坦な板状品。全体に磨滅して丸い形状を呈する。

第 201 図（1060 ～ 1062）

1060 ～ 1062 は全体に磨滅し丸い形状を呈する。

1060 は裏面に溝状の凹部が見られる。これらは自然遺物の可能性もある。

第 202 図（1063）

1063 は 3.6m の棟木、全体に削り痕跡が多数見られる。両端は加工されて先端部を細く削り造りだす。

第 203 図（1064 ～ 1069）

1064 ～ 1069 は形代や斎串である。1064 は板状品の形代。鳥形と見られる。尾の上面は平坦に加工される。最後部をわずかに破損している。中央部には大きなひび割れ、折れが見られる。1065 は斎串である。頭部は三角状を呈する。中央部から上半部に切り込みが入りササラ状を呈している。中央部は抉られ、下端部は細く尖らせる。1066 ～ 1069 も斎串と考える。1066 は平坦面を有する頭部から、大きく「く」字にくびれ、先端部に向かい非常に細く削られ､鋭い先端部を造っている。1067 は三角形の頭頂部から大きくくびれ下端部にかけて、徐々に細く削られる。下端付近ではやや「Ｖ」字状に両側から削られてから外側へくびれる。先端部はやや尖る。1068 は平坦面を持つ頭部から体部の境に小さくくびれを造り、先端部に向かい細く削り、先端部で再度くびれを造り、やや幅広に加工され尖端に至る。先端部は破損して折れている。1069 はやや遺存状態が悪く、表面非常に荒れている。長方形の頭部から体部との境に小さく「くの字」に抉りが入り、その後やや膨らみ、細い先端部に至る。先端がわずかに欠損する。

第 204 図（1070 ～ 1078）

1070 ～ 1078 は桧扇と見られる。1070 ～ 1073 はほぼ同一規模の扇で完形である。上端部はやや丸く削られ、中央部から下部は細く造られ、下端付近には穿孔が見られる。1070 は中央下部で折れ、下部にもひび割れがある。1073 は、1070 ～ 1072 に比べて、やや大きく厚い形状である。1074 ～ 1077 はやや大型の扇である。1074 は上端を一部欠損し、1075 は下端部のみの遺存である。1077 は上部と下部を大きく欠損している。1076 は下端部のみの遺存で、斜めに切られている。1078 は扇の上半部と見られる。大きな破損箇所が見られ、下端部は炭化しており、斜めに切られる。表面に文字が記され、仮名文字と見られる。文字は不明である。

第 205 図（1079 ～ 1087）

1079 ～ 1087 は斎串と見られる。1079 は完形である。断面は菱形で、上端部が炭化して全体に炭化物が付着している。1080 は細い角材。下端部は炭化し、全体に炭化物が付着している。上端は折れている。下部はやや尖がる。1081 は断面四角。上端部は折れている。下端はやや尖る。1082 は細い板状品。上端部は水平に切られ、下端には穿孔があり、その部分で折れている。1083 は細い角材。両端に穿孔の痕が見られる。表裏面に非常に細かい刃物による傷が多数見られる。斎串への転用品の可能性がある。1084 は上部は端部だが、剥落部分がある。下端は欠損している。上端から下端に向かい薄く造られる。1085 は細い板状品､上端､下端を欠損している。1086 はやや幅広の板状品。両端は欠損している。丁寧な造りの板状品である。1087 はやや厚い板状品。上部はやや丸く削られ、下端は一部欠損しているが斜めに切られていると見られる。ほぼ完形品である。

第 206 図（1088 ～ 1095）

1088 ～ 1095 は斎串と見られる。下端は斜めに加工されている。1088 は完形の板状品。上端は平坦に加工され下端は大きく斜めに切られて加工される。1089・1090 は上端部を欠損する。1089 は板状品。側面や裏面は剥がれて欠損している。下端は斜めに切られる。1090 は角材。中央部を大きく破損している。上端は、折れている。1091 は板状品。上端の一部を破損する。下端は斜めに加工され、先端部がやや幅広く、上端にかけて細くなる形状であったと推定する。下端部も側面も僅かに破損している。1092・1093 は板状品。上端と下端をわずかに欠損する。1092 は幅広の板材である。上端は片面の剥がれはあるがほぼ端部である。上端には釘による穿孔の痕が見られ、縦にひび割れが見られる。先端部はわずかに欠損する。1093 は薄い板状品。上端がやや幅広で、下端にかけて徐々に細くなる。下端は先端部がわずかに欠損する。上端も折れていると見られるが、やや細く、丸みを帯びてきているので、ほぼ端部に近い可能性もある。丁寧な造りである。1094・1095 はほぼ完形の板状品。1094 はやや厚く側面を一部欠損する。上端はやや丸く加工され下端は斜めに鋭角に加工される。1095 は 9cm 程の短く薄い板状品。下端の側面を一部欠損するがほぼ完形と見られる。下端の斜めの加工は鋭角である。

第 207 図（1096 ～ 1103）

1096 ～ 1103 は斎串である。1100 を除きほぼ完形である。1096 は、先端部の断面は円形である。上部の表裏には剥落部分があるが、もともと楕円形の棒状品であったと見られる。下端は細く加工される。非常に丁寧に造られた斎串である。1097 は完形の半割材。表面を丸く成形している。裏面は平坦に加工される。上端わずかに欠損する。尖端部、炭化している。1098 は完形の棒状品。上部はやや幅広に棒状に加工され、下端部は斜めに、薄く細く造られる。丁寧な造りである。1099 は断面丸く、整美な棒状品。非常に丁寧に削り、造られている。先端部はやや丸く加工される。1100 は板状品。下端部は折れている様な荒さがあるが斜めに切られていると見られる。1101 は表面にやや傷があるが完形品。上端は剥落部分がある。もともと上端は棒状であったと見られ、下端に向け板状に平坦に加工し、先端部はかなり薄い板状に造られる。先端部は丸い形状である。1102 は断面が円形の棒状品。両端は丸みを帯びる。上端がわずかに炭化し、上半部に炭化物の付着が見られる。下端は非常に細い造りである。「柄」と言う見方もあるが、他串状品との類似から斎串に分類した。1103 は細く短い枝木状の斎串。ほとんど樹皮が残る。上端下端を斜めに切られる。その他は加工痕無く、樹皮が残る。1103 と同様の、類例が上高田遺跡にも見られる。

第 208 図（1104 ～ 1125）

1104 ～ 1125 は串状品、箸状品、棒状品である。破損品が多い。1104・1105 は、ほぼ完形の棒状品。1104 は中央部が最も太く、上半部と下半部を細く整形している。特に下端を尖鋭に仕上げる。上半部の一部欠損する。1105 は上半部が太い棒状で下端部は細い方形に整形している。上端部は欠損する。1106 は細い板状品。上半部がやや幅広で下半部に従い細く整形する。下端はわずかに欠損するがほぼ完形である。1107 は細い棒状品、下端は破損している。丁寧な造りである。1108・1109 は上半部をやや太く、下半部を細く整形する棒状品。両者ともに、下端は破損している。1108・1109 の上端はやや斜めに折れている。明確な加工とは言えない。1110 は上半部を破損。断面六角形で箸の可能性がある。1111 は上半部は幅広の平坦面を持ち下半部は細く整形される。先端が尖る。1112 は棒状品。上半の断面円形、下端は楕円形。上端は折れる。1113・1114 は短い棒状の完形品。1113 は両端が丸く整形される。丁寧な造りである。1114 は上端部が尖頭状を呈し、下端は丸みを帯びる。1115 ～ 1125 は断面円形の棒状品。破損している。1115 は炭化部分があり、また炭化物が表面に付着している。丁寧な造りである。1120 も同様である。1116 は下端部破損。表面に刃物による傷が少し見られる。太く丁寧な造りの棒状品。1117 は整った棒状品、断面円形。下端部を欠損する。1118 は六角形に面取りされる棒状品。下端部を細く加工する。非常に丁寧な造りである。1119・1122・1124 は非常に丁寧に面取りして整形される。下半部を欠損している。1124 は直径 2cm を超える、太い棒状品である。「柄」と言う見方もある。1121 は断面六角形で、両端折れている。1123 は下端が折れている。1125 は上端をやや斜めに切っている。下端は折れる。1121・1123・1125 も丁寧な面取りの加工である。

第 209 図（1126 ～ 1133）

1126 ～ 1133 は炭化が見られる木製品。1126 は長さ 24cm 程の棒状品。断面は三角形で先端部は斜めに加工され、下端に炭化が見られる。1127 は幅広の板状品。先端部は斜めで、炭化している。1128 は薄い板状品。下端部は斜めに切られ、炭化している。上半部は折れ、裏面は剥落している。1129 は長く太い板状品。上半部は平坦で、下端は細く鋭い。先端まで全面が炭化している。1130 は板状品。両端部は斜めに切られ、加工される。表面の上端部と裏面が炭化している。1131 は上端に穿孔される札状品。表面の上部と側面が炭化している。1132 は厚い板材。上端部や側縁部が炭化している。木釘が見られる。上端は斜めに加工されている。1133 は先端部のみ炭化、ほかに加工は無い様に見られる。付け木と同様な雰囲気の木材である。

第 210 図（1134 ～ 1145）

1134 ～ 1145 は破損の多い板状品である。1134 は非常に薄く、下端部を欠く。1135 の上端はやや幅広く、三角形に加工される。下半部は細く加工され、折れている。1136・1137 は薄い板状品。1136 は上端、下端が斜めに折られる。加工と言うより折れている。中央部を大きく破損している。1137 は上端部及び側面などを破損する。下端部はほぼ先端部と見られる。1138 は遺存状況非常に悪い。上端は平坦で下端は尖端であったが湾

曲してしまっている。1139 は非常に薄い板状品。上端はやや丸く加工、下端は側面を斜めに加工している。先端部を欠く。1140 は上端部やや丸い三角頭、下端部も上端様の三角であったと見られる。破断面は折れたような様相である。1141 は板状品。上端は丸く加工され下端はやや斜めに切られる。表裏とも平坦に薄く丁寧に造られる。1142 は上端、下端を破損する板状品。上部より下部に向かい細く造られる。1143 は薄い板状品。上端は平坦に、下端は斜めに加工される。下端の破断面は折れに近い。1144 は上端下端を三角形に加工する。表裏とも平坦に加工され丁寧な造りである。1145 はやや厚い板状品。上端は丸く整形され､下端は欠損している。

第 211 図（1146 ～ 1168）

1146 ～ 1168 は比較的細く小型の板状品。1146 は側面と下端を欠く。1147 は両端折れている風だが磨滅しており端部か。1148 は薄い板状品。上端と下半部側面を欠く。1149 は上端と下端を破損している。1150 は幅 1cm の細い板状品。非常に薄く丁寧な造りで下端を欠損する。1151 ～ 1155 は上端と下端を欠損する細い板状品の破片である。1156 は表裏共に荒れており、遺存状態は良くない。穿孔が 1 ヶ所見られる。下端は端部で上端は折れて破損している。1157 ～ 1159 は両端を欠く。1157 は細い角材、丁寧な造りである。1158・1159 は板材、1158 は下端を細く加工。1159 は、下端を薄く加工し尖端にしている。上端も端部様に見られる。非常に短い製品か。1160 は角材、炭化物が付着している。上端は丸く加工し下端は折れて破損している。1161 は上端と下端の尖端部をわずかに欠損している。本来両端は斜めに加工されていたものと見られる。端部は一部炭化している。1162 は細い板状品、両端を欠く。1163 ～ 1168 は角材。1163 は側面及び上端と下端を破損している。1164 は断面方形の整った細い角材。1165･1166 は小破片の角材片。1165 には 2 ヶ所、1166 には 1 ヶ所の穿孔が見られる。釘穴か。1167・1168 は下端を斜めに加工される。1167 は上半部を欠損。1168 は上半部と下端の尖端を欠く。

第 212 図（1169 ～ 1189）

1169 ～ 1189 は斎串に分類されるものと考える。1169 は板状品。上端はやや斜めに加工される。下端は切った端部にも折れている様にも見える。1170 は細い角材。両端が折れている。やや不確実だが下端に細い穿孔痕が見られる。丁寧な造りである。1171 は上端に平坦部が少し残る。下端は折れる。右側面は厚く、左はやや薄い。1172 は角材。上端は端部で下端は折れている。表裏は平坦、側面はやや剥がれた痕跡ある。1174 は両端が折れる。表裏と側面を丁寧に整形する。下端に向かい細く造られる。1175 は断面三角形の板材。上端と下端は折れる。1176 は角材、裏面は剥がれている。上端と下端は折れる。1177 は上端が端部で下端は折れる。下部を破損している。1178 は両端が折れる。断面方形であった材が破損している。1179 は両端が折れ、破損。漆が付着している。1180 は両端が折れる。下端部薄く加工される。これでほぼ完形に近い可能性もある。1181 は細い板状品。全体に炭化物付着し、断面長方形である。両端折れる。1182 は非常に薄い板状品。両端は折れる。1183 は両端折れる。表裏とも丁寧に平坦面を造っている。1184 は薄い板状片、やや湾曲している。下端に向かい細くなる。1185 はやや大型の角材。両端折れる。遺存は良くない。1186 は薄い板材、両端折れている。1187 は断面楕円の棒状品。上端は斜めに加工され、下端は折れる。1188 は板材で遺存状態が悪く劣化著しい。1189 は下端を斜めに切られる。破断面の加工は雑である。側面はやや剥落し破損部分多い。上端に向かい細く加工している。典型的な斎串の破片である。

第 213 図（1190 ～ 1201）

1190 ～ 1200 は幅の広い板状品である。1190 は建築部材転用か。上端は端部、下端は斜めのカットが見られる。側面等は破損している。1191 は上端部が折れ破損する。側面と下端部も一部破損するが、下端部は僅かに端部が残る。また下端部は端から 5.5cm 上方から薄くカットされて側面から見ると三角形を呈する。1192 は破損した板材。上端は折れて欠損。下端は端部で、わずかに斜めに切った痕跡と炭化が見られる。1193 は幅広の板材。表裏、炭化部分が見られる。上部は端部、下部は折れている。1194 は完形品で割材。表面の断面は半円状、裏面は平坦面である。下端は平坦で、上端はやや細く仕上げる。1195 は割れた板材片。上端は平坦、下端は折れている。1196 は板状品。表面剥落し、上半部は折れている。下端はやや丸みを帯びた平坦な端部が残る。1197 は右側面厚く、左は薄い。下端は端部で、

幅広の表面の上から下に斜めに切られ加工される。上端は折れて破損している。1198 は板状品。上下端を破損している。1199・1200 は両端を欠く。1201 は両端を斜めに切る。下端の切る加工は雑である。

第 214 図（1202 ～ 1225）

1202 ～ 1221 は小型の薄い板状品。1202 は両端を平坦に加工している完形品。1203 は上端を平坦に、下端を斜めに加工している完形品。1204 は上端が端部、下端は折れている。1205 は上端にわずかに斜めに切られる端部が残る。下端は折れて破損している。1206 は両端が折れ欠損。1207 は下端斜めに加工される。上端は折れる。1208 は両端は折れる。上部を薄く加工しており、端部に近い。1209 は上端を斜めに加工、下端は折れている。1210 は上端は平坦な端部で下端は折れる。1211 は上端は斜めに加工、下端は折れている。1212 は、やや厚い板材で丁寧に加工される。上端は斜めに切られ下端は折れている。1213 は上部はやや斜めに加工。加工は雑で、ちぎった様な加工である。下端は折れる。1214 は細い板状品。両端折れる。上端は炭化している。付け木の可能性がある。1215 は小板片、両端折れる。1216 は薄い板材。両端欠く。1217 も両端が折れる。1218 は尖端の破片。1219 は下端は端部。1220 は非常に薄い板片。先端尖る。1221 は上端斜めに切られ下端はやや平坦に加工する。1222 は剥がれた薄い板材。上半部は厚く、下半部は薄い。両端破損。1223 はやや厚い板状品。下端は斜めに加工。上半部は欠損している。1224 は上下端と側面を破損している。1225 は上端の端部がわずかに残り下端は折れる。

第 215 図（1226 ～ 1242）

1226 ～ 1242 は板状品である。1226 は幅広の薄い板材。上端部は平坦に加工、下端は破損している。上半部は幅が広く、下端は細くなる。1227 は薄い板状品で両端を欠損する。1228 は下端部を斜めに加工される薄い板状品。加工は粗い。上端は折れる。1229 は上端部は粗い切り口であるが三角を意識している。下端部は破損している。1230 は薄い板状品。上端は平坦に加工、下端は折れる。1231 は下端を斜めに切られる。1232 は上端部を斜めに加工され、側面から下半部を破損する。1233 は上端やや丸く、下端は折れる。1234・1235 は上下端を欠く。1236 は上端部にわずかに端部が残る。他は破損が著しい。1237 は板材片、両端を欠く。1238 は幅広の板材。上端に斜めの削りの痕、下端も上部から下部に削り薄くしている。1239 は非常に薄い板材。上端は真直ぐに切られ下端は折れる。1240 は上端部は平坦な加工の一部が残る。他は欠損部分多い。1241 は板状品。上下端折れる。右側面は厚く、左はやや薄い。1242 は上端を斜めに切られる。下端は折れる。

第 216 図（1243 ～ 1270）

1243 ～ 1270 は付け木。1253、1255 ～ 1258 は両端が炭化している。他は片側のみの炭化である。単に割り裂いた様相を呈するものがほとんどである。1259・1260・1261・1262・1263 は角材を割った物、特に 1268・1270 は非常に細い角材を割ったものである。

第 217 図（1271 ～ 1291）

1271 ～ 1276 は炭化の見られる付け木と木製品である。1271・1272 は非常に細い尖端である。1275 は円形の木片が炭化しており、この形状はこれのみの出土である。1277 ～ 1291 は付け木の未製品と見られる。炭化部分は見られない。

第 218 図（1292 ～ 1308）

1292 ～ 1308 は遺構外出土の須恵器である。1292・1296・1298・1303・1304・1306 ～ 1308 は底部回転ヘラ切り離しの坏、高台坏である。1293 ～ 1295 は蓋。1299・1301・1302・1305 は回転糸切の坏。1301・1302 には墨書が見られる。1300 はキセルである。

第 219 図（1309 ～ 1322）

1309 は須恵器の双耳坏、1310 は波状文の須恵器甕口縁部片。1311・1312・1316 は須恵器坏、1313 は砥石、1314 は須恵器壺。1315 は羽釜形の土師器口縁。1317 は付け木、1318 は土師器の甕の取っ手、1319 は永楽通宝、1320 は縄文時代の石鏃。1321 は 17 世紀前半の肥前陶器皿。1322 は石皿と見られる。

第 220 図（1323 ～ 1337）

1323 ～ 1327 は須恵器である。1323・1324 は蓋。1323 は非常に磨滅している。1325 は回転糸切り離しの坏、1326 は回転ヘラ切り離しの坏、1327 は高台坏底部である。1328 ～ 1333 は縄文時代の石器。1328 ～ 1331 は剥片、1332 は磨製石斧、1333 は石鏃である。1334 ～ 1337 は寛永通宝である。

Ⅴ　理化学分析

1　蝉田遺跡 1 次調査火山灰分析（1）

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

村山市に所在する蝉田遺跡は、小池ほか編（2005）による地形分類では、山形盆地北部の最上川右岸に分布する沖積低地上に位置する。調査区の西方、最上川の河道との間には、新第三紀中新世の地層からなる狭小な丘陵が分布し、また調査区から南方へ 750m ほど離れた位置には、盆地の東側の山地から流下して最上川に合流する大旦川が流れている。発掘調査では、奈良・平安時代を中心とする遺構や遺物が多数確認されている。

本報告では、調査区内で検出された河川跡とされる遺構の覆土において確認された火山灰（テフラ）とされる堆積物の特性を明らかにすることにより、それがテフラである場合には給源火山と噴出年代を特定し、遺構や遺構覆土より出土した遺物に関わる年代資料を作成する。

1 . 試　料

試料は、調査区内で検出された河川跡とされる SG6 のⅠ層から採取された堆積物 1 点と同遺構のⅨ層から採取された堆積物 1 点の合計 2 点である。前者は試料番号 1、後者は試料番号 2 が付されている。

試料番号 1 は褐灰色を呈する砂質シルトであり、試料番号 2 は灰黄褐色を呈する砂質シルトである。

2 . 分 析 方 法

（1）テフラ検出・同定

試料約 20g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

（2）重軽鉱物分析および屈折率測定

試料約 40g に水を加え超音波洗浄装置により分散、250 メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径 1/16mm 以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径 1/4mm-1/8mm の砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約 2.96）により重液分離、重鉱物と軽鉱物をそれぞれ 250 粒に達するまで偏光顕微鏡下にて同定する。重鉱物の同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とした。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は、「その他」とした。「その他」は軽鉱物中においても同様である。また、火山ガラスは、便宜上軽鉱物組成に入れ、その形態分類は、上述したテフラ検出におけるそれと同様である。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1995）の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

3 . 結　果

（1）テフラ検出・同定

結果を表 2 に示す。試料番号 1 から極めて微量の、試料番号 2 から中量の、いずれも細砂～極細砂径の火山ガラスが検出された。試料番号 1 で認められた火山ガラスは、無色透明の塊状の軽石型であるが、試料番号 2 では無色透明の塊状の軽石型とそれよりやや少量の繊維束状の軽石型および微量のバブル型も混在する。スコリアおよび軽石はいずれの試料からも認められなかった。

なお、両試料ともに処理後の砂分は、白色を呈する石英と長石の鉱物粒を主体に構成されており、他には少量

の灰色を呈する岩片や新鮮な角閃石の鉱物粒などが含まれている。新鮮な角閃石の鉱物粒は、テフラの本質物質である遊離結晶の可能性がある。

表 2　テフラ分析結果（1）

出土地点	試料	スコリア	火山ガラス		軽石
	番号	量	量	色調・形態	量
SG6（8711 Ⅰ層）	1	－	(+)	cl・pm	－
SG6（8711 Ⅸ層）	2	－	+++	cl・pm ＞＞ cl・bw	－

凡例　－: 含まれない．(+): きわめて微量．＋: 微量．＋＋: 少量．
＋＋＋: 中量．＋＋＋＋: 多量．
cl: 無色透明．br: 褐色．bw: バブル型．md: 中間型．pm: 軽石型．

（2）重軽鉱物分析および屈折率測定

結果を表 3、第 4 図に示す。重鉱物組成は、2 点の試料ともにほぼ同様の組成を示し、角閃石が最も多く、約 60% を占め、次いで斜方輝石が多く、20 ～ 25% 程度であり、他に少量の単斜輝石、と不透明鉱物を含む。軽鉱物組成も両試料ともに、長石の方がやや多い石英と長石を主体とする組成であるが、試料番号 2 の方が、「その他」とした未分解粘土粒が多く、また微量の軽石型火山ガラスが計数された。試料番号 1 でも火山ガラスは計数されたが、極めて微量である。

火山ガラスの屈折率測定結果を第 5 図に示す。2 点の試料は、ほぼ同様のレンジを示し、最小値は n1.500、最大値は n1.503 または 1.504 である。モードは、試料番号 1 が n1.501、試料番号 2 が n1.502-1.503 である。

4 . 考　察

2 点の試料から検出された火山ガラスは、形態と屈折率がほぼ同様の特性を示すことから、同一のテフラに由来すると考えられる。蝉田遺跡の地理的位置と、火山ガラスの形態および屈折率とこれまでに研究された東北地方におけるテフラの産状（町田ほか 1984、Arai et al.1986、町田・新井 2003 など）との比較から、検出された火山ガラスは、肘折尾花沢テフラ（Hj-O: 町田・新井 2003）に由来する可能性がある。Hj-O は、山形県最上郡大蔵村にある肘折カルデラを給源とし、暦年で約 1.1 ～ 1.2 万年前に噴出したテフラである。Hj-O には斑晶鉱物として角閃石も含まれていることから、テフラ検出同定で認められた新鮮な角閃石の鉱物粒や重鉱物組成における角閃石の優先する組成などは、堆積物中に Hj-O が含まれていることを示唆していると考えられる。

蝉田遺跡の立地と Hj-O の噴出年代を考慮すると、SG6 の覆土内に堆積した Hj-O は、噴火時に降下堆積したものではなく、周辺の丘陵地や山地あるいは L1 面や L2 面とされる段丘（鈴木 1988）などに降下堆積したものが、その後の侵食等により沖積低地内に流れ込んだものである可能性が高い。今回の分析では、覆土内の 2 層準から Hj-O の火山ガラスが検出されたことから、Hj-O の流れ込みは繰り返し起こっていたと考えられる。また、今回の分析における火山ガラスの産状からは、試料番号 2 の採取されたⅨ層に比べて、試料番号 1 の採取されたⅠ層では、Hj-O に由来する火山ガラスの混入の度合いがかなり低くなっている状況も窺える。

SG6 の覆土からは多数の平安時代とされる遺物が出土しているが、今回の分析で確認されたテフラは、これらの遺物の年代とは直接関わるものとはならなかった。しかし、周辺域において縄文時代の遺構や遺物が確認された場合には、有効な年代資料になることが期待される。

引用文献

Arai,F.・Machida,H.・Okumura,K.・Miyauchi,T.・Soda,T.・YamagataK　1986　Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan Ⅱ － Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido － .Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21,p.223-250.

古澤　明　1995 「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌 101』 p.123 ～ p.133

小池一之ほか　2005 『日本の地形 3　東北』 東京大学出版会

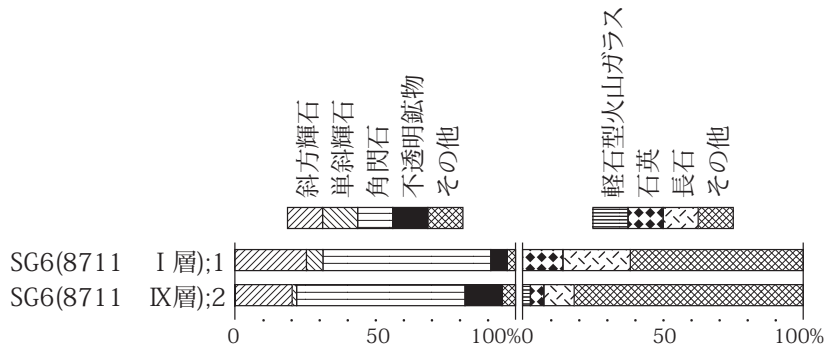
町田　洋ほか　2003『新編　火山灰アトラス』 東京大学出版会

町田　洋ほか　1984 「テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－」『渡辺直経 (編) 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』 同朋舎　p.865 ～ p.928

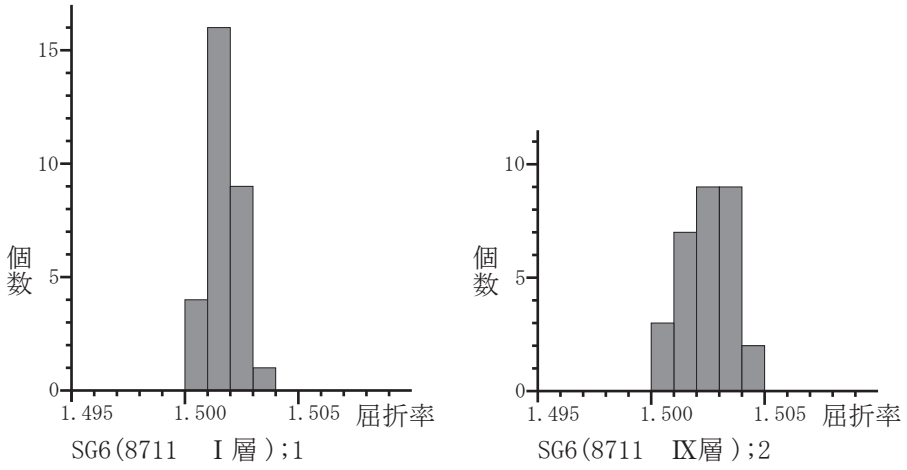
鈴木康弘　1988 「新庄盆地・山形盆地の活構造と盆地発達過程」『地理学評論 61』 p.332 ～ p.349

表 3　重軽鉱物分析結果（1）

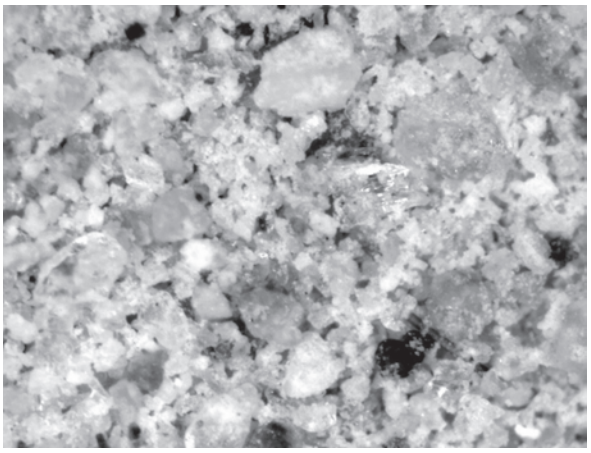
出土地点	試料番号	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	緑レン石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
SG6（8711 Ⅰ層）	1	26	6	61	1	6	2	102	0	0	2	36	60	152	250
SG6（8711 Ⅸ層）	2	51	4	150	1	33	11	250	2	0	7	12	27	202	250



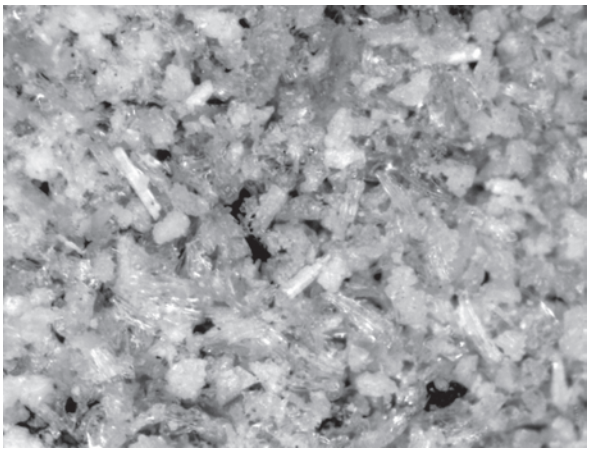
第 4 図　重軽鉱物組成（1）



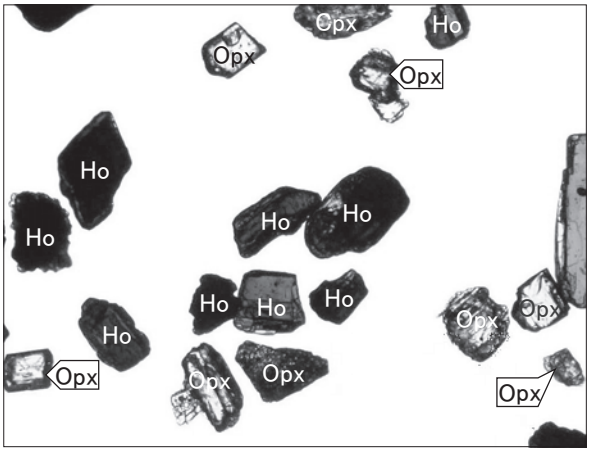
第 5 図　火山ガラスの屈折率（1）



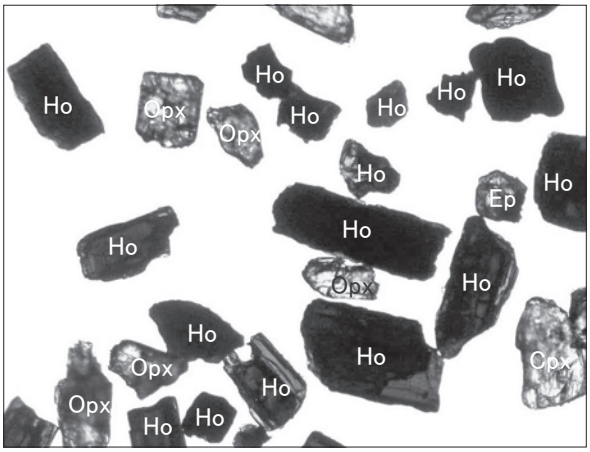
1.砂分の状況(テフラ　SG6(8711　Ⅰ層;1)



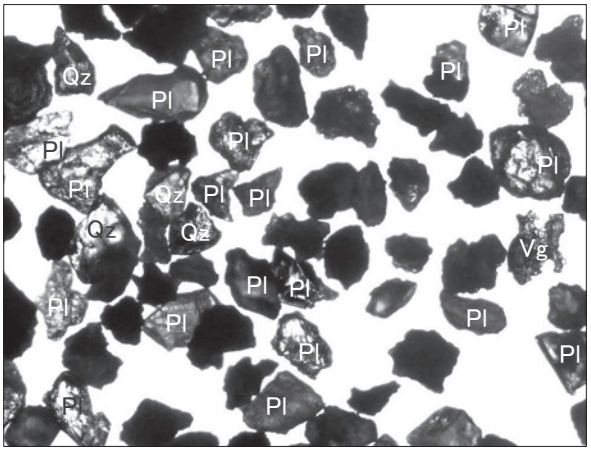
2.砂分の状況(テフラ　SG6(8711　Ⅸ層;2)



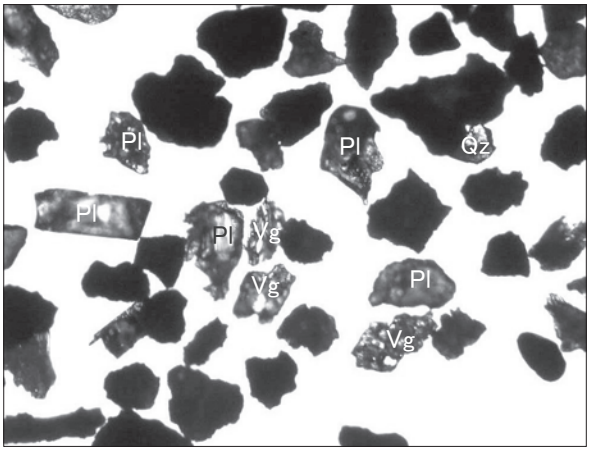
3.重鉱物(テフラ　SG6(8711　Ⅰ層;1)



4.重鉱物(テフラ　SG6(8711　Ⅸ層;2)



5.軽鉱物(テフラ　SG6(8711　Ⅰ層;1)



6.軽鉱物(テフラ　SG6(8711　Ⅸ層;2)

Opx:斜方輝石. Cpx:単斜輝石. Ho:角閃石. Ep:緑レン石. Vg:火山ガラス.
Qz:石英. Pl:斜長石.

0.5mm　0.5mm
1,2　3-6

第 6 図　砂分の状況・重軽鉱物（1）

2　蝉田遺跡 1 次調査火山灰分析(2)

（株）加速器分析研究所

はじめに

山形県村山市に所在する蝉田遺跡の土坑、自然流路で検出された火山灰（テフラ）と見られる堆積物の性状を明らかにし､テフラである場合にはテフラの同定を行い、堆積年代に関する資料とする。

1 . 試　料

試料は、土坑 SK1 の覆土から採取された 1 点（試料 21)、SK81 の覆土から採取された 1 点（試料 22)、自然流路 SG6 の覆土から採取された 1 点（試料 23）である｡試料 21 はテフラと考えられる灰白色のシルトブロックを含む褐灰色の土壌であり、試料 22・23 はともにテフラと考えられる灰黄褐色を呈する砂質シルトである。

2 . 分 析 方 法

試料約 20g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1995）の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

3 . 結　果

分析結果を表 4 に示す。試料 21 から少量、試料 22・23 から多量の細砂～極細砂径の火山ガラスが検出された。火山ガラスのほとんどは無色透明の塊状の軽石型であり、少量の繊維束状のものも混在する。また、微量の無色透明のバブル型も認められる。スコリアおよび軽石は、全く認められなかった。

各試料の火山ガラスの屈折率測定結果を第 7 図に示す。3 点の試料間においてレンジの下限および上限の値は若干異なり、下限は n1.505 前後、上限は n1.510 前後であるが、モードは 3 点ともに n1.507 である。

4 . 考　察

検出されたテフラは、細粒の軽石型火山ガラスを主体とする火山ガラス質テフラである。上述した火山ガラスの特徴および蝉田遺跡の地理的位置と、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状（町田ほか（1981;1984)、Arai et al.（1986)、町田・新井（2003）など）との比較から、テフラは十和田 a テフラ（To-a）に同定される。試料 21 の灰白色シルトブロックや試料 22 および 23 の灰黄褐色砂質シルトは、To-a の降下堆積物であると考えられる。To-a は、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火砕流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている（町田ほか ,1981)。また、その噴出年代については、早川・小山（1998）による詳細な調査によれば、西暦 915 年とされている。なお、町田・新井（2003）に記載された To-a の火山ガラスの屈折率は、n1.496-1.508 の広いレンジを示す。ただし、n1.502 以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とする火山灰層は、南方へは広がらず、十和田カルデラ周辺とその東方地域に分布が限られるとされている（町田ほか ,1981)。今回検出されたテフラは、低屈折率の火山ガラスを含まない To-a に相当するものと考えられる。

試料 21 が採取された SK1 では、テフラの降下堆積物のブロックが小片となって土坑の覆土と混在していることから、土坑内への降下堆積後に撹乱を受けたか、人為的な堆積の可能性がある。また､SK81 および SG6 では、テフラの降下堆積物はいわゆる｢純層｣に近い状態であったことから、試料の採取された層位は、テフラの降下堆積した層準にほぼ相当すると考えられる。

引用文献

Arai,F.・Machida,H.・Okumura,K.・Miyauchi,T.・Soda,T.・YamagataK　1986　Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan Ⅱ － Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido － .Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21,p.223-250.

古澤明　1995 「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌 101』p.123-133

早川由紀夫・小山真人　1998 「日本海をはさんで 10 世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－」『火山 43』p.403-407

町田洋・新井房夫　2003 『新編　火山灰アトラス』 東京大学出版会　p.336

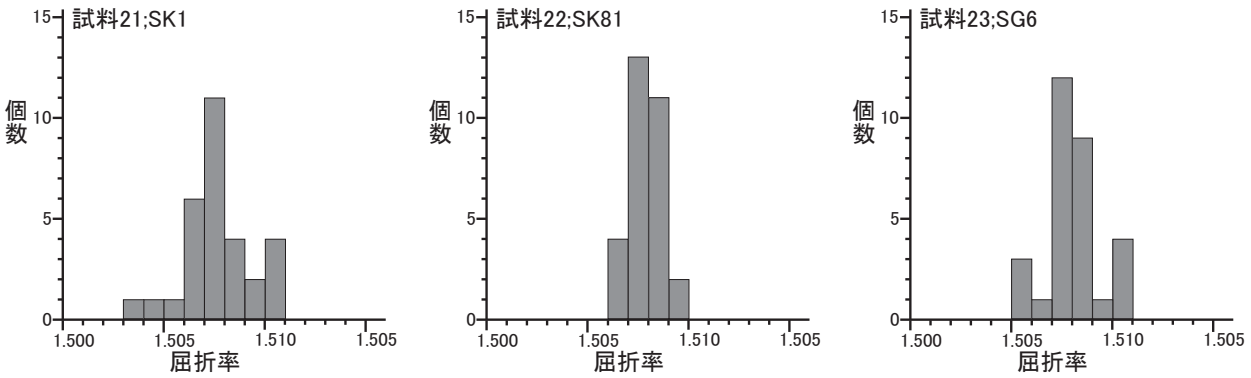
町田洋・新井房夫・森脇広　1981 「日本海を渡ってきたテフラ」『科学 51』p.562-569

町田洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦　1984 「テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－」『渡辺直経 (編) 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』 同朋舎　p.865-928

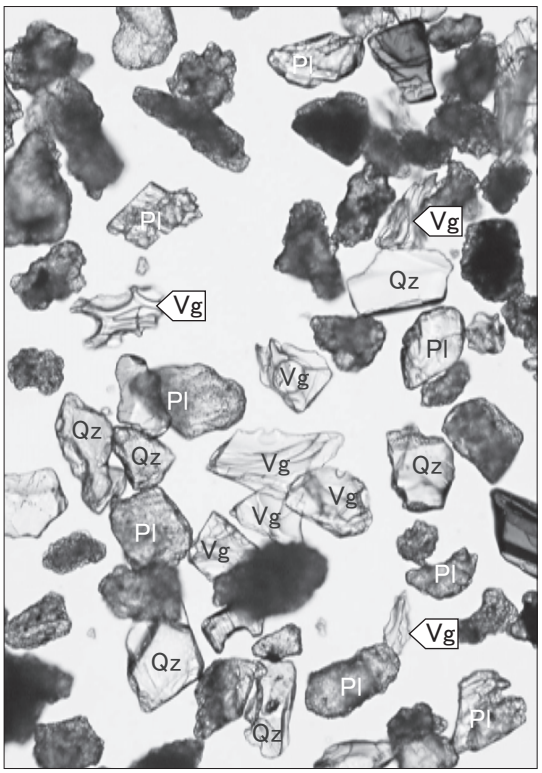
表 4　テフラ分析結果（2）

試料番号	遺構名	スコリア	火山ガラス		軽石
		量	量	色調・形態	量
21	SK1	－	++	cl・bw，cl・pm	－
22	SK81	－	++++	cl・pm ＞＞ cl・bw	－
23	SG6	－	++++	cl・pm ＞＞ cl・bw	－

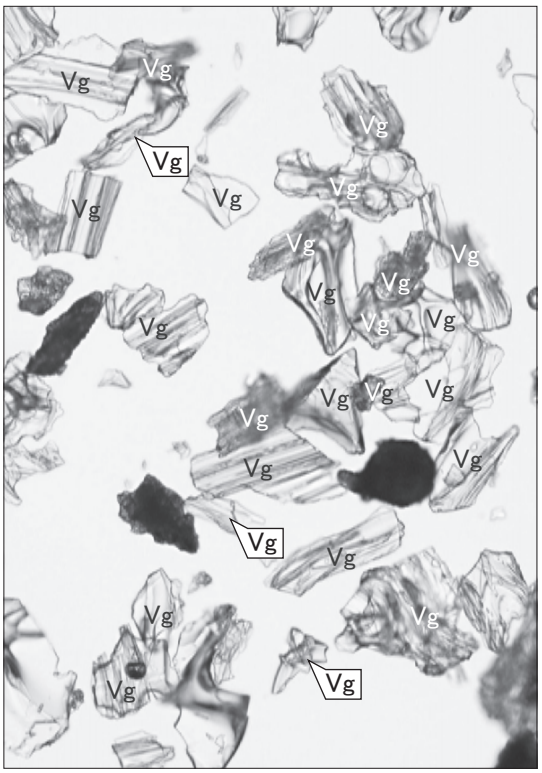
凡例　－ : 含まれない．(+): きわめて微量．＋ : 微量．＋＋ : 少量．
＋＋＋ : 中量．＋＋＋＋ : 多量．
cl: 無色透明．bw: バブル型．pm: 軽石型．



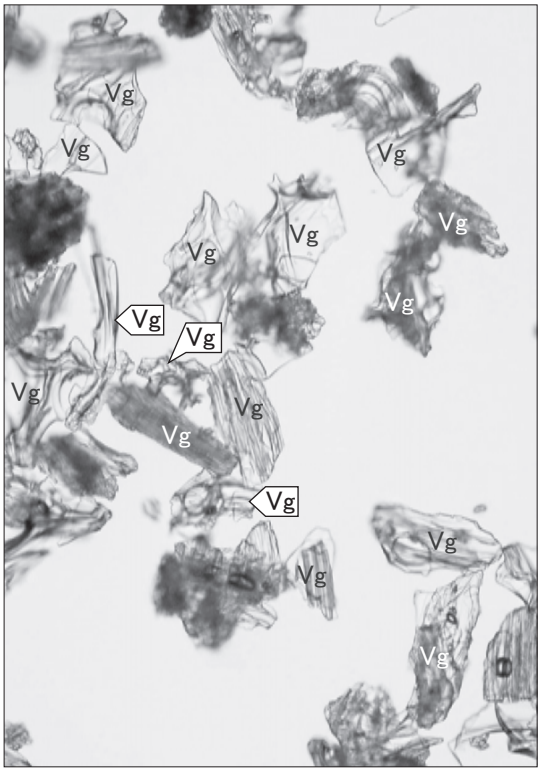
第 7 図　火山ガラスの屈折率（2）



1.十和田aの火山ガラス(SK1; 試料21)



2.十和田aの火山ガラス(SK81; 試料22)



3.十和田aの火山ガラス(SG6; 試料23)

Vg:火山ガラス. Qz:石英. Pl:斜長石.

0.2mm

第 8 図　テフラ

3　蝉田遺跡２次調査火山灰分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

A　はじめに

村山市蝉田遺跡は、小池ほか編（2005）による地形分類では、山形盆地北部の最上川右岸に分布する沖積低地上に立地する。発掘調査区の西方、最上川の河道との間には、新第三紀中新世の地層からなる狭小な丘陵が分布し、また南方へ 750m ほど離れた位置には、盆地の東側の山地から流下して最上川に合流する大旦川が流れている。今回の発掘調査では、平安時代を中心とする遺構や遺物が多数確認されている。

今回の分析調査では、調査区内で検出された土坑の覆土、及び遺構検出面上面の低地部分において確認された火山灰（テフラ）とされる堆積物の特性を明らかにする。さらにそれがテフラである場合は、給源火山と噴出年代を特定し、遺構や遺構検出面に関わる年代資料を作成する。

B　試　料

試料は、土坑 SK115 の覆土から採取された灰白色土、及び第２次調査区遺構検出面上面から採取された白色土の計２点の堆積物である。

SK115 は、平安時代９世紀後半から 10 世紀前半頃の土坑とされ、出土遺物は少ない。その遺構検出面は水田面から約 20cm 下層にあり、検出面から底面までの深度は 170cm を測る。灰白色土が採取された覆土層は第４層とされており、検出面から 30cm 下位に堆積する。

第２次調査区遺構検出面上面の白色土の採取位置は、同調査区南端の最も低い部分であり、遺構検出面は表土下約 1.5m である。白色土はその上面から採取されている。発掘調査所見によれば、白色土は調査区全体に堆積しているのではなく、低地部分の 600m^2 の範囲に厚さ 1cm 程で堆積している。

C　分析方法

(1) テフラ検出・同定

試料約 20g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の３タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

(2) 重軽鉱物分析および屈折率測定

試料約 40g に水を加え超音波洗浄装置により分散、250 メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径 1/16mm 以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径 1/4mm-1/8mm の砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約 2.96）により重液分離、重鉱物と軽鉱物をそれぞれ 250 粒に達するまで偏光顕微鏡下にて同定する。ただし、今回の分析では、軽鉱物組成において目的とする火山ガラスの多くが、極細砂径であったため、軽鉱物組成については極細砂径の砂分を同定している。

重鉱物の同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とした。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は、「その他」とした。「その他」は軽鉱物中においても同様である。また、火山ガラスは、便宜上軽鉱物組成に入れ、その形態分類は、上述したテフラ検出におけるそれと同様である。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1995）の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

D　結　果

(1) テフラ検出・同定

結果を表５に示す。SK115 の灰白色土からは極めて微量の、遺構検出面上面の白色土からは少量の、いずれも細砂～極細砂径の火山ガラスが検出された。SK115 の灰白色土では、無色透明のバブル型と無色透明の塊状の軽石型が混在する。一方、遺構検出面上面の白色土では、無色透明の塊状の軽石型が多量に含まれ、それより

やや少量の繊維束状の軽石型および微量のバブル型が混在する。なお、スコリアおよび軽石はいずれの試料からも認められなかった。

処理後の砂分は、2 試料とも白色を呈する石英と長石の鉱物粒が主体であり、他には少量の灰色を呈する岩片や新鮮な斜方輝石や単斜輝石および角閃石の鉱物粒などが含まれる。これらの新鮮な鉱物粒は、テフラの本質物質である遊離結晶の可能性がある。

(2) 重軽鉱物分析および屈折率測定

結果を表 6、第 9 図に示す。重鉱物組成は、2 試料とも斜方輝石と角閃石を主体とする組成である。しかし、SK115 の灰白色土では両者同量程度であるのに対し、遺構検出面上面の白色土では斜方輝石が角閃石のほぼ倍を占める。なお 2 試料とも、他に少量の単斜輝石と不透明鉱物を含む。

軽鉱物組成は両試料ともに、長石が多く、少量の石英を伴う組成であるが、SK115 の灰白色土では火山ガラスは微量～少量であり、遺構検出面上面の白色土では火山ガラスは少量程度含まれる。遺構検出面上面の白色土の火山ガラスは、バブル型と軽石型が同量程度計数された。ただし、バブル型の多くは、接合部分の多い軽石型に近いものである。

火山ガラスの屈折率測定結果を第 10 図に示す。SK115 の灰白色土では、n1.495-1.502 という低屈折率のレンジと n1.506-1.511 の高屈折率のレンジとに明瞭に分離される。遺構検出面上面の白色土では、n1.505-1.509 のレンジを示し、モードは n1.507-1.508 である。

E 考　察

SK115 の灰白色土から検出された火山ガラスは、屈折率の状況から、異なる 2 種類のテフラに由来する火山ガラスが混在していると考えられる。2 種類のうち、低屈折率の火山ガラスは、蝉田遺跡の地理的位置と、火山ガラスの形態および屈折率、及びこれまでに報告された東北地方におけるテフラの産状（町田ほか 1984、Arai et al.1986、町田・新井 2003 など）との比較から、肘折尾花沢テフラ（Hj-O: 町田・新井 2003）に由来する可能性がある。Hj-O は、山形県最上郡大蔵村にある肘折カルデラを給源とし、暦年で約 1.1 ～ 1.2 万年前に噴出したテフラである。Hj-O には斑晶鉱物として角閃石も含まれていることから、テフラ検出同定で認められた新鮮な角閃石の鉱物粒や重鉱物組成における角閃石の多産は、堆積物中に Hj-O が含まれていることを示唆する。一方、高屈折率の火山ガラスについては、そのレンジが遺構検出面上面の白色土の火山ガラスとほぼ同様といえる。このことから、SK115 灰白色土中の高屈折率の火山ガラスと、第 2 次調査区遺構検出面上面の白色土中の火山ガラスとは同一のテフラに由来する可能性がある。

遺構検出面上面の白色土は、処理後に得られた火山ガラスの割合はそれほど高くないが、その色調やシルト質な性状及び低部に限って堆積する状況などを考慮すれば、火山ガラス質テフラの降下堆積物が、その後の撹乱や侵食を受けながらも低所に残存したものであると考えられる。平安時代の遺構検出面の上面に堆積することと、火山ガラスの形態および屈折率、さらに上述した東北地方におけるテフラの産状との比較から、遺構検出面上面の灰白色土は、十和田 a テフラ（To-a）の降下堆積物と考えられる。To-a は、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火砕流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている（町田ほか 1981）。また、その噴出年代については、早川・小山（1998）による調査によれば、西暦 915 年とされている。なお、町田・新井（2003）に記載された To-a の火山ガラスの屈折率は、n1.496 ～ 1.508 の広いレンジを示す。ただし、n1.502 以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とする火山灰層は南方へは広がらず、十和田周辺とその東方地域に分布が限られるとされている（町田ほか 1981）。おそらく、今回検出されたテフラは、低屈折率の火山ガラスを含まない To-a に相当するものと考えられる。

第 2 次調査区の遺構検出面上面に To-a が降下堆積したと考えられることにより、遺構検出面で確認された遺構の多くは、10 世紀初頭以前の年代であることが示唆される。なお、SK115 灰白色土の高屈折率の火山ガラスは、To-a に由来すると考えられる。

ただし、Hj-O に由来する火山ガラスが混在すること、及び火山ガラス自体が微量であることから、本試

料は To-a の降下堆積物である可能性は低い。おそらく、Hj-O に由来する火山ガラス・重鉱物と、To-a に由来する火山ガラスを含む遺構周囲の堆積物が、土坑内に再堆積したものと考えられる。分析試料とした灰白色土（第 4 層）は、その層準より、土坑の埋積が進行した段階の堆積物であり、その堆積時期が To-a の降灰以降であることは明らかである。しかし、その堆積時期と To-a の降灰時期との時間間隙の詳細については、今のところ不明である。

引用文献

Arai,F.・Machida,H.・Okumura,K.・Miyauchi,T.・Soda,T.・YamagataK　1986　Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan Ⅱ － Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido － .Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21,p.223-250

古澤明　1995 「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌 101』p.123-133

早川由紀夫・小山真人　1998 「日本海をはさんで 10 世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－」『火山 43』p.403-407

小池一之・田村俊和・鎮西清高・宮城豊彦編　2005 『日本の地形 3　東北』東京大学出版会　p.355

町田洋・新井房夫　2003 『新編　火山灰アトラス』 東京大学出版会　p.336

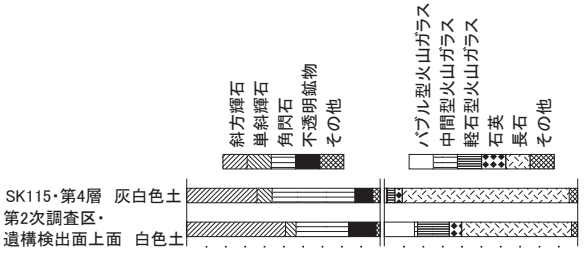
町田洋・新井房夫・森脇広　1981 「日本海を渡ってきたテフラ」『科学 51』p.562-569

町田洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦　1984 「テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－」『渡辺直経 (編) 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』 同朋舎　p.865-928

表 5　テフラ分析結果（3）

出土地点・層位	試料名	スコリア	火山ガラス		軽石
		量	量	色調・形態	量
SK115・4 層	灰白色土	－	(+)	cl・pm，cl・bw	－
第 2 次調査区・遺構検出面上面	白色土	－	++	cl・pm ＞ cl・bw	－

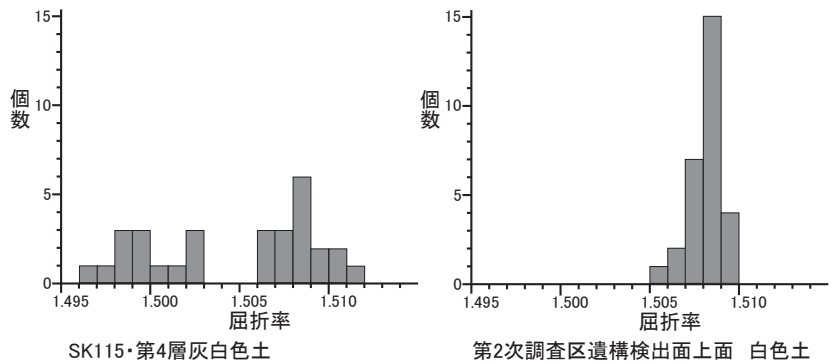
凡例　－ : 含まれない．(+): きわめて微量．＋ : 微量．＋＋ : 少量．
＋＋＋ : 中量．＋＋＋＋ : 多量．
cl: 無色透明．br: 褐色．bw: バブル型．md: 中間型．pm: 軽石型．



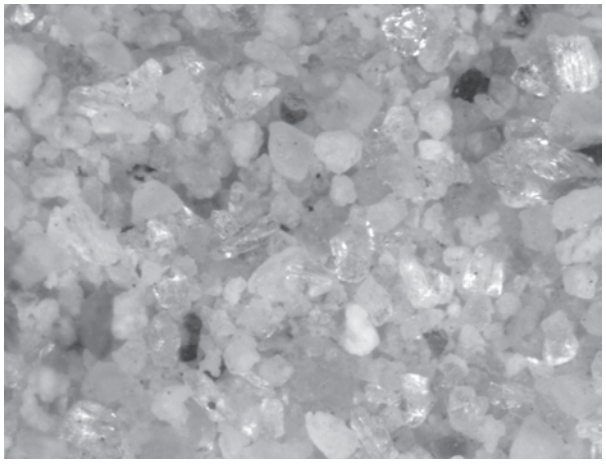
第 9 図　重軽鉱物組成（2）

表 6　重軽鉱物分析結果（2）

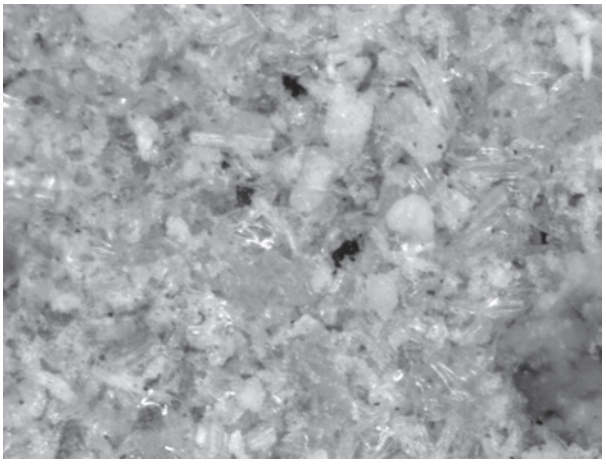
出土地点・層位	試料名	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
SK115・4 層	灰白色土	28	6	33	7	3	77	2	1	7	7	158	8	183
第 2 次調査区・遺構検出面上面	白色土	47	5	25	13	2	92	39	4	41	16	142	8	250



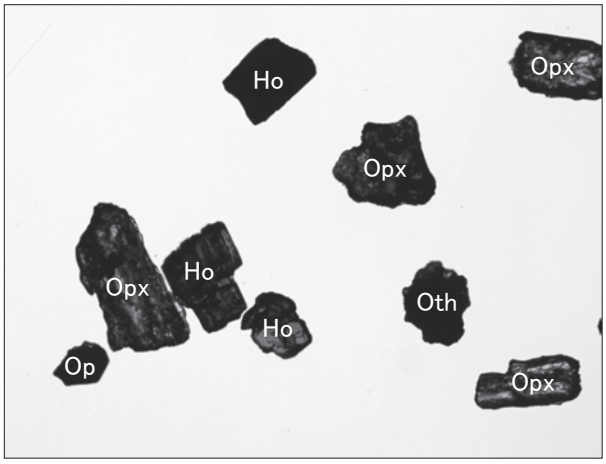
第 10 図　火山ガラスの屈折率（3）



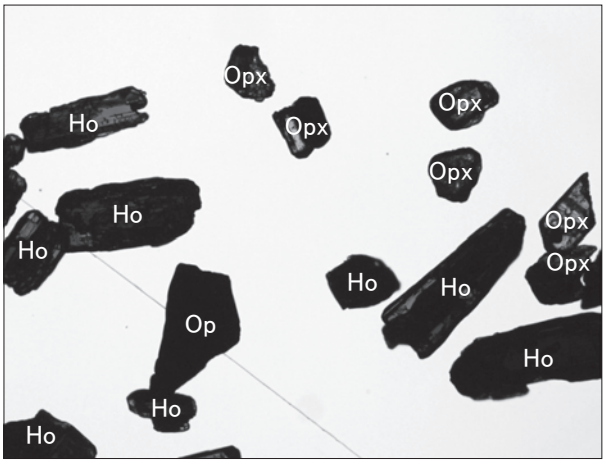
1.砂分の状況(SK115土坑第4層灰白土)



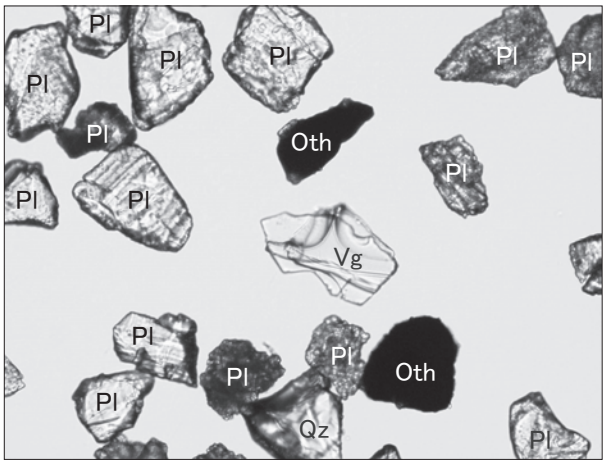
2.砂分の状況(第2次調査区遺構検出面上面の白色土)



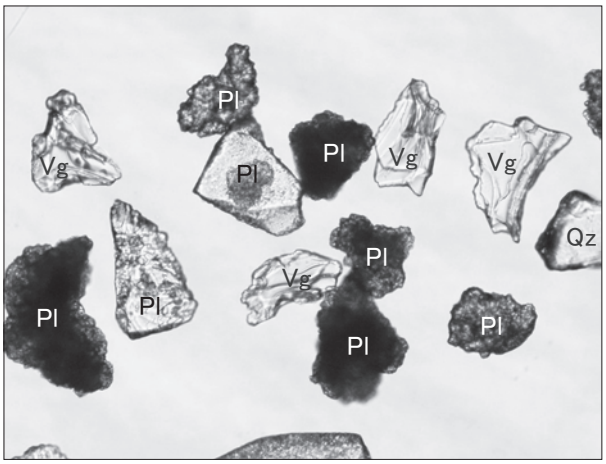
3.重鉱物(SK115土坑第4層灰白土)



4.重鉱物(第2次調査区遺構検出面上面の白色土)



5.軽鉱物(SK115土坑第4層灰白土)



6.軽鉱物(第2次調査区遺構検出面上面の白色土)

Opx:斜方輝石. Ho:角閃石. Op:不透明鉱物.
Vg:火山ガラス. Qz:石英. Pl:斜長石.
Oth:その他.

0.5mm	0.5mm	0.5mm	0.2mm
1	2	3,4	5,6

第 11 図　砂分の状況・重軽鉱物（2）

4　出土木製品の樹種同定（1）

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

村山市に所在する蝉田遺跡から出土した木製品の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、奈良・平安時代の河川跡 SG6 から出土した木製品で、付木、斎串、串、棒状など計 22 点である。これらの試料から、剃刀を用いて 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。

3. 結　果

樹種同定の結果、針葉樹のモミ属、マツ属複維管束亜属、スギ、ヒノキの 4 分類群が確認された。スギが 12 点で最も多く、マツ属複維管束亜属が 7 点、モミ属が 2 点、ヒノキが 1 点であった。また、木取りは斎串（斎串片？を含む）と棒状、串が芯去削出、付木（付木？を含む）が割材であった。器種別の樹種構成を表 7 に、結果一覧を表 8 に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

（1）モミ属　Abies　マツ科　1a-1c（No.17）

仮道管および放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射組織でじゅず状末端壁がみられる。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 1 ～ 4 個存在する。

モミ属は暖帯から温帯の山地に生育する常緑高木で、ウラジロモミやシラベ、トドマツなど約 5 種がある。材は柔軟で加工容易であるが、割れや狂いが出やすく、保存性が低い。

（2）マツ属複維管束亜属　Pinus subgen. Diploxylon　マツ科　2a-2c（No.16）

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、靭性は大である。

（3）スギ　Cryptomeria japonica (L.f.) D.Don　スギ科　3a-3c（No.4）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1 分野に通常 2 個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

（4）ヒノキ　Chamaecyparis obtusa (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　4a-4c（No.21）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1 分野に 2 個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

4. 考　察

樹種同定の結果、付木はマツ属複維管束亜属が 7 点とモミ属が 1 点、付木？はモミ属であった。付木にマツ属複維管束亜属が圧倒的に多く使用される傾向は、東北地方でも広く確認されている（伊東・山田編 2012）。マツ属複維管束亜属は樹脂を多く含み、燃焼性が良いため、選択的に利用されたと考えられる。

斎串はスギが 3 点とヒノキが 1 点、斎串片？はスギであった。また、串は 2 点ともスギ、棒状の木製品も 6 点すべてスギであった。東北地方では、斎串に主にスギとモミ属が使用されており、特に東北地方北部ではスギの使用率が高い傾向がある（荒井 2012）。これは、今回の分析結果とも一致する。

引用文献

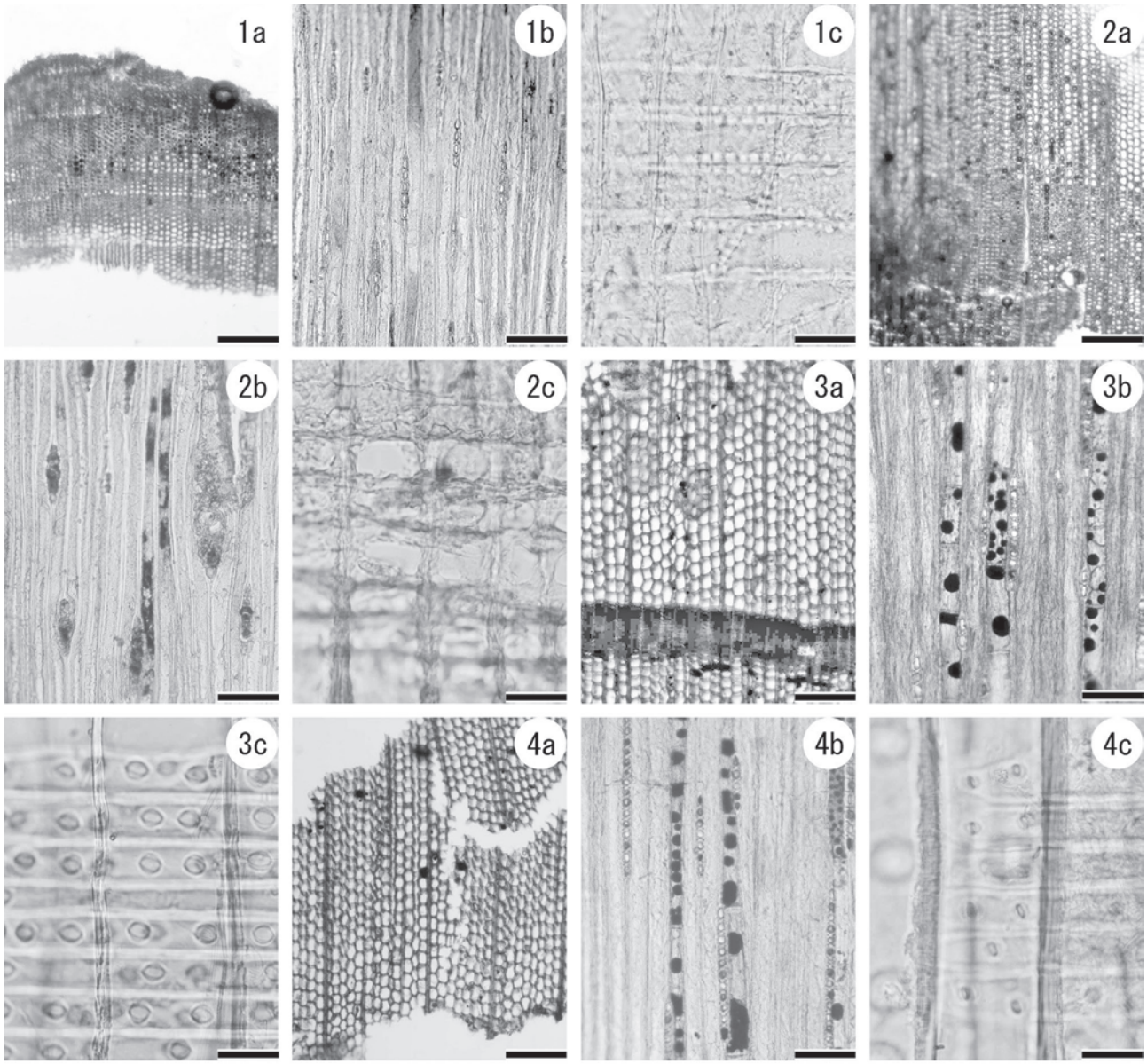
荒井　格　2012 「東北－青森県・秋田県・岩手県・山形県・宮城県・福島県－」 伊東隆夫・山田昌久編 『木の考古学－出土木製品用材データベース－』 海青社　p.147-156
伊東隆夫・山田昌久編　2012 『木の考古学－出土木製品用材データベース－』 海青社　p.449

表 7　器種別の樹種構成（1）

樹種／器種	付け木	付け木？	斎串	斎串片？	串	棒状	計
モミ属	1	1					2
マツ属複維管束亜属	7						7
スギ			3	1	2	6	12
ヒノキ			1				1
計	8	1	4	1	2	6	22

表 8　樹種同定結果一覧（1）

分析№	図版№	遺構	種別	登録番号	樹種	木取り
1	1105	SG6	斎串	RW110	スギ	芯去削出
2	1128	SG6	棒状	RW114	スギ	芯去削出
3	1256	SG6	付け木	RW117	マツ属複維管束亜属	割材
4	1171	SG6	棒状	RW119	スギ	芯去削出
5	1248	SG6	付け木	RW121	マツ属複維管束亜属	割材
6	1249	SG6	付け木	RW124	マツ属複維管束亜属	割材
7	1118	SG6	棒状	RW126	スギ	芯去削出
8	1117	SG6	棒状	RW128	スギ	芯去削出
9	1116	SG6	棒状	RW147	スギ	芯去削出
10	1250	SG6	付け木	RW163	マツ属複維管束亜属	割材
11	1111	SG6	斎串	RW188	スギ	芯去削出
12	1115	SG6	斎串片？	RW232	スギ	芯去削出
13	1106	SG6	串	RW250	スギ	芯去削出
14	1114	SG6	付け木？	RW258	モミ属	割材
15	1270	SG6	付け木	RW260	マツ属複維管束亜属	割材
16	1267	SG6	付け木	RW308	マツ属複維管束亜属	割材
17	1280	SG6	付け木	RW310	モミ属	割材
18	1112	SG6	串	RW321	スギ	芯去削出
19	1120	SG6	棒状	RW329	スギ	芯去削出
20	1186	SG6	斎串	RW386	スギ	芯去削出
21	1085	SG6	斎串	RW388	ヒノキ	芯去削出
22	1251	SG6	付け木	RW479	マツ属複維管束亜属	割材



1a-1c：モミ属（№ 17）、2a-2c：マツ属複維管束亜属（№ 16）、3a-3c：スギ（№ 4）、4a-4c：ヒノキ（№ 21）

a：横断面 (スケール＝ 250 μm)、b：接線断面（スケール＝ 100 μm)、c：放射断面（スケール＝ 25 μm）

第 12 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（1）

5　出土木製品の樹種同定（2）

（公財）山梨文化財研究所

1．はじめに

山形県村山市に所在する蝉田遺跡から出土した木製品の樹種同定を行った。

2．試料と方法

試料は、平安時代前期と推測されている河川跡 SG6 から出土した木製品が 53 点と、近世～近代の溝跡 SD69 から出土した木製品が 2 点の、計 55 点である。これらの試料から、剃刀を用いて 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。

3．結　果

樹種同定の結果、針葉樹はマツ属単維管束亜属と、スギ、アスナロの 3 分類群、広葉樹はアサダと、クリ、ブナ属、コナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、ケヤキの 6 分類群の、計 9 分類群が確認された。結果の一覧を表 10、器種別の樹種構成を表 9 に示す。

工具では、ヘラはスギ、横槌はコナラ節、木錐はクヌギ節とコナラ節であった。農耕土木具では、鍬先はアサダとクヌギ節、鋤はクヌギ節であった。服飾具の扇はスギであった。容器では、曲物側板はすべてスギ、曲物底板はスギとアスナロ、マツ属単維管束亜属、木器と木器口縁はケヤキ、漆器椀はブナ属であった。食事具のスプーンはスギであった。祭祀具は、斎串（斎串？含む）と人形、鳥形はスギ、刀形木製品？はクリであった。土木材の丸杭はコナラ節であった。その他では、串材と板材、板状、棒状木製品はすべてスギ、串状はスギとアスナロ、棒材はアサダ、棒状はアスナロであった。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

（1）マツ属単維管束亜属　Pinus subgen. Haploxylon　マツ科　1a-1c（No.48）

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射柔組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道をエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は平滑である。

マツ属単維管束亜属は、暖帯から温帯に分布する常緑高木もしくは低木で、ゴヨウマツ、チョウセンゴヨウ、ハイマツなどがある。

（2）スギ　Cryptomeria japonica (L.f.) D.Don　スギ科　2a-2c（No.26）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1 分野に通常 2 個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

（3）アスナロ　Thujopsis dolabrata Sieb. et Zucc.　ヒノキ科　3a-3c（No.38）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材部から晩材部への移行は比較的緩やかである。樹脂細胞は晩材部に散在し、放射組織内にも豊富に樹脂を含む。分野壁孔は小型のスギ型～ヒノキ型で、1 分野に不揃いに 3 ～ 4 個存在する。

アスナロは温帯に分布する常緑高木である。材は加工性や割裂性は中庸だが、耐朽性および保存性が高い。

（4）アサダ　Ostrya japonica Sarg.　カバノキ科　4a-4c（No.37）

径が中型の道管が、単独あるいは放射方向に数個複合して、ややまばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1 ～ 4 列幅である。

アサダは温帯の山地に生育する落葉高木である。材は極めて重硬であり、切削加工および割裂は困難である。

（5）クリ　Castanea crenata Siebold et Zucc.　ブナ科　5a-5c（No.54）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。

材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

（6）ブナ属　Fagus　ブナ科　6a-6c（No.2）

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一のものと階段状の２種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、２～数列のもの、広放射組織の３種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は、堅硬および緻密で、靱性があるが保存性は低い。

（7）コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科　7a-7c（No.39）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の２種類がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強靱で、加工困難である。

（8）コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　8a-8c（No.33）

大型の道管が年輪のはじめに１列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の２種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

（9）ケヤキ　Zelkova serrata (Thunb.) Makino　ニレ科　9a-9c（No.51）

大型の道管が年輪のはじめに１列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は３～５列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や渓畔によく生育する。材は重硬だが、加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。

4．考　察

木製品全体では、スギが 33 点で最も多く、アスナロが５点、コナラ節とケヤキが４点、クヌギ節が３点、アサダとブナ属が２点、マツ属単維管束亜属とクリが１点確認された。本州日本海側の地域は木製品にスギを多用する傾向があり（鈴木 2012）、今回の樹種同定でも同様の傾向がみられた。

工具のヘラや、服飾具の扇、容器の曲物、食事具のスプーン、祭祀具、その他の串材、板材、棒材などにはスギを中心とする針葉樹が多用されていた。マツ属単維管束亜属は、針葉樹の中では重硬な部類に入るが、スギは軽軟で加工容易な材である。アスナロは、加工性は中庸だが保存性は高い。

ヘラを除く工具と農耕土木具では、クヌギ節とコナラ節が多く、アサダも１点確認された。いずれも重硬な材であり、工具と農耕土木具の用途に応じた樹種が選択されたと考えられる。

容器のうち、木器や漆器椀には広葉樹が利用されていた。一方、曲物には薄板に製材しやすく、水湿にも強い針葉樹が用いられていた。平安時代の河川跡 SG6 から出土した木器と木器口縁はすべてケヤキで、近世～近代の溝跡 SD69 から出土した漆器椀は２点ともブナ属であった。山形県では、古志田東遺跡から出土した古墳時代末期～平安時代初期の椀や皿にケヤキとトチノキが多用されており、米沢城跡から出土した戦国～江戸時代の漆器椀にはブナ属が利用されている（伊東・山田編 2012）。今回の分析結果は、これらの周辺遺跡の事例とも類似している。中世以降の挽物の分析点数は少ないが、時期によって挽物に用いられる木材の利用傾向が異なる可能性がある。

引用文献

伊東隆夫・山田昌久編　2012 『木の考古学－出土木製品用材データベース－』 海青社　p.449
鈴木三男　2012 「出土木製品利用樹種の時代的変遷　伊東隆夫・山田昌久編」『木の考古学－出土木製品用材データベース－』 海青社　p.81-102

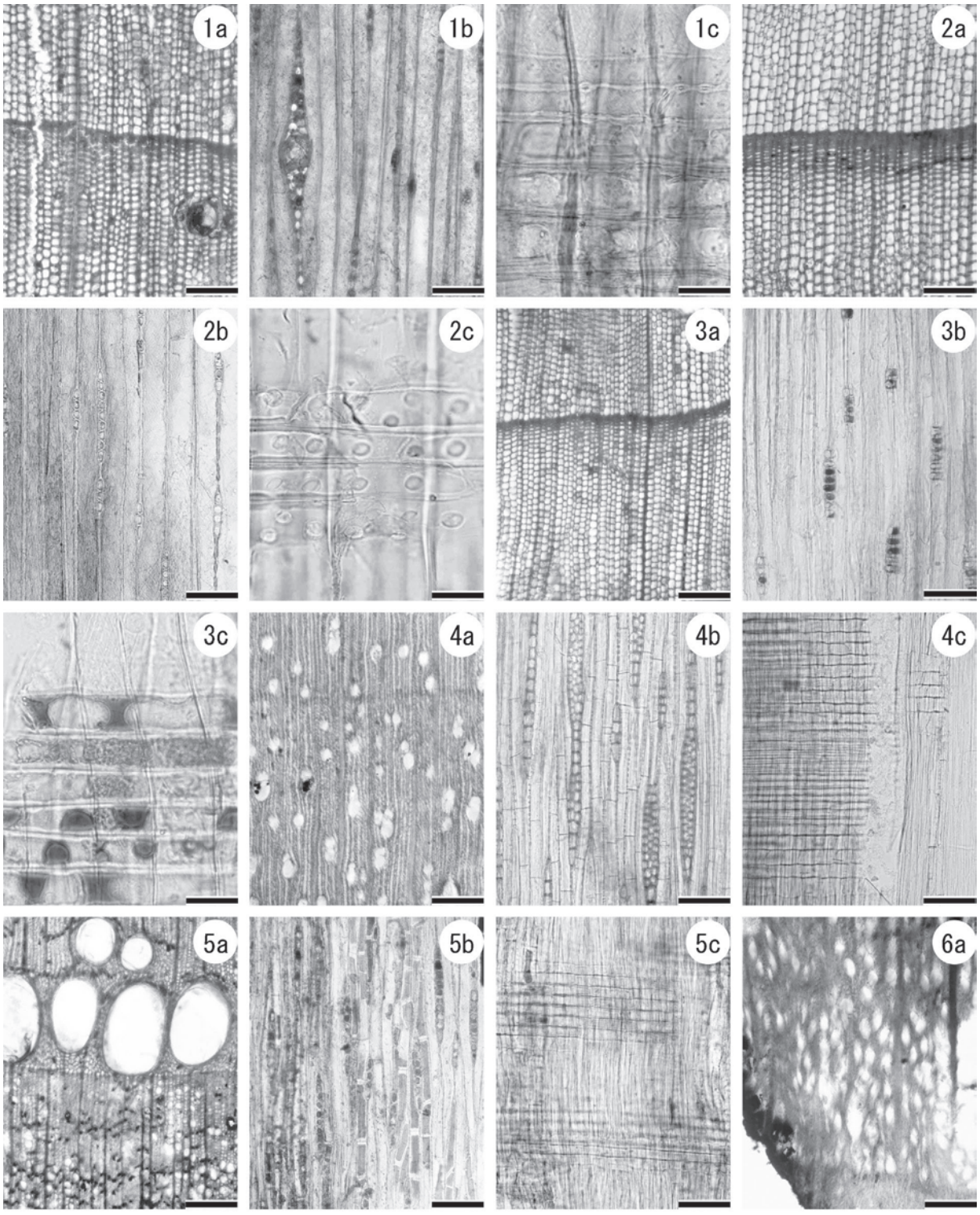
表 9　器種別の樹種構成（2）

遺構名	SG6																											SD69	
遺構の時期	平安時代前期																											近世～近代	
分類群	工具			農耕土木具			服飾具	容器				食事具	祭祀具					土木材	その他									容器	
樹種 ＼ 器種	ヘラ	横槌	木錐	鍬先	鋤	扇	曲物側板	曲物底板	木器	木器口縁	スプーン	斎串	斎串？	人形	鳥形	刀形木製品？	丸杭	串材	串状	板材	板状	棒材	棒状	棒状木製品	漆器椀	計
マツ属単維管束亜属								1																		1
スギ	2					1	4	3			1	5	2	1	1			1	4	4	2			2		33
アスナロ								3											1				1			5
アサダ				1																		1				2
クリ																1										1
ブナ属																									2	2
コナラ属クヌギ節			1	1	1																					3
コナラ属コナラ節		1	2														1									4
ケヤキ									3	1																4
計	2	1	3	2	1	1	4	7	3	1	1	5	2	1	1	1	1	1	5	4	2	1	1	2	2	55

表 10　樹種同定結果一覧（2）

No.	図版番号	登録番号	遺構	器種	樹種	木取り
1	195	RW1	SD69	漆器椀	ブナ属	横木取り
2	196	RW2	SD69	漆器椀	ブナ属	横木取り
3	911	RW10	SG6	ヘラ	スギ	板目
4	905	RW24	SG6	板材	スギ	柾目
5	855	RW27	SG6	木器	ケヤキ	横木取り
6	914	RW31	SG6	鍬先	アサダ	柾目
7	1091	RW49	SG6	斎串	スギ	板目
8	864	RW56	SG6	曲物底板	スギ	板目
9	859	RW58	SG6	曲物底板	アスナロ	板目
10	913	RW68	SG6	スプーン	スギ	板目
11	917	RW69	SG6	鋤	コナラ属クヌギ節	板目
12	1064	RW70	SG6	鳥形	スギ	板目
13	1097	RW71	SG6	棒状木製品	スギ	芯去削出
14	861	RW73	SG6	曲物底板	スギ	柾目
15	1074	RW93-1	SG6	扇	スギ	板目
16	1067	RW100	SG6	斎串	スギ	板目
17	860	RW101	SG6	曲物底板	アスナロ	柾目
18	865	RW102	SG6	曲物底板	スギ	柾目
19	872	RW108	SG6	曲物側板	スギ	板目
20	900	RW109	SG6	曲物側板	スギ	柾目
21	1068	RW115	SG6	斎串	スギ	板目
22	1079	RW116	SG6	串状	スギ	角材
23	1096	RW118	SG6	串状	スギ	角材
24	1080	RW123	SG6	串材	スギ	角材
25	931	RW127	SG6	板材	スギ	柾目
26	899	RW129	SG6	曲物側板	スギ	板目
27	918	RW130	SG6	木錐	コナラ属クヌギ節	半割
28	932	RW131	SG6	棒状木製品	スギ	芯去削出
29	1081	RW150	SG6	串状	スギ	角材
30	936	RW157-3	SG6	板材	スギ	板目
31	862	RW160	SG6	曲物側板	スギ	柾目
32	1100	RW165	SG6	板状	スギ	角材
33	919	RW166	SG6	木錐	コナラ属コナラ節	芯持丸木

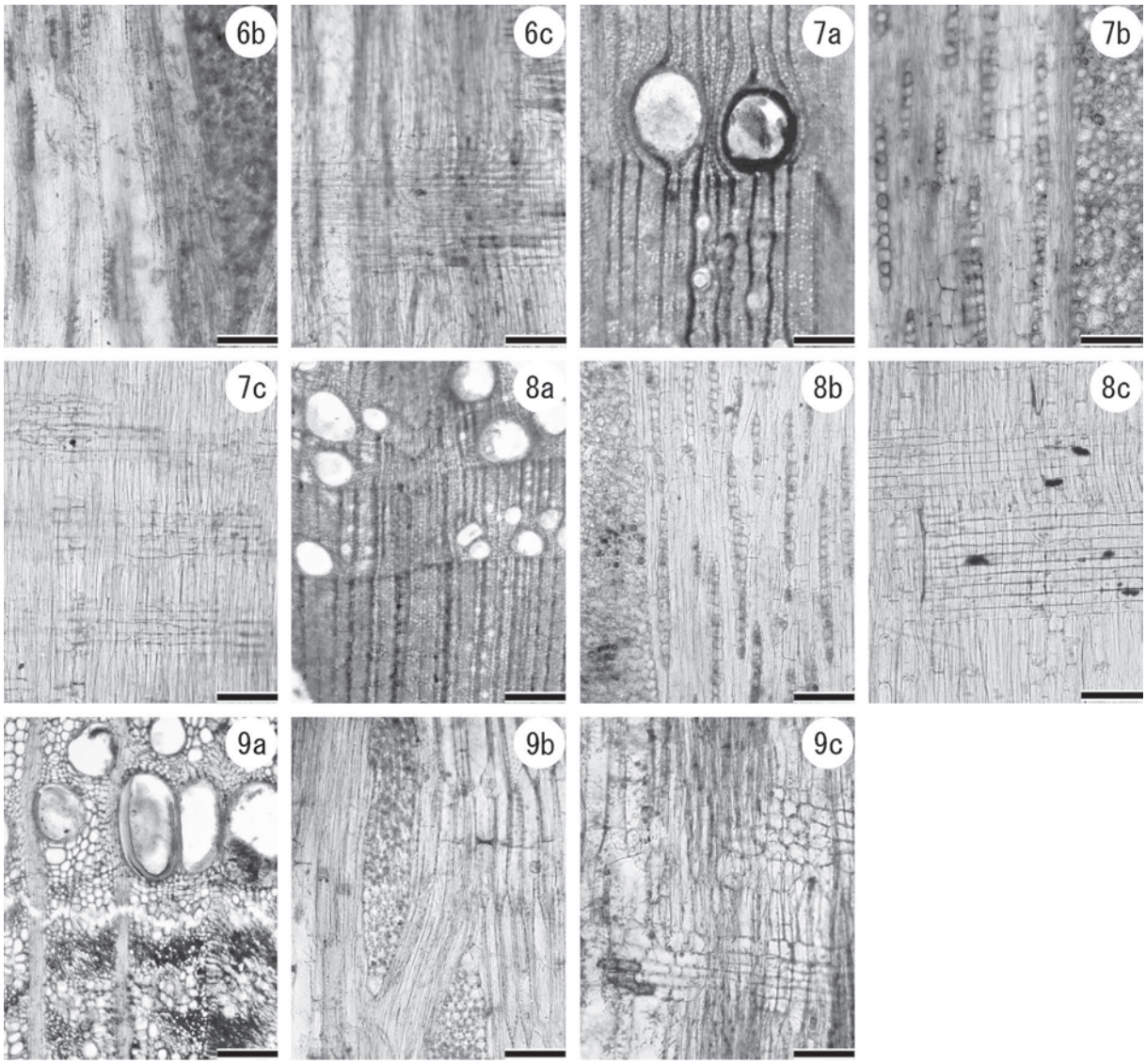
No.	図版番号	登録番号	遺構	器種	樹種	木取り
34	1088	RW168	SG6	斎串？	スギ	板目
35	1089	RW176	SG6	斎串？	スギ	角材
36	920	RW182	SG6	木錐	コナラ属コナラ節	芯持丸木
37	925	RW194	SG6	棒材	アサダ	芯持丸木
38	1002	RW203	SG6	板材	アスナロ	板目
39	916	RW210	SG6	鍬先	コナラ属クヌギ節	板目
40	1065	RW220	SG6	人形	スギ	板目
41	926	RW225	SG6	横槌	コナラ属コナラ節	芯持丸木
42	887	RW227	SG6	板状	スギ	柾目
43	1001	RW236	SG6	棒状	アスナロ	板目
44	1082	RW238	SG6	斎串	スギ	角材
45	856	RW240	SG6	木器	ケヤキ	横木取り
46	1102	RW246	SG6	斎串	スギ	芯去削出
47	1083	RW251	SG6	串状	スギ	角材
48	868	RW270	SG6	曲物底板	マツ属単維管束亜属	板目
49	912	RW277	SG6	ヘラ	スギ	板目
50	950	RW279	SG6	丸杭	コナラ属コナラ節	芯持丸木
51	853	RW291	SG6	木器口縁	ケヤキ	横木取り
52	854	RW300	SG6	木器	ケヤキ	横木取り
53	870	RW311	SG6	曲物底板	アスナロ	柾目
54	906	RW315	SG6	刀形木製品？	クリ	柾目
55	1132	RW317	SG6	板材	スギ	柾目



1a-1c：マツ属単維管束亜属（No. 48）、2a-2c：スギ（No. 26）、3a-3c：アスナロ（No. 38）、4a-4c：アサダ（No. 37）、5a-5c：クリ（No. 54）、6a：ブナ属（No. 2）

a：横断面 (スケール= 250 μm)、b：接線断面（スケール= 100 μm)、c：放射断面（スケール= 1-3:25 μm、4-5：100 μm）

第 13 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（2）



6a-6c：ブナ属（№ 2）、7a-7c：コナラ属クヌギ節（№ 39）、8a-8c：コナラ属コナラ節（№ 33）、9a-9c：ケヤキ（№ 51）

a：横断面 (スケール＝ 250 ㎛）、b：接線断面（スケール＝ 100 ㎛）、c：放射断面（スケール＝ 100 ㎛）

第 14 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（3）

6　出土木製品の樹種同定（3）

（株）吉田生物研究所

1．試　料

試料は山形県蝉田遺跡から出土した農具 7 点、服飾具 14 点、容器 14 点、食事具 1 点、文房具 1 点、祭祀具 11 点、建築部材 11、部材 3 点、雑具 19 点、土木具 8 点、用途不明品 121 点の合計 210 点である。

2．観 察 方 法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し､永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3．結　果

樹種同定結果（針葉樹 8 種、広葉樹 15 種、樹皮 1 種、担子菌類 1 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1）イチイ科イチイ属イチイ（Taxus cuspidata Sieb. et Zucc.）（No.99）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった｡晩材部は狭く年輪界は比較的不明瞭である。軸方向柔細胞を欠く。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で 1 分野に普通 2 個ある。仮道管の壁には螺旋肥厚が存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。イチイは北海道、本州、四国、九州に分布する。南下するにしたがって自生地の標高が上がり、四国、九州では山岳地帯になる。

2）マツ科モミ属（Abies sp.）（No.20,81,144,167）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで晩材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で 1 分野に 1 ～ 4 個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ､モミ､シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

3）マツ科トウヒ属（Picea sp.）（遺物 No.13）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材へ移行はやや急であった。垂直樹脂道は単独と 2 個接合がある。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔はトウヒ型、まれにヒノキ型が 2 ～ 6 個ある。放射柔細胞の隔壁は数珠状である。放射仮道管には鋸歯状突起と有縁壁孔が見られる。板目では放射組織は 1 ～ 20 細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものとがある。トウヒ属のトウヒ、アカエゾマツは北海道から本州中部まで、ハリモミは九州まで分布する。

4）マツ科カラマツ属カラマツ（Larix leptolepis Gord.）（No.89）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。垂直樹脂道がみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔はトウヒ型ないしヒノキ型で 1 分野に 3 ～ 5 個ある。柔細胞同士の壁は厚く、数珠状末端壁が目立つ。上下両端は放射仮道管である。板目では放射組織は単列で、1 ～ 20 細胞高であった。水平樹脂道を持つ紡錘形の多列放射組織もある。カラマツは本州（宮城県以南、中部）に分布する。

5）マツ科マツ属[二葉松類]（Pinus sp.）（No.15,27,76,80,85,105,106,109,117～119,179,184～186,189,196）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で 1 ～ 15 細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属 [二葉松類] はクロマツ、アカマツがあり､北海道南部､本州､四国､九州に分布する。

6）マツ科マツ属〔五葉松類〕（Pinus sp.）（No.30,93,104,161,202,209）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行がややゆるやかで、晩材部の幅も割合に狭い。大型の垂直樹脂道が細胞間隙として多く見られる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管の内壁は平滑である。板目では放射組織は単列で 1 ～ 10 細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ科マツ属〔五葉松類〕はヒメコマツ、キタゴヨウがあり、北海道、本州北部と、本州（関東、中部以西)､四国､九州の海抜 1300 ～ 1800m に分布する。

7）スギ科スギ属スギ（Cryptomeria japonica D.Don）（No.4,5,8 ～ 11,14,16,17,22 ～ 26,28,31,33,38,43

～ 45,48B ～ 52,58,63,65 ～ 69,72 ～ 74,77 ～ 79,83,84,86,90 ～ 92,94 ～ 98,101,103,108,110 ～ 115,120,122 ～ 126,128,129,133,140,141,145 ～ 148,150,152 ～ 154,156 ～ 160,163,165,171 ～ 178,181,183,187,188,191 ～ 195,198 ～ 201,203 ～ 205,207,208,210）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で 1 分野に 1 ～ 3 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

8）ヒノキ科アスナロ属（Thujopsis sp.）（No.7,42,47, 48A,82,88,102,121,130）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で 1 分野に 2 ～ 4 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

9）ヤナギ科ヤナギ属（Salix sp.）（No.70,71）

散孔材である。木口では中庸ないしやや小さい道管（～ 110 μ m）が単独または 2 ～ 4 個放射方向ないし斜線方向に複合して分布する。軸方向柔組織は年輪界で顕著。柾目では道管は単穿孔と交互壁孔を有する。放射組織は直立と平伏細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔はやや大きく、篩状になっている。板目では放射組織はすべて単列、高さ～ 450 μ m であった。ヤナギ属はバッコヤナギ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

10）クルミ科クルミ属オニグルミ（Juglans mandshurica Maxim. subsp. SieboldianaKitamura）（No.46,64）

散孔材である。木口では比較的大型の道管（～ 350 μ m）が散在し、晩材部で径を減じる傾向にある。軸方向柔細胞は周囲状、および 1 細胞幅の接線状あるいは網状柔組織である。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は 1 ～ 4 細胞列、高さ～ 600 μ m であった。オニグルミは北海道、本州、四国、九州に分布する。

11）クルミ科サワグルミ属サワグルミ（Pterocarya rhoifolia Sieb. et Zucc.）（No.138）

散孔材である。木口では比較的大型の道管（～ 200 μ m）が単独ないし 2、3 個放射方向に複合して散在し、晩材部で径を減じる傾向にある。軸方向柔細胞は 1 細胞幅の接線状あるいは網状柔組織である。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は 1 ～ 2 細胞列、高さ～ 0.5mm 以下からなる。サワグルミは北海道（南部）、本州、四国、九州（北部）に分布する。

12）カバノキ科カバノキ属（Betula sp.）（No.39）

散孔材である。木口ではやや大きい道管（～ 200 μ m）が単独ないし数個放射方向に複合して分布している。軸方向柔細胞は接線状が顕著である。柾目では道管は階段穿孔を有する。放射組織は平伏細胞からなる同性と直立、平伏細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は小型である。板目では放射組織は 1 ～ 4 細胞列、高さ～ 550 μ m であった。カバノキ属はシラカンバ、マカンバ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

13）カバノキ科ハンノキ属（Alnus sp.）（No.18,54,59）

散孔材である。木口では中庸ないしやや小さい道管（～ 90 μ m）が 2 ～数個半径方向に放射複合管孔をなして平等に分布する。軸方向柔組織は単接線状柔組織を形成している。放射組織は多数の単列放射組織と幅の広い放射組織がある。柾目では道管は階段穿孔と小型で円形の対列壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなるが、ときに上下縁辺に方形細胞が現れる。板目では多数の単列放射組織（1 ～ 30 細胞高）と単列放射組織が集まってできた集合型の広放射組織がある。ハンノキ属はハンノキ、ミヤマハンノキ、ケヤマハンノキ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

14）ブナ科ブナ属（Fagus sp.）（No.2）

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～ 110 μ m）がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、2 ～ 3 列のもの、非常に列数の広いものがある。柾目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち、内

部には充填物（チロース）が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、2 ～ 3 列、広放射組織の 3 種類がある。広放射組織は肉眼でも 1 ～ 3mm の高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ、イヌブナがあり、北海道（南部）、本州、四国、九州に分布する。

15）ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Lepidobalanus Endlicher sect. Cerris）（No.3,75,116,139）

環孔材である。木口では大道管（～ 430 μ m）が年輪界にそって 1 ～数列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、厚壁で円形の小道管が単独に放射方向に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に幅の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。クヌギ節はクヌギ、アベマキがあり、本州（岩手、山形以南）、四国、九州、琉球に分布する。

16）ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Sect. Prinus Loudon syn. Diversipilosae, Dentatae)（No.12,35 ～ 37,40,41,55,57,107,134,135,137,151,155,168 ～ 170,197,206）

環孔材である。木口では大道管（～ 380 μ m）が年輪界にそって 1 ～ 3 列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは 2 ～ 3 個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

17）ブナ科クリ属クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）（No.19,53,56,131,132,136,149,164,166,180）

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～ 500 μ m）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは 2 ～ 3 個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

18）ニレ科ケヤキ属ケヤキ（Zelkova serrata Makino）（No.29,100）

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～ 270 μ m）が 1 列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形､接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は 1 ～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の 1 ～ 3 列のものと大部分を占める 6 ～ 7 細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

19）カツラ科カツラ属カツラ（Cercidiphyllum japonicum Sieb. et Zucc.）（No.162）

散孔材である。木口ではやや小さい薄壁で角張っている道管（～ 100 μ m）がおおむね単独または 2 ～ 3 個不規則に接合して平等に分布する。道管の占有面積は大きい。軸方向柔組織は不顕著。柾目では道管は階段穿孔と側壁に階段壁孔を有する。放射組織は平伏、方形と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状の壁孔がある。道管内腔には充填物（チロース）がある。板目では放射組織は方形ないし直立細胞からなる単列のものと、方形ないし直立細胞の単列部と平伏細胞の 2 列部からなるものがある。高さ～ 900 μ m からなる。カツラは北海道、本州、四国、九州に

分布する。

20）マンサク科イスノキ属イスノキ（Distylium racemosum Sieb. et Zucc.）（No.21,32）

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～ 50 μ m）がおおむね単独で、大きさ数とも年輪全体を通じて変化なく平等に分布する。軸方向柔細胞は黒く接線方向に並び、ほぼ一定の間隔で規則的に配列している。放射組織は 1 ～ 2 列のものが多数走っているのが見られる。柾目では道管は階段穿孔と内部に充填物（チロース）がある。軸方向には黒いすじの柔細胞ストランドが多数走っており、一部は提灯状の細胞になっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は 1 ～ 2 細胞列、高さ～ 1mm で多数分布している。イスノキは本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。

21）カエデ科カエデ属（Acer sp.）（No.87,127,143）

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～ 100 μ m）が単独ないし数個複合して分布する。軸方向柔細胞は年輪界で顕著である。木繊維の壁に厚薄があり木口面で濃淡模様が出る。柾目では道管は単穿孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は 1 ～ 6 細胞列、高さ～ 1mm からなる。カエデ属はウリカエデ、イタヤカエデ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

22）ウコギ科ウコギ属（Acanthopanax sp.）（No.142,190）

散孔材である。木口では極めて小さい道管（～ 50 μ m）が 20 個以上集団となり、斜線方向ないし接線方向に長く連なる。柾目では道管は単穿孔と側壁に大型の交互壁孔を有する。放射組織は平伏、方形と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は中型の篩状である。板目では放射組織は 1 ～ 8 細胞列、高さ～ 2mm からなる。鞘細胞が見られる。ウコギ属ウコギ類はケヤマウコギ、ウラジロウコギ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

23）ウコギ科ハリギリ属ハリギリ（Kalopanax septemlobus Koidz.）（No.182）

環孔材である。木口ではほぼ単独の大道管（～ 350 μ m）が孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が集団状、波状、帯状に複合して分布している。柾目では道管は単穿孔を有し、内部には充填物（チロース）がつまっている。放射組織は平状細胞からなる同性と平伏、直立細胞からなる異性とがある。板目では放射組織は 1 ～ 5 細胞列、高さ～ 1.6mm からなる。ハリギリは北海道、本州、四国、九州に分布する。

24）ヤマザクラ or カバの樹皮（No.60 ～ 62）

横断面と放射断面ではコルク組織とコルク皮層が交互に並んで密に詰まっている。接線断面では細胞が放射方向に規則正しく配列している。しかし桜、樺の皮は顕微鏡観察での判別は難しい。

25）木胎なし（No.6,34）

遺物は漆膜のみで木質部分が残存していなかった。詳細は塗膜構造分析報告書を参照の事。

26）サルノコシカケ科（Polyporaceae）（No.1）

外観は無柄で半月状をしている。顕微鏡下では菌糸が複雑に絡み合って配列しているのが確認できる。遺物はサルノコシカケ科の子実体である。サルノコシカケ科は全国に分布している。

◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fi1

引用文献

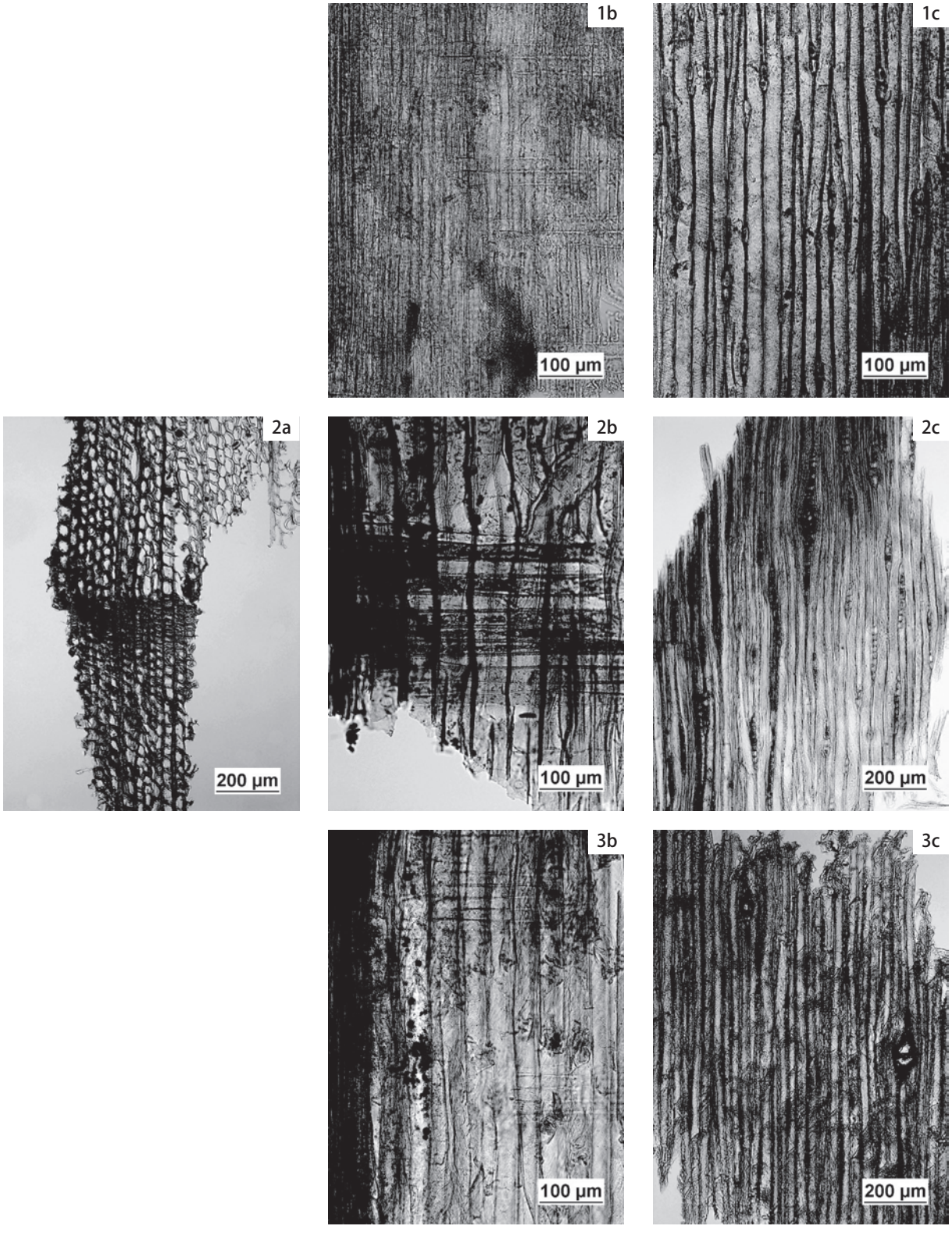
林 昭三　1991 『日本産木材顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1999 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ』 京都大学木質科学研究所
島地 謙・伊東隆夫　1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣出版
北村四郎・村田 源　1979 『原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ』 保育社
印東弘玄・成田傳蔵　1999 『コンパクト版 6　原色きのこ図鑑』 北隆館
奈良国立文化財研究所　1985 『奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇』
奈良国立文化財研究所　1993 『奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇』

表 11　出土木製品同定表

No.	図版No.	登録No.	品名	樹種
1	1046	25	猿の腰掛	サルノコシカケ科
2	1025	72 ②	木製品	ブナ科ブナ属
3	909	72 ④	未成品	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
4	986	103	両端三角板材	スギ科スギ属スギ
5	946	112	床板	スギ科スギ属スギ
6	850	111	漆器片	木胎なし
7	1227	113	串状	ヒノキ科アスナロ属
8	1223	122	三角切り板	スギ科スギ属スギ
9	979	125	板状	スギ科スギ属スギ
10	1150	145	串状品	スギ科スギ属スギ
11	1090	151	串状品	スギ科スギ属スギ
12	949	158	丸木杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
13	1140	161	板状品	マツ科トウヒ属トウヒ
14	1123	162	斎串片	スギ科スギ属スギ
15	1278	164	付け木？	マツ科マツ属［二葉松類］
16	884	183	板材（穿孔）	スギ科スギ属スギ
17	1124	186	太い棒状品	スギ科スギ属スギ
18	960	207 ①	角材（杭）	カバノキ科ハンノキ属
19	963	207 ②	角材	ブナ科クリ属クリ
20	1277	208	付け木？串？	マツ科モミ属
21	940	222	横櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
22	1176	229	板状	スギ科スギ属スギ
23	1084	230	斎串	スギ科スギ属スギ
24	1098	233	斎串	スギ科スギ属スギ
25	1130	234	三角板	スギ科スギ属スギ
26	1122	235	棒状品	スギ科スギ属スギ
27	1266	237	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
28	1131	252	付け木？	スギ科スギ属スギ
29	852	255	漆器片	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
30	1284	259	斎串片	マツ科マツ属［五葉松類］
31	929	261	棒状品	スギ科スギ属スギ
32	942	280	横櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
33	1135	284	板材	スギ科スギ属スギ
34	851	316	漆板片	木胎なし
35	923	322	木錘	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
36	915	324	鍬柄	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
37	961	328	太い棒材	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
38	858	330	曲げ物	スギ科スギ属スギ
39	941	333	横櫛	カバノキ科カバノキ属
40	952	337	加工材	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
41	922	338	木錘	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
42	863	339	曲げ物底板	ヒノキ科アスナロ属
43	1069	340	斎串	スギ科スギ属スギ
44	1101	345	板状品	スギ科スギ属スギ
45	933	351	板材	スギ科スギ属スギ
46	939	365	下駄	クルミ科クルミ属オニグルミ
47	971	370	曲げ物底板	ヒノキ科アスナロ属
48	901	373	A 曲物側板（本体） B 曲物側板（釘）	ヒノキ科アスナロ属 スギ科スギ属スギ
49	869	377	曲物側板	スギ科スギ属スギ
50	1178	378	棒状品	スギ科スギ属スギ
51	1125	379	棒状品	スギ科スギ属スギ
52	1177	387	棒状品	スギ科スギ属スギ
53	1028	394	建築材	ブナ科クリ属クリ
54	938	399	厚い板状品	カバノキ科ハンノキ属
55	954	402	杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
56	937	411	下駄	ブナ科クリ属クリ
57	1138	412	斎串？	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
58	991	417	板材	スギ科スギ属スギ
59	957	424	杭	カバノキ科ハンノキ属
60	902	425 ①	樹皮	ヤマザクラ or カバの樹皮
61	903	425 ②	樹皮	ヤマザクラ or カバの樹皮
62	904	425 ③	樹皮	ヤマザクラ or カバの樹皮
63	1075	430	扇	スギ科スギ属スギ
64	1015	436	不明	クルミ科クルミ属オニグルミ
65	1127	438	板材	スギ科スギ属スギ
66	1077	442	扇	スギ科スギ属スギ
67	1070	443	扇	スギ科スギ属スギ
68	1072	444	扇	スギ科スギ属スギ
69	1071	445	扇	スギ科スギ属スギ
70	1156	446 ①	扇	ヤナギ科ヤナギ属
71	1162	446 ②	扇	ヤナギ科ヤナギ属
72	1073	447	扇	スギ科スギ属スギ
73	1066	450 ①	斎串	スギ科スギ属スギ
74	086	450 ②	板状	スギ科スギ属スギ
75	927	451	横槌	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
76	1133	452 ①	付け木？	マツ科マツ属［二葉松類］
77	1094	452 ②	斎串	スギ科スギ属スギ
78	1139	469	斎串？	スギ科スギ属スギ
79	1108	473	斎串	スギ科スギ属スギ
80	1271	476	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
81	1276	480	付け木？	マツ科モミ属
82	1003	482	板状	ヒノキ科アスナロ属
83	1078	485	木簡	スギ科スギ属スギ
84	1104	491	斎串	スギ科スギ属スギ
85	1252	492	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
86	1095	496	斎串	スギ科スギ属スギ
87	921	497	木錘	カエデ科カエデ属
88	893	498	板材	ヒノキ科アスナロ属
89	894	499	板状	マツ科カラマツ属カラマツ
90	245	500	曲物底板	スギ科スギ属スギ
91	1260	502 ①	付け木	スギ科スギ属スギ
92	1107	504	串状	スギ科スギ属スギ
93	1258	505	付け木	マツ科マツ属［五葉松類］
94	1189	506 ①	斎串状	スギ科スギ属スギ
95	997	519 ①	部材	スギ科スギ属スギ
96	1000	519 ②	部材	スギ科スギ属スギ
97	980	519 ③	棒	スギ科スギ属スギ
98	1196	519 ④	板	スギ科スギ属スギ
99	1103	519 ⑤	細杭	イチイ科イチイ属イチイ
100	857	523	木器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
101	947	531	床板	スギ科スギ属スギ
102	908	532	板状	ヒノキ科アスナロ属
103	983	533	棒状	スギ科スギ属スギ
104	1253	534	付け木	マツ科マツ属［五葉松類］
105	1257	535	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
106	1262	536	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
107	928	537	横槌	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
108	1099	538	棒状	スギ科スギ属スギ
109	1264	539	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
110	1144	540	板状	スギ科スギ属スギ
111	1141	541	串状	スギ科スギ属スギ

No.	図版№	登録№	品名	樹種
112	1092	542	串？	スギ科スギ属スギ
113	1126	543	炭化材	スギ科スギ属スギ
114	910	544	板材	スギ科スギ属スギ
115	867	545	曲物底板	スギ科スギ属スギ
116	948	546	杭？建築材？	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
117	1261	547 ①	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
118	1259	547 ②	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
119	1269	547 ③	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
120	883	548	側板	スギ科スギ属スギ
121	985	549 ①	太い棒	ヒノキ科アスナロ属
122	1183	549 ②	板状	スギ科スギ属スギ
123	876	550	付け木	スギ科スギ属スギ
124	866	551	底板	スギ科スギ属スギ
125	1011	552	板状	スギ科スギ属スギ
126	1014	553	板状	スギ科スギ属スギ
127	1016	556	板状	カエデ科カエデ属
128	1076	558	扇	スギ科スギ属スギ
129	1172	560	角材	スギ科スギ属スギ
130	896	561	薄板	ヒノキ科アスナロ属
131	18	759	SP74 柱根	ブナ科クリ属クリ
132	26	760	SP107 柱根	ブナ科クリ属クリ
133	943	752	建築材	スギ科スギ属スギ
134	944	756	SG6 建築材 1 本	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
135	24	761	SP93 柱根	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
136	25	762	SP106 柱根	ブナ科クリ属クリ
137	956	757	SG6 建築材角材	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
138	248	95	SG50 建築材	クルミ科サワグルミ属サワグルミ
139	945	205	SG6 角材	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
140	930	271	SG6 角材	スギ科スギ属スギ
141	998	272	板材	スギ科スギ属スギ
142	1044	753	棒	ウコギ科ウコギ属
143	1040	754	棒	カエデ科カエデ属
144	1053	755	板	マツ科モミ属
145	1202	93	板材	スギ科スギ属スギ
146	1134	146	薄板材	スギ科スギ属スギ
147	878	204	側板	スギ科スギ属スギ
148	881	206	側板	スギ科スギ属スギ
149	1034	231	板材	ブナ科クリ属クリ
150	889・891	247	側板	スギ科スギ属スギ
151	953	254	杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
152	1201	253	板材	スギ科スギ属スギ
153	1204	257 ①	板材	スギ科スギ属スギ
154	875	262	板状	スギ科スギ属スギ
155	1217	257 ②	小板材	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
156	1190	292	板材	スギ科スギ属スギ
157	989	281	板材	スギ科スギ属スギ
158	990	293	板材	スギ科スギ属スギ
159	1087	304	板材	スギ科スギ属スギ
160	1113	306	棒状	スギ科スギ属スギ

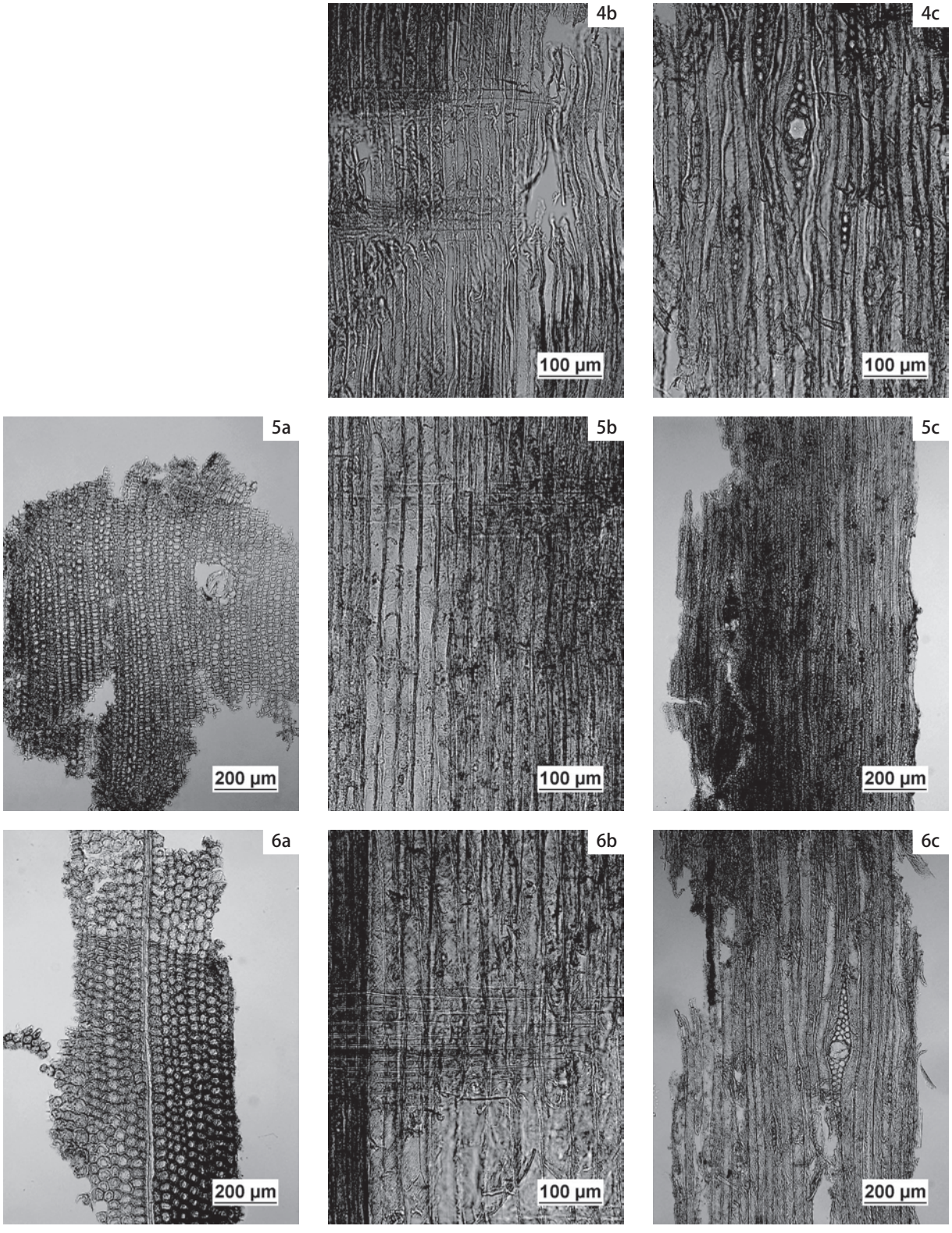
No.	図版№	登録№	品名	樹種
161	1289	318	棒	マツ科マツ属［五葉松類］
162	1285	349	棒	カツラ科カツラ属カツラ
163	1018	364 ②	板状	スギ科スギ属スギ
164	976	372	角材	ブナ科クリ属クリ
165	1191	375	板材	スギ科スギ属スギ
166	977	380 ①	角材	ブナ科クリ属クリ
167	1052	383	板状	マツ科モミ属
168	951	403	杭状	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
169	955	405	杭先	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
170	962	459	杭先	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
171	1226	470	板材	スギ科スギ属スギ
172	1146	481	板材	スギ科スギ属スギ
173	1232	478	板材	スギ科スギ属スギ
174	1213	495	板材	スギ科スギ属スギ
175	1214	502 ②	薄板材	スギ科スギ属スギ
176	1220	506 ②	薄板材	スギ科スギ属スギ
177	890	554 ①	板材	スギ科スギ属スギ
178	1136	555	板材	スギ科スギ属スギ
179	1287	748	板材	マツ科マツ属［二葉松類］
180	958	557	角材	ブナ科クリ属クリ
181	1005	559	板材	スギ科スギ属スギ
182	1038	563 ①	棒状	ウコギ科ハリギリ属ハリギリ
183	1121	563 ②	棒状	スギ科スギ属スギ
184	1317	569	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
185	1246	580	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
186	1247	581	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
187	1272	582	串片？	スギ科スギ属スギ
188	1137	587	板状品	スギ科スギ属スギ
189	1254	588	棒状品	マツ科マツ属［二葉松類］
190	1129	590	棒状品	ウコギ科ウコギ属
191	1119	593	削り出し棒	スギ科スギ属スギ
192	934	595	削り出し棒	スギ科スギ属スギ
193	1240	596	板材	スギ科スギ属スギ
194	1143	597	斎串？	スギ科スギ属スギ
195	1145	598	板材	スギ科スギ属スギ
196	1265	599	付け木	マツ科マツ属［二葉松類］
197	924	700	木錘	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
198	1007	704	部材	スギ科スギ属スギ
199	1010	705	棒	スギ科スギ属スギ
200	1110	706	箸	スギ科スギ属スギ
201	1159	707	串	スギ科スギ属スギ
202	1255	711	付け木	マツ科マツ属［五葉松類］
203	1174	712	棒状	スギ科スギ属スギ
204	1093	715	板材	スギ科スギ属スギ
205	1142	716	棒	スギ科スギ属スギ
206	1057	717	円形	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
207	1012	732	串状品	スギ科スギ属スギ
208	1179	733	串状品	スギ科スギ属スギ
209	41	742	付け木	マツ科マツ属［五葉松類］
210	1109	743	斎串	スギ科スギ属スギ



1b-1c：イチイ科イチイ属イチイ（№99）、2a-2c：マツ科モミ属（№144）、3b-3c：マツ科トウヒ属（№13）

a：木口、b：柾目、c：板目

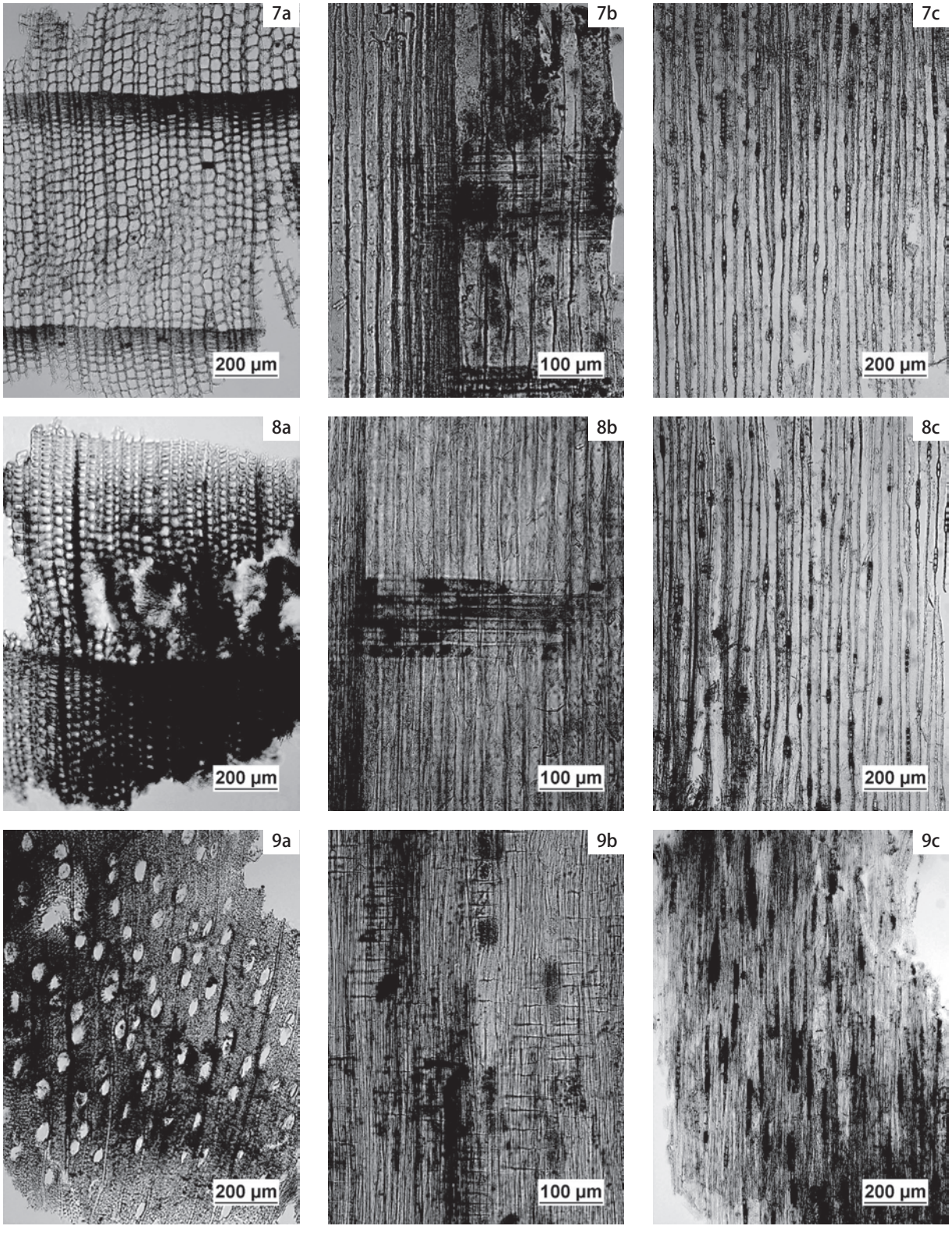
第 15 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（4）



4b-4c：マツ科カラマツ属カラマツ（№89）、5a-5c：マツ科マツ属［二葉松類］（№27）、6a-6c：マツ科マツ属［五葉松類］（№30）

a：木口、b：柾目、c：板目

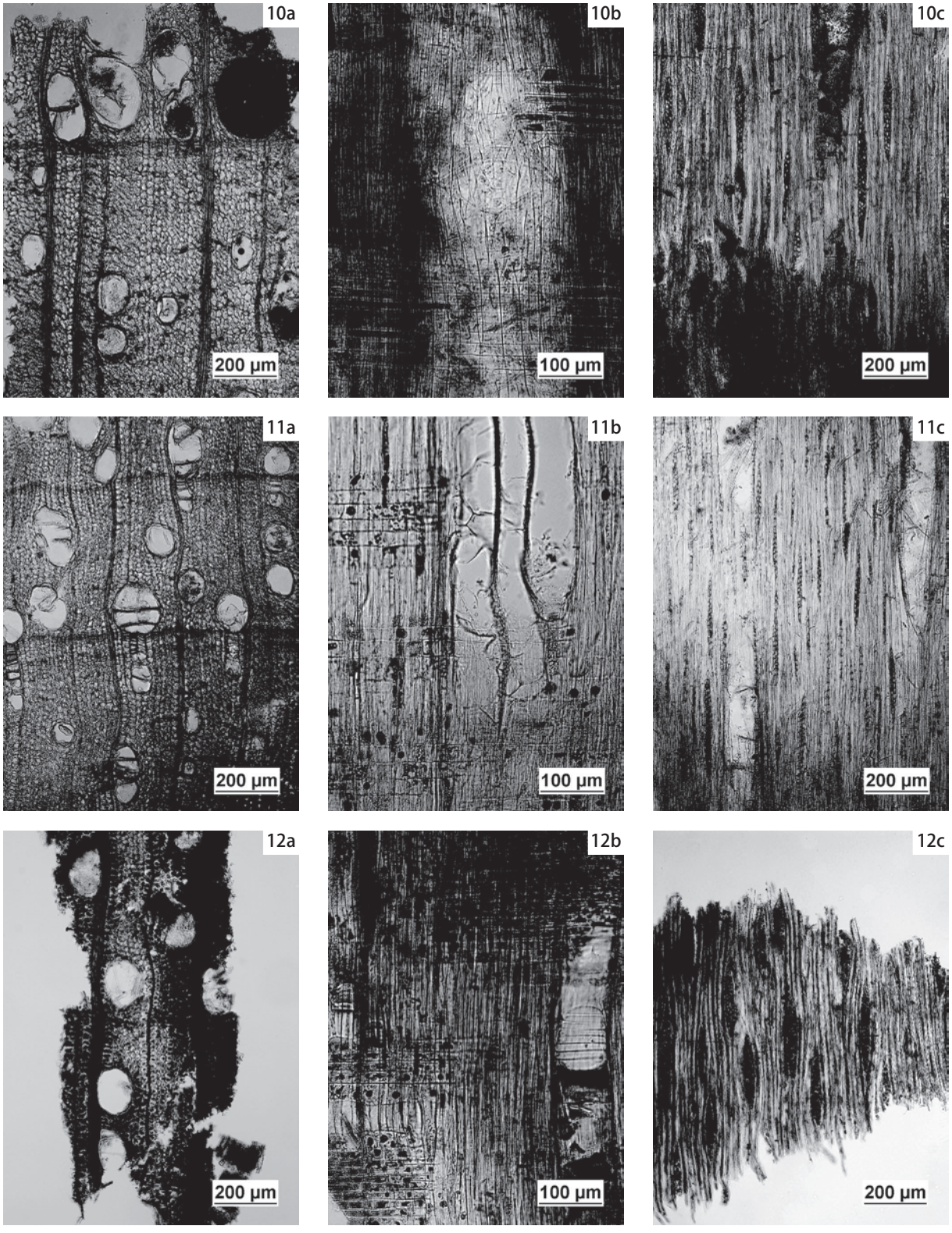
第 16 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（5）



7a-7c：スギ科スギ属スギ（№150）、8a-8c：ヒノキ科アスナロ属（№7）、9a-9c：ヤナギ科ヤナギ属（№70）

a：木口、b：柾目、c：板目

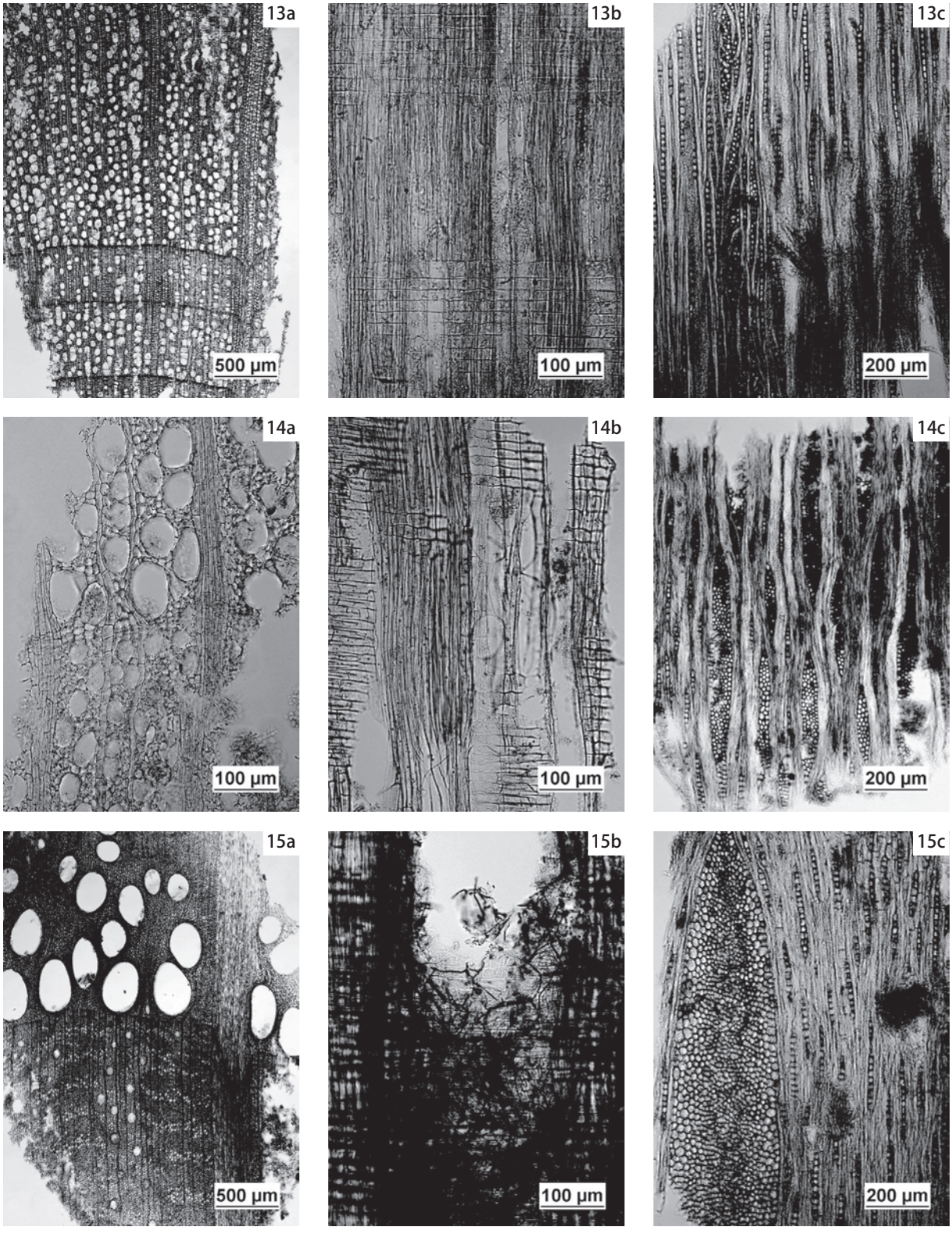
第 17 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（6）



10a-10c：クルミ科クルミ属オニグルミ（№46）、11a-11c：クルミ科サワグルミ属サワグルミ（№138）、12a-12c：カバノキ科カバノキ属（№39）

a：木口、b：柾目、c：板目

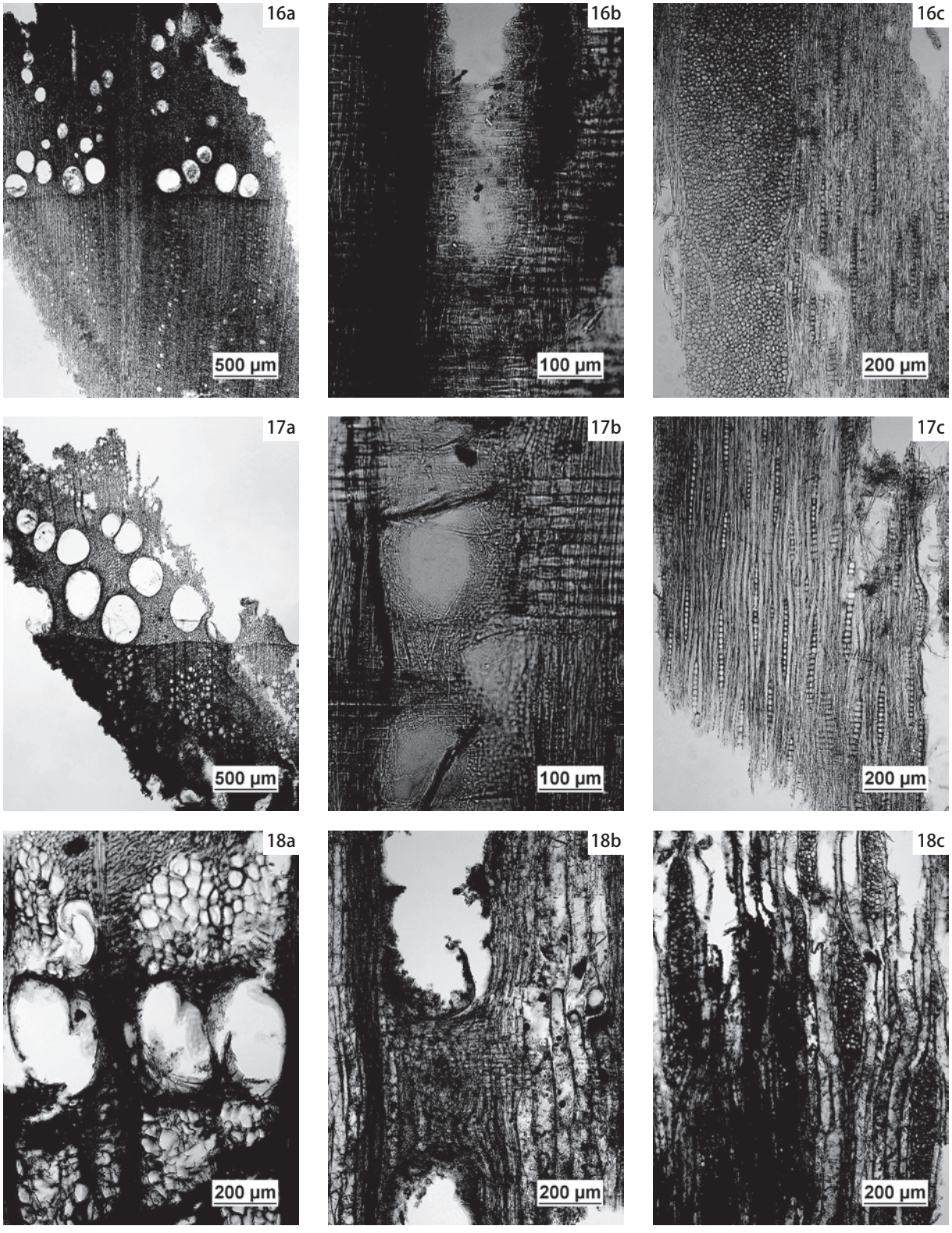
第 18 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（7）



13a-13c：カバノキ科ハンノキ属（No. 59）、14a-14c：ブナ科ブナ属（No. 2）、15a-15c：ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節（No. 139）

a：木口、b：柾目、c：板目

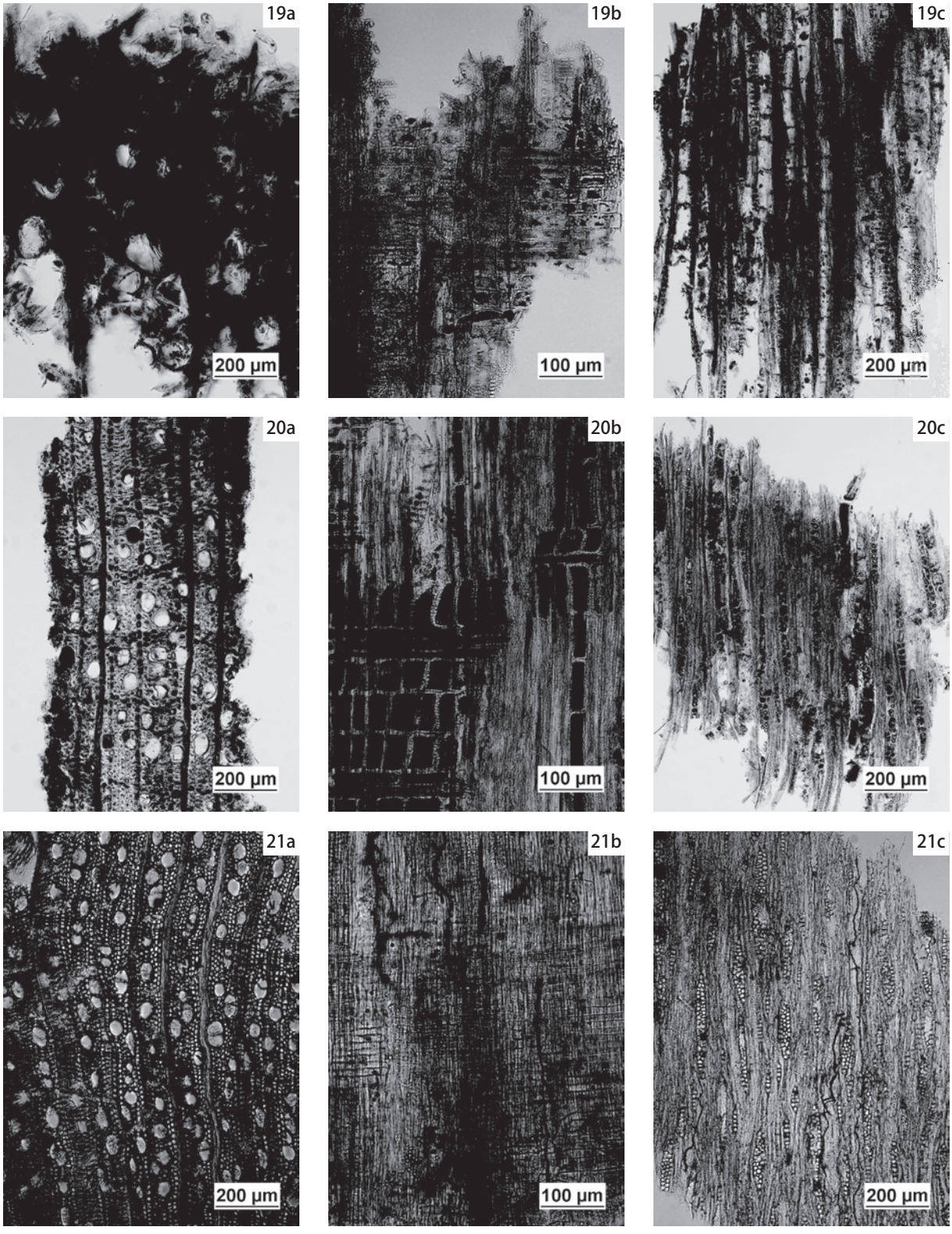
第 19 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（8）



16a-16c：ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節（№169）、17a-17c：ブナ科クリ属クリ（№180）、18a-18c：ニレ科ケヤキ属ケヤキ（№100）

a：木口、b：柾目、c：板目

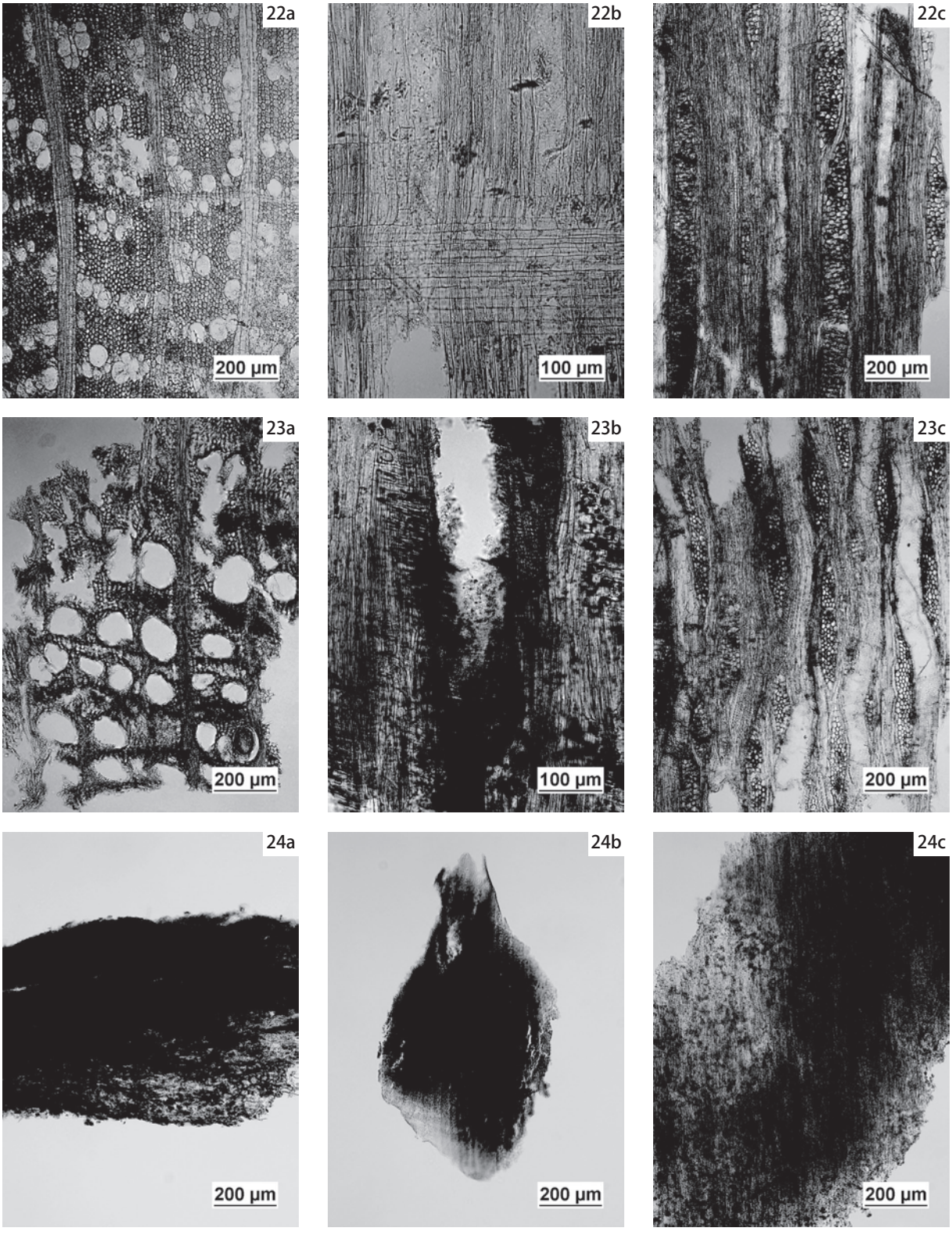
第 20 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（9）



19a-19c：カツラ科カツラ属カツラ（№162）、20a-20c：マンサク科イスノキ属イスノキ（№21）、21a-21c：カエデ科カエデ属（№143）

a：木口、b：柾目、c：板目

第 21 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（10）



22a-22c：ウコギ科ウコギ属（№142）、23a-23c：ウコギ科ハリギリ属ハリギリ（№182）、24a-24c：ヤマザクラ or カバの樹皮（№62）

22・23a：木口、22・23b：柾目、22・23c：板目、24a：横断面、24b：放射断面、24c：接線断面

第 22 図　蝉田遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（11）

7　出土木製品の樹種同定（4）

（株）東都文化財保存研究所

1．試　料

試料は、9 世紀後半～ 10 世紀初頭の木製品 106 点である。全試料について樹種同定を実施し、塗膜が認められる RW795 については、塗膜断面の薄片作成・観察を併せて実施する。

2．分 析 方 法

（1）樹種同定

剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

（2）薄片作成・観察

塗膜片の水分を軽く拭き取り、合成樹脂に包埋し、樹脂を固化させる。塗膜の断面が出るように、ダイヤモンドカッターで切断し、切断面を研磨する。研磨面をスライドグラスに接着し、反対側も切断と研磨を行ってプレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡、落射蛍光顕微鏡、偏光顕微鏡を用いて、塗膜の構造や混和物を観察する。

3．結　果

(1) 樹種同定

樹種同定結果を表 12 に示す。木製品は、針葉樹 5 分類群（マツ属複維管束亜属・マツ属単維管束亜属・トウヒ属・スギ・アスナロ）と広葉樹 11 分類群（オニグルミ・ヤナギ属・カバノキ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・ケヤキ・ニレ属・カツラ・イヌエンジュ属・ミズキ属）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属（Pinus subgen. Diploxylon） マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔組織、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15 細胞高。

・マツ属単維管束亜属（Pinus subgen. Haploxylon）マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔組織、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁は平滑で鋸歯状の突起は認められない。放射組織は単列、1-15 細胞高。

・トウヒ属（Picea）マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔組織、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。放射柔組織の細胞壁は厚く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。放射仮道管の有縁壁孔のフチは主としてトウヒ型。分野壁孔はトウヒ型で、1 分野に 3-6 個。放射組織は単列、1-20 細胞高。

・スギ（Cryptomeria japonica (L. f.) D. Don）スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・アスナロ（Thujopsis dolabrata Sieb. et Zucc.）ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は

狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、内壁には茶褐色の樹脂が顕著に認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1 分野に 1-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・オニグルミ（Juglans mandshurica Maxim. subsp. sieboldiana (Maxim.) Kitamura）クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または 2-3 個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し､壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1-4 細胞幅、1-40 細胞高。

・ヤナギ属（Salix）ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または 2-3 個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15 細胞高。

・カバノキ属（Betula）カバノキ科

散孔材で、道管は単独または 2-3 個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は同性、1-4 細胞幅、1-30 細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Quercus sect. Cerris）ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（Quercus subgen. Quercus sect. Prinus）ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は 3-4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

・ケヤキ（Zelkova serrata (Thunb.) Makino）ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は 1-2 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6 細胞幅、1-50 細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・ニレ属（Ulmus）ニレ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-6 細胞幅、1-40 細胞高。

・カツラ（Cercidiphyllum japonicum Sieb. et Zucc.）カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2 細胞幅、1-30 細胞高。

・イヌエンジュ属（Maackia）マメ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外でやや急激に径を減じた後、多数の道管が集まって接線・斜方向に帯状あるいは紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。小道管は層階状に配列し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性～同性、1-8 細胞幅、1-80 細胞高。軸方向柔組織は、周囲状およびターミナル状。

日本のイヌエンジュ属は 3 種（シマエンジュ・イヌエンジュ・ハネミイヌエンジュ）あり、組織の特徴から区別することは難しいが、現在の分布を考慮すれは、今回の試料はイヌエンジュの可能性が高い。

・ミズキ属（Swida）ミズキ科

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、ほぼ単独で散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列する。放射組織は異性、1-4 細胞幅、1-30 細胞高。

(2) 薄片作成・観察

木地の上には、2 層の塗布層が認められる。木地直上の層は、厚さ 20 ～ 50 μ m で、木地の凹凸を埋めて表面を平らに仕上げている状況から､下地の可能性がある。

混和物等は不明である。その上には、透過光と落射蛍光で赤褐色の半透明の塗布層が約 10 ～ 20 μ m の厚さで認められる。状況から、混和物の無い透明漆と考えられる。

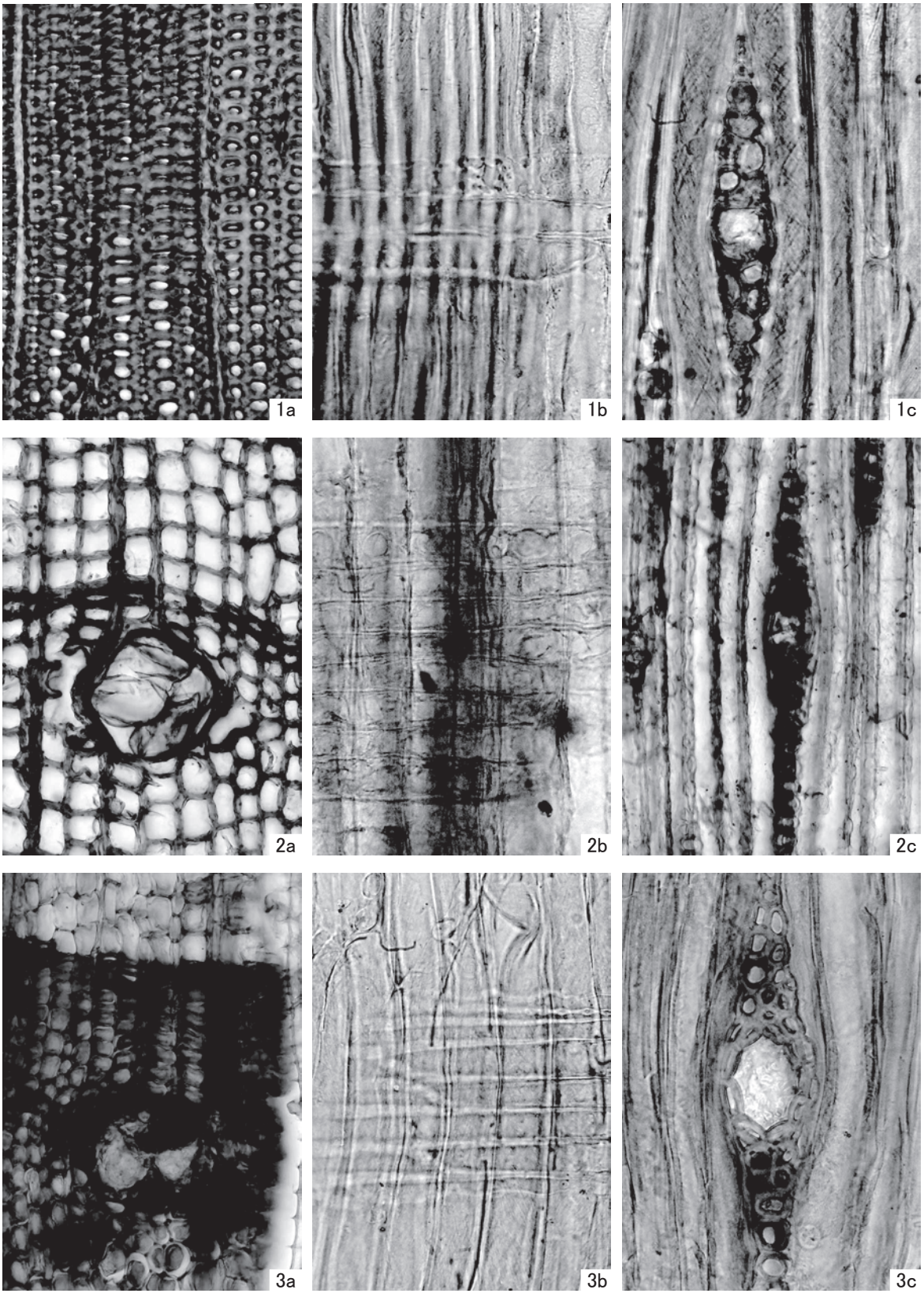
引用文献

林　昭三　1991 『日本産木材　顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料 31』 京都大学木質科学研究所　p.81-181
伊東隆夫　1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料 32』 京都大学木質科学研究所　p.66-176
伊東隆夫　1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料 33』 京都大学木質科学研究所　p.83-201
伊東隆夫　1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料 34』 京都大学木質科学研究所　p.30-166
伊東隆夫　1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料 35』 京都大学木質科学研究所　p.47-216
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編） 2006 『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修） 海青社　p.70［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
島地　謙・伊東隆夫　1982 『図説木材組織』 地球社　p.176
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編） 1998 『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修） 海青社　p.122［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

表 12　樹種同定結果

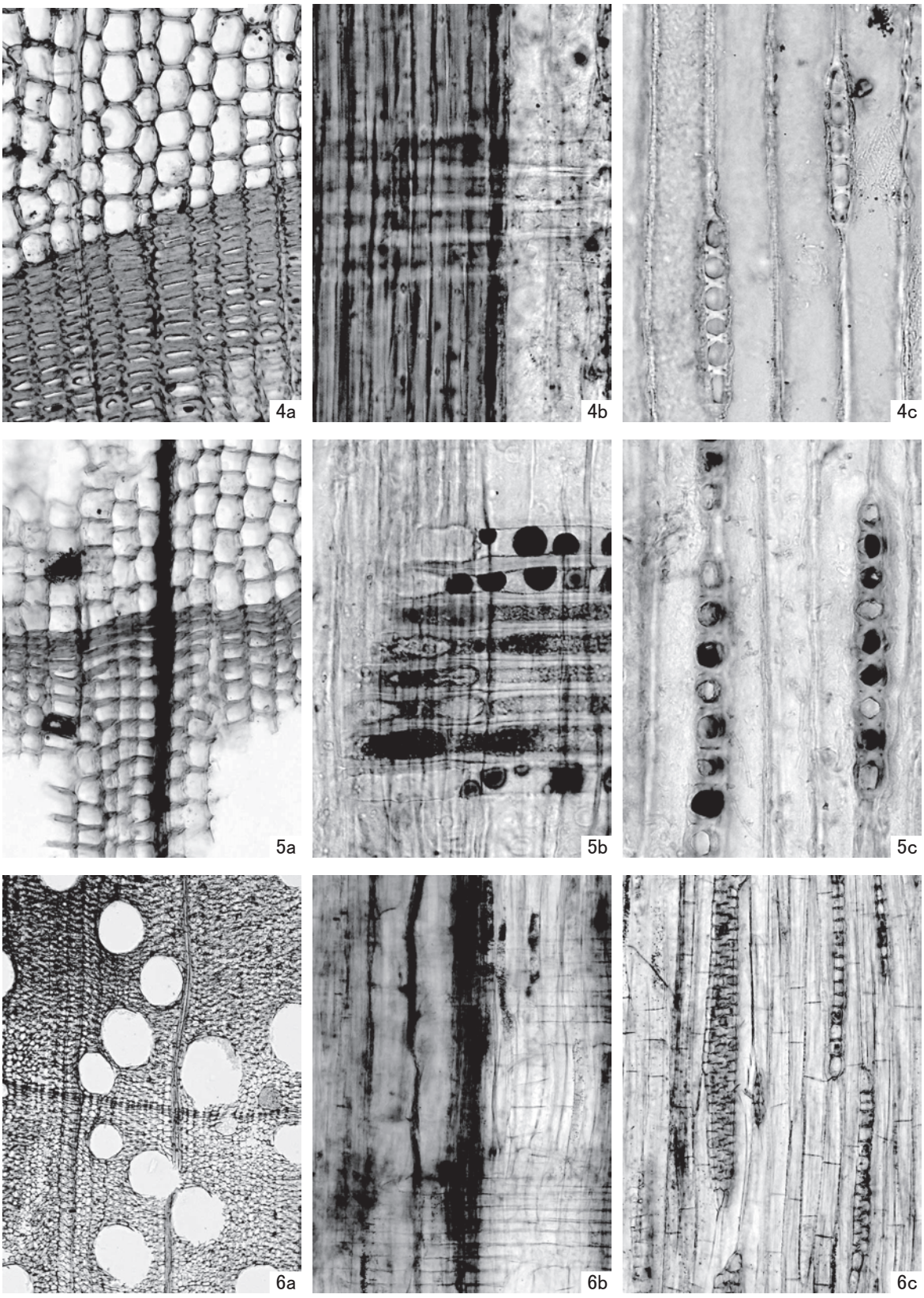
分析番号	図版№	登録番号	遺物名	年代	種類
1	1031	RW72 ①	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	ミズキ属
2	1205	RW72 ③	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	アスナロ
3	246	RW94	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	クリ
4	1168	RW120	薄板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属
5	1192	RW104	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
6	1236	RW148	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
7	975	RW153	厚い板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
8	1004	RW157 ②	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
9	1263	RW157 ①	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属
10	888	RW167	小板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
11	882	RW169	小板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
12	892	RW187	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
13	1021	RW184	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
14	1224	RW185	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属
15	978	RW209	部材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
16	1019	RW364 ③	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属
17	1228	RW367	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
18	1229	RW368	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
19	1024	RW371	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	ケヤキ
20	1218	RW373 ②	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属
21	1193	RW211	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
22	1266	RW237 ②	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
23	1188	RW231 ②	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	クリ
24	1006	RW249	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	オニグルミ
25	987	RW305	角材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	クリ
26	984	RW278	角材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
27	907	RW319	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
28	1054	RW320	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属
29	1056	RW346	部材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	ヤナギ属
30	988	RW381	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
31	1198	RW382	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
32	1050	RW429	太棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	トウヒ属
33	973	RW426	太棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	トウヒ属
34	1049	RW427	太棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	トウヒ属
35	1008	RW484	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
36	895	RW554 ②	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
37	1281	RW570	付け木	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属
38	1009	RW586	部材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
39	964	RW591	杭状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	コナラ属コナラ亜属コナラ節

分析番号	図版№	登録番号	遺物名	年代	種類
40	1058	RW592	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	ニレ属
41	1059	RW708	球状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
42	1230	RW710	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
43	1209	RW713	小板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属単維管束亜属
44	1238	RW718	小板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
45	1241	RW719	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
46	982	RW721	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	クリ
47	1286	RW723	串状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属
48	1210	RW725	小板	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
49	1268	RW727	付け木	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属
50	1167	RW730	小串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
51	1197	RW734	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
52	1279	RW735	付け木？	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属
53	1035	RW736	板材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	クリ
54	965	RW737	杭状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	オニグルミ
55	1175	RW738	斎串状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
56	1222	RW740	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
57	1203	RW744	小板片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
58	1187	RW745	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
59	1195	RW746	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
60	1154	RW747	串片？	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
61	247	RW751	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
62	873	RW764	曲げ物板	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
63	874	RW765	曲げ物板	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	アスナロ
64	1194	RW766	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
65	1185	RW767	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
66	1170	RW768	串状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
67	1151	RW769	串状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
68	1274	RW771	付け木	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
69	1169	RW772	斎串	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
70	1161	RW773	串状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
71	1157	RW774	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
72	1148	RW775	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
73	1149	RW776	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	トウヒ属
74	1163	RW777	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
75	1160	RW778	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
76	1013	RW779	削り板	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
77	1221	RW780	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
78	1211	RW781	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
79	1215	RW782	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	トウヒ属
80	1164	RW783	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
81	1152・1153	RW784	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
82	1147	RW786	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
83	1165	RW787	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
84	1166	RW788	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属単維管束亜属
85	1181	RW789	串片	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
86	1155	RW790	串片？	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
87	1180	RW791	串片？	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
88	1158	RW792	串片？	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属
89	1055	RW793	太棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	トウヒ属
90	1062	RW794	太棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	トウヒ属
91	1060	RW795	太棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	カツラ
92	1061	RW796	楕円棒	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	トウヒ属
93	1042	RW797	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	トウヒ属
94	970	RW798	杭状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	トウヒ属
95	969	RW799	杭状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	ニレ属
96	1048	RW800	球状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	カバノキ属
97	994	RW801	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
98	1212	RW802	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
99	1051	RW803	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ科
100	1288	RW805	串片？	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	クリ
101	1225	RW806	板状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	スギ
102	1039	RW807	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	イヌエンジュ
103	1041	RW808	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	コナラ属
104	1283	RW809	棒状	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属単維管束亜属
105	1063	RW460	棟材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	クリ
106	102	RW600	箱材	9 世紀後半～ 10 世紀初頭	マツ属複維管束亜属



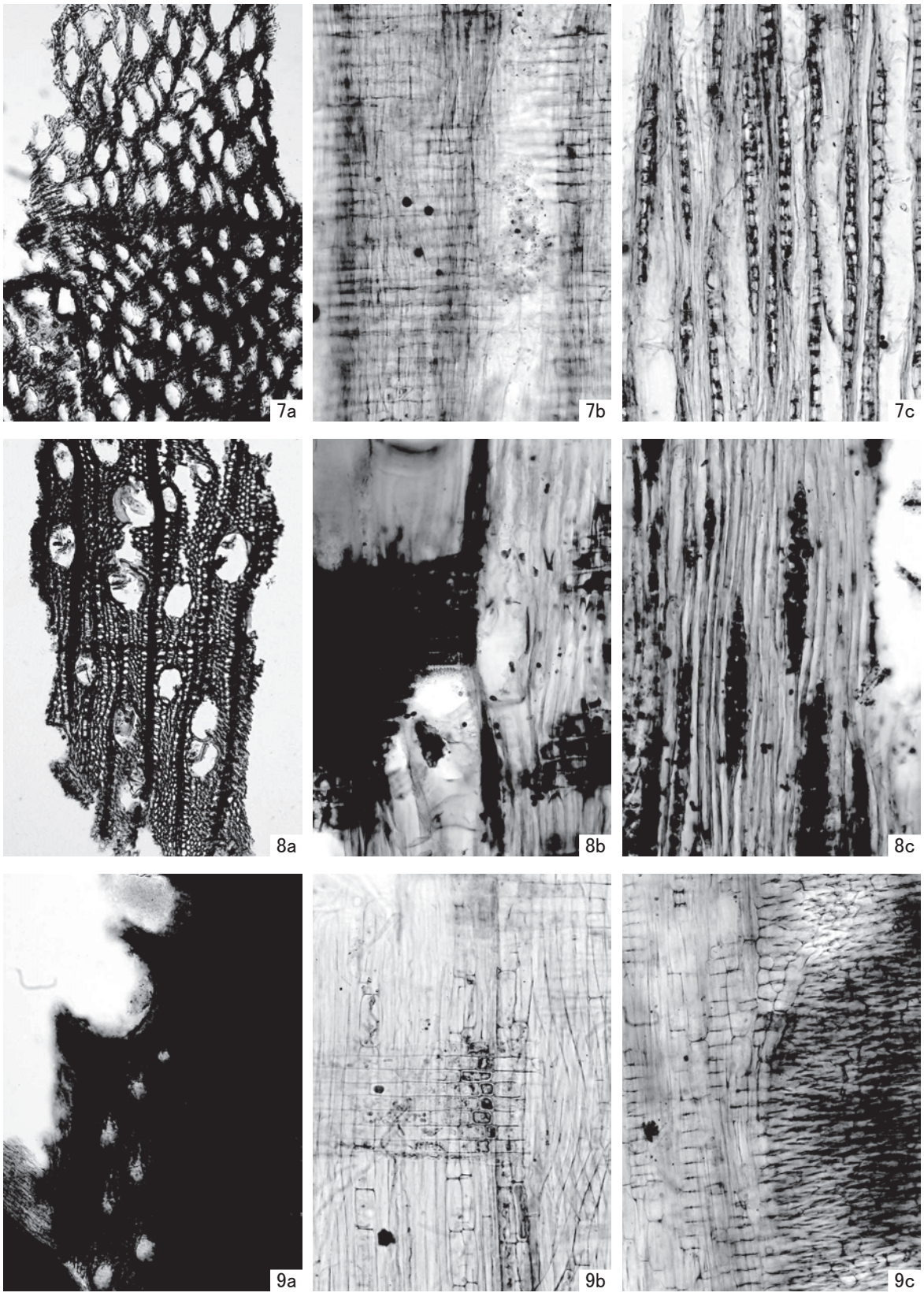
1.マツ属複維管束亜属(RW570)
2.マツ属単維管束亜属(RW713)
3.トウヒ属(RW427)
　a：木口, b：柾目, c：板目

第 23 図　蝉田遺跡出土の木材①



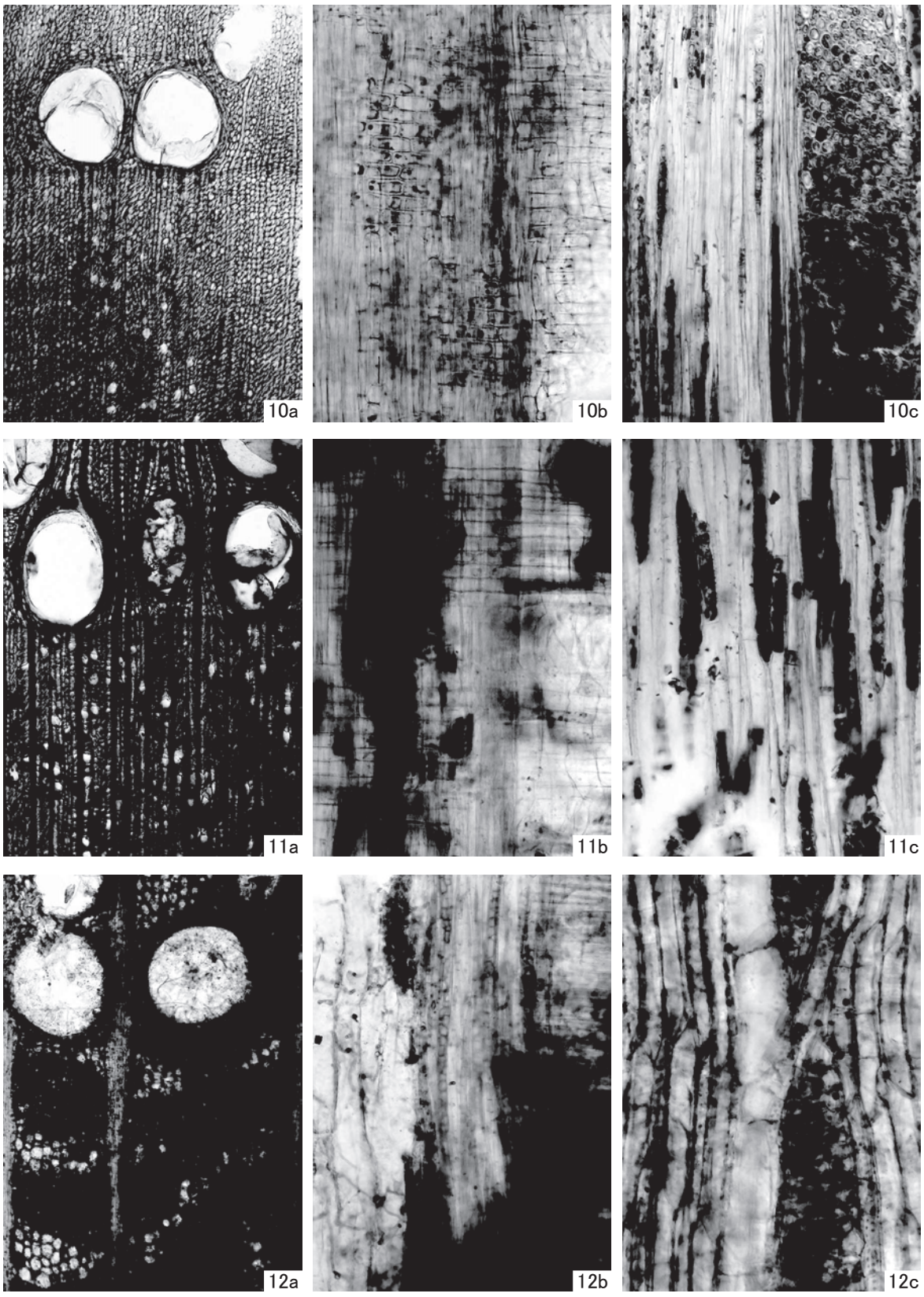
4.スギ(RW787)
5.アスナロ(RW72③)
6.オニグルミ(RW249)
　a：木口, b：柾目, c：板目

第 24 図　蝉田遺跡出土の木材②



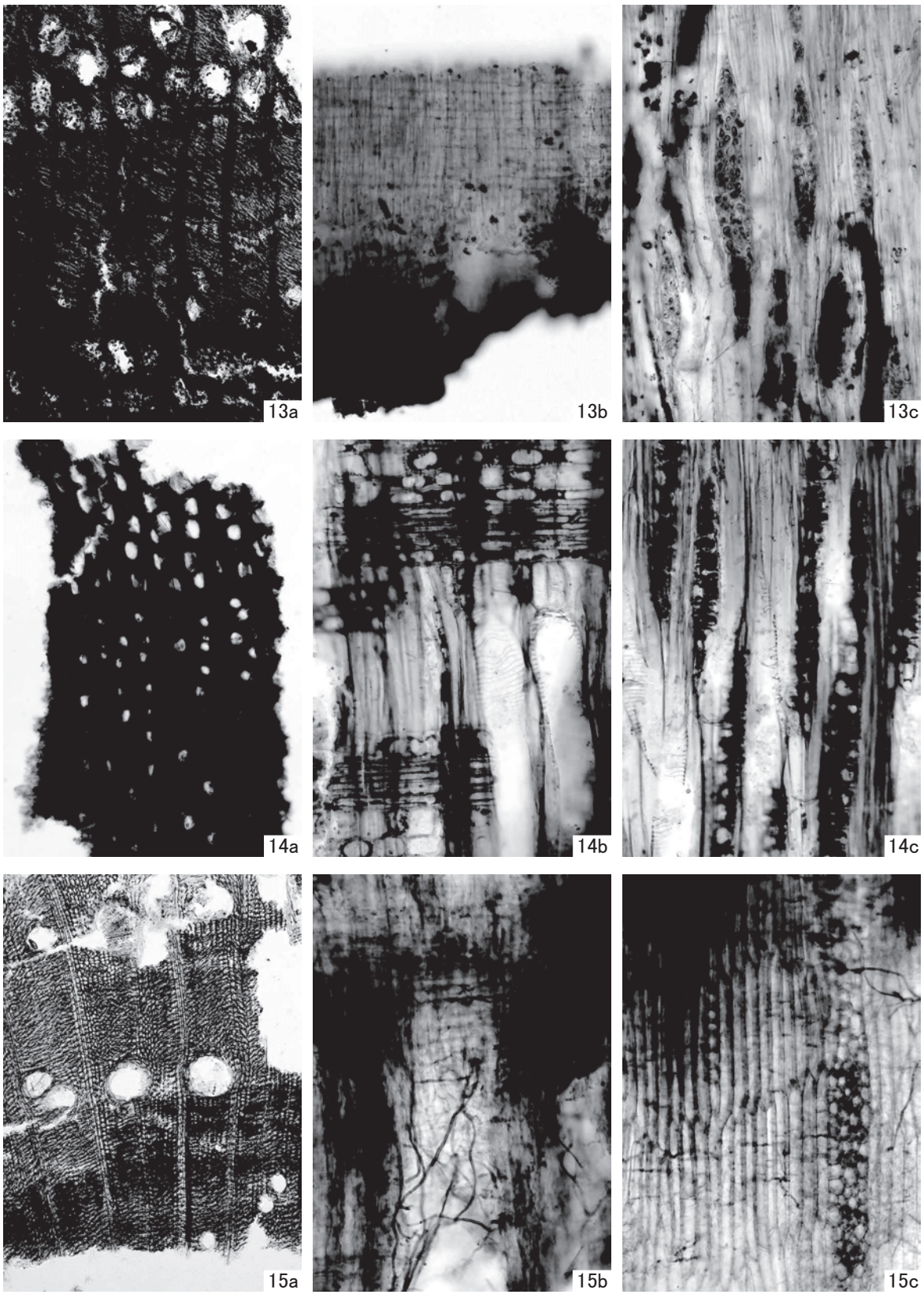
7.ヤナギ属(RW346)
8.カバノキ属(RW800)
9.コナラ属コナラ亜属クヌギ節(RW801)
　a：木口, b：柾目, c：板目

第 25 図　蝉田遺跡出土の木材③



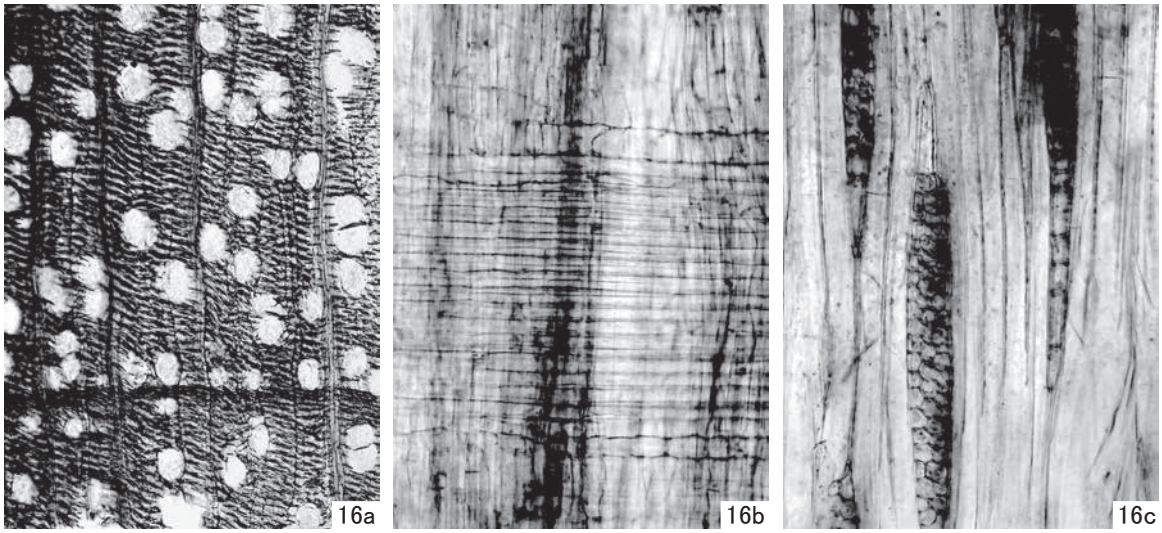
10.コナラ属コナラ亜属コナラ節(RW591)
11.クリ(RW94)
12.ケヤキ(RW371)
　a：木口, b：柾目, c：板目

第 26 図　蝉田遺跡出土の木材④

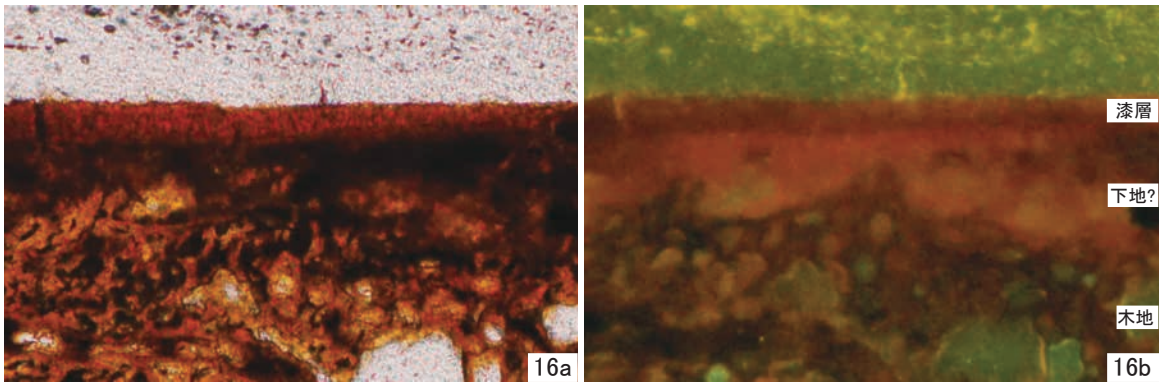


13.ニレ属(RW592)
14.カツラ(RW795)
15.イヌエンジュ属(RW807)
　a：木口, b：柾目, c：板目

第 27 図　蝉田遺跡出土の木材⑤



16.ミズキ属(RW72①)
　a：木口, b：柾目, c：板目



17.塗膜断面(RW795)
　a：透過光,b：落射蛍光

第 28 図　蝉田遺跡出土の木材⑥・塗膜断面

8　出土木材・炭化材の樹種同定（5）

（株）加速器分析研究所

はじめに

山形県村山市に所在する蟬田遺跡の自然流路、土坑から出土した多数の木材および炭化材の樹種を同定し、当時の用材に関わる資料を作成する。

1　試　料

試料となった木質遺物は、自然流路 SG6 から出土した 18 点（試料 1 ～ 6、8 ～ 19）、SG50 から出土した 1 点（試料 7）、土坑から出土した 1 点（試料 20）である。SG6 の試料には一部が炭化しているものがあり、生木が 17 点（試料 1 ～ 6､8 ～ 17､19）､炭化材が 1 点（試料 18）ある。SG50 から出土した試料 7、土坑から出土した試料 20 は生木の状態である。試料 6 は大型材、試料 20 は箱状の木製品とされる。

試料 1 ～ 6、8 ～ 19 が出土した自然流路 SG6 からは、8 世紀から 10 世紀前半の土器が出土している。試料 20 が出土した土坑の上面からは、近世の可能性のある磁器が出土した。

なお、これら樹種同定と同一試料の放射性炭素年代測定が実施されている。SG6 出土試料には、土器が示す時期と重なる年代値を示したものと、それより古い年代値を示したものがある。それらのうち、試料 2 は 2 万年前を超える極端に古い値を示し、流路の形成、埋没過程で古い年代のものが混入した疑いがある。SG50 出土の試料 7 は、5 ～ 6 世紀の較正年代を示した。土坑出土の試料 20 は、上面から出土した磁器から推定される年代と整合的な結果となっている（別稿年代測定参照）。

2　分析方法

剃刀を用いて、木片から木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は、自然乾燥させた後、3 断面の割断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料の観察で確認された特徴を現生標本および森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

3　結　果

樹種同定結果を表 13 に示す。木材・炭化材は、針葉樹 3 種類（マツ属複維管束亜属・トウヒ属・スギ）と広葉樹 5 種類（オニグルミ・ヤナギ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・トチノキ）に同定された。なお、試料 4・19 の 2 点は樹皮（師部）のみで、木部細胞が含まれていないため、種類は不明である。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属（Pinus subgen. Diploxylon）　マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15 細胞高。

・トウヒ属（Picea）　マツ科

軸方向組織は、観察した範囲では仮道管のみで構成される。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。放射柔組織の細胞壁は厚く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。放射仮道管の有縁壁孔のフチは主としてトウヒ型。分野壁孔はトウヒ型で、1 分野に 3-5 個。放射組織は単列、1-20 細胞高。

・スギ（Cryptomeria japonica (L. f.) D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・オニグルミ（Juglans mandshurica Maxim. subsp. sieboldiana (Maxim.) Kitamura）　クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または 2-3 個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1-3 細胞幅、1-40 細胞高。

・ヤナギ属（Salix）　ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または 2-3 個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15 細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Quercus sect. Cerris）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1 ～ 3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 ～ 20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（Quercus subgen. Quercus sect. Prinus）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・トチノキ（Aesculus turbinata Blume）　トチノキ科トチノキ属

散孔材で、道管は単独または 2-3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高で層階状に配列する。

4　考　察

木材・炭化材は合計 8 種類に同定された。各種類の材質は以下の通りである。針葉樹のマツ属複維管束亜属は、針葉樹としてはやや重硬な部類に入り、強度と保存性が高い。トウヒ属は、やや軽軟な部類に入り、保存性も低いが、強度は比較的高い。スギは、木理が通直で割裂性と耐水性が比較的高い。広葉樹のオニグルミ、クヌギ節、コナラ節は、比較的重硬で強度が高い。ヤナギ属とトチノキは、軽軟な部類に入り、強度と保存性は低い。

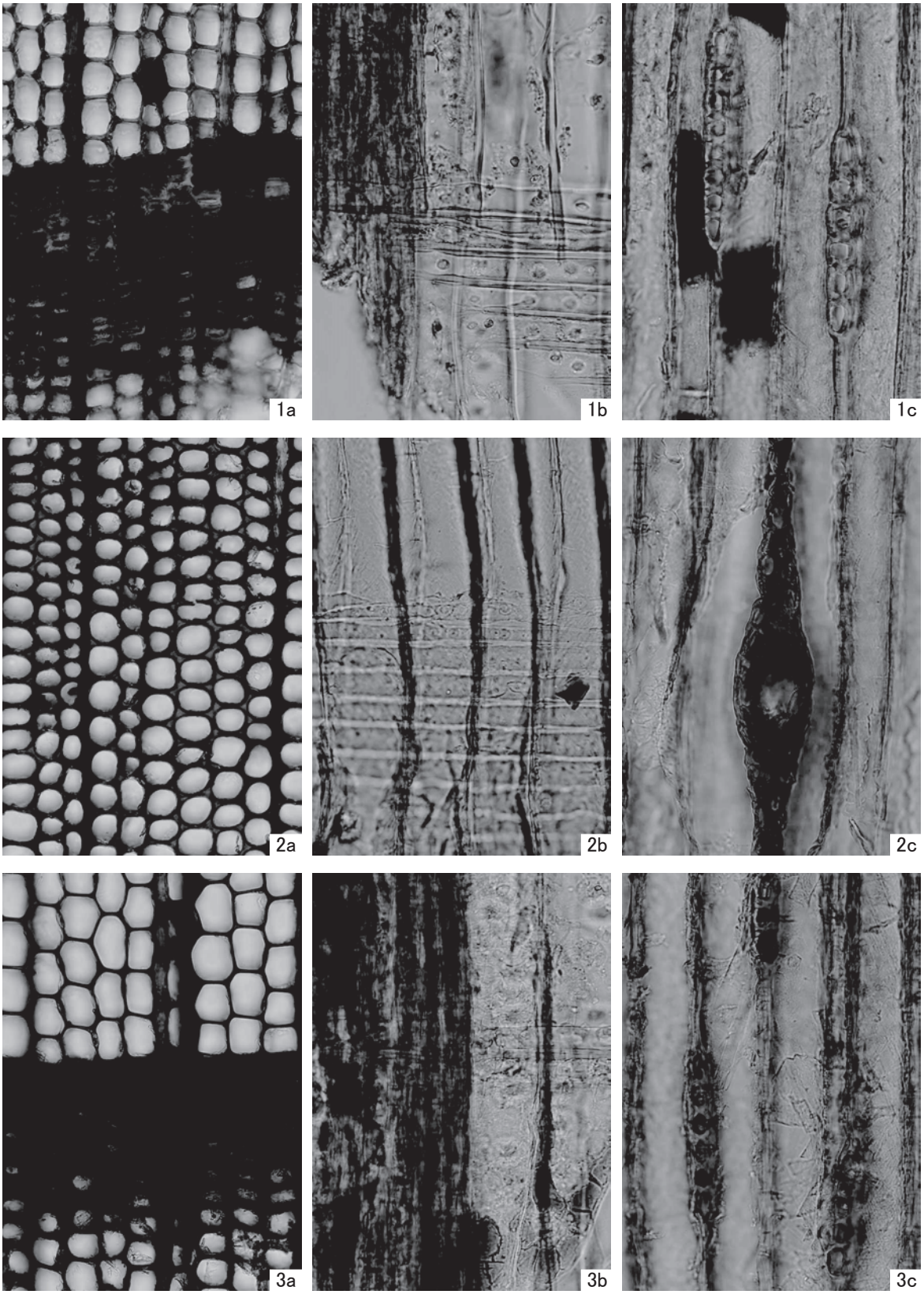
SG6 や SG50 から出土した木材のうち、大型材はコナラ節であり、強度を要する用途・部位に用いられた可能性がある。その他のオニグルミ、クヌギ節、コナラ節の木材（試料 5 ～ 7、13、14）についても同様の可能性が考えられる。一方、スギやマツ属複維管束亜属（試料 1、3、8 ～ 10、12）については、加工性や耐水性を要する器種・部位への利用が推定される。トウヒ属（試料 2）については、人が関わったとすれば、加工性が考慮されている可能性があるが、スギやマツ属複維管束亜属に比べて保存性が劣るため、異なる用途・部位が想定される。ただし、上述のように他の試料に比べて極端に古い年代値を示したことから、SG6 から出土する土器等に伴うものではないと判断される。広葉樹のヤナギ属やトチノキ（試料 11、15 ～ 17）については、加工性は必要とするが、強度や保存性は必要としないような用途・器種への利用が推定される。

一方、SG6 から出土した炭化材（試料 18）は、表面は炭化しているが、内部は未炭化の状態である。ヤナギ属に同定され、河道の周囲にヤナギ属が生育していた可能性がある。

土坑から出土した試料 20 は、鉄釘を使用した箱状の木製品である。マツ属複維管束亜属に同定され、加工性の他に保存性も考慮された可能性がある。

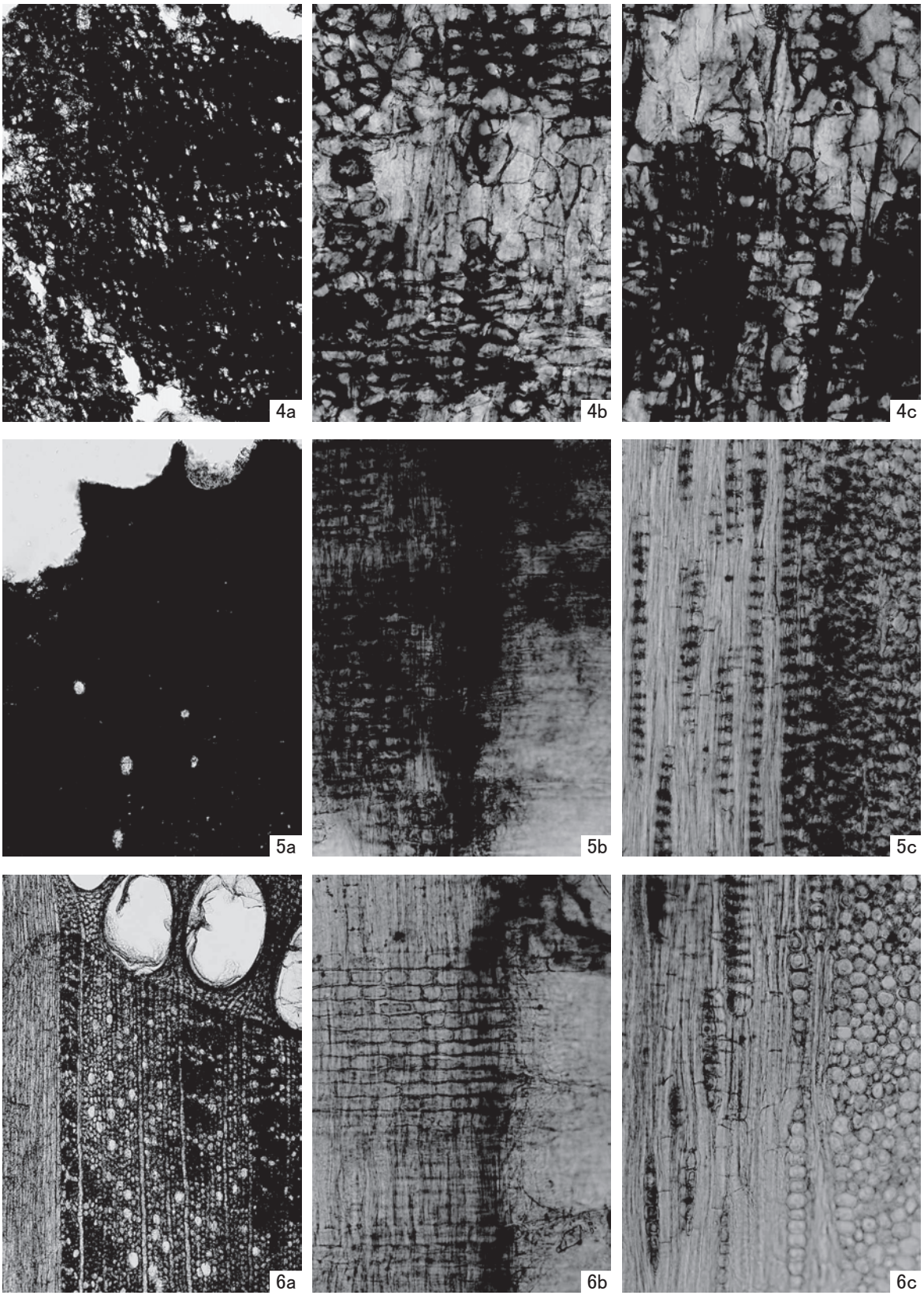
表 13　樹種同定結果一覧（3）

No.	図版№	登録№	出土地点	樹種
1	993	722	SG6　下層	スギ
2	1026	726	SG6　下層	トウヒ属
3	898	724	SG6　下層	スギ
4	1047	350	SG6	樹皮
5	971	750	SG6　下層	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
6	1063	460	SG6	コナラ属コナラ亜属コナラ節
7	246	94	SG50	オニグルミ
8	-	785	SG6	スギ
9	935	503	SG6	スギ
10	1206	376	SG6	スギ
11	988	381	SG6	ヤナギ属
12	1290	384	SG6	マツ属複維管束亜属
13	981	380 ②	SG6	コナラ属コナラ亜属コナラ節
14	1234	380 ③	SG6	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
15	1020	385	SG6	ヤナギ属
16	1029	374	SG6	ヤナギ属
17	-	―	SG6	トチノキ
18	-	483	SG6	ヤナギ属
19	-	―	SG6	樹皮
20	102	600	SK111	マツ属複維管束亜属



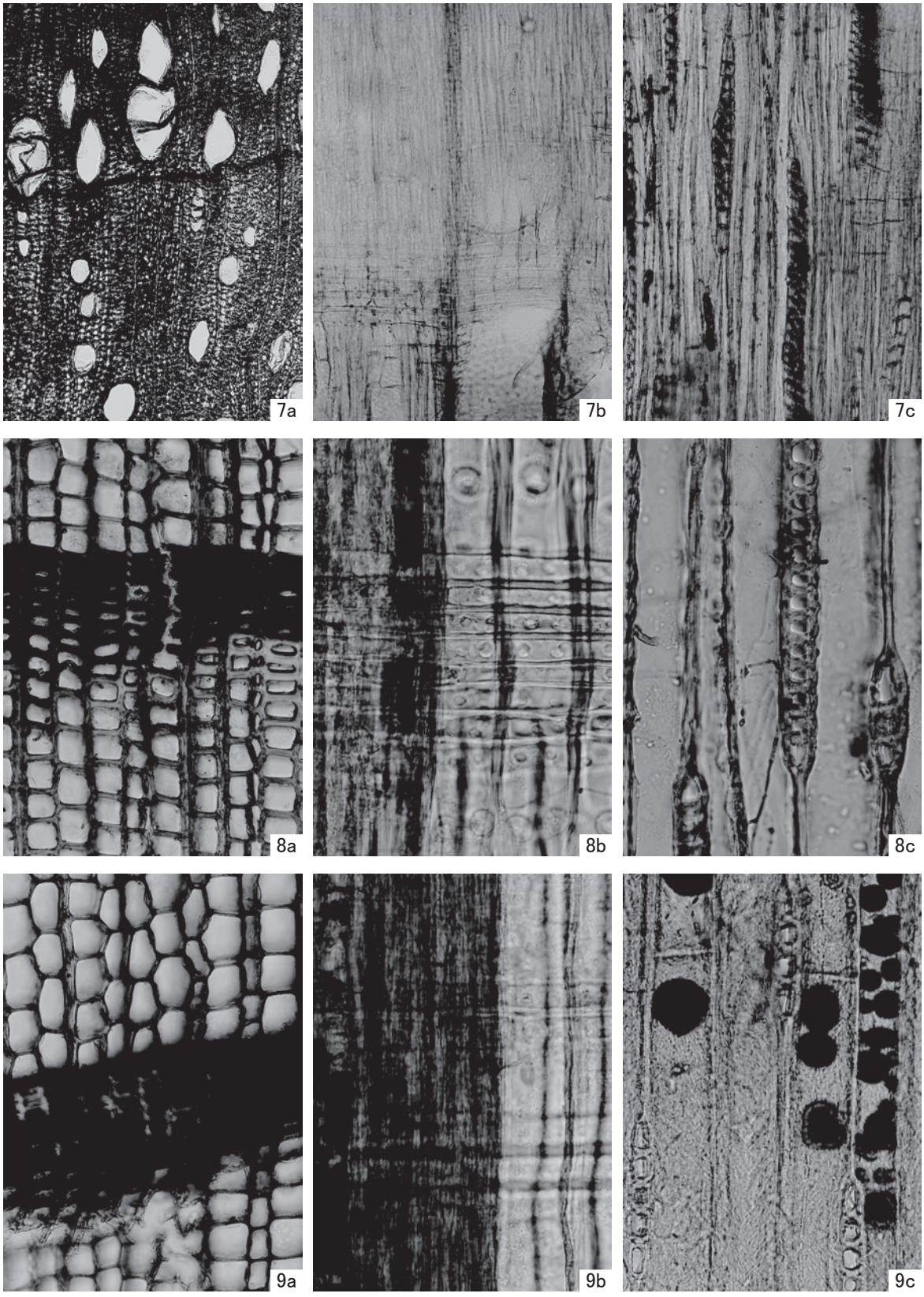
1.スギ(試料1)
2.トウヒ属(試料2)
3.スギ(試料3)
　a：木口, b：柾目, c：板目

第 29 図　出土の木材・炭化材①



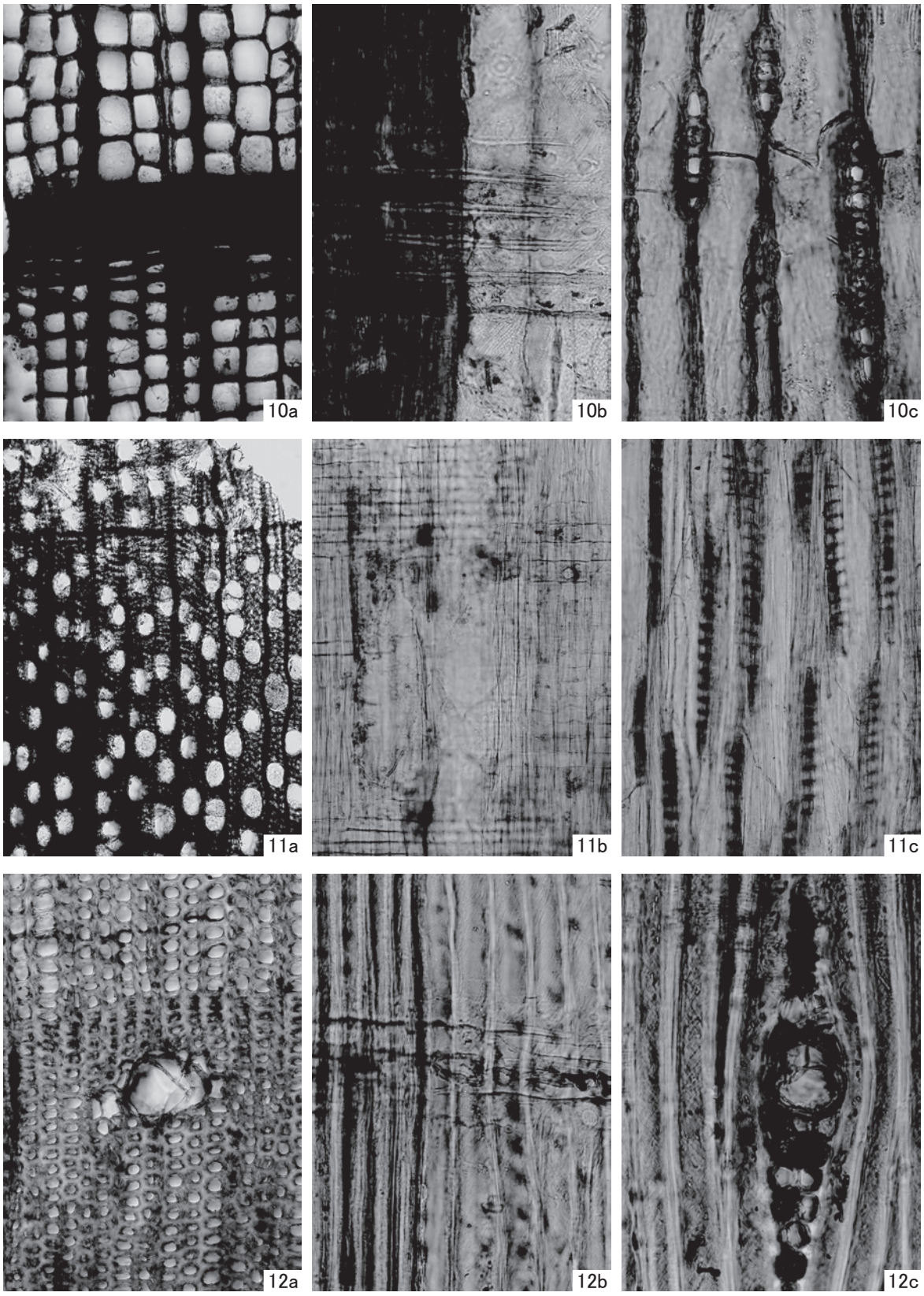
4.樹皮(試料4)
5.コナラ属コナラ亜属クヌギ節(試料5)
6.コナラ属コナラ亜属コナラ節(試料6)
　a：木口, b：柾目, c：板目

第 30 図　出土の木材・炭化材②



7.オニグルミ(試料7)
8.スギ(試料8)
9.スギ(試料9)
　a：木口, b：柾目, c：板目

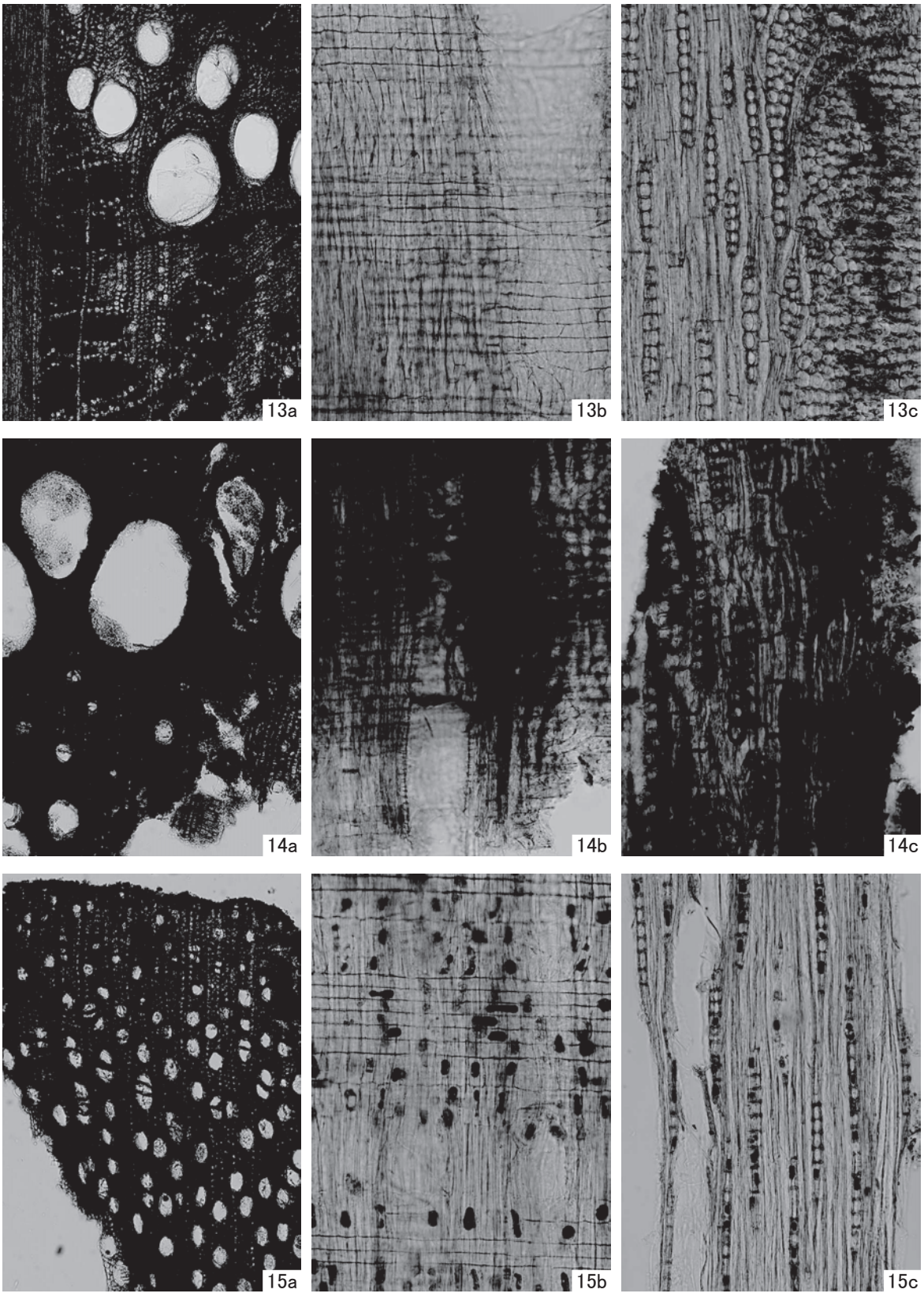
第 31 図　出土の木材・炭化材③



10.スギ(試料10)
11.ヤナギ属(試料11)
12.マツ属複維管束亜属(試料12)
　a：木口, b：柾目, c：板目

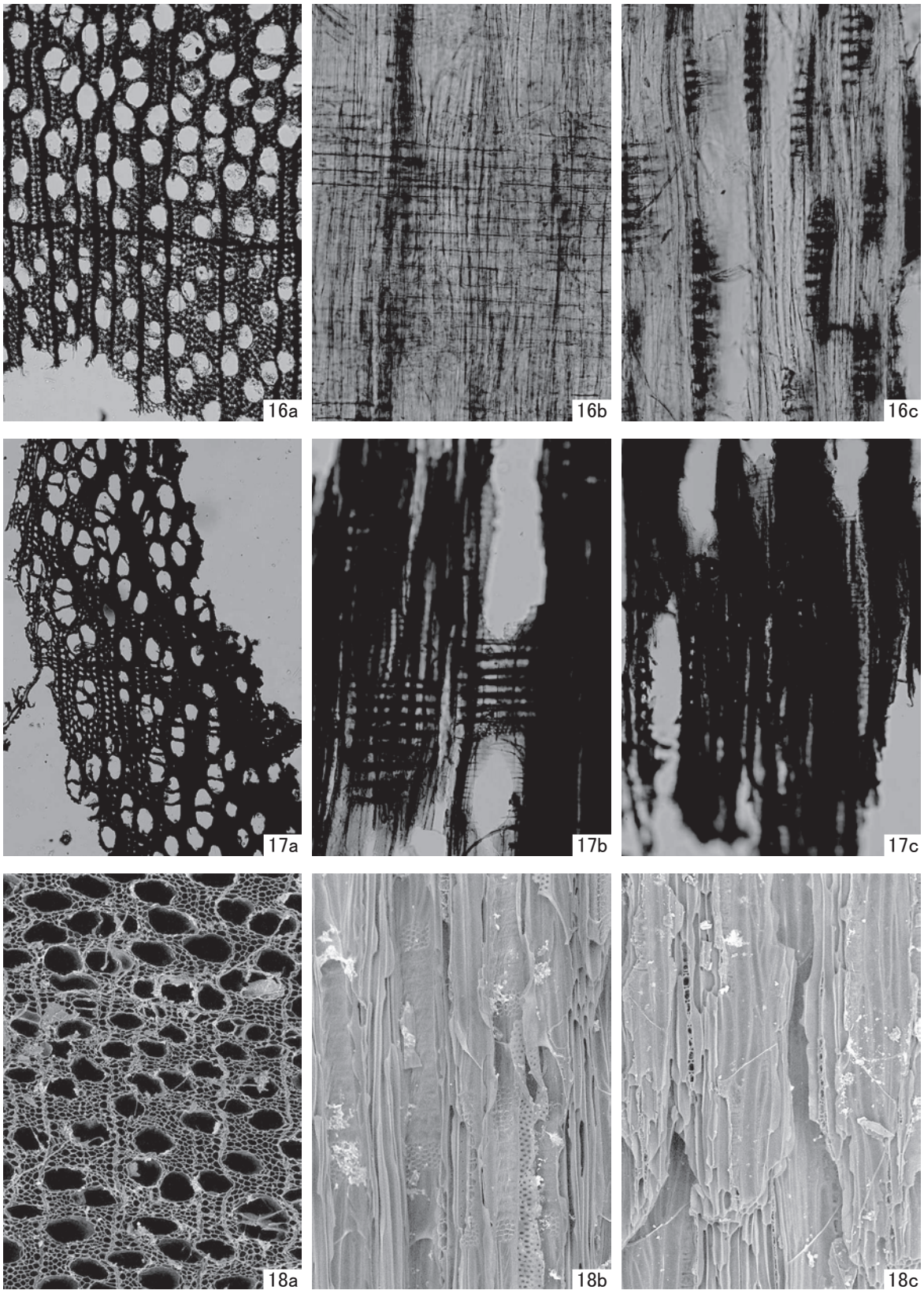
100μm:11a
100μm:10・12a,11b,c
100μm:10・12b,c

第 32 図　出土の木材・炭化材④



13.コナラ属コナラ亜属コナラ節(試料13)
14.コナラ属コナラ亜属クヌギ節(試料14)
15.ヤナギ属(試料15)
　a：木口, b：柾目, c：板目

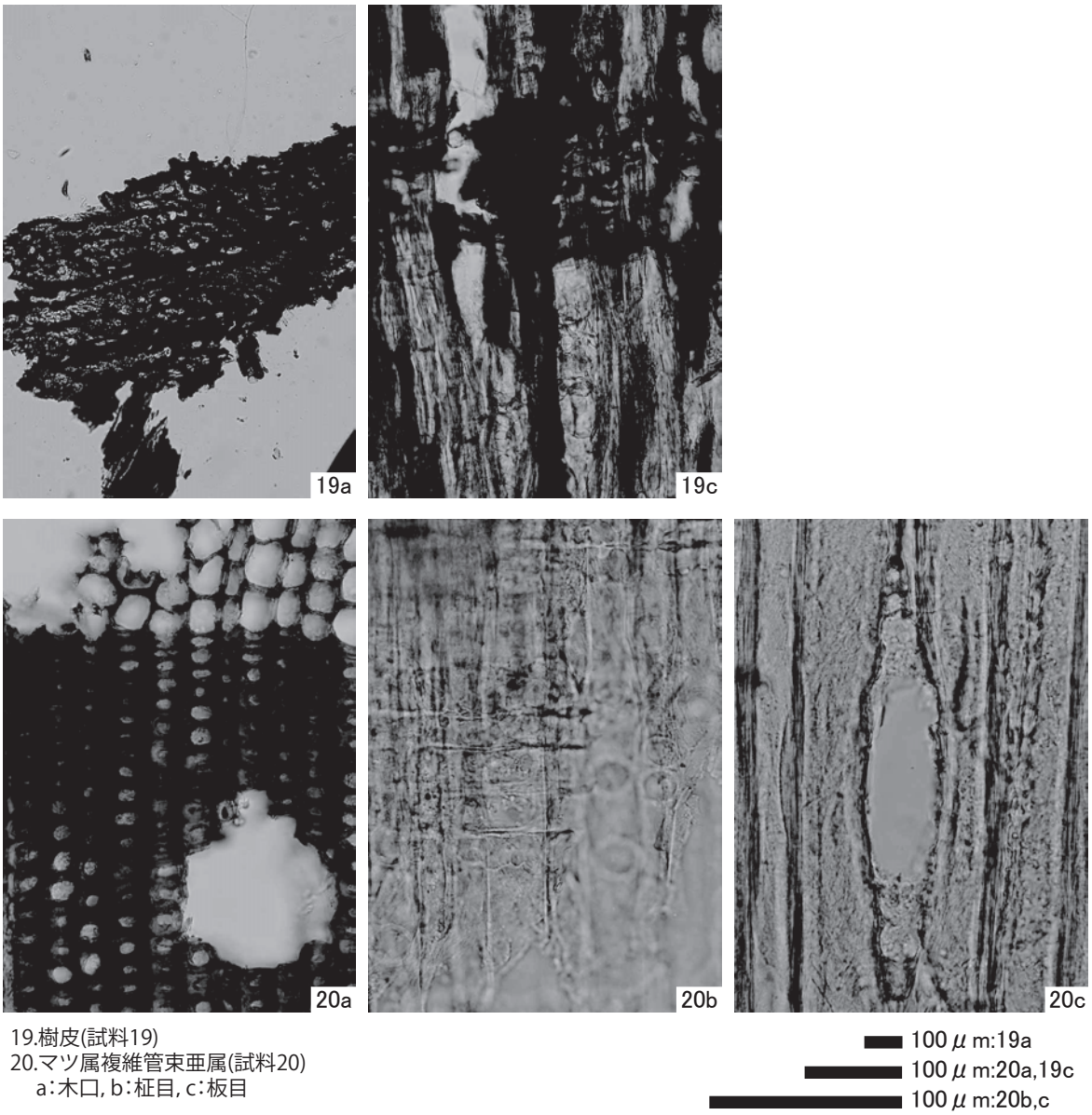
第 33 図　出土の木材・炭化材⑤



16.ヤナギ属(試料16)
17.トチノキ(試料17)
18.ヤナギ属(試料18)
　a：木口, b：柾目, c：板目

100 μm:16−17a
100 μm:18a
100 μm:16−17b,c

第 34 図　出土の木材・炭化材⑥



19.樹皮(試料19)
20.マツ属複維管束亜属(試料20)
　a：木口, b：柾目, c：板目

第 35 図　出土の木材・炭化材⑦

引用文献

林昭三　1991 『日本産木材　顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料 31』 京都大学木質科学研究所　p.81-181
伊東隆夫　1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料 32』 京都大学木質科学研究所　p.66-176
伊東隆夫　1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料 33』 京都大学木質科学研究所　p.83-201
伊東隆夫　1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料 34』 京都大学木質科学研究所　p.30-166
伊東隆夫　1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料 35』 京都大学木質科学研究所　p.47-216
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編） 2006 『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘（日本語版監修） 海青社　p.70 ［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
島地謙・伊東隆夫　1982 『図説木材組織』 地球社　p.176
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編） 1998 『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修） 海青社　p.122 ［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］

9　出土漆器の塗膜分析（1）

（公財）山梨文化財研究所

1．はじめに

蝉田遺跡より出土した漆器について、塗膜薄片を作製し、塗膜構造と材料について検討した。

2．試料と方法

分析対象は、SD69 より出土した近現代の漆器椀 2 点である（表 14）。内外面より塗膜片を少量採取し、分析試料とした。なお、分析にあたって、黒沼が試料採取、藤根が赤外分光分析、米田・竹原が薄片作製、竹原が顕微鏡観察・X 線分析を行い、竹原がまとめた。また、椀本体の樹種および木取りについての詳細は、樹種同定の項を参照されたい。

分析は、表面の漆成分を調べるために赤外分光分析を行った。また、塗膜構造を調べるために薄片を作製して、光学顕微鏡と走査型電子顕微鏡による観察、および X 線分析を行った。

赤外分光分析は、手術メスを用いて各漆器の内側塗膜および外面塗膜から一部採取した試料を、厚さ 1mm 程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約 7 トンで加圧整形し、測定試料とした。分析装置は日本分光（株）製フーリエ変換型顕微赤外分光光度計 FT/IR-410、IRT-30-16 を使用し、透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

塗膜観察用の薄片は、高透明エポキシ樹脂を使用して包埋し、薄片作製機および精密研磨フィルム（#1000）を用いて厚さ約 50 μ m 前後に仕上げ、まず走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製 JSM-5900LV）による反射電子像観察を行った。さらに、主に赤色塗膜層を対象として、電子顕微鏡に付属するエネルギー分散型 X 線分析装置（同 JED-2200）による定性・簡易定量分析を行った。その後、再度精密研磨フィルム（#1000）を用いて厚さ約 20 μ m 前後に調整した後、生物顕微鏡を用いて塗膜構造の観察を行った。

3．結果および考察

以下に、塗膜分析結果について述べる。なお、第 36 図の赤外吸収スペクトルは、縦軸は透過率（%R）、横軸が波数（Wavenumber (cm^{-1})；カイザー）で、実線が内側塗膜、一点鎖線が外面塗膜、点線が生漆の赤外吸収スペクトルを示す。また、吸収スペクトルに示した数字は、生漆の赤外吸収位置を示す（表 15）。各塗膜の特徴は表 17 にまとめた。

［分析 No.1（椀外面黒色塗膜、内面赤色塗膜）］

外面の塗膜薄片では、木胎 a 層、炭粉と漆からなる下地 b 層、透明漆層 c 層が観察された（第 37 図 1a、1b）。透明漆層 c 層の表面は劣化、変色しているとみられる。赤外分光分析では、漆などの有機物に見られる炭化水素の吸収（吸収 No.1 および No.2）が明瞭に見られた。また、生漆を特徴づけるウルシオールの一部吸収（吸収 No.7）が明瞭に認められた（第 36 図 1）。赤外分光分析の結果から、漆と同定された。

内面の塗膜薄片では、木胎 a 層、炭粉と漆からなる下地 b 層、赤色漆層 c 層が観察された（第 37 図 2a、2b）。赤外分光分析では、漆などの有機物に見られる炭化水素の吸収（吸収 No.1 および No.2）が明瞭に見られた。また、生漆を特徴づけるウルシオールの一部吸収（吸収 No.7）が明瞭に認められた（第 36 図 1）。外面塗膜と比較して、漆成分が低いために吸収の強度が弱い。赤外分光分析の結果から、漆と同定された。赤色漆層 c 層からは、X 線分析で鉄（Fe_2O_3）が多く検出され（表 16）、ベンガラの使用とみられる

［分析 No.2（椀外面黒色塗膜、内面赤色塗膜）］

外面の塗膜薄片では、木胎 a 層、下地 b1、b2 層、黒色漆層 c 層が観察された（第 37 図 3a、3b）。下地 b1 層は炭粉、b2 層は後述の X 線分析結果より土からなると考えられる。これら下地の膠着材は不明であった。黒色漆層 c 層は、油煙等の黒色顔料が混和されているとみられる。赤外分光分析では、漆などの有機物に見られる炭化水素の吸収（吸収 No.1 および No.2）が明瞭に見られた。また、生漆を特徴づけるウルシオールの一部吸収（吸収 No.7）が明瞭に認められた（第 36 図 2）。なお、ウルシオール吸収 No.7 に相当する吸収において若干のズレが見られた。夾雑物（漆以外の有機物など）の影響がみられるが、主な塗膜の成分は漆と考えられる。下地 b2 層からは、X 線分析でアルミニウム（Al_2O_3）、ケイ素（SiO_2）、鉄（Fe_2O_3）が検出されており（表 16）、土

が使用されていたと判断される。

内面の塗膜薄片では、木胎 a 層、炭粉からなる下地 b 層、黒色漆層 c1 層、赤色漆層 c2 層が観察された（第 37 図 4a、4b）。下地の膠着材は不明であった。なお、下地では外面で観察された b2 層に相当する層は観察されなかったが、採取試料が木胎から塗膜が剥離していた状態であったため、脱落している可能性がある。黒色漆層 c 層は、油煙等の黒色顔料が混和されているとみられる。赤外分光分析では、漆などの有機物に見られる炭化水素の吸収（吸収 No.1 および No.2）が明瞭に見られた。また、生漆を特徴づけるウルシオールの一部吸収（吸収 No.7）が明瞭に認められた（第 36 図 2）。なお、ウルシオール吸収 No.7 に相当する吸収において若干のズレが見られた。夾雑物（漆以外の有機物など）の影響がみられるが、主な塗膜の成分は漆と考えられる。赤色漆層 c 層からは、X 線分析で水銀（HgO）、硫黄（SO_3）が検出され（表 16）、水銀朱の使用が確認された。

4．おわりに

蝉田遺跡から出土した近現代の漆器について塗膜分析を行い、塗膜構造や材料について検討した。その結果、分析 No.1 は、内外面ともに炭粉漆下地が観察され、その上に外面は透明漆層が 1 層、内面はベンガラを用いた赤色漆層が 1 層塗られていた。

分析 No.2 は、内外面ともに炭粉下地が観察され、少なくとも外面からは炭粉下地の上に土の下地も観察された。その上に内外面ともに黒色漆層が 1 層、内面はさらに水銀朱を用いた赤色漆層が 1 層塗られていた。

表 14　分析対象一覧

分析 No.	図版 番号	出土 遺構	器種	直径 (cm)	厚さ (cm)	体積 (cm^3)	樹種	木取り	特徴	塗膜 分析面
1	195	SD69	漆器椀	10.4	2.0	216	ブナ属	横木取り	内面赤色、外面黒色	内外面
2	196	SD69	漆器椀	9.0	3.4	275	ブナ属	横木取り	内面赤色、外面黒色	内外面

表 15　生漆の赤外吸収位置とその強度

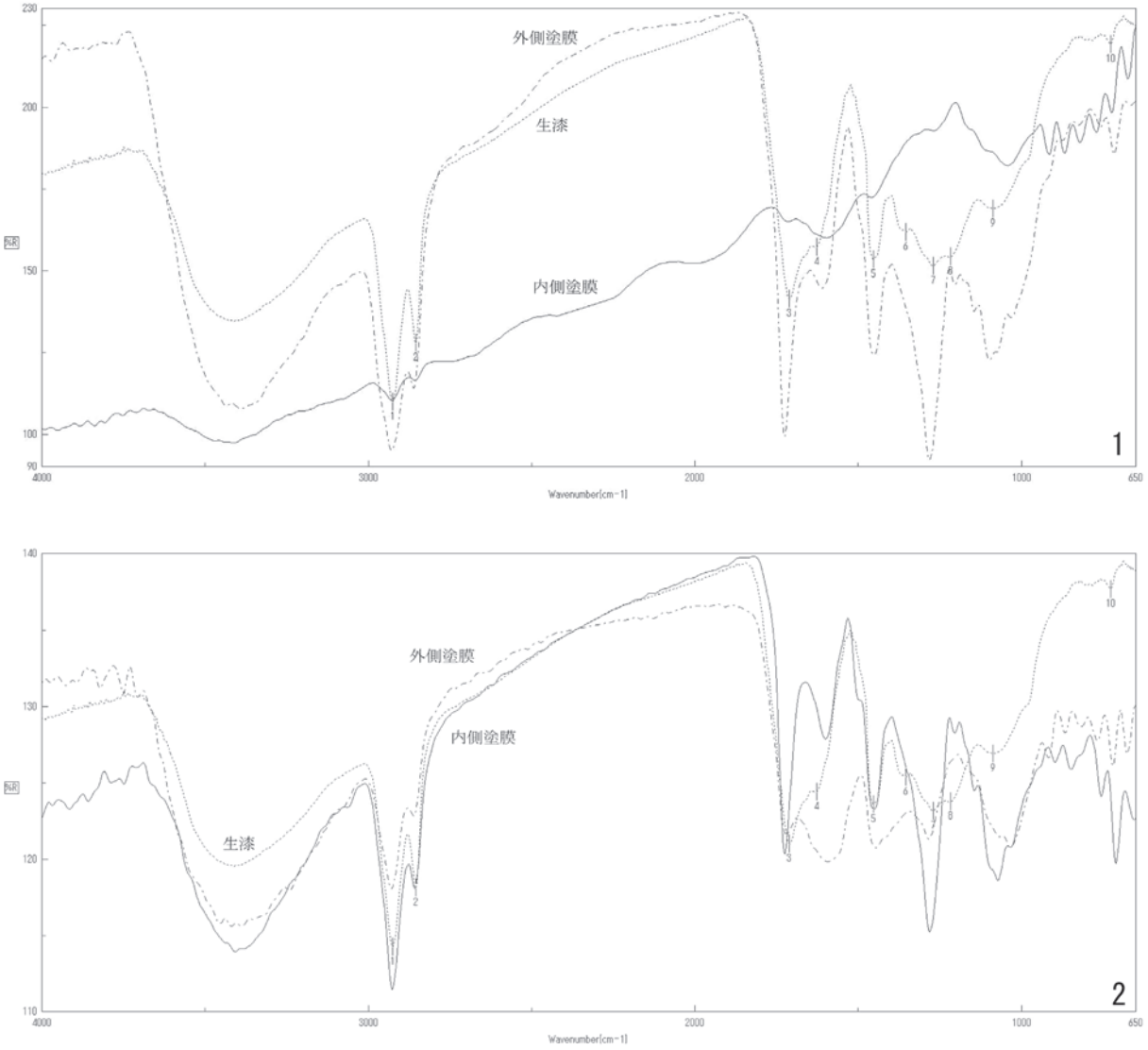
吸収 No.	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.534	
2	2854.13	36.217	
3	1710.55	42.035	
4	1633.41	48.833	
5	1454.06	47.195	
6	1351.86	50.803	ウルシオール
7	1270.86	46.334	ウルシオール
8	1218.79	47.536	ウルシオール
9	1087.66	53.843	
10	727.03	75.389	

表 16　赤色塗膜層等の X 線分析結果

分析 No.	塗膜層	C	Al_2O_3	SiO_2	SO_3	CaO	Fe_2O_3	HgO
1	内面	c 層	36.70	—	—	1.37	—	61.93	—
2	外面	b2 層	43.35	3.31	14.48	—	—	38.87	—
	内面	c2 層	63.94	—	2.42	7.86	1.80	8.87	15.10

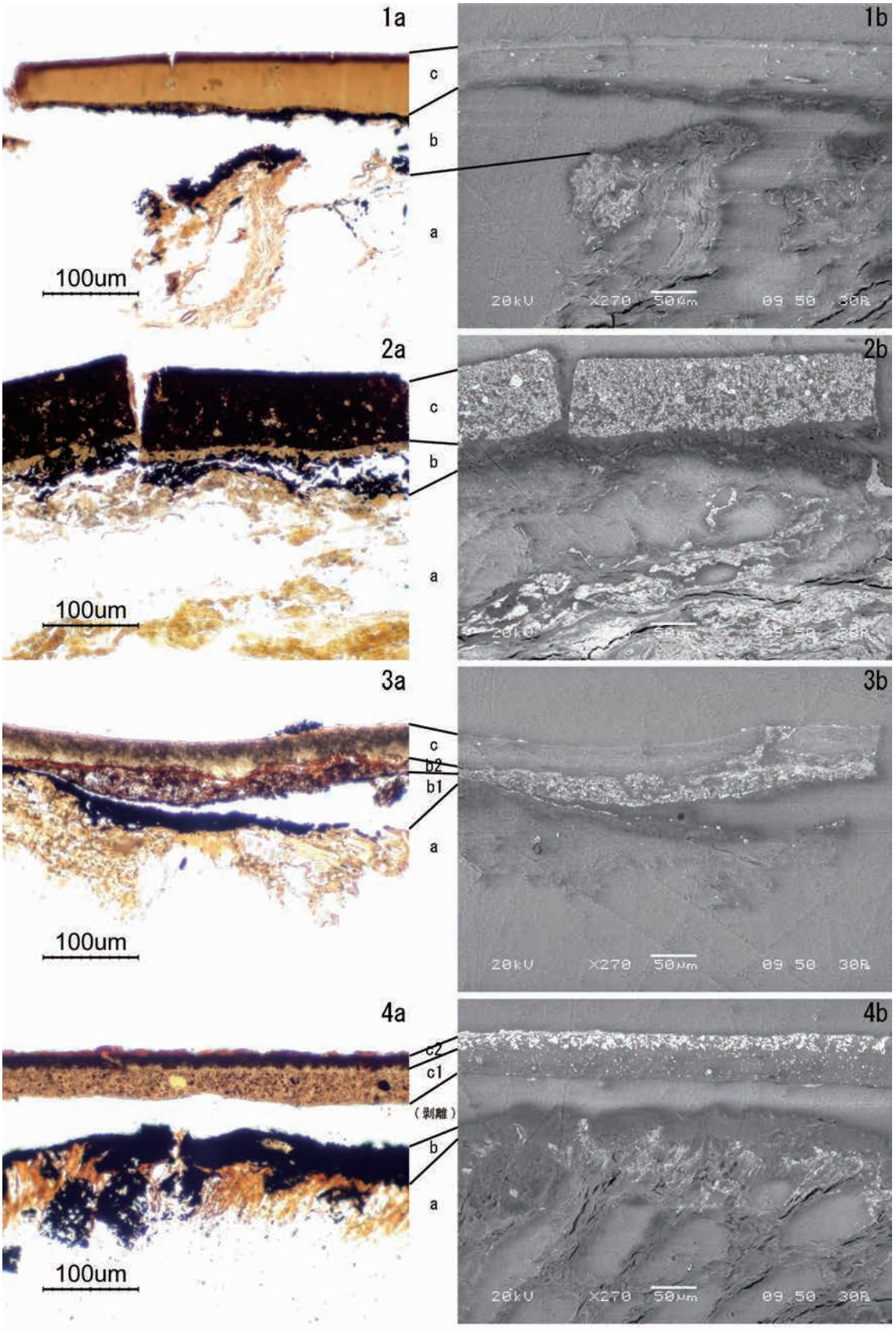
表 17　塗膜分析結果

分析 No.	採取塗膜	下地	塗膜層	
1	外面黒色塗膜	炭粉漆下地	1 層	透明漆層
	内面赤色塗膜	炭粉漆下地	1 層	赤色漆層（ベンガラ）
2	外面黒色塗膜	炭粉、土	1 層	黒色漆層
	内面赤色塗膜	炭粉	2 層	黒色漆層、赤色漆層（水銀朱）



1. 分析№ 1 漆器塗膜の赤外吸収スペクトル　2. 分析№ 2 漆器塗膜の赤外吸収スペクトル

第 36 図　漆器塗膜の赤外吸収スペクトル（縦軸が透過率（%R）、横軸が波数（Wavenumber(㎝ $^{-1}$)）



1. 分析No. 1 椀外面黒色塗膜　2. 分析No. 1 椀内面赤色塗膜　3. 分析No. 2 椀外面黒色塗膜　4. 分析No. 2 椀内面赤色塗膜

第 37 図　漆製品の塗膜構造（a）と反射電子像（b）

10　出土漆製品の塗膜分析（2）

㈱吉田生物研究所

1．はじめに

山形県に所在する、蝉田遺跡の平安時代の川跡から出土した漆製品３点について、その製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

2．調査資料

調査した資料は、表 18 に示す平安時代の漆製品３点である。

3．調査方法

表 18 の資料本体の塗膜付着部分から数 mm 四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

4．断面観察

塗膜断面の観察結果を、表 19 と以下の文章に示す。
塗膜構造：下層から、素地、下地、漆層が観察された。資料ごとにその構造を記す。

No.1 内面：下層から、淡茶褐色を呈する塗膜の中に、円形、楕円形、隅丸方形などに白く抜けた部分が観察された。この白く抜けた部分は、集まってほぼ円形にまとまっている。これは、植物繊維が集められ１本の糸となったもので、その横断面が円形を呈している。この糸の横断面に沿うように湾曲して白く抜けた部分が見られる。これは植物繊維の縦断面が集まった糸の縦断面である。糸の横断面と縦断面がともに観察されることから、これは布の断面である。布の中には淡黄褐色を呈する漆が十分にしみこんでいる様子が見られる。

布の上には漆に木炭粉が混和された炭粉漆下地が見られる。

その上に透明漆が３層重なっている。下地と接する最下層の透明漆層には、下地から浮き上がってきたものか、細かな木炭粉が見られる。空気に触れる最上層の漆層は、劣化のため黒っぽく変色している。

No. 1 外面：下層から、布の断面、下地、漆層が観察された。

最下層に白く抜けた部分が水平方向に波打ち、その凹んだ箇所に白く抜けた部分が円形に集まっている。これらは糸の縦断面と横断面でそれらの糸の様子から、布の断面と判断される。これらの糸繊維の間には、茶褐色を呈する漆が十分に浸透している。

布の上に、茶褐色の漆に木炭粉を混和した炭粉漆下地が施されている。その上に、顔料を混和していない、透明漆層が２～３層認められる。下地と接する最下層には、下地から浮き上がったものか、細かな木炭粉が見られる。最上層の漆層の空気にふれる上部は、劣化のため黒っぽく変色している。

・No. 1 素地について

植物繊維で構成された布である。内面と外面の塗膜の中にそれぞれ１枚ずつ布が認められたので、少なくとも２枚以上の布が素地である。また、今回調査した部分では布の痕跡が認められたが、さらにその内側に何らかの素地が存在した可能性もある（たとえば布や皮革など）。

・布にしみこんだ漆と下地の漆について

内面と外面ともに断面の最下層の布にしみこんだ漆と、その上に見られる下地に用いられた漆の色調が、さらにその上の漆層の色調よりもずいぶん濃く、濃褐色を呈している。この色調は一見すると、後世に大量生産された炭粉渋下地などに用いられた柿渋の色調に近い。しかし柿渋は厚く重ねると塗膜と垂直方向に亀裂を生じる。今回調査した No. 1 の下地などの膠着剤には亀裂はない。よってこの膠着剤は漆と判断される。色調については断定できないが、混ぜ物によるものかあるいは加熱などの可能性が考えられる。

・No. 1 漆箱について

高さ 2cm 弱と小型品が想定される（例えば有名なところでは正倉院宝物の漆箱などは高さが 10cm をこえる）が、塗膜構造を観察すると平安時代の漆製品らしく、堅牢なつくりが施されている。

No. 2 内面：下層から、下地、漆層が見られた。

下地は２層見られた。材質が異なる下地である。下層の下地は、淡褐色を呈する漆に砥の粉を混和したもので、上層の下地は、淡褐色を呈する漆に木炭粉を混和した炭粉漆下地であった。

下地の上に、顔料を混和していない淡褐色～黄褐色を呈する透明漆が２層重なっていた。

最上層の漆層の上部は、劣化のために黒っぽく変色している。

No. ２外面：下層から、木胎、下地、漆層が見られた。

下地は内面と同じく２層見られた。下層は淡褐色を呈する漆に砥の粉を混和したもので、上層は淡褐色を呈する漆に砥の粉を混和したものであった。

漆層は下地層の上に１層？見られた。上部は劣化のために黒っぽく変色している。

・No. ２漆盤？について

先述したとおり、器壁が極めて薄い。高い技術をもって製作されたと考えられる。塗膜構造も鉱物質を混和した下地と木炭粉を混和した下地との２層を重ねるなど、平安時代の平安京出土の漆製品にも見られる技法が認められる。

No. ３A 面：下層から、布、下地、が見られた。漆層は見られなかった。欠損によるものであろう。

布の中、周囲にも黄褐色を呈する漆が十分に浸透している様子が認められた。

下地は一種類のみであったが４～５層見られ、何度も重ねられた様子がうかがえる。この下地は褐色を呈する漆に木炭粉を混和した炭粉漆下地である。

No. ３B 面:下層から、漆層、紙、下地、漆層が見られた。

最下層の黄褐色を呈する漆層は、素地の上に施された可能性がある。

漆層の上に楕円形、四角形の形状に白く抜けたものが散在している。不規則に水平方向に白く抜けた部分が続く箇所もある。これは紙の断面である。布と同じく植物繊維であるが、繊維の方向や分布に規則性はない。この紙の中にも淡褐色を呈する漆が浸透している。

紙の上に下地が２層認められる。同じ種類の下地で、淡褐色を呈する漆に木炭粉を混和した、炭粉漆下地であった。

下地の上に表面の漆層が１層認められた。顔料は混和されない透明漆層で、層全体が劣化により黒っぽく変色している。

・No. ３の素地について

内面には最下層に植物繊維で構成された布が見られた。遺物を観察しても少なくとも２枚以上、厚みから判断すると３枚以上の布が貼り重ねられている可能性もある。布の内側に何らかの素地が存在した可能性もある（たとえば布や皮革など）。A 面には認められなかったが、B 面には布と下地の間に紙が認められた。これは保存処理によって、遺物の肉眼観察でも容易に判別がつくようになった。この紙の漆製品への利用であるが、平安時代の漆製品に紙が使用される例は管見では珍しい。

・No. ３漆板について

隅丸方形の板であったと想定されるが、用途は不明である。立ち上がりは見られないので、箱本体としては機能しない。片面のみに紙が貼られているので、天地の向きは決まっていた可能性もある。

さらに紙が貼られていない面に見られる、二次利用による刃物の傷跡はほぼ一定の方向である。なぜ一定方向なのか、決まった面だけなのかについては不明である。あるいはこれらの問題点は一次利用の際と関連するのかもしれない。

５．摘　要

山形県に所在する蝉田遺跡で検出された、平安時代の川跡から出土した平安時代の漆製品３点について、調査を行った。

内容について詳しくは繰り返さないが、ケヤキの素地の上に漆下地、漆層を重ねた盤？、植物繊維の布を張り合わせた漆箱の蓋か身、植物繊維の布を貼りあわせ、片面に紙も貼った板であった。

下地に注目すると、３点とも混和材として木炭粉が使用されていた。平安京跡などの出土例を参考にすると、下地の材質は大まかに鉱物質のものから木炭粉へ、と時代とともに移行する。余談になるが、この木炭粉と柿渋を混和した炭粉渋下地が導入されて、漆器の什器の大量生産が可能となり、漆器の什器が普及品となった、とされている。今回調査した３点に利用された技法は、この普及品の技法が生まれる前段階の技法といえる。

平安時代の漆製品が出土する遺跡は当時の中央や、地方では官衙関連遺跡にほぼ限定される。出土遺構が川跡なので流された可能性もある。資料の断面を観察すると、中世への移行期にある古代の中央官営工房で製作された製品に近い技術をもって製作されたような印象を受けた。製作地が中央か在地かは断定できない。

表 18　調査資料

No.	保存処理 No.	品名	遺物 No.	写真 No.	樹種	概要
1	6	漆器片（漆箱？）	RW111	1,8	-	内外面とも黒色を呈する、被せ蓋式の方形の漆箱の側板。蓋かは不明。また、外面端部には覆輪が見られる。覆輪と逆側には山折りの稜線が見られる。面取りの可能性もある。
2	29	漆器片（漆盤？）	RW255	15,19	ケヤキ	内外面とも黒色を呈する盤か。器壁は極めて薄い。一部に底部から体部へ立ち上がりが残る。
3	34	漆板片	RW316	23,30	-	平たい板状の漆器の一部。布が素地か。内外面とも黒色を呈する。隅丸に仕上げてある。 便宜的に、A 面、B 面と区別した。表面に二次使用による刃物の痕跡が多数残る面を A 面、表面に光沢のある漆膜が遺存している面を B 面とした。

表 19　漆器の断面観察結果

No.	図版No.	器種	部位	写真 No.	塗膜構造（下層から）				
					素地	下地		漆層構造	顔料
						膠着剤	混和剤		
1	850	箱	内面	2 ～ 7	布	漆	木炭粉	透明漆 3 層	-
			外面	9 ～ 14		漆	木炭粉	透明漆 2 ～ 3 層	-
2	852	盤	内面	16 ～ 18	木	漆 / 漆	砥の粉 / 木炭粉	透明漆 1 ～ 2 層	-
			外面	20 ～ 22		漆 / 漆	砥の粉 / 木炭粉	透明漆 1 層？	-
3	851	箱	A 面	24 ～ 29	布	漆	木炭粉	-	-
			B 面	31 ～ 34	布、紙	漆	木炭粉	透明漆 1 層？	-

写真 1　資料No. 1 内面

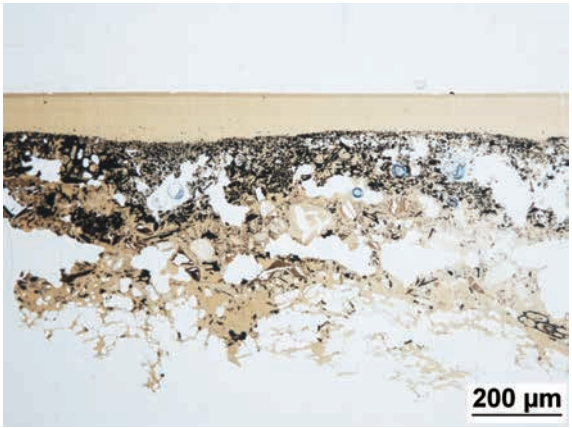


写真 2　No. 1 内面の断面

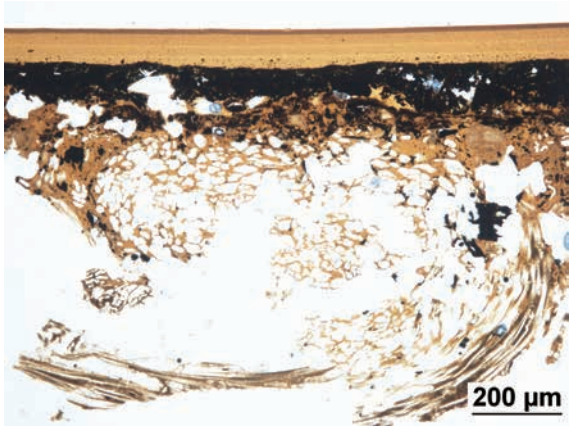


写真 3　No. 1 内面の断面

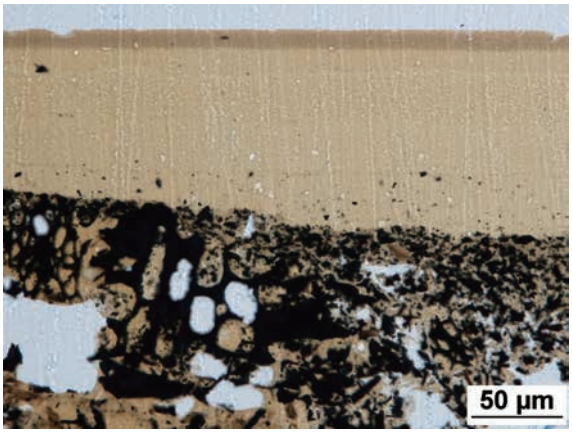


写真 4　No. 1 内面の漆層と下地拡大

第 38 図　塗膜分析写真（1）

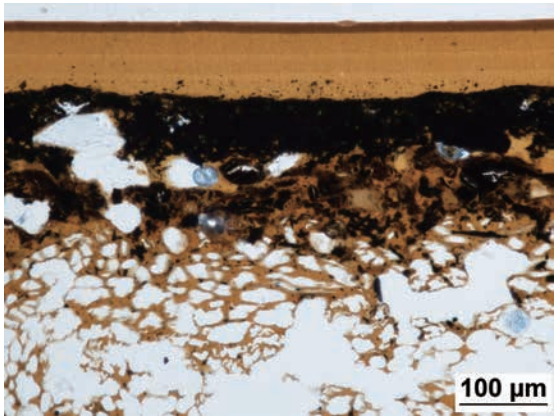


写真 5　No. 1 内面の断面

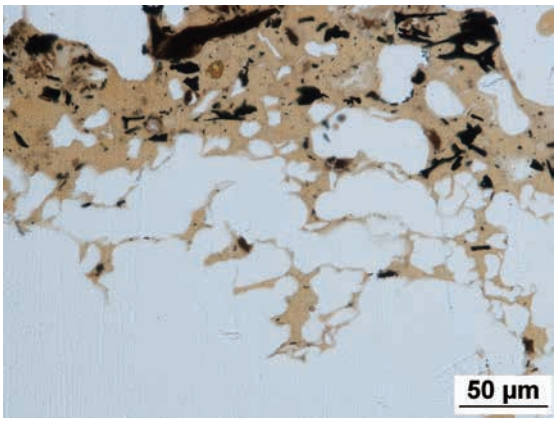


写真 6　No. 1 内面の布の糸横断面

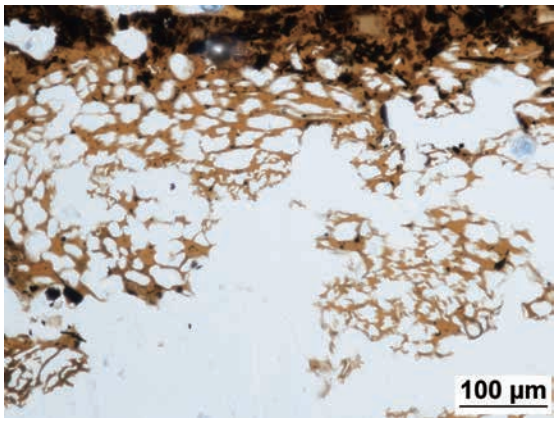


写真 7　No. 1 内面の布の糸横断面

写真 8　資料No. 1 外面

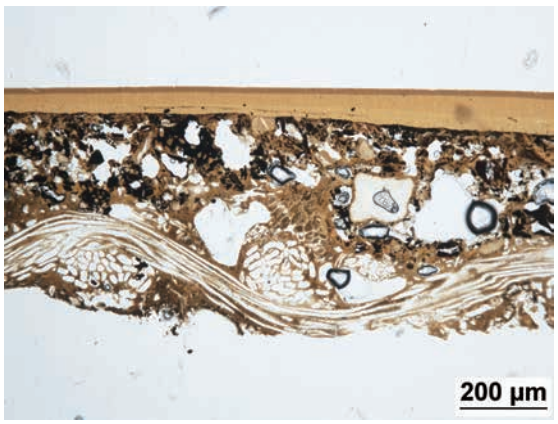


写真 9　No. 1 外面の断面

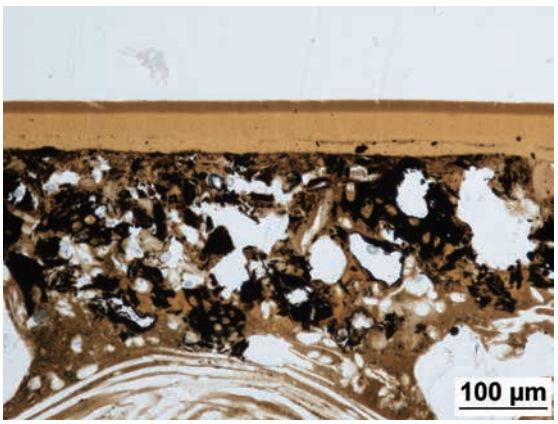


写真 10　No. 1 外面の漆層と下地層

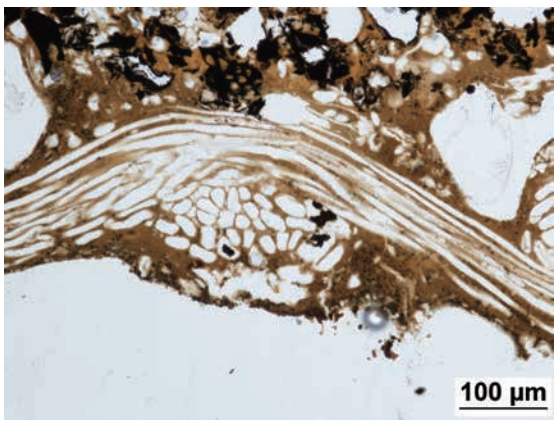


写真 11　No. 1 外面の布断面

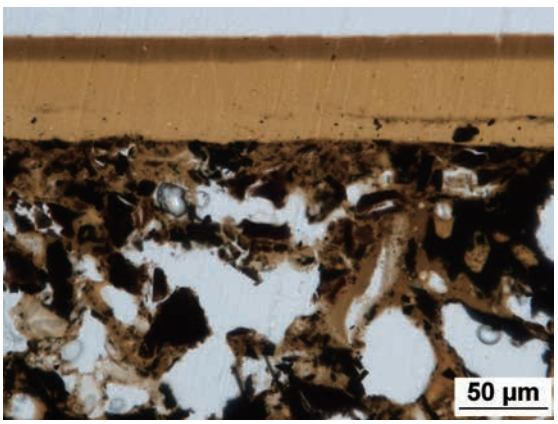


写真 12　No. 1 外面の漆層と下地層拡大

第 39 図　塗膜分析写真（2）

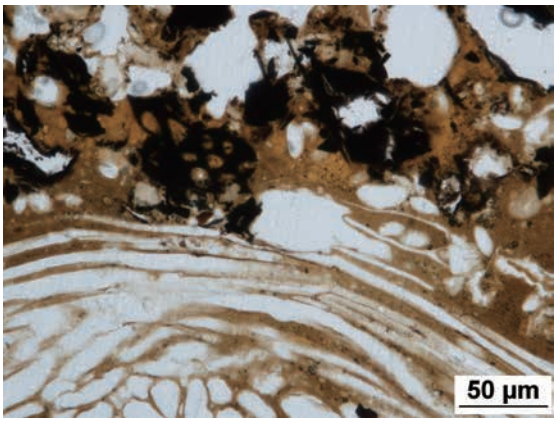


写真 13　No. 1 外面の下地層拡大

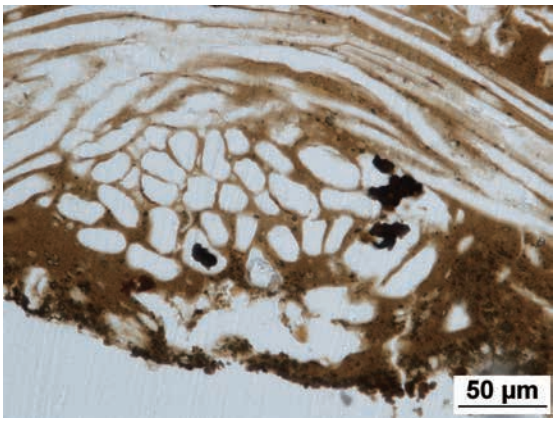


写真 14　No. 1 外面の布断面拡大

写真 15　資料No. 2 内面

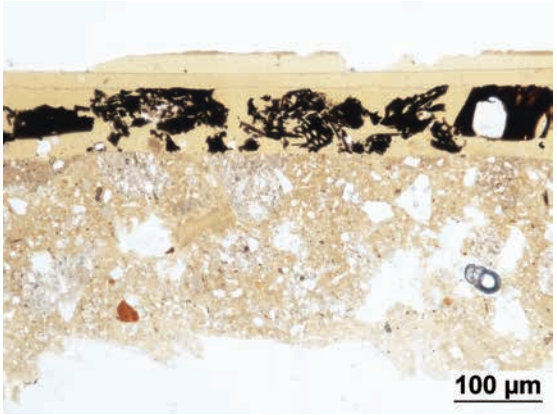


写真 16　No. 2 内面の断面

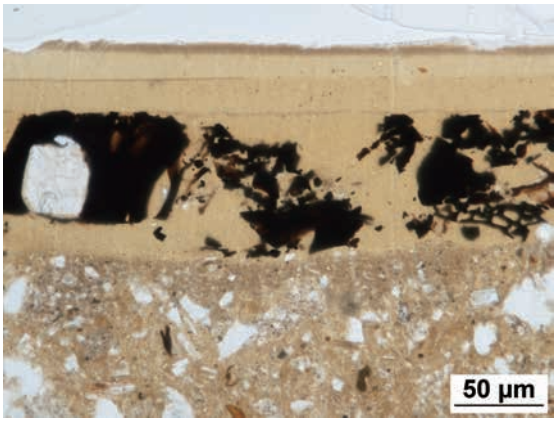


写真 17　No. 2 内面の漆層と下地層拡大

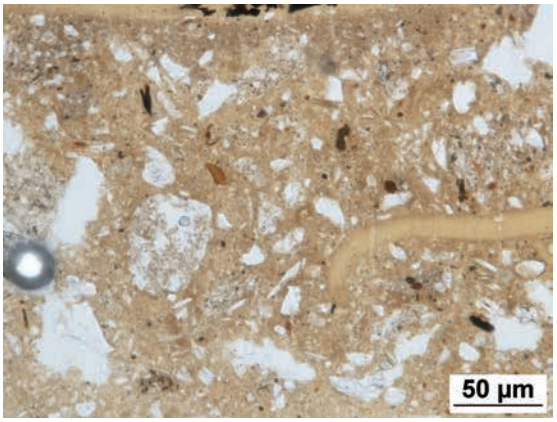


写真 18　No. 2 内面の下地層拡大

写真 19　資料No. 2 外面

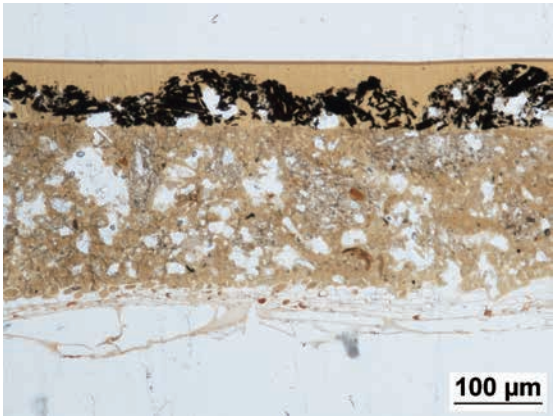


写真 20　No. 2 外面の断面

第 40 図　塗膜分析写真（3）

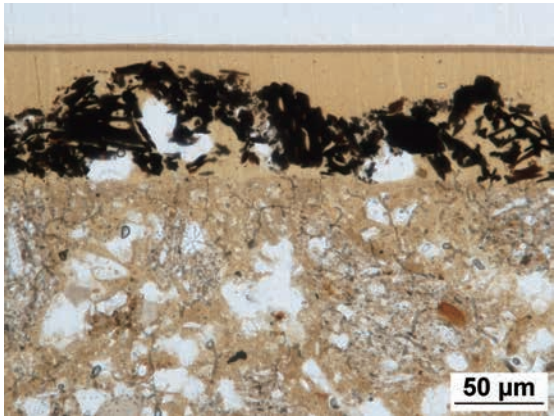


写真 21　No. 2 外面

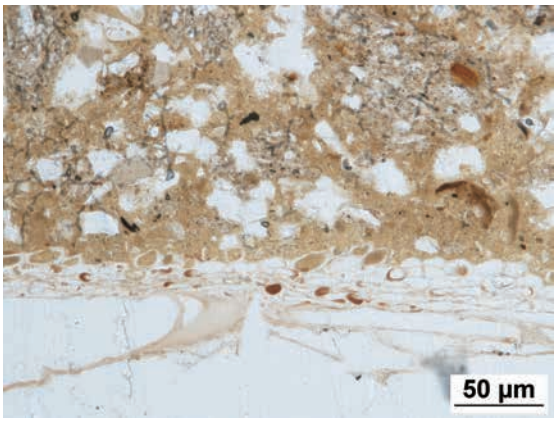


写真 22　No. 2 外面下地の拡大

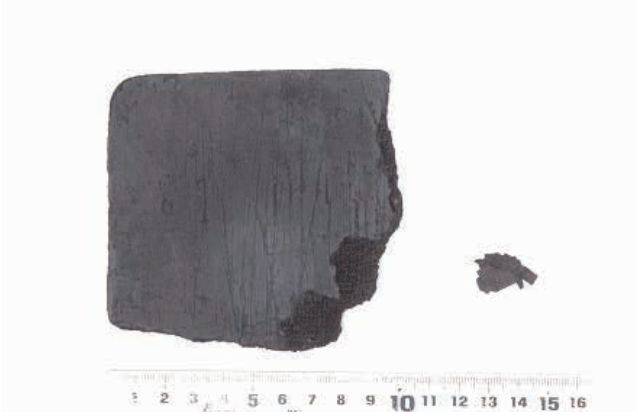


写真 23　資料No. 3A 面

写真 24　No. 3A 面の断面

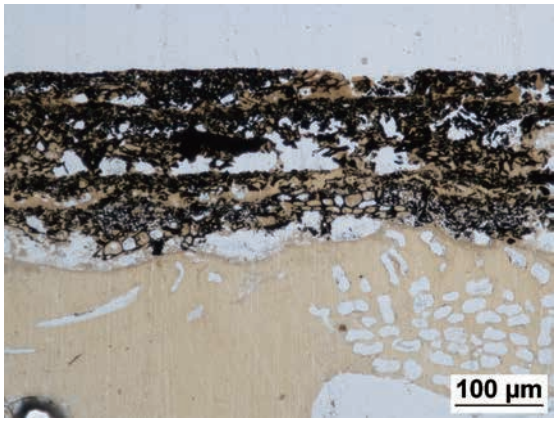


写真 25　No. 3A 面の下地層と布

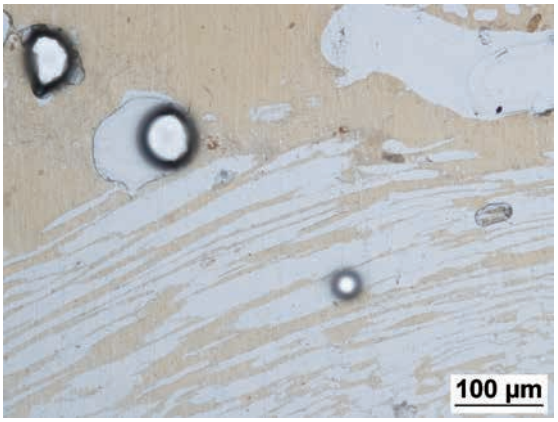


写真 26　No. 3A 面の布拡大

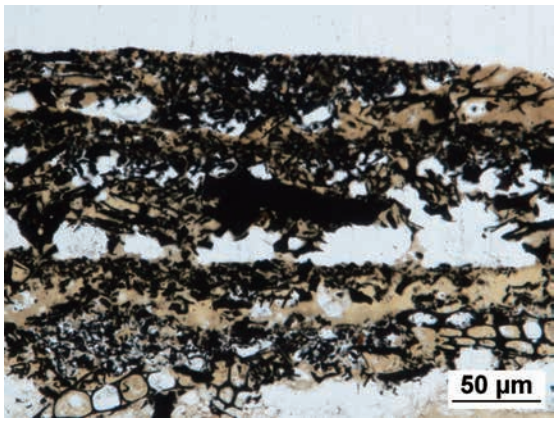


写真 27　No. 3A 面の下地層拡大

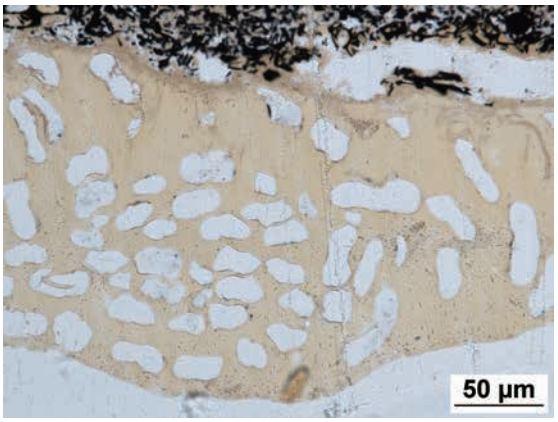


写真 28　No. 3A 面の布拡大

第 41 図　塗膜分析写真（4）

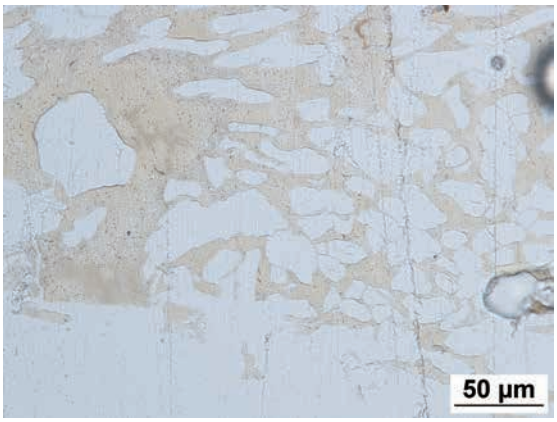


写真 29　No. 3A 面の布拡大

写真 30　資料No. 3B 面

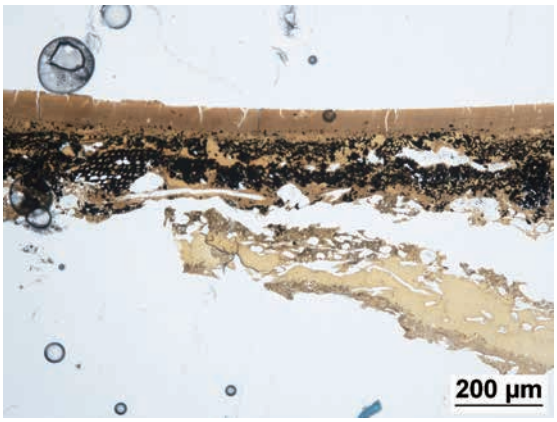


写真 31　No. 3B 面の断面

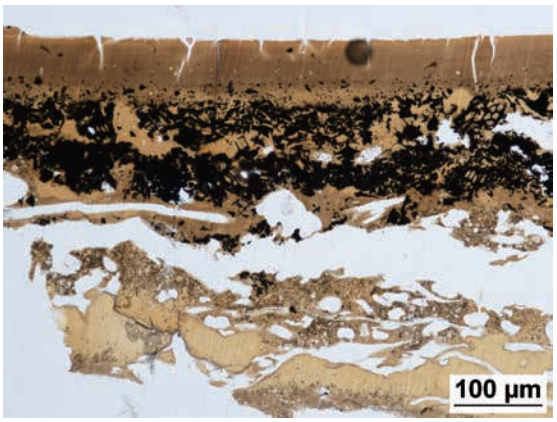


写真 32　No. 3B 面の断面

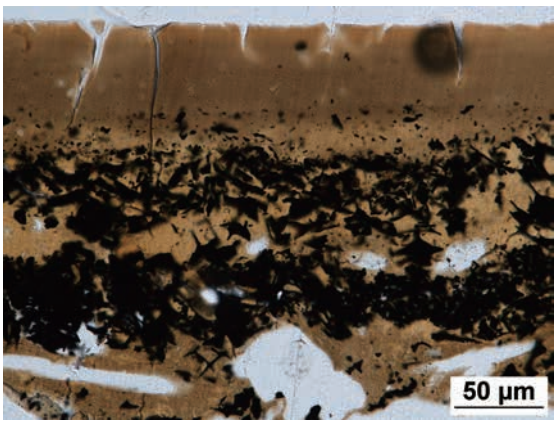


写真 33　No. 3B 面漆層と下地の拡大

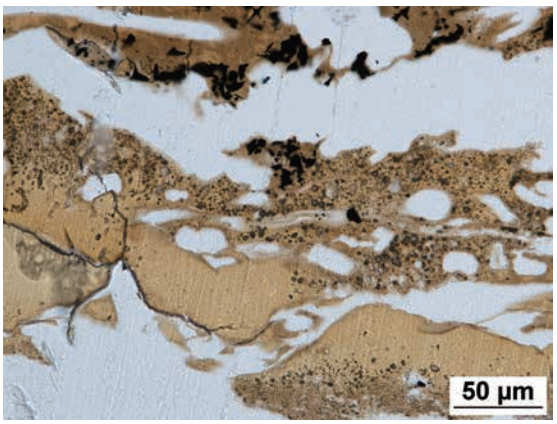


写真 34　No. 3B 面紙の拡大

第 42 図　塗膜分析写真（5）

11　放射性炭素年代測定（1）

㈱吉田生物研究所

1．はじめに

山形県蝉田遺跡より検出された農具５点､服飾具２点、容器１点、建築部材７点、土木具１点、用途不明品４点の合計 20 点について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2．試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 20 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3．結　果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.2（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に２σ暦年代範囲は 95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。

引用文献

Bronk Ramsey, C.　2009)「Bayesian Analysis of Radiocarbon dates.」『Radiocarbon51(1)』p.337-360

中村俊夫　2000『放射性炭素年代測定法の基礎　日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編』「日本先史時代の ^{14}C 年代」p.3-20 日本第四紀学会

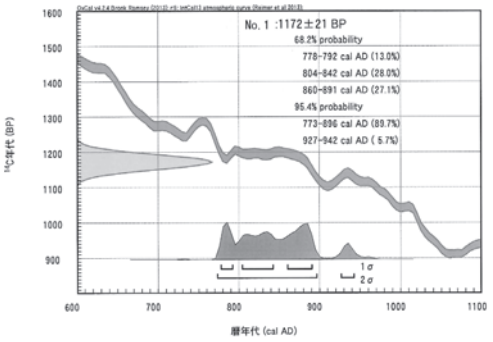
Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.　2013「IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP」『Radiocarbon,55(4),』p.1869-1887

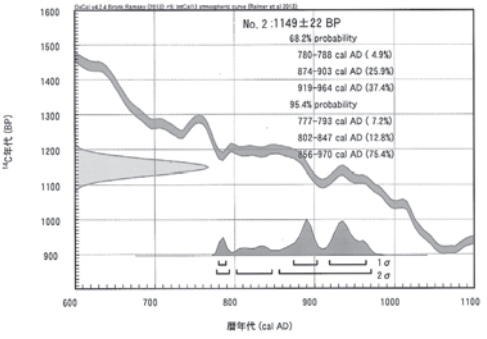
表 20　測定試料および処理

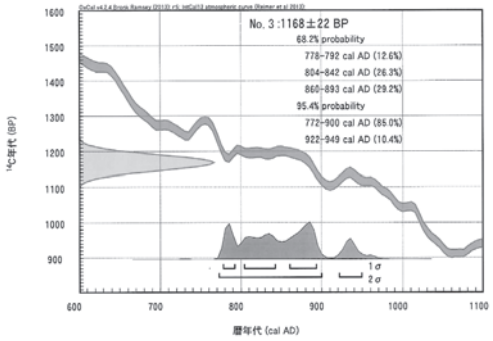
No.	図版№	試料データ	前処理
1	1046	種類 : 子実体　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y1　RW25　猿の腰掛	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
2	949	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y12　RW158　丸木杭	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
3	923	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y35　RW322　木錘	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
4	915	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y36　RW324　鍬柄	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
5	939	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y46　RW365　下駄	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
6	938	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y54　RW399　厚い板状品	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
7	937	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y56　RW411　下駄	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
8	903	種類 : 樹皮　状態 :dry	超音波洗浄
		備考 :Y62　RW425 ②　桜皮	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
9	927	種類：木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y75　RW451　横槌	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
10	947	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y101　RW531　床板	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
11	928	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y107　RW537　横槌	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
12	18	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y131　RW759　SP74 柱根	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
13	26	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y132　RW760　SP107 柱根	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
14	943	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y133　RW752　SG6 建築材 6 個中の 1 本	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
15	944	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y134　RW756　SG6 建築材 1 本	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
16	24	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y135　RW761　SP93 柱根	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
17	25	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y136　RW762　SP106 柱根	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
18	998	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y141　RW272　板材	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
19	889・891	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y150　RW247　側板	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）
20	924	種類 : 木片　状態 :wet	超音波洗浄
		備考 :Y197　RW700　木錘	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1.0N, 塩酸 :1.2N）

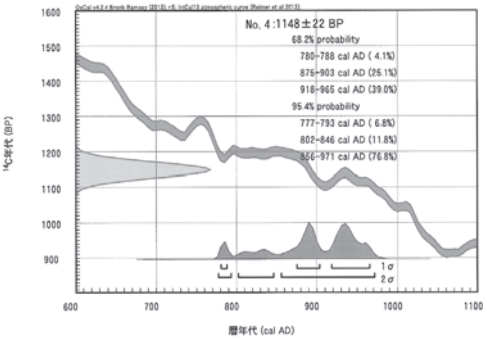
表 21　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

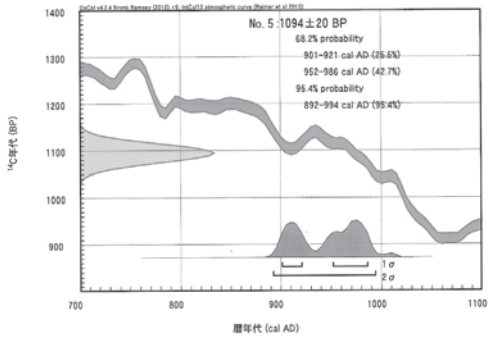
No.	図版№	δ ^{13}C （%0）	暦年較正用年代（yrBP ± 1 σ）	^{14}C 年代（yrBP ± 1 σ）	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
1	1046	-28.04 ± 0.15	1172 ± 21	1170 ± 20	778-792cal AD（13.0%） 804-842cal AD（28.0%） 860-891cal AD（27.1%）	773-896cal AD（89.7%） 927-942cal AD（5.7%）
2	949	-26.91 ± 0.20	1149 ± 22	1150 ± 20	780-788cal AD（4.9%） 874-903cal AD（25.9%） 919-964cal AD（37.4%）	777-793cal AD（7.2%） 802-847cal AD（12.8%） 856-970cal AD（75.4%）
3	923	-27.84 ± 0.15	1168 ± 22	1170 ± 20	778-792cal AD（12.6%） 804-842cal AD（26.3%） 860-893cal AD（29.2%）	772-900cal AD（85.0%） 922-949cal AD（10.4%）
4	915	-27.85 ± 0.23	1148 ± 22	1150 ± 20	780-788cal AD（4.1%） 875-903cal AD（25.1%） 918-965cal AD（39.0%）	777-793cal AD（6.8%） 802-846cal AD（11.8%） 856-971cal AD（76.8%）
5	939	-28.45 ± 0.16	1094 ± 20	1095 ± 20	901-921cal AD（25.5%） 952-986cal AD（42.7%）	892-994cal AD（95.4%）
6	938	-28.76 ± 0.26	1154 ± 22	1155 ± 20	778-790cal AD（7.9%） 827-840cal AD（5.8%） 864-901cal AD（29.4%） 920-953cal AD（25.0%）	776-906cal AD（63.8%） 916-968cal AD（31.6%）
7	937	-25.86 ± 0.17	1170 ± 21	1170 ± 20	778-792cal AD（12.9%） 804-842cal AD（27.1%） 860-892cal AD（28.2%）	773-898cal AD（87.9%） 925-945cal AD（7.5%）
8	903	-28.08 ± 0.17	1115 ± 22	1115 ± 20	896-928cal AD（35.1%） 942-971cal AD（33.1%）	888-984cal AD（95.4%）
9	927	-29.50 ± 0.16	1129 ± 22	1130 ± 20	891-904cal AD（14.3%） 918-966cal AD（53.9%）	780-788cal AD（1.0%） 875-985cal AD（94.4%）
10	947	-25.13 ± 0.15	1444 ± 22	1445 ± 20	603-641cal AD（68.2%）	574-650cal AD（95.4%）
11	928	-28.26 ± 0.15	1193 ± 22	1195 ± 20	788-793cal AD（4.9%） 800-874cal AD（63.3%）	770-891cal AD（95.4%）
12	18	-25.79 ± 0.15	1154 ± 21	1155 ± 20	778-790cal AD（7.9%） 828-840cal AD（5.5%） 865-901cal AD（29.8%） 921-952cal AD（25.0%）	776-794cal AD（9.6%） 799-905cal AD（53.8%） 916-968cal AD（32.0%）
13	26	-29.38 ± 0.24	1123 ± 22	1125 ± 20	893-906cal AD（13.2%） 916-968cal AD（55.0%）	882-985cal AD（95.4%）
14	943	-23.76 ± 0.15	1595 ± 22	1595 ± 20	417-434cal AD（14.8%） 455-469cal AD（9.5%） 488-534cal AD（43.9%）	411-537cal AD（95.4%）
15	944	-28.67 ± 0.22	913 ± 21	915 ± 20	1047-1091cal AD（41.7%） 1121-1140cal AD（15.8%） 1148-1160cal AD（10.7%）	1035-1168cal AD（95.4%）
16	24	-26.61 ± 0.18	1228 ± 22	1230 ± 20	719-742cal AD（19.8%） 766-778cal AD（10.8%） 791-828cal AD（22.4%） 839-864cal AD（15.2%）	693-747cal AD（29.5%） 763-880cal AD（65.9%）
17	25	-26.84 ± 0.23	1144 ± 22	1145 ± 20	880-904cal AD（23.0%） 918-966cal AD（45.2%）	777-791cal AD（5.0%） 805-843cal AD（8.1%） 860-974cal AD（82.3%）
18	998	-23.91 ± 0.20	1323 ± 21	1325 ± 20	659-689cal AD（68.2%）	655-713cal AD（81.0%） 745-765cal AD（14.4%）
19	889・891	-26.58 ± 0.15	1107 ± 22	1105 ± 20	898-925cal AD（32.3%） 944-975cal AD（35.9%）	891-987cal AD（95.4%）
20	924	-28.28 ± 0.20	1149 ± 22	1150 ± 20	780-788cal AD（4.9%） 874-903cal AD（25.9%） 919-964cal AD（37.4%）	777-793cal AD（7.2%） 802-847cal AD（12.8%） 856-970cal AD（75.4%）

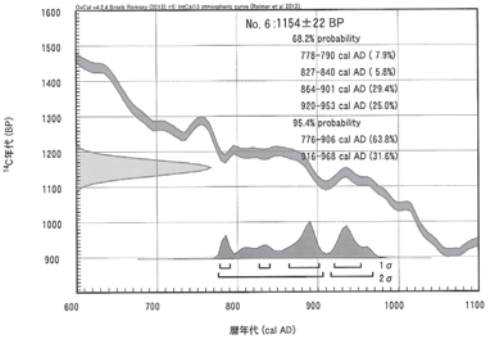


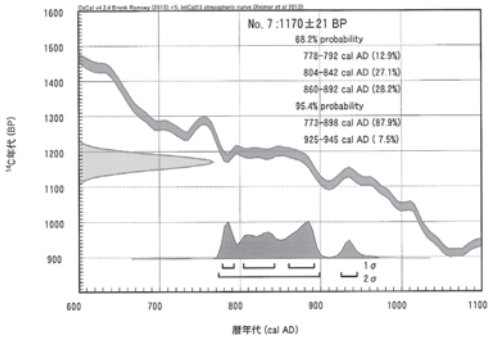


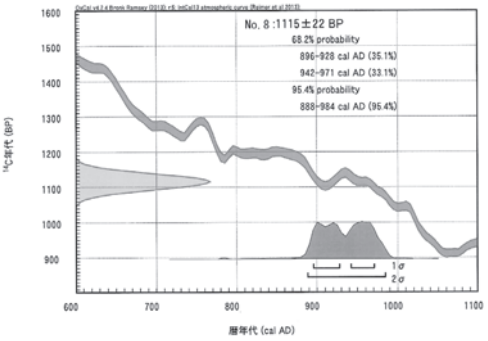


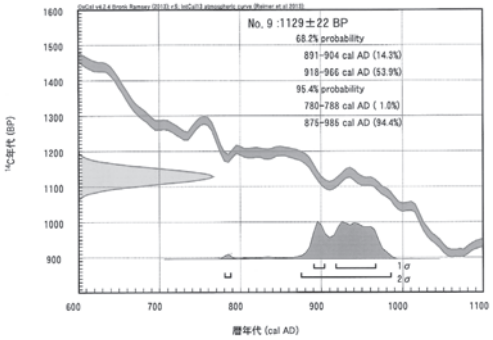


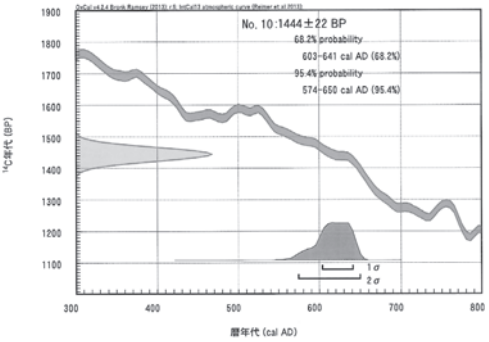




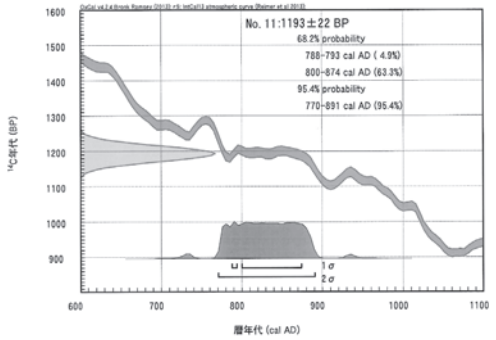


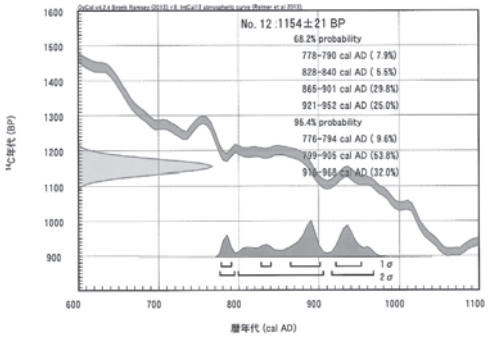


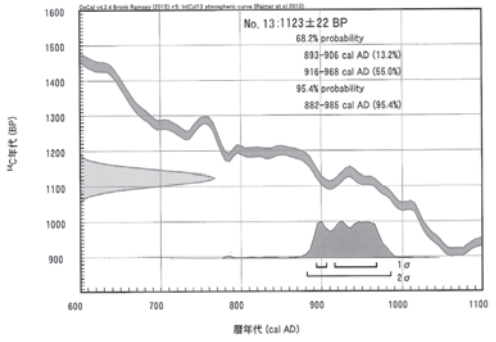


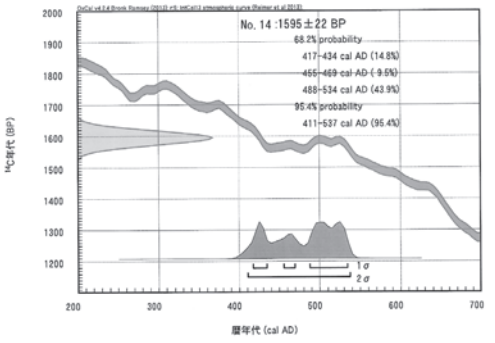


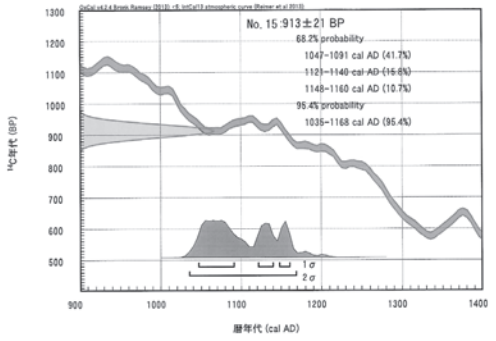
第 43 図　暦年較正結果①

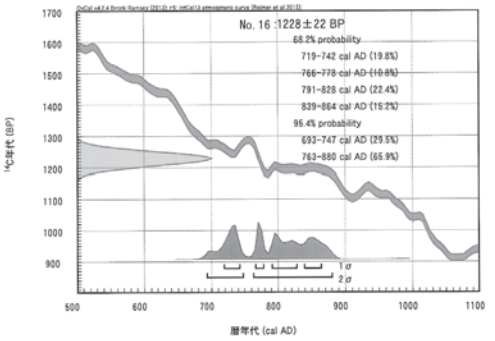


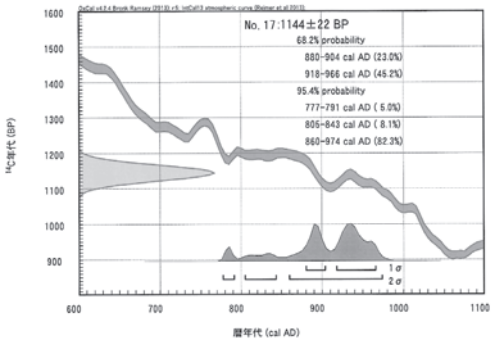


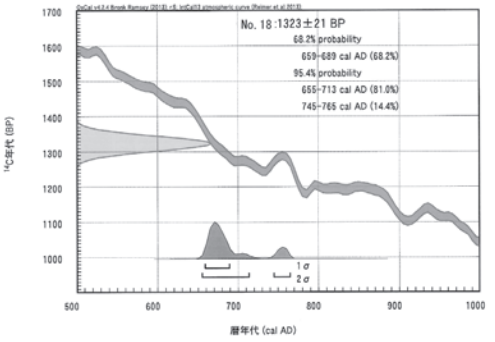


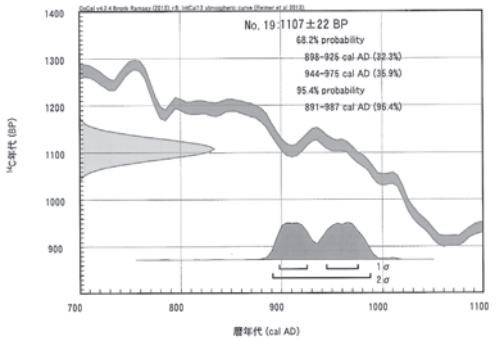


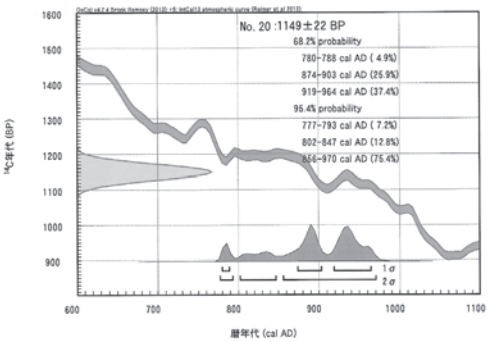












第 44 図　暦年較正結果②

12　放射性炭素年代測定（2）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

蝉田遺跡は、山形県村山市西郷に所在する。測定対象試料は、自然流路 SG6、SG50 と土坑から出土した木質遺物より採取した木片 20 点である（表 22）。これらの木質遺物の中には、一部炭化しているものがあり、その状態に応じて試料形態を炭化材としたものがある（試料 17、18）。なお、同一試料の樹種同定が実施されている（別稿樹種同定報告参照）。

試料 1 ～ 6、8 ～ 19 は SG6 出土で、この自然流路からは 8 世紀～ 10 世紀前半の土器が出土している。試料 20 は鉄釘を使用した箱状の木製品で、上面から磁器（近世？）が出土する土坑から出土した。

2　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
（2）酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
（3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。
（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。
（5）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
（6）グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3　測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4　算出方法

（1）δ^{13}C は、試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 22）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
（2）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は δ^{13}C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 22 に、補正していない値を参考値として表 23 に示した。^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。
（3）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ^{13}C によって補正する必要があるため、補正した値を表 22 に、補正していない値を参考値として表 23 に示した。
（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ ＝ 68.2％）あるいは 2 標準偏差（2 σ ＝ 95.4％）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦

年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 23 に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

5　測定結果

試料の測定結果を表 22、23 に示す。

自然流路 SG6 出土試料 18 点のうち、試料 2 を除く 17 点（試料 1、3 ～ 6、8 ～ 19）の ^{14}C 年代は、1530 ± 20yrBP（試料 9）から 1080 ± 20yrBP（試料 14、16）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い試料 9 が 435 ～ 575cal AD の間に 3 つの範囲、最も新しい試料 16 が 902 ～ 1012cal AD の間に 3 つの範囲で示される。出土土器の時期に重なるものと、それより古いものが認められる。なお、木材は最外年輪の試料がその木の死んだ年代を示し、内側の年輪は年輪数の分だけ古い年代値を示すこと（古木効果）を考慮する必要がある。今回測定された試料には、最外年輪を確認できたものはないが、試料 5、6 については最外年輪に近い部分まで残存している可能性がある。また、試料 4、19 は樹皮と見られるため（別稿樹種同定報告参照）、樹木が死んだ年代に近いか、若干古い値が示されていると考えられる。

SG6 出土試料のうち、試料 2 の ^{14}C 年代は 21570 ± 70yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 23987 ～ 23836cal BC（25936 ～ 25785cal BP）の範囲で示される。他の試料や土器が示す時期より大幅に古い年代値となっているため、古い地層の侵食等に伴い流路中に入った木材などの可能性がある。

SG50 出土試料 7 の ^{14}C 年代は 1590 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 423 ～ 534cal AD の範囲で示される。

土坑から出土した試料 20 の ^{14}C 年代は 170 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 1670 ～ 1944cal AD の間に 4 つの範囲で示される。推定される時期におおむね一致すると見られる。なお、この試料の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する（表 23 下の警告参照）。

試料の炭素含有率はすべて 50％を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 22　放射性炭素年代測定結果（1）（δ ^{13}C 補正値）

No.	図版№	測定番号	登録番号	遺構	試料形態	処理方法	δ ^{13}C（‰）（AMS）	δ ^{13}C 補正あり	
								Libby Age（yrBP）	pMC（%）
1	993	IAAA-160729	RW722	SG6 下層	木片	AAA	-25.86 ± 0.29	1,270 ± 20	85.39 ± 0.26
2	1026	IAAA-160730	RW726	SG6 下層	木片	AAA	-23.86 ± 0.37	21,570 ± 70	6.82 ± 0.06
3	898	IAAA-160731	RW724	SG6 下層	木片	AAA	-26.25 ± 0.38	1,430 ± 20	83.74 ± 0.26
4	1047	IAAA-160732	RW350	SG6	木片	AAA	-25.95 ± 0.52	1,210 ± 20	86.04 ± 0.25
5	971	IAAA-160733	RW750	SG6 下層	木片	AAA	-26.96 ± 0.40	1,160 ± 20	86.51 ± 0.26
6	1063	IAAA-160734	RW460	SG6	木片	AAA	-27.58 ± 0.45	1,210 ± 20	86.03 ± 0.24
7	246	IAAA-160735	RW94	SG50	木片	AAA	-27.10 ± 0.47	1,590 ± 20	82.06 ± 0.24
8	-	IAAA-160736	RW785	SG6	木片	AAA	-24.57 ± 0.51	1,310 ± 20	84.98 ± 0.25
9	935	IAAA-160737	RW503	SG6	木片	AAA	-23.09 ± 0.55	1,530 ± 20	82.68 ± 0.24
10	1206	IAAA-160738	RW376	SG6	木片	AAA	-25.39 ± 0.45	1,340 ± 20	84.59 ± 0.24
11	988	IAAA-160739	RW381	SG6	木片	AAA	-27.86 ± 0.37	1,090 ± 20	87.30 ± 0.25
12	1290	IAAA-160740	RW384	SG6	木片	AAA	-25.03 ± 0.60	1,290 ± 20	85.20 ± 0.26
13	981	IAAA-160741	RW380 ②	SG6	木片	AAA	-25.29 ± 0.35	1,120 ± 20	86.95 ± 0.24
14	1234	IAAA-160742	RW380 ③	SG6	木片	AAA	-28.01 ± 0.39	1,080 ± 20	87.40 ± 0.26
15	1020	IAAA-160743	RW385	SG6	木片	AAA	-27.95 ± 0.50	1,120 ± 20	87.00 ± 0.24
16	1029	IAAA-160744	RW374	SG6	木片	AAA	-31.30 ± 0.34	1,080 ± 20	87.45 ± 0.25
17	-	IAAA-160745	-	SG6	炭化材	AAA	-24.17 ± 0.41	1,150 ± 20	86.67 ± 0.25
18	-	IAAA-160746	RW483	SG6	炭化材	AAA	-27.21 ± 0.42	1,120 ± 20	87.02 ± 0.25
19	-	IAAA-160747	-	SG6	木片	AAA	-26.17 ± 0.56	1,210 ± 20	85.99 ± 0.26
20	102	IAAA-160748	RW600	SK111	木片	AAA	-27.03 ± 0.37	170 ± 20	97.95 ± 0.30

表 23　放射性炭素年代測定結果（2）（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

No.	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）	（yrBP）		
1	1,280 ± 20	85.23 ± 0.25	1,269 ± 24	689calAD - 725calAD (39.7%) 739calAD - 767calAD (28.5%)	673calAD - 774calAD (95.4%)
2	21,550 ± 70	6.84 ± 0.06	21,569 ± 71	23987calBC - 23836calBC (68.2%)	24066calBC - 23754calBC (95.4%)
3	1,450 ± 20	83.52 ± 0.25	1,425 ± 24	613calAD - 648calAD (68.2%)	590calAD - 658calAD (95.4%)
4	1,220 ± 20	85.88 ± 0.23	1,207 ± 23	773calAD - 778calAD (4.2%) 789calAD - 868calAD (64.0%)	725calAD - 739calAD (4.3%) 767calAD - 888calAD (91.1%)
5	1,200 ± 20	86.17 ± 0.24	1,163 ± 23	778calAD - 791calAD (11.3%) 805calAD - 817calAD (6.8%) 824calAD - 842calAD (11.3%) 862calAD - 896calAD (29.5%) 928calAD - 941calAD (9.4%)	774calAD - 902calAD (79.5%) 920calAD - 953calAD (15.9%)
6	1,250 ± 20	85.57 ± 0.23	1,209 ± 22	773calAD - 778calAD (4.8%) 789calAD - 868calAD (63.4%)	725calAD - 739calAD (4.6%) 767calAD - 887calAD (90.8%)
7	1,620 ± 20	81.71 ± 0.22	1,587 ± 23	423calAD - 435calAD (9.9%) 451calAD - 471calAD (14.9%) 487calAD - 534calAD (43.4%)	415calAD - 540calAD (95.4%)
8	1,300 ± 20	85.06 ± 0.23	1,307 ± 23	665calAD - 695calAD (43.8%) 703calAD - 707calAD (3.4%) 746calAD - 764calAD (20.9%)	660calAD - 722calAD (68.0%) 741calAD - 768calAD (27.4%)
9	1,500 ± 20	83.00 ± 0.22	1,528 ± 23	435calAD - 450calAD (9.8%) 471calAD - 487calAD (11.5%) 534calAD - 575calAD (46.8%)	429calAD - 494calAD (35.5%) 508calAD - 519calAD (2.3%) 528calAD - 599calAD (57.6%)
10	1,350 ± 20	84.52 ± 0.23	1,344 ± 23	655calAD - 675calAD (68.2%)	645calAD - 694calAD (91.2%) 747calAD - 763calAD (4.2%)
11	1,140 ± 20	86.79 ± 0.24	1,090 ± 23	901calAD - 921calAD (23.8%) 950calAD - 988calAD (44.4%)	893calAD - 1013calAD (95.4%)
12	1,290 ± 20	85.20 ± 0.24	1,286 ± 24	680calAD - 714calAD (40.5%) 744calAD - 765calAD (27.7%)	668calAD - 770calAD (95.4%)
13	1,130 ± 20	86.90 ± 0.23	1,123 ± 22	893calAD - 906calAD (13.2%) 916calAD - 968calAD (55.0%)	882calAD - 985calAD (95.4%)
14	1,130 ± 20	86.86 ± 0.25	1,082 ± 23	901calAD - 921calAD (20.0%) 952calAD - 994calAD (48.2%)	896calAD - 928calAD (27.3%) 940calAD - 1017calAD (68.1%)
15	1,170 ± 20	86.47 ± 0.23	1,119 ± 22	895calAD - 929calAD (34.2%) 939calAD - 969calAD (34.0%)	886calAD - 985calAD (95.4%)
16	1,180 ± 20	86.33 ± 0.24	1,077 ± 23	902calAD - 919calAD (16.5%) 965calAD - 998calAD (45.4%) 1004calAD - 1012calAD (6.2%)	897calAD - 926calAD (22.9%) 942calAD - 1018calAD (72.5%)
17	1,140 ± 20	86.82 ± 0.24	1,148 ± 23	780calAD - 788calAD (4.3%) 875calAD - 903calAD (25.0%) 918calAD - 965calAD (39.0%)	777calAD - 793calAD (6.9%) 802calAD - 848calAD (12.8%) 856calAD - 972calAD (75.7%)
18	1,150 ± 20	86.63 ± 0.24	1,116 ± 23	895calAD - 928calAD (35.3%) 941calAD - 970calAD (32.9%)	887calAD - 986calAD (95.4%)
19	1,230 ± 20	85.78 ± 0.24	1,212 ± 24	771calAD - 779calAD (6.0%) 789calAD - 869calAD (62.2%)	718calAD - 742calAD (8.3%) 766calAD - 888calAD (87.1%)
20	200 ± 20	97.54 ± 0.29	166 ± 24	1670calAD - 1683calAD (11.1%)* 1734calAD - 1780calAD (39.3%)* 1799calAD - 1806calAD (6.2%)* 1929calAD - 1944calAD (11.6%)	1664calAD - 1697calAD (16.8%)* 1725calAD - 1815calAD (53.2%)* 1836calAD - 1877calAD (5.6%)* 1916calAD - ... (19.8%)*

* Warning! Date may extend out of range

Warning! Date probably out of range

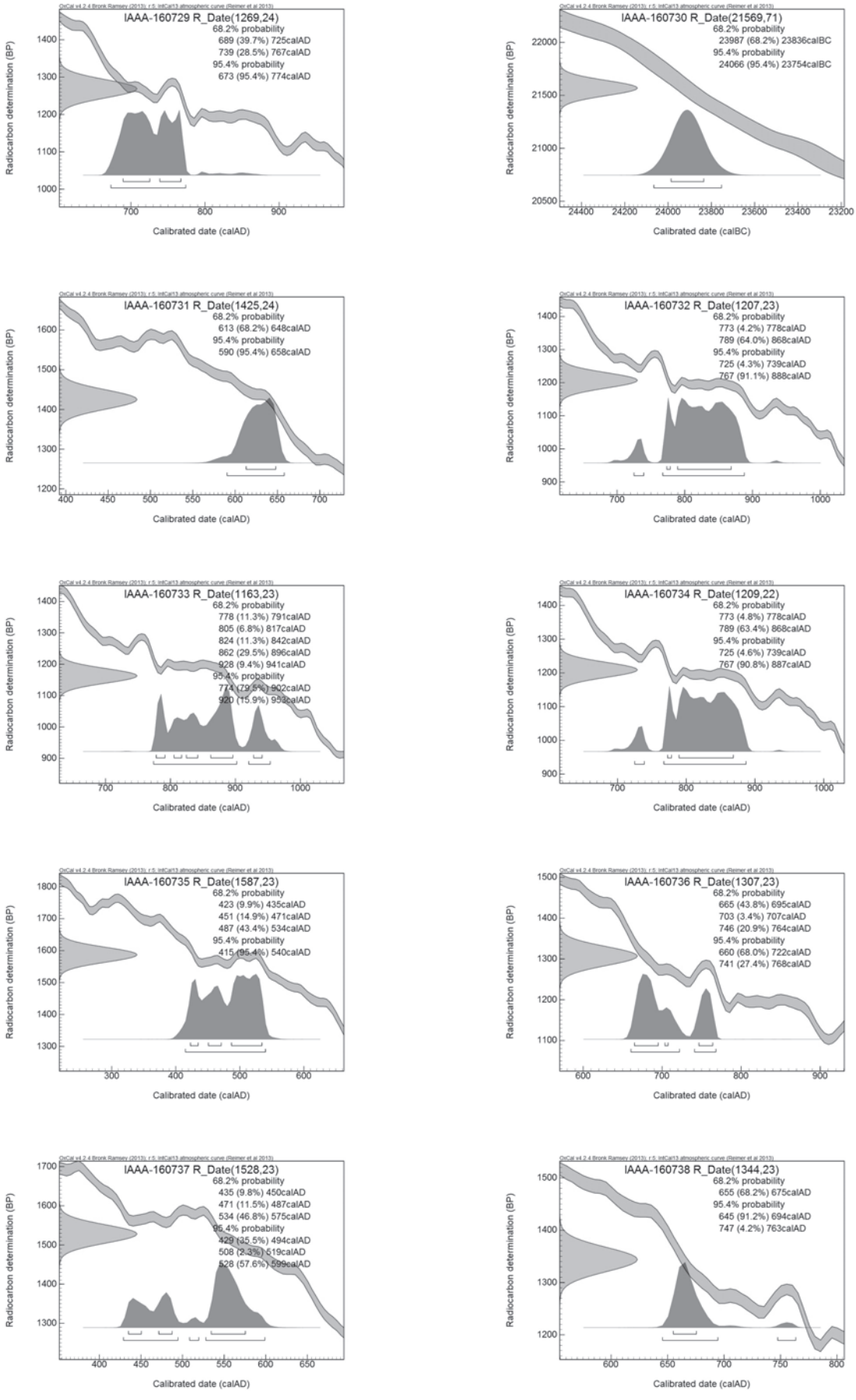
（この警告は較正プログラム OxCal が発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。）

引用文献

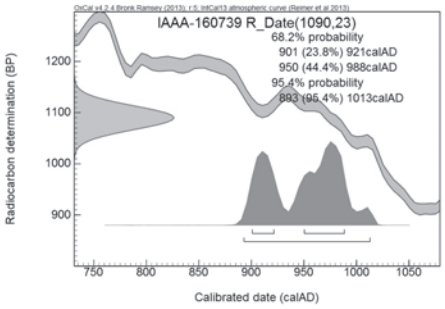
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

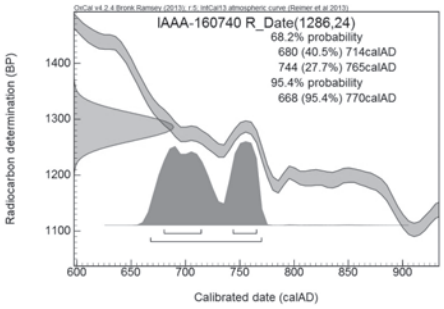
Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

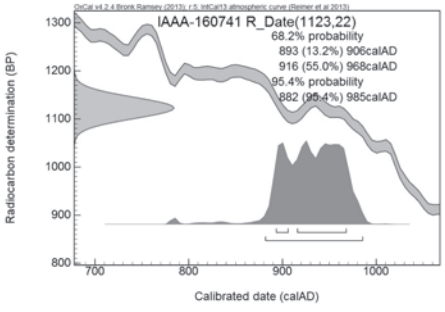
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

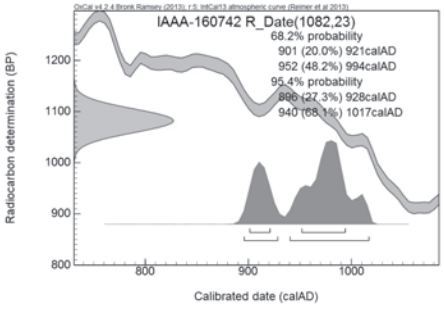


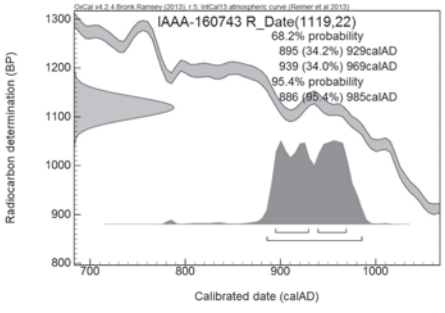
第 45 図　暦年較正結果③

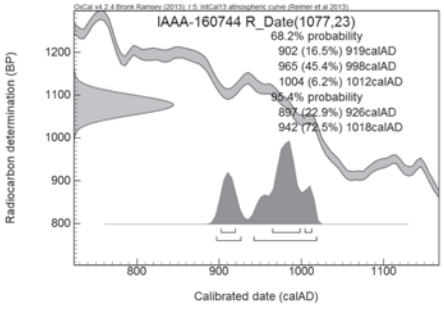


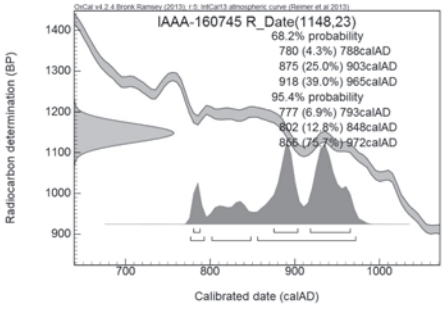


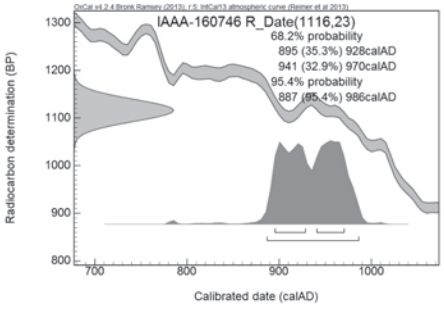


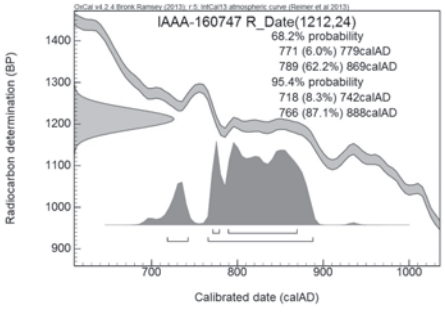


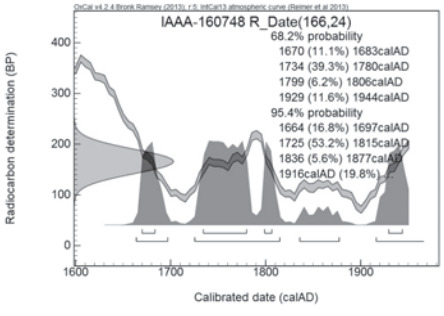












第 46 図　暦年較正結果④

Ⅵ　総　　括

はじめに

蝉田遺跡は山形盆地の北部、村山市河島山から北東約1.7km、蝉田・浮沼集落およびその東に広がる水田地帯に立地している。今回の調査区は標高84mの水田地帯に所在する。蝉田遺跡の出土遺物の８割以上は河川跡SG6出土である。須恵器・土師器（黒色土器・非ロクロ土器）・陶器・石製品・金属製品・木製品・縄文時代石器など大量に出土している。木製品では柱、床材など建築部材や、食器、農具、祭祀具、用途不明木製品など多種多様な木製品が出土している。

1　遺構について

遺跡の南側の１次調査区では平安時代の掘立柱建物跡と土坑・柱穴列・ピット・溝・河川跡等が検出された。この他に近世とみられる溝跡も検出されている。

この調査区には中央部を東から西へ、西流すると見られる河川跡SG6の周辺部分や、その南側付近がやや微高地で地盤が最も安定した地区がある。そのため、この地区では掘立柱建物跡等が数棟検出され、調査区の中でも中心的な掘立柱建物跡SB26が立地している。

この付近から北へは徐々に落ち込み、調査区北端では現水田面から1.5mほど下がる。この北に隣接する２次調査区の南端はさらに下がり水田面より約２mを測る。この深い鞍部は、南北25m東西30mの巨大なものである。平安時代には降雨時期に随時水が滞留していたと見られる。今回の調査時も常時排水しない限り水位が上がり続け調査区のほぼ全体が冠水する状況であった。

北側の２次調査区では、前記した通り南側の１次調査区から続く低い鞍部があり、そこは粘土質の地山である。ここから北及び東に徐々に標高を上げ地盤の安定した地区が形成されている。

掘立柱建物跡は３棟が検出されている。中心的な建物跡SB26は、柱穴の平面形が隅丸方形で規模が70～90cm、深さ50cmと大型である。この他に周辺には大小の柱穴列や柱穴、土坑が所在する。これらからは比較的遺物も出土している。このSB26付近の柱列や柱穴はその位置からSB26に関連するものと見られる。今回、SB26は２×２間の建物跡としたが、少なくとも２×３間、さらにはそれ以上の規模に拡大する遺構であった可能性が大きい。このSB26から出土する遺物は少量だが、９世紀後半から10世紀初頭までの時期が考えられる。付近の土坑や柱穴などから出土している遺物も大差が無く、同様の時期と考えられる。

このSB26の南側へ15mの地点にはSB70が所在する。しかし、両者の建物の主軸方向が若干異なることから、存立時期も異なるものと推定される。SB70では全ての柱穴において柱根が出土している。その内のEB74の柱根の^{14}C年代測定では９世紀初～10世紀中ごろまでの年代が得られている。

もう１つの掘立柱建物跡はSG6の北に隣接するSB84である。２×２間の建物で、柱穴規模は径20～40cm深さは10～20cmで、小さく浅いものが多い。建物主軸方向も他建物とは異なるが、どちらかというとSB70と同様の方向である。

遺物は出土していないが、本址に隣接の柱穴SP93からは柱根が検出された。この柱根の^{14}C年代測定を実施したところ８世紀後半～９世後半の測定結果が得られている。SB84も同様な年代と考えている。

土坑では焼成土坑が多い。特にSG6の北東に隣接して８基が見られる。SK1・2・4・５・９・66・67・81である。形状は円形～楕円形、隅丸方形で、小型のものと大型のものの大きく２種類が見られる。

SK1・2・9はやや大型の土坑である。隣接するSK1とSK9はほぼ同規模の土坑である。両者ともに掘り込みも比較的浅い。さらに炭化物が全面に堆積しており、遺物の出土も小破片が散乱して出土する、という状況も類似している。

SK2は平面形状が楕円形で、底面までの掘り込みもやや浅く、遺物も少ない。SK1・９とは全体にやや異なる様相を呈する。しかし、炭化物の面的な堆積など類似点もあり同様のものとも考えられる。これらの土坑は出土

遺物から 10 世紀前半の時期が与えられる。

この他の SK4・5・66・67・81 はやや小型で平面形が円形～楕円形である。SK4・SK5・SK67 は径 2 m。SK66・SK81 は、径 1.2m ほどで、やや小型の土坑である。これらの掘り込みは深いものでも 15cm 前後、浅いものは 5cm 前後で、非常に浅いものが多い。これらのほとんどの土坑で炭化物が面的に堆積しており、土師器などの小破片が出土している。

SK66・67 は不整形の土坑で表土除去時にはかなり上面で遺物や炭化物、焼土などが出土した。よって、その部分だけ島状に残して遺構確認を行ったため、遺構が周囲よりも盛り上がった状況で精査を行った。

上記の土坑群のほかに SG6 の南東側に SK34 土坑が検出された。SB26 に隣接し大甕が出土した土坑である。大甕のほかに須恵器壷なども見られ、20m ほど離れた SK82 出土土器と接合している。

SK82 では、表面に地山の黄褐色粘土と同様な土壌の堆積が見られ整地された状況と推定される。このように整地された遺構は SK82 のみである。

このほかに、やや特異な土坑が北側調査区で幾つか見られる。グリッド 1008 付近に所在する SK111 は直径 50cm ほどの小穴で中から箱型木製品が出土している。井戸・トイレなどが考えられたが、確証は無く機能は不明である。近世磁器が出土しており、江戸時代後期の所産と考える。

グリッド 1515 に所在する SK115 は当初深さ 30cm ほどの土坑と見られたが、最終的に掘り込み 1.65m を測った。遺物は底面付近から最上面まで出土している。遺構の形状から井戸跡などの可能性があると見られる。堆積土は底面から約 1m 黒色粘質土がやや時間をかけて堆積し、その後灰黄色粘土が薄く堆積した上に 30cm ほどの黒色粘質土が短時間に堆積している。素掘りで、井戸の確証は特にない。

グリッド 1015 に所在する SK141 は須恵器甕片が散乱して出土した土坑である。他には土師器甕片などが少量出土しており、遺物廃棄の土坑と見られる。

この他に柱根の残る柱穴や、遺物の出土する小穴が幾つか見られる。その中で SK1・2・9 の東に隣接する、SP106・107・108 の 3 基の柱穴は注目される。柱間距離は 3.2m の等間隔である。SP106・107 から大型の柱根が出土しており、これらが建物等の柱穴であることは確実である。SP108 から柱根の出土は無い。この 3 基のみの検出であり、用途は不明である。

これらが東側への展開が考えられるが、SP107 から東へ 3.2m の地点は調査区外である。SP106・108 から東へ 3.2m の距離では調査区内で検出されるはずであるが、全く検出されていない。

このほかには溝跡が幾つか検出されている。その中で注目されるのは SD3 である。幅 80 ～ 100cm で、深さは 30cm ほどの溝が東端から西方向に長さ 25m に渡り検出された。遺物は須恵器の出土が多く、特に平高台の坏 190 は底部に特徴があり、兵庫県の青野ダム建設に伴う「川端窯」の調査例に類例が求められる。

河川跡 SG6・SG50 は自然流路と考えている。SG6 は東から西へ流れ、SG50 は SG6 と重複している。土層の堆積状態の観察から SG50 は SG6 よりも早く流れを止めたようである。

SG50 は幅 5 ～ 6m で、最深部で 2m を測る流路である。底面付近からは縄文時代の石器などが出土している。また、比較的上面で 8 世紀後半と見られる須恵器坏や、木製品数点が出土している。重複する SG6 が大量の遺物を出土するのとは対象的に遺物の出土は非常に少ない。SG6 の一番多い出土遺物の 9 世紀後半～ 10 世紀初めには流れを止めていたと推定する。

SG6 からは、本遺跡における、遺物の大半を出土している。SG6 は幅 5 ～ 7m、深さが 1.4 ～ 1.7m、長さが 60m に渡り検出された流路である。堆積土には粗砂層と砂質シルト層が交互に堆積し、最下層周辺は径 1 ～ 8cm の粗砂と礫の混合層の堆積である。地山は上層からオリーブ黒色砂質シルトで粗砂混入。オリーブ黒色粘質シルトで砂混入。最下層は黒色粘土である。

火山灰と見られる白色土は確認面からの深さが、グリッド 8711 ～ 8713 地区では 30 ～ 60cm、グリッド 8707 地区では 40 ～ 100cm の下層地点で検出されている。両岸に堆積が見られるが北側の方が厚い。分析によると 10 世紀初頭の十和田 a 火山灰との結果を得ている。この火山灰層の上下で出土する土器に時期差はほとんど見られない。

SG6 では大量の木製品や土器が出土しているが、その他にも自然木なども多数出土している。確認面から 60

～ 70cm ほどの比較的浅い堆積層中から自然木・木製品が出土している。よって、ある程度上層まで堆積が進み埋没してからも流れは続いていたものと見られる。

遺物の出土は東側で多く西に進むに従い少なくなる傾向が見られるが、遺物の出土には幾つかの集中箇所が見られる。最大の地区は SG6 東端から西へ 23m、グリッド 8710 付近までが 1 箇所、そこから 16m 離れてグリッド 8806 付近にもう 1 つの集中箇所、さらに 8m 離れたグリッド 8803 付近にもう 1 箇所の集中が見られる。さらに西へ 6m 離れた地区には小さな集中箇所が見られる。調査区西端の SG6 内からは 1063 の 3.6m を測る棟柱が完形で出土している。この西端から東へ 10m ほどの地区までは木製品・土器などの遺物出土はやや少ない傾向にある。

桧扇の 1070 ～ 1073・1077 は一箇所からまとまって出土しており、その 120cm ほど離れた地点で 1075 が出土している。1070 ～ 1073 は 1 組の桧扇が廃棄されたものと見られる。

土器の出土状態も木製品の出土状態に類似点がある。やはり、東側が多く西に従い少なくなる傾向にある。SG6 東端からグリッド 8711 ～ 8715 までは多数の土器が出土し、特にグリッド 8713・8712 付近では完形土器が多く出土している。さらに、グリッド 8711 付近西から 8709 までがまた 1 つの集中地区がある。グリッド 8808 付近に小さな集中箇所があり、グリッド 8805・8806 にも集中が見られる。さらに西端までは東側よりも出土は少ない。

2　遺物について

蝉田遺跡では 1 次調査、2 次調査を通して須恵器、土師器、ロクロ土師器、黒色土器、木製品、柱根、自然木、など多数の遺物等が出土した。本報告書では、その内 1337 点を図示した。土器・石器が 845 点、木製品が 492 点の内訳である。図示した遺物のほかにも多数が出土している。これらの遺物は特に南側の 1 次調査区での出土が多い。その中でも、河川跡の SG6 からの出土量が圧倒的である。

須恵器は土坑や溝跡から少量出土している。SG6 からは第 127 ～ 136 図に示した様に少しまとまって出土している。須恵器は全出土量の約 1 割（13％）である。須恵器の時期は少なくとも二時期が考えられる。第 127 図 251 ～ 269 は底部回転ヘラ切り離し技法で底径口径が大きい須恵器で 8 世紀後半～ 9 世紀前半と見られる。第 128 図 270 ～ 285 は底部回転糸切り離し技法で底径口径が小ぶりのものが多く、9 世紀中頃～後半と見られる。

注目されるのは SD3 出土の 190 である。底部が高台風であるが、脚台という形態を呈しない、特殊底部の須恵器坏が出土している。類例では兵庫県川端窯出土品に見られる。県内の研究者からは「手を抜いた製作」と言う意見を頂いている。348 の水瓶は灰釉陶器の写しと見られ注目される。9 世紀後半と見られる。

また、SK34 出土の 74 の須恵器は口径が 50cm、器高が 86cm、最大径が 70cm を測るもので、全体の約 5 割が復元されている。須恵器の時期の下限は 9 世紀後半と考えられ、土師器の下限 10 世紀第 2 四半期よりも古い。

土師器にはロクロ土師器と非ロクロ土師器、黒色土器がある。出土土器のほとんどが土師器である。その中でもロクロ土師器の坏が圧倒的である。土坑・溝・小穴等出土では破片での出土が多い。河川跡 SG6 では遺存度の高い土師器が多く出土している。特に完形土器の出土が多く、全く無傷のものが 44 点出土している。出土時には完形であり取上げ時に破損したものなども含めると約 100 個体の完形土器が出土している。

土師器坏などの遺存については、バラバラの破片出土も多いが、底部付近は完形で体部の 1/3 ～ 1/4 は残っていると言うパターンの遺存の坏が多数である。ロクロ調整の土師器坏では、内面のロクロ目の凹凸をナデやヘラミガキを施して平滑に調整する土器が少し見られるのは本遺跡の特徴である。その後に柿渋などの塗布を行っている場合が多い。胎土には赤色粒子の混入が目立つ。時期がある程度特定された土器には次のものがある。615 は大ぶりの鉢様の高台坏、616 は柿渋が塗布される高台坏で両者ともに 10 世紀第 1 四半期の可能性が指摘されている。366・371・390・391・414・482 は底径が小さく、底部の土取りも雑なものがあり、器高も低い。これらは 10 世紀第 1 ～ 2 四半期の可能性が指摘された。特に 366 は器高が 4cm にも満たない非常に低いものである。390 は底部が凸状に飛び出す偽高台の

坏である。

非ロクロ土師器坏は 17 点が出土しており、底部に網代痕が見られる。800 は土器外面ヘラ削り、内面ヘラナデの非ロクロ調整の高台坏としたが、ナデの痕跡が横方向に規則的に整っていることや器形が整美なことから、回転台･ロクロを使用している可能性が考えられる。また、内面に柿渋と見られる暗褐色の塗布物が見られる。822も同様でロクロ回転を使っている可能性がある。内面は横のヘラナデで、炭化物が全面に大量に付着している。799・800・825 は 9 世紀第 4 四半期～ 10 世紀第 1 四半期に入る可能性がある。

黒色土器は内面のみが黒色処理される内黒土器と内外面黒色処理されるものがある。ほとんどが内面黒色の内黒土器である。内外面黒色処理の両黒土器はわずかに 10 点ほど出土している。その中でも 811・813 は高台坏（碗）や皿で、丁寧な仕上がりである。底部に回転糸切り痕があり、ロクロ成形後に丁寧なヘラミガキを施されたものである。820 は内外面黒色処理の耳皿で 10 世紀初頭と見られる。

内面黒色処理の内黒土器では、内面全面に縦横にランダムなヘラミガキ調整が施された後、底面付近に上から下に向け、同心円の放射状にヘラミガキが施される。所謂、「暗文」を意識したものと見られる。最初の磨きの単位は細く、放射状のミガキの単位は太くしているものが多く特徴的である。また、蝉田遺跡では基本的に内黒土器で外面に黒色処理がはみ出した部分には、わずかな部分であっても外面をヘラミガキ調整している。

墨書土器は 148 点が出土している。「定」の文字が多く、推定「定」も含め 38 点が出土している。また、SK82 出土の 63 の土師器小型壷の胴部には線刻文字「佛」が見られ注目される。319 は底部に「官」の刻書がある。この刻書について「ヘラ書きで文字が小さくまとまるのは古い物の特徴で、焼成前に書いているのは役所に納入するため」と考えられる、と教示頂いている。

土師器坏には内外面に墨、油煙、炭化物が多量に付着した土器が多数出土している。口縁部内面の四方向に油煙が付着しているもの、内面に墨が付着していて「筆直し」と見られるものなどが多数ある。須恵器には炭化物ではなく、墨の付着がほとんどである。

木製品は柱根、床材などの建築部材、食器、農具、祭祀具､工具､装身具､用途不明品など多数が出土している。これらの中でも祭祀具が豊富に出土している。特に形代や斎串、桧扇などが特筆される。形代は 1064 の鳥形と見られる 1 点のみの出土である。「馬形」との見方もあるが、頭部と尾尻が直線的なことから「鳥形」とした。

本遺跡の斎串は板状、棒状、串状、杭状などを呈し、長短様々のものがある。斎串の中で頭部を明確に形成するものは 1065 ～ 1069 の 5 点が出土している。

1065・1067 は上端が圭頭状を呈するものである。頭部圭頭状の 1065 は、中位よりやや上端寄りに切り込みが上下両方向から入り、下端が剣先状に尖がる典型的な斎串のタイプである。1066・1068・1069 は頭頂部を平坦に造り出し、1066 は下端を剣先状に加工するもので 1067・1068 は先端部の幅が広がるものである。この先端が広がる斎串は他に類例が見られない。

頭部を平坦に加工し、先端部の片側を斜めにカットするものがある。これには棒状と板状の 2 種類が見られ 1088 が典型である。他にも 1089 ～ 1092、1094、1095 などがある。1095 などは非常に小型で祭祀遺物として疑われたが、西日本で最大級の祭祀遺跡である兵庫県砂入遺跡でもミニチュアの斎串や小型の斎串が多数出土しているため、斎串とした。砂入遺跡では両端を斜めにカットする板状で小型の斎串（蝉田 986・1130）などが多数出土している。本遺跡ではこの両端を斜めにカットするものに板状と棒状のタイプがある。（蝉田 986・1103・1130・1161）

両端をカットする中でやや特異なものは 1103 である。短い枝状（丸木状）の斎串で上下端を斜めに切る。端部以外は加工されず、樹皮が残る。このタイプは 1 点のみの出土であるが、遊佐町上高田遺跡では同様の枝状（丸木状）の斎串が 5 本出土し（上高田 991 ～ 995)、上高田遺跡では「用途不明木製品」としている。上高田遺跡出土例は太さ 0.5 ～ 1 cm で蝉田遺跡よりも細い枝が多い。ちなみに、砂入遺跡では上端平坦加工および両端斜めにカットする、板状品の斎串のほとんどに上部から、わずかな切込みが入っていることが特徴である。

第 207・208 図にある、棒状（1102)・串状（1105）を呈し細い先端部を持つものも多い。非常に丁寧に加工成形される太い棒状品（1115 ～ 1124）などは「柄杓の柄」と言う見方もあるが。斎串に分類した。これらよ

りもさらに太い棒状品も斎串とした。（1096 ～ 1099）半割材様の、平坦な面を有するものもある。（1097・1098）

上高田遺跡では「杭状木製品」（上高田 936・937・940・1002）としているが、非常に丁寧に造られており、工具としての見方もあるが、本遺跡では祭具に分類した。細く長い角材、棒材（1079 ～ 1083）なども斎串と考えている。1079・1080 は先端が炭化しているものである。

桧扇は 8 本が出土し、同一個体は 4 本である。1070 ～ 1073 で、ほぼ同一地点から出土した。樹種が杉なのに桧扇と呼ぶのはいかがか、材が厚く上部の幅が広がるのは一般的ではないので在地の特徴、などの見方もある。在地で桧扇を模して杉材で作ったものと理解する。1078 には文字が見られ、仮名文字と推定されたが、文字は不明である。燃やされており、残った形態から元々は桧扇であったと見られる。

この他、用途は不明で形態も様々であるが、975・976 様の両端を加工している短い角材がある。このような両端加工の木製品が比較的出土している。

3　遺跡の性格

9 世紀中ごろから後半になると律令祭祀が在地化する。出羽北部では形代が欠落し始め、最初に人形が見られなくなり、形代の形がはっきりしなくなる。人面墨書土器も無くなる。須恵器の壷や甕をわざと割って内面に墨を塗る祭祀が出羽北部では行われる。

蝉田遺跡は山形盆地の入り口で、出羽北部や庄内地方からの交流も考えられる。形代がほとんど無いことから、新しい時期の祭祀の形に当てはまると考える。SK1 ～ 5・9・66・67・81 等の土坑では、地面を少し掘りくぼめて、土器や木製品を燃やし、残りは流路に捨てる、などの何らかの、土器・木製品を燃やす祭祀を行っている。

この他に完形土器を川に流す、あるいは供える行為、逆に打ち欠いて捨てる行為などが出土土器の観察から見て取れる。在地化した祭祀行為と推定する。蝉田の斎串に典型的なものが少なく、板状・棒状・杭状など様々な形態品が出土するのは律令祭祀が在地化した祭祀行為の産物と考える。

精製した底部網代の 825 などの土器は、ロクロ使用後ヘラ削り、ミガキなどの調整を行い非ロクロ使用品様に造られる。これはロクロ工人の影響を非ロクロ工人が受けた結果、造られた土器と推定される。地区の祭祀行為が行われた場所で、その中に網代土器が取り入れられている状況が見られることから、出羽北部とのつながりが考えられる。

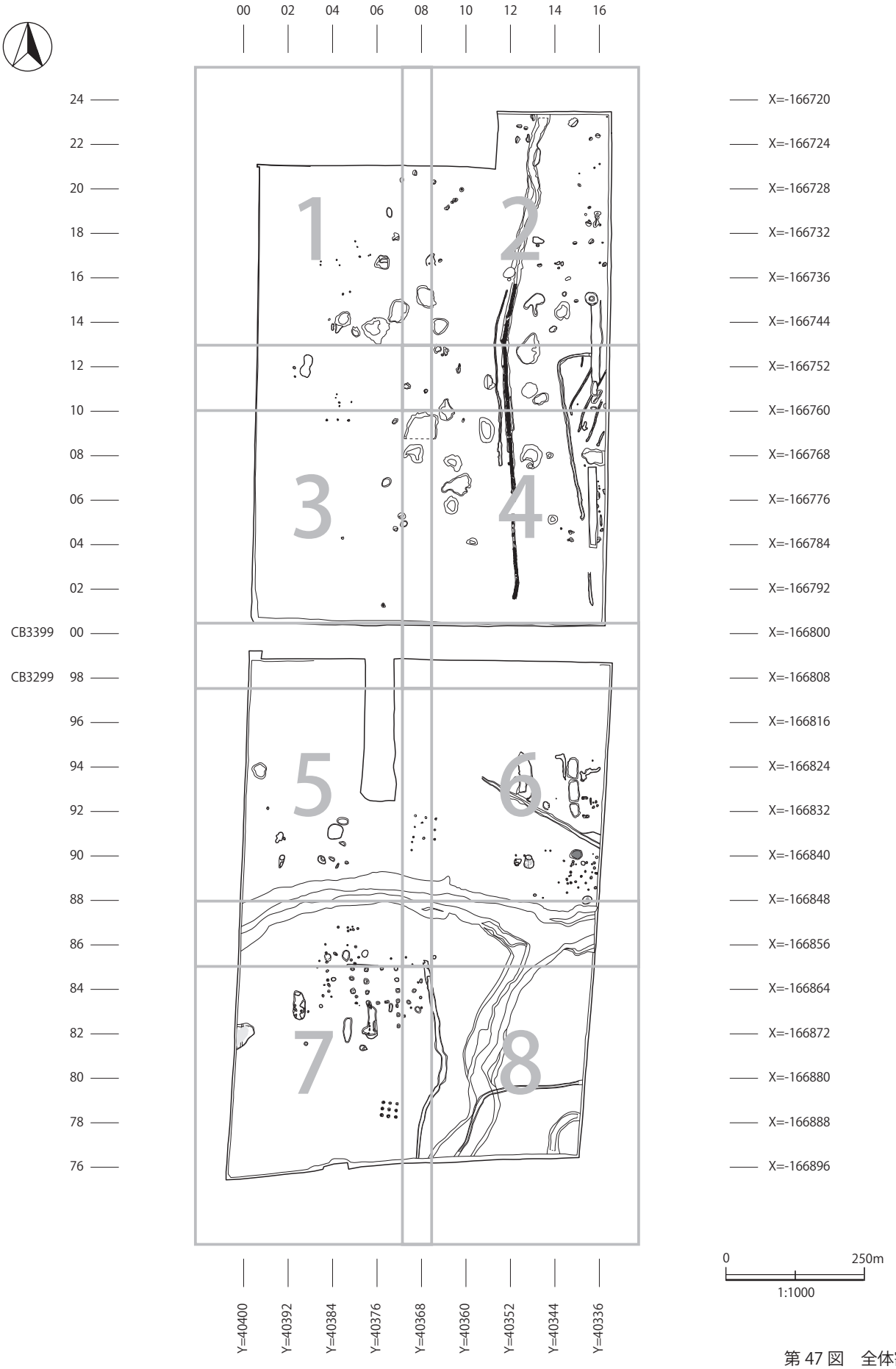
また一方で、水を弾くために土器内面に柿渋を塗布する土師器が出土しているが、この技術は北陸系の遺物に見られることから、北陸の技術を引用している可能性も考えられる。

蝉田遺跡の年代の中心は出土土器の特徴から、9 世紀後半から 10 世紀第 1 四半期の範疇であると見られるが、数点ほど出土している土師器坏の形態から一部は 10 世紀第 2 四半期まで下がるものと推定される。

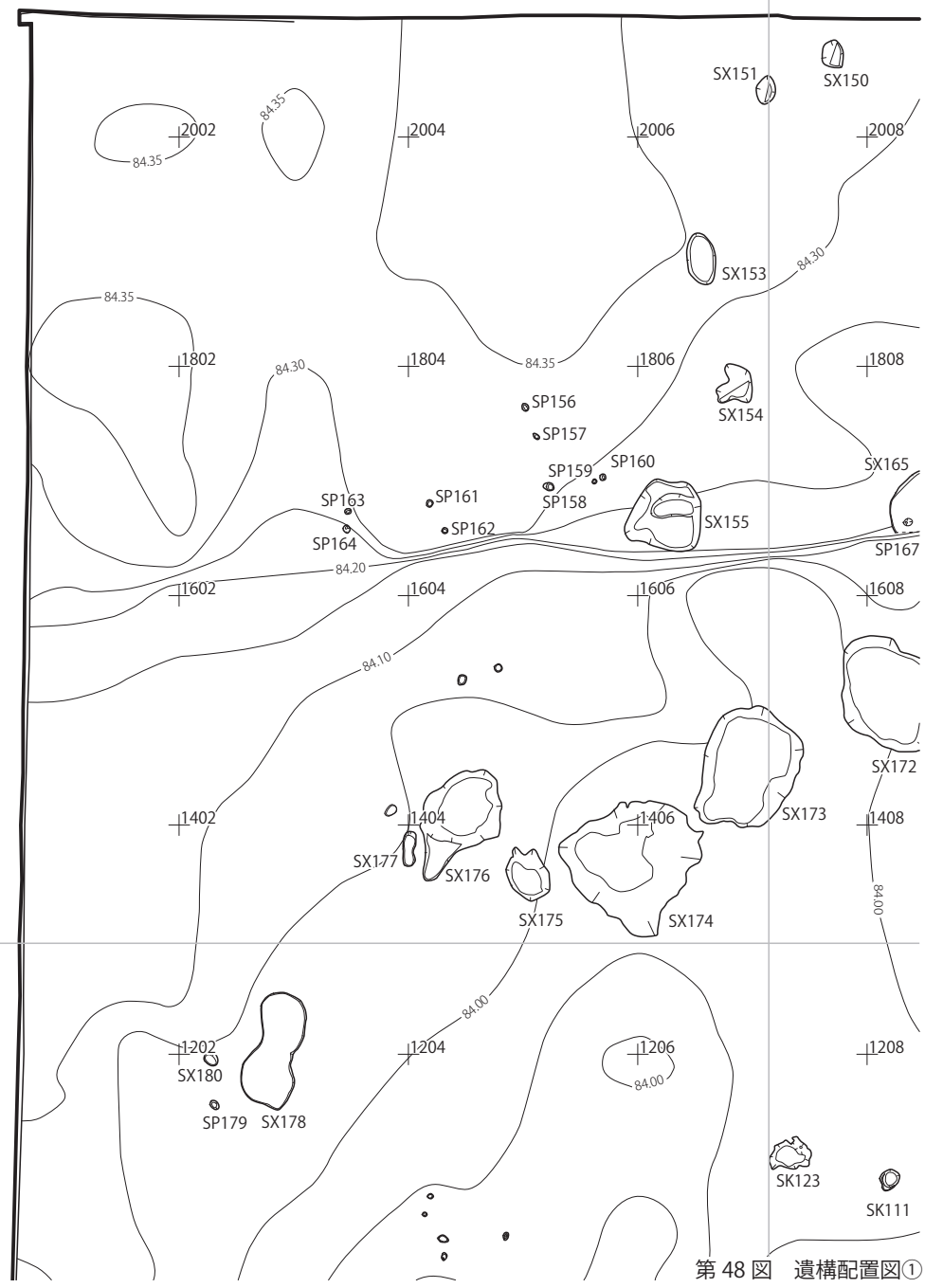
この他にも、蝉田遺跡の出土遺物で須恵器坏以外の土師器坏は 10 世紀第 1 四半期～第 2 四半期にほとんどが当てはまるという意見もあり、祭祀遺物が少なくその場で行っていた可能性は少ない、と言う意見も頂いている。

引用文献

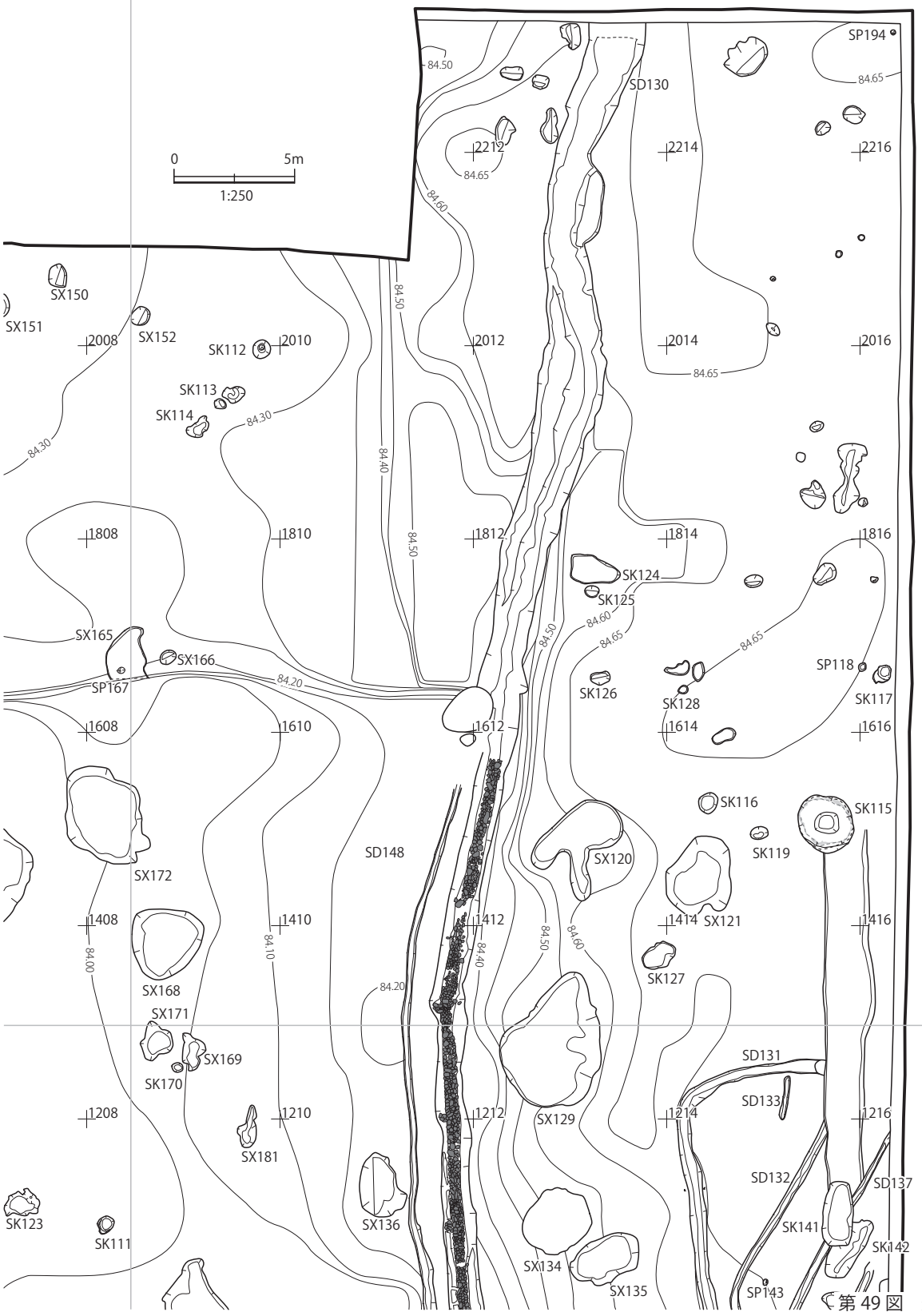
大阪府教育委員会　1981 「大蔵司遺跡」大阪府文化財調査概要 1981
財団法人山形県埋蔵文化財センター　1994 「今塚遺跡」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 7 集
財団法人山形県埋蔵文化財センター　1994 「木原遺跡第 2 次調査」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 8 集
財団法人山形県埋蔵文化財センター　1995 「大坪遺跡」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 23 集
財団法人山形県埋蔵文化財センター　1995「上高田遺跡木戸下遺跡」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 25 集
兵庫県教育委員会　1997 「砂入遺跡」兵庫県文化財調査報告書第 161 冊
財団法人山形県埋蔵文化財センター　1998 「上高田遺跡」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 57 集
兵庫県教育委員会　2000「袴狭遺跡」兵庫県文化財調査報告書第 197 冊
兵庫県多可郡中町教育委員　2005 「安坂・城の堀遺跡Ⅲ」中町文化財報告 34
秋田市教育委員会、秋田城跡調査事務所　2008 「秋田城跡Ⅱ」鵜ノ木地区
山内七恵　2008 「山形県内出土斎串の集成と分類」 山形県埋蔵文化財センター研究紀要第 5 号
財団法人山形県埋蔵文化財センター　2009 「加藤屋敷第 1 ・ 2 次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 179 集
公益財団法人山形県埋蔵文化財センター　2016 「清水遺跡第 8 次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 224 集
小松正夫他　2010 『北方世界の考古学』


00
02
04
06
08
10
12
14
16
24
22
20
18
16
14
12
10
08
06
04
02
CB3399 00
CB3299 98
96
94
92
90
88
86
84
82
80
78
76
X=-166720
X=-166724
X=-166728
X=-166732
X=-166736
X=-166744
X=-166752
X=-166760
X=-166768
X=-166776
X=-166784
X=-166792
X=-166800
X=-166808
X=-166816
X=-166824
X=-166832
X=-166840
X=-166848
X=-166856
X=-166864
X=-166872
X=-166880
X=-166888
X=-166896
1
2
3
4
5
6
7
8
Y=40400
Y=40392
Y=40384
Y=40376
Y=40368
Y=40360
Y=40352
Y=40344
Y=40336
0
250m
1:1000

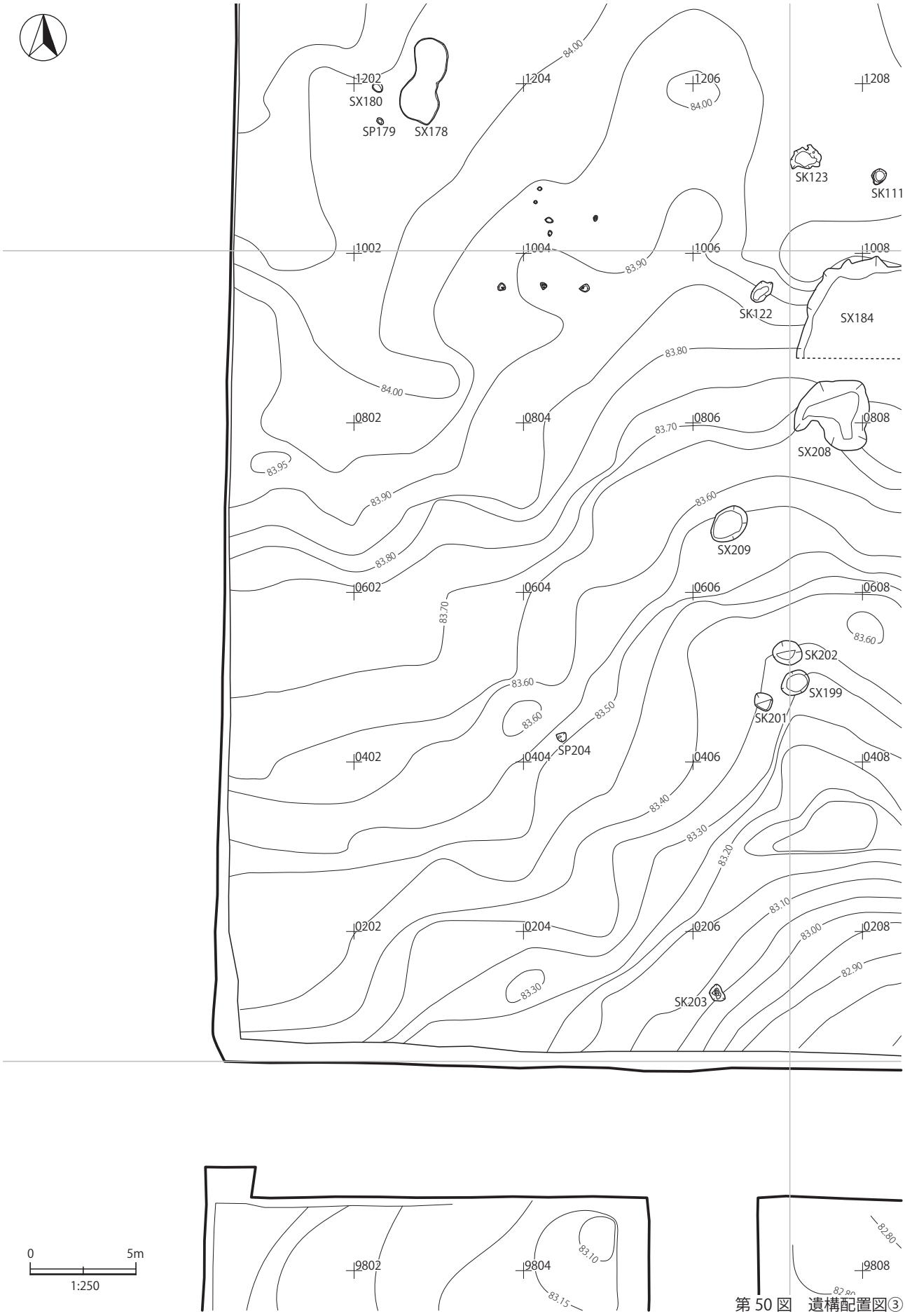
第 47 図　全体割付図


SX151
SX150
2002
2004
2006
2008
84.35
84.35
SX153
84.30
84.35
1802
1804
1806
1808
84.30
84.35
SP156
SX154
SP157
SP159
SP160
SX165
SP163
SP161
SP158
SX155
SP164
SP162
SP167
84.20
1602
1604
1606
1608
84.10
SX172
1402
1404
1406
SX173
1408
SX177
SX176
SX175
SX174
84.00
84.00
1202
1204
1206
1208
SX180
84.00
SP179
SX178
SK123
SK111
0
5m
1:250

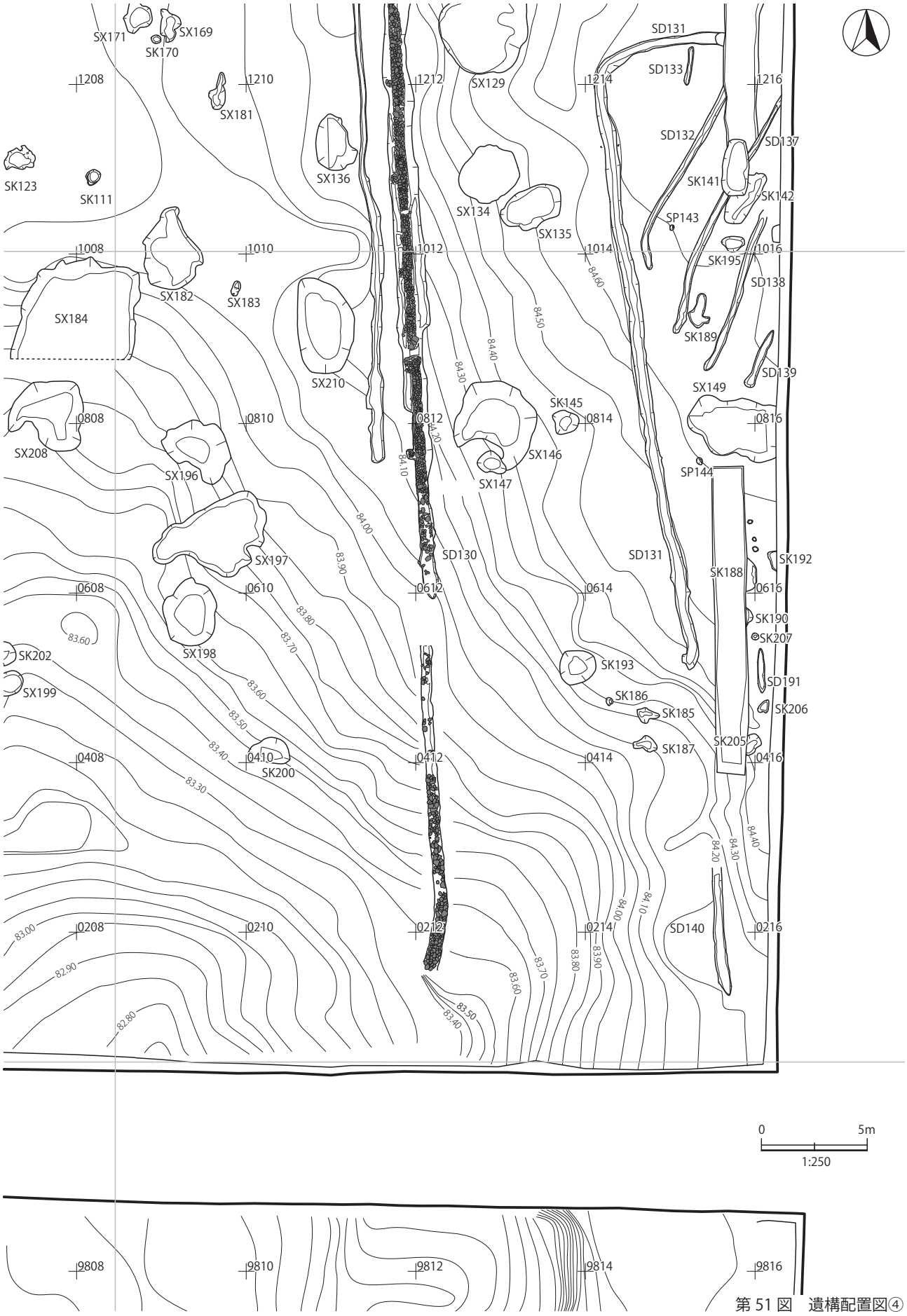
第 48 図　遺構配置図①


0
5m
1:250
SP194
SD130
2212
2214
2216
2012
2014
2016
SX150
SX151
2008
SX152
SK112
2010
SK113
SK114
1808
1810
1812
1814
1816
SK124
SK125
SX165
SX166
SP167
SK126
SK128
SP118
SK117
1608
1610
1612
1614
1616
SK116
SK115
SK119
SD148
SX120
SX172
1408
1410
1412
1414
SX121
1416
SK127
SX168
SX171
SX169
SK170
SD131
SD133
1208
1210
1212
SX129
1214
1216
SX181
SD132
SD137
SK123
SK111
SX136
SK141
SK142
SX134
SX135
SP143

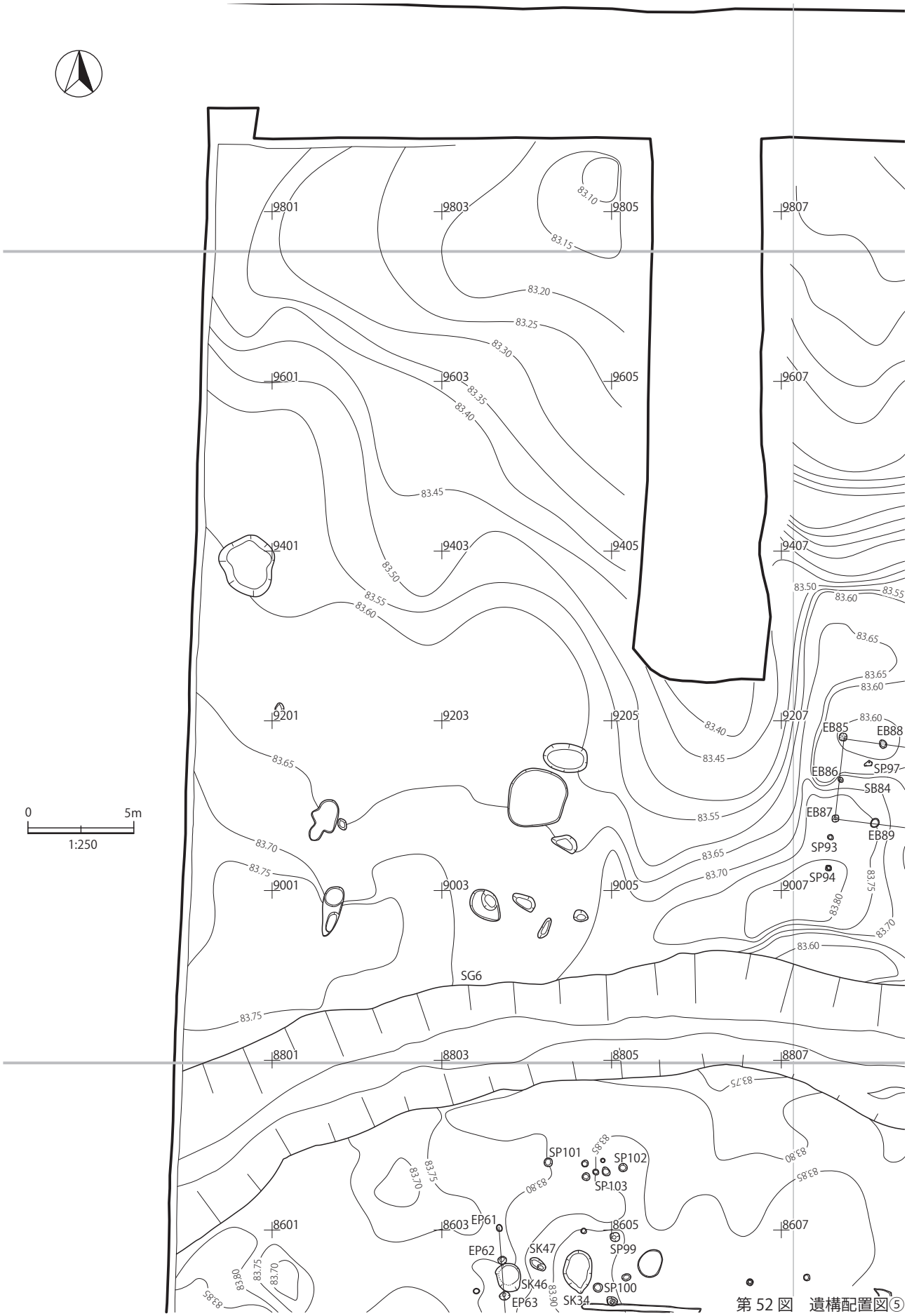
第 49 図　遺構配置図②


1202
SX180
SP179
SX178
1204
1206
1208
84.00
SK123
SK111
1002
1004
1006
1008
83.90
SK122
SX184
83.80
84.00
0802
0804
0806
0808
83.70
SX208
83.95
83.90
83.60
SX209
83.80
0602
0604
0606
0608
83.70
83.60
SK202
SX199
83.60
83.50
SK201
SP204
0402
0404
0406
0408
83.40
83.30
83.20
83.10
0202
0204
0206
0208
83.00
82.90
83.30
SK203
9802
9804
9808
83.10
83.15
82.80
82.80
0
5m
1:250

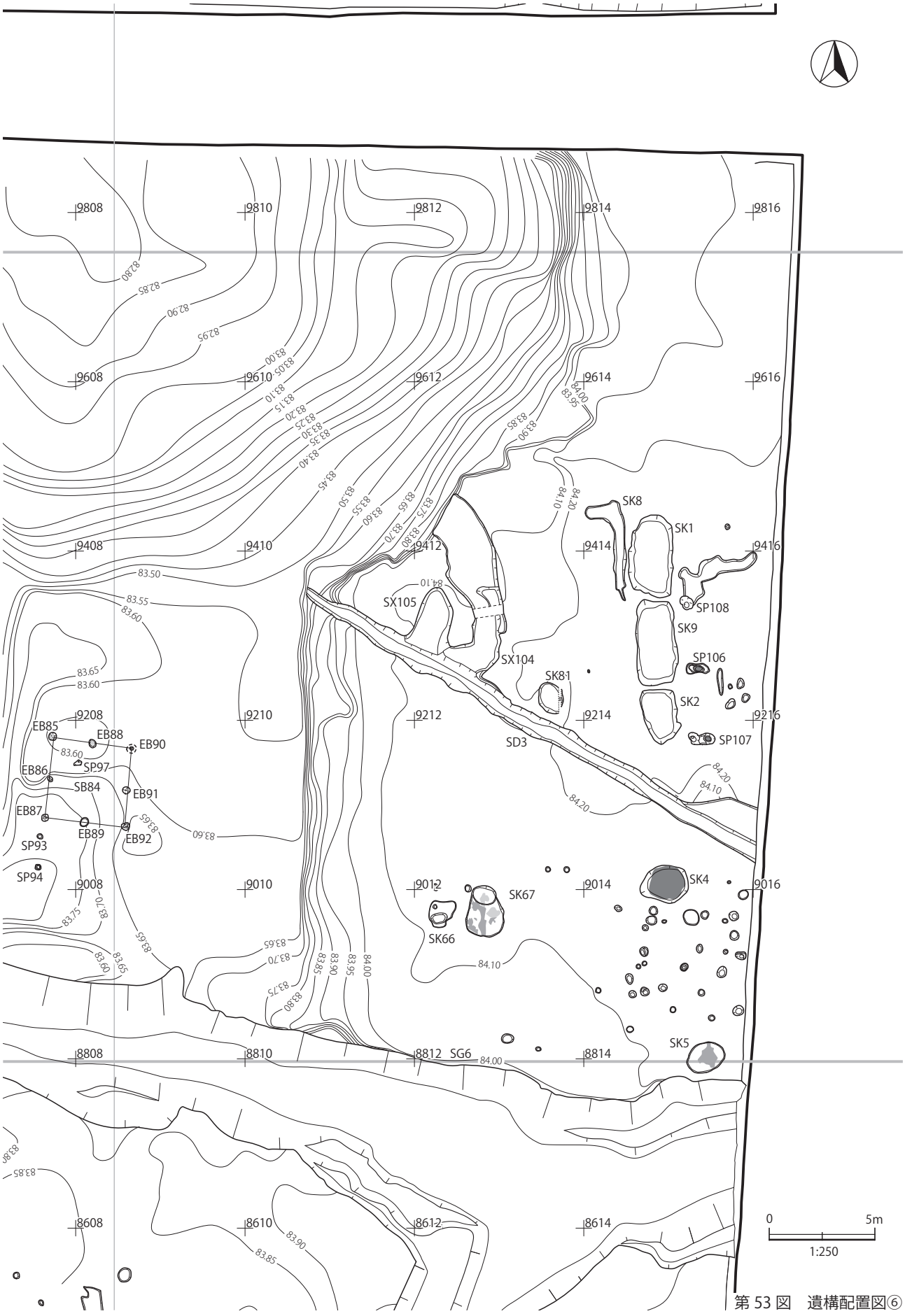
第 50 図　遺構配置図③


SX171
SX169
SK170
SD131
SD133
1208
1210
1212
SX129
1214
1216
SX181
SD132
SD137
SX136
SK123
SK111
SK141
SK142
SX134
SX135
SP143
1008
1010
1012
1014
1016
SK195
SD138
SX182
SX183
SX184
SK189
SD139
SX210
SX149
SK145
0808
0810
0812
0814
0816
SX208
SX196
SX146
SX147
SP144
SD130
SD131
SK192
SX197
SK188
0608
0610
0612
0614
0616
SK190
SK207
SX198
SK202
SK193
SD191
SX199
SK186
SK185
SK206
SK205
SK187
0408
0410
0412
0414
0416
SK200
SD140
0208
0210
0212
0214
0216
9808
9810
9812
9814
9816
0
5m
1:250

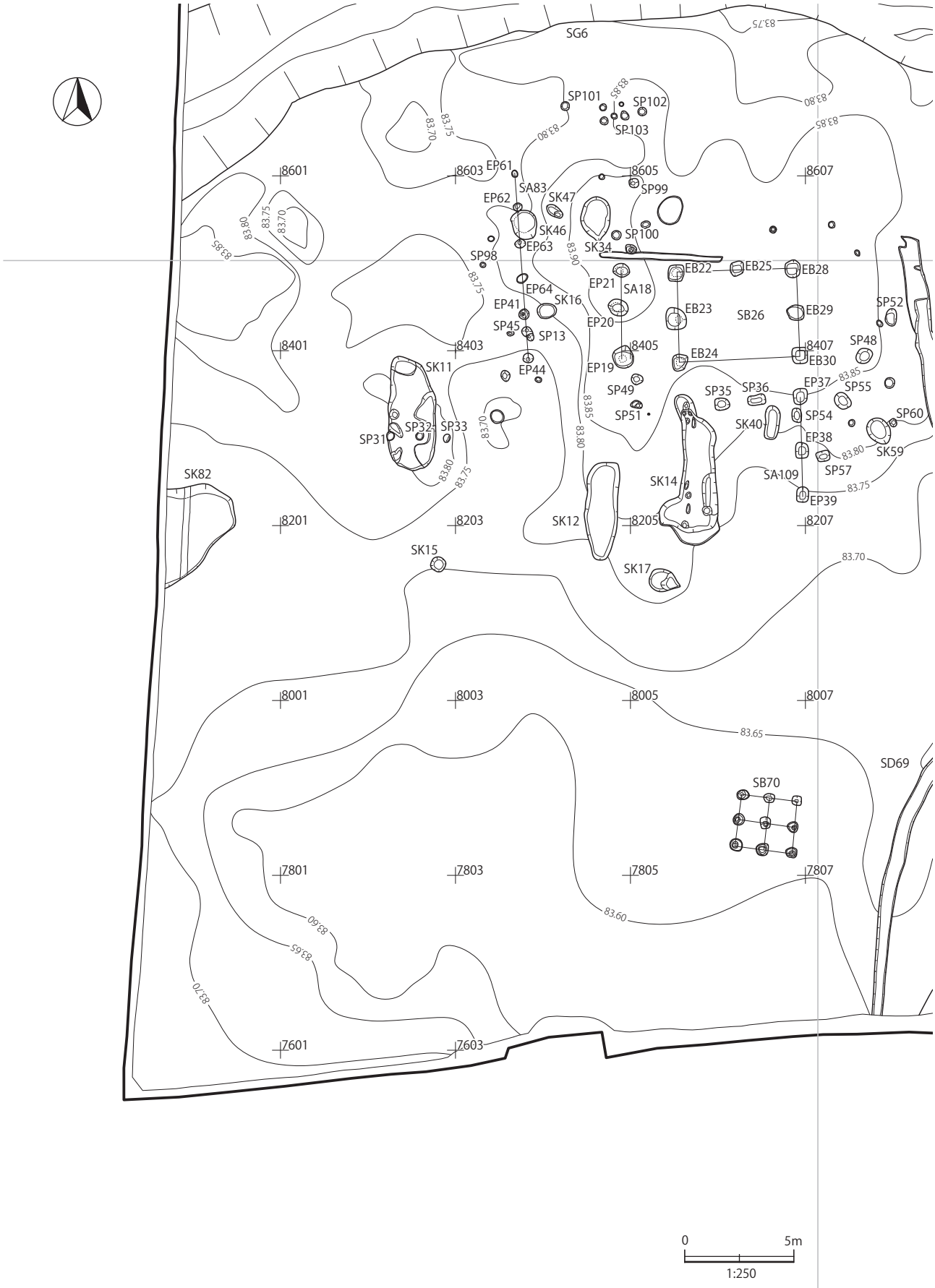
第 51 図　遺構配置図④


9801
9803
9805
9807
9601
9603
9605
9607
9401
9403
9405
9407
9201
9203
9205
9207
9001
9003
9005
9007
8801
8803
8805
8807
8601
8603
8605
8607
83.10
83.15
83.20
83.25
83.30
83.35
83.40
83.45
83.50
83.55
83.60
83.65
83.70
83.75
83.80
83.85
EB85
EB88
EB86
SP97
SB84
EB87
EB89
SP93
SP94
SG6
SP101
SP102
SP103
EP61
EP62
SK47
SP99
SK46
SP100
EP63
SK34
0
5m
1:250

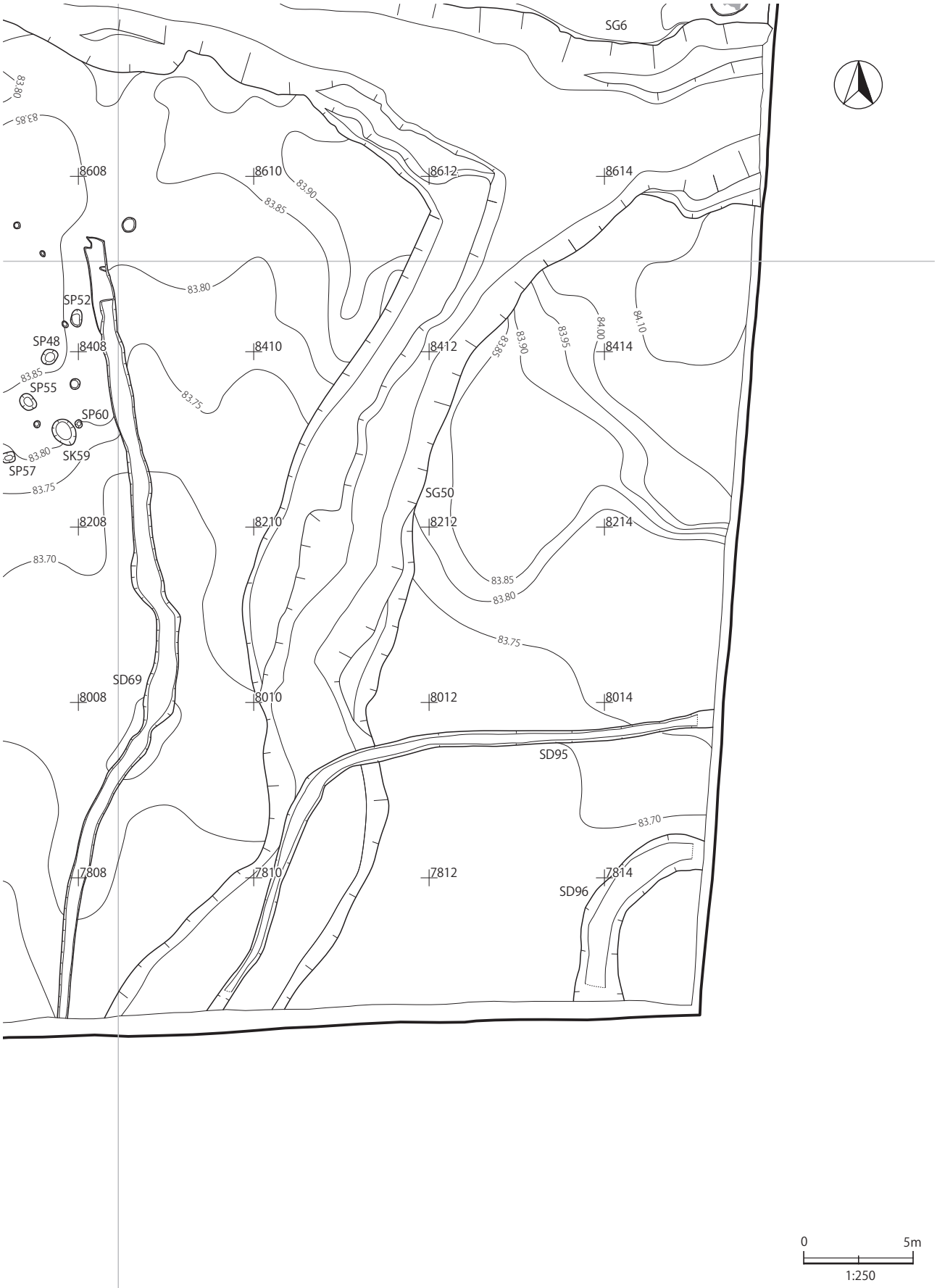
第 52 図　遺構配置図⑤


9808
9810
9812
9814
9816
9608
9610
9612
9614
9616
9408
9410
9412
9414
9416
9208
9210
9212
9214
9216
9008
9010
9012
9014
9016
8808
8810
8812
8814
8608
8610
8612
8614
SG6
SK8
SK1
SP108
SK9
SP106
SK2
SP107
SX105
SX104
SK81
SD3
SK4
SK67
SK66
SK5
EB85
EB88
EB90
EB86
SP97
SB84
EB91
EB87
EB89
EB92
SP93
SP94
0
5m
1:250

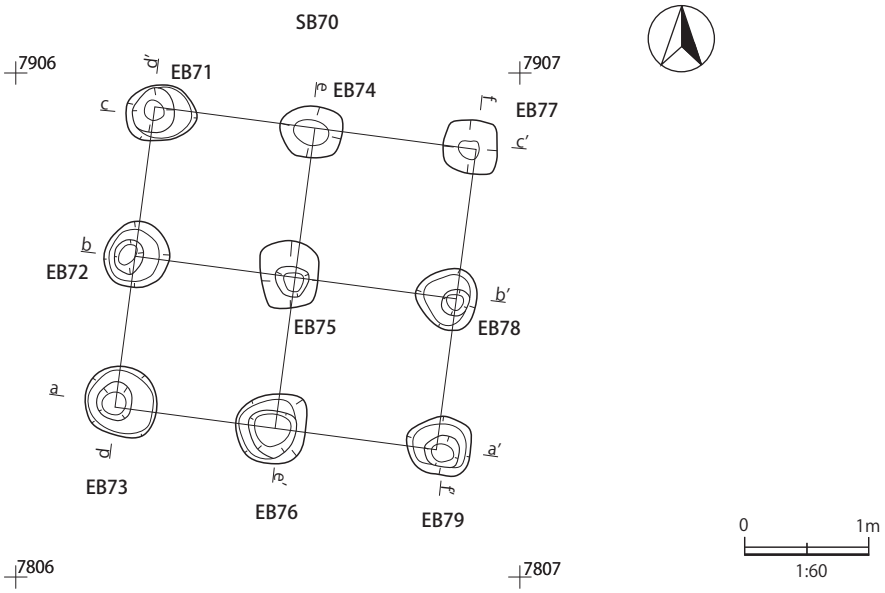
第 53 図　遺構配置図⑥

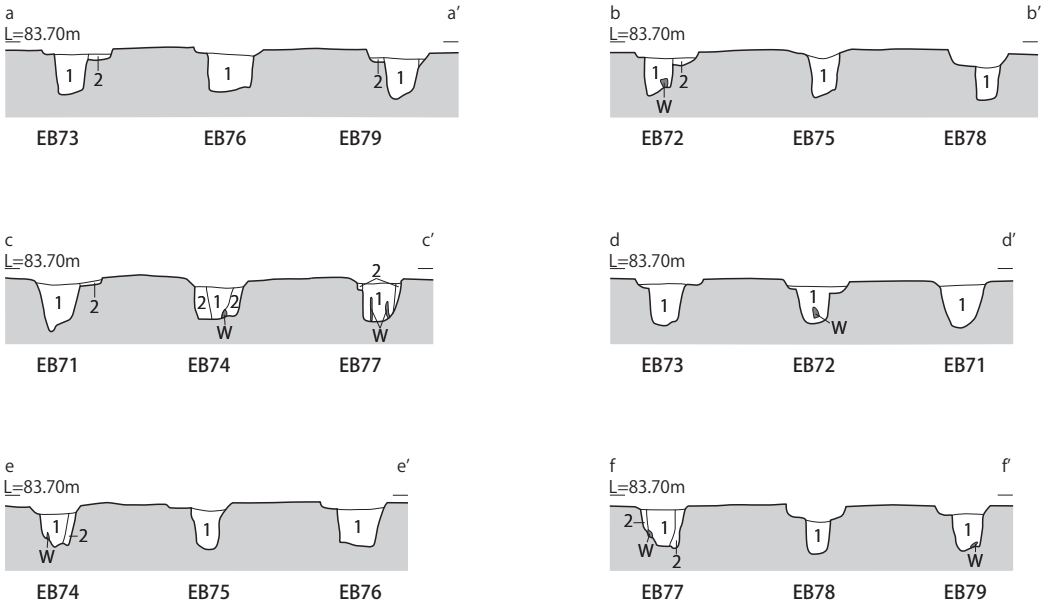

SG6
SP101
SP102
SP103
8601
8603
EP61
8605
8607
SA83
SP99
EP62
SK47
SK46
SP100
EP63
SK34
SP98
EB22
EB25
EB28
EP21
SA18
EP64
SK16
EP41
EB23
SB26
EB29
SP52
EP20
SP45
SP13
8401
8403
8405
8407
SP48
EB24
EB30
SK11
EP44
EP19
SP49
SP35
SP36
EP37
SP55
SP51
SP54
SP60
SP32
SP33
SP31
SK40
EP38
SK59
SK82
SP57
SK14
SA109
EP39
8201
8203
SK12
8205
8207
SK15
SK17
8001
8003
8005
8007
SD69
SB70
7801
7803
7805
7807
7601
7603
0
5m
1:250

第 54 図　遺構配置図⑦


SG6
8608
8610
8612
8614
8408
8410
8412
8414
8208
8210
8212
8214
8008
8010
8012
8014
7808
7810
7812
7814
SP52
SP48
SP55
SP60
SK59
SP57
SG50
SD69
SD95
SD96
83.80
83.85
83.90
83.75
83.70
84.00
84.10
83.95
0
5m
1:250

第 55 図　遺構配置図⑧





EB71

1.10YR3/1黒褐色粘土	砂・炭（φ0.2~0.5㎝）を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/4暗褐色粘質シルト	砂を少量、炭（φ0.5㎝）を微量に含む、粘性強・しまり中

EB72

1.10YR3/1黒褐色粘土	砂・炭（φ0.3㎝）を微量に含む粘性中・しまり中
2.10YR3/3暗褐色粘質シルト	砂を少量含む、粘性中・しまり中

EB73

1.10YR3/1黒褐色粘土	砂を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/4暗褐色粘質シルト	砂・炭（φ0.3㎝）を微量に含む粘性強・しまり中

EB74

1.10YR3/2黒褐色粘土	砂を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/1黒褐色粘土	粘性中・しまり中

EB75

1.10YR3/1黒褐色粘土	砂・炭（φ0.2㎝）を微量に含む粘性中・しまり中

EB76

1.10YR3/1黒褐色粘土	砂・炭（φ0.3㎝）を微量に含む粘性中・しまり中

EB77

1.10YR3/2黒褐色粘土	砂を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/1黒褐色粘土	粘性中・しまり中

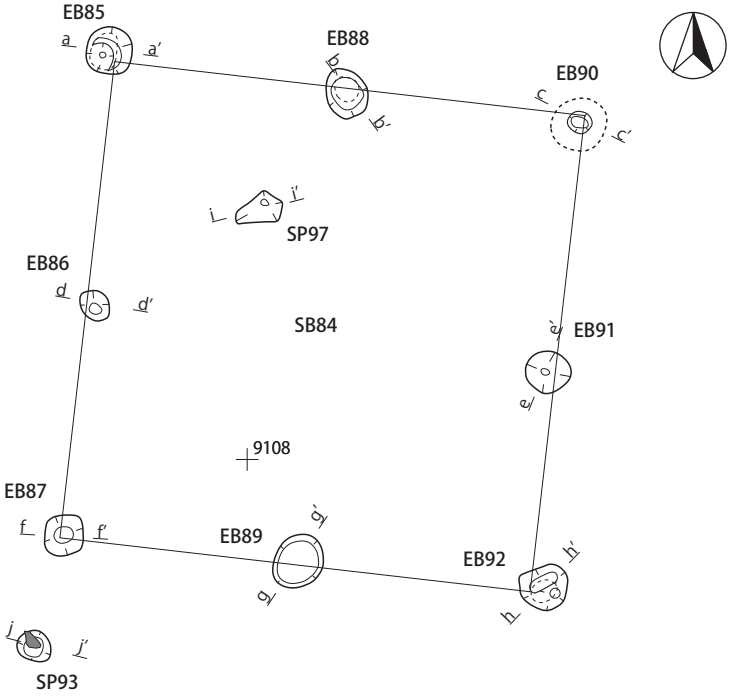
EB78

1.10YR3/2黒褐色粘土	砂を微量に含む、粘性中・しまり中

EB79

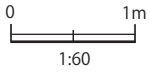
1.10YR3/1黒褐色粘土	砂を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/4暗褐色粘質シルト	砂・炭（φ0.3㎝）を微量に含む粘性強・しまり中

第 56 図　掘立柱建物跡 SB70

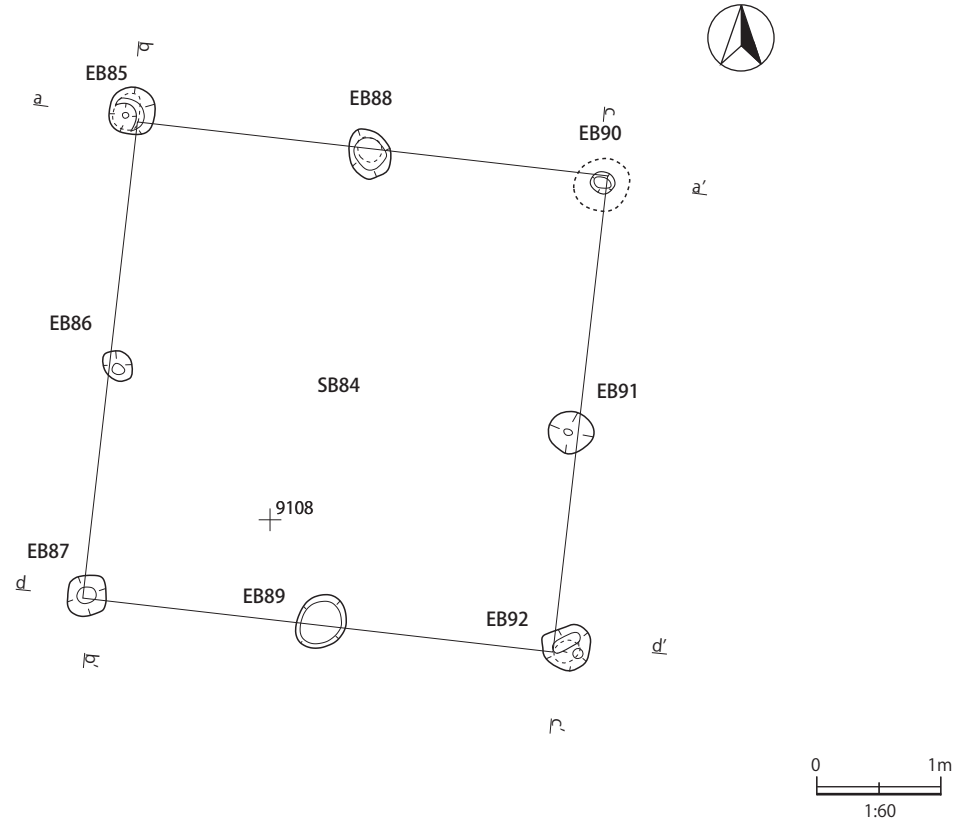


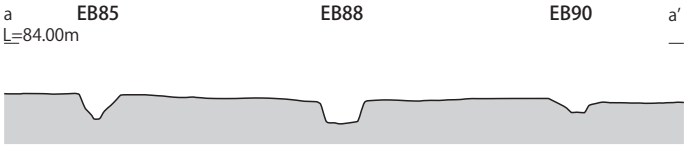
EB85(a-a′)
1.10YR3/3暗褐色粘土　炭・砂を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR4/3にぶい黄褐色砂　しまり弱
EB88(b-b′)
1.10YR3/2黒褐色粘土　砂・炭を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR5/2灰黄褐色粘質シルト　砂を微量に含む、粘性中・しまり中
EB90(c-c′)
1.10YR3/2黒褐色粘質シルト　砂を少量含む
EB86(d-d′)
1.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　砂・炭（φ0.3㎝）を微量に含む、粘性中・しまり中
EB91(e-e′)
1.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　砂を少量含む、粘性中・しまり中
EB87(f-f′)
1.10YR3/2黒褐色粘土　炭（φ0.5㎝）を微量、砂を少量含む、粘性中・しまり中
EB92(h-h′)
1.10YR3/3暗褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色粘土をまだらに20％含む、粘性中・しまり中
2.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト

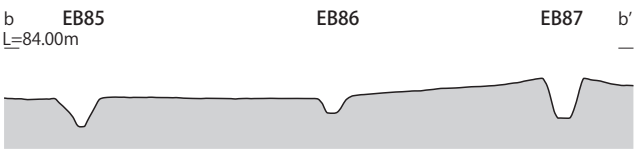
SP93(j-j′)
1.10YR3/1黒褐色粘質シルト　砂・炭を微量、細砂を20％含む、粘性中・しまり中
SP94(k-k′)
1.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　炭（φ0.5㎝）・砂を微量に含む、火山灰をまだらに5％含む
粘性中・しまり中

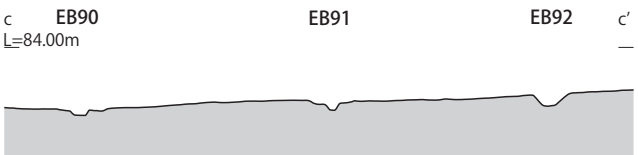


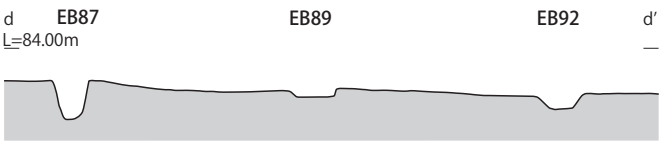
第 57 図　掘立柱建物跡 SB84・柱穴 SP93・94・97



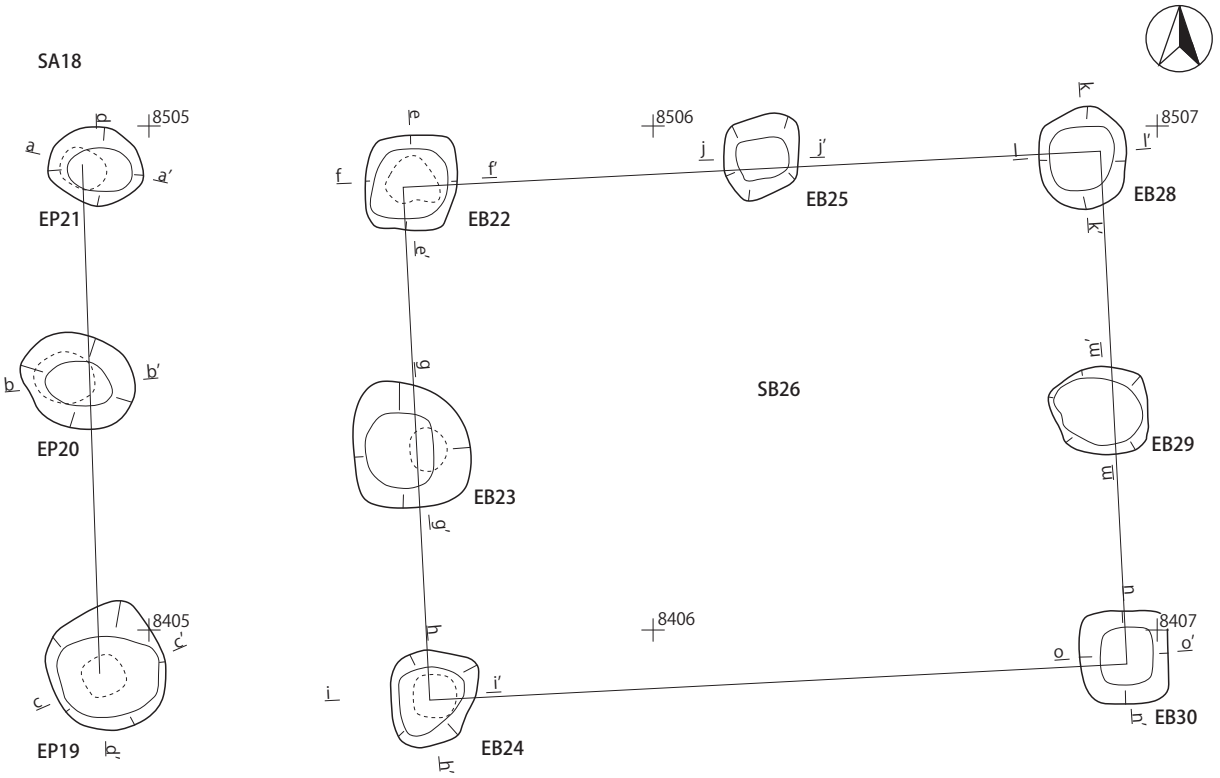


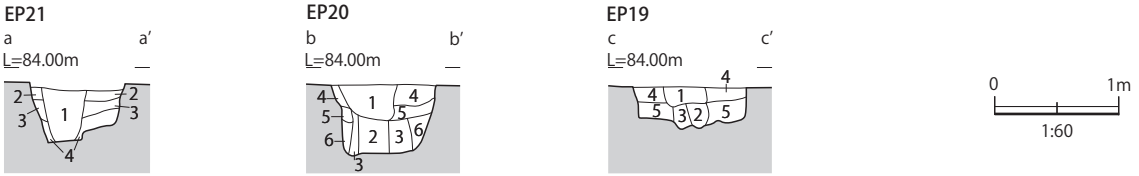


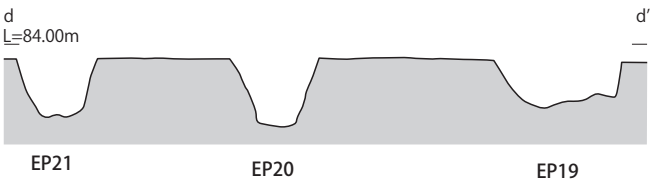




第 58 図　掘立柱建物跡 SB84







EP21(a-a′)

1.10YR4/1褐灰色粘質シルト	砂を少量含む、粘性弱・しまり中
2.7.5YR3/2黒褐色粘質シルト	砂・焼土を微量に含む、粘性中・しまり中
3.10YR1.7/1黒色粘質シルト	砂を多量に含む、粘性中・しまり中
4.10YR3/2黒褐色粘質シルト	砂を少量含む、粘性中・しまり中

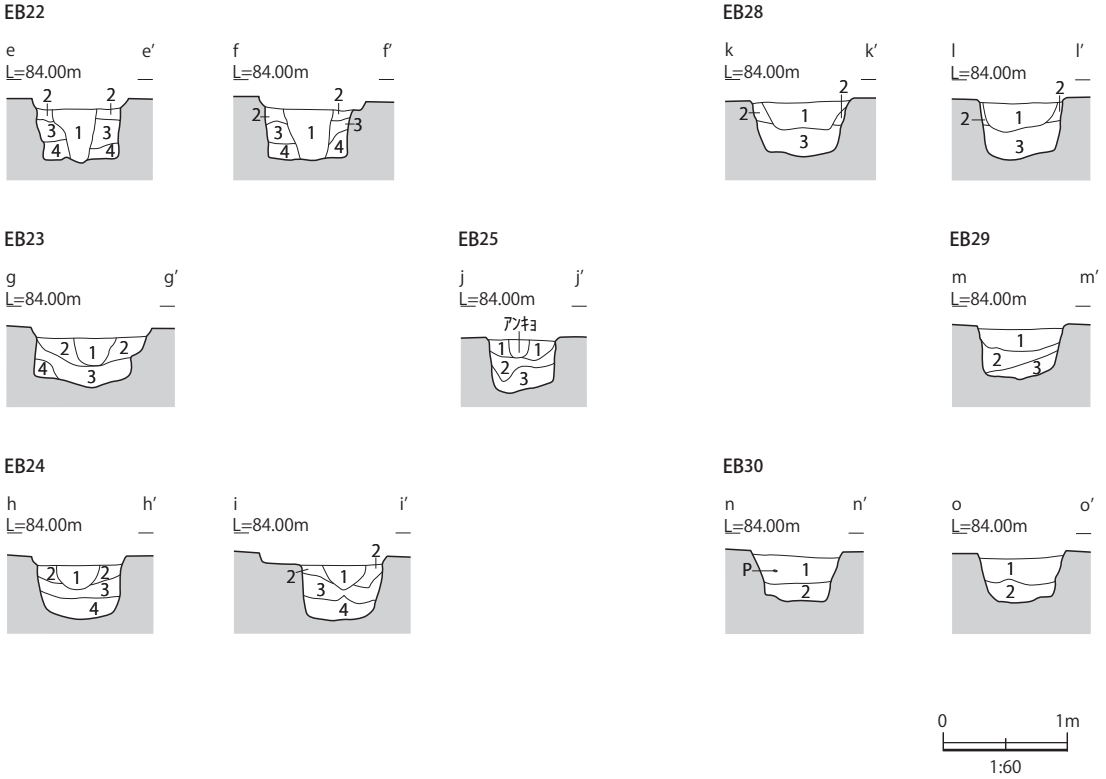
EP20(b-b′)

1.10YR4/3にぶい黄褐色シルト	砂を少量、炭を微量に含む、しまり強
2.10YR4/1褐灰色粘土	粘性中・しまり弱
3.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	砂を少量含む、粘性強・しまり中
4.10YR3/3暗褐色粘質シルト	砂・炭を微量に含む、粘性弱・しまり強
5.10YR2/1黒色粘質シルト	砂を微量に含む、粘性中・しまり中
6.10YR2/2黒褐色粘質シルト	砂を少量、炭を微量に含む、粘性弱・しまり強

EP19(c-c′)

1.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	砂を少量含む、粘性中・しまり強
2.2.5Y3/1黒褐色粘土	粘性中・しまり中
3.7.5YR3/2黒褐色粘質シルト	砂を少量含む、粘性中・しまり強
4.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	砂を少量含む、粘性弱・しまり中
5.10YR2/1黒色粘質シルト	砂を少量含む、粘性弱・しまり強

第 59 図　掘立柱建物跡 SB26・掘立柱列 SA18



EB22(e-e′)(f-f′)
1.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　砂・炭を微量に含む、火山灰を斑に微量に含む、粘性弱・しまり強
2.10YR3/1黒褐色粘質シルト　砂を少量、炭を微量に含む、粘性中・しまり強
3.10YR2/1黒色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色粘土（粘性中・しまり中）を斑に約30％含む、砂を少量含む、粘性中・しまり中
4.10YR5/3にぶい黄褐色粘土　10YR2/1黒色粘土（粘性中・しまり中）を斑に約10％含む、粘性中・しまり弱

EB23(g-g′)
1.10YR3/2黒褐色粘質シルト　炭・砂・火山灰を斑に微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/3暗褐色粘質シルト　火山灰・砂を斑に少量含む、粘性弱・しまり中
10YR6/2灰黄褐色粘土（粘性中・しまり中）をブロック（φ0.3㎝）で約10％含む
3.10YR3/2黒褐色粘土　10YR6/2灰黄褐色粘土（粘性中・しまり中）を含む
4.10YR5/2灰黄褐色粘土　粘性中・しまり中（掘りすぎか？）

EB24(h-h′)(i-i′)
1.10YR3/2黒褐色粘質シルト　炭を微量、砂を少量含む、火山灰を斑に約３％含む、粘性中・しまり中
2.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　砂を少量含む、火山灰を斑に微量含む、粘性中・しまり中
3.10YR3/2黒褐色粘土　粘性中・しまり中
4.10YR4/2灰黄褐色粘土　粘性中・しまり中

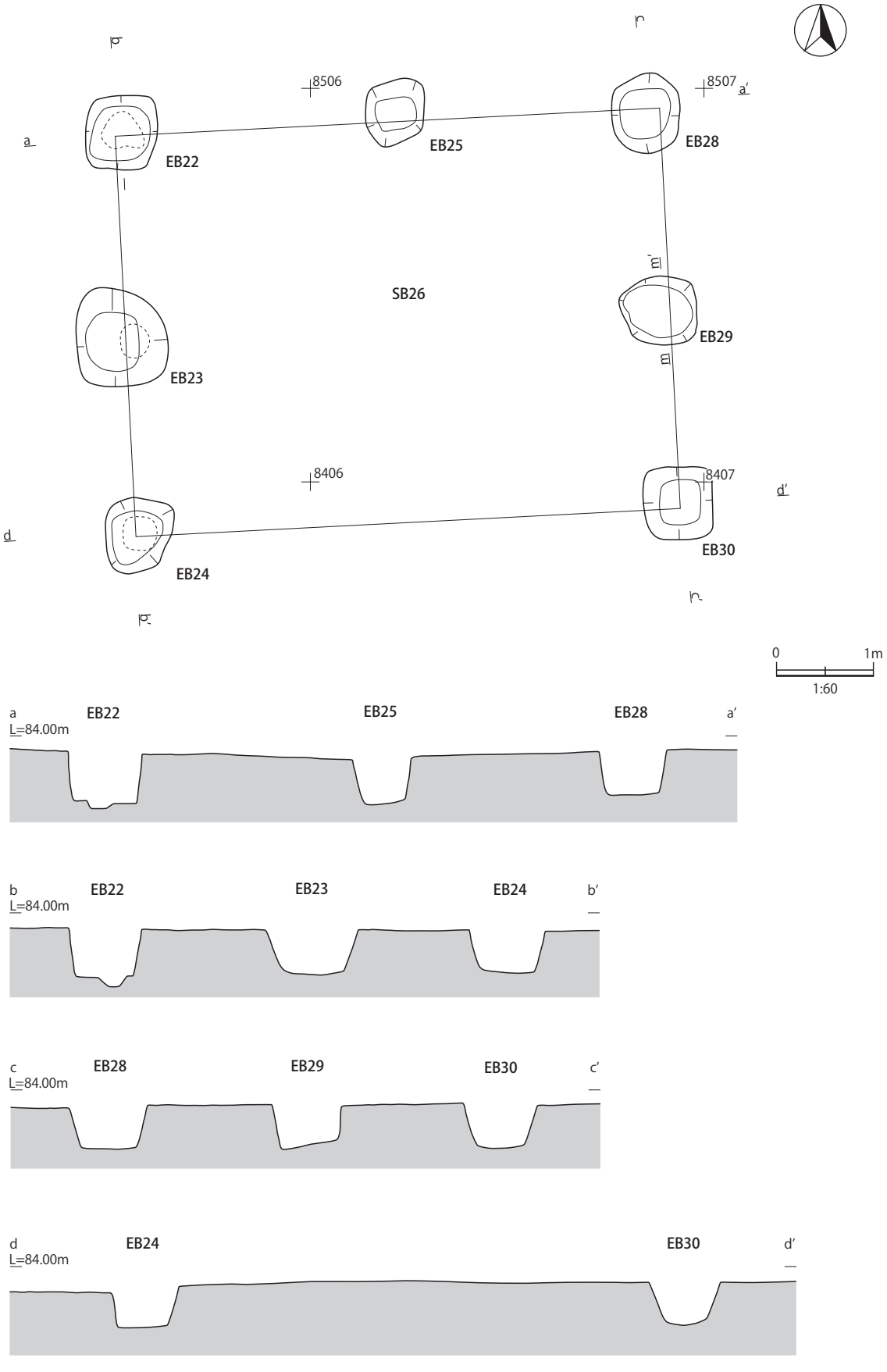
EB25(j-j′)
1.10YR3/2黒褐色粘質シルト　炭・砂・火山灰を斑に微量に含む、粘性弱・しまり中
2.10YR4/1褐灰色粘質シルト　砂を多量に含む、粘性弱・しまり中
3.10YR3/1黒褐色粘土　7.5Y5/1灰色粘土（粘性弱・しまり強-地山か）を斑に約20％含む

EB28(k-k′)(l-l′)
1.10YR3/2黒褐色粘質シルト　火山灰を斑に約５％含む、炭を微量・砂を少量含む、粘性弱・しまり強
2.10YR3/2黒褐色粘土　砂を少量含む、粘性中・しまり中
3.10YR3/4暗褐色粘土　10YR5/3にぶい黄褐色粘土（粘性中・しまり中-地山か）を斑に約30％含む

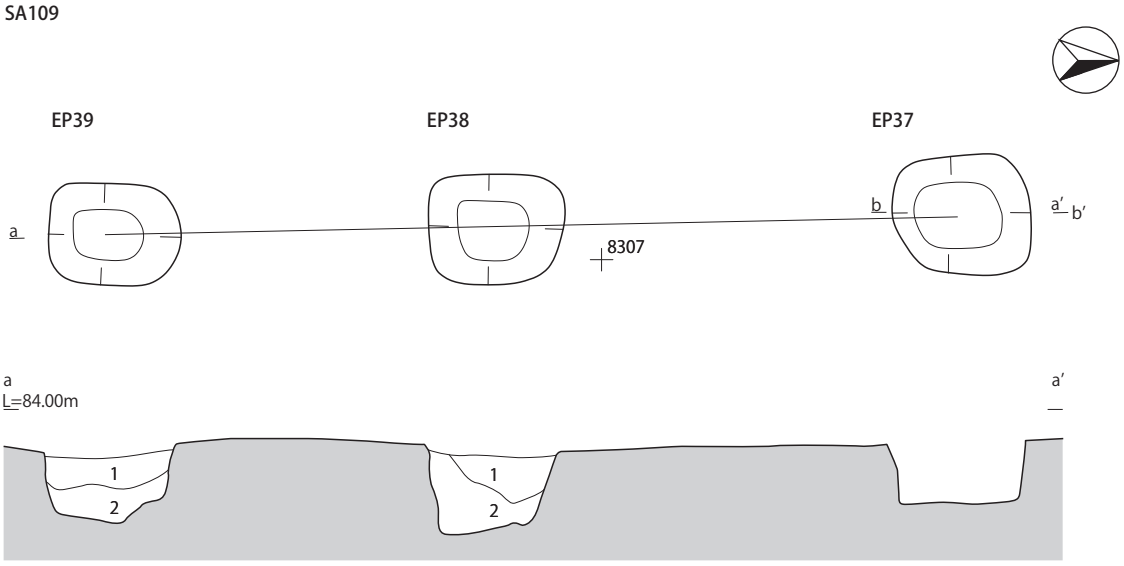
EB29(m-m′)
1.10YR3/2黒褐色粘質シルト　砂・炭を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/2黒褐色粘土　砂・炭を微量に含む、粘性中・しまり中
3.2.5Y3/2黒褐色粘質シルト　砂・炭を微量に含む、粘性中・しまり中
10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト（粘性弱・しまり中-地山か）を斑に約20％含む

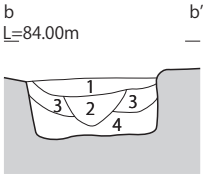
EB30(n-n′)(o-o′)
1.10YR3/3暗褐色粘質シルト　砂・炭を微量に含む、粘性弱・しまり強
2.10YR3/1黒褐色粘土　10YR5/3にぶい黄褐色粘土（粘性中・しまり中-地山か）を斑に約10％含む、粘性中・しまり強

第 60 図　掘立柱建物跡 SB26（1）



第 61 図　掘立柱建物跡 SB26（2）





EP37

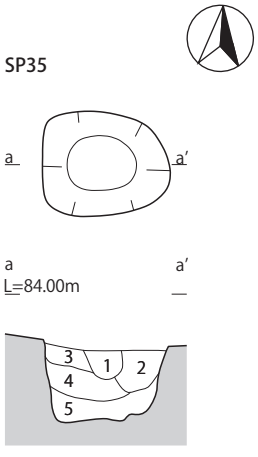
1.10YR3/4暗褐色粘質シルト	炭・砂を微量に含む、粘性中・しまり中
2.7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	砂・炭を微量に含む、粘性弱・しまり中
3.10YR3/2黒褐色粘質シルト	砂を多量、炭を微量に含む、粘性弱・しまり中
4.10YR3/1黒褐色粘土	砂を少量含む、粘性中・しまり強

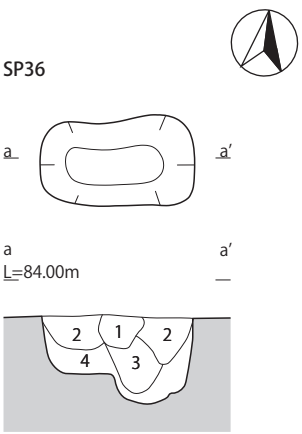
EP38

1.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	炭・砂を微量に含む、粘性弱・しまり中
2.10YR4/1褐灰色粘土	炭を微量に含む、粘性中・しまり中

EP39

1.10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト	砂を多量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/1黒褐色粘土	砂を少量含む、粘性中・しまり中



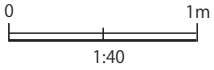


SP36

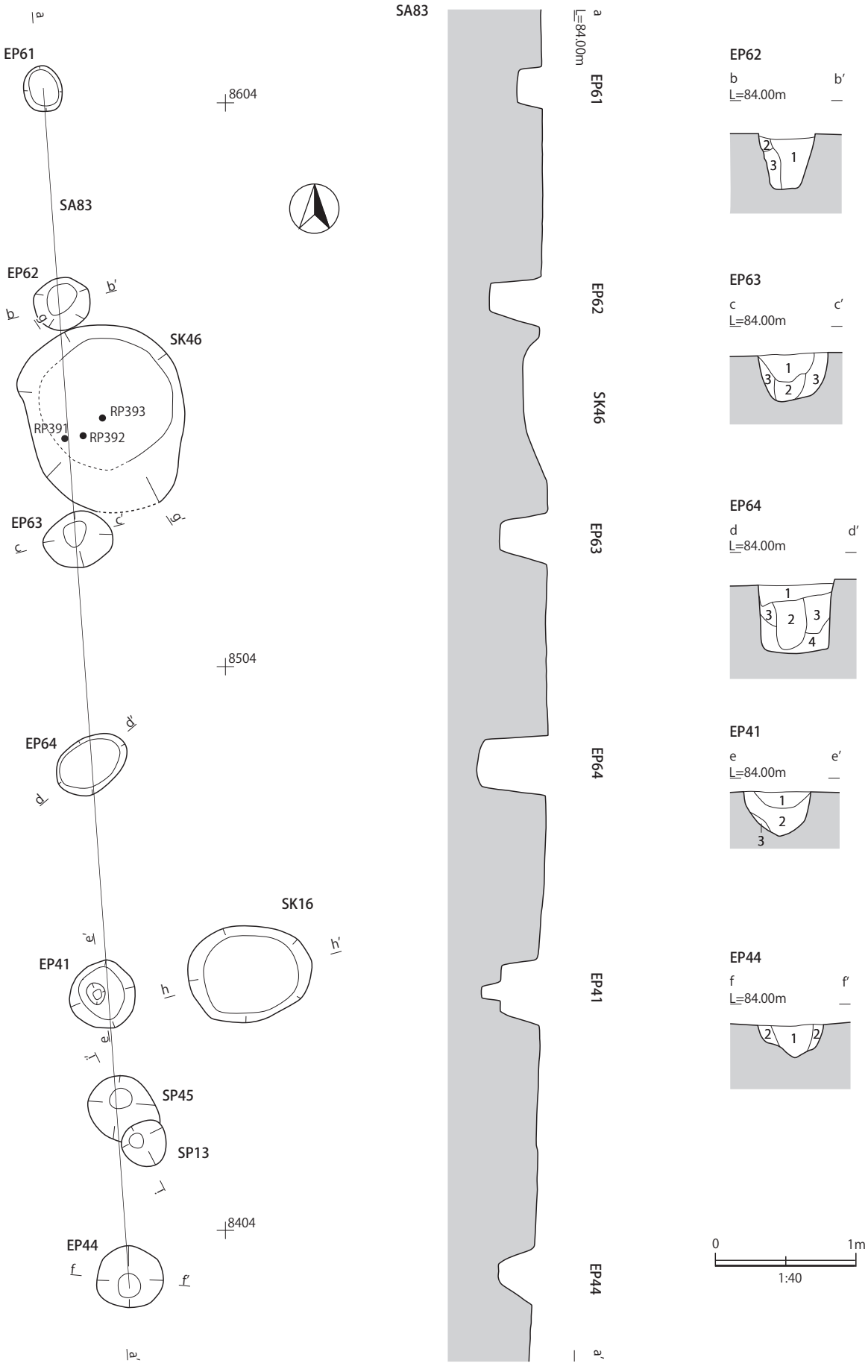
1.10YR2/3黒褐色粘質シルト	砂を少量含む、粘性弱・しまり強
2.10YR3/1黒褐色粘質シルト	砂・炭を微量に含む、粘性中・しまり強
3.10YR4/2灰黄褐色粘土	砂・炭を微量に含む、粘性中・しまり中
4.10YR3/2黒褐色粘土	砂を微量に含む、粘性中・しまり中

SP35

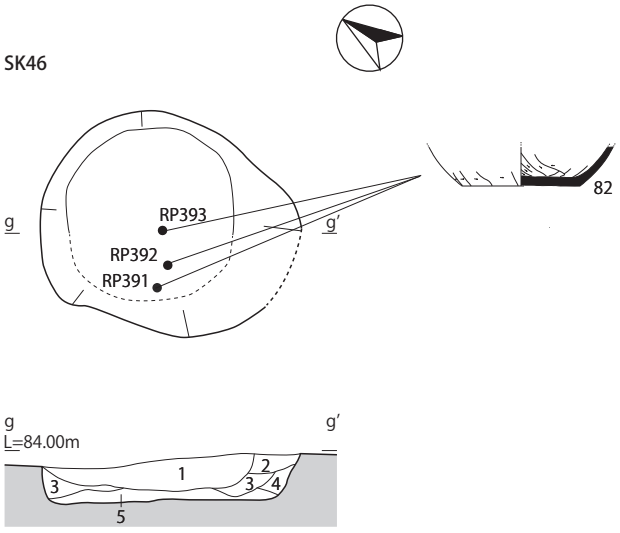
1.5YR3/3暗褐色シルト	しまり強
2.10YR3/2黒褐色粘質シルト	炭を微量に含む、粘性中・しまり中
3.10YR3/2黒褐色粘土	粘性中・しまり中
4.10YR3/2黒褐色粘土	10YR6/2灰黄褐色粘土（粘性中・しまり中）を斑に約20％含む
5.10YR4/2灰黄褐色粘土	粘性中・しまり中



第 62 図　掘立柱列 SA109・柱穴 SP35・36

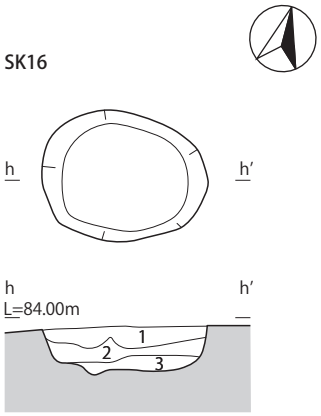


第 63 図　掘立柱列 SA83・土坑 SK46・16・柱穴 SP13・45



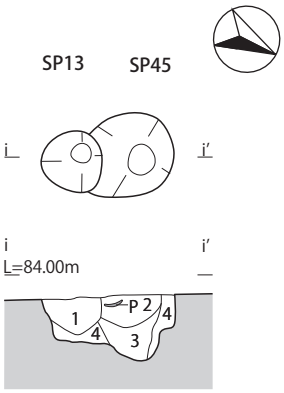
SK46

1.10YR3/2黒褐色粘土	検出面に炭と焼土が目立つ、砂を多量に含む、粘性中・しまり中
2.2.5Y3/2黒褐色粘土	砂を微量に含む、粘性強・しまり強
3.7.5YR2/1黒色粘質シルト	砂を微量に含む、粘性中・しまり強
4.7.5YR2/1黒色粘土	粘性強・しまり中
5.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	砂を微量に含む、粘性中・しまり強



SK16

1.10YR3/3暗褐色粘質シルト	砂・炭（φ0.5㎝）を微量に含む、粘性弱・しまり強
2.7.5YR2/1黒色粘質シルト	砂を微量に含む、粘性弱・しまり強
3.7.5YR3/2黒褐色粘質シルト	粘性弱・しまり強



SP13

1.10YR3/1黒褐色粘土	砂・炭（φ0.5㎝）を微量に含む、木を含む、粘性中・しまり中

SP45

2.10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR4/4褐色粘質シルト（粘性中・しまり中-地山か）をブロック（φ0.5~3㎝）で約10％含む、炭・砂を微量に含む、粘性中・しまり弱
3.10YR3/1黒褐色粘質シルト	粘性弱・しまり強
4.10YR4/2灰黄褐色粘土	粘性中・しまり中（地山）

EP62(b-b′)

1.10YR3/2黒褐色粘土	砂を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/1黒褐色粘質シルト	砂・炭を微量に含む、粘性中・しまり中
3.10YR3/2黒褐色粘土	10YR6/2灰黄褐色粘質シルト（粘性中・しまり中）を斑に約20％含む

EP63(c-c′)

1.10YR3/3暗褐色粘質シルト	炭を微量、砂を多量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/2黒褐色粘質シルト	砂を少量含む、粘性中・しまり強
3.地山	

EP64(d-d′)

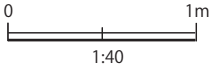
1.10YR3/3暗褐色粘質シルト	砂を少量、炭を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/1黒褐色粘土	砂を少量含む、粘性中・しまり中
3.10YR3/2黒褐色粘質シルト	砂を少量含む、粘性中・しまり強
4.10YR4/4褐色粘土	粘性中・しまり強

EP41(e-e′)

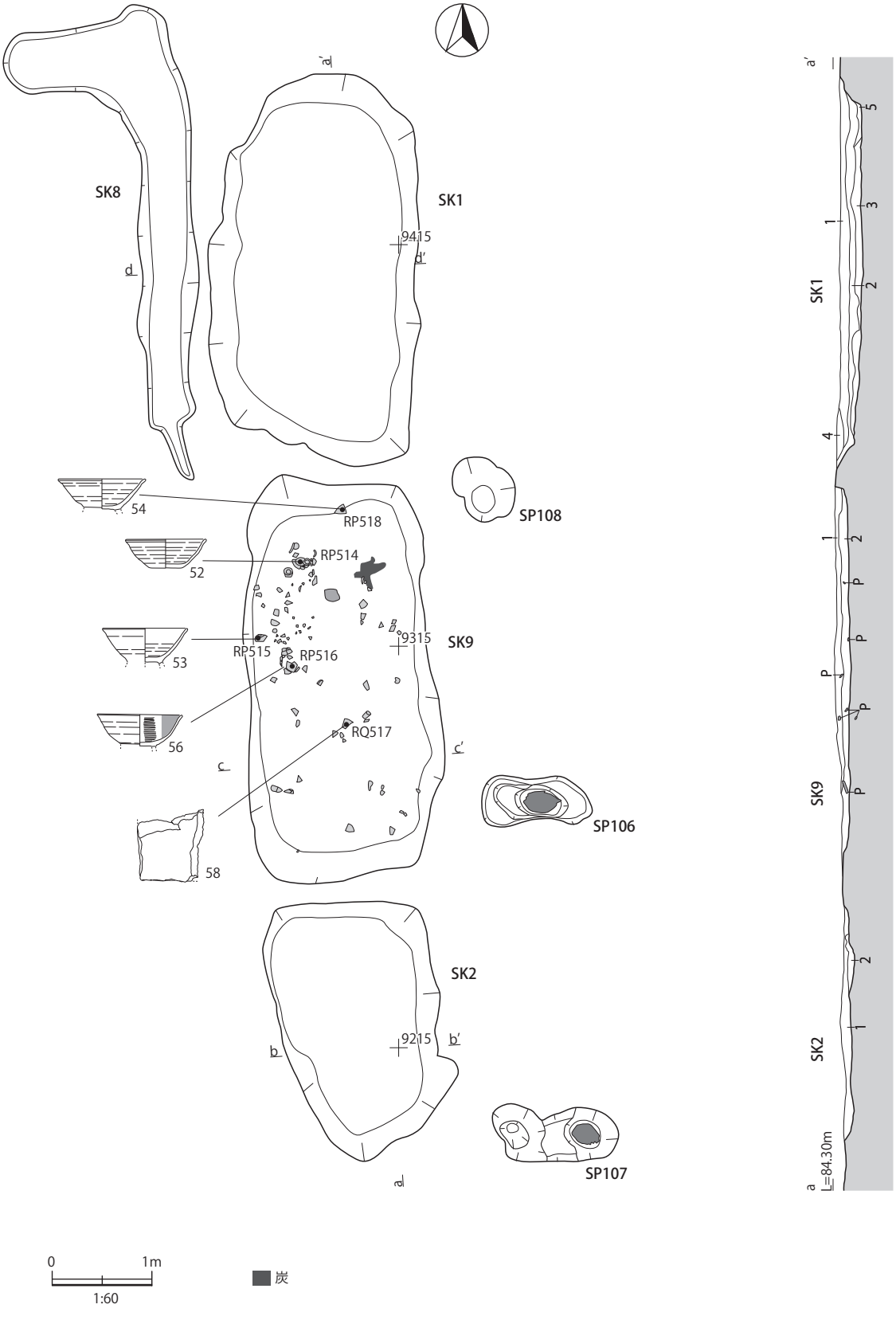
1.10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/8黄褐色シルトと、10R4/6赤色粘質シルト（焼土か）をブロック（φ0.1~0.3㎝）で約20％含む、炭を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/1黒褐色粘土	炭を微量に含む、粘性中・しまり中
3.10YR5/3にぶい黄褐色粘土	粘性中・しまり強

EP44(f-f′)

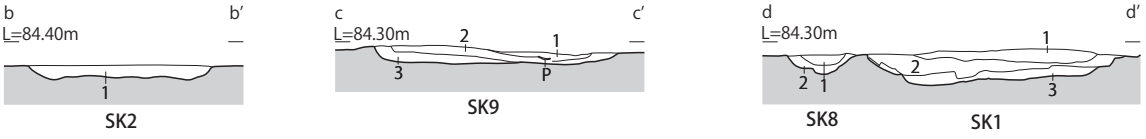
1.10YR3/1黒褐色粘質シルト	砂を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR2/2黒褐色粘質シルト	火山灰を斑に微量に含む、粘性弱・しまり強



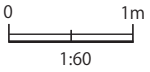
第 64 図　土坑 SK46・16・柱穴 SP13・45

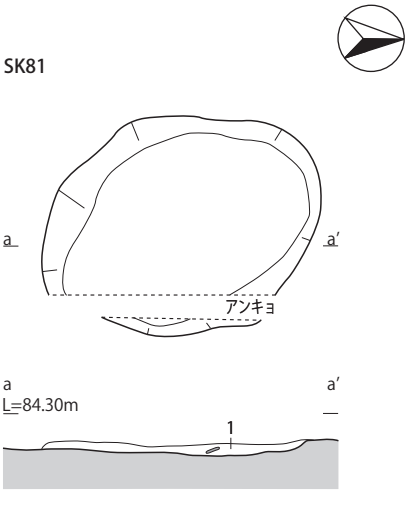


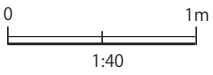
第 65 図　土坑 SK1・2・8・9



SK2
1.10YR3/2黒褐色粘質土　　木炭粒・白色砂・褐色砂を多く含む
2.7.5YR5/6明褐色シルト～7.5YR3/3暗褐色砂　地山
SK9
1.10YR3/2黒褐色粘質土　　木炭粒・白色砂・褐色砂を多く含む
2.10YR3/2黒褐色土　　1と同様だが、木炭粒多く、白色砂少量である
3.10YR3/2黒褐色土　　1と同様だが、より粘性が強く、木炭粒少ない
SK1
1.10YR3/2黒褐色土　　木炭層をラミナ状に含む
2.10YR2/2黒褐色土　　木炭と白色土粒を少量含む
3.10YR3/2黒褐色砂質土　　木炭粒をわずかに含む、地山と似る
4.10YR3/2黒褐色土　　10YR5/2灰黄褐色粘土・白色砂を多く含む
5.10YR3/2黒褐色土　　2層と似るが、3層を含む
SK8
1.10YR3/2黒褐色土　　木炭粒を多く含む
2.10YR4/2灰黄褐色粘土　　1層を含む、地山と似る

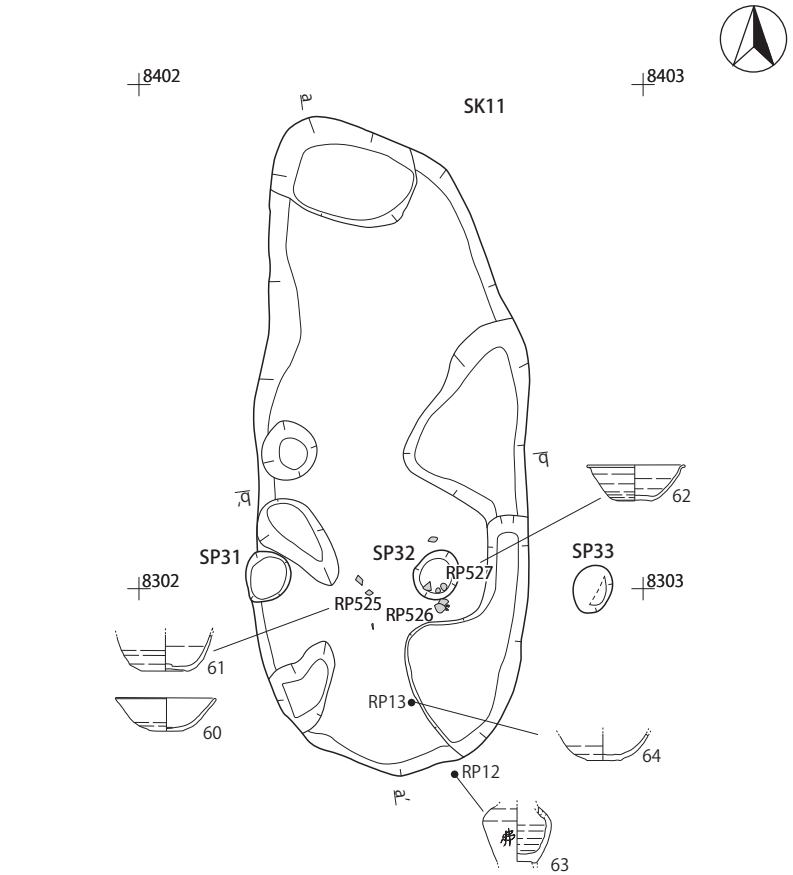


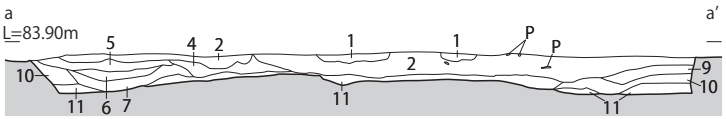


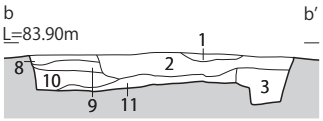


SK81
1. 木炭層、焼土・10YR4/2 灰黄褐色シルト (焼土？) をラミナ状に含む

第 66 図　土坑 SK1・2・8・9・81

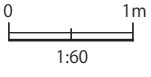




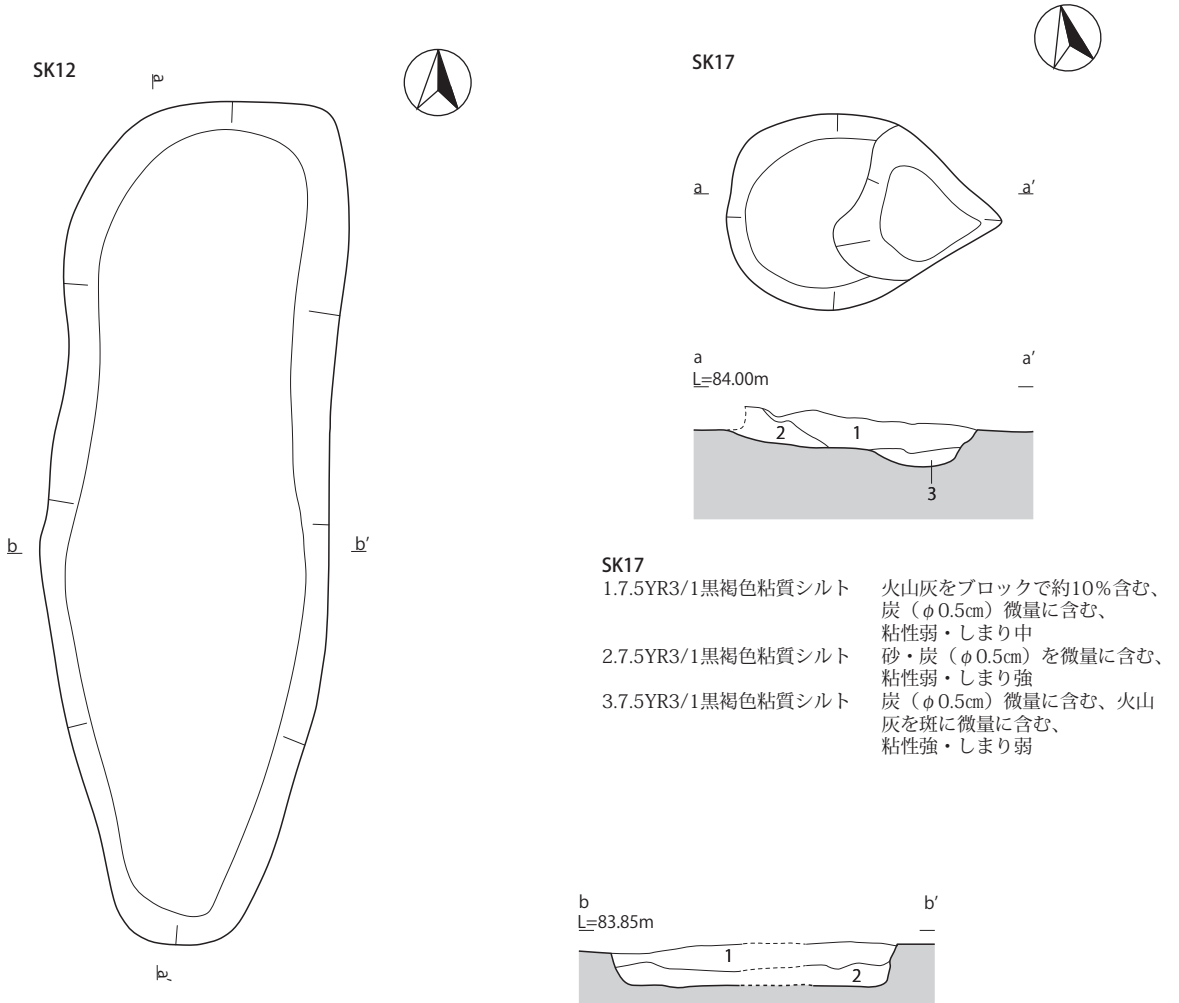


SK11

1.10YR2/2黒褐色粘質土	白色火山灰ブロックと木炭を含む
2.10YR2/2黒褐色粘質土	木炭粒・白色砂粒を多く含む
3.10YR2/1黒色粘質土	木炭粒わずかに含む、砂粒多く含む、やや粘性強
4.10YR3/3暗褐色土	砂粒多く含む
5.10YR2/1黒色粘質土	粘性強
6.10YR3/2黒褐色粘質土	粘性強
7.10YR2/1黒色粘質土	木炭粒わずかに含む、砂粒多く含む、粘性強
8.10YR2/2黒褐色粘質土	2層と似るが、木炭粒含まない
9.10YR2/2黒褐色粘質土	2層と似るが、木炭粒と砂粒少ない
10.10YR2/1黒色粘質土	木炭粒わずかに含む、砂粒多く含む
11.10YR2/2黒褐色粘質土	10YR4/4褐色砂粒多く含む、砂を含む



第 67 図　土坑 SK11



SK17

1.7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	火山灰をブロックで約10％含む、炭（φ0.5㎝）微量に含む、粘性弱・しまり中
2.7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	砂・炭（φ0.5㎝）を微量に含む、粘性弱・しまり強
3.7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	炭（φ0.5㎝）微量に含む、火山灰を斑に微量に含む、粘性強・しまり弱

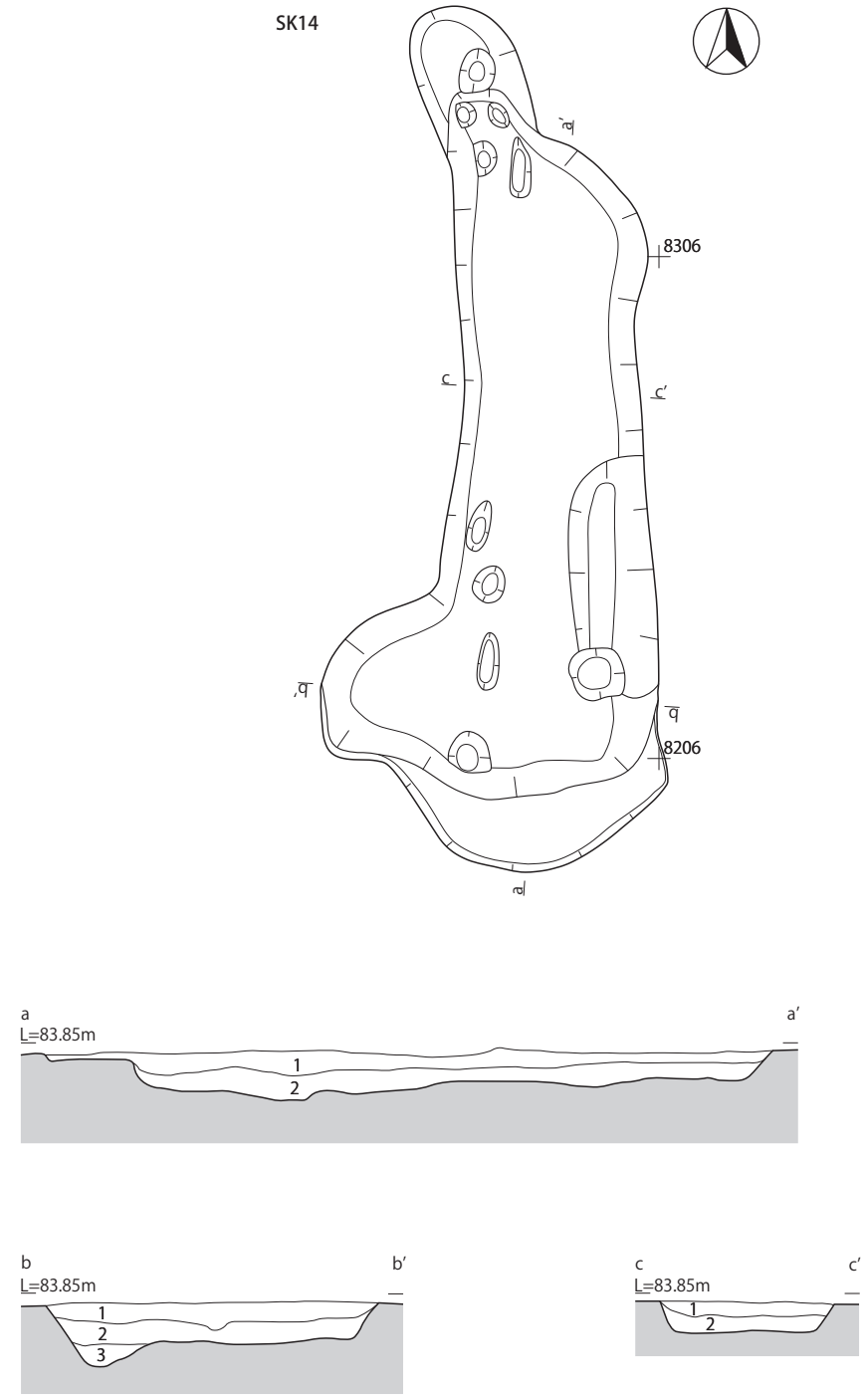
SK12

1.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトを斑に約5％含む、炭を微量に含む、粘性弱・しまり強
2.10YR3/1黒褐色粘質シルト	砂・炭を微量に含む、粘性中・しまり中

SK15

1. 5 YR2/1黒褐色粘質シルト	炭を微量に含む 火山灰を斑に約5％含む 粘性弱•しまり中
2. 7.5YR3/1黒褐色粘土	炭を微量に含む 粘性中•しまり中

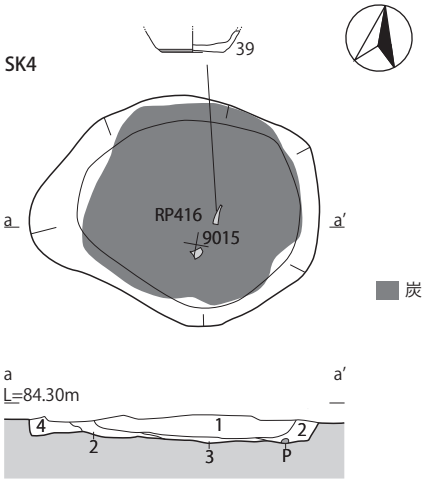
第 68 図　土坑 SK12・15・17

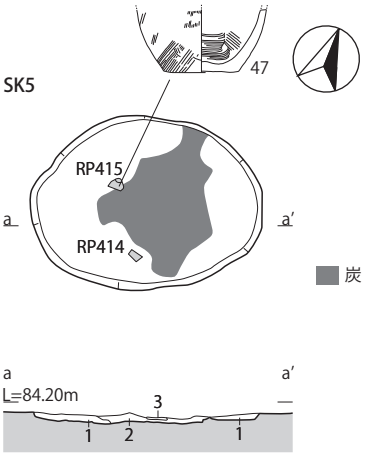


SK14
1.10YR3/3暗褐色粘質シルト　砂・炭を微量に含む、粘性弱・しまり中
2.10YR3/1黒褐色粘質シルト　砂・火山灰を微量に含む、粘性弱・しまり中
3.10YR3/3暗褐色粘質シルト　2層より粒子細かい、砂を微量に含む、粘性強・しまり弱

0　1m
1:60

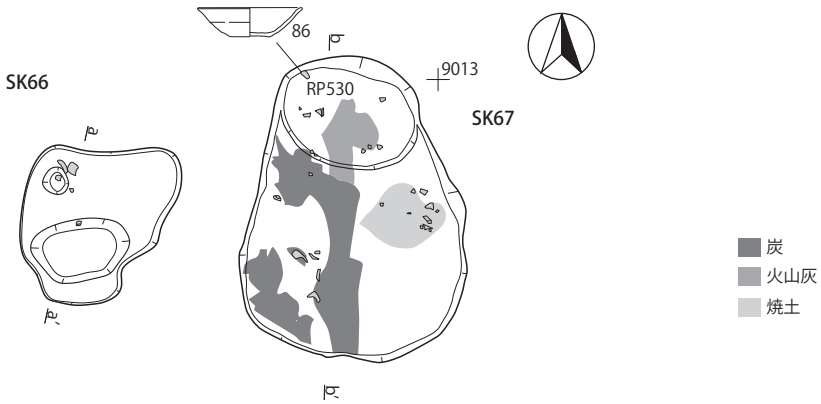
第 69 図　土坑 SK14

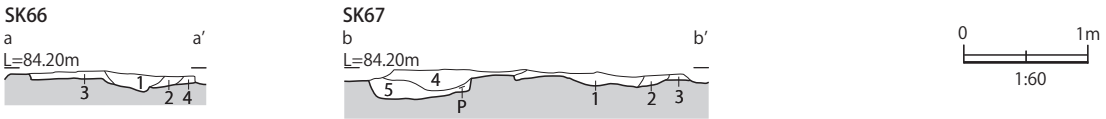




SK4
1.10YR2/1黒色土　10YR3/1黒褐色シルト・木炭粒・砂粒を多く含む
2.10YR2/1黒色土　1層よりも木炭粒を多く含む
3.木炭層
4.10YR4/3にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色砂を多く含む　10YR2/1黒色土を含む

SK5
1.10YR3/2黒褐色シルト　細砂・木炭粒を少量含む
2.木炭層
3.白色灰層

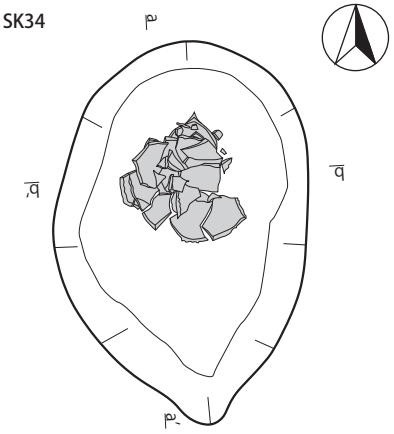


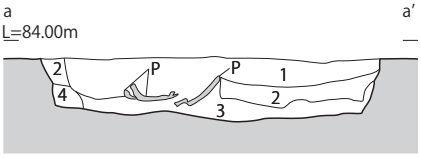


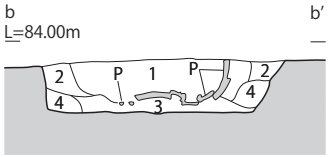
SK66
1.10YR2/1黒色粘質シルト　木炭粒・砂粒を多く含む
2.10YR2/1黒色粘質シルト　1層と似るが、砂粒少ない
3.10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/3にぶい褐色砂（地山）を多量に含む
4.10YR2/1黒色粘質シルト　2層と似るが、木炭粒少ない

SK67
1.10YR2/1黒色土　木炭粒・砂粒を少量含む
2.1層と似るが、粘性強い
3.1層と似るが、砂質である
4.10YR2/1黒色粘質土　木炭粒・砂粒を少量含む
5.5YR3/1オリーブ黒色粘土　木炭を少量含む

第 70 図　土坑 SK4・5・66・67

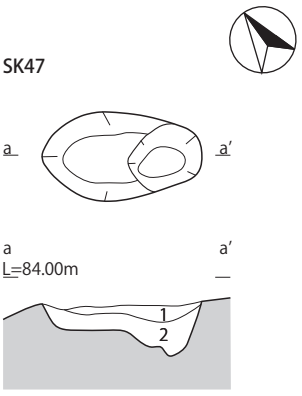






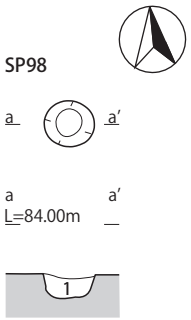
SK34

1.5Y2/2オリーブ黒色土	木炭粒・砂粒を含む
2.5Y2/2オリーブ黒色土	1層より木炭粒少ない
3.10YR2/2黒褐色土	砂粒・木炭粒を少量含む
4.10Y2/1黒色土	砂質

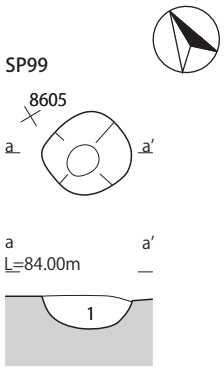


SK47

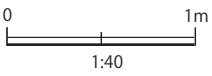
1.10YR3/2黒褐色粘土	7.5YR5/6明褐色粘土（粘性中・しまり中）、焼土を斑に約30％含む、炭を多量に含む
2.10YR3/2黒褐色粘土	砂を微量に含む



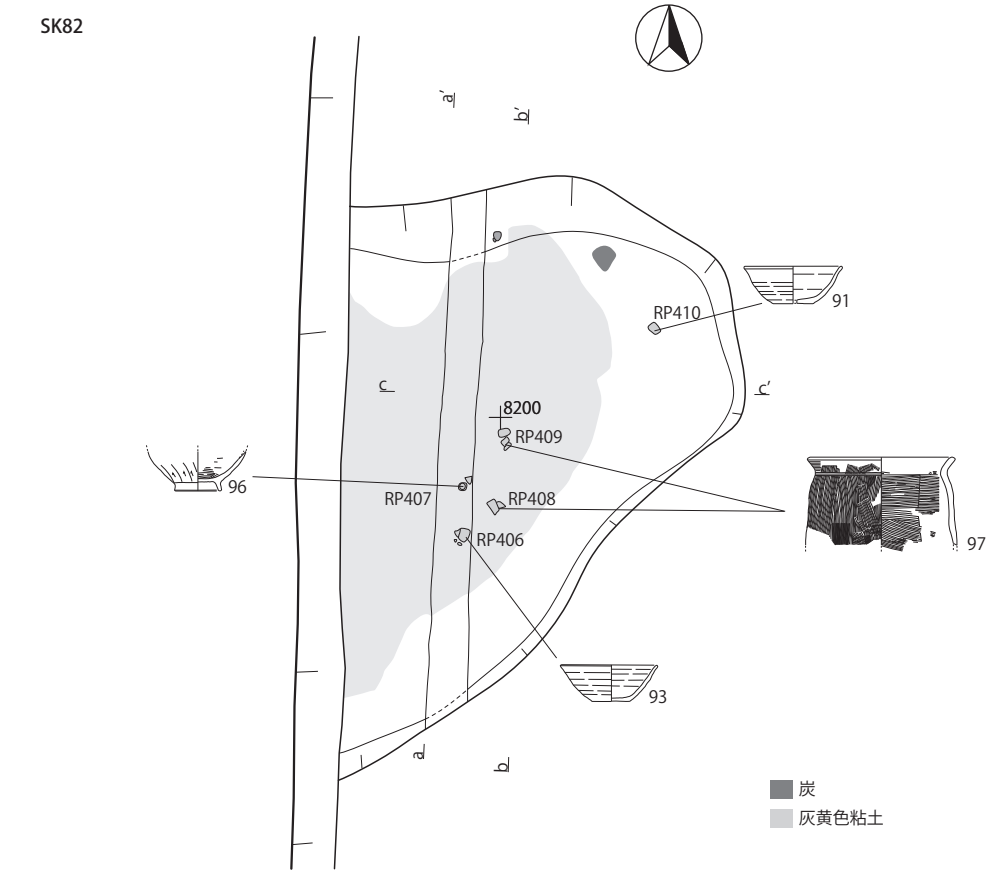
SP98
1.10YR2/2黒褐色粘質シルト
炭を微量、砂を多量に含む、
粘性中・しまり中

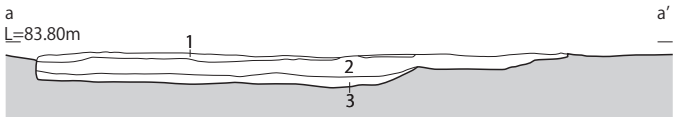


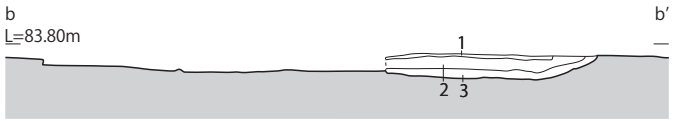
SP99
1.10YR3/2黒褐色粘質シルト
砂・炭（φ0.5㎝）を微量に含む、
粘性中・しまり強

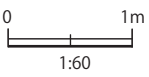


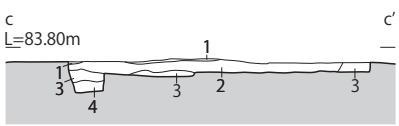
第 71 図　土坑 SK34・47・柱穴 SP98・99







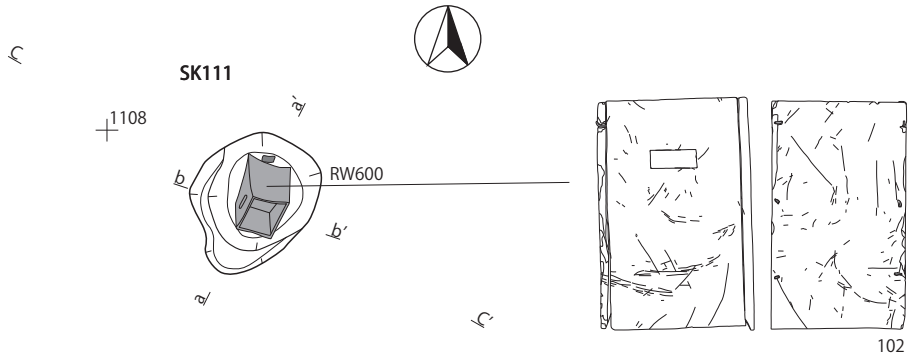


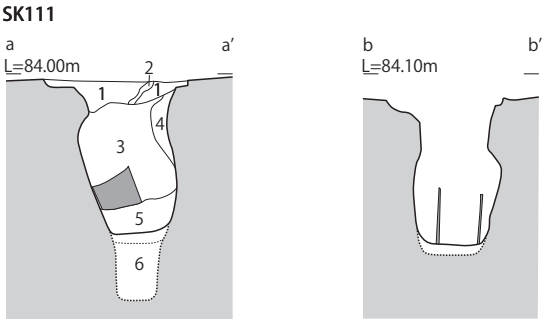


SK82

1.2.5Y5/3黄褐色粘土	地山、粘土？
2.10YR3/2黒褐色土	木炭粒・砂粒多く含む
3.10YR3/2黒褐色土	5Y3/1オリーブ黒色シルトを多く含む
4.10YR3/2黒褐色土	5Y3/1オリーブ黒色シルトを3層より多く含む

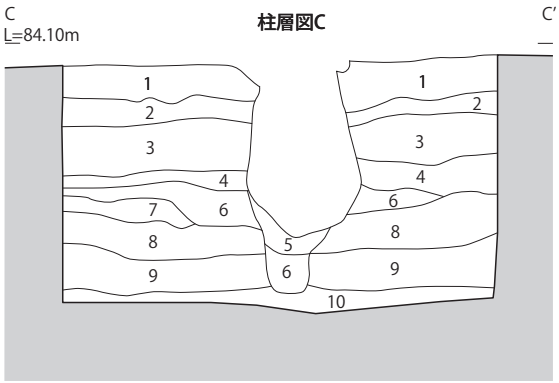
第 72 図　土坑 SK82





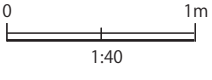
SK111

1.10YR1/2黒色粘質土	砂粒をわずかに含む
2.10YR1/2灰黄褐色シルト	1層を少量含む
3.10YR1/2黒色シルト	10YR2/4灰黄褐色シルトを多量に含む
4.10YR1/2黒色シルト	10YR4/4褐色粘質土を多量に含む
5.10YR1/3黒褐色シルト	軟弱である
6.7.5YR4/3褐色砂質土	よくしまり、砂粒を多く含む

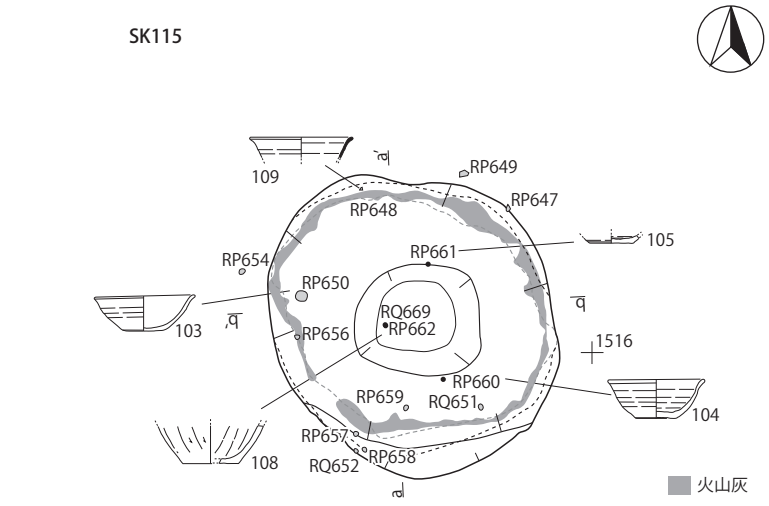


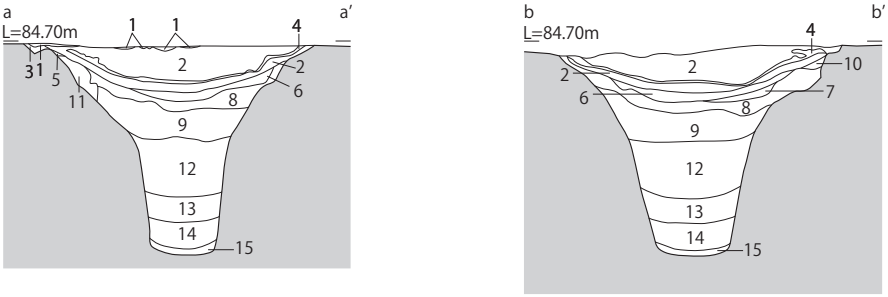
柱層図C

1.10YR4/4褐色粘土	粗砂・砂を多量に含む、しまり強
2.10YR4/4褐色粘質シルト	10YR2/1黒色粘土（粘性中・しまり中）をブロック（φ0.2㎝）で約3%含む、砂を微量に含む、粘性中・しまり強
3.5Y4/2灰オリーブ色粘質シルト	粘性中・しまり中
4.5Y4/1灰色粘質シルト	砂を少量含む、粘性中・しまり中
5.5Y4/2灰オリーブ色粘質シルト	砂を少量含む、粘性強・しまり中
6.5Y4/1灰色粘質シルト	粘性中・しまり中
7.5Y4/2灰オリーブ色粘質シルト	砂・粗砂を多量に含む、粘性中・しまり中
8.5Y4/1灰色粘質シルト	粘性中・しまり強
9.2.5Y4/1黄灰色粘土	粘性中・しまり中
10.10YR1.7/1黒色粘土	粘性中・しまり中



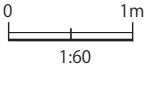
第 73 図　土坑 SK111



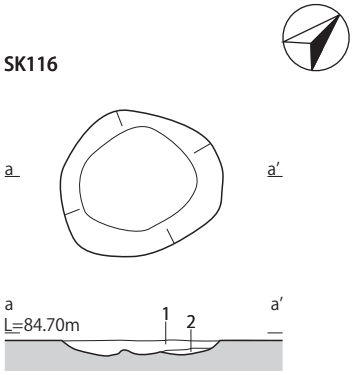


SK115

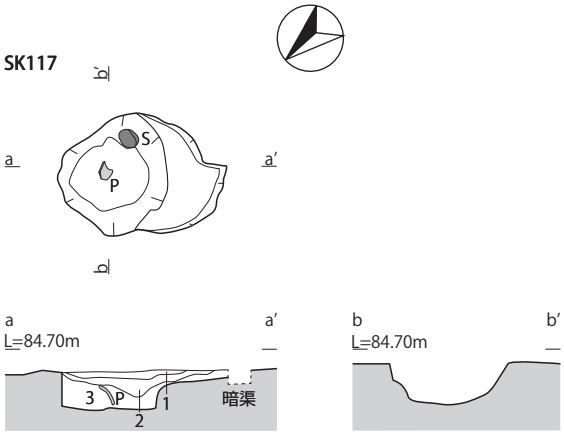
1.10YR3/3暗褐色砂質土	地山
2.5Y2/1黒色粘質土	2.5Y6/1黄灰色粘土・褐色砂粒・木炭粒を少量含む
3.5Y2/1黒色粘質土	地山を多量に含む
4.2.5Y6/1黄灰色粘土	5Y2/1黒色粘質土を粒状で少量含む
5.10YR3/1黒褐色土	10YR6/2灰黄褐色土（火山灰？）を粒状で含む
6.10YR2/1黒色粘質土	10YR3/2黒褐色粘質土・10YR6/2灰黄褐色粘土をブロック状で多量に含む
7.10YR3/1黒褐色粘質土	10YR6/2灰黄褐色粘土を粒状でわずかに含む
8.10YR3/1黒褐色粘質土	10YR6/2灰黄褐色粘土を粒状・小ブロック状で含む
9.10YR2/1黒色粘質土	10YR6/2灰黄褐色粘土をわずかに含む
10.10YR3/1黒褐色粘質土	10YR3/3暗褐色粘質土（地山か？）を多量に含む
11.7.5YR4/4褐色砂質土	地山と似る
12.10YR2/1黒色粘質土	10YR6/2灰黄褐色土と植物・土器片を含む、粘性非常に強い
13.10YR2/1黒色粘質土	白色土を多く含む、植物多く含む、やや砂質である
14.2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂	地山と似る、遺物を少量含む、白色土を少量含む
15.5GY5/1オリーブ灰・7.5GY5/1緑灰色砂質土	14層と似るがよりしまる、オリーブ粘土を含む



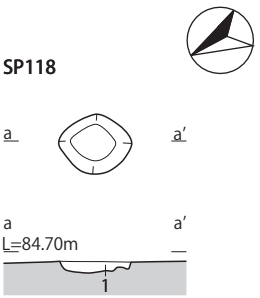
第 74 図　土坑 SK115



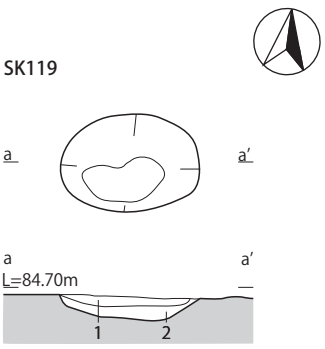
SK116
1.10YR2/2黒褐色シルト　炭化物（φ0.5㎝）を微量に含む
しまり強
2.10YR3/3暗褐色シルト　しまり強



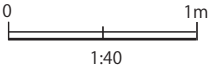
SK117
1.10YR3/2黒褐色粘質シルト　炭（φ0.2㎝）を微量に含む、粘性中・しまり強
2.10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/4褐色粘質シルトを斑に微量に含む
粘性中・しまり強
3.10YR4/4褐色粘質シルト　粘性強・しまり中



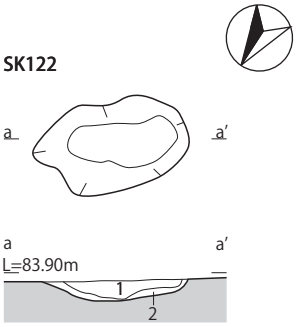
SP118
1.10YR2/1黒色粘土　細砂で土器片を微量に含む
粘性中・しまり強



SK119
1.10YR4/2灰黄褐色シルト　砂・炭（φ0.2㎝）を微量に含む
しまり強
2.10YR3/2黒褐色粘質シルト　炭（φ0.5㎝）を微量に含む
粘性弱・しまり中

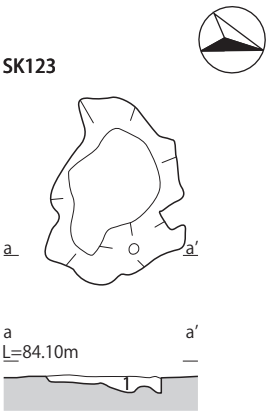


第 75 図　土坑 SK116・117・119・柱穴 SP118



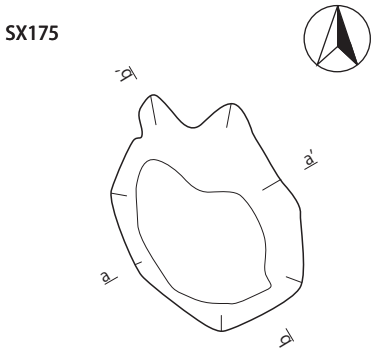
SK122

1.10YR1.7/1黒色粘質シルト	細砂を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR4/4褐色粘質シルト	1層を斑に微量に含む、粘性強・しまり中



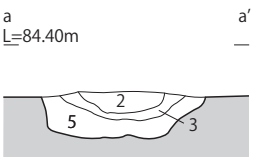
SK123

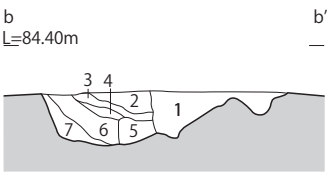
1.10YR3/1黒褐色粘質シルト	砂を多量、炭化物（φ0.2㎝）を微量に含む、粘性弱・しまり強

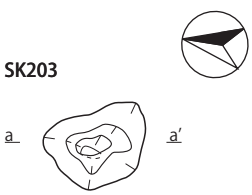


SX175

1.10YR2/1黒色粘質シルト	砂を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/1黒褐色粘土	粘性中・しまり中
3.10YR2/2黒色粘土	2層を斑に少量含む、粘性中・しまり中
4.10YR4/4褐色粘土	粘性中・しまり弱
5.10YR4/6褐色粘土	10YR2/2黒褐色粘土を斑に含む粘性中・しまり中
6.10YR2/1黒色粘質シルト	7.5YR4/6褐色粘土（粘性中・しまり中）を斑に含む、粘性中・しまり中
7.7.5YR4/6褐色粘土	粘性中・しまり中

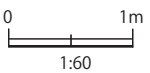




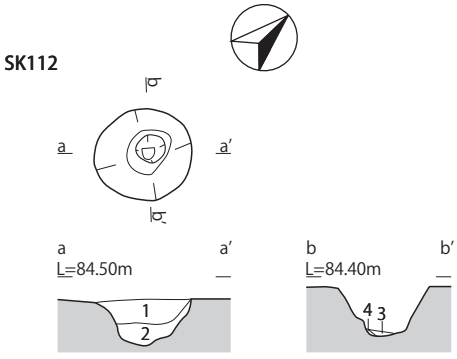


SK203

1.10YR2/1黒色粘質土	10YR4/3にぶい黄褐色粘土（粘性中・しまり中）を斑に20%含む、粘性中・しまり中
2.10YR2/1黒色粘質土	粘性中・しまり中

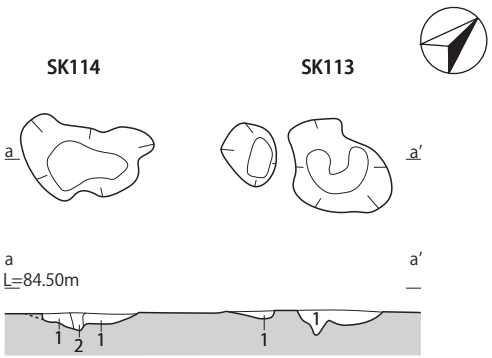


第 76 図　土坑 SK122・123・175・203



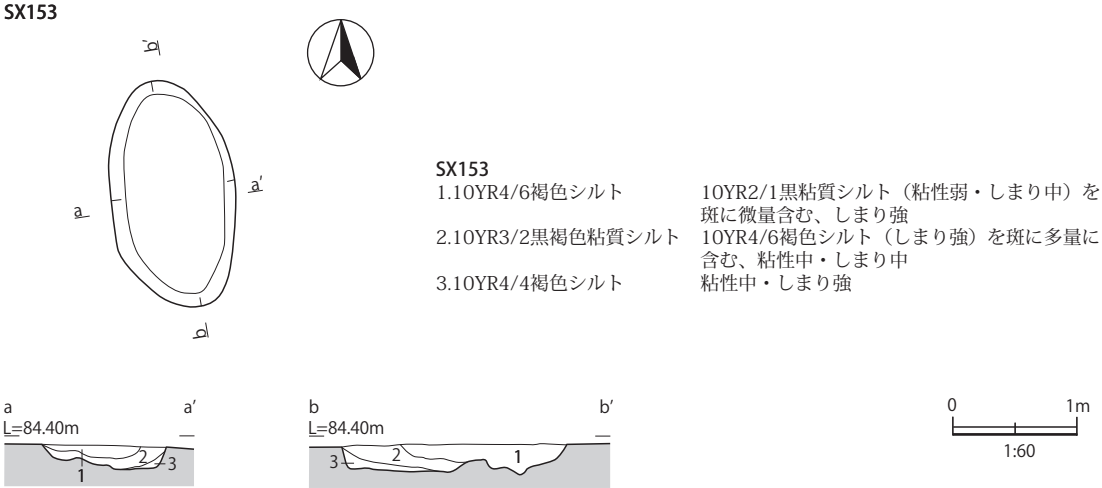
SK112

1.10YR1.7/1黒色土	10YR4/4褐色～6/2硬質シルトをブロックで多く含む
2.1層とほぼ同様で、やや10YR6/2硬質シルトブロックが多い	
3.7.5Y2/1黒色シルト	2層を少量含む
4.10YR4/6褐色砂質シルト	1層をわずかに含む



SK113・SK114

1.10YR1.7/1黒色シルト	やや軟弱
2.10YR4/2灰黄褐色シルト	カクラン

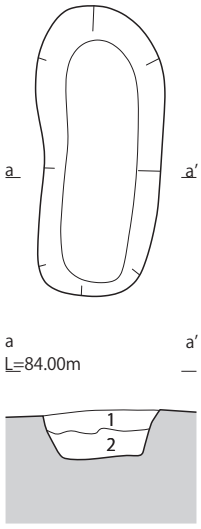


SX153

1.10YR4/6褐色シルト	10YR2/1黒粘質シルト（粘性弱・しまり中）を斑に微量含む、しまり強
2.10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR4/6褐色シルト（しまり強）を斑に多量に含む、粘性中・しまり中
3.10YR4/4褐色シルト	粘性中・しまり強

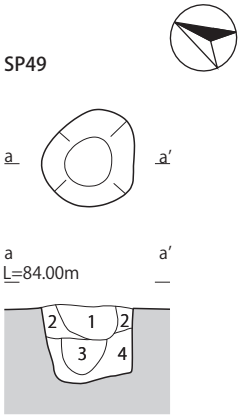
第 77 図　土坑 SK112・113・114・性格不明遺構 SX153

SK40



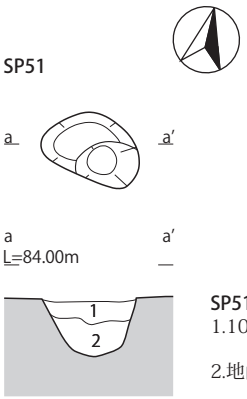
SK40
1.10YR3/3暗褐色粘質シルト　砂・炭を少量含む、粘性中・しまり強
2.10YR2/2黒褐色粘質シルト　砂を多量に含む、粘性弱・しまり強

SP49



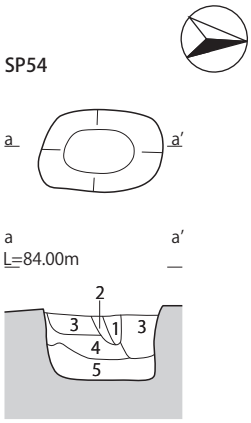
SP49
1.10YR3/1黒褐色粘質シルト　火山灰を斑、炭（φ0.5㎝）を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/2黒褐色粘質シルト　砂を微量に含む、粘性中・しまり中
3.10YR3/1黒褐色粘土　砂を微量に含む、粘性中・しまり強
4.10YR3/2黒褐色粘土　炭を微量に含む、粘性中・しまり中

SP51



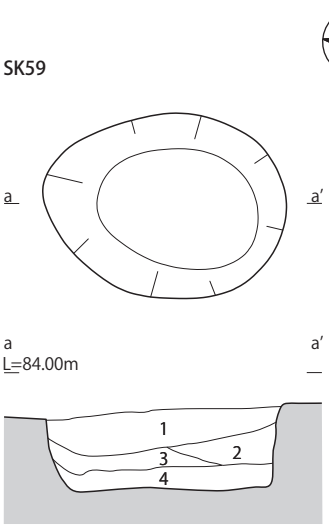
SP51
1.10YR3/4暗褐色粘土　砂・炭を微量に含む、粘性中・しまり中
2.地山

SP54

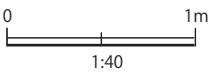


SP54
1.10YR3/3暗褐色シルト　しまり中
2.10YR4/1褐灰色シルト　しまり中（火山灰か？）
3.10YR3/2黒褐色粘質シルト　砂・炭を少量含む、粘性中・しまり中
4.10YR3/2黒褐色粘質シルト　砂を多量に含む、粘性中・しまり中
5.10YR3/2黒褐色粘土　砂を微量に含む

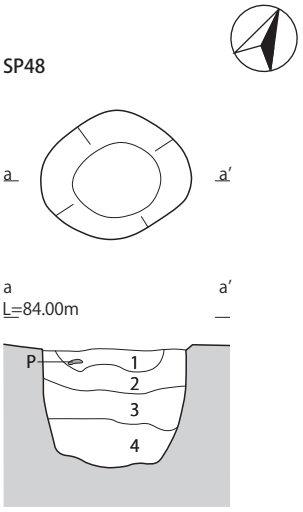
SK59



SK59
1.5YR4/4にぶい黄褐色粘質シルト　炭を筋状に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/2黒褐色粘質シルト　砂を微量に含む、粘性中・しまり強
3.10YR2/2黒褐色粘質シルト　砂を少量含む、粘性中・しまり弱
4.10YR3/1黒褐色粘土　10YR4/4褐色粘土（地山）を斑に10％含む、粘性中・しまり中

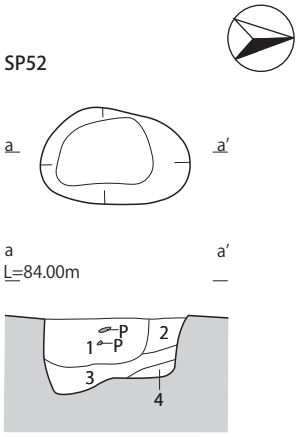


第 78 図　土坑 SK40・59・柱穴 SP49・51・54



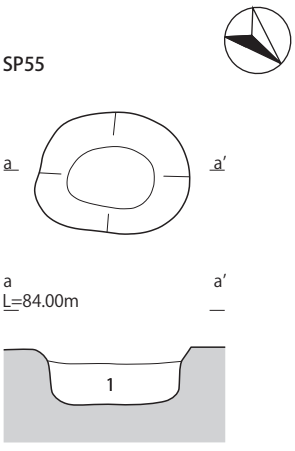
SP48

1.10YR4/2灰黄褐色粘土	焼土・炭を多量に含む、火山灰を微量に含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/3暗褐色粘質シルト	砂を少量含む、粘性中・しまり強
3.7.5YR4/1褐灰色粘質シルト	砂を少量含む、粘性中・しまり中
4.2.5GY5/1オリーブ灰褐色粘質シルト	粘性中・しまり中（地山か？）



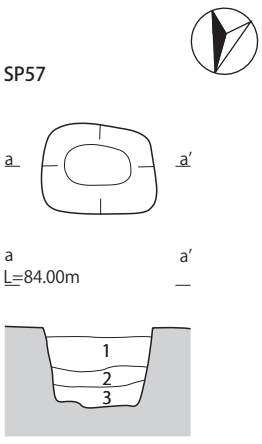
SP52

1.7.5YR3/3暗褐色粘質シルト	焼土・炭・火山灰・砂を多量に含む、粘性弱・しまり中
2.10YR3/1黒褐色粘土	砂・炭を微量に含む、粘性中・しまり中
3.10YR3/1黒褐色粘土	砂・炭を微量に含む、粘性２層より強・しまり中
4.10YR4/1褐灰色粘質シルト	砂・炭を微量に含む、粘性弱・しまり中



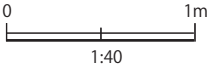
SP55

1.10YR3/2黒褐色粘質シルト	砂・炭（φ0.5㎝）を微量に含む

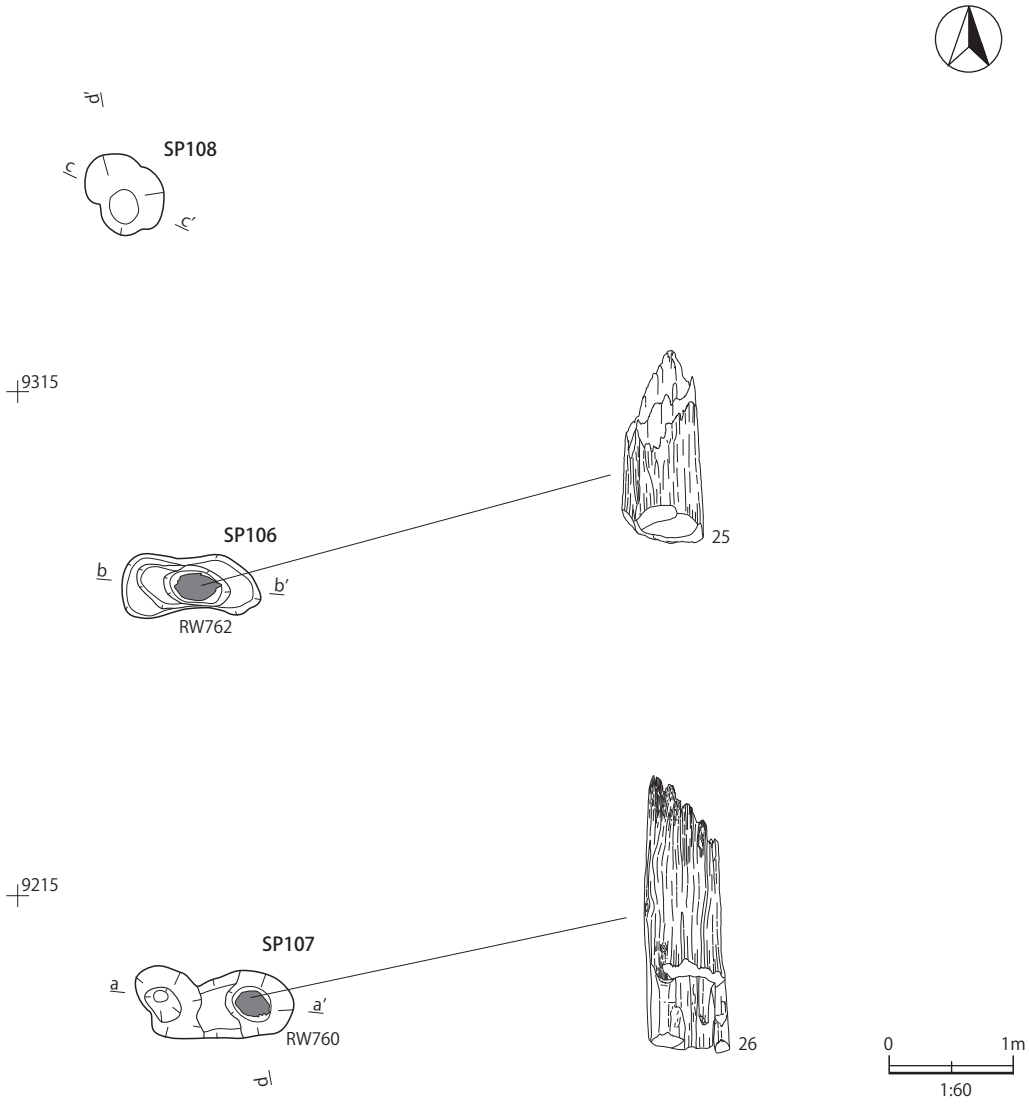


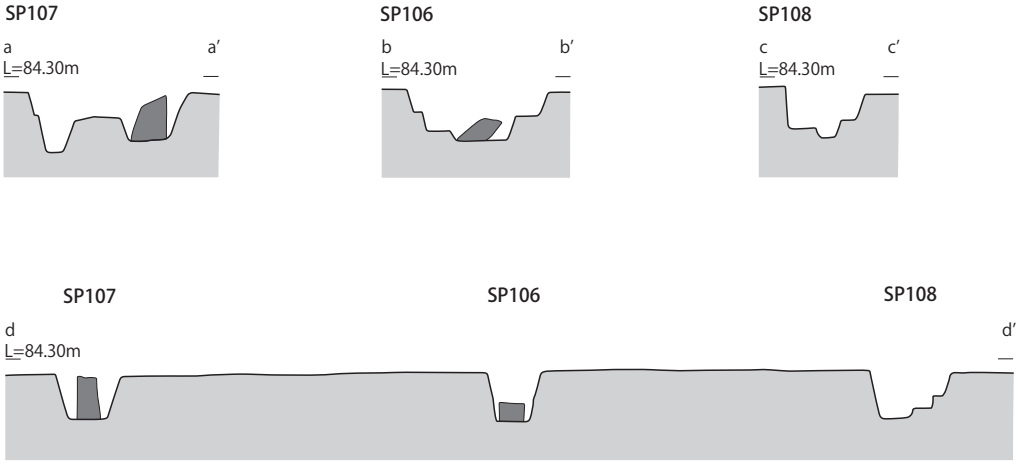
SP57

1.10YR4/1褐灰色粘土	炭を微量に含む、粘性強・しまり中
2.10YR3/1黒褐色粘質シルト	砂を多量に含む、粘性中・しまり中
3.10YR2/1黒色粘質シルト	粘性中・しまり中

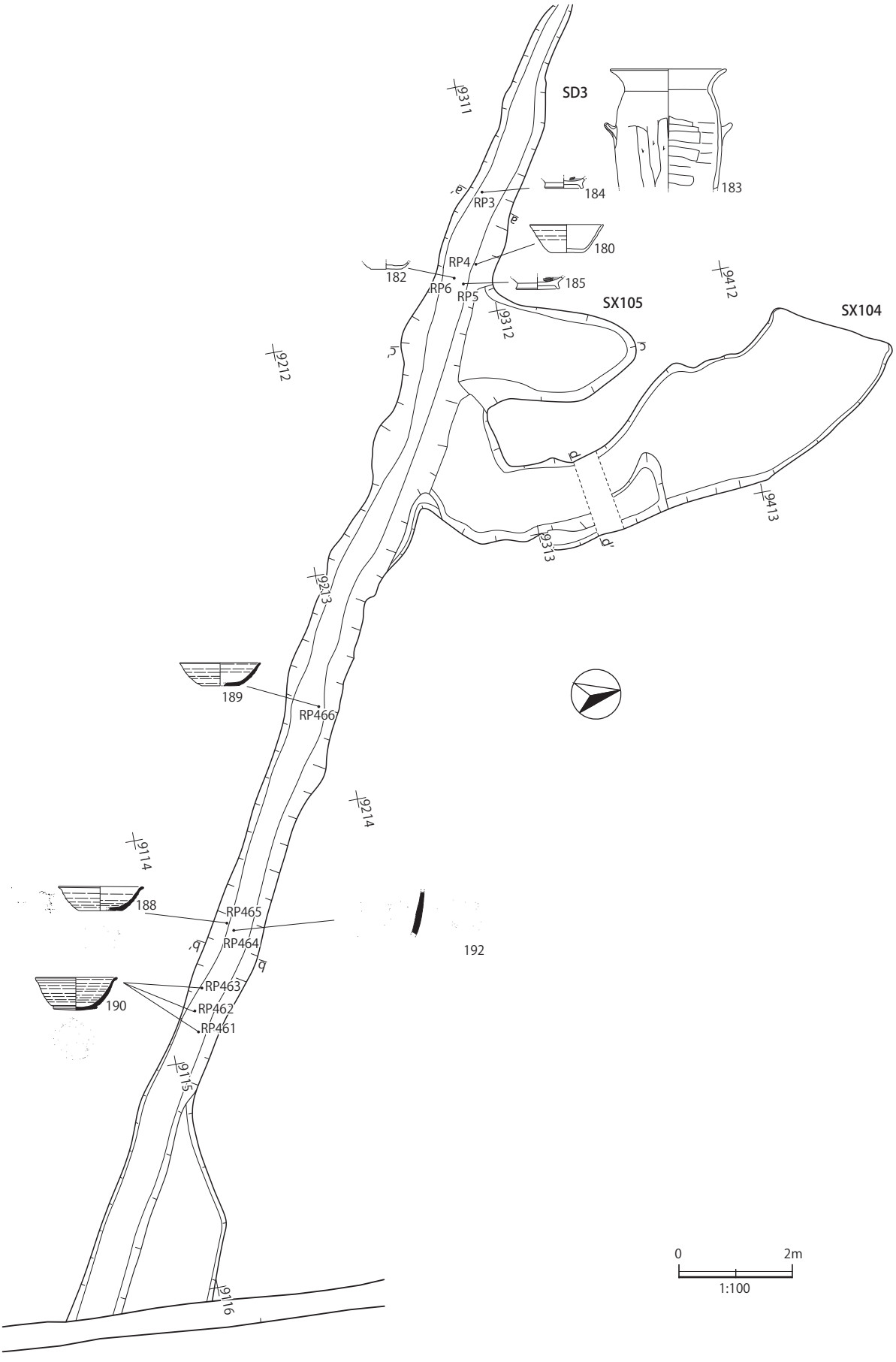


第 79 図　柱穴 SP48・52・55・57



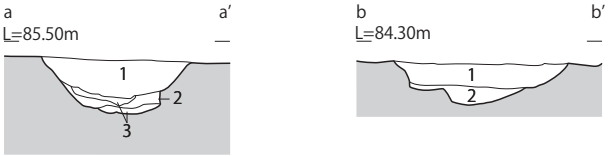


第 80 図　柱穴 SP106・107・108



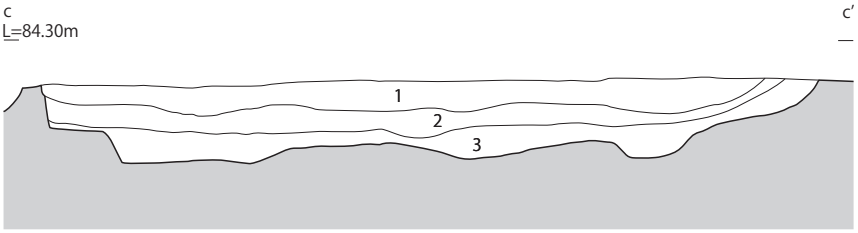
第 81 図　溝跡 SD3・性格不明遺構 SX104・105（1）

SD3



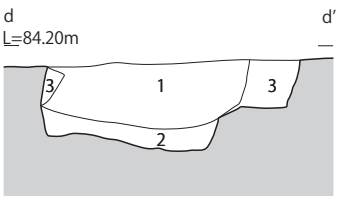
SD3(a-a′)
1.10YR2/1黒色粘質土　木炭粒を少量、灰白火山灰ブロックを含む
2.10YR3/2黒褐色砂質土　1層と似るがやや砂質
3.10YR4/2灰黄褐色砂
SD3(b-b′)
1.10YR2/1黒褐色粘質土　砂粒・土器片を含む、木炭粒を少量含む
2.10YR3/2黒褐色砂質土　砂粒多く含む

SX105

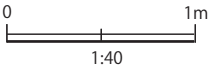


SX105
1.10YR2/2黒褐色粘質土　木炭粒を多く含む
2.10YR3/2黒褐色砂質土　1層と似るが、砂質で木炭粒を含まない
3.10YR2/1黒色粘土　灰黄褐色粘土・砂質土をブロック状で少量含む

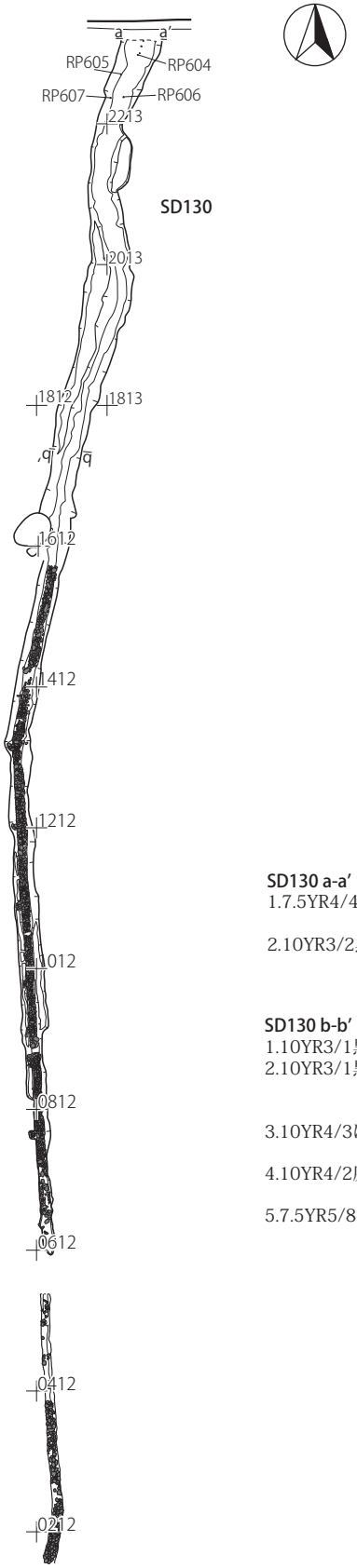
SX104

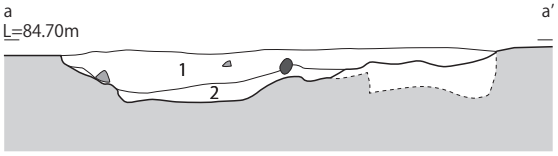


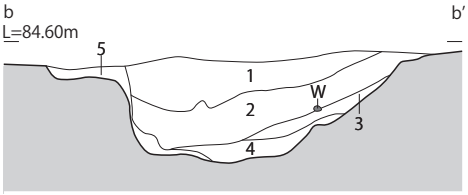
SX104
1.10YR2/2黒褐色粘質土　木炭粒を多く含む
2.10YR2/1黒色粘土　灰黄褐色粘土・砂質土をブロック状で少量含む
3.10YR4/3にぶい黄褐色粘質土　砂粒を多く含む



第 82 図　溝跡 SD3・性格不明遺構 SX104・105（2）





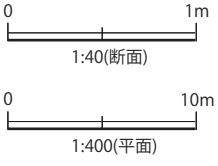


SD130 a-a′

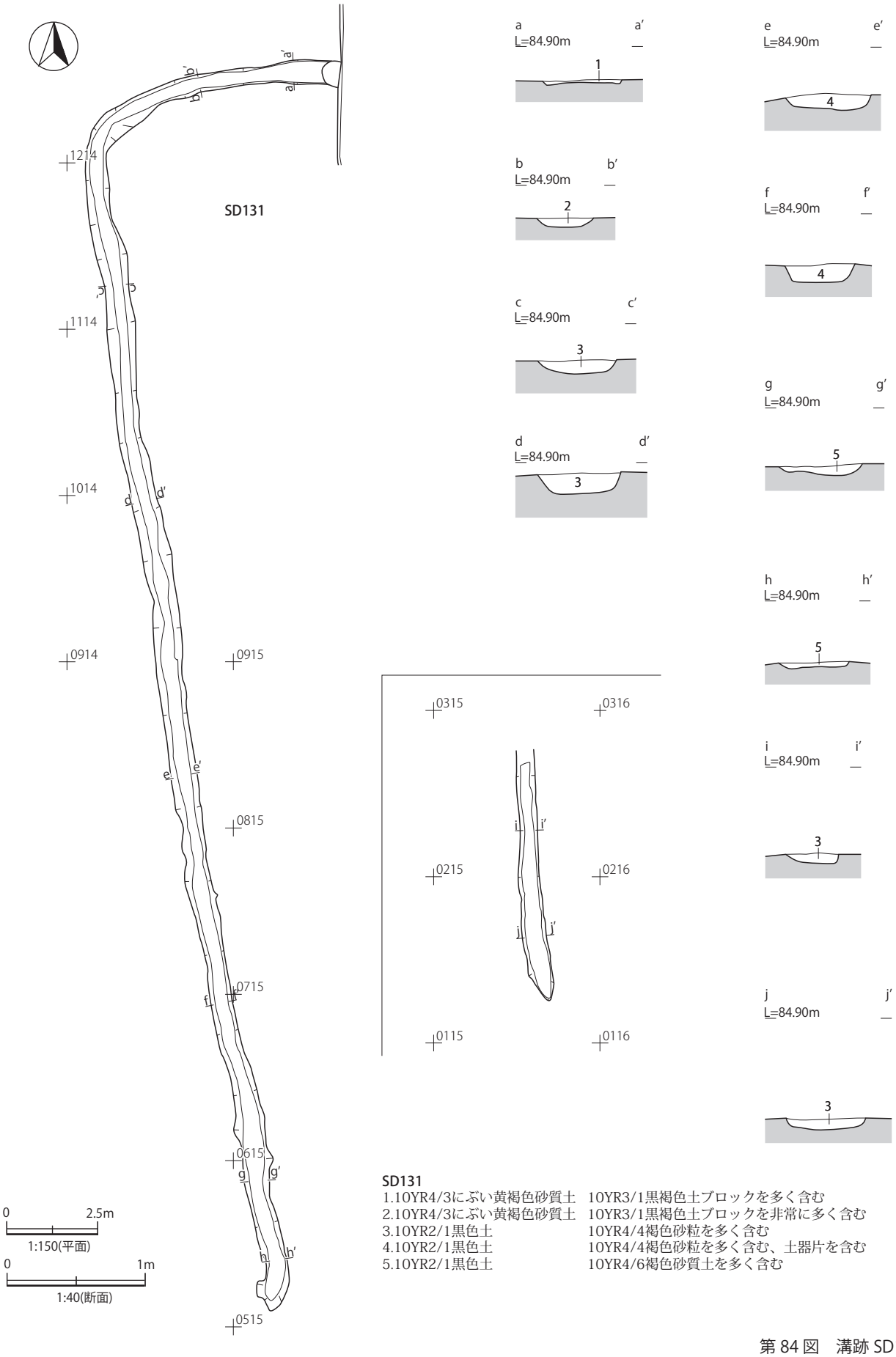
1.7.5YR4/4褐色粘土	10YR4/3にぶい黄褐色砂を斑に20％含む、炭化物（φ0.5㎝）を含む、粘性中・しまり中
2.10YR3/2黒褐色粘土	10YR4/3にぶい黄褐色砂を20%、炭化物（φ0.5㎝）を30％含む、粗砂利を含む、粘性中・しまり強

SD130 b-b′

1.10YR3/1黒褐色粘質シルト（粘性中・しまり中）と7.5YR3/4暗褐色砂の互層	
2.10YR3/1黒褐色粘土	10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト（粘性中・しまり中）を斑に約10％含む、砂・炭化物（φ0.2㎝）を微量に含む、粘性中・しまり中
3.10YR4/3にぶい黄褐色砂	10YR3/1黒褐色粘土を斑に10％含む、炭化物（φ0.2㎝）を微量に含む
4.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR5/6黄褐色粘土（粘性中・しまり中）を斑にに10%含む、炭化物（φ0.2㎝）を微量に含む、粘性中・しまり中
5.7.5YR5/8明褐色粘質シルト	粘性弱・しまり中



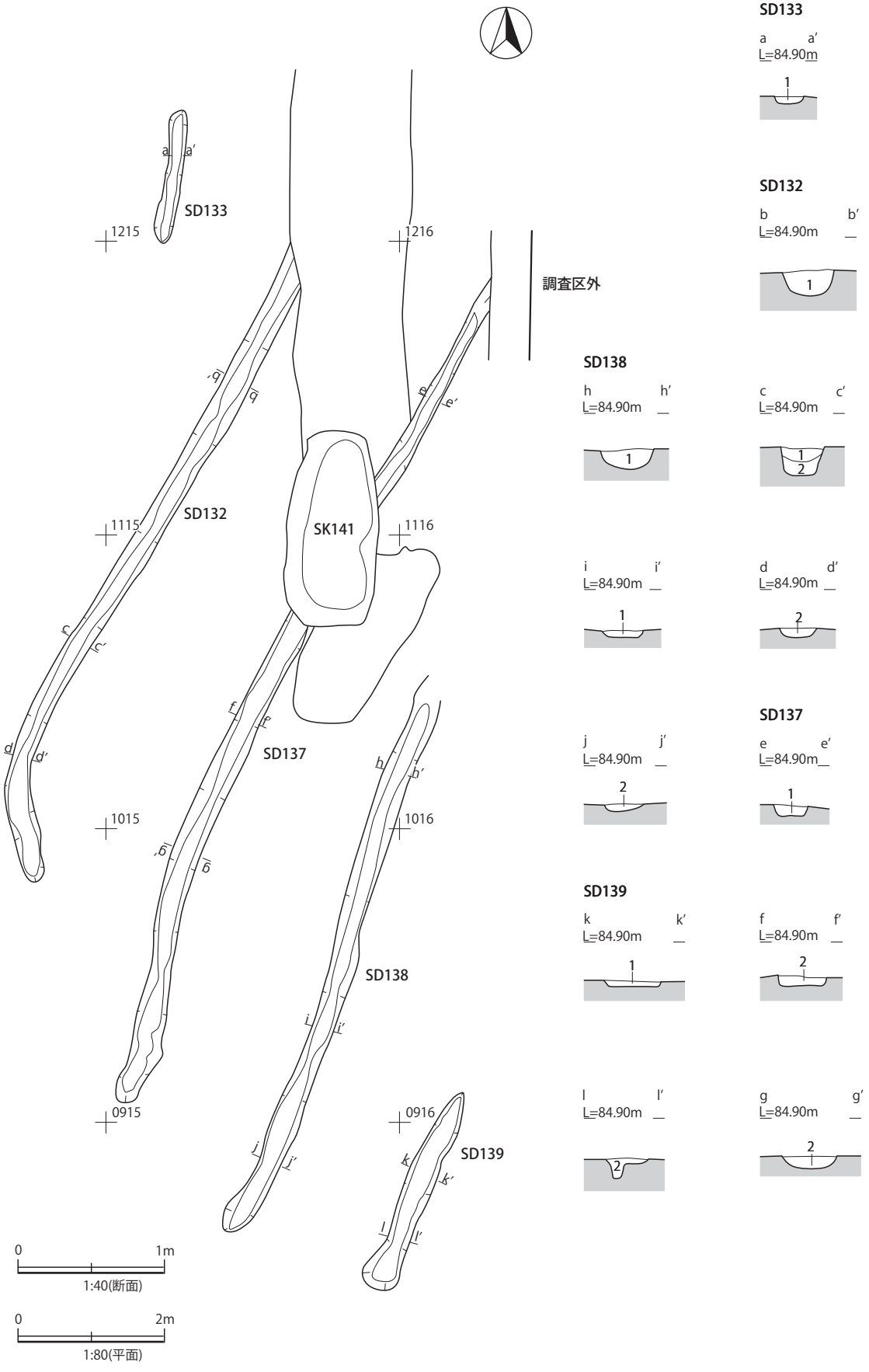
第 83 図　溝跡 SD130



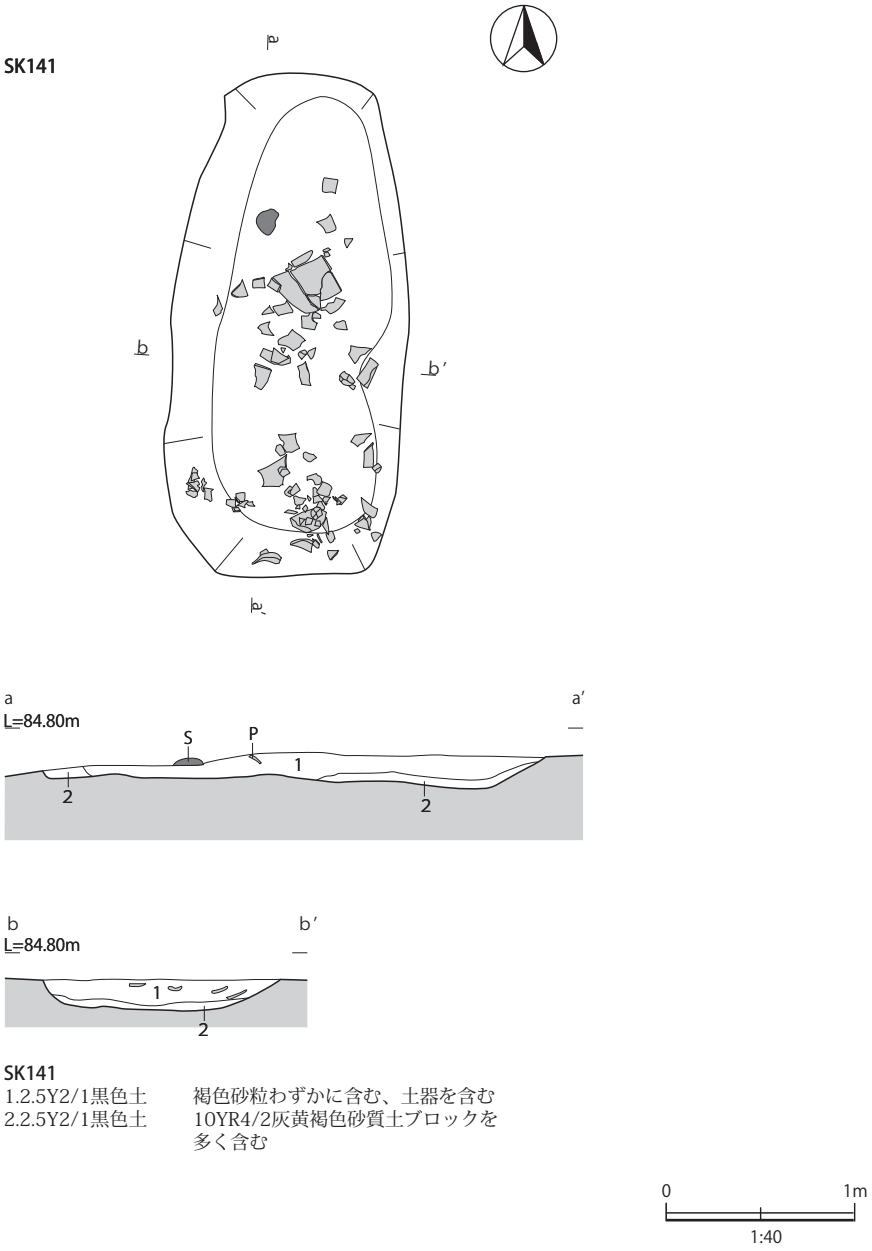
SD131

1.10YR4/3にぶい黄褐色砂質土	10YR3/1黒褐色土ブロックを多く含む
2.10YR4/3にぶい黄褐色砂質土	10YR3/1黒褐色土ブロックを非常に多く含む
3.10YR2/1黒色土	10YR4/4褐色砂粒を多く含む
4.10YR2/1黒色土	10YR4/4褐色砂粒を多く含む、土器片を含む
5.10YR2/1黒色土	10YR4/6褐色砂質土を多く含む

第 84 図　溝跡 SD131



第 85 図　溝跡 SD132・133・137・138・139・土坑 SK141（1）



SK141

1.2.5Y2/1黒色土	褐色砂粒わずかに含む、土器を含む
2.2.5Y2/1黒色土	10YR4/2灰黄褐色砂質土ブロックを多く含む

0 1m
1:40

SD132

1.10YR1/2黒色土	10YR4/4褐色砂粒を多く含む、同ブロックを少量含む
2.10YR1/2黒色土	10YR4/4褐色砂粒・同ブロックを多く含む

SD133

1.10YR2/1黒色土	10YR4/4褐色砂粒を多く含む同ブロックを少量含む

SD137

1.10YR1/2黒色土	10YR4/4褐色砂粒を多く含む、同ブロックを少量含む
2.10YR1/2黒色土	10YR4/4褐色砂粒・同ブロックを多く含む

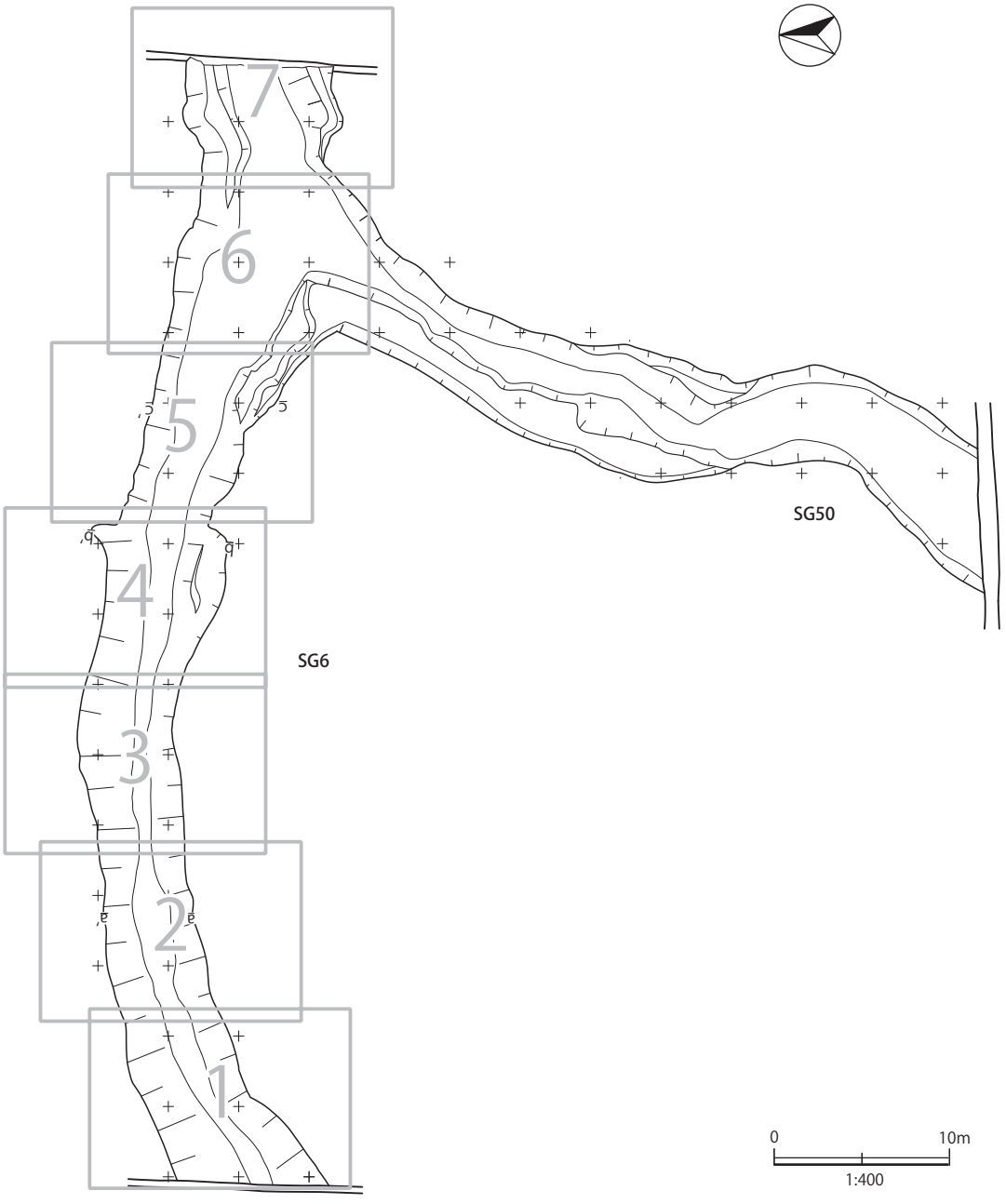
SD138

1.10YR2/1黒色土	10YR4/4褐色砂粒を多く含む、同ブロックを少量含む
2.10YR2/1黒色土	10YR4/4褐色砂粒・同ブロックを多く含む

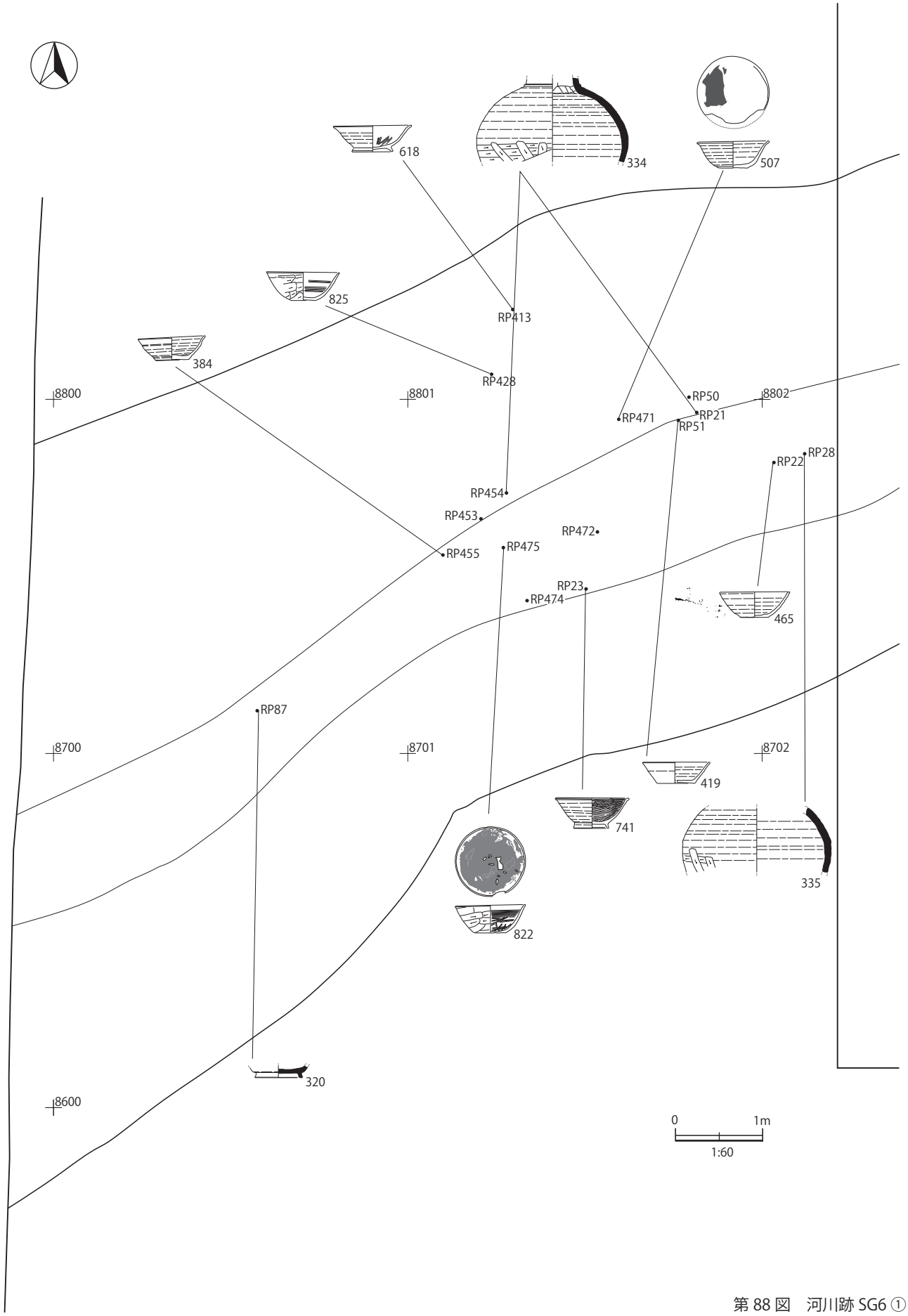
SD139

1.10YR2/1黒色土	10YR4/4褐色砂粒を多く含む、同ブロックを少量混入
2.10YR2/1黒色土	10YR4/4褐色砂粒・同ブロックを多く含む

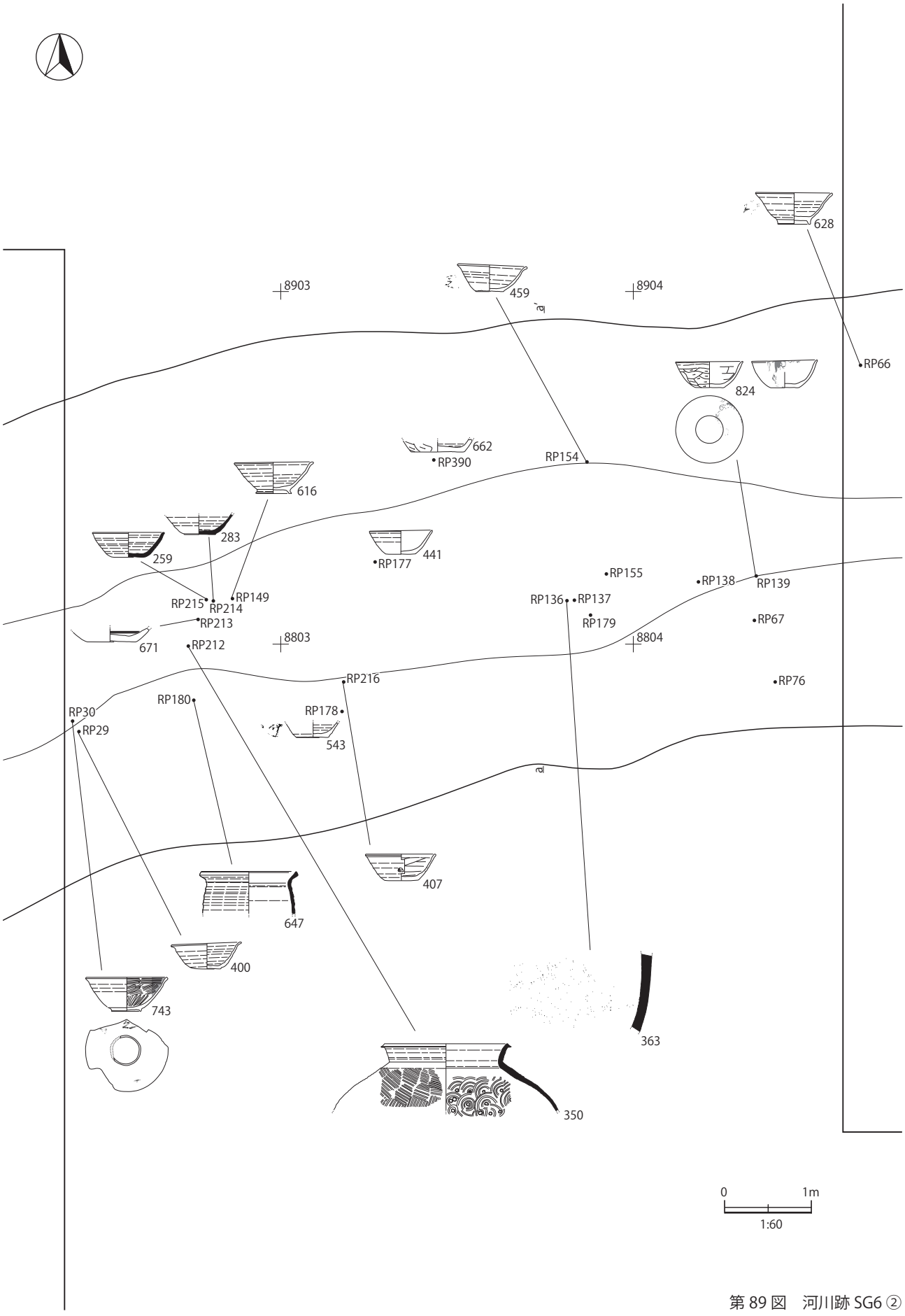
第 86 図　溝跡 SD132・133・137・138・139・土坑 SK141（2）



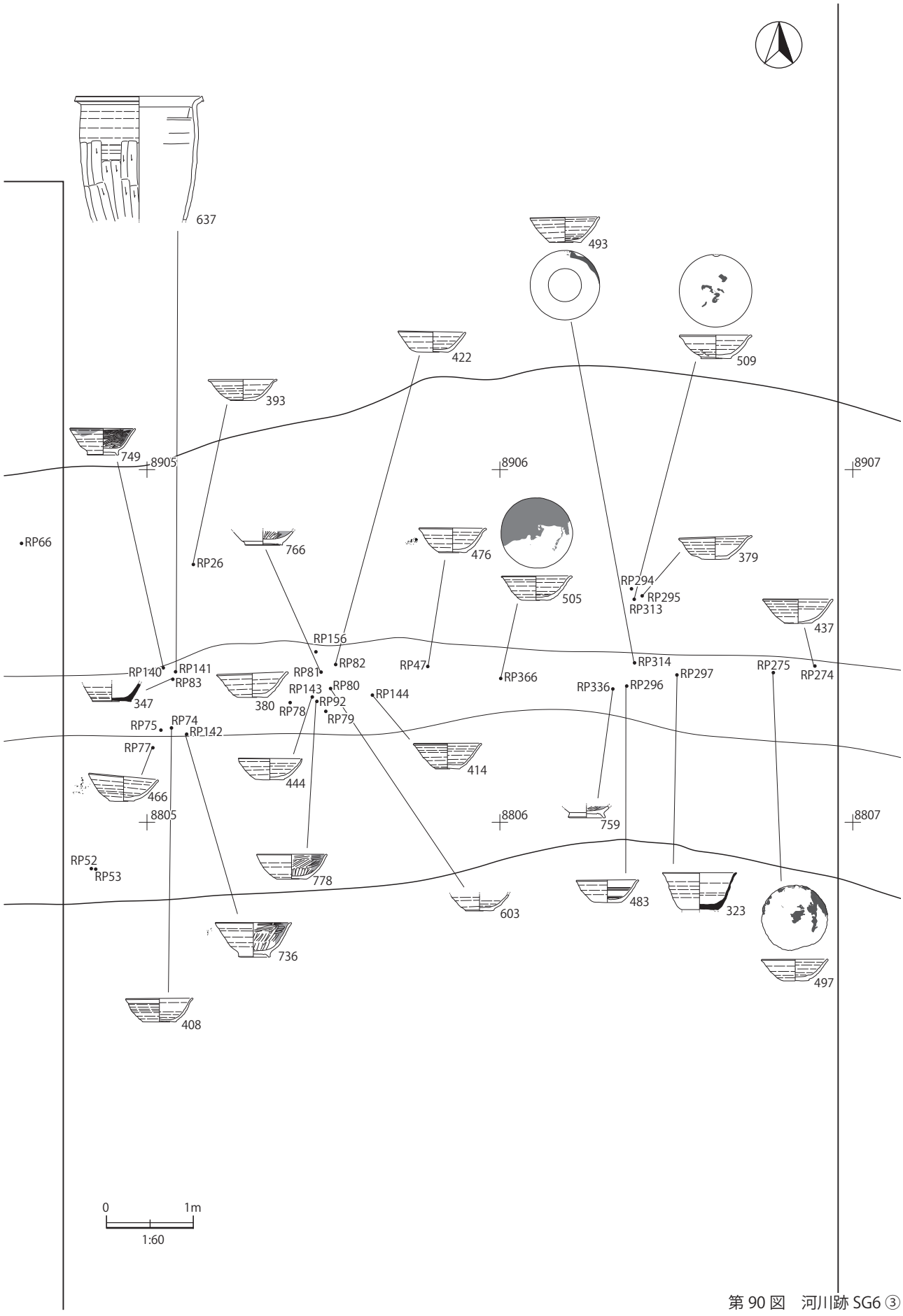
第 87 図　河川跡 SG6 割付図



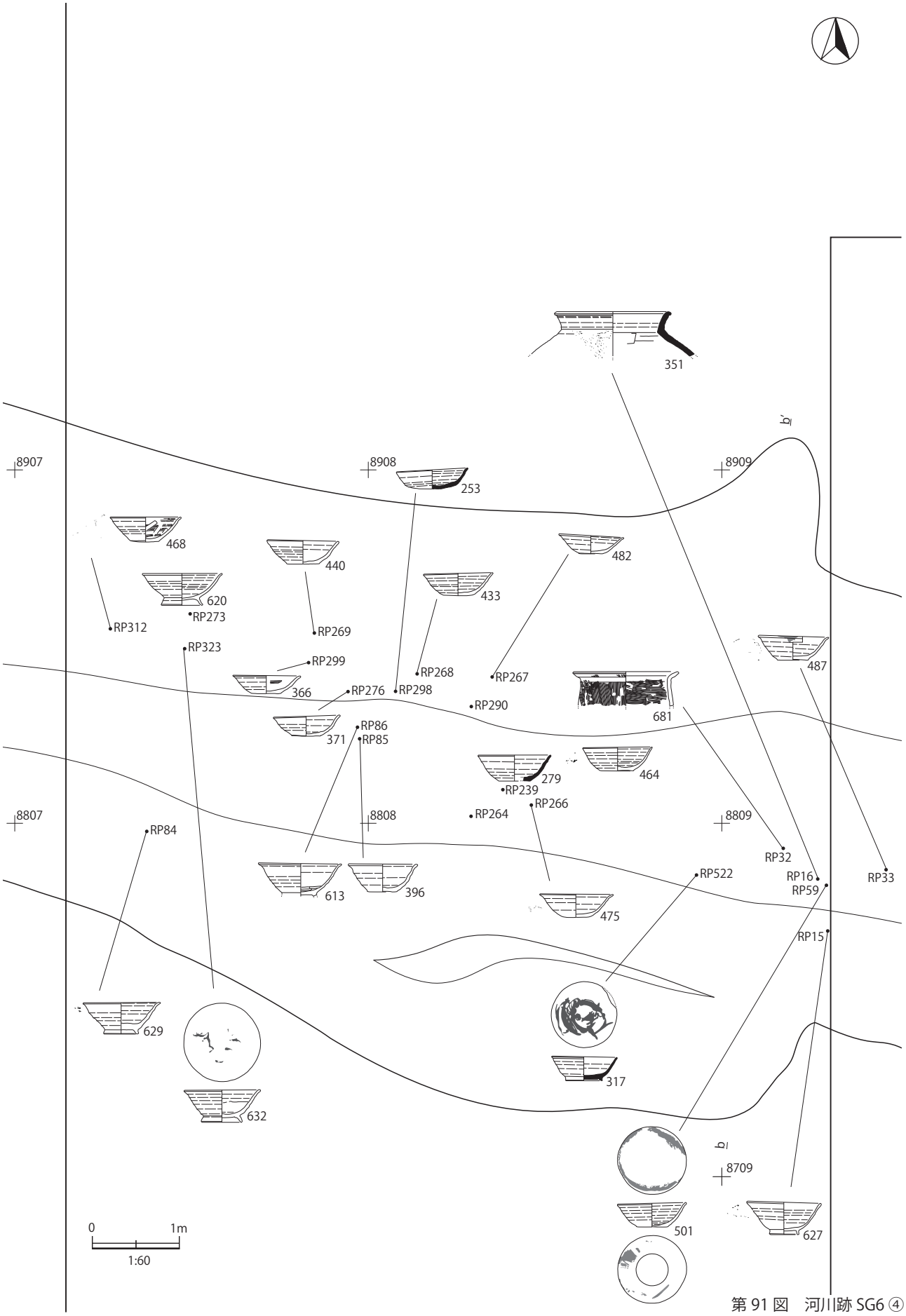
第 88 図　河川跡 SG6 ①



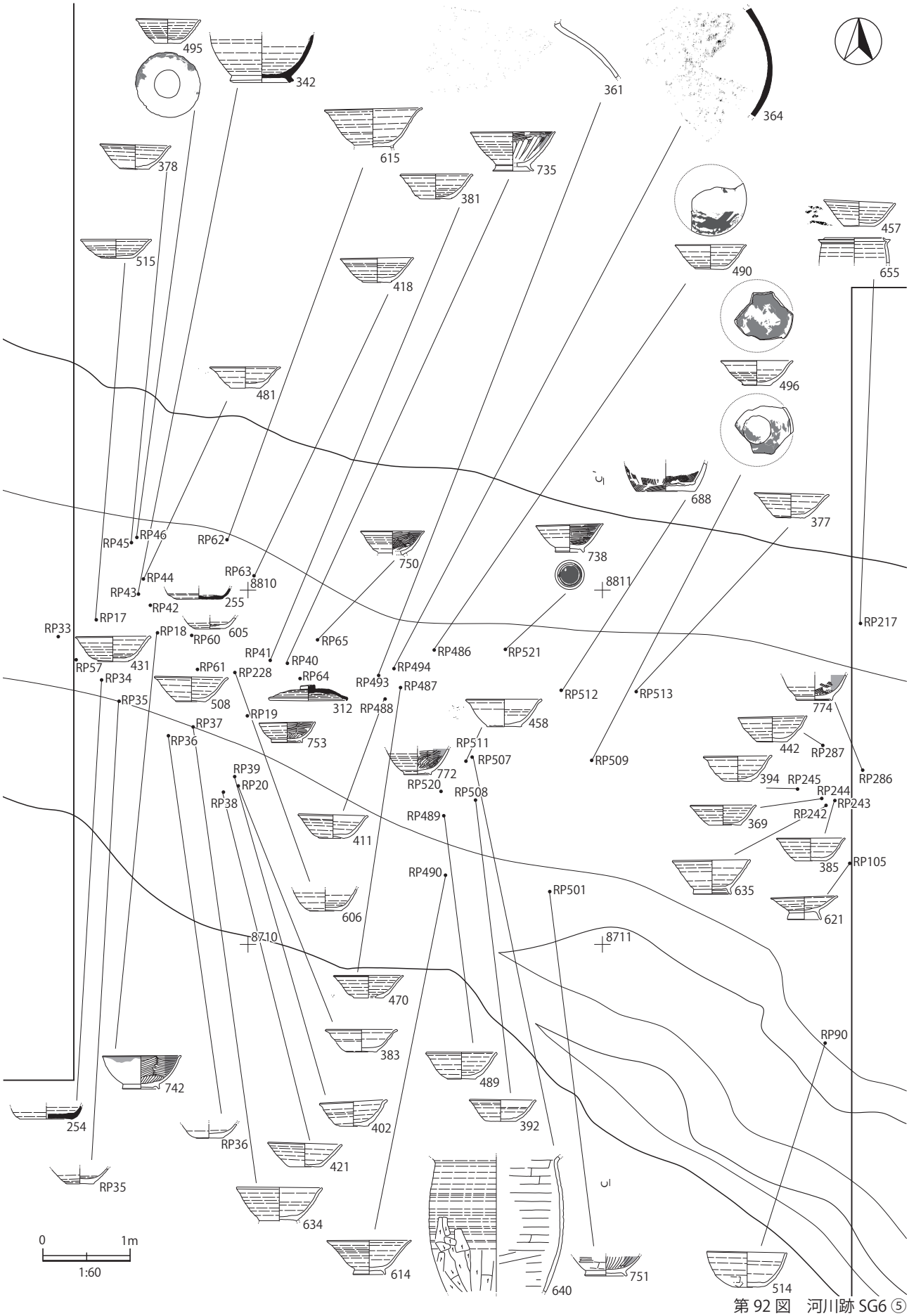
第 89 図　河川跡 SG6 ②



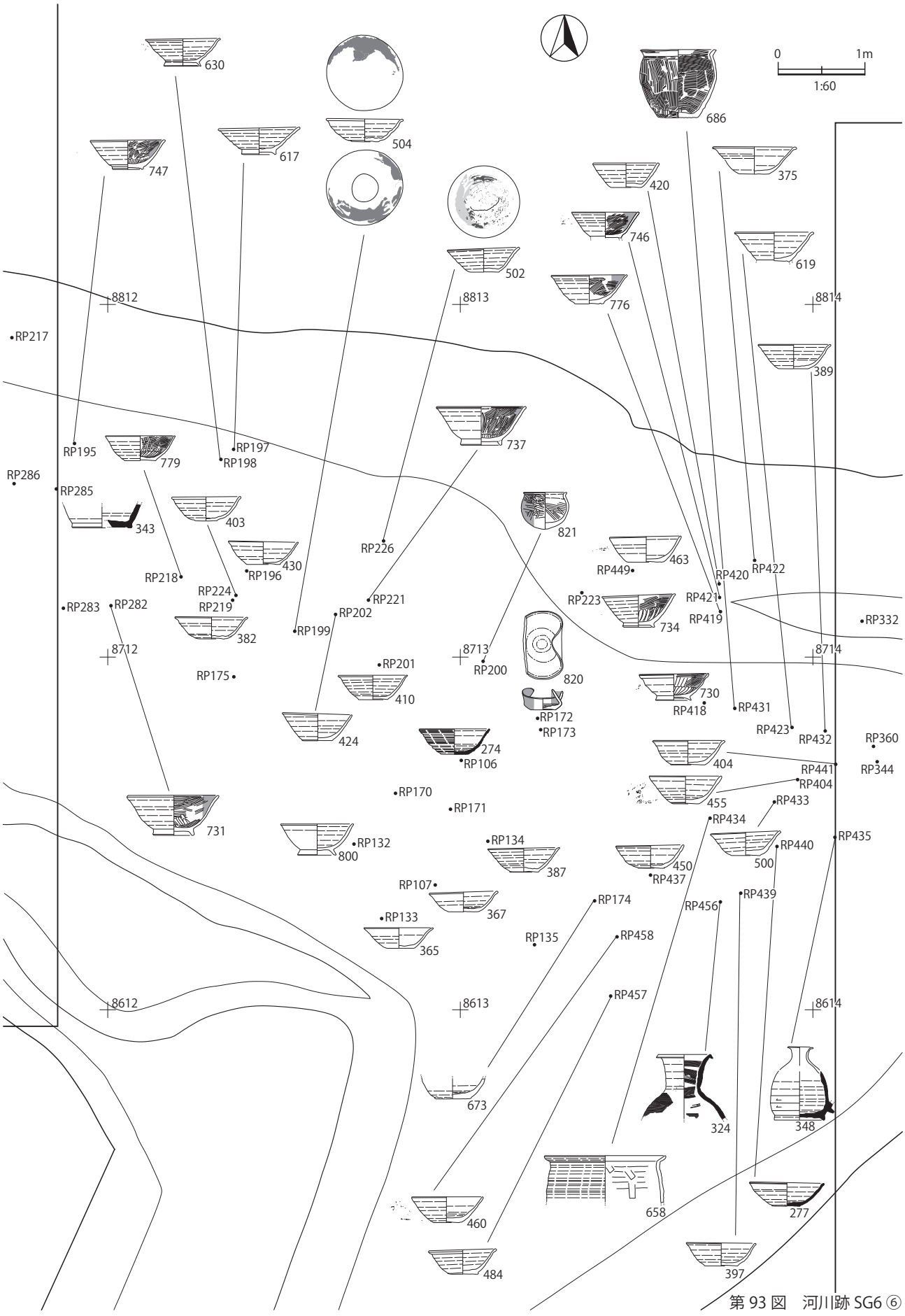
第 90 図　河川跡 SG6 ③



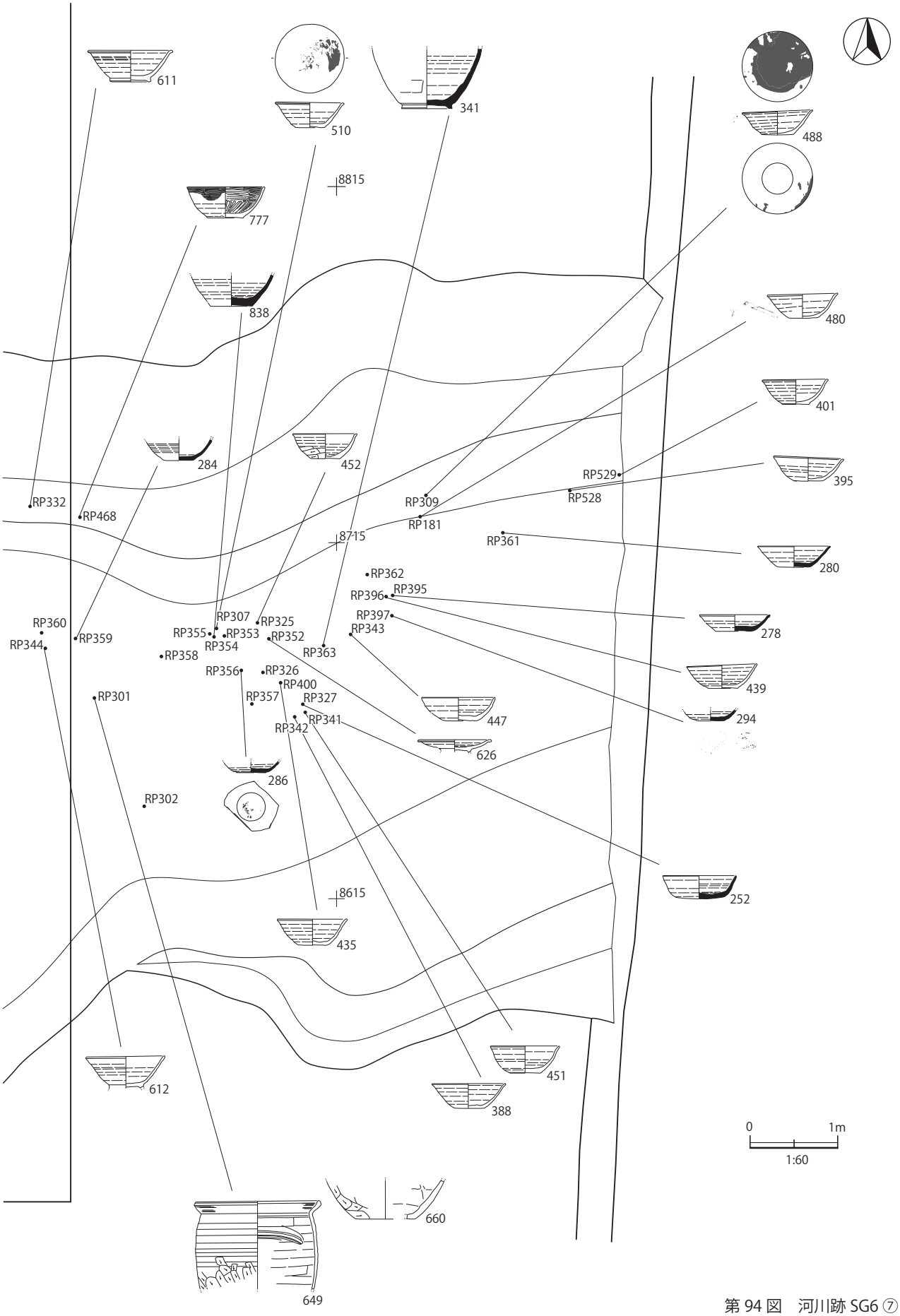
第 91 図　河川跡 SG6 ④



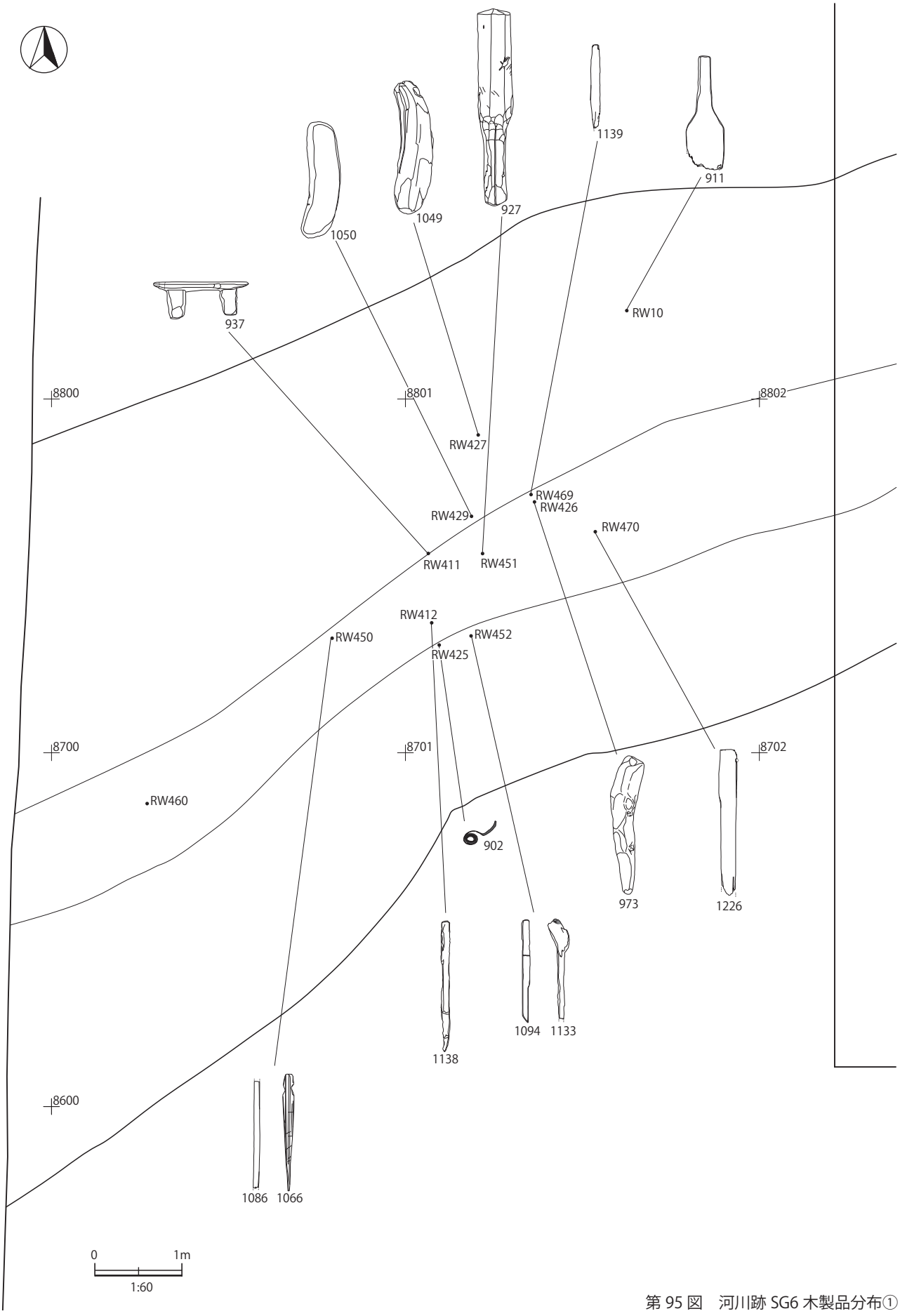
第 92 図　河川跡 SG6 ⑤



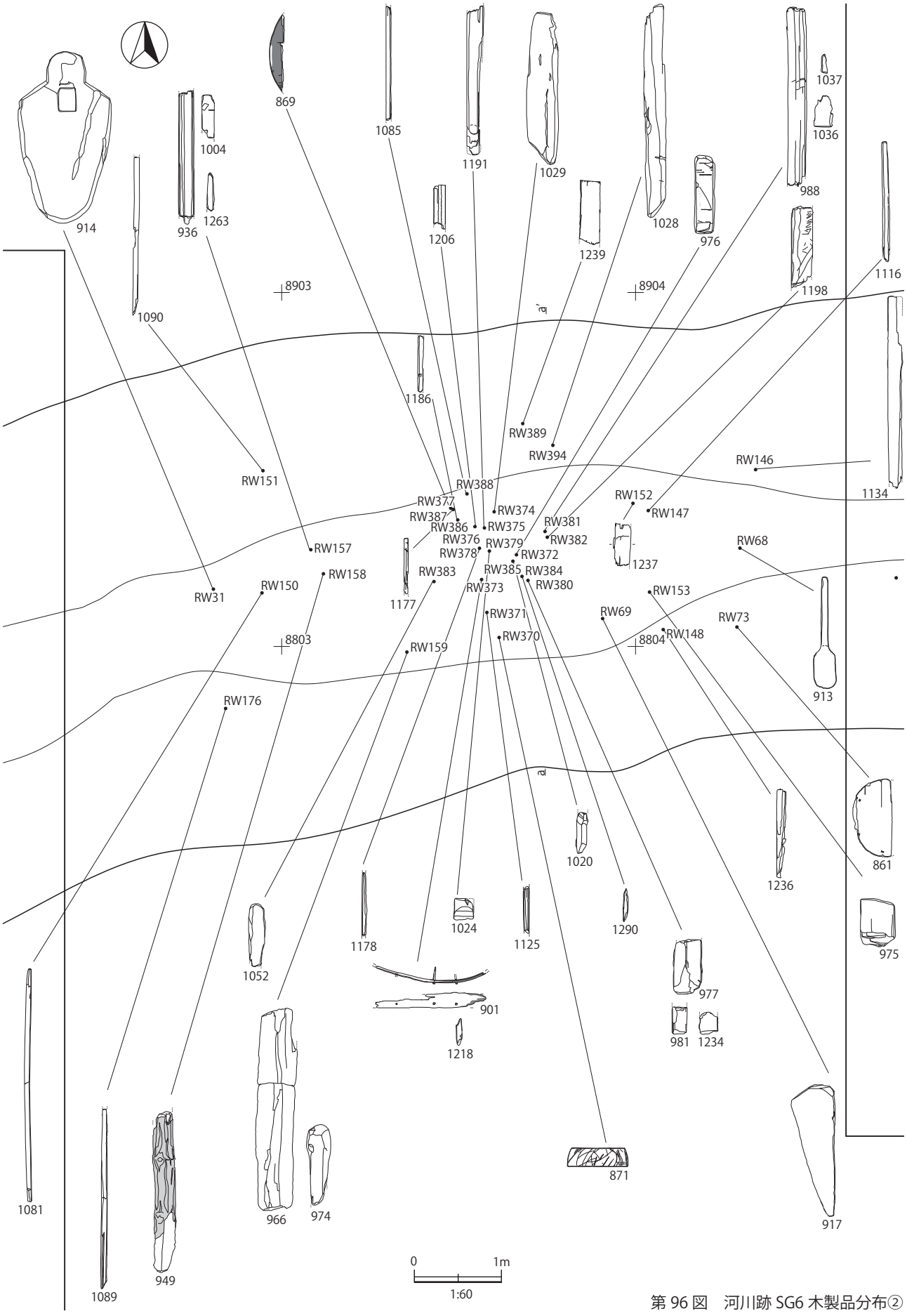
第 93 図　河川跡 SG6 ⑥



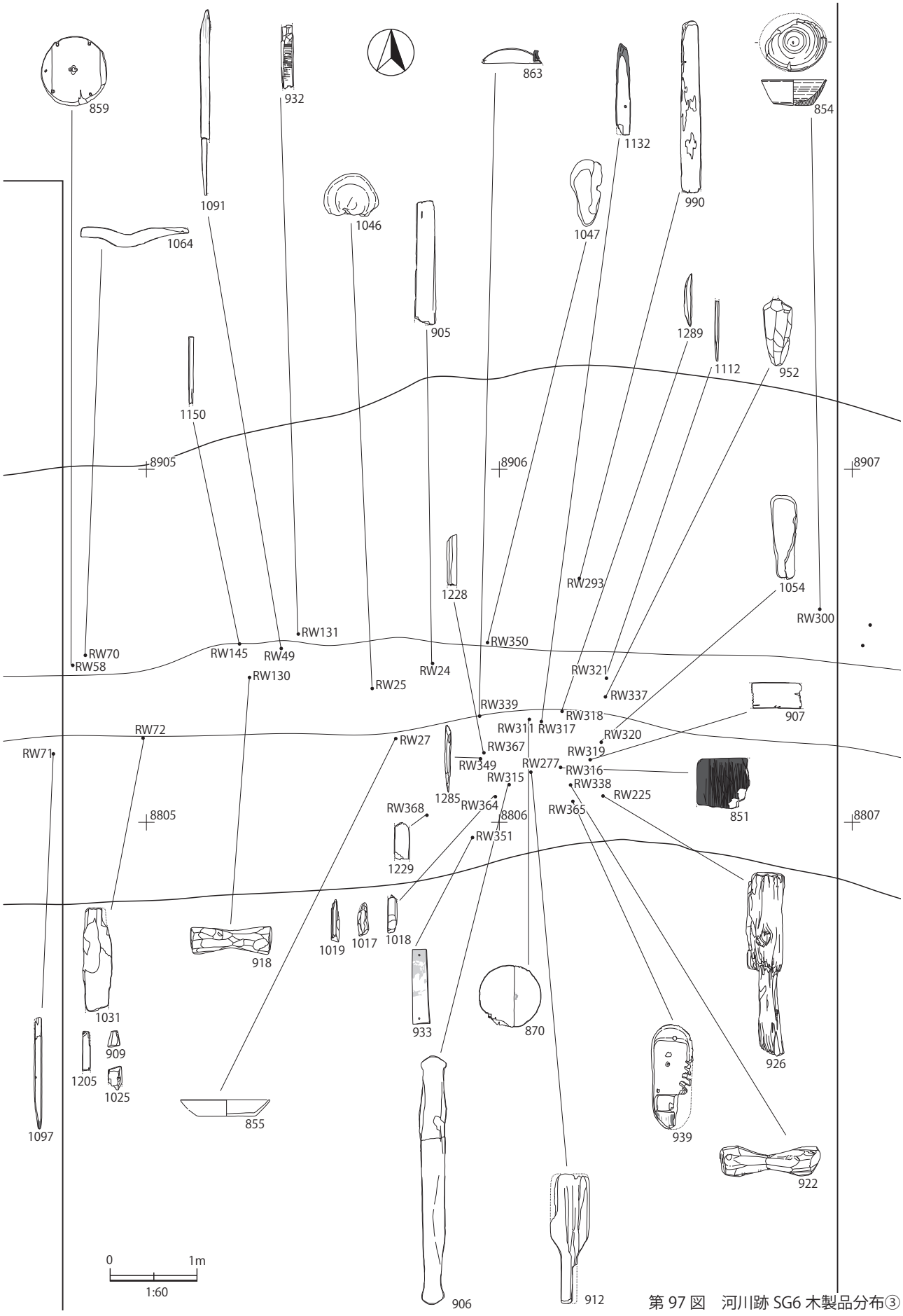
第 94 図　河川跡 SG6 ⑦



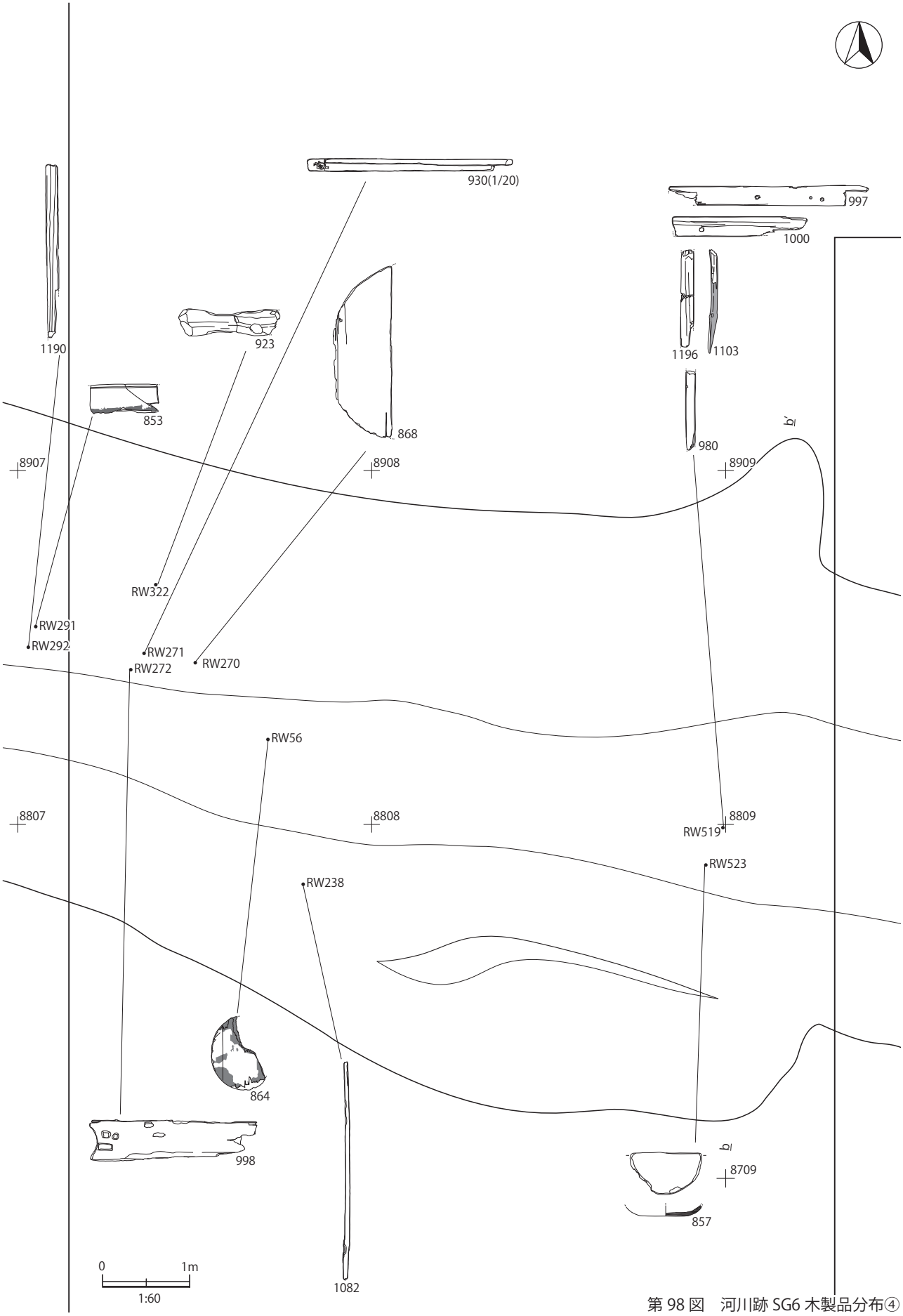
第 95 図　河川跡 SG6 木製品分布①



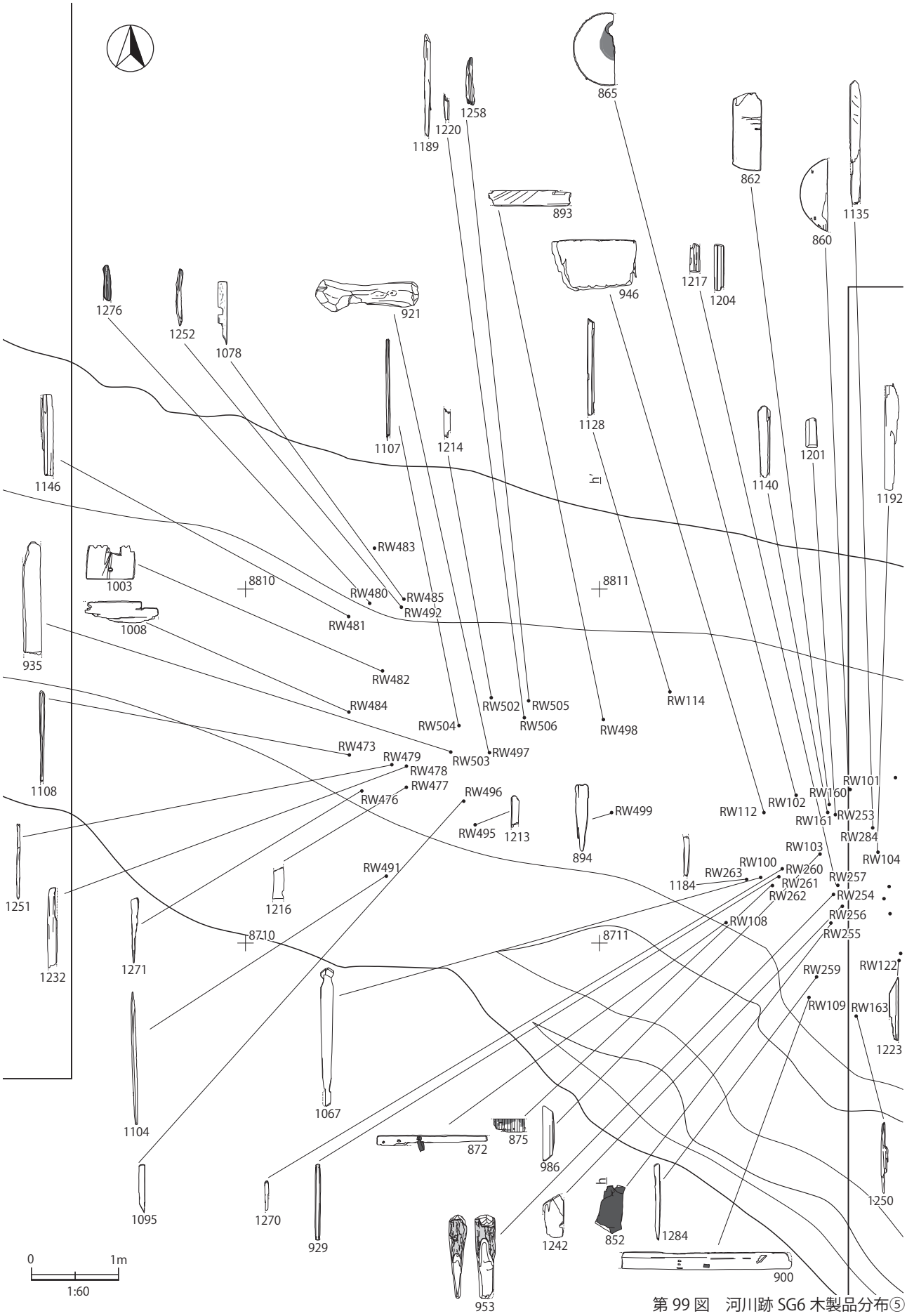
第 96 図　河川跡 SG6 木製品分布②



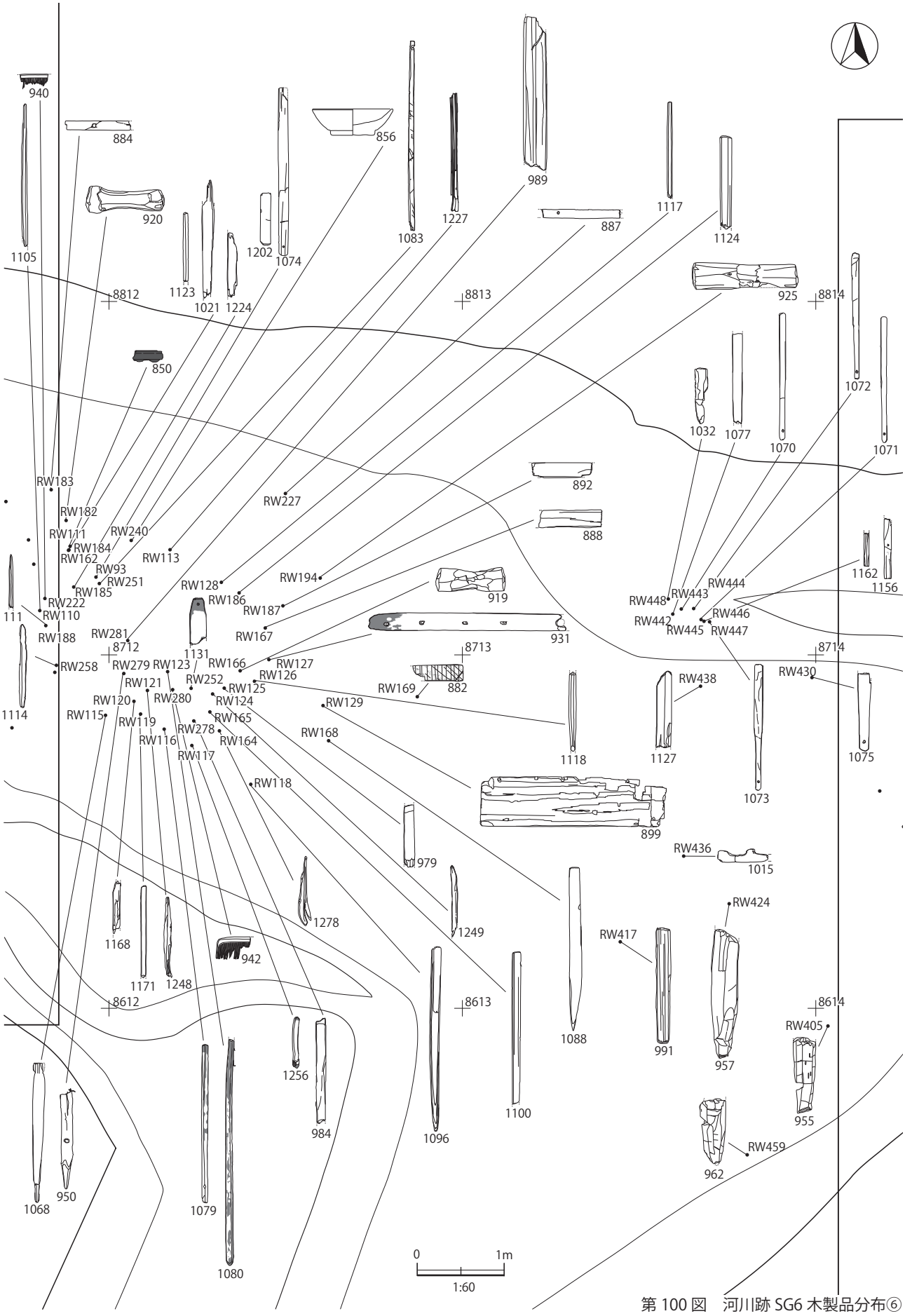
第 97 図　河川跡 SG6 木製品分布③



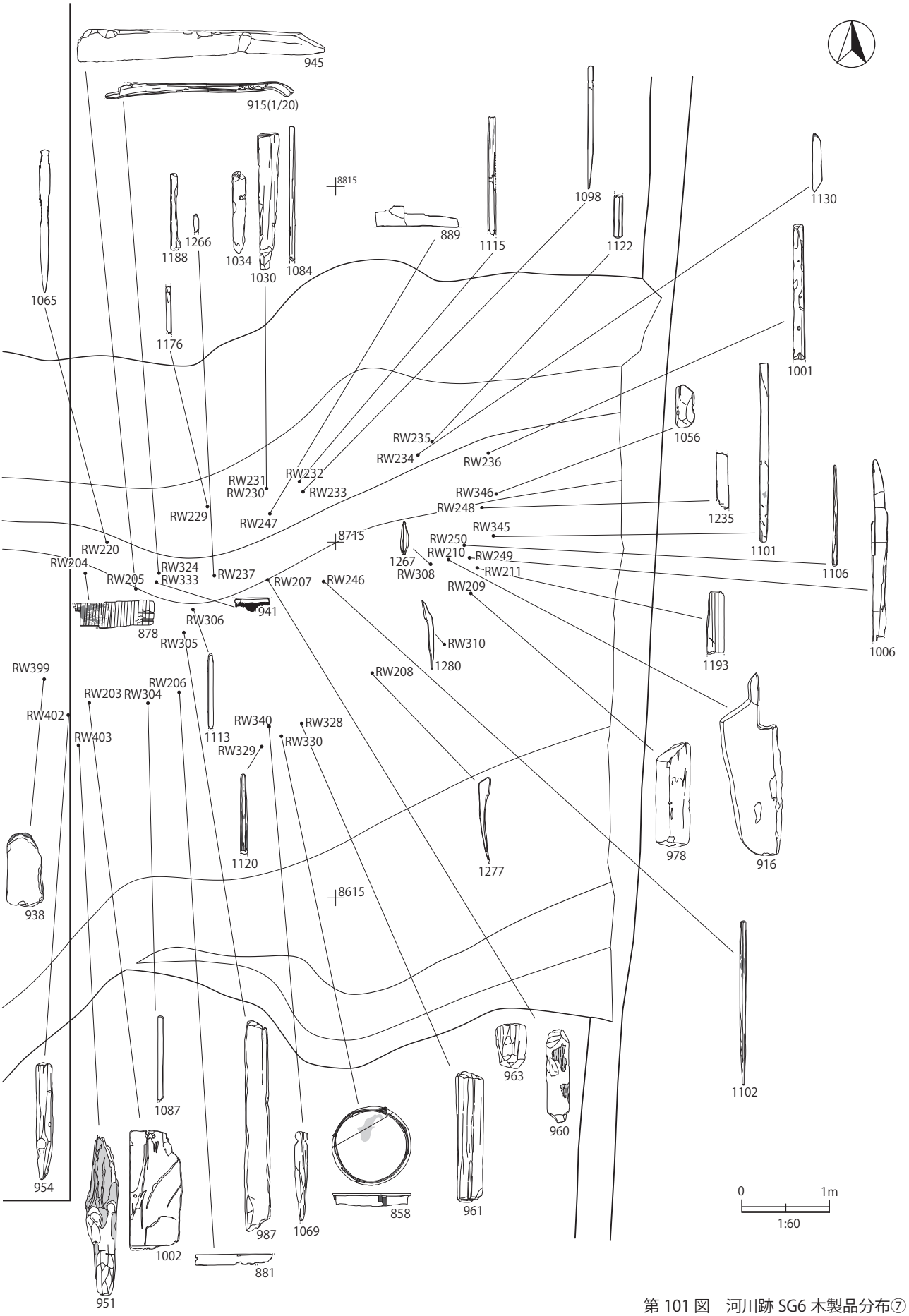
第 98 図　河川跡 SG6 木製品分布④



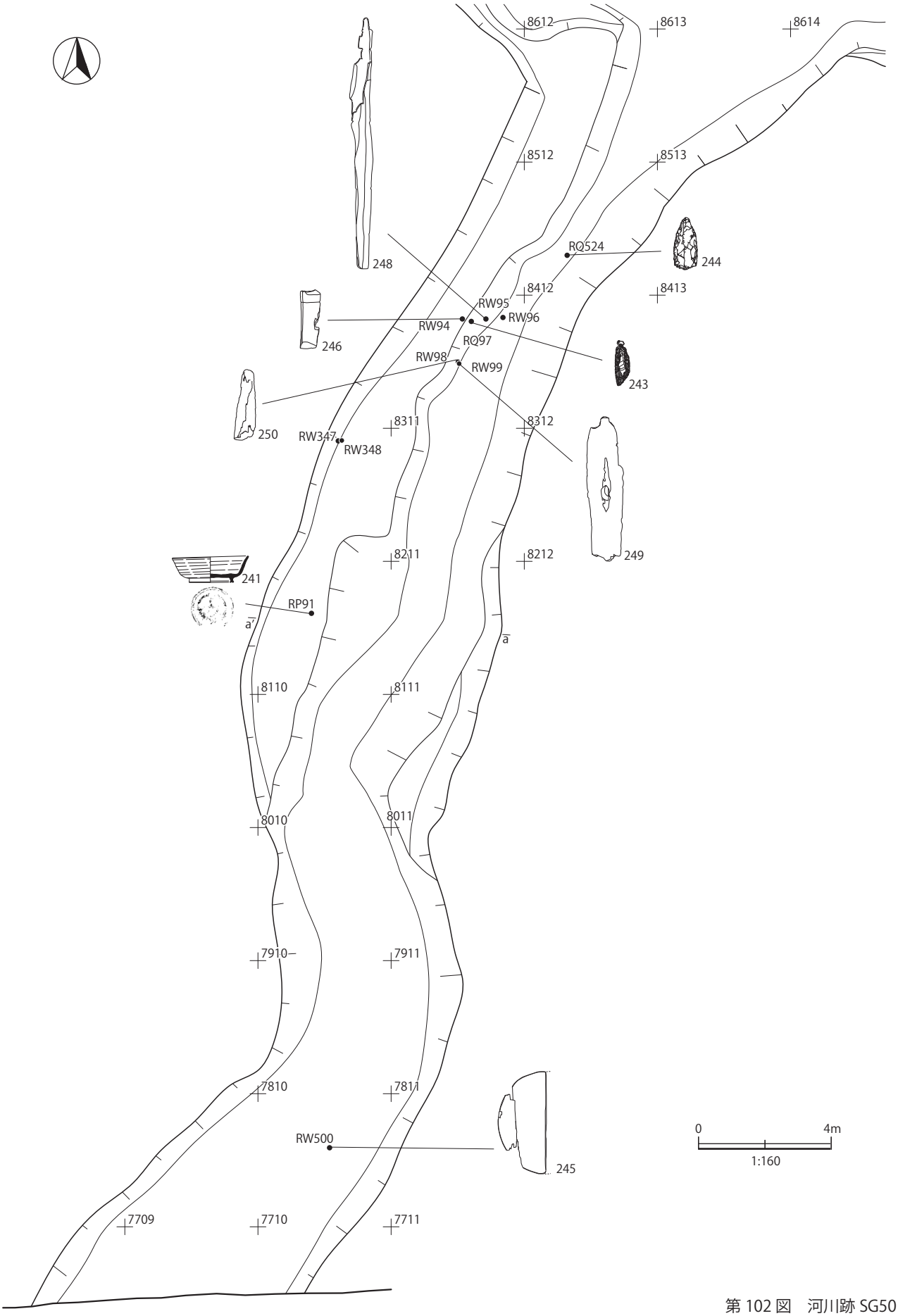
第 99 図　河川跡 SG6 木製品分布⑤



第 100 図　河川跡 SG6 木製品分布⑥

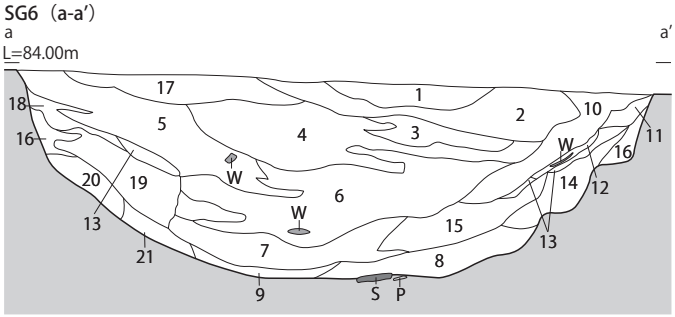


第 101 図　河川跡 SG6 木製品分布⑦



第 102 図　河川跡 SG50

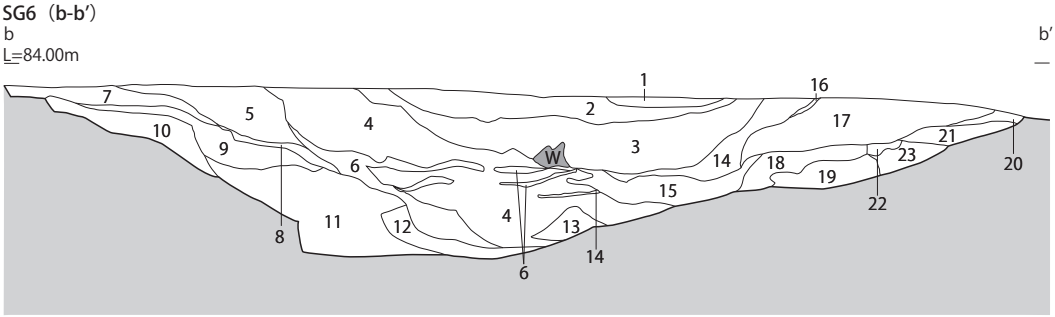
SG6（a-a′）



SG6（a-a′）

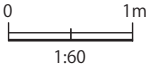
1.5Y3/2オリーブ黒色砂質土　10YR4/4褐色砂を多く含む
2.5Y2/2オリーブ黒色粘質土　10YR4/4褐色砂をわずかに含む
3.10YR4/4褐色～5Y5/4オリーブ色砂　5Y2/1黒色～5Y2/2オリーブ黒色シルトを少量含む、砂利(φ0.4~1㎝)を含む
4.5Y2/1黒色～2/2オリーブ黒色シルト　5Y5/4オリーブ色砂・10GY4/1暗緑灰砂質シルトをラミナ状に含む、植物木質を多く含む
5.5Y3/2オリーブ黒色砂質土　5Y5/4オリーブ色砂・10GY4/1暗緑灰砂質シルトもラミナ状に多量に含む、植物木質を含む
6.10YR4/4褐色～5Y5/4オリーブ色砂　砂利（φ0.1~3㎝）を多量に含む、自然木・木製品・土器を含む
7.5Y5/4オリーブ色～4/1灰色砂　砂利（φ1~5㎝）を多量に含む、自然木などを含む
8.5Y4/3暗オリーブ色砂　礫（φ3~7㎝）を多量に含む、土器を含む、砂利層
9.5Y4/3暗オリーブ色～10GY4/1暗緑灰砂
10.5Y3/1オリーブ黒色シルト　5Y5/4オリーブ色砂をまだらに含む、木質物を多く含む、やや軟弱
11.5Y3/2オリーブ黒色シルト　5Y7/1灰白色土粒を多く含む
12.5Y7/1灰白土
13.5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト　12層を多く含む
14.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　10GY4/1暗緑灰シルトと5Y5/4オリーブ色砂を含む、10層と似るがしまり強
15.5Y3/1オリーブ黒色砂質土　10・14層と似るが、より砂質で軟弱、木質物を多量に含む
16.5Y3/1オリーブ黒色土　5Y5/4オリーブ色砂を多く含む、しまり強（地山か）
17.2.5Y4/2暗灰黄色粘土～5Y3/2オリーブ黒色土　しまり強
18.5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト　13層とほぼ同様だが、砂利（φ0.5㎝）を含む
19.5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト　13層と似るが、灰白土粒をわずかに含む、粘性強
20.5Y2/1黒色粘土　5Y4/1灰色粘土をわずかに含む、地山（黒色粘土）と同様
21.5Y4/3暗オリーブ色～５Y4/4オリーブ色砂　19層と木質物を多く含む

SG6（b-b′）



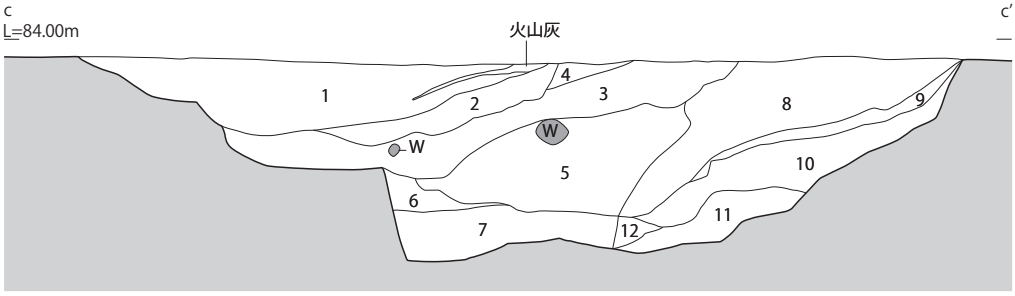
SG6（b-b′）

1.5Y3/1オリーブ黒色シルト　木炭粒を含む
2.10YR5/4にぶい黄褐色砂　5Y3/1オリーブ黒色シルトをラミナ状に含む、木炭粒
3.5Y3/1オリーブ黒色シルト　5Y4/2灰オリーブ砂を多量に含む
4.5Y5/2～5/4オリーブ砂　多量の砂利・5Y3/1オリーブ黒色シルトをラミナ状に含む、木質物を多量に含む
5.5Y4/1灰色シルト～3/1オリーブ黒色砂質シルト　5Y5/3灰オリーブ砂をラミナ状に含む
6.５層と似るが、木質物・5/4オリーブ砂を多量に含む
7.5Y4/1灰色～3/1オリーブ黒色シルト　木炭粒わずかに含む
8.5Y4/1灰色～3/1オリーブ黒色シルト　火山灰をブロック状に多量に含む
9.5Y3/1オリーブ黒色シルト　粘性あり、木質物多く含む
10.5Y3/1オリーブ黒色～2/1黒色シルト　木質物多く含む
11.10YR3/2黒褐色砂利　礫（φ1~4㎝）を多量に含む
12.5Y3/1オリーブ黒色シルト　5GY4/1暗オリーブ灰砂と火山灰をブロック状に多量に含む
13.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　5GY4/1暗オリーブ灰砂・植物・木質物を多量に含む
14.5Y2/1黒色シルト　植物・木質物を含む
15.６層と似るが、オリーブ・灰オリーブ砂が少ない
16.5Y3/2灰オリーブ砂
17.5Y3/1オリーブ黒色粘質土　火山灰を少量含む
18.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　5Y4/1灰色砂をラミナ状に含む
19.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　火山灰と5Y4/1暗オリーブ灰砂と5Y2/1黒色シルトをブロック状に含む。
20.2.5Y6/3にぶい黄色粘土　粘性強
21.5Y2/1黒色粘土　粘性強
22.5Y2/1黒色粘土　地山をブロック状で含む
23.2.5Y6/2灰黄色粘土　地山



第 103 図　河川跡 SG6・50（1）

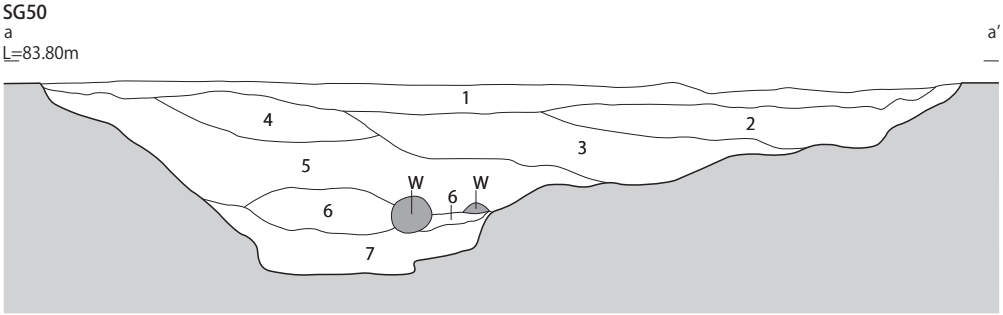
SG6（c-c′）



SG6（c-c′）

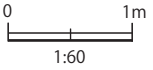
1.5Y2/2オリーブ黒色粘質土	10YR4/4褐色砂・植物質を少量含む、火山灰を薄く含む
2.5Y2/2オリーブ黒色粘質土	5Y4/3暗オリーブ～5Y4/2灰オリーブ砂をラミナ状に多く含む、木質物・炭化粒多く含む
3.5Y2/2オリーブ黒色粘質土	10YR4/4褐色砂（上部）・5Y4/2灰オリーブ～4/3暗オリーブ砂（下部）がラミナ状に流れ込み、炭化物・木質物など多量に含む、砂利をわずかに含む
4.5Y3/2オリーブ黒色～5Y4/1灰色粘質土	砂を含む
5.5Y4/2灰オリーブ～5Y4/3暗オリーブ砂	5Y3/1オリーブ黒色シルトを多く含む、木質物・遺物を多く含む
6.5Y4/2灰オリーブ砂	砂利（φ0.5~1㎝）の混合層
7.5Y4/2灰オリーブ砂	6層と同様の砂利の混合層だが、6層より粒が大きい、木質物・遺物を多く含む
8.5Y3/2オリーブ黒色シルト	5Y5/4オリーブ砂・10GY4/1暗緑灰砂質シルトをラミナ状に多量に含む
9.5Y3/2オリーブ黒色シルト	灰色土（火山灰？）を層・ブロック状に含む
10.5Y3/2オリーブ黒色シルト	5Y5/4オリーブ砂・10GY4/1暗緑灰色砂質シルトを含む、木質物・炭化物を多く含む
11.5Y4/1オリーブ黒色砂質シルト	礫（φ1~5㎝）の混合層
12.10YR4/1暗緑灰砂	木質物・炭化物を多量に含む

SG50

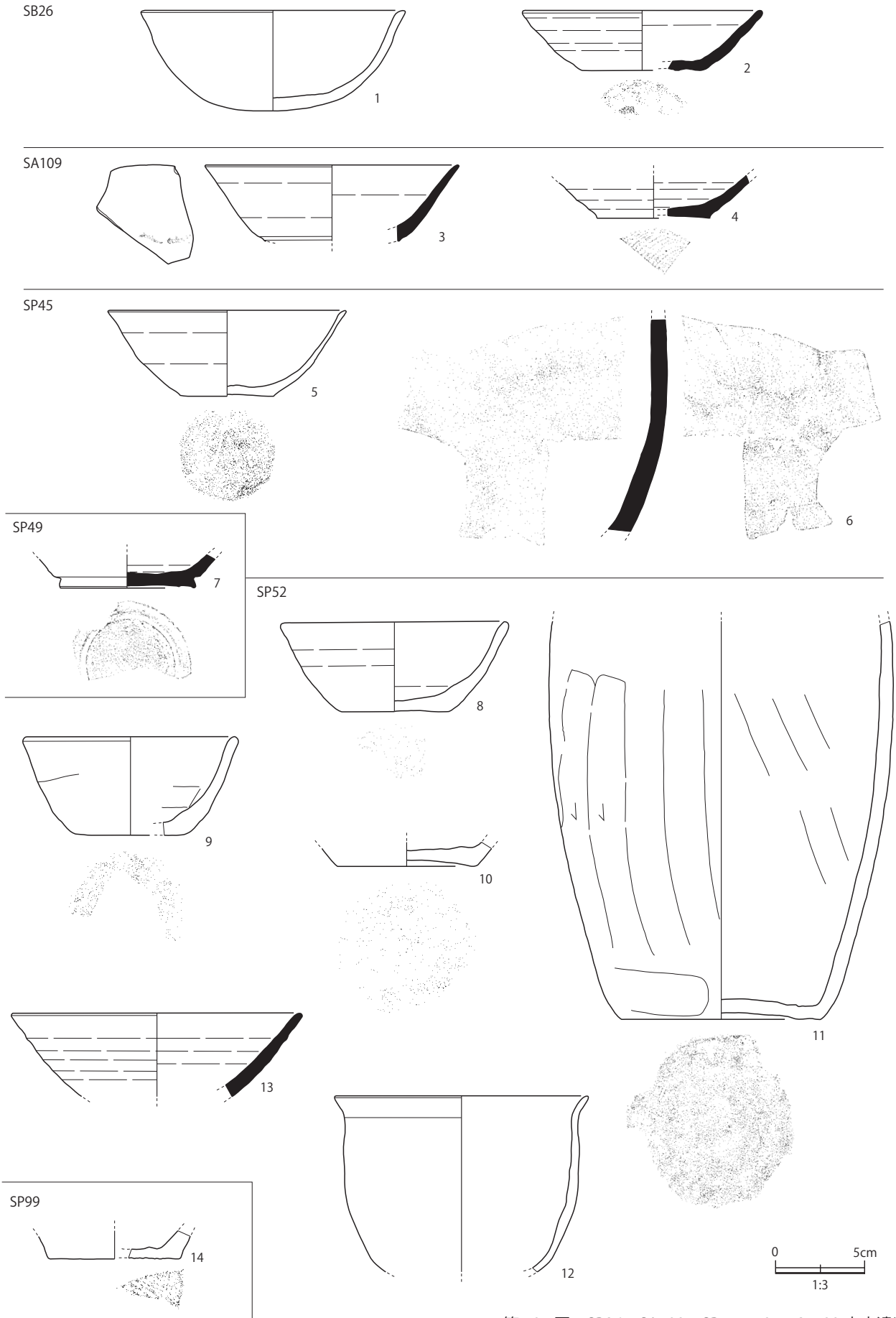


SG50

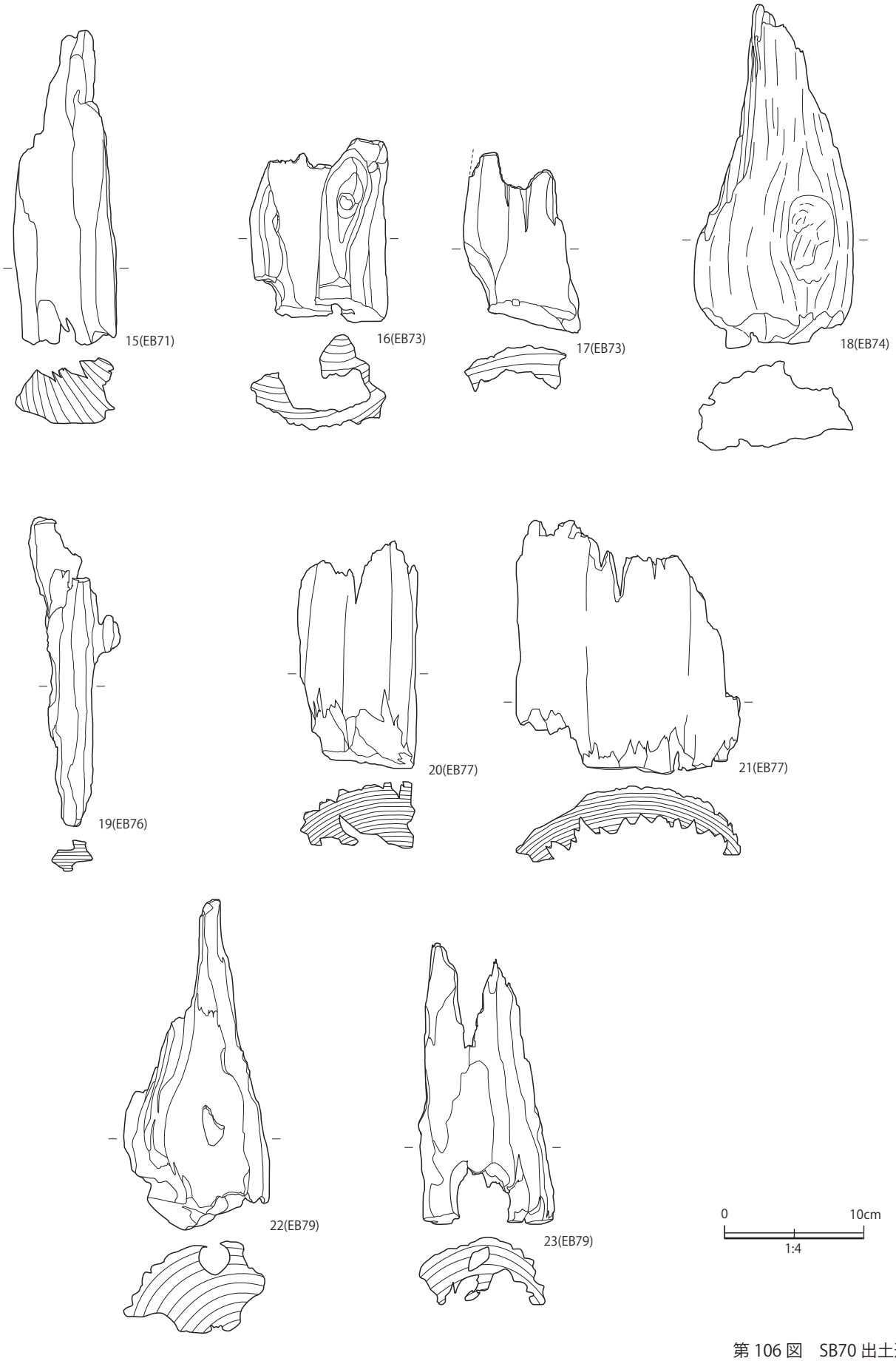
1.10YR3/3暗褐色粘質シルト	砂・炭微量に含む、粘性中・しまり強
2.10YR3/1黒褐色粘土	砂を微量に含む、粘性中・しまり強
3.10YR2/1黒色粘土	砂・植物遺体を少量含む、粘性中・しまり中
4.7.5YR3/1黒褐色粘土（粘性中・しまり中）と10YR4/3にぶい黄褐色砂のラミナ状の混合層	
5.10YR2/1黒色粘土（粘性中・しまり中）と10YR4/2灰黄褐色砂（しまり中）のラミナ状の混合層	砂・植物遺体を少量含む
6.10YR3/1黒褐色粘土	砂・植物遺体・炭を少量含む、粘性中・しまり中
7.10YR2/2黒褐色粘土	砂を多量に含む、植物遺体少量含む、粘性中・しまり中



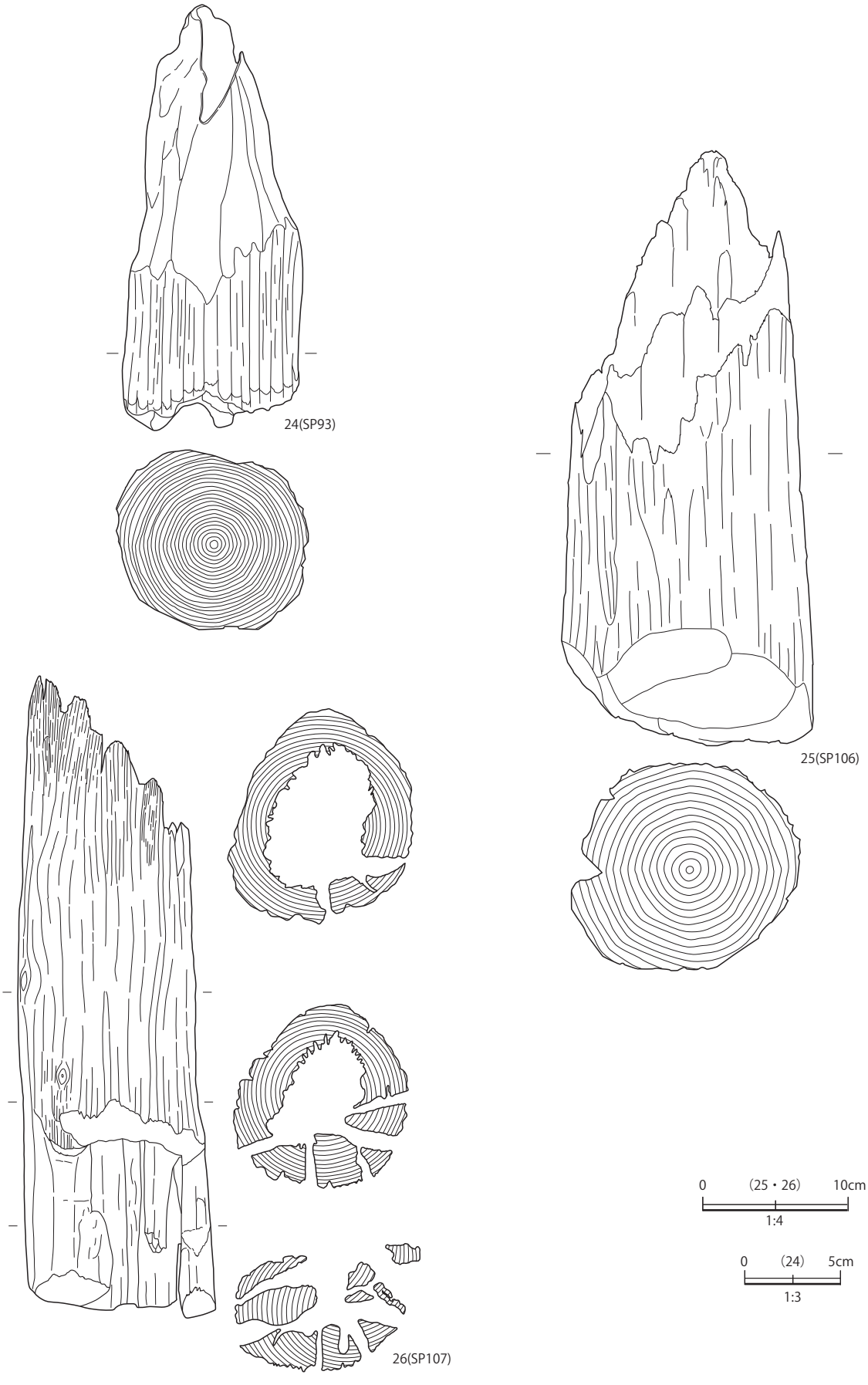
第 104 図　河川跡 SG6・50（2）



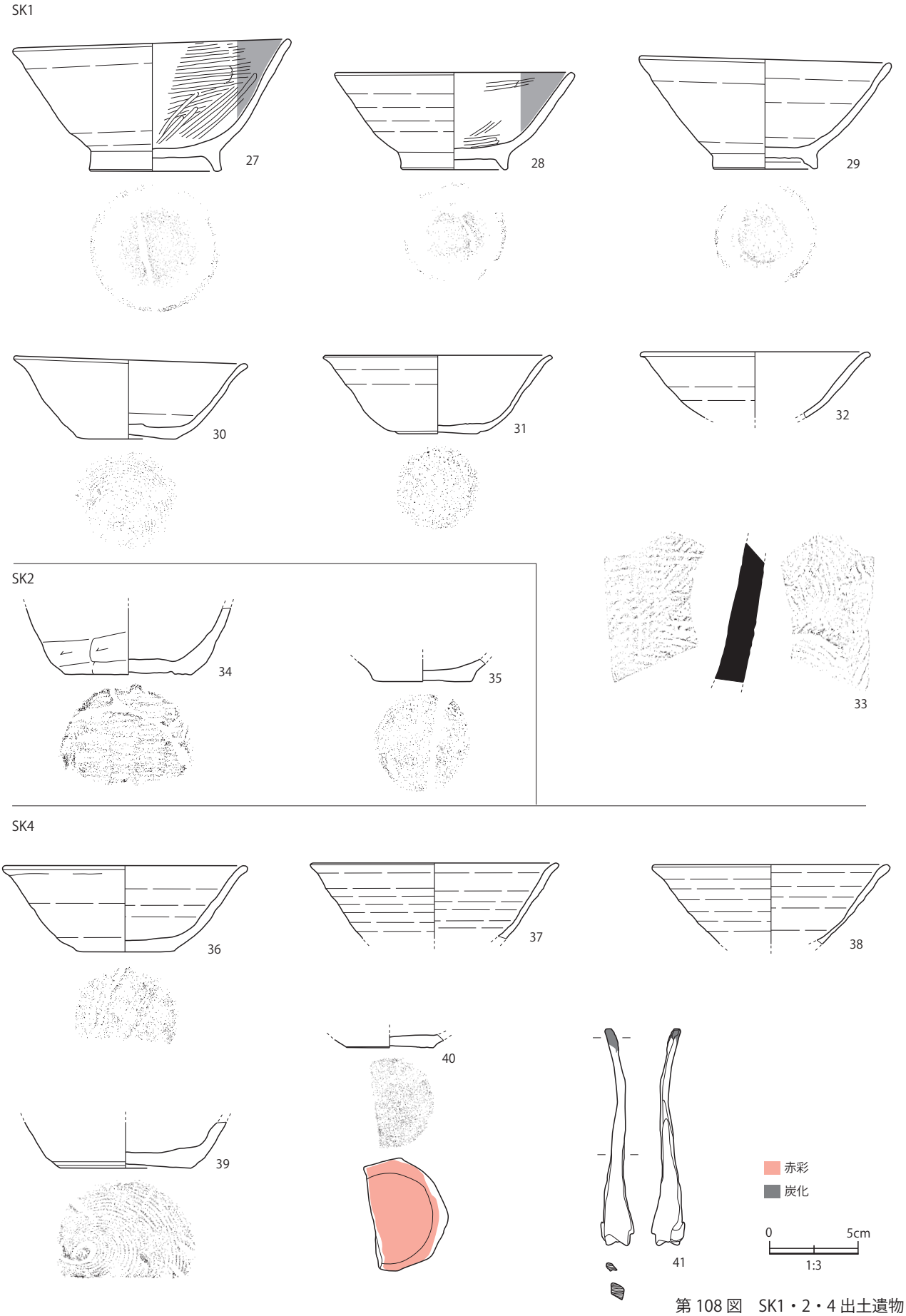
第 105 図　SB26・SA109・SP45・49・52・99 出土遺物



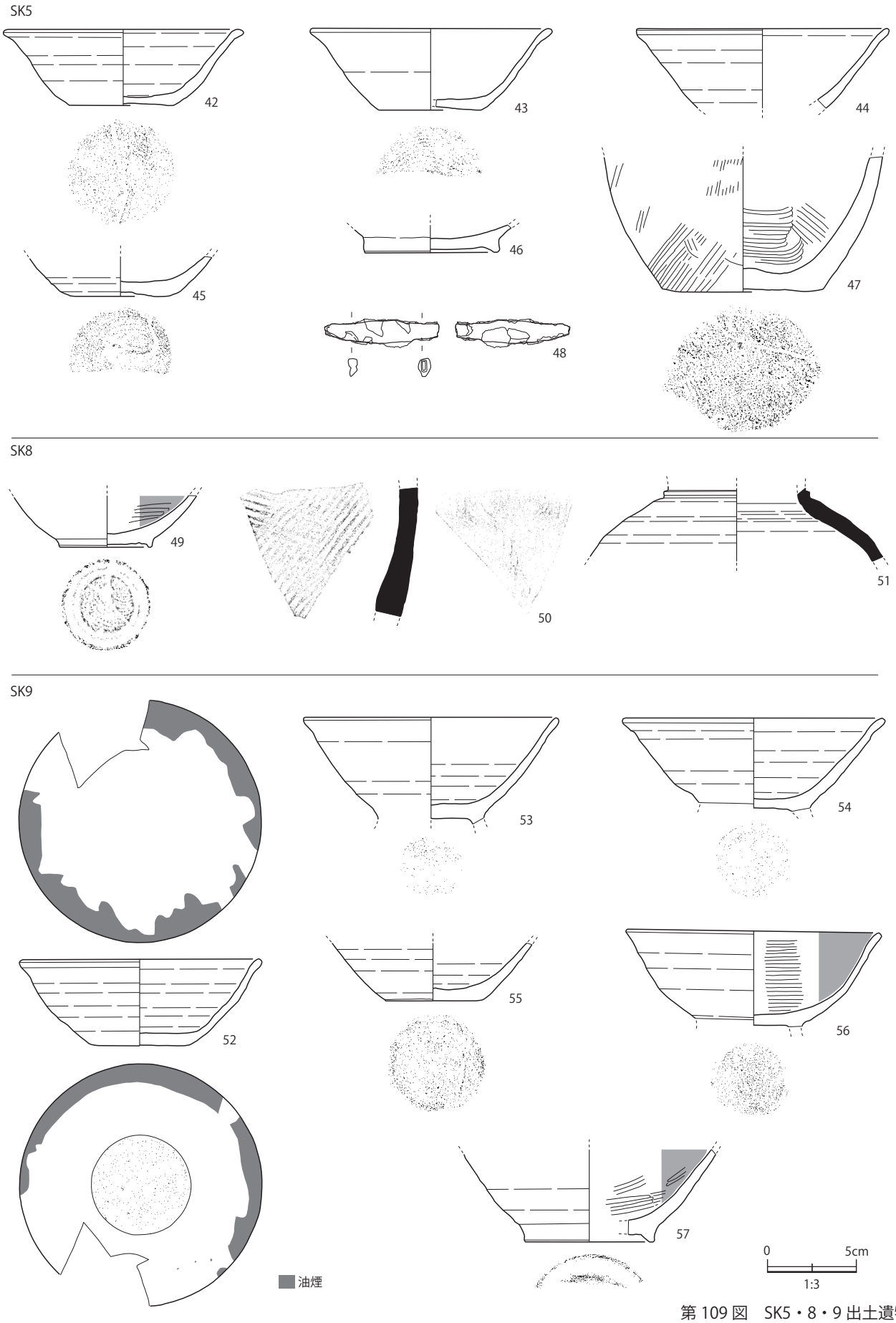
第 106 図　SB70 出土遺物



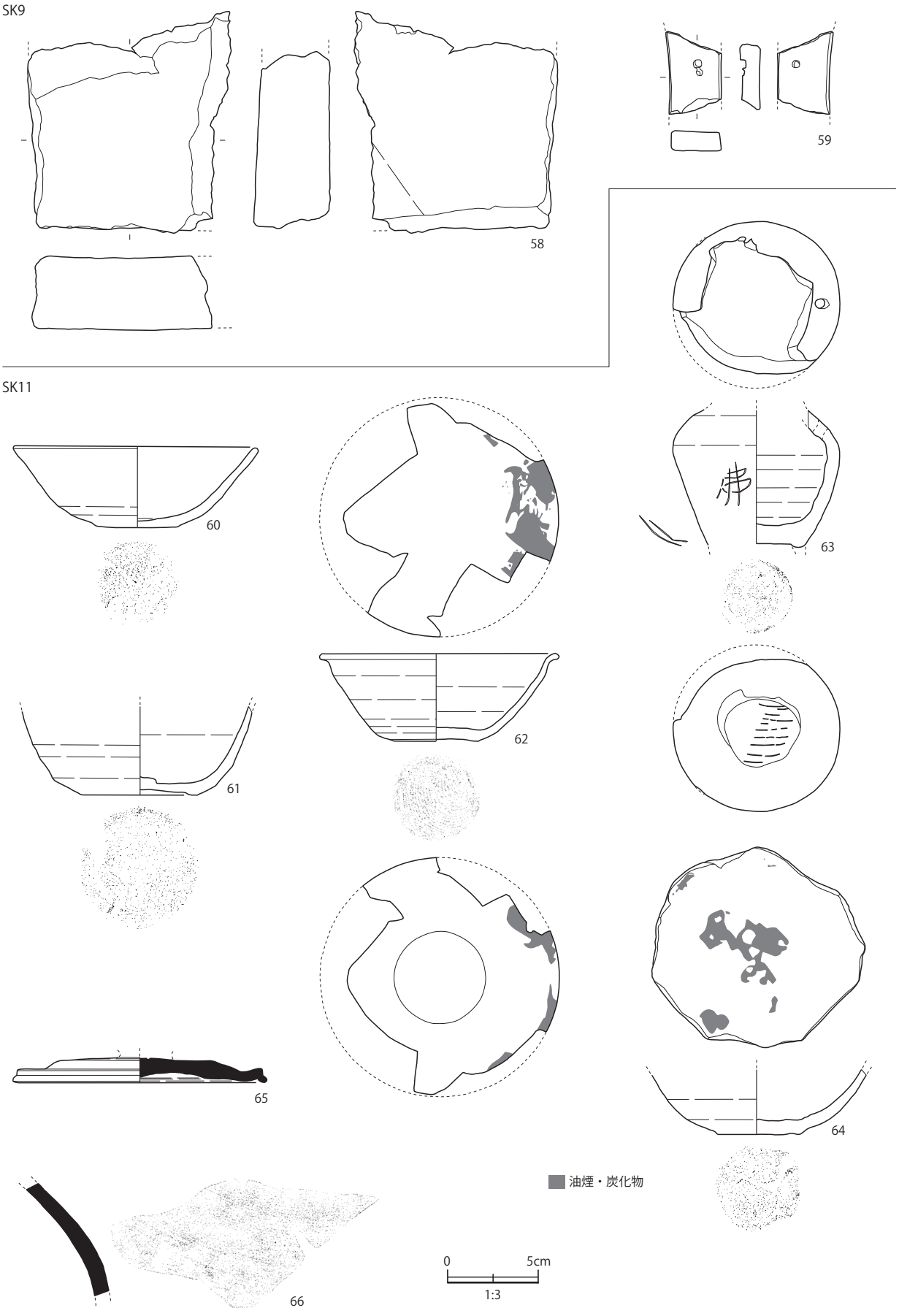
第 107 図　SP93・106・107 出土遺物



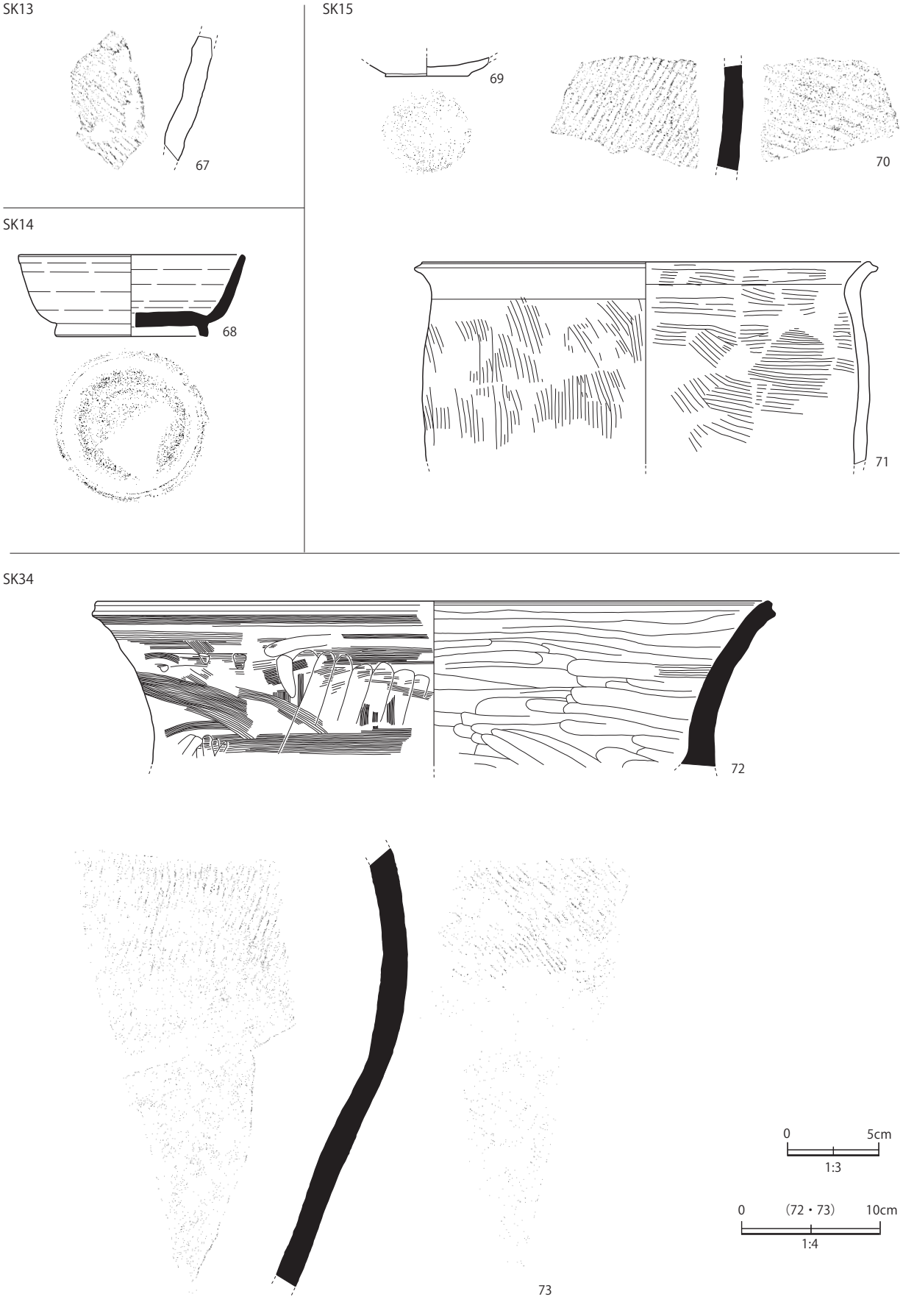
第 108 図　SK1・2・4 出土遺物



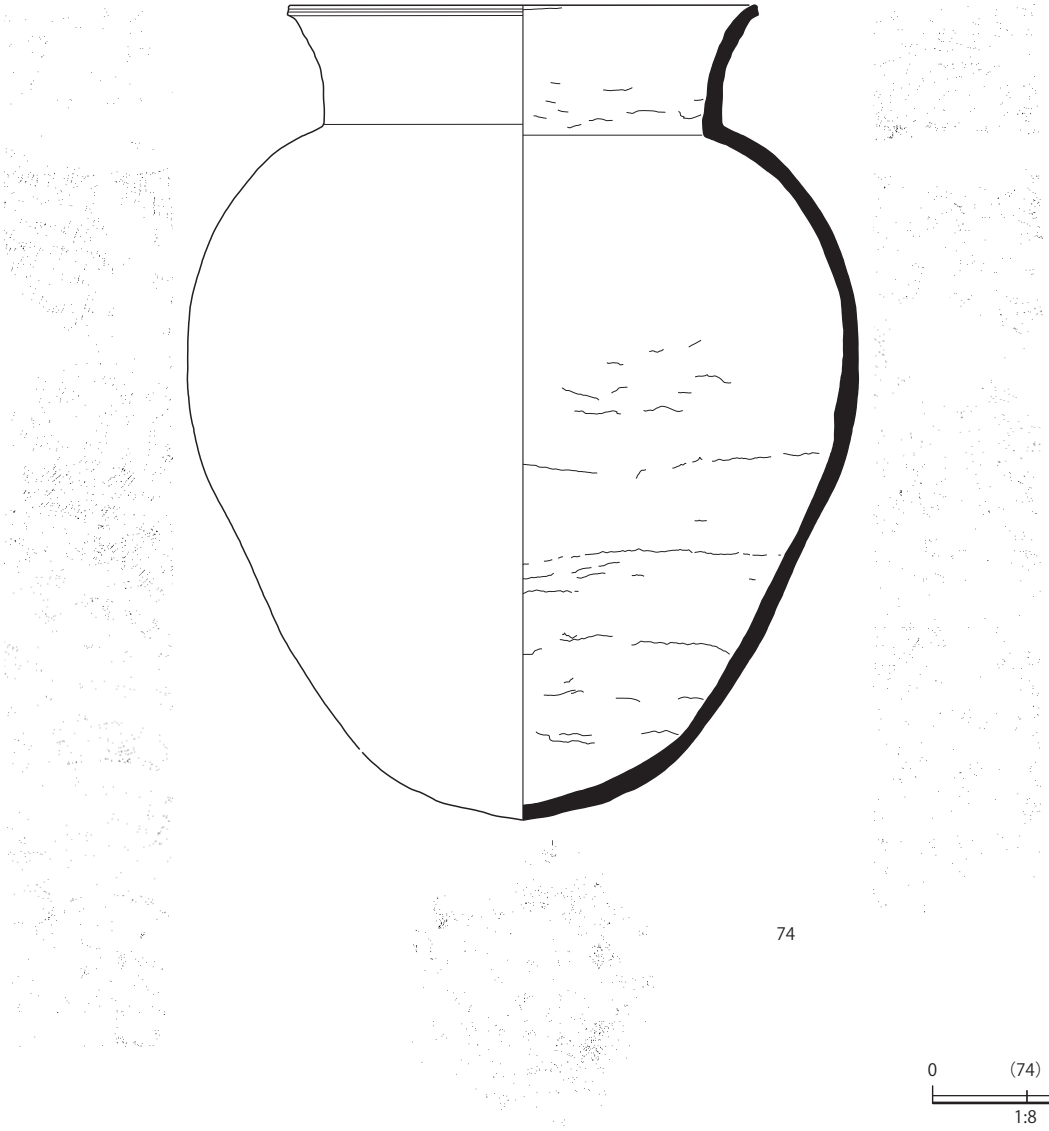
第 109 図　SK5・8・9 出土遺物



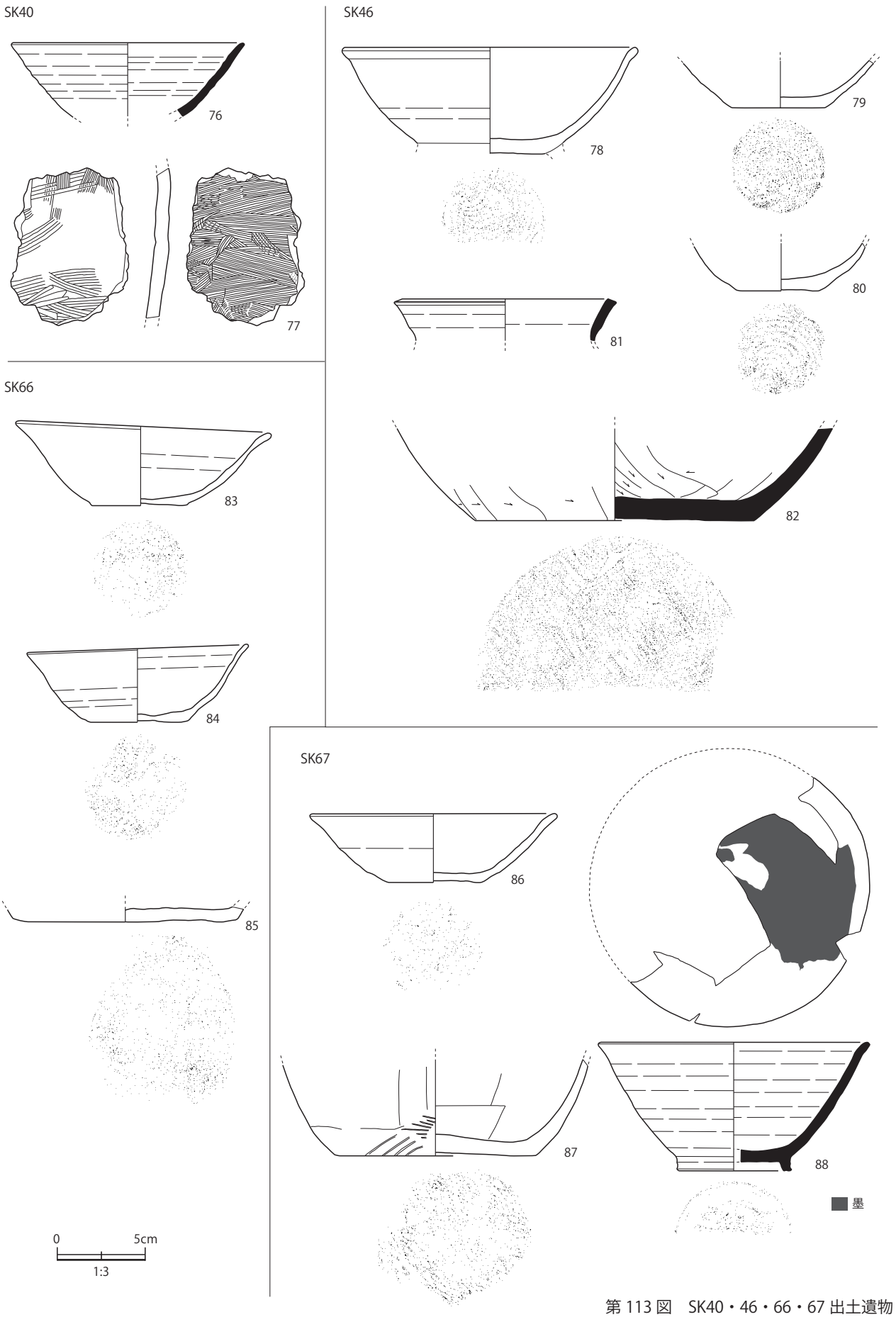
第 110 図　SK9・11 出土遺物



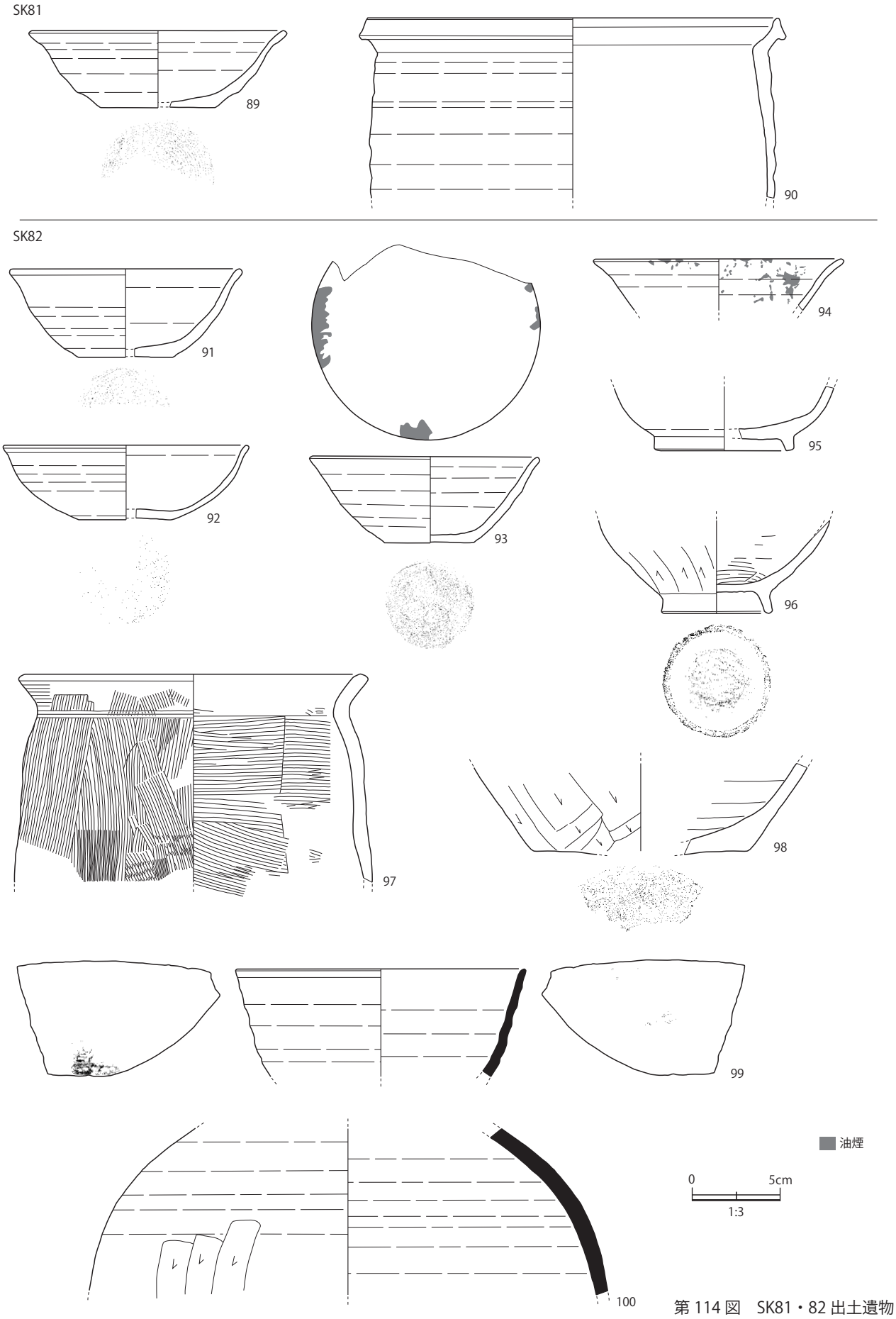
第 111 図　SK13・14・15・34 出土遺物



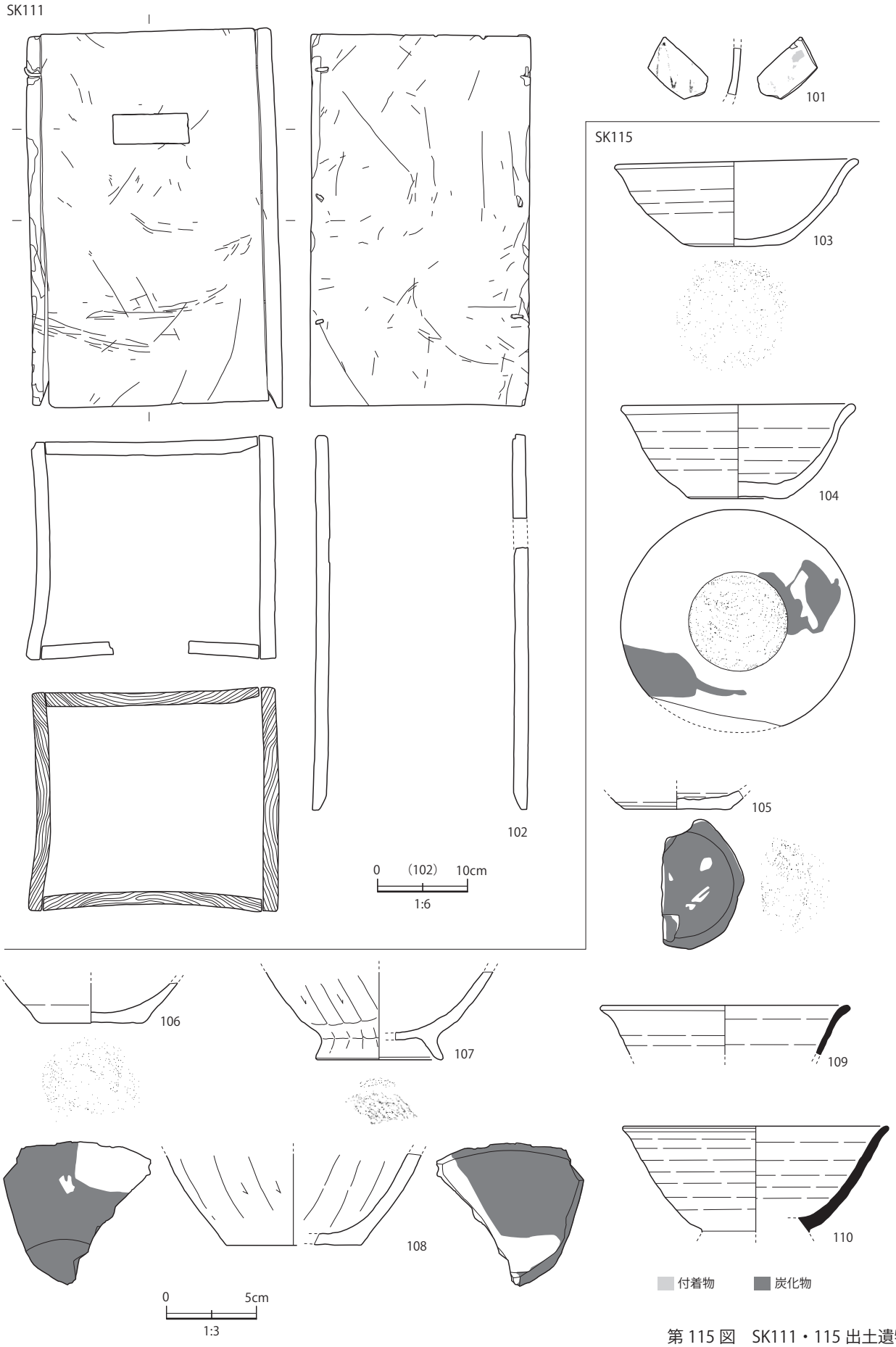
第 112 図　SK34 出土遺物



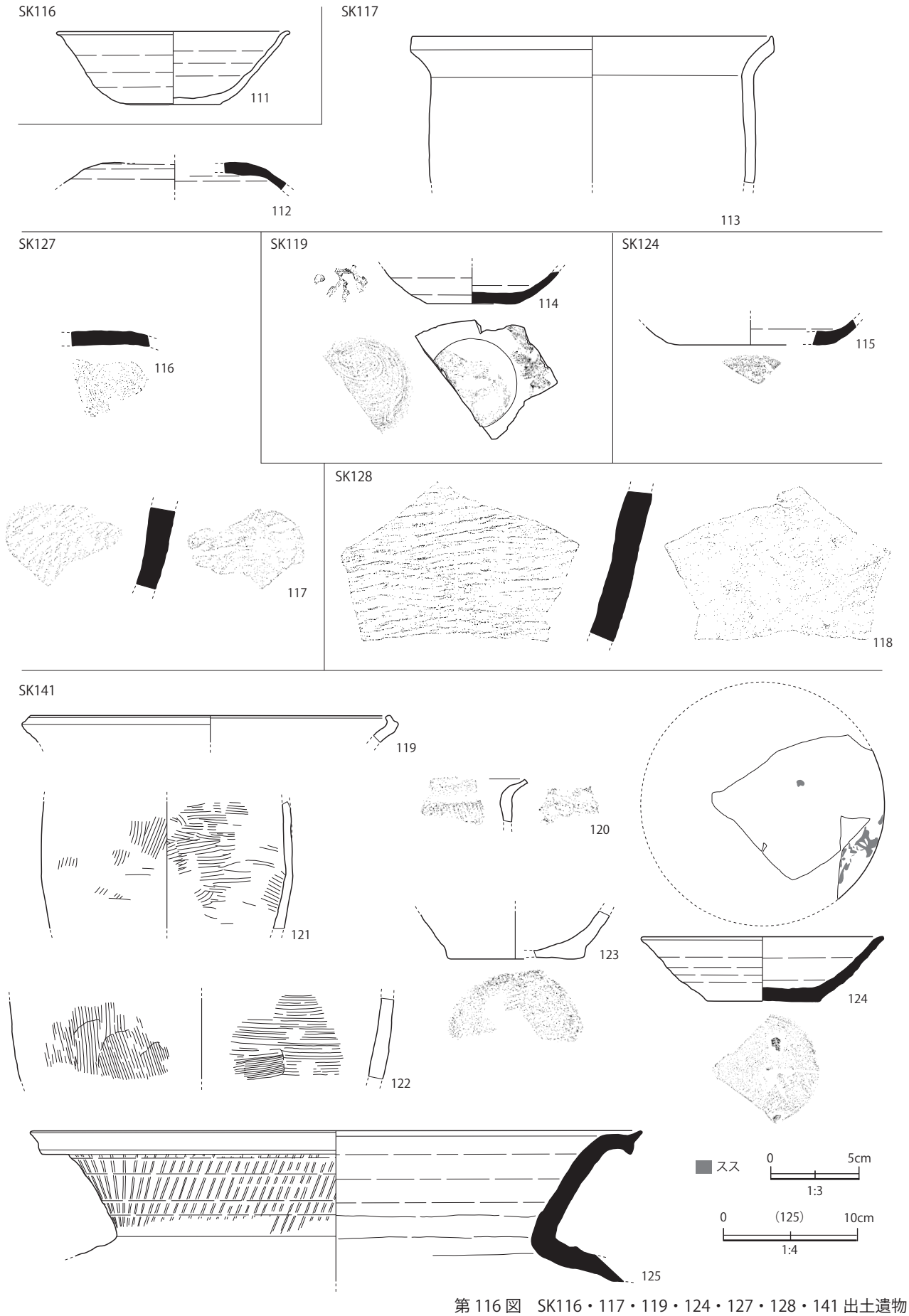
第 113 図　SK40・46・66・67 出土遺物



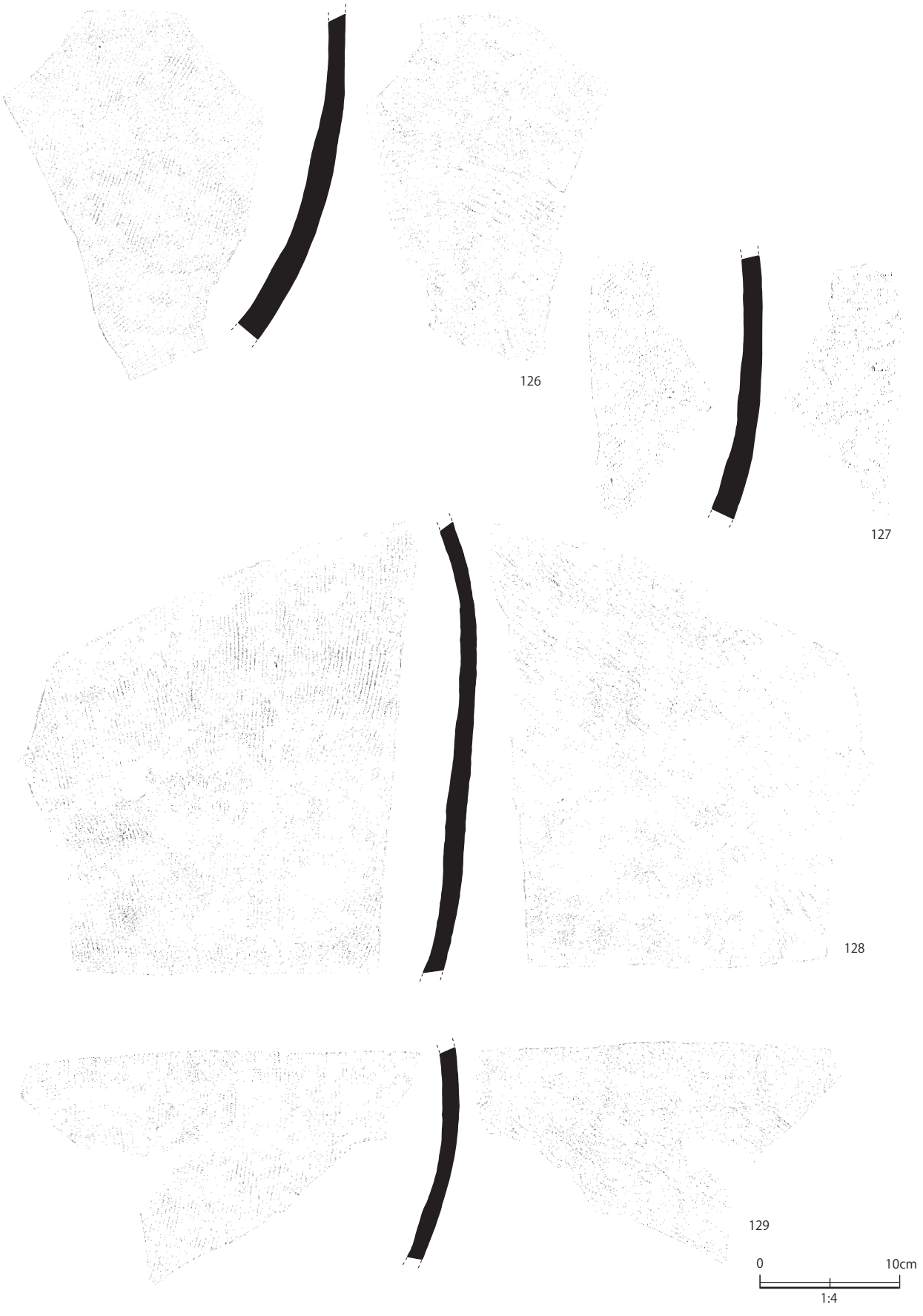
第 114 図　SK81・82 出土遺物



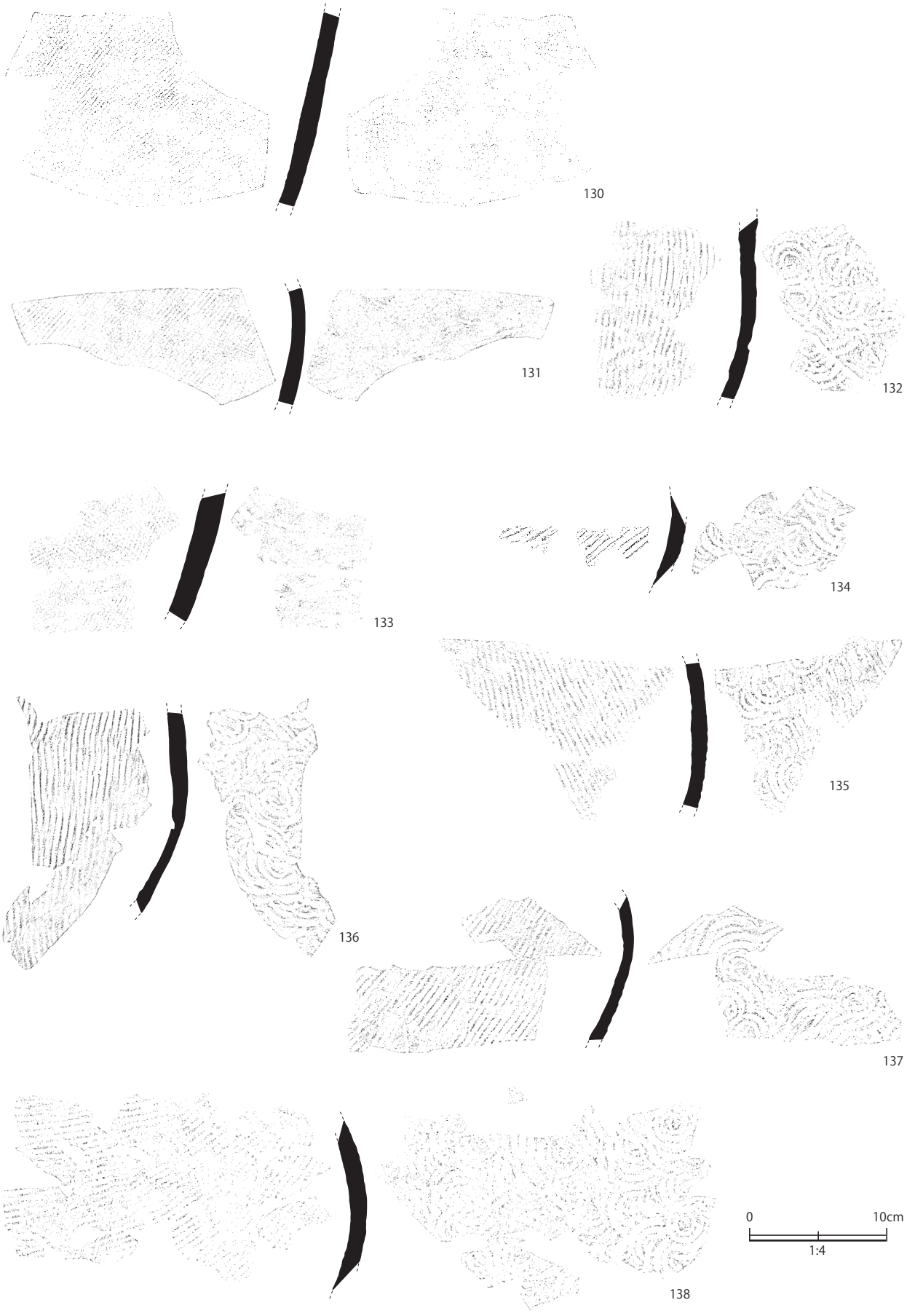
第 115 図　SK111・115 出土遺物



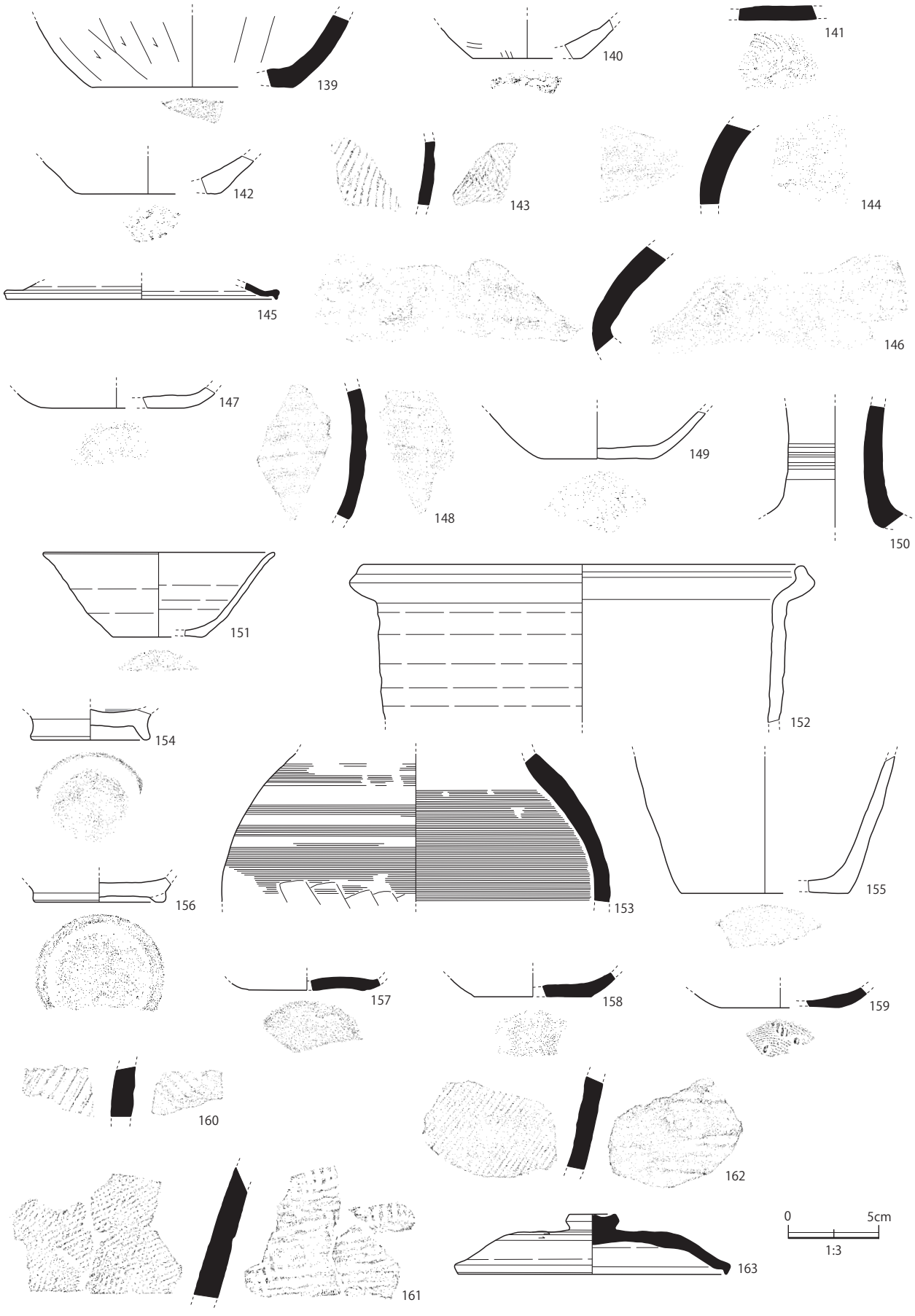
第 116 図　SK116・117・119・124・127・128・141 出土遺物



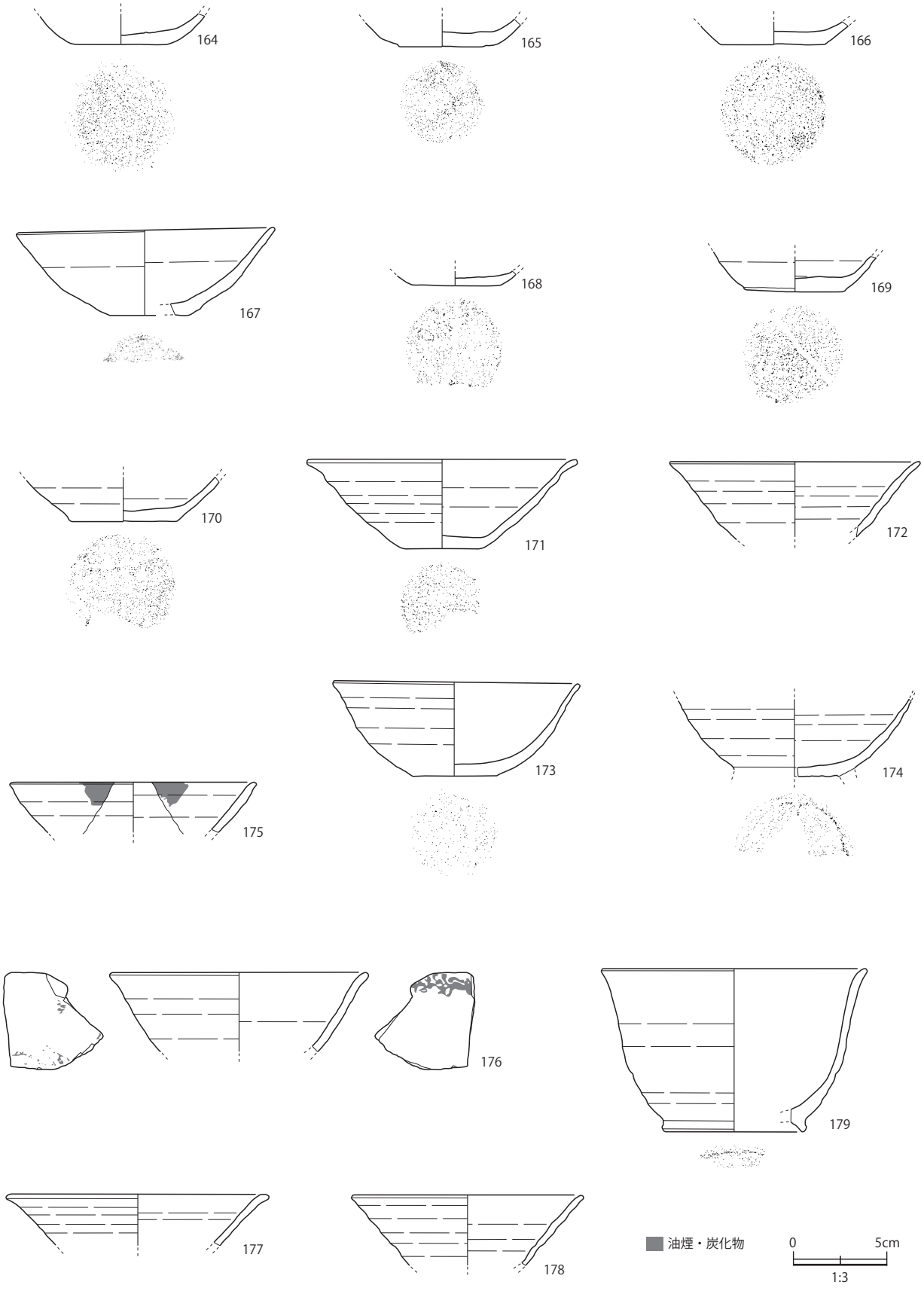
第 117 図　SK141 出土遺物（1）



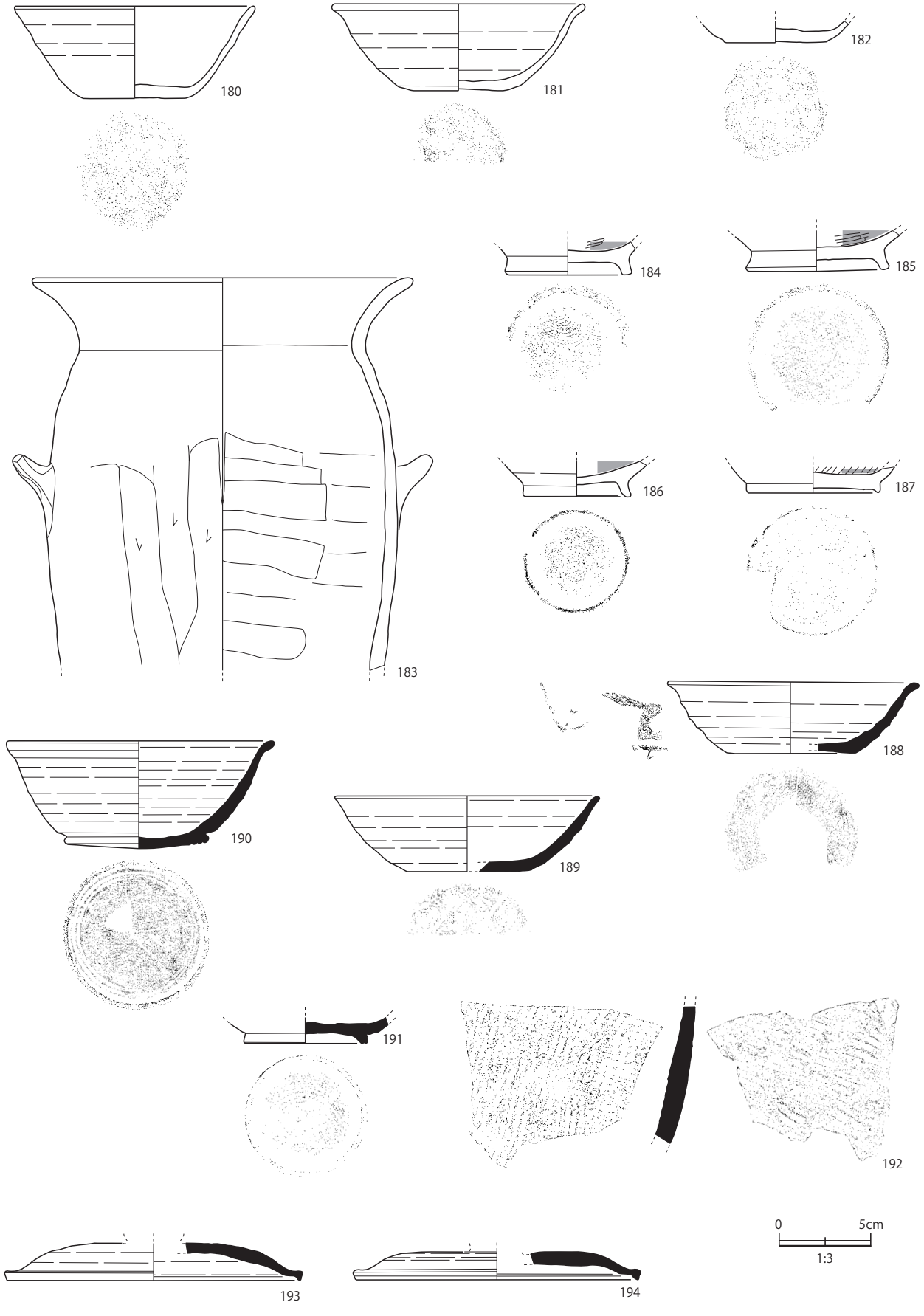
第 118 図　SK141 出土遺物（2）



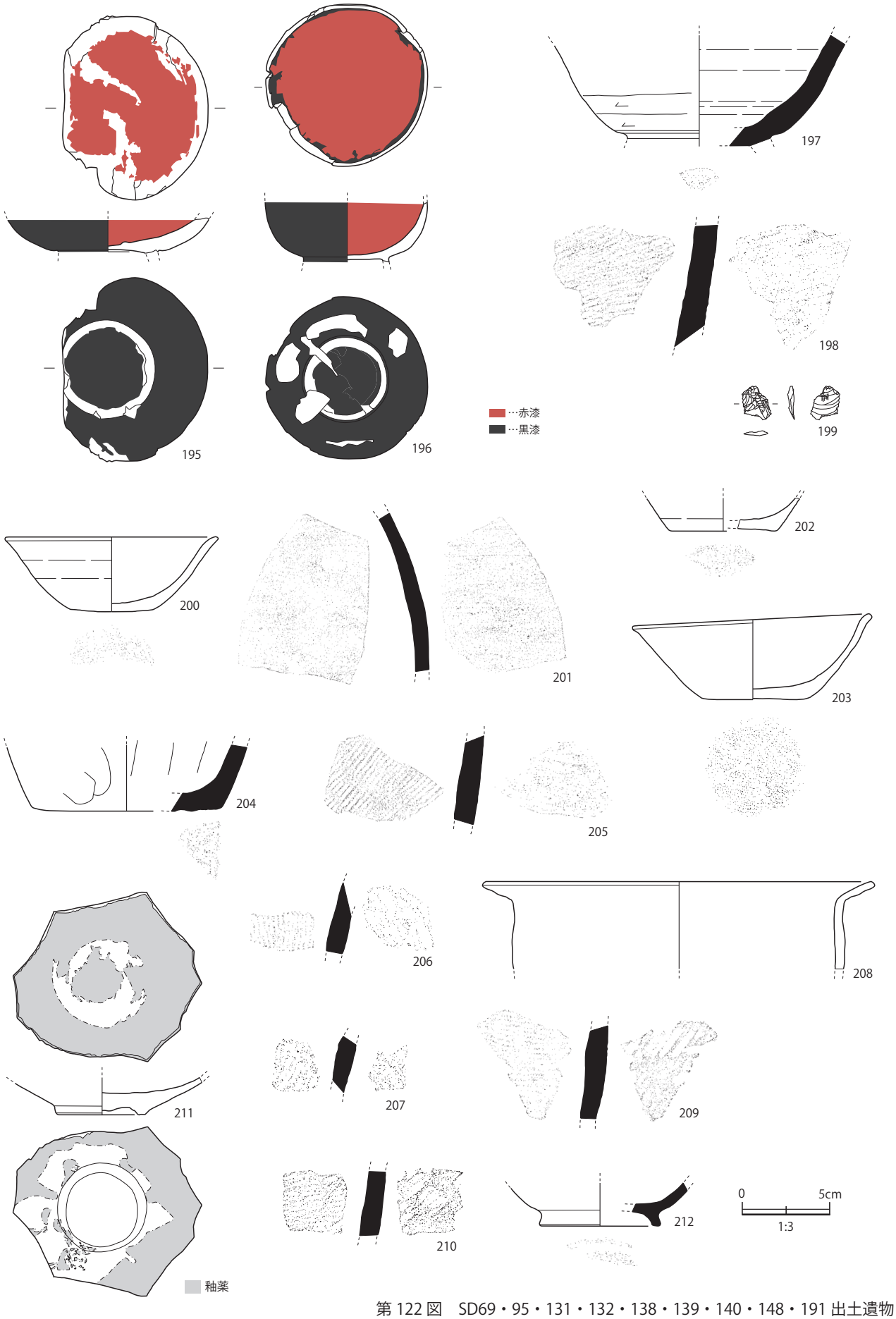
第 119 図　SK185・186・187・188・189・190・193・195・201、SX43・104・105・120・121・134・149・184 出土遺物



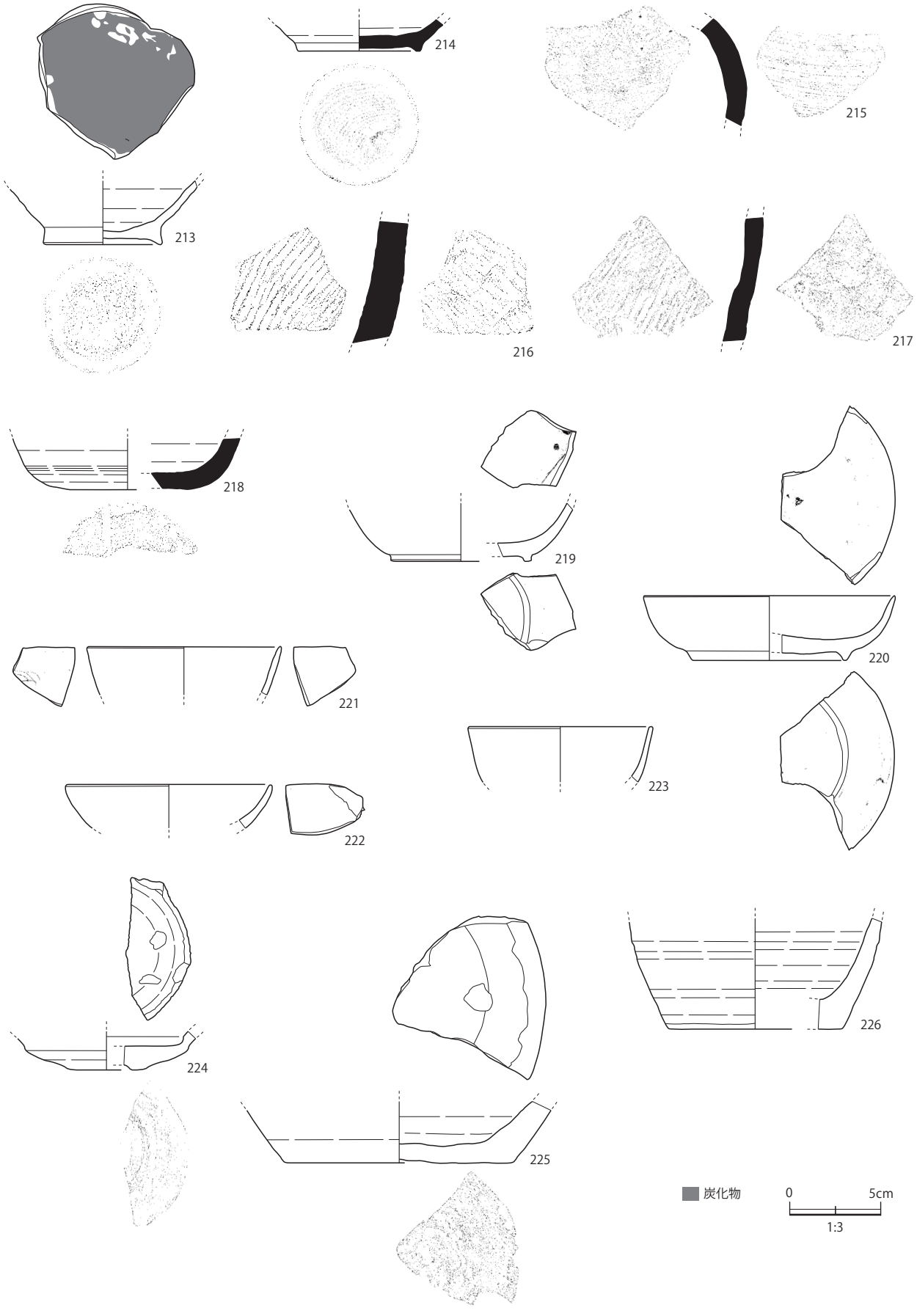
第 120 図　遺構付近出土遺物



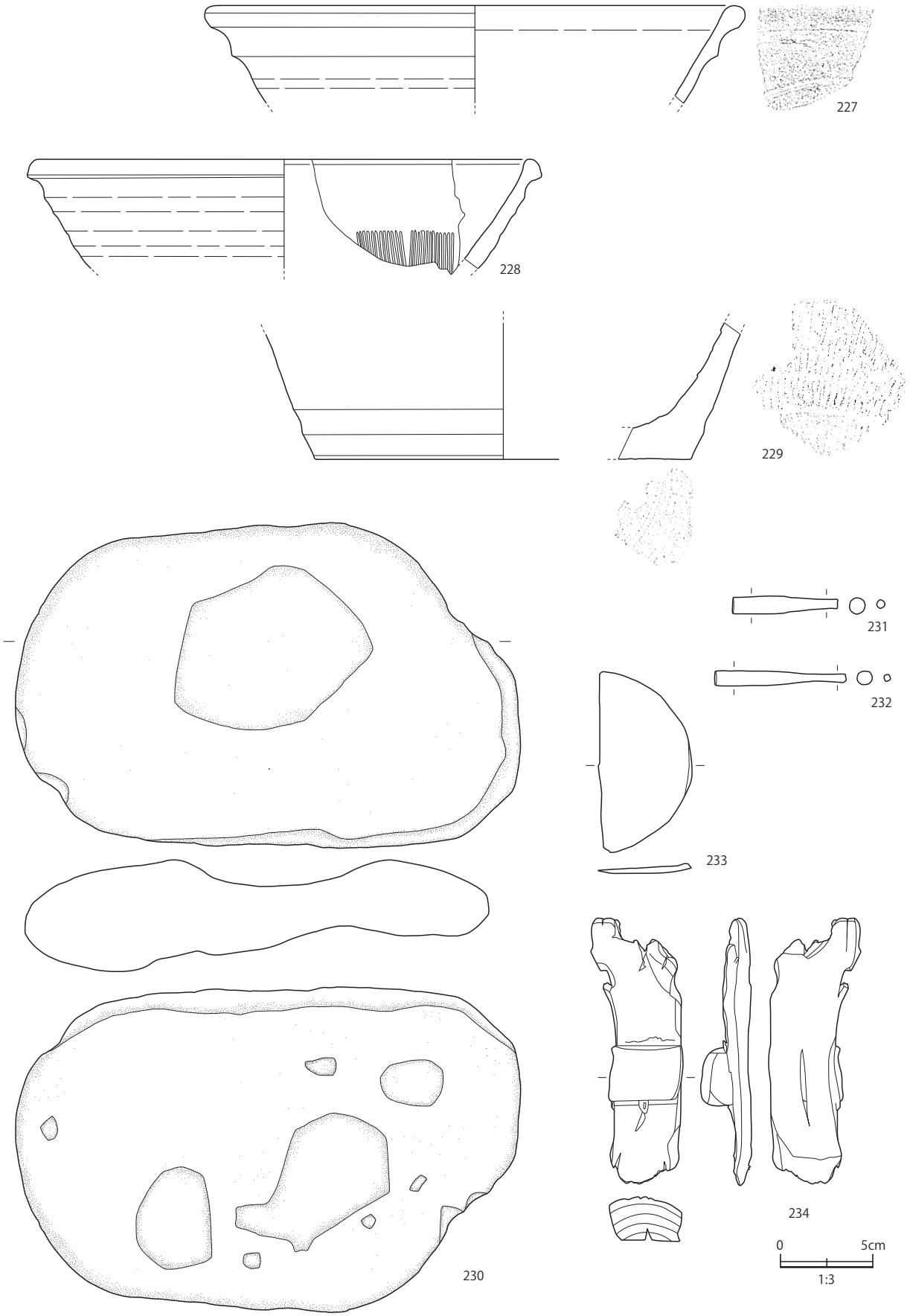
第 121 図　SD3 出土遺物



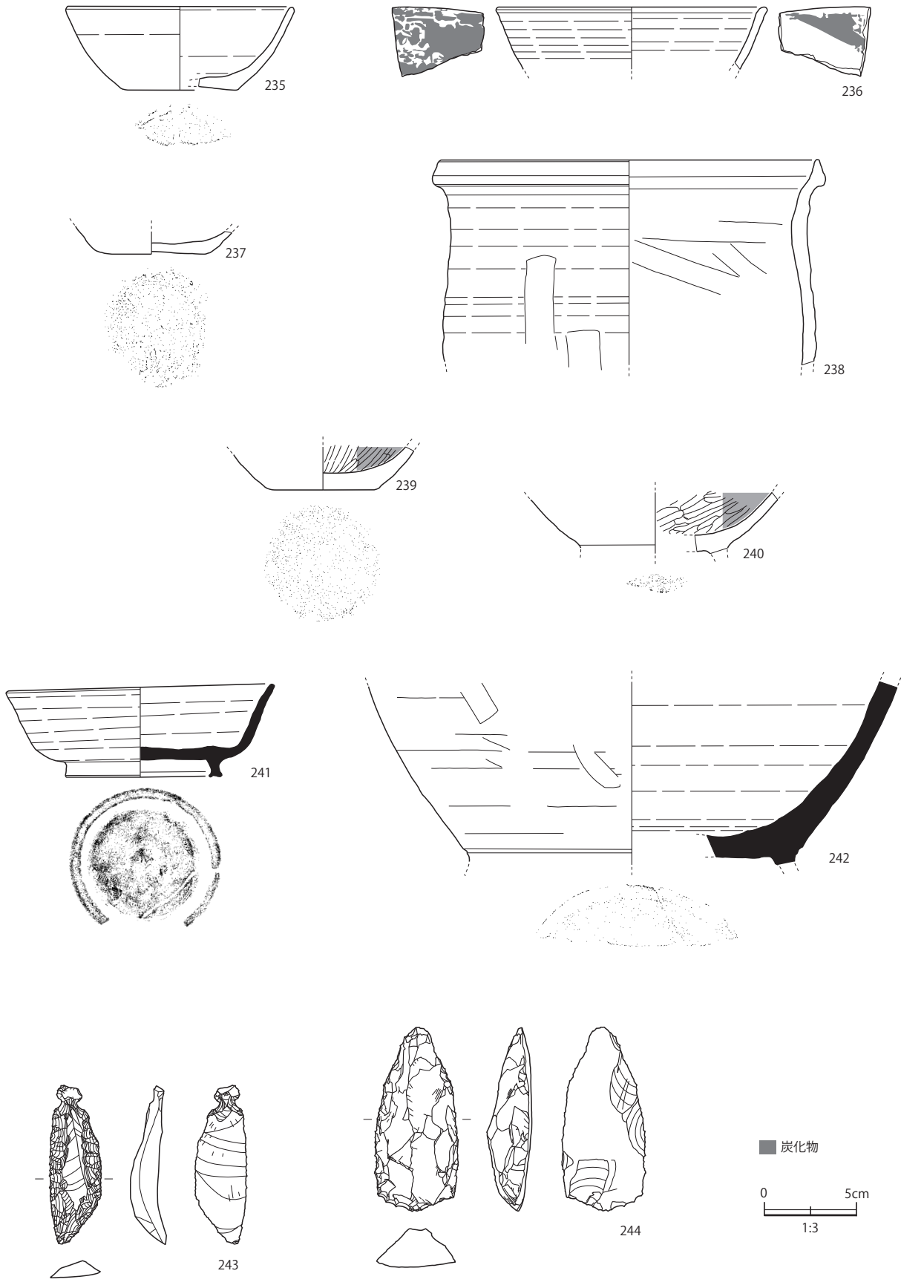
第 122 図　SD69・95・131・132・138・139・140・148・191 出土遺物



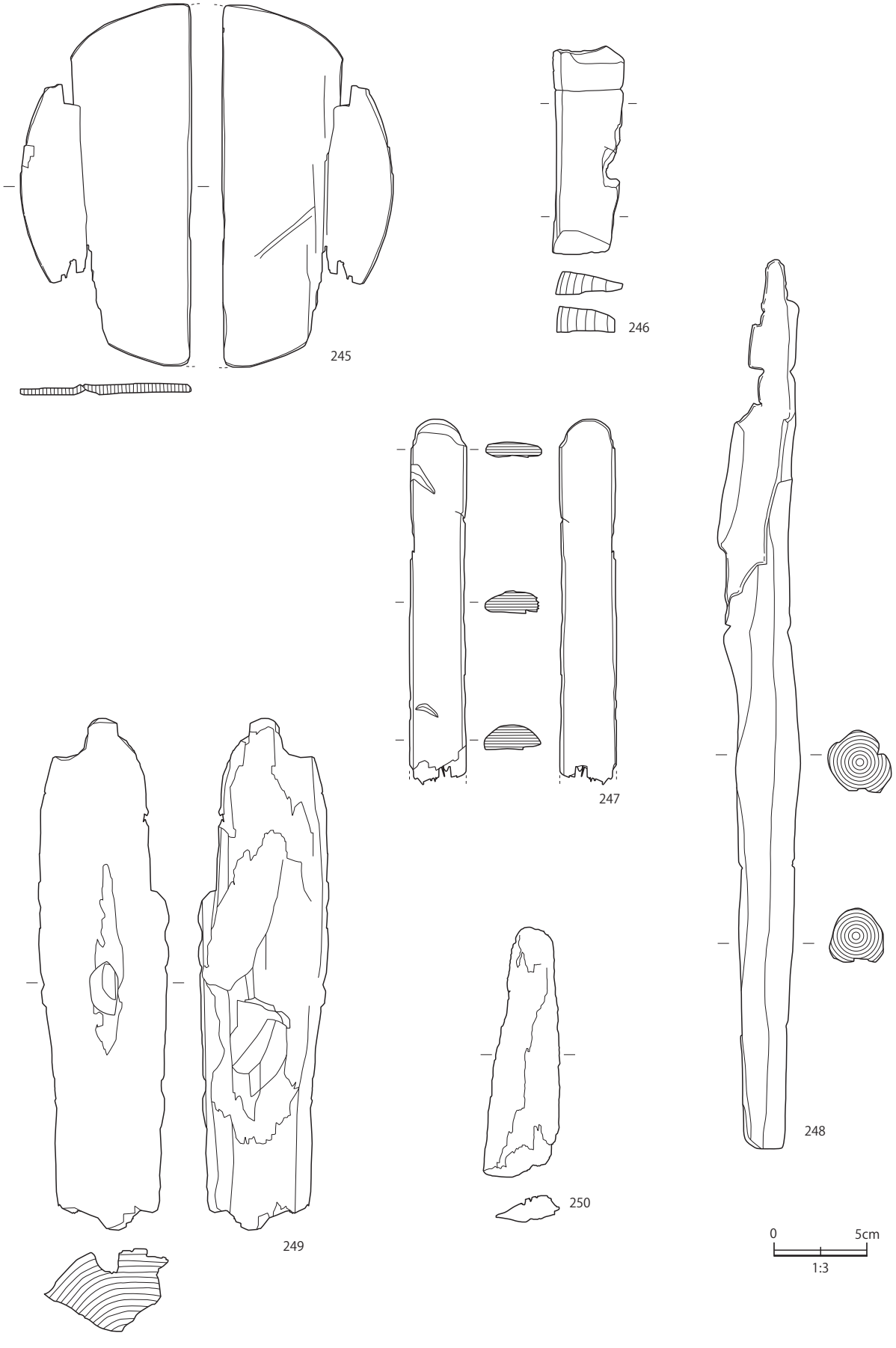
第 123 図　SD130 出土遺物（1）



第 124 図　SD130 出土遺物（2）

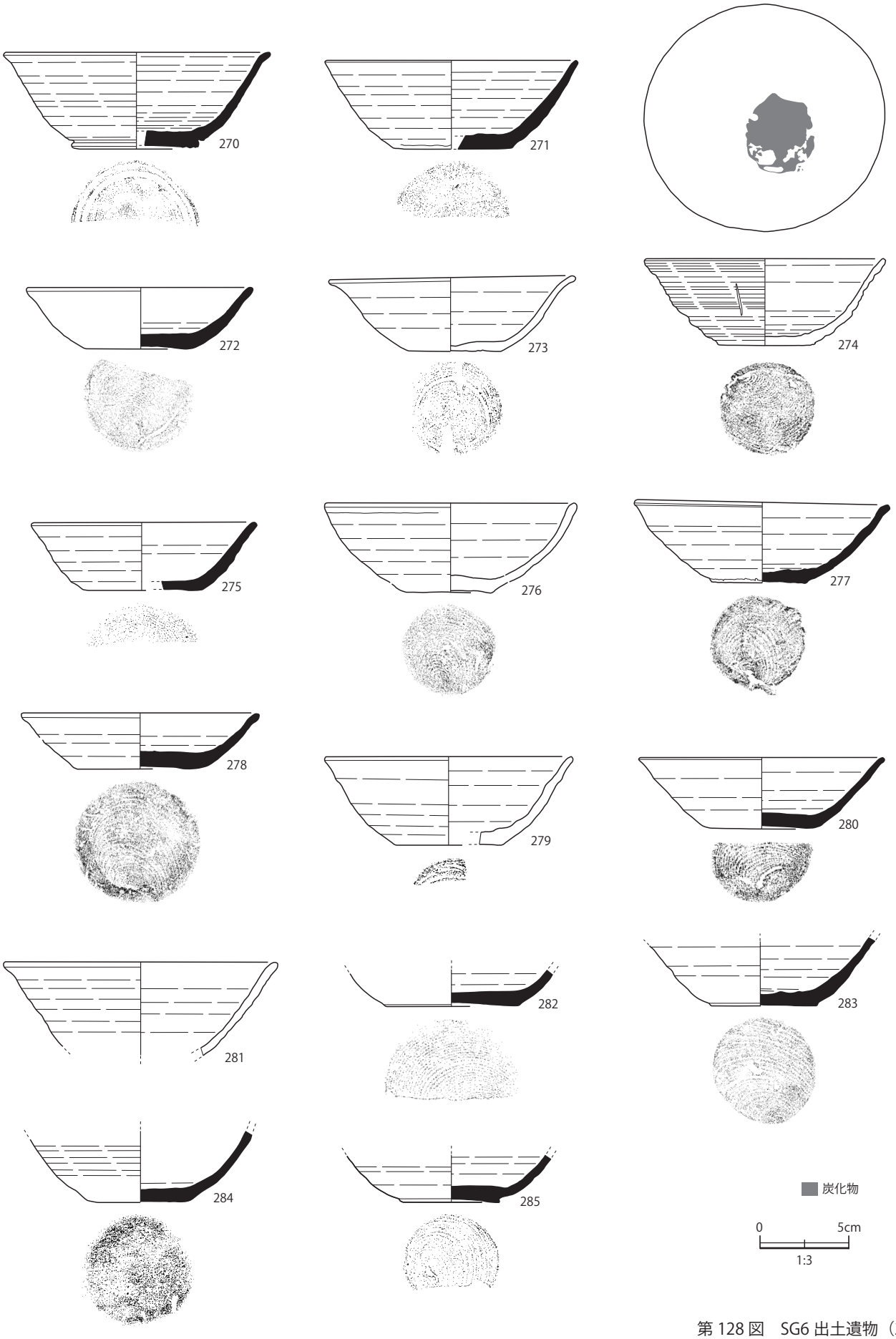


第 125 図　SG50 出土遺物（1）

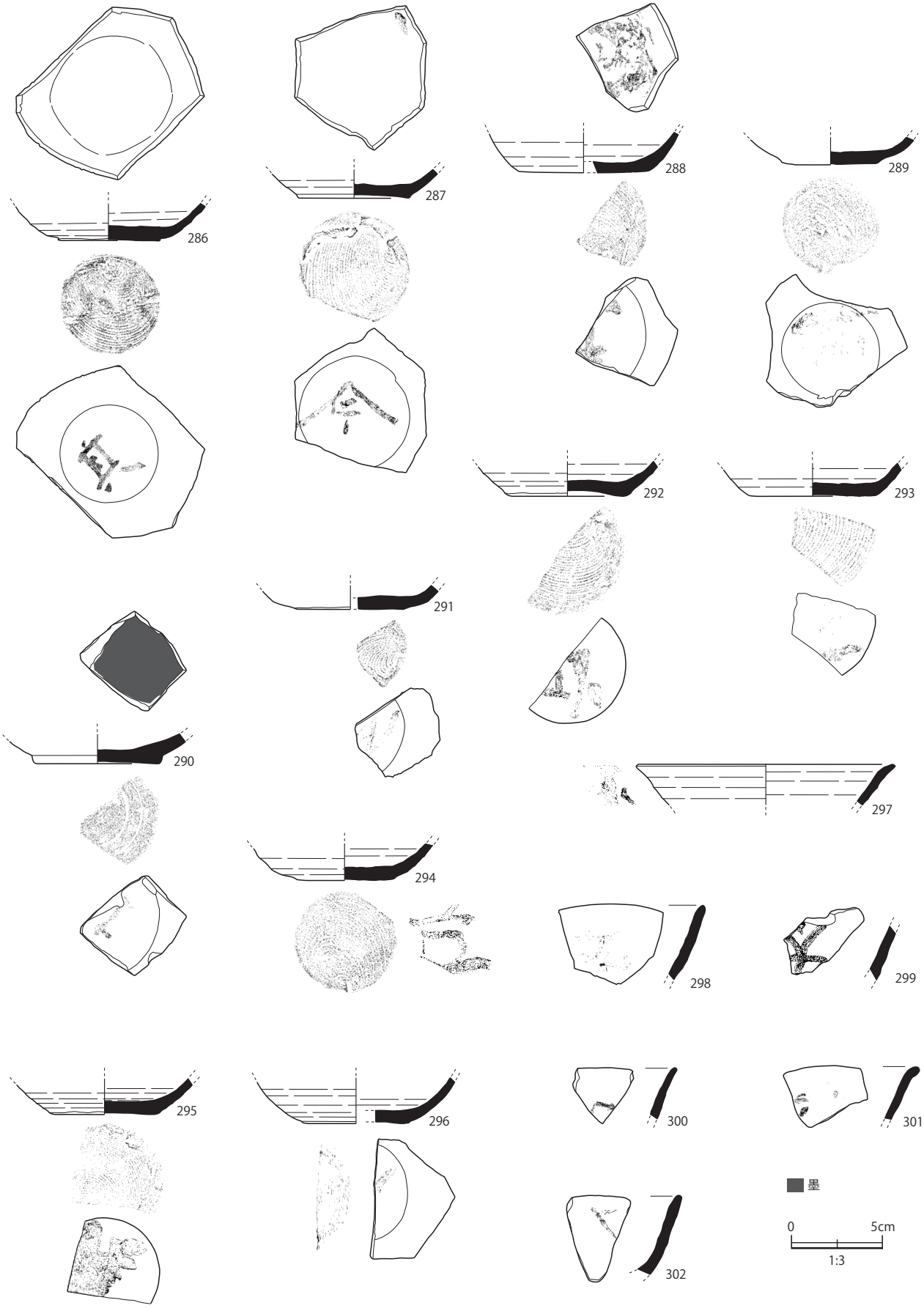


第 126 図　SG50 出土遺物（2）

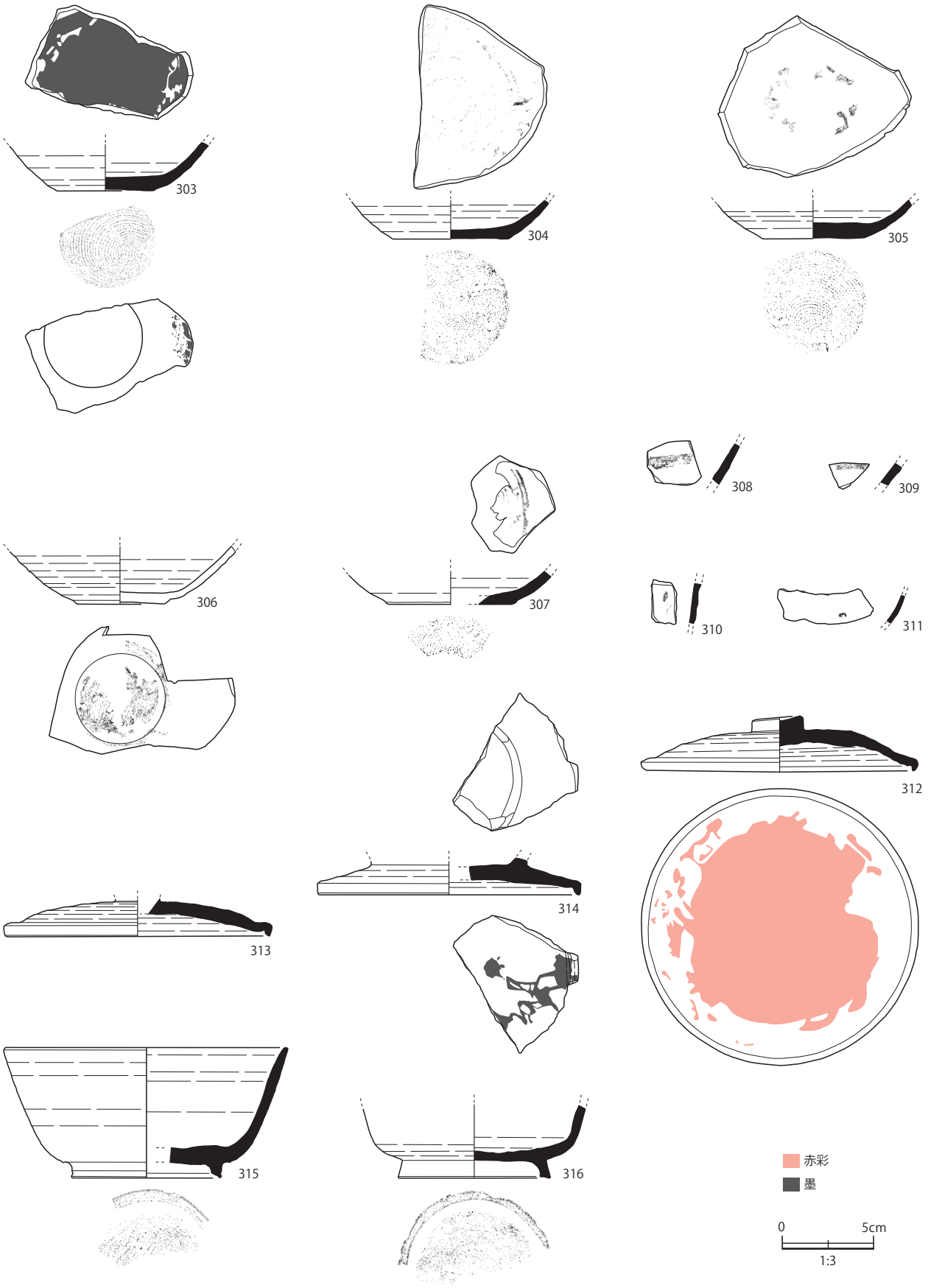
第 127 図　SG6 出土遺物（1）



第 128 図　SG6 出土遺物（2）

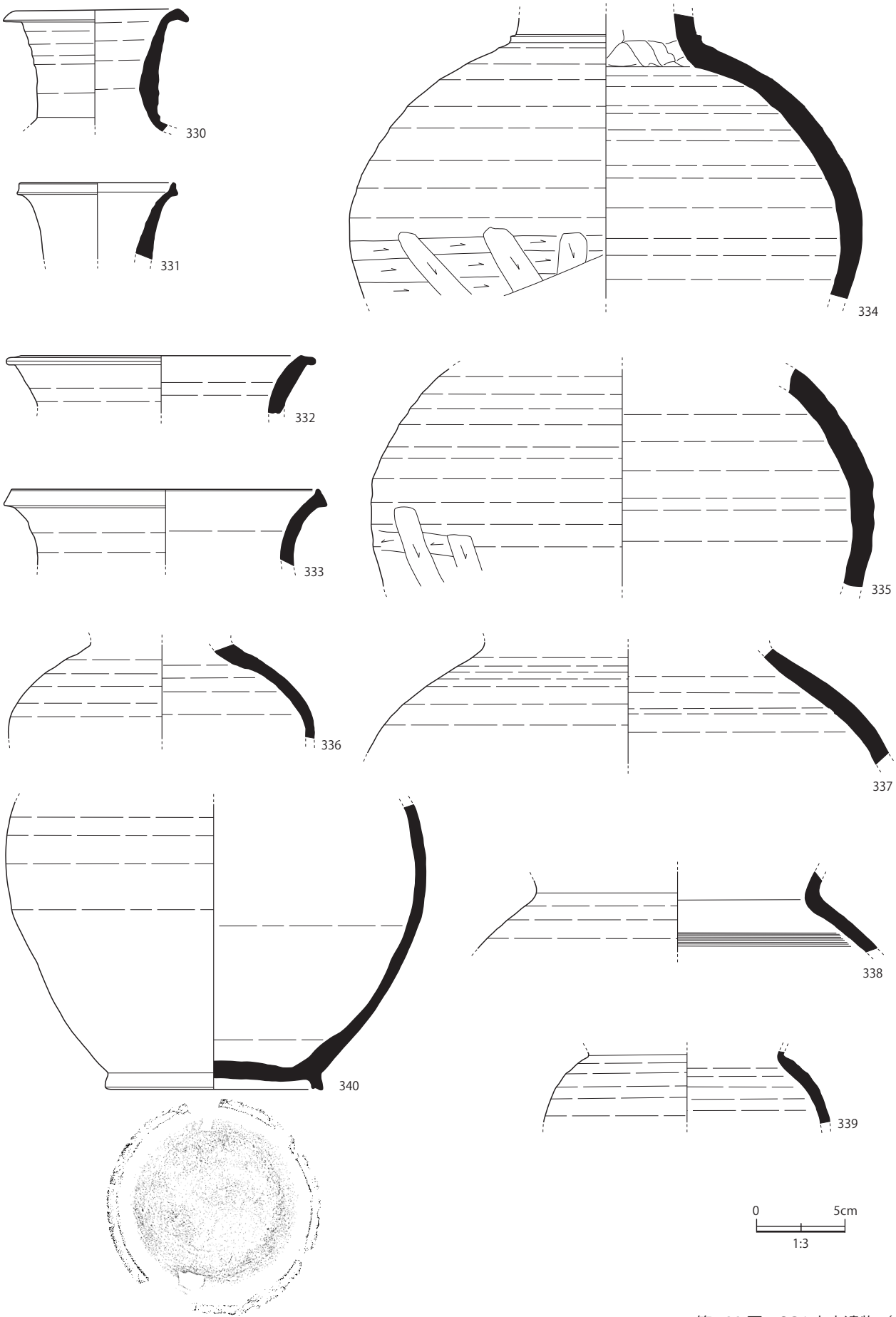


第 129 図　SG6 出土遺物（3）

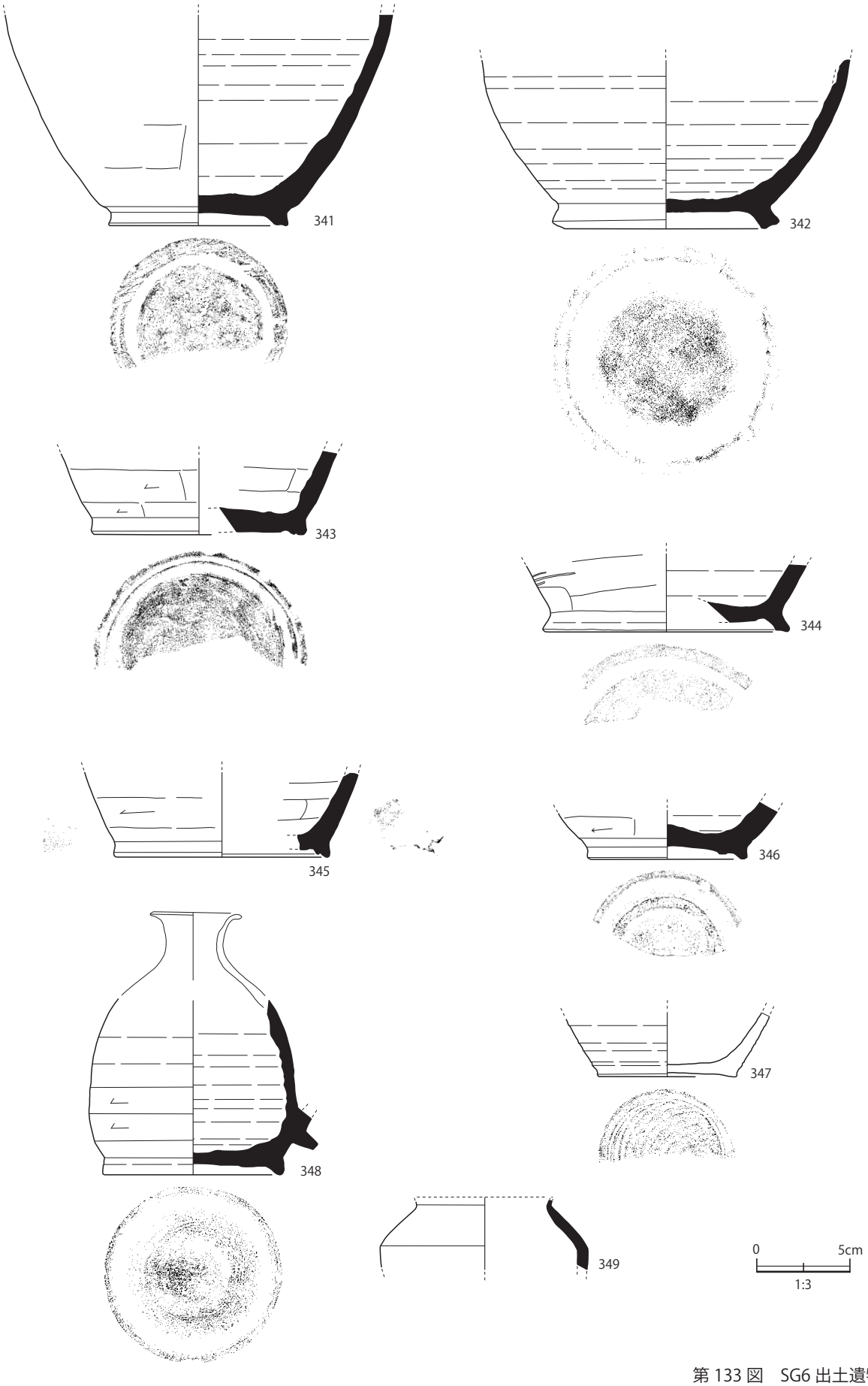


第 130 図　SG6 出土遺物（4）

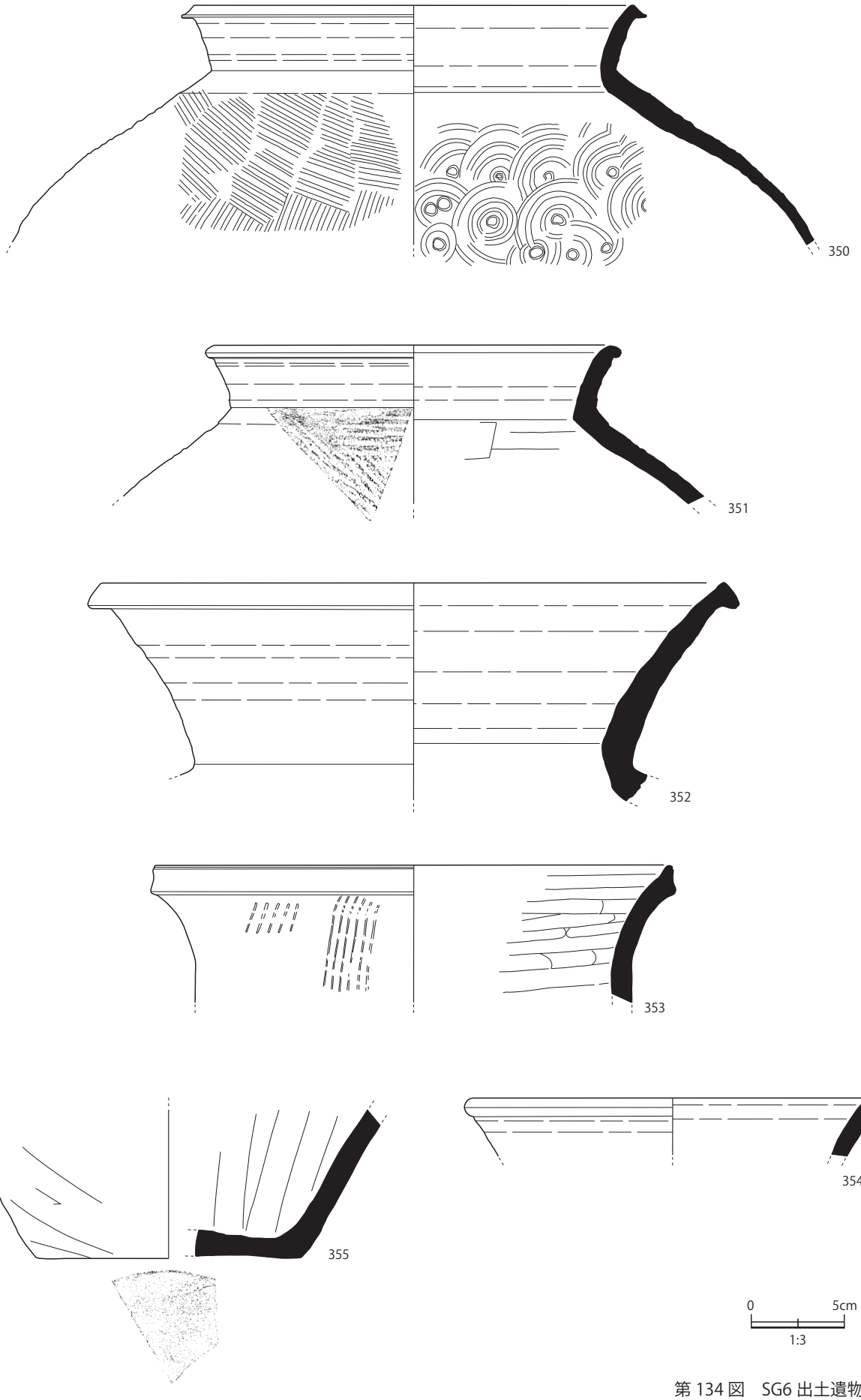
第 131 図　SG6 出土遺物（5）



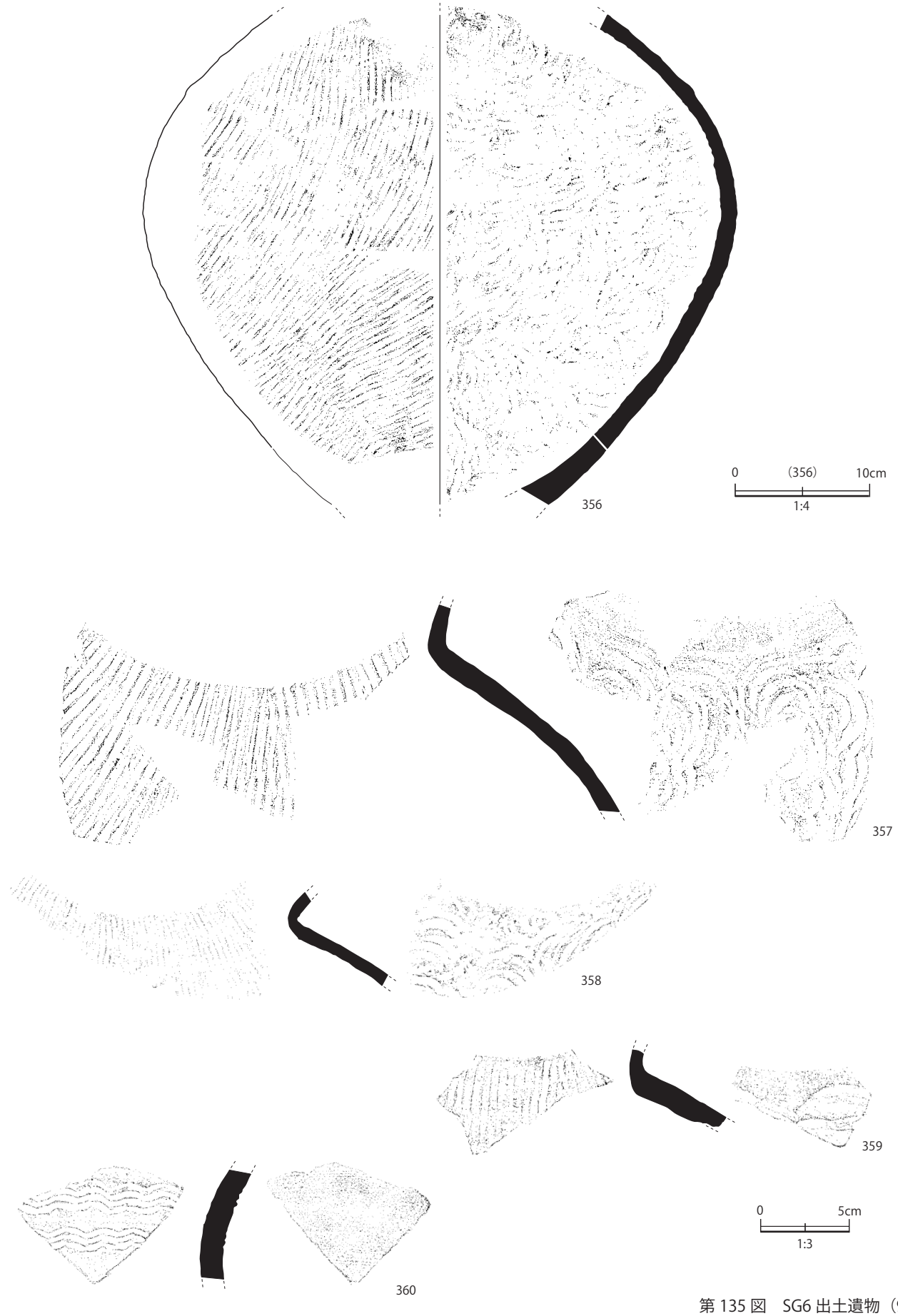
第 132 図　SG6 出土遺物（6）



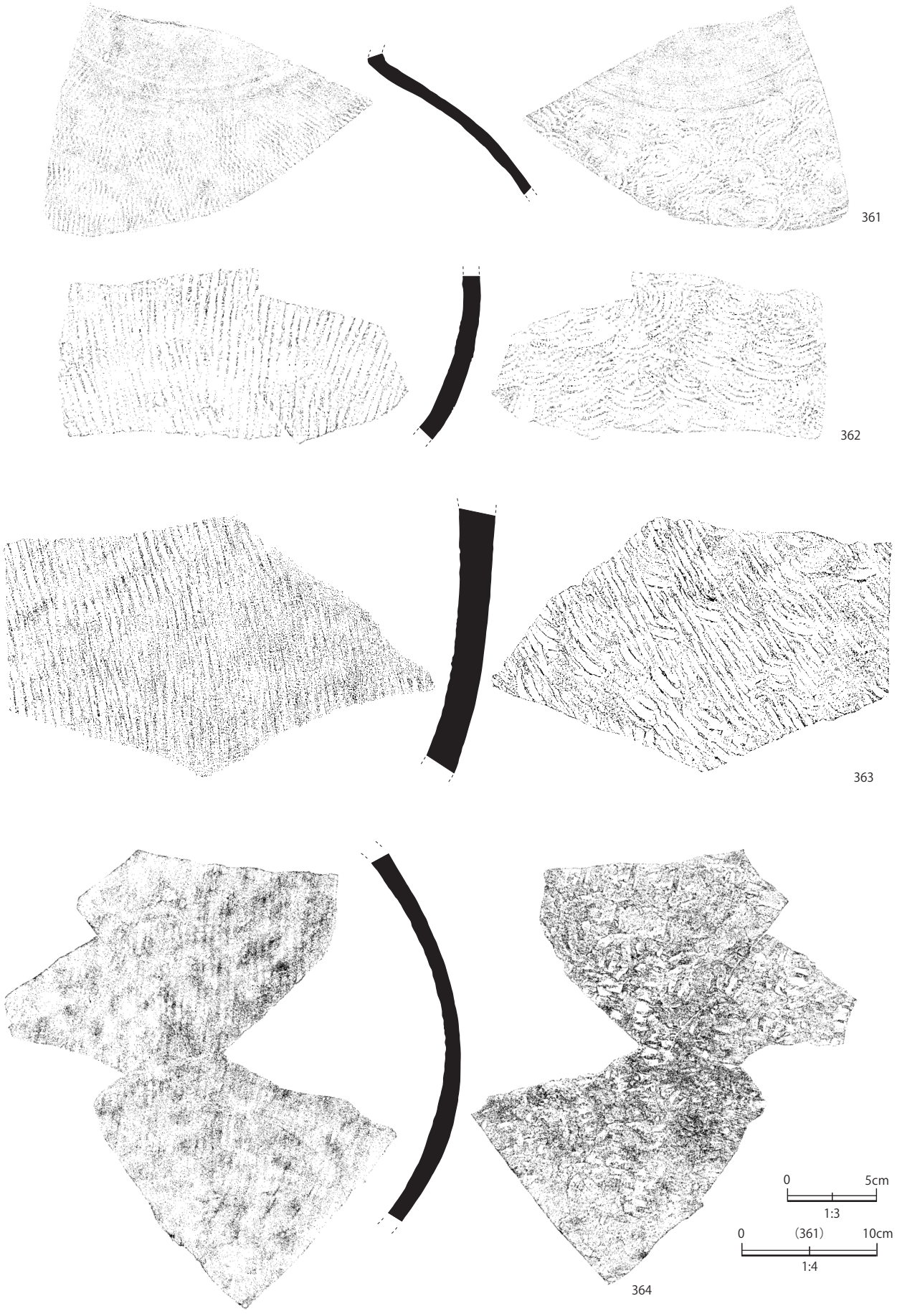
第 133 図　SG6 出土遺物（7）



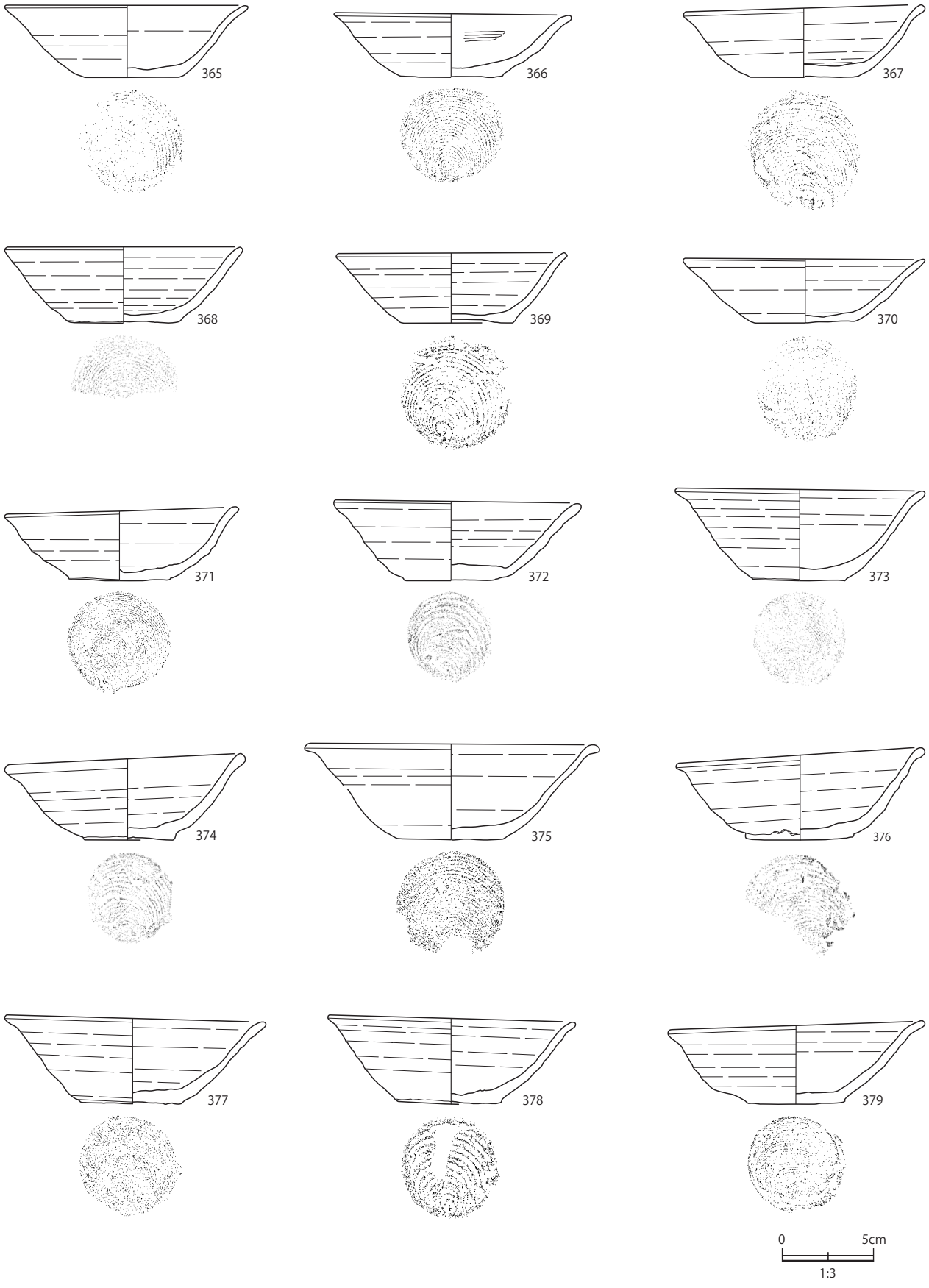
第 134 図　SG6 出土遺物（8）



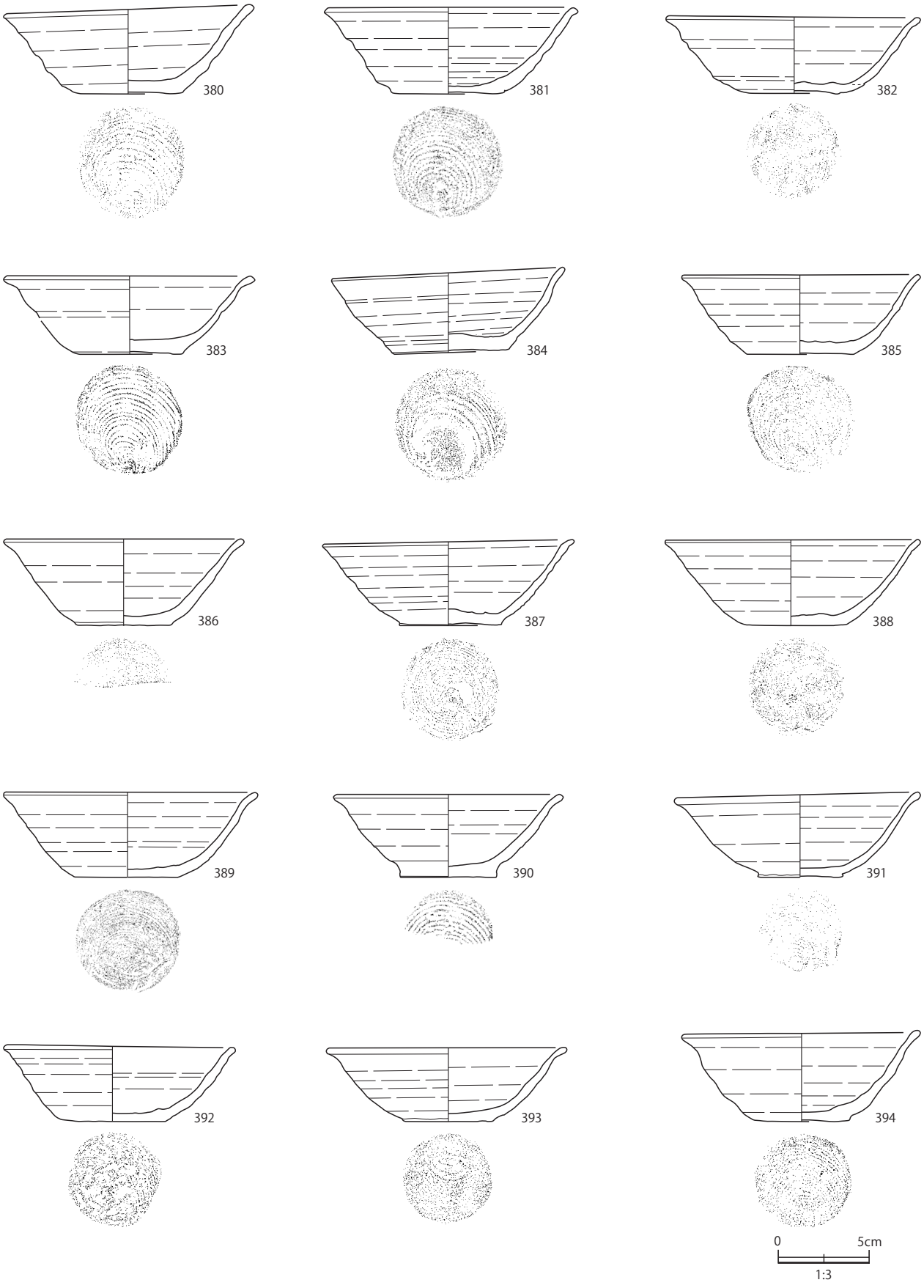
第 135 図　SG6 出土遺物（9）



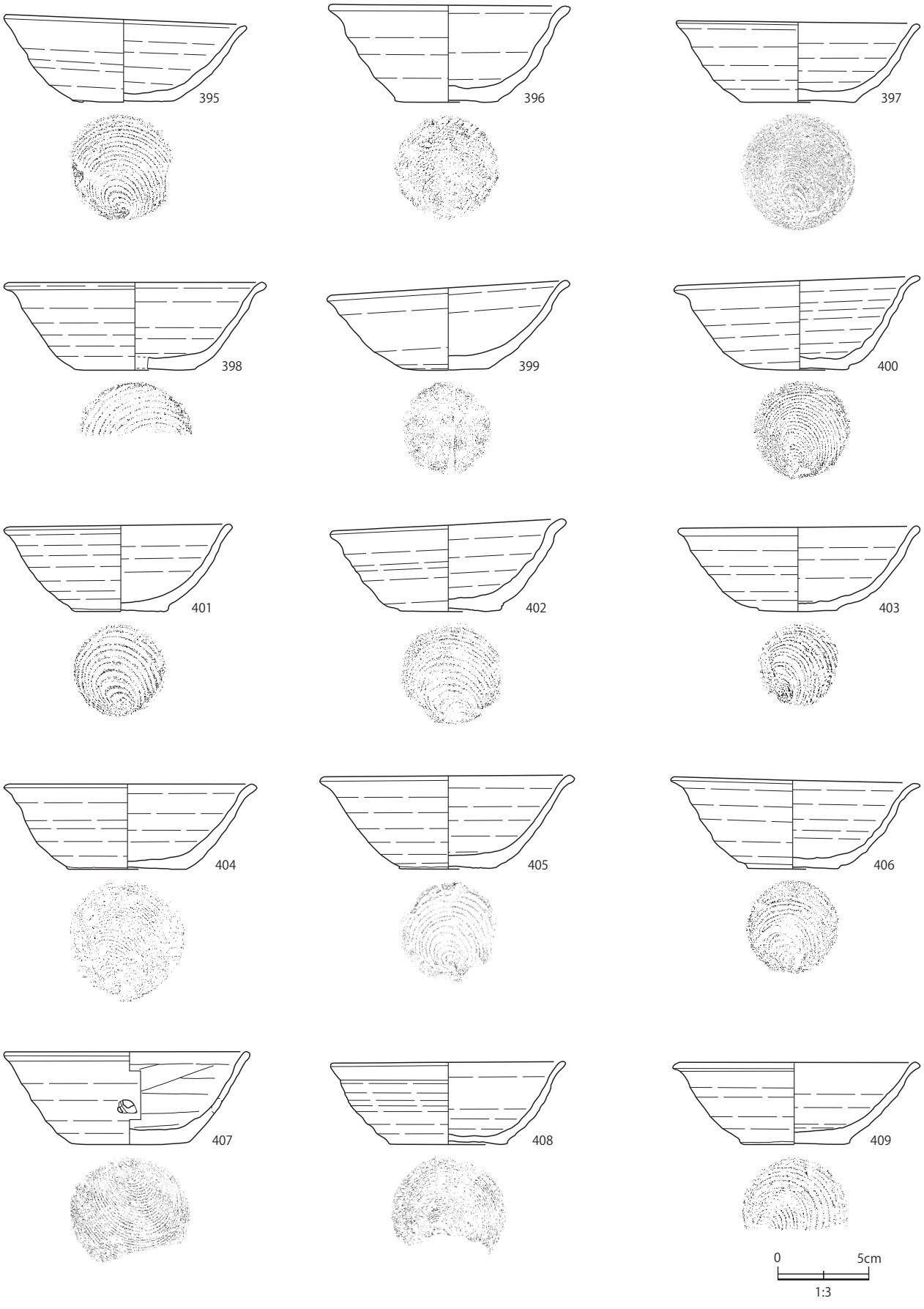
第 136 図　SG6 出土遺物（10）



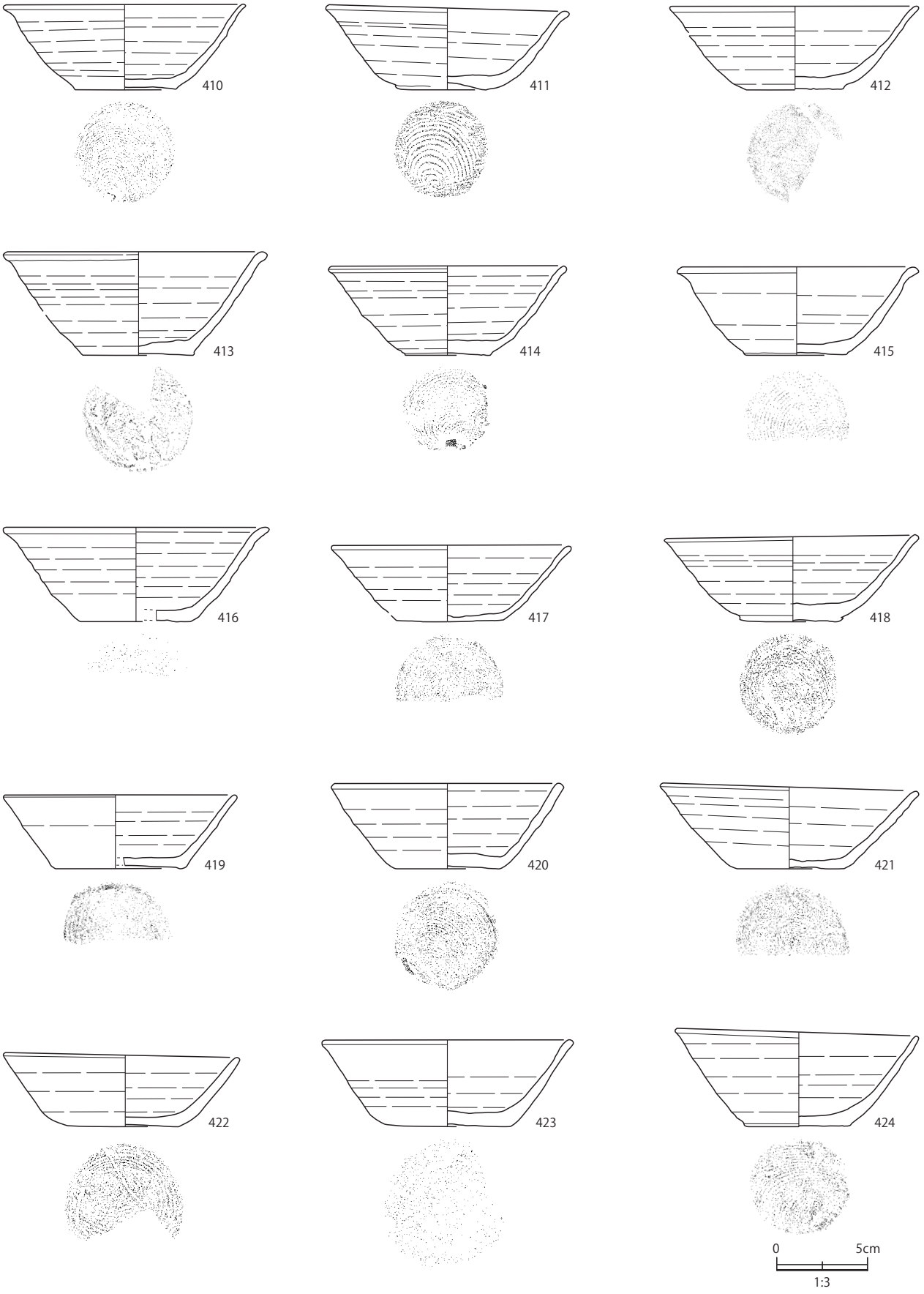
第 137 図　SG6 出土遺物（11）



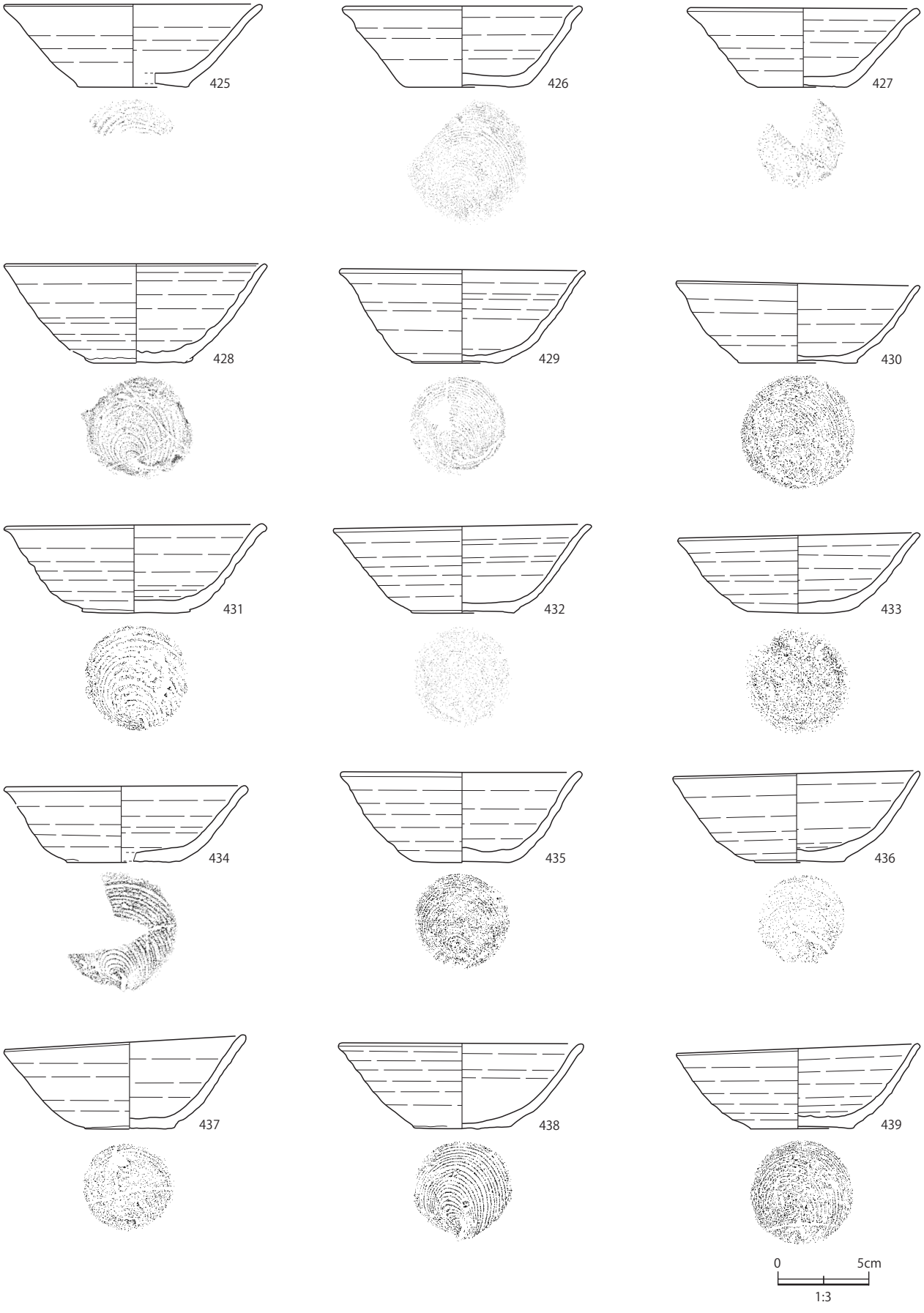
第 138 図　SG6 出土遺物（12）



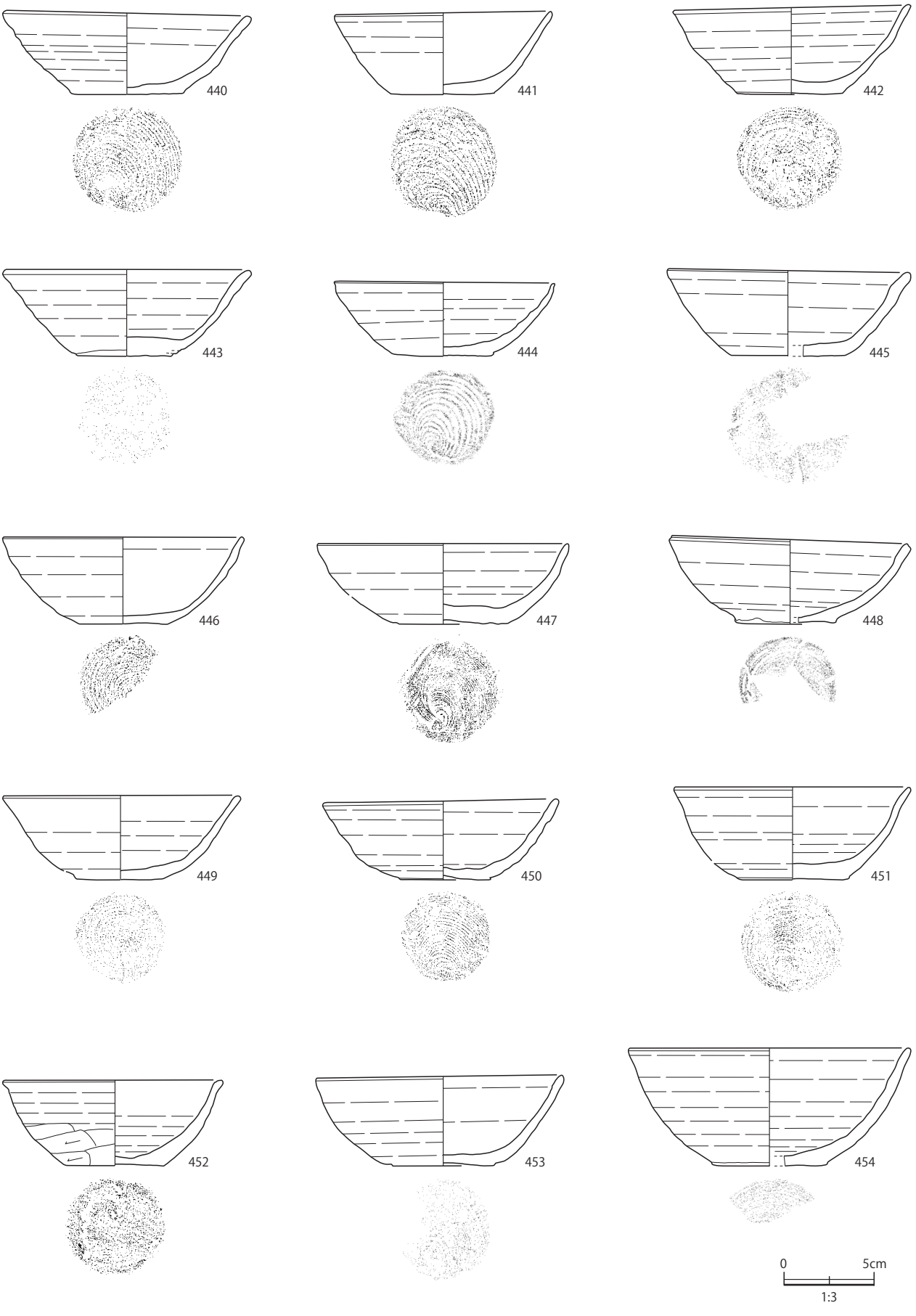
第 139 図　SG6 出土遺物（13）



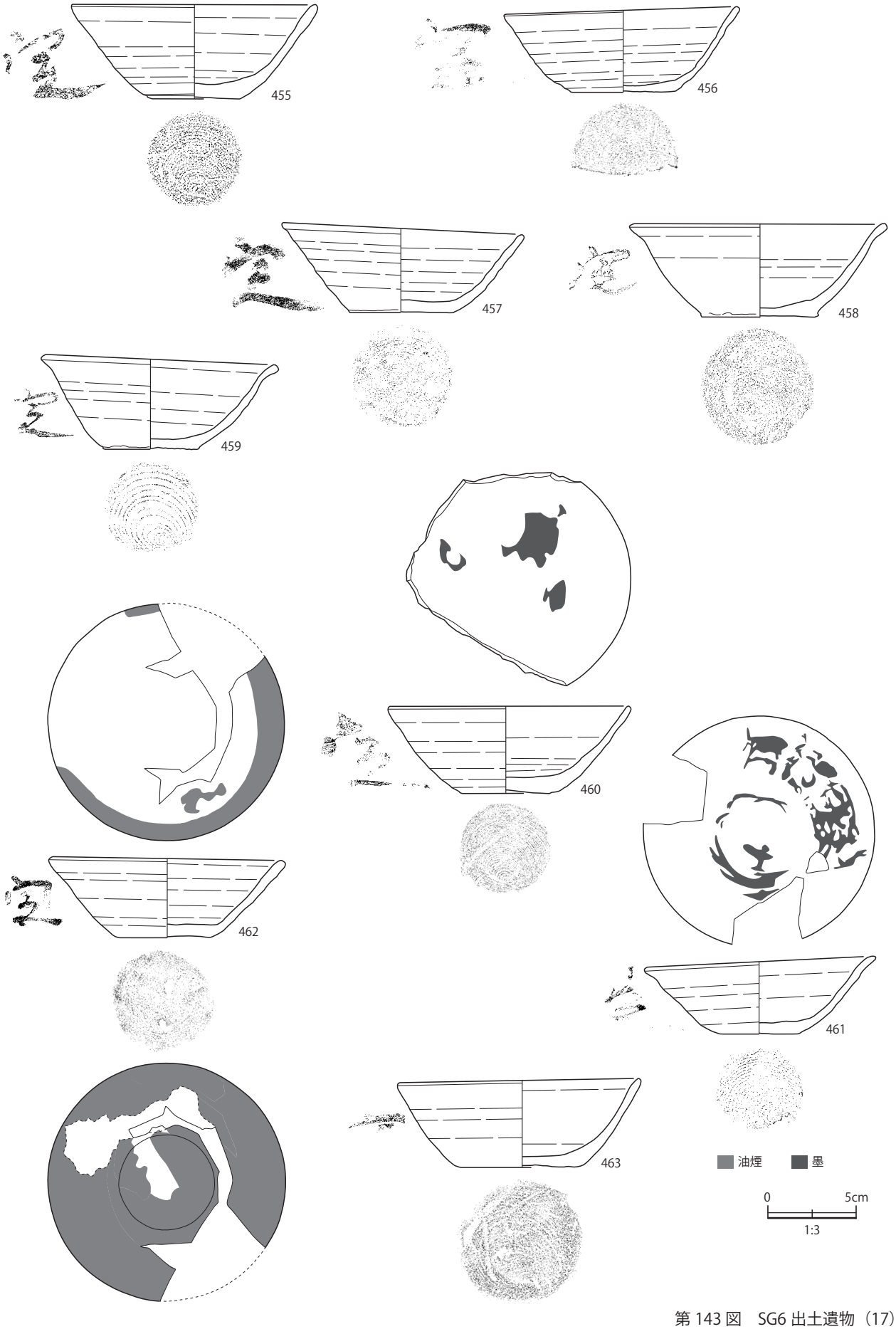
第 140 図　SG6 出土遺物（14）



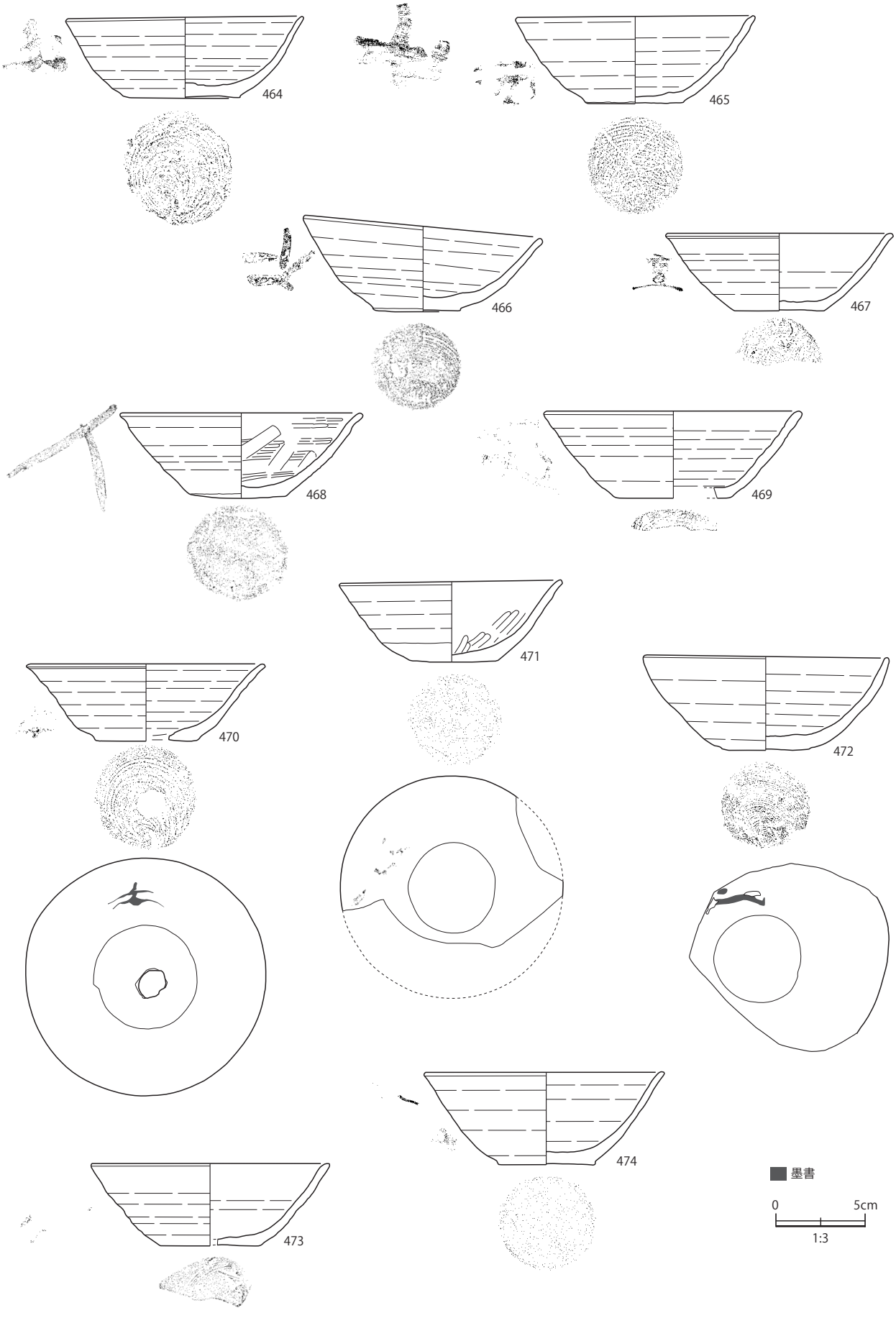
第 141 図　SG6 出土遺物（15）



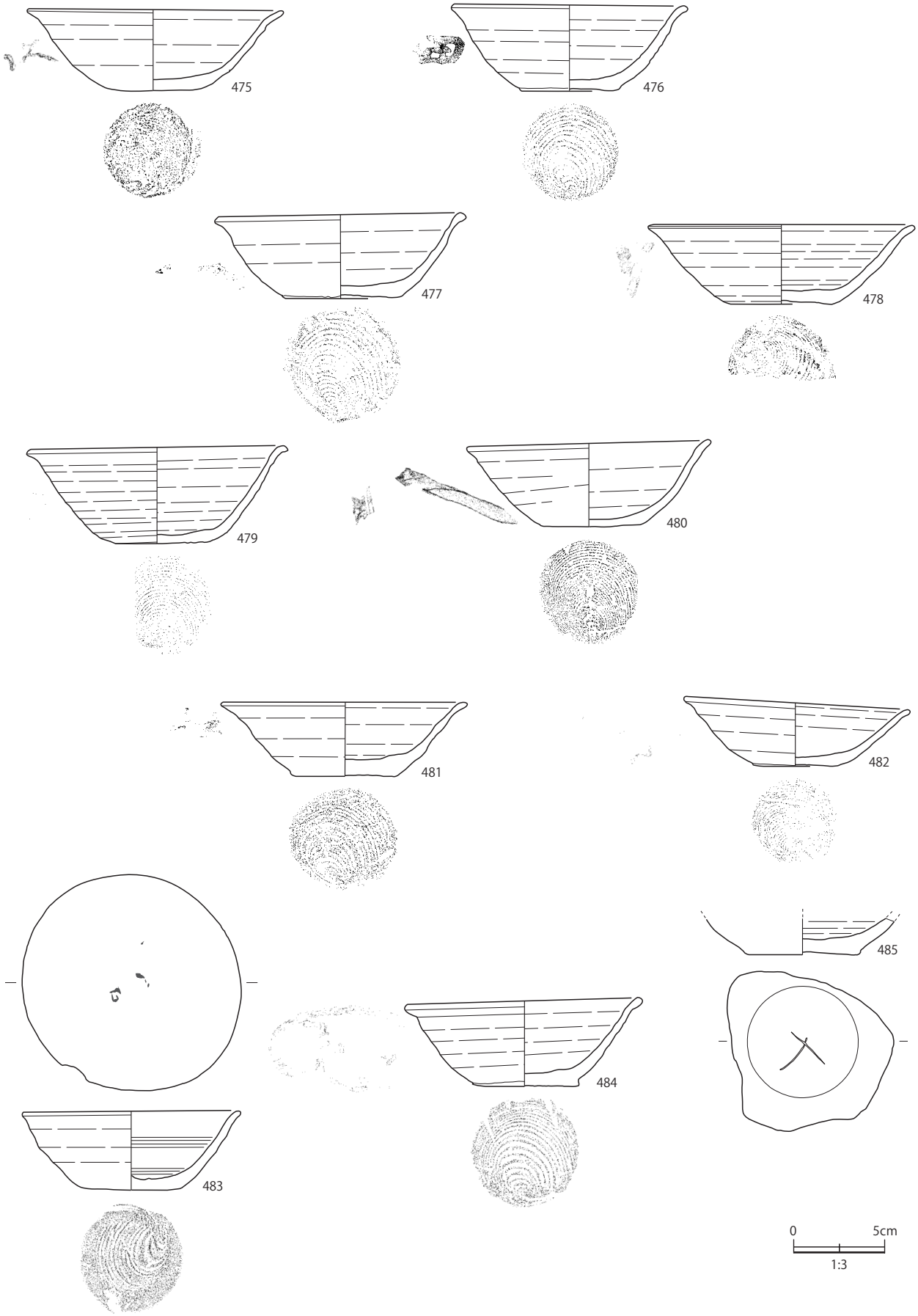
第 142 図　SG6 出土遺物（16）



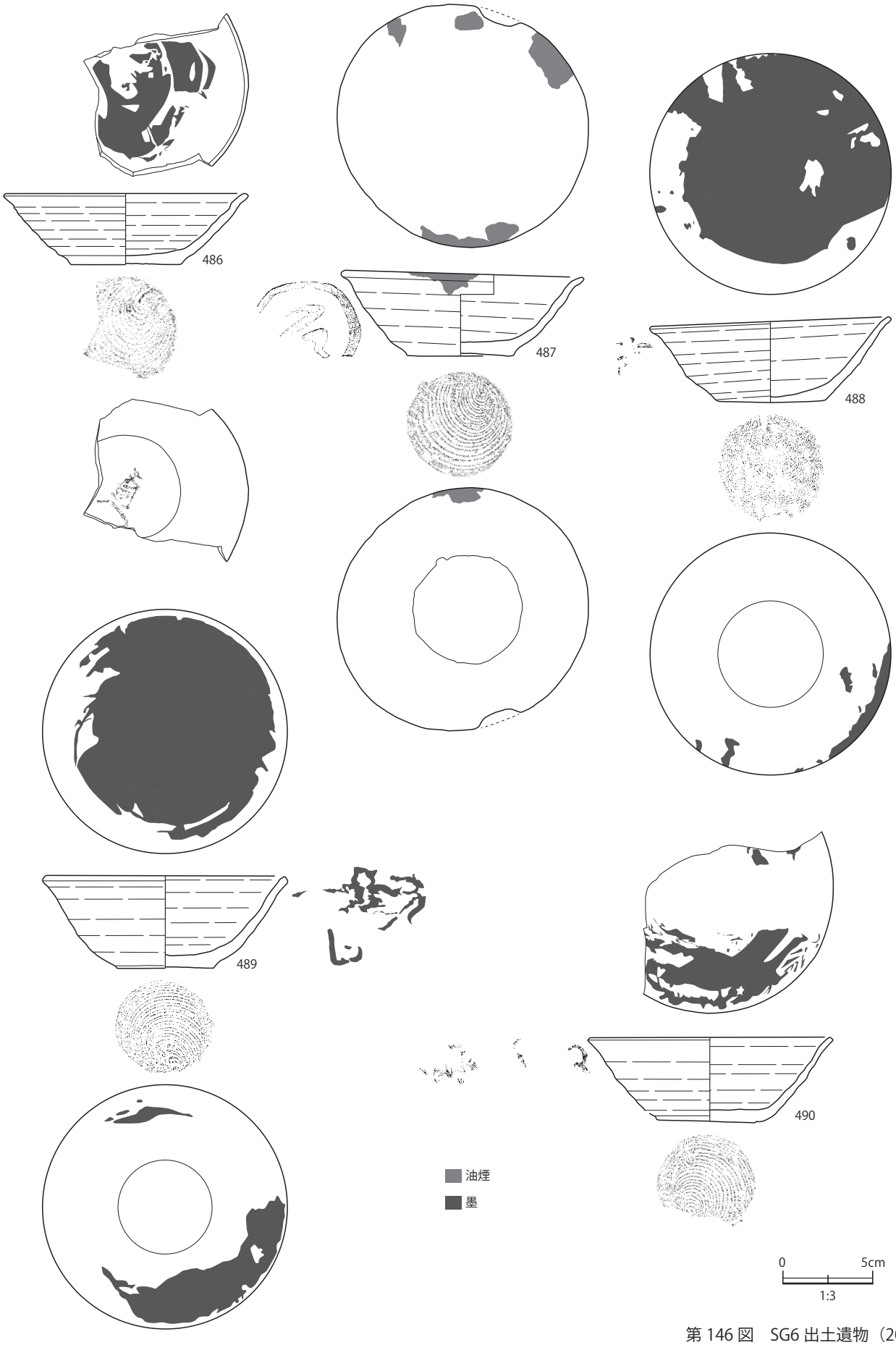
第 143 図　SG6 出土遺物（17）



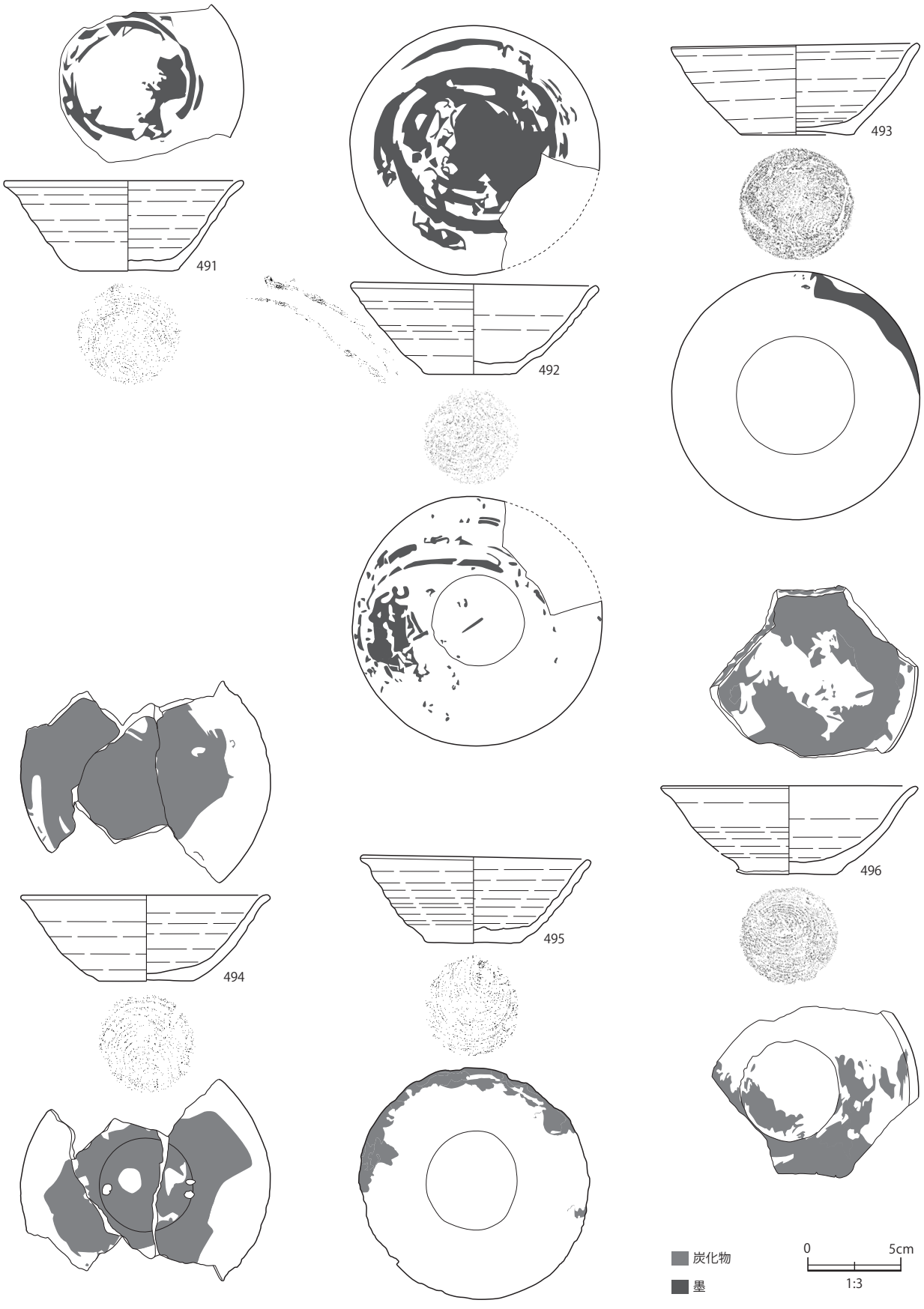
第 144 図　SG6 出土遺物（18）



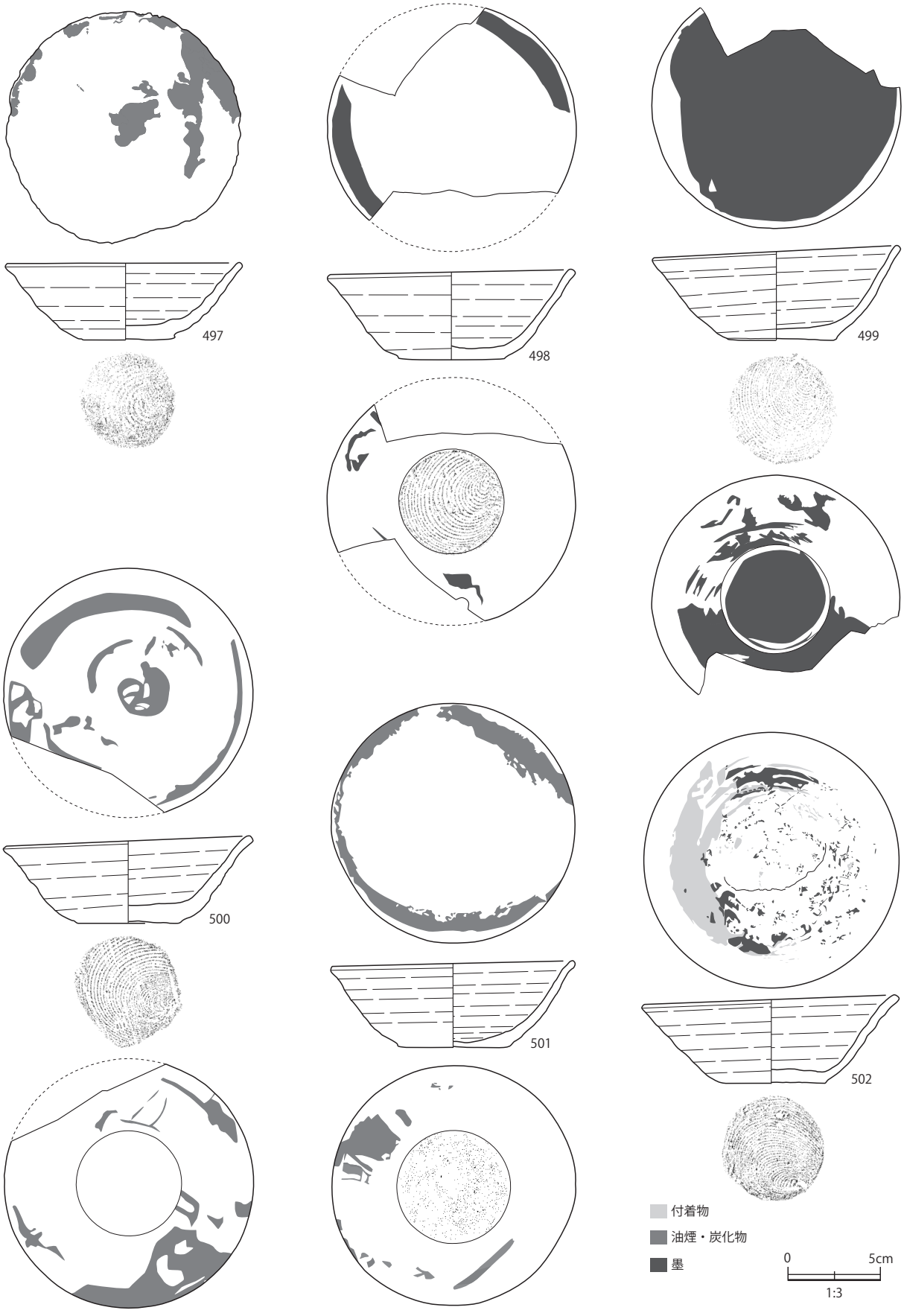
第 145 図　SG6 出土遺物（19）



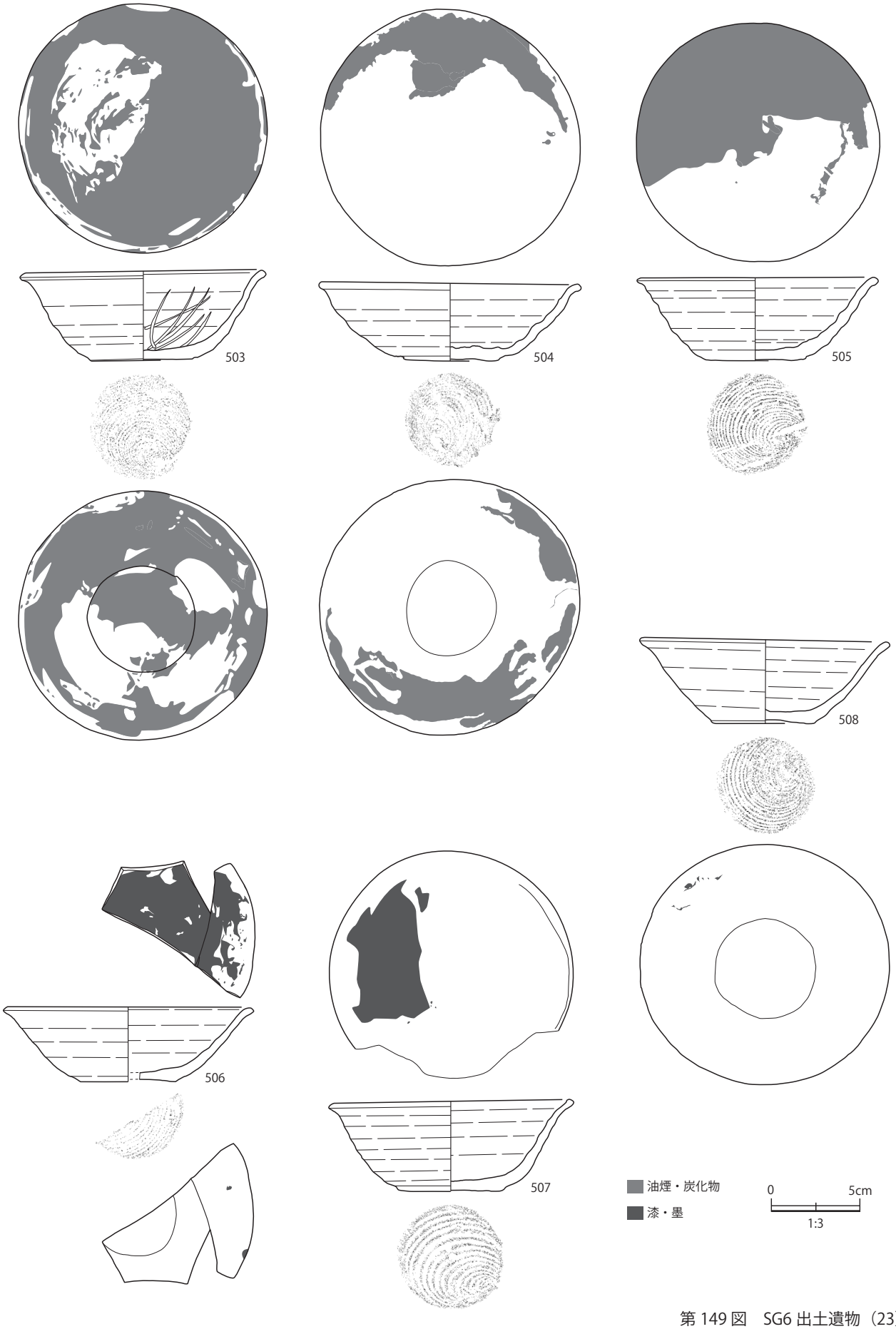
第 146 図　SG6 出土遺物（20）



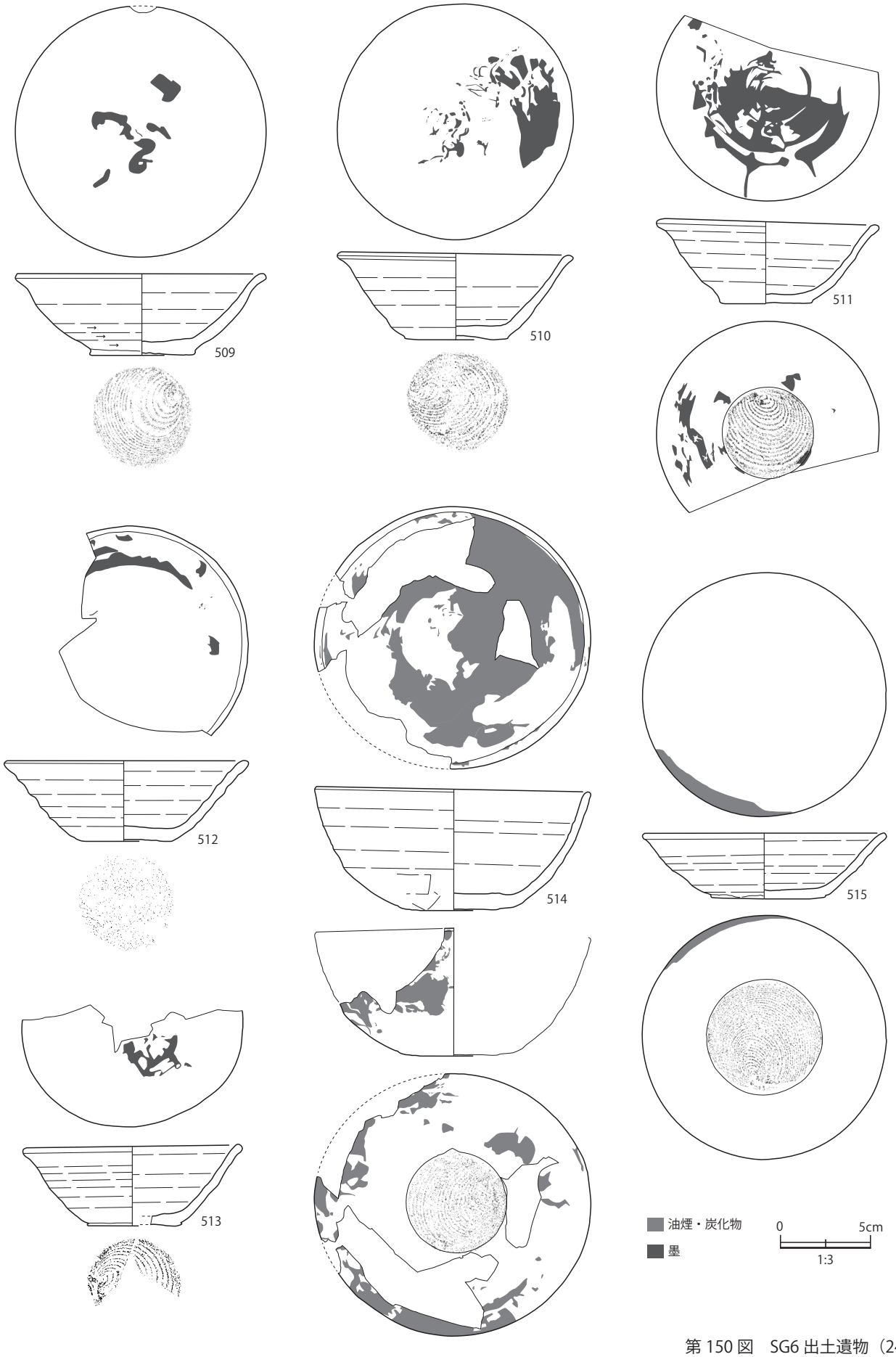
第 147 図　SG6 出土遺物（21）



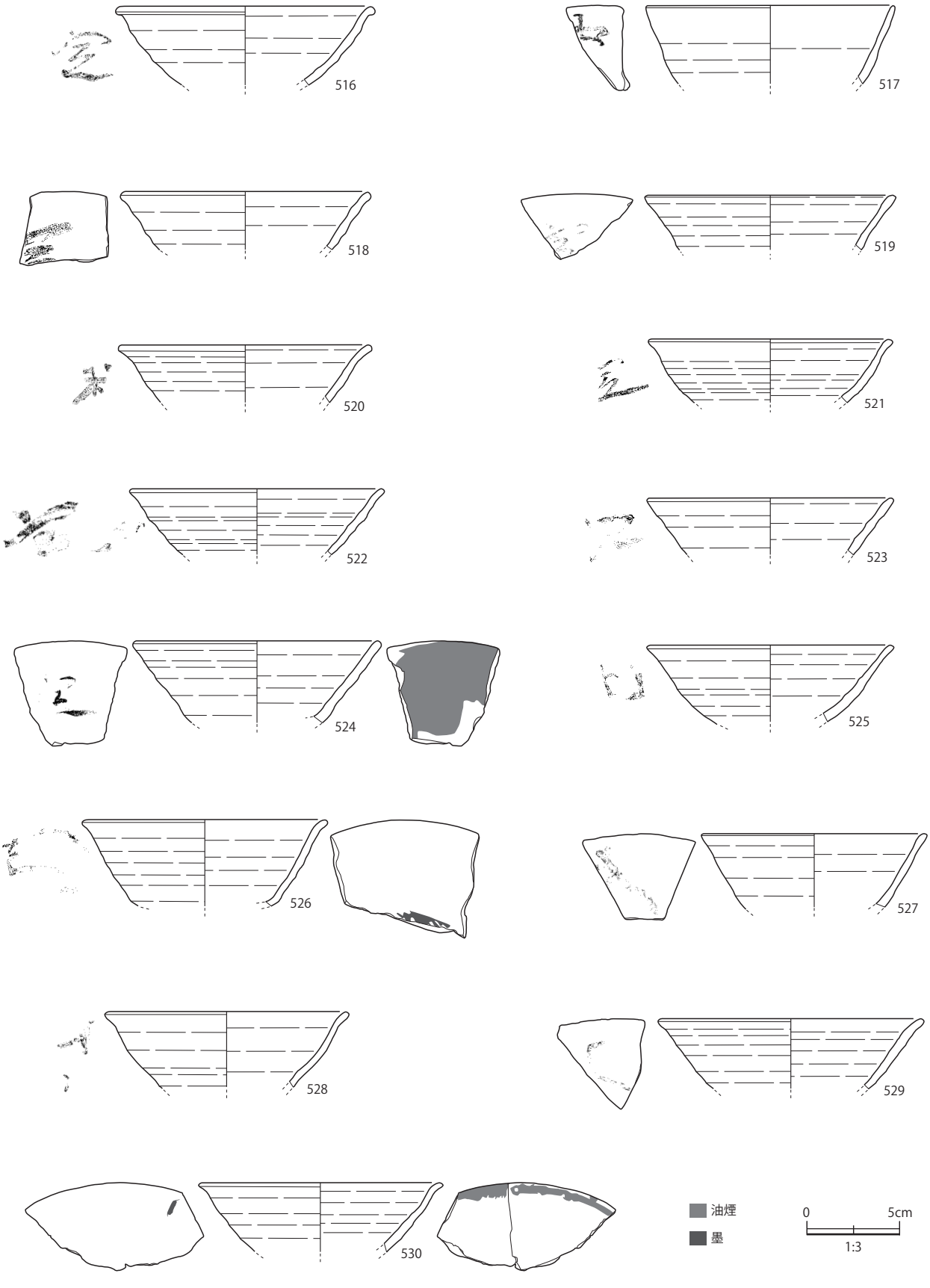
第 148 図　SG6 出土遺物（22）



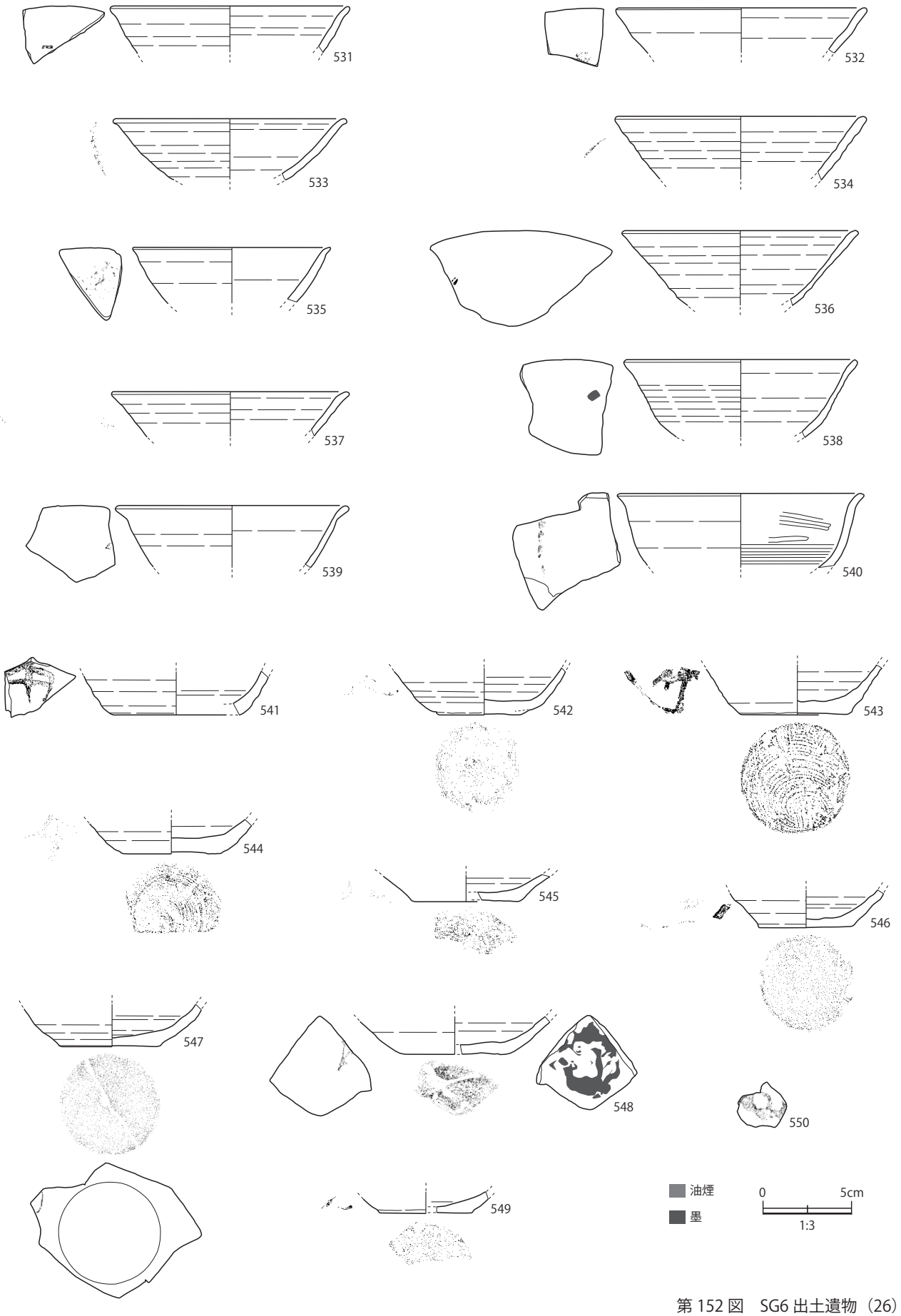
第 149 図　SG6 出土遺物（23）



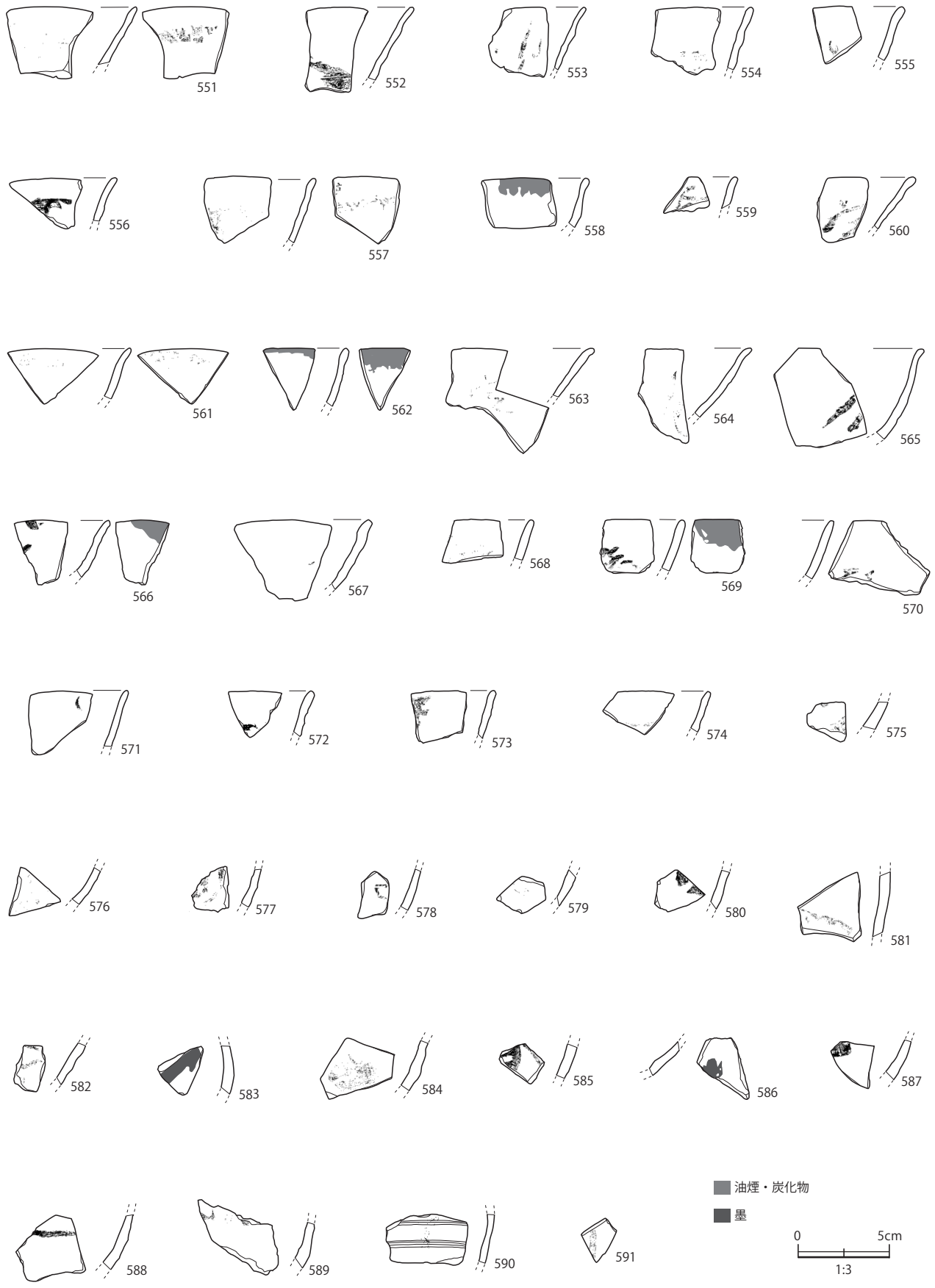
第 150 図　SG6 出土遺物（24）



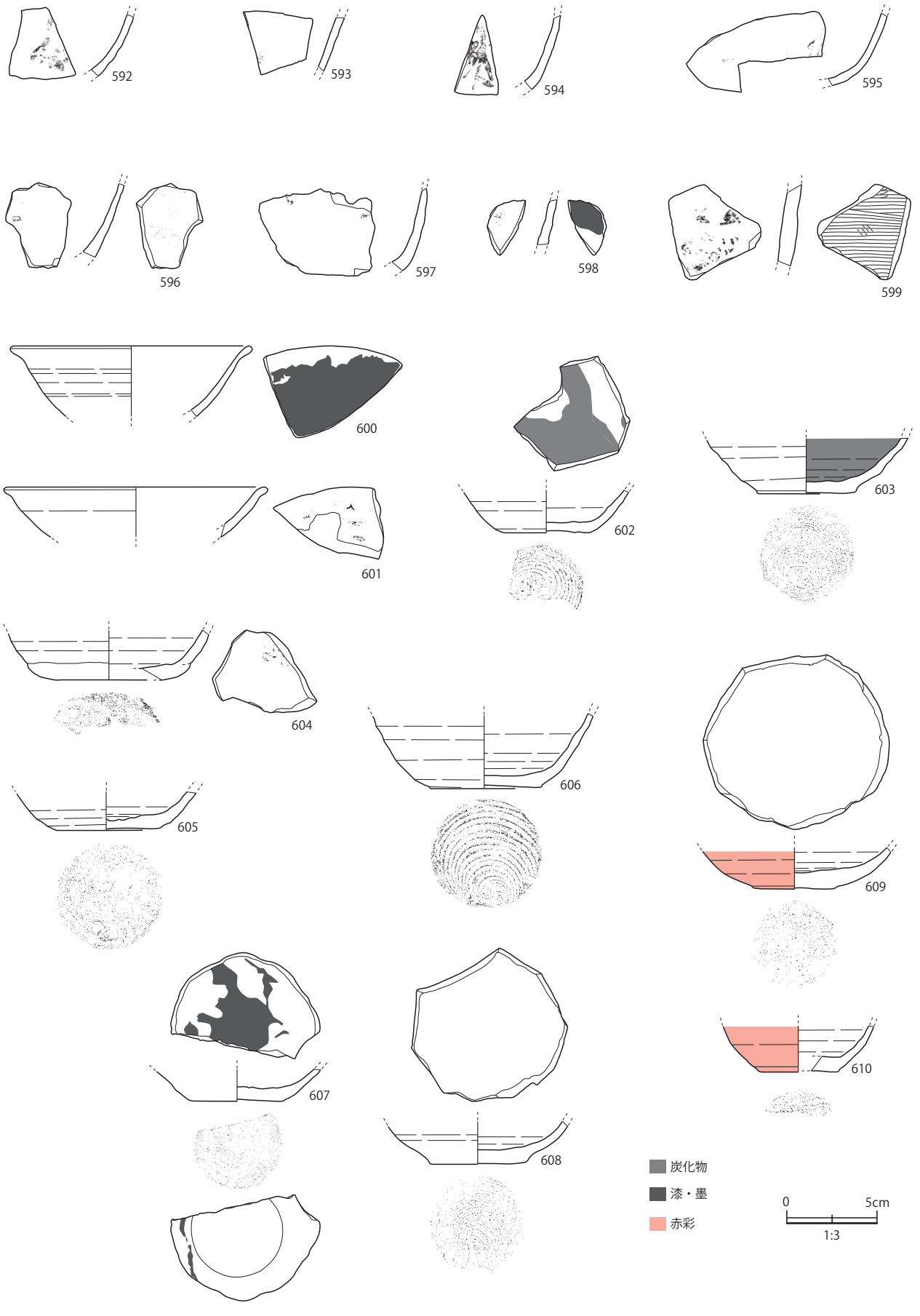
第 151 図　SG6 出土遺物（25）



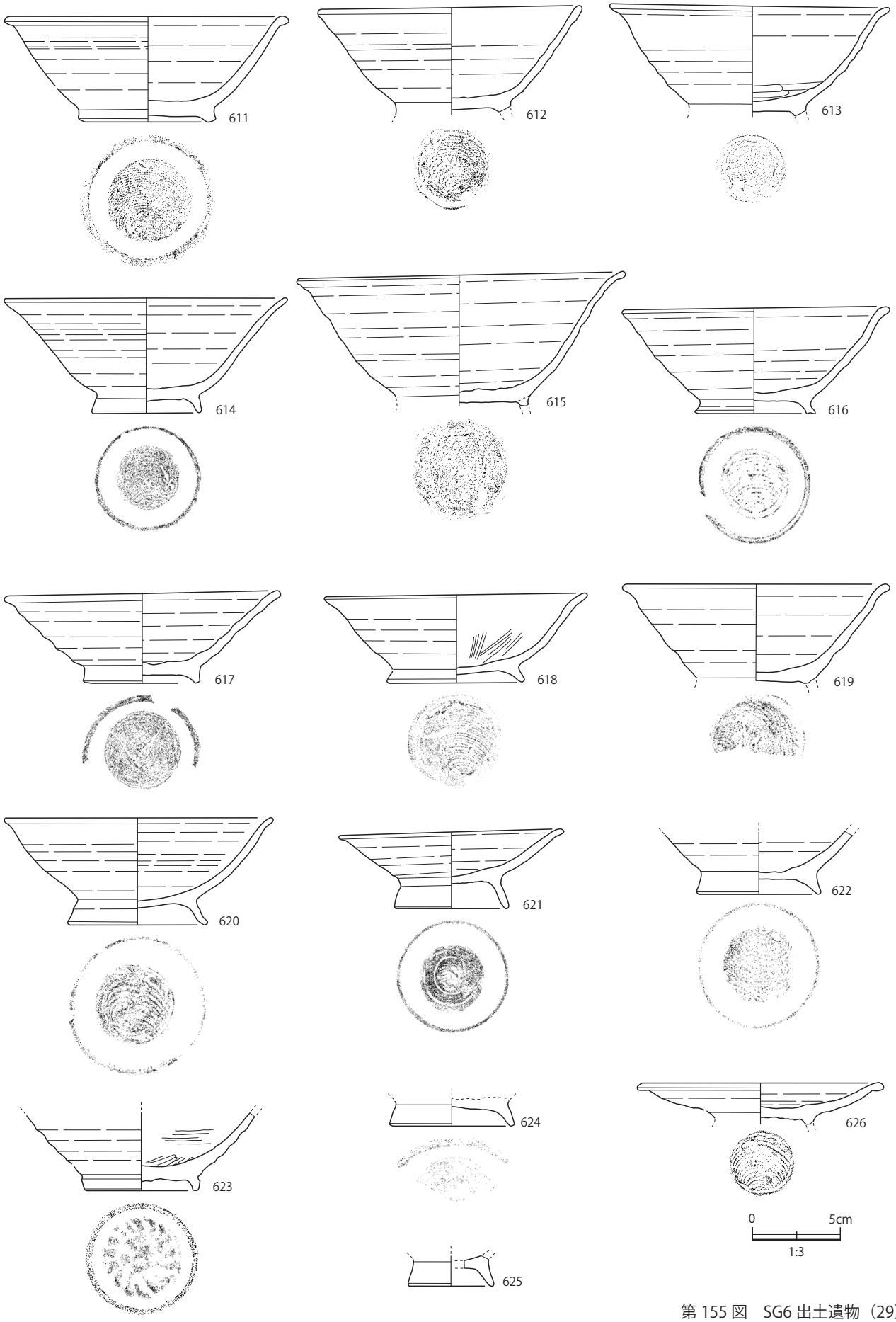
第 152 図　SG6 出土遺物（26）



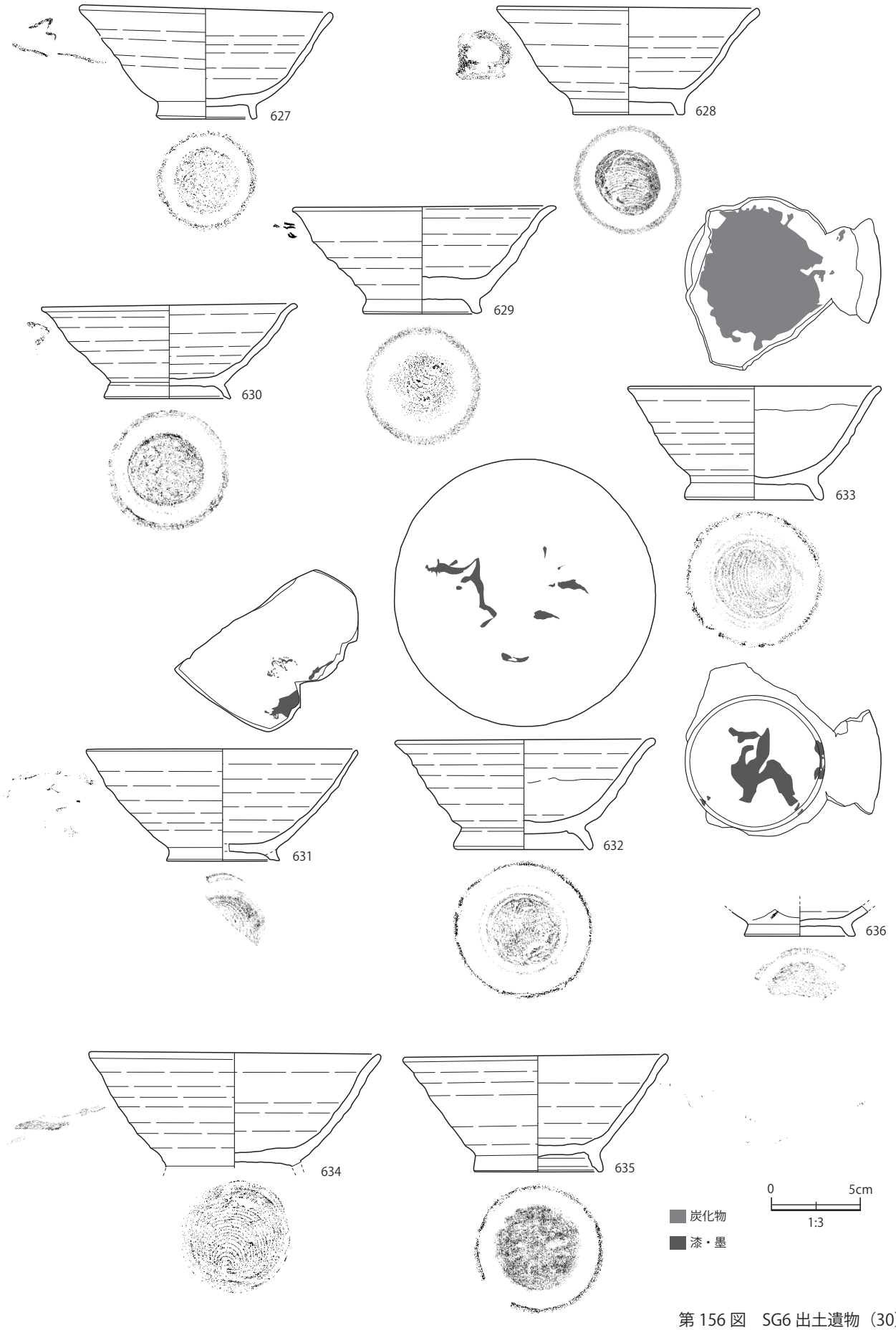
第 153 図　SG6 出土遺物（27）



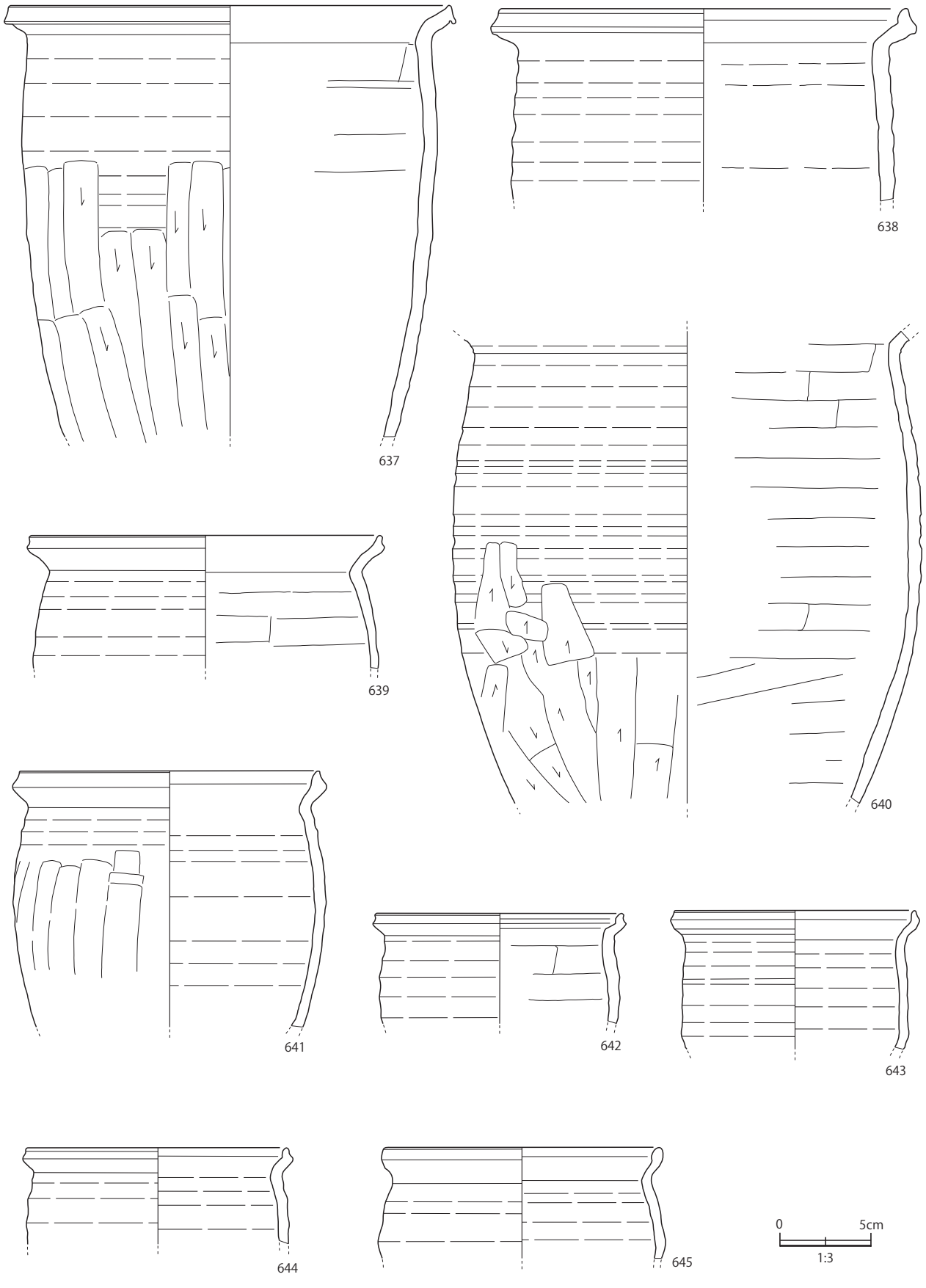
第 154 図　SG6 出土遺物（28）



第 155 図　SG6 出土遺物（29）

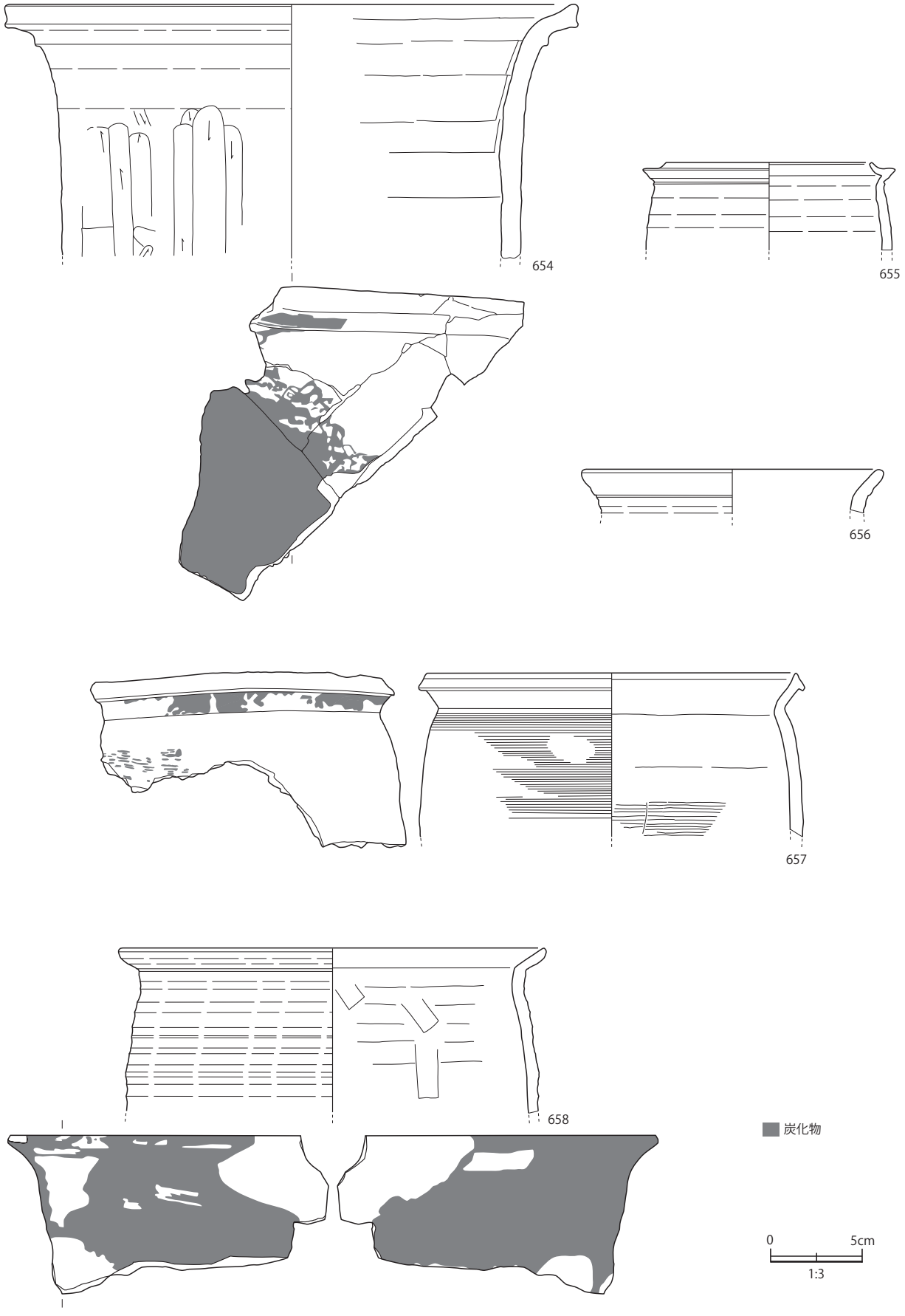


第 156 図　SG6 出土遺物（30）

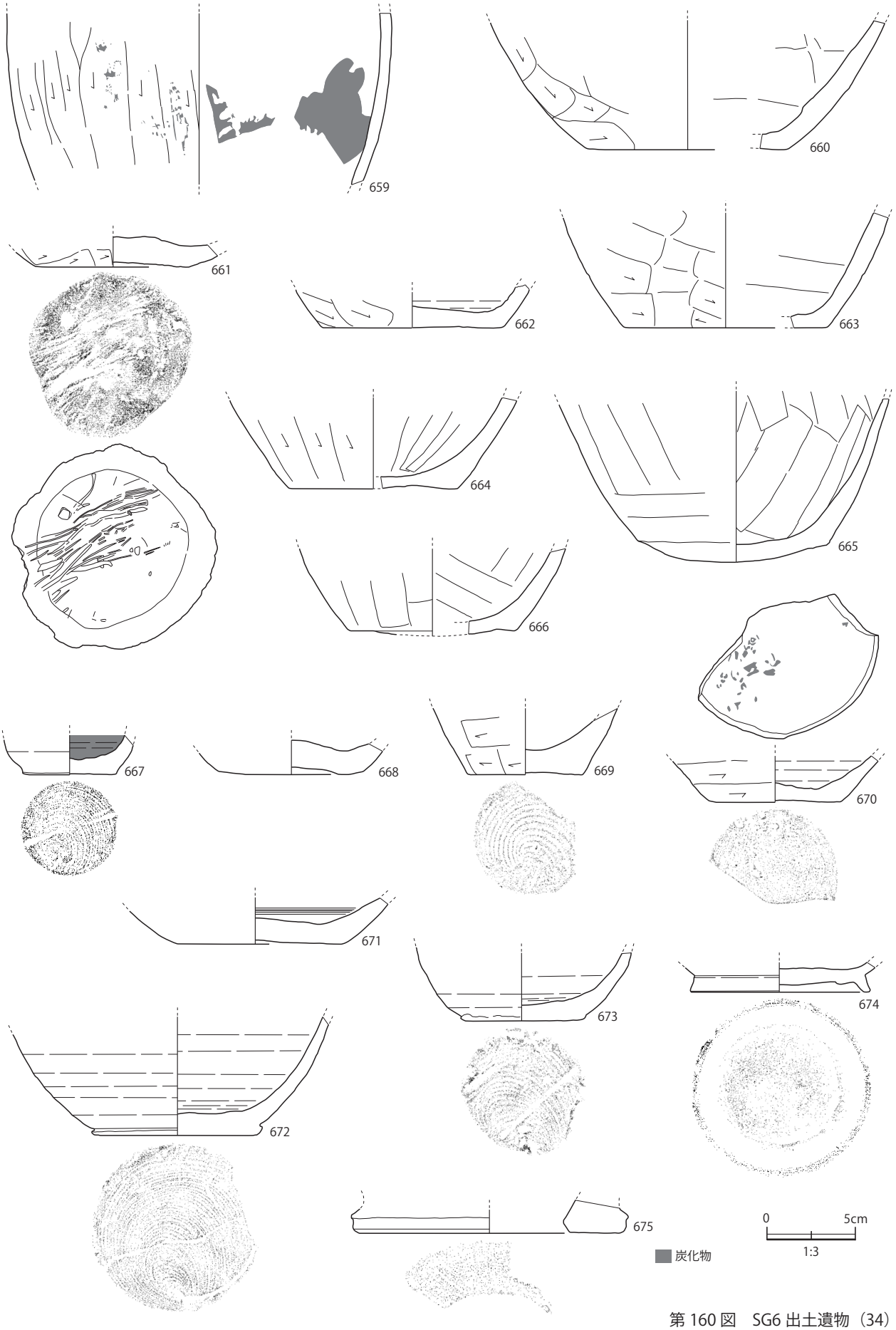


第 157 図　SG6 出土遺物（31）

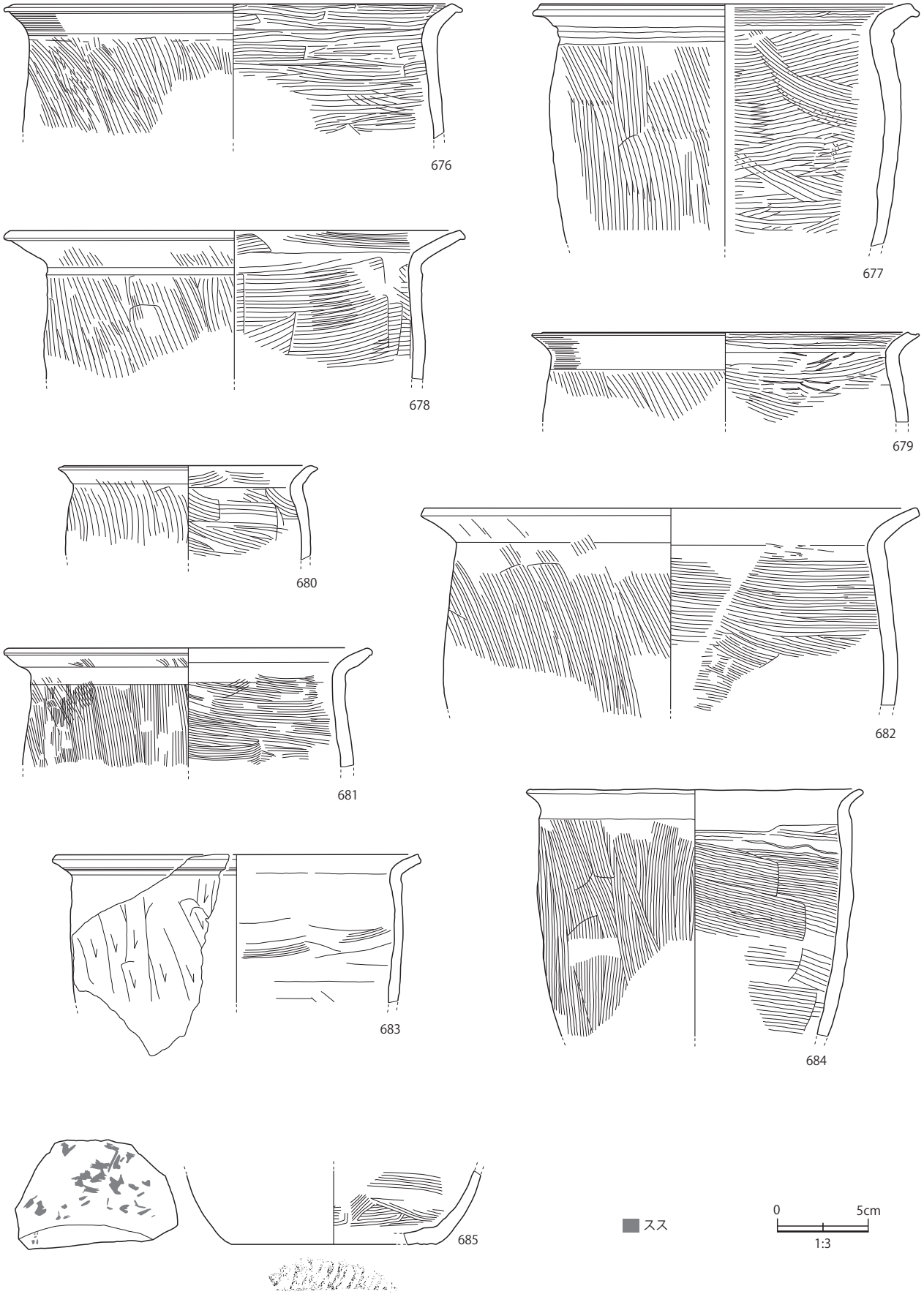
第 158 図　SG6 出土遺物（32）



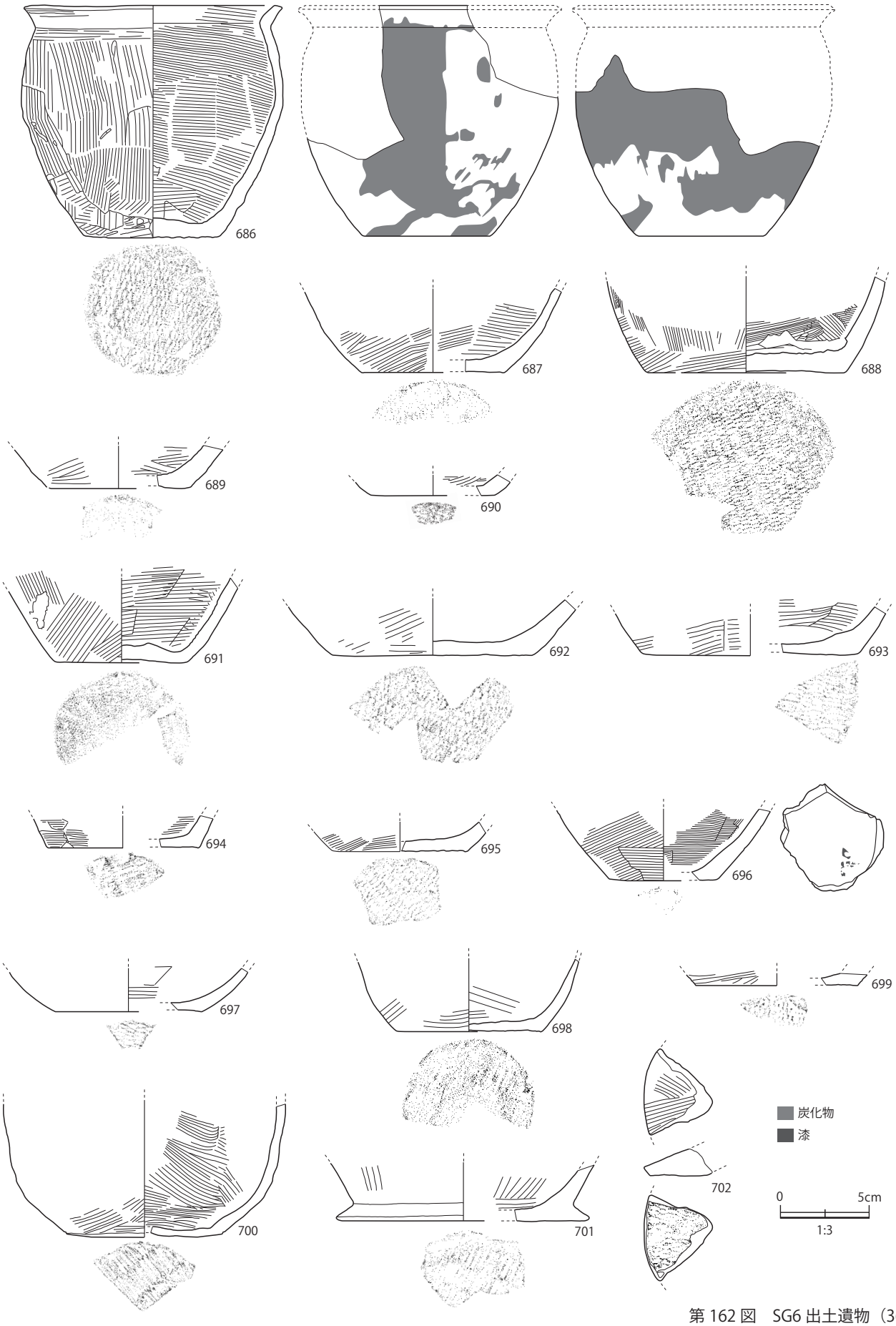
第 159 図　SG6 出土遺物（33）



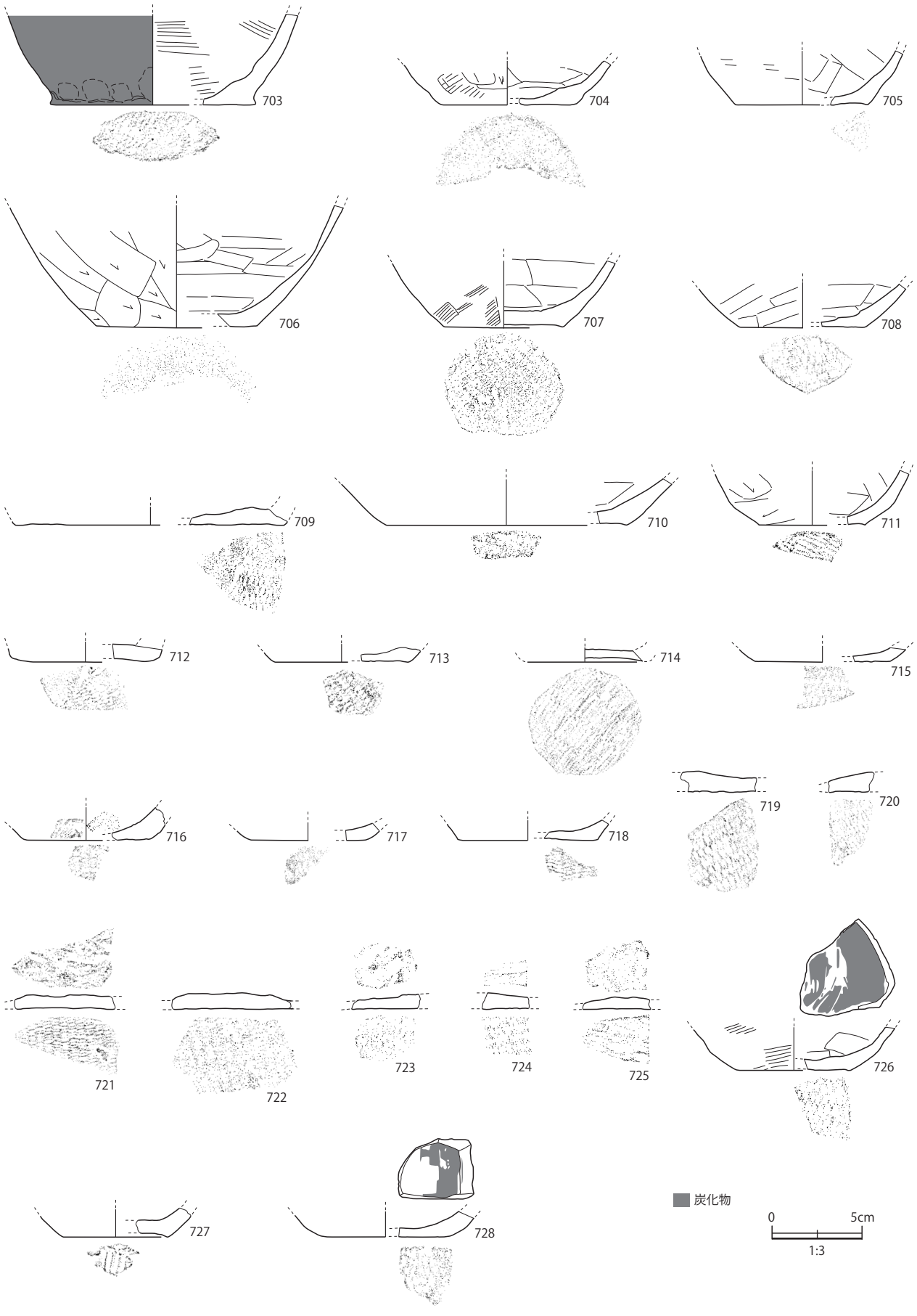
第 160 図　SG6 出土遺物（34）



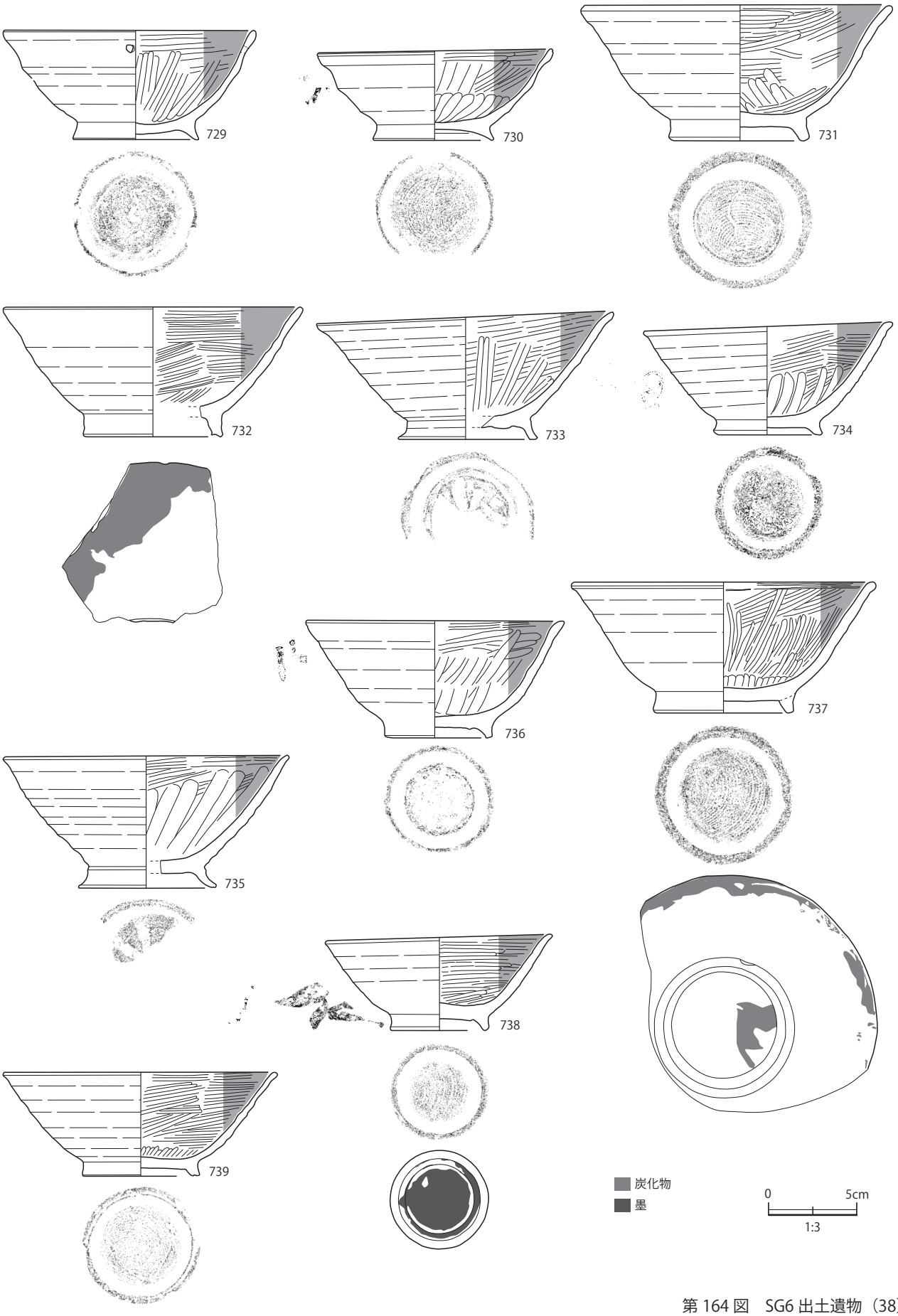
第 161 図　SG6 出土遺物（35）



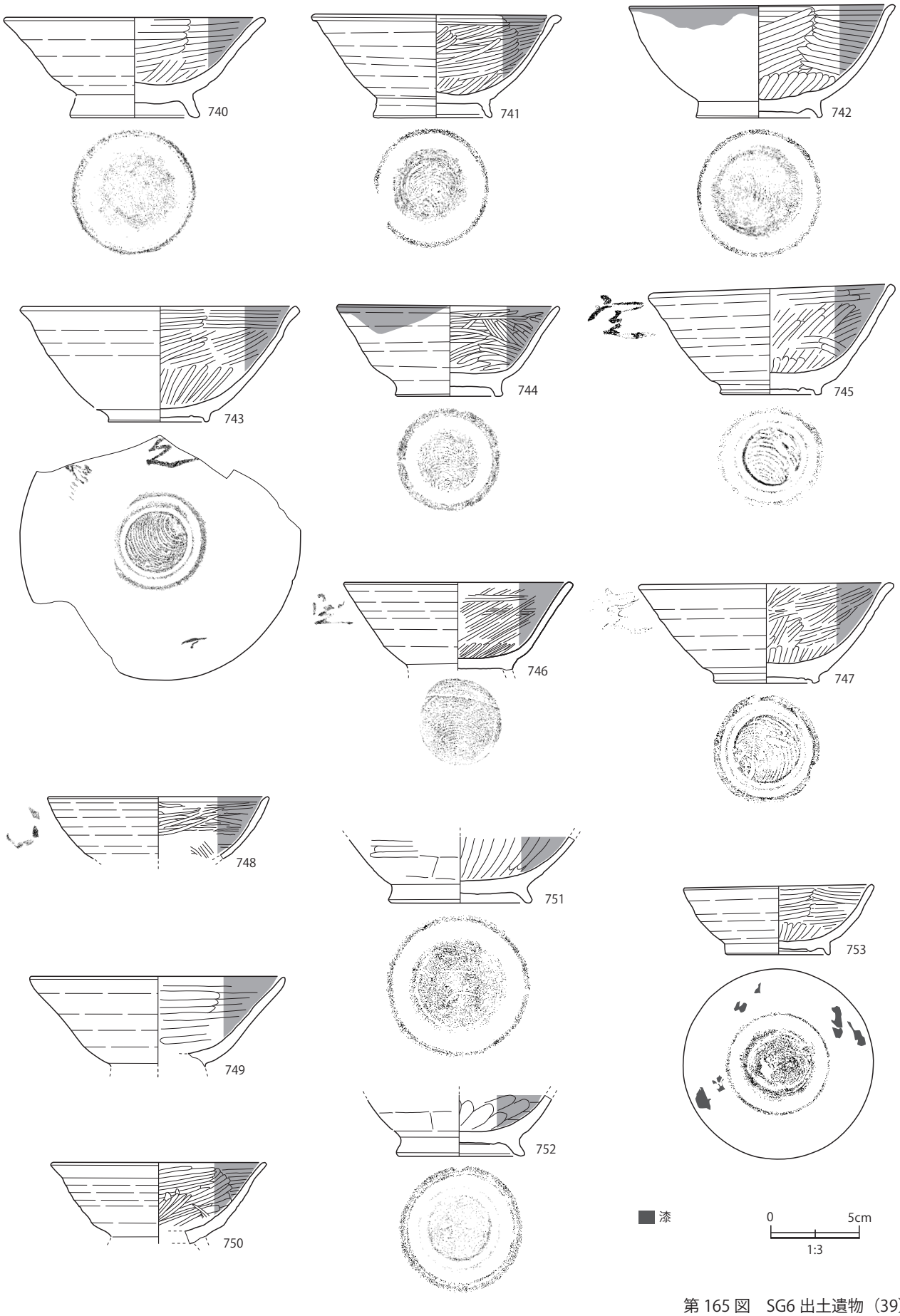
第 162 図　SG6 出土遺物（36）



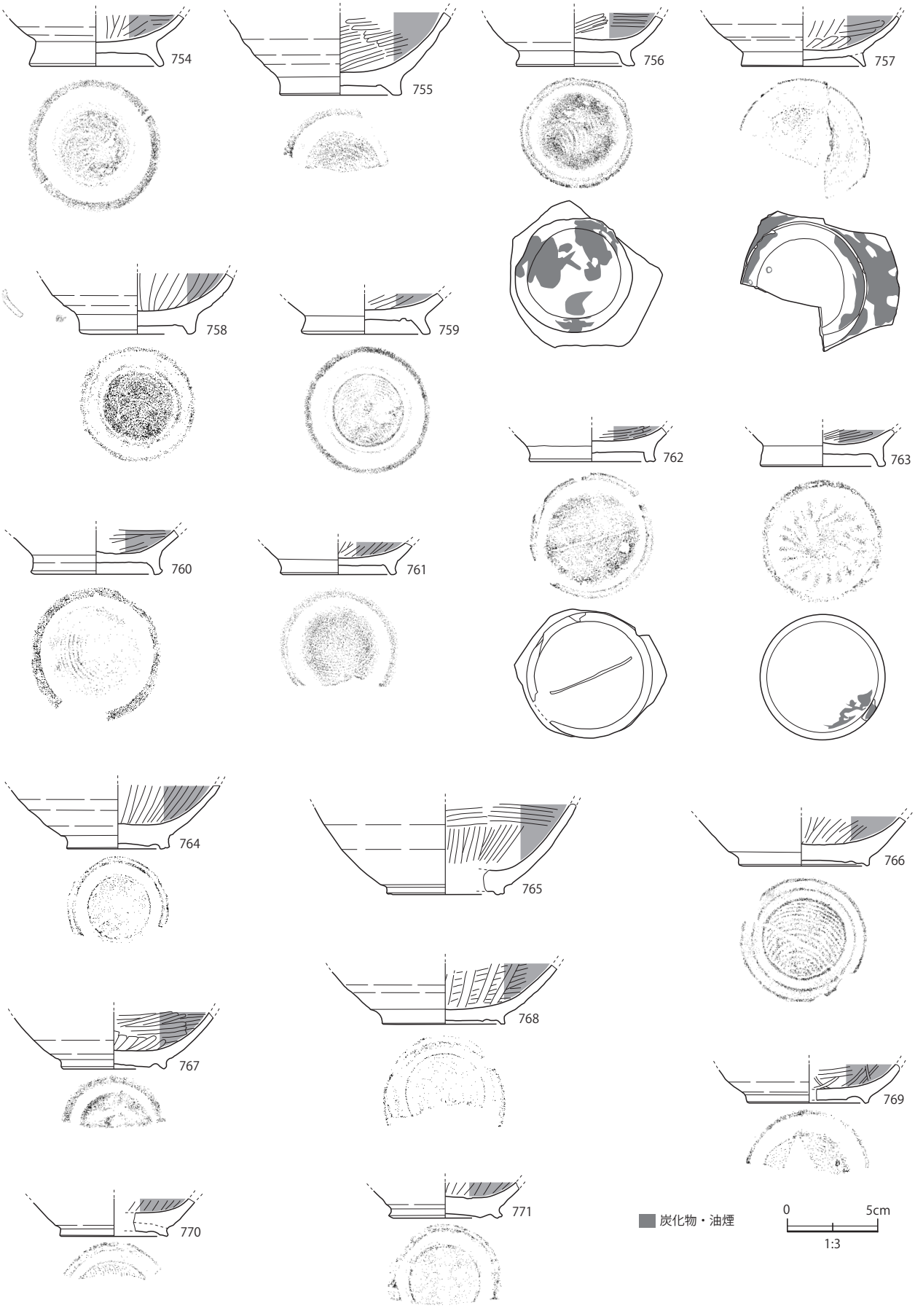
第 163 図　SG6 出土遺物（37）



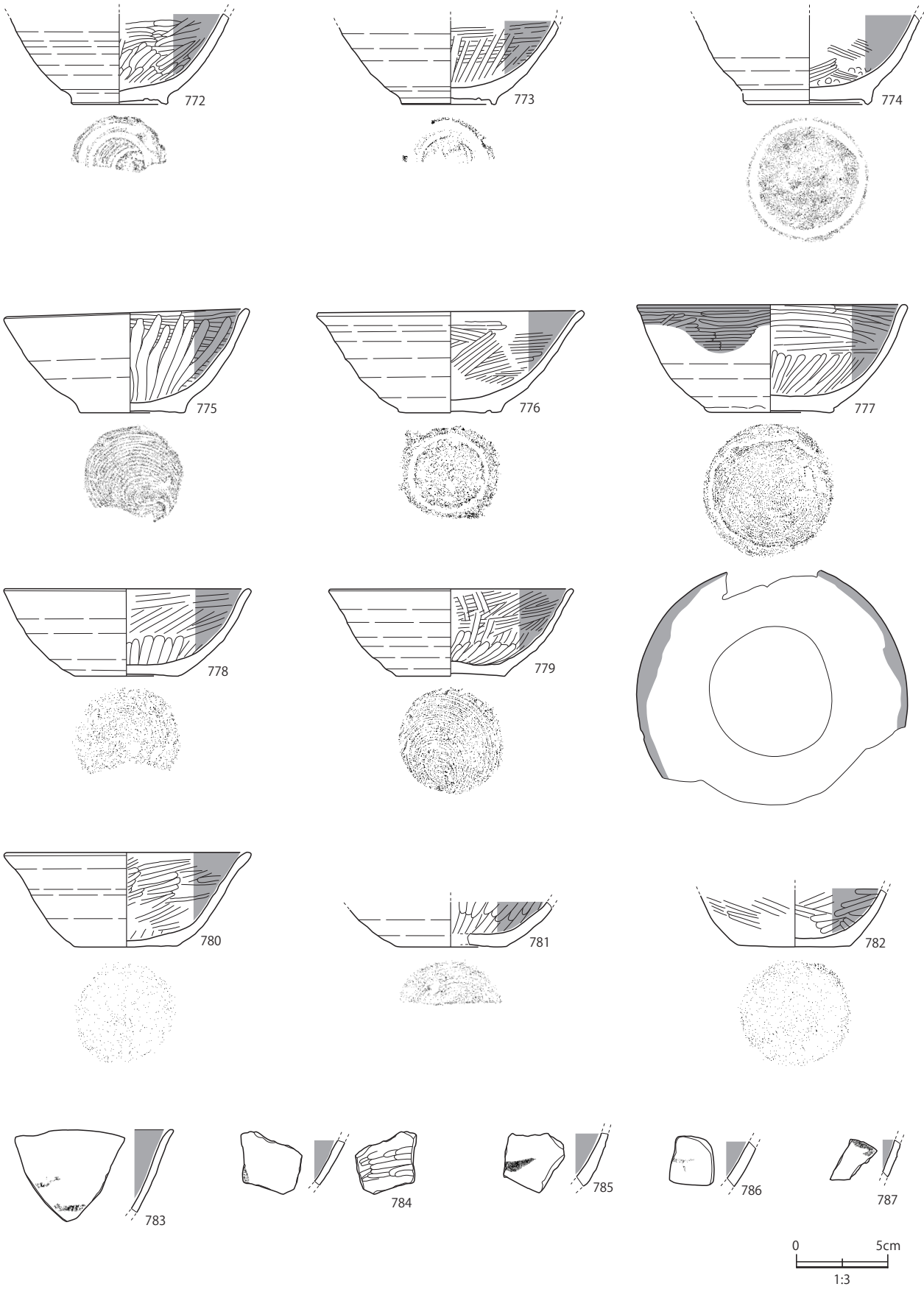
第 164 図　SG6 出土遺物（38）



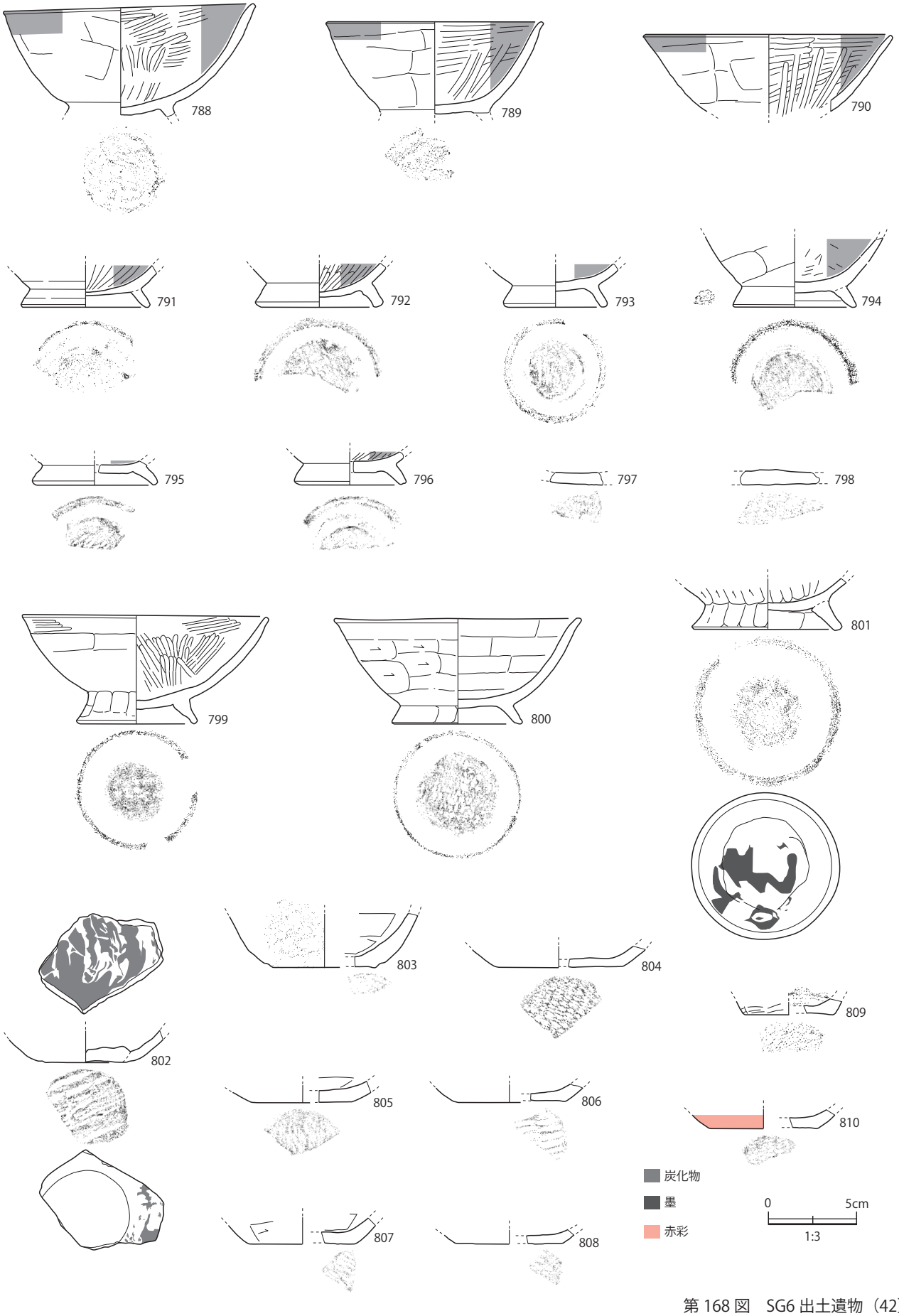
第 165 図　SG6 出土遺物（39）



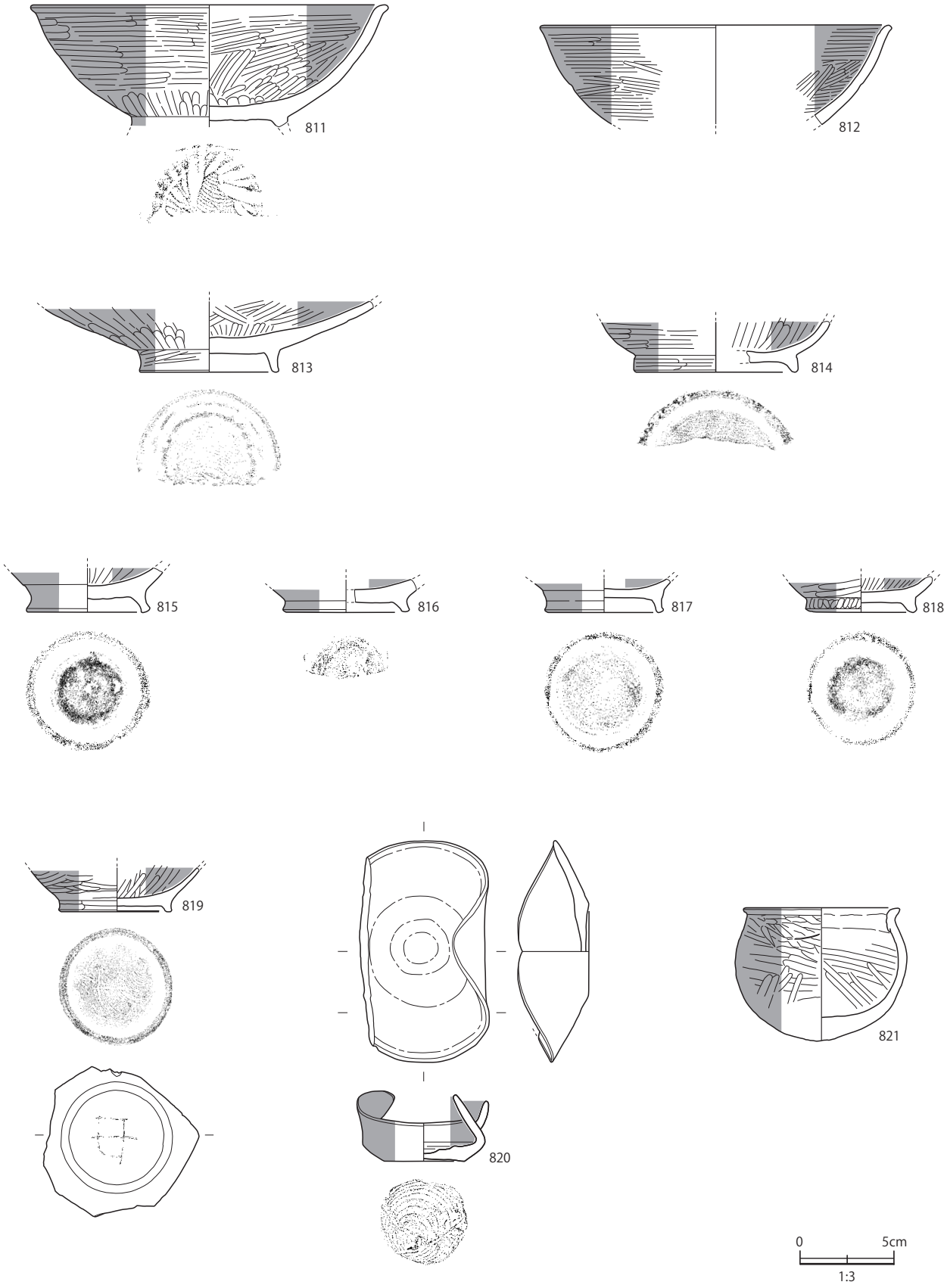
第 166 図　SG6 出土遺物（40）



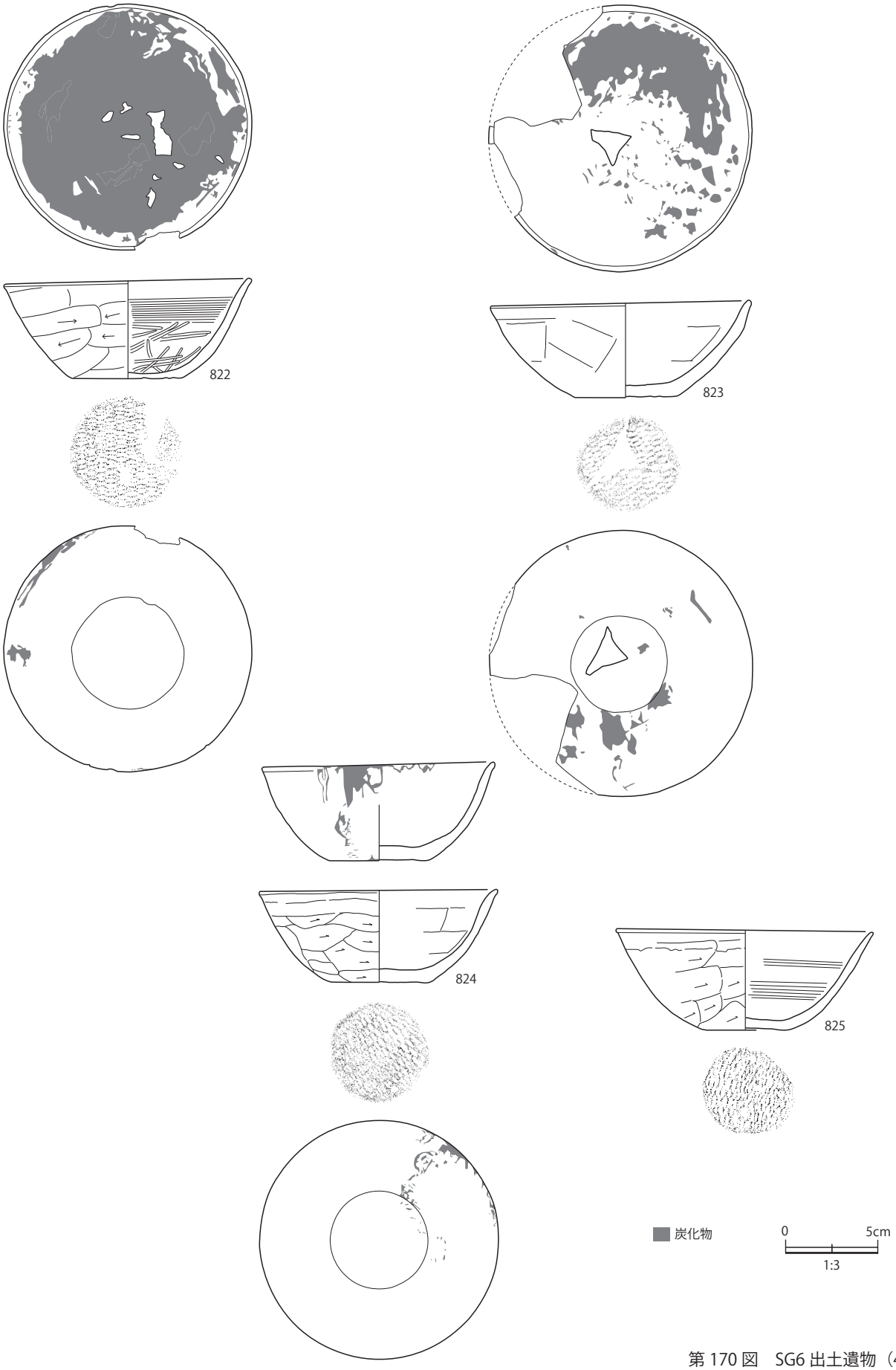
第 167 図　SG6 出土遺物（41）



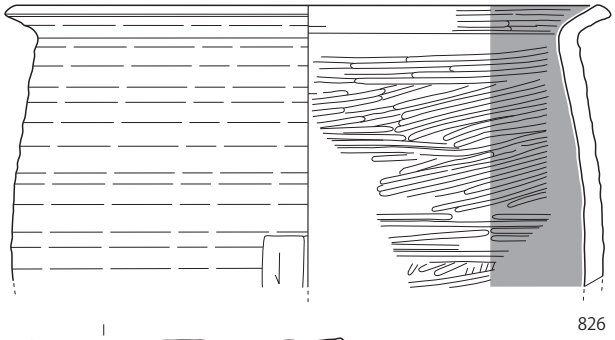
第 168 図　SG6 出土遺物（42）

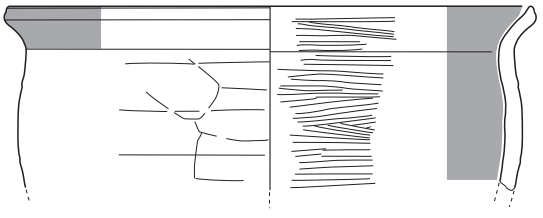


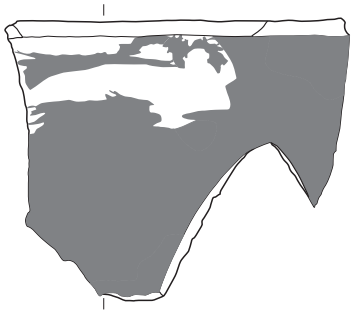
第 169 図　SG6 出土遺物（43）

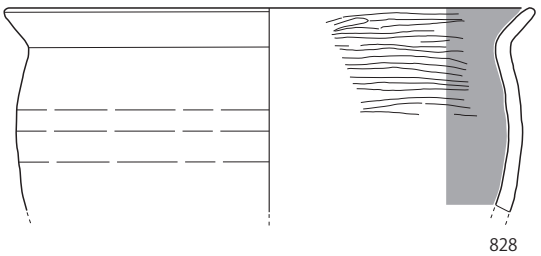


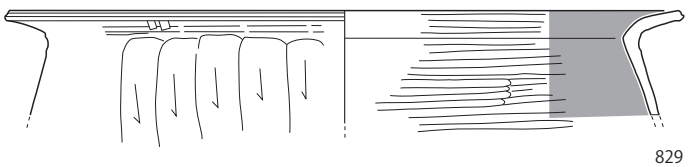
第 170 図　SG6 出土遺物（44）

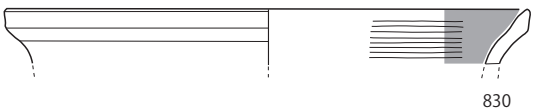


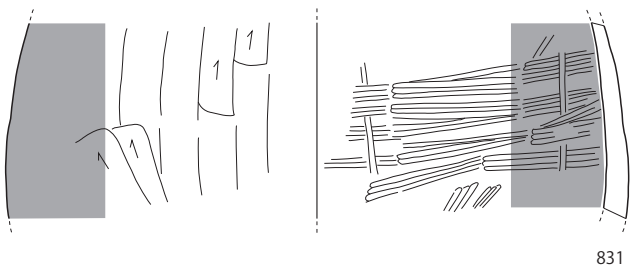


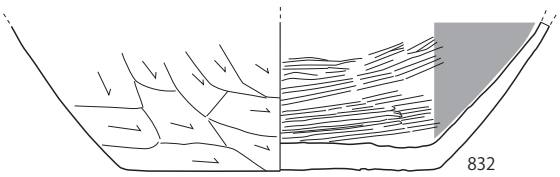


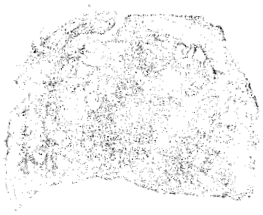










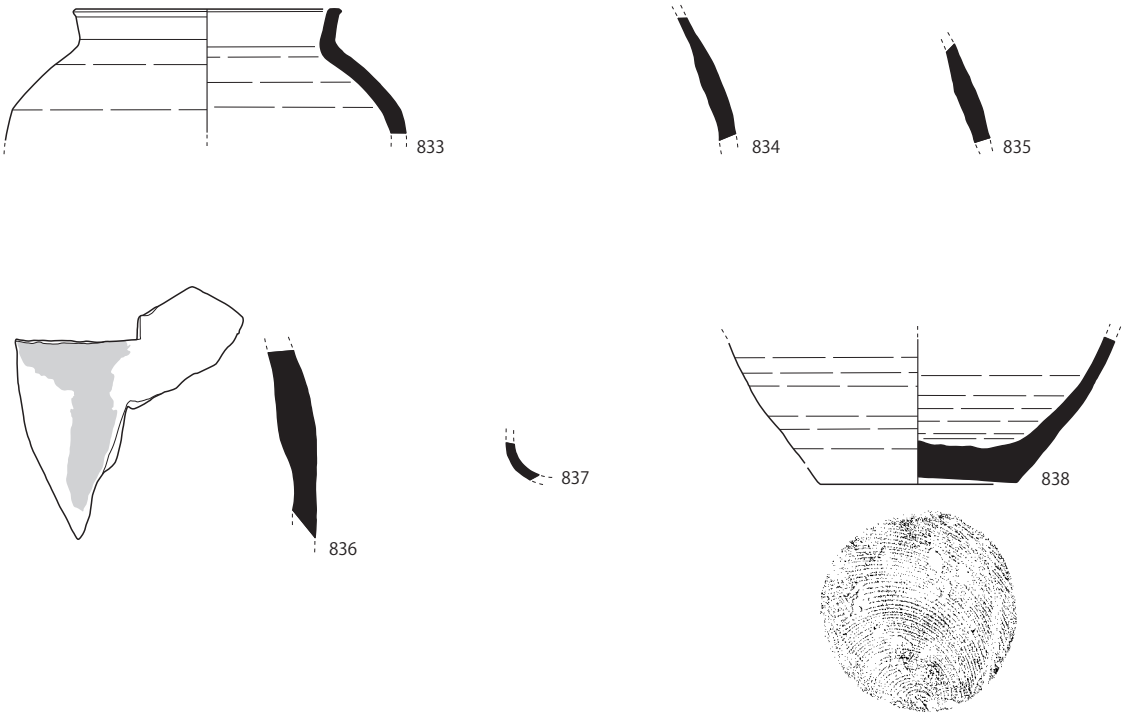


炭化物

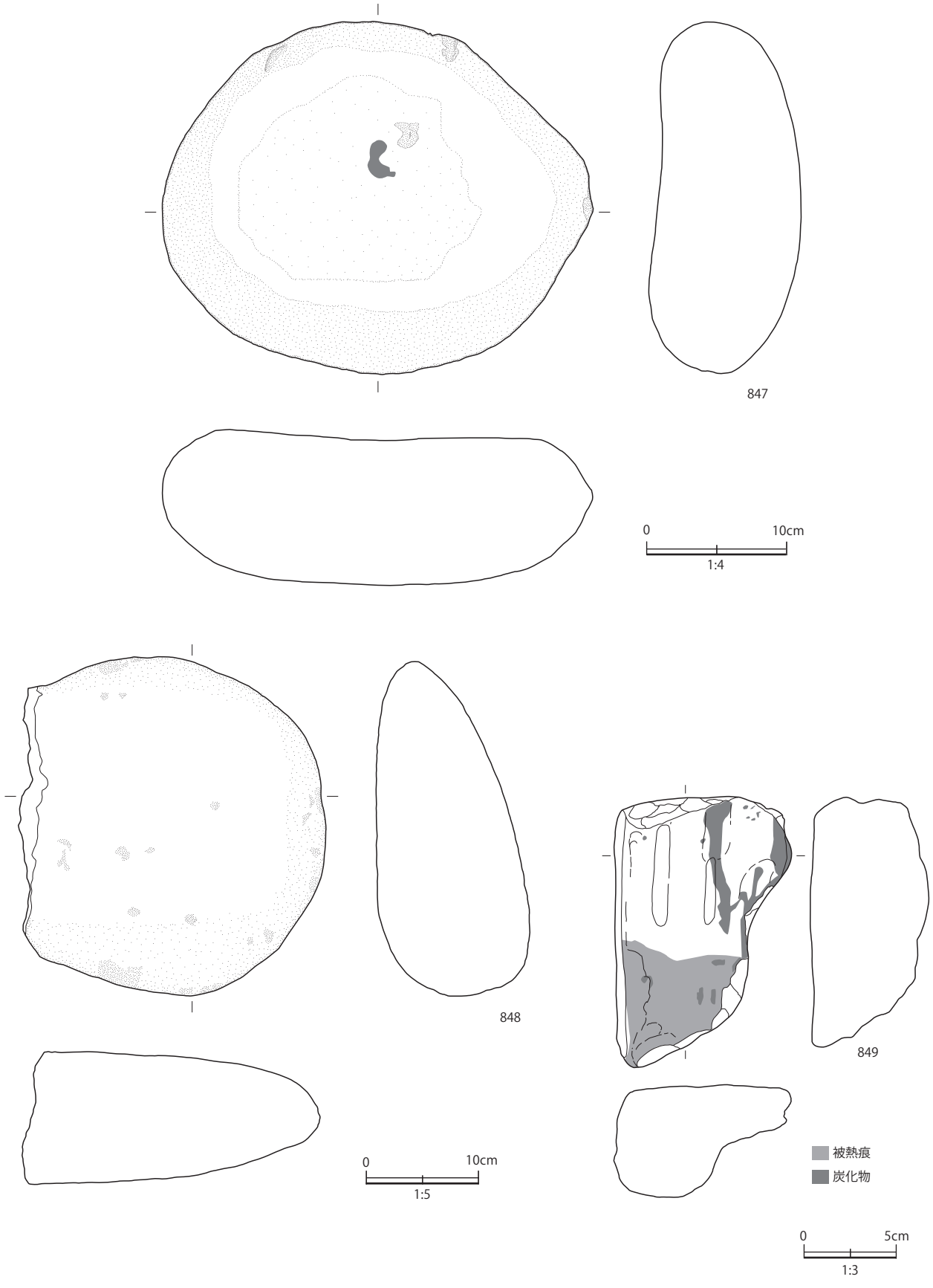
0 5cm

1:3

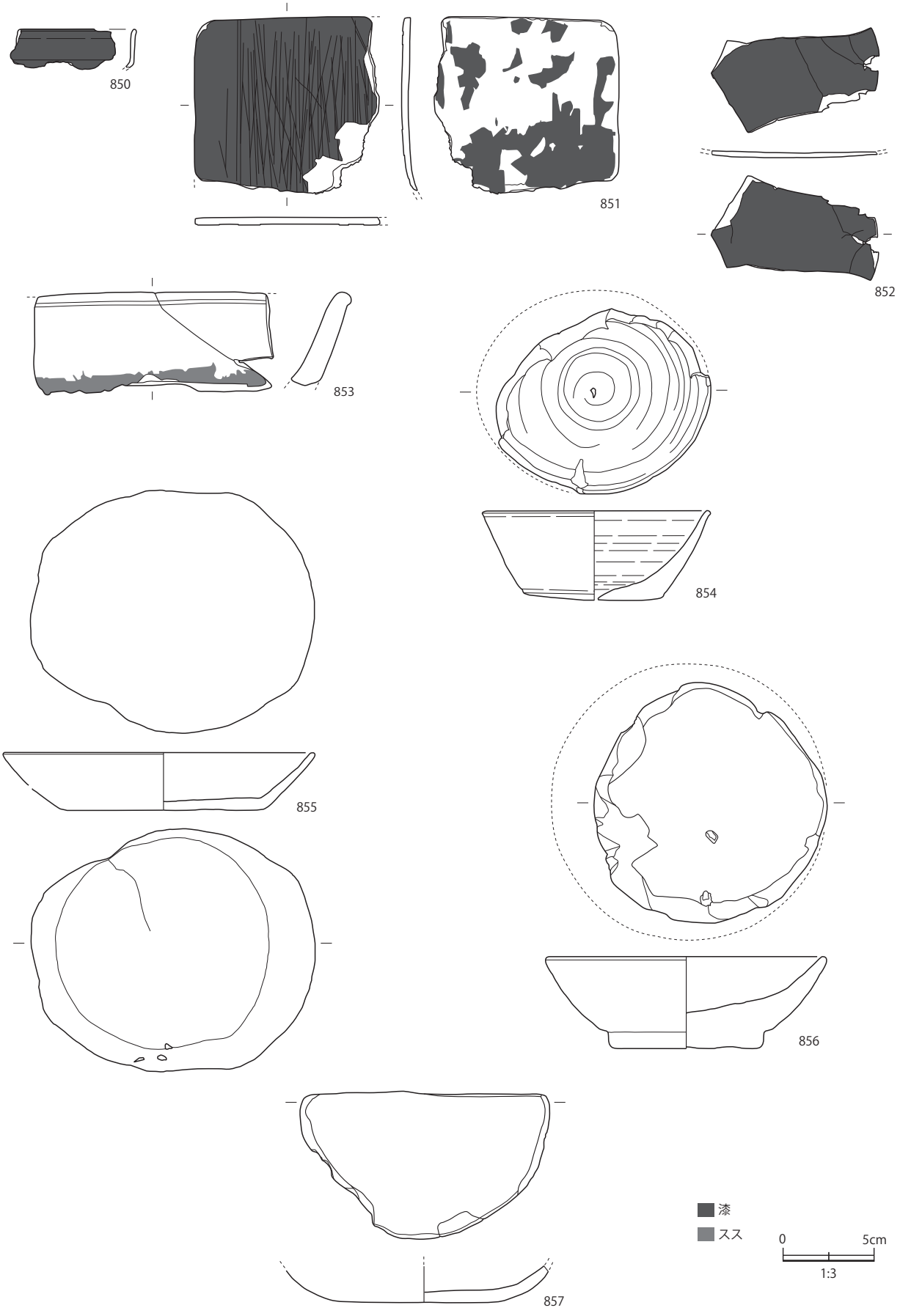
第 171 図　SG6 出土遺物（45）



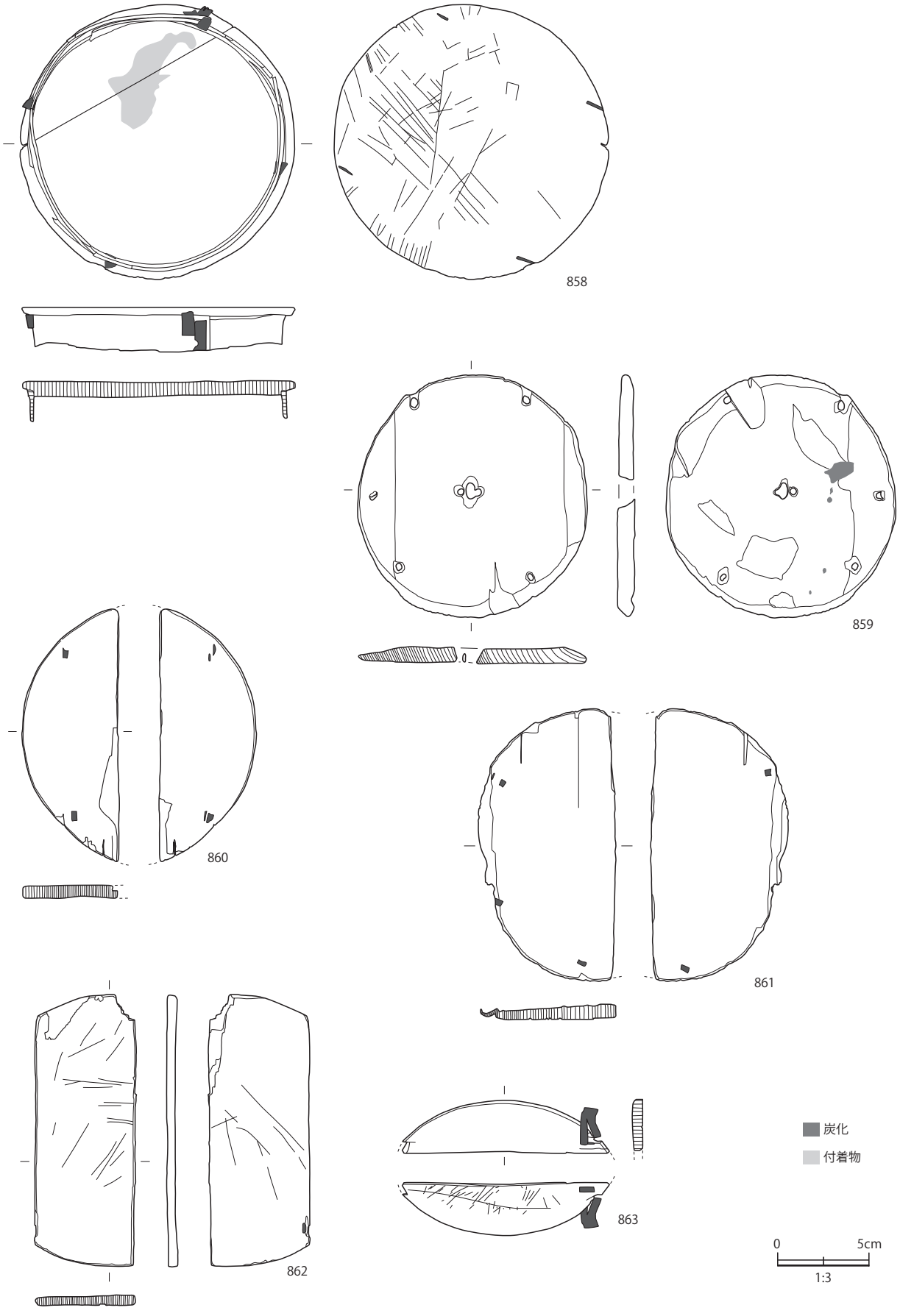
第 172 図　SG6 出土遺物（46）



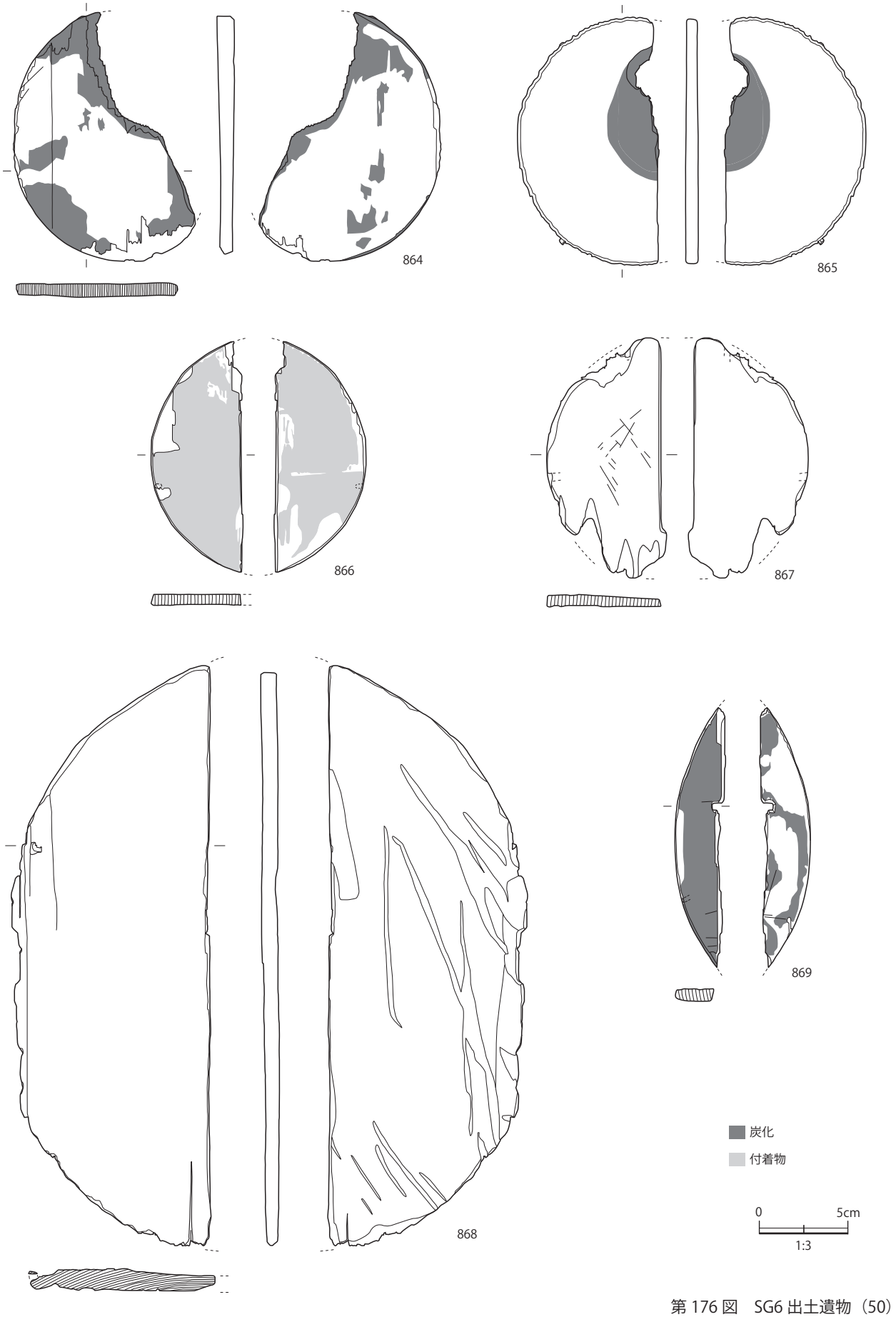
第 173 図　SG6 出土遺物（47）



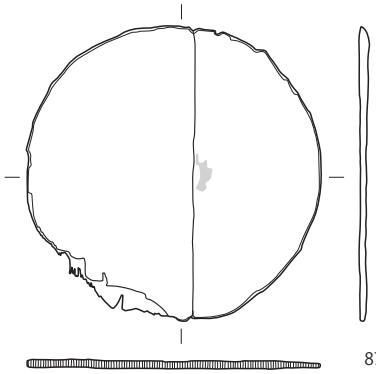
第 174 図　SG6 出土遺物（48）

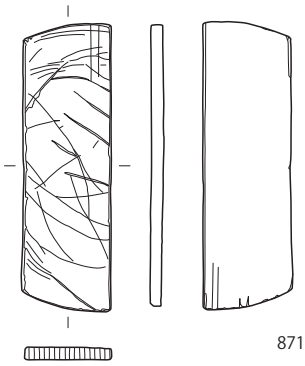


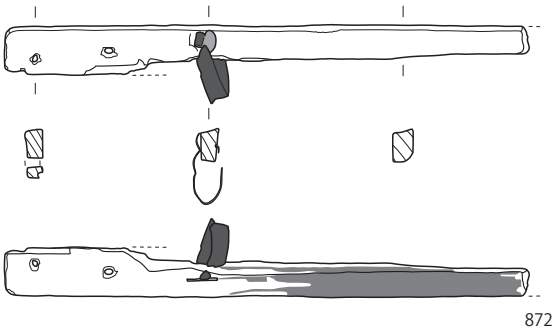
第 175 図　SG6 出土遺物（49）

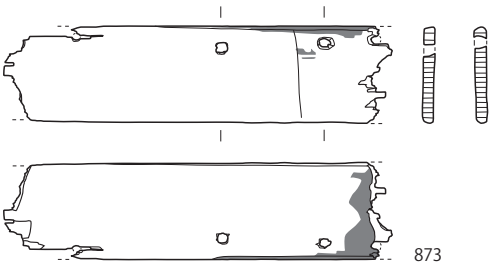


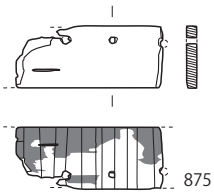
第 176 図　SG6 出土遺物（50）

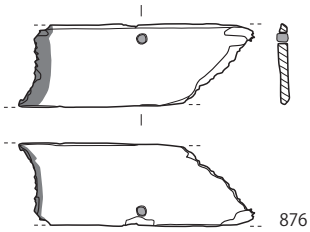


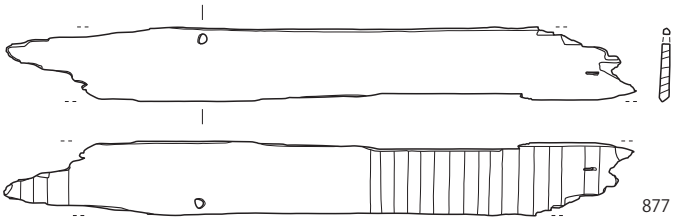


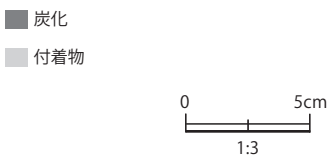




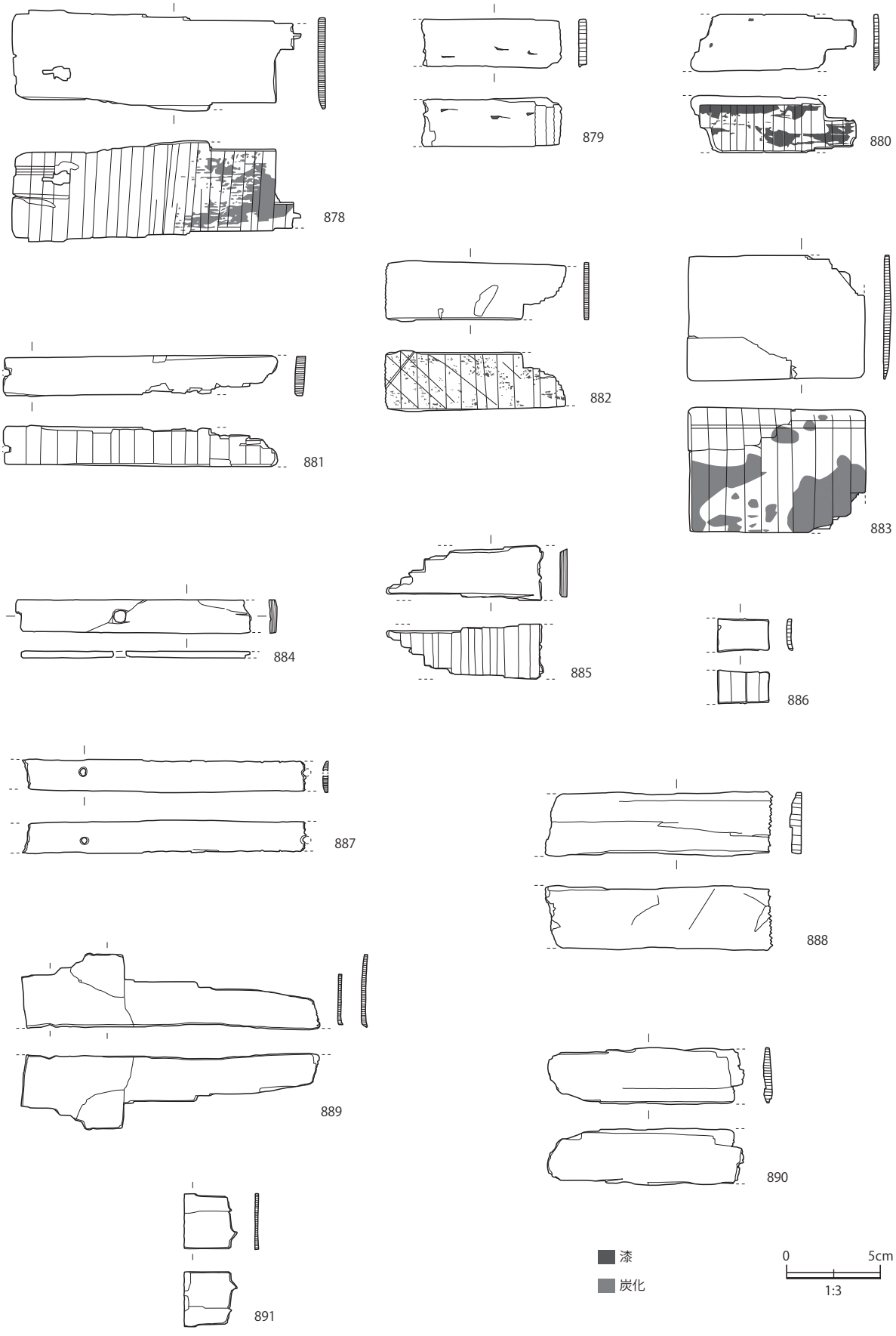




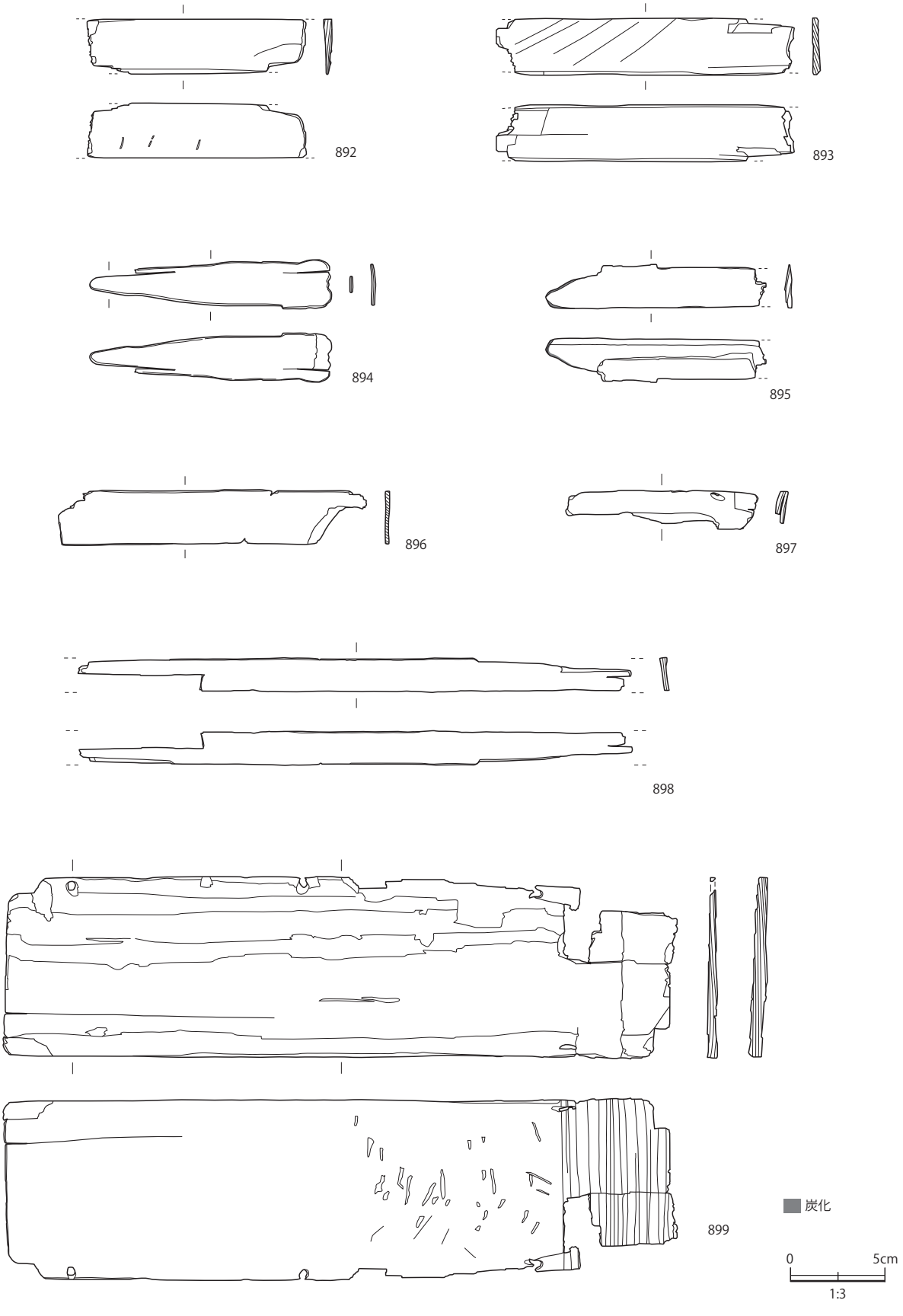




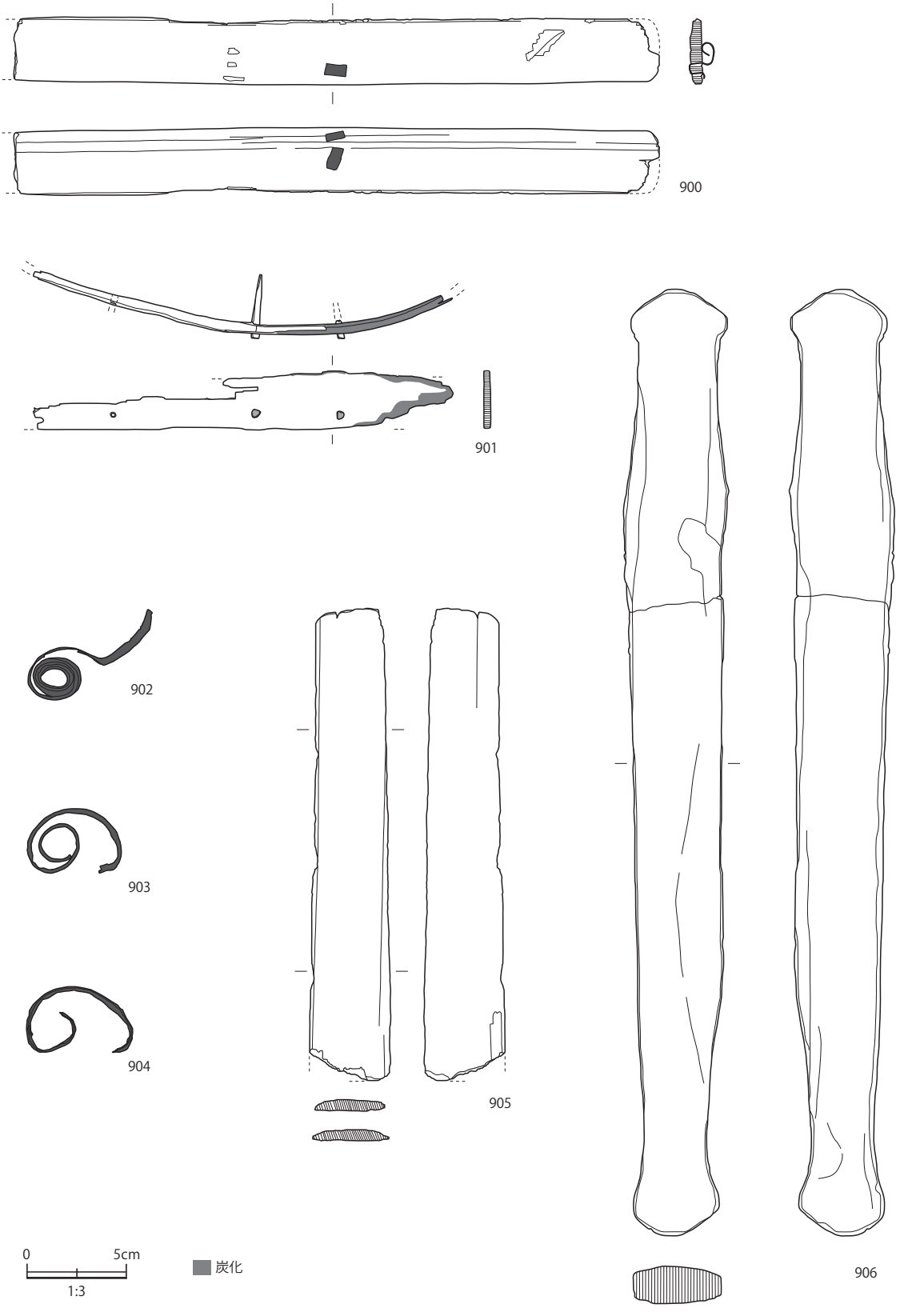
第 177 図　SG6 出土遺物（51）



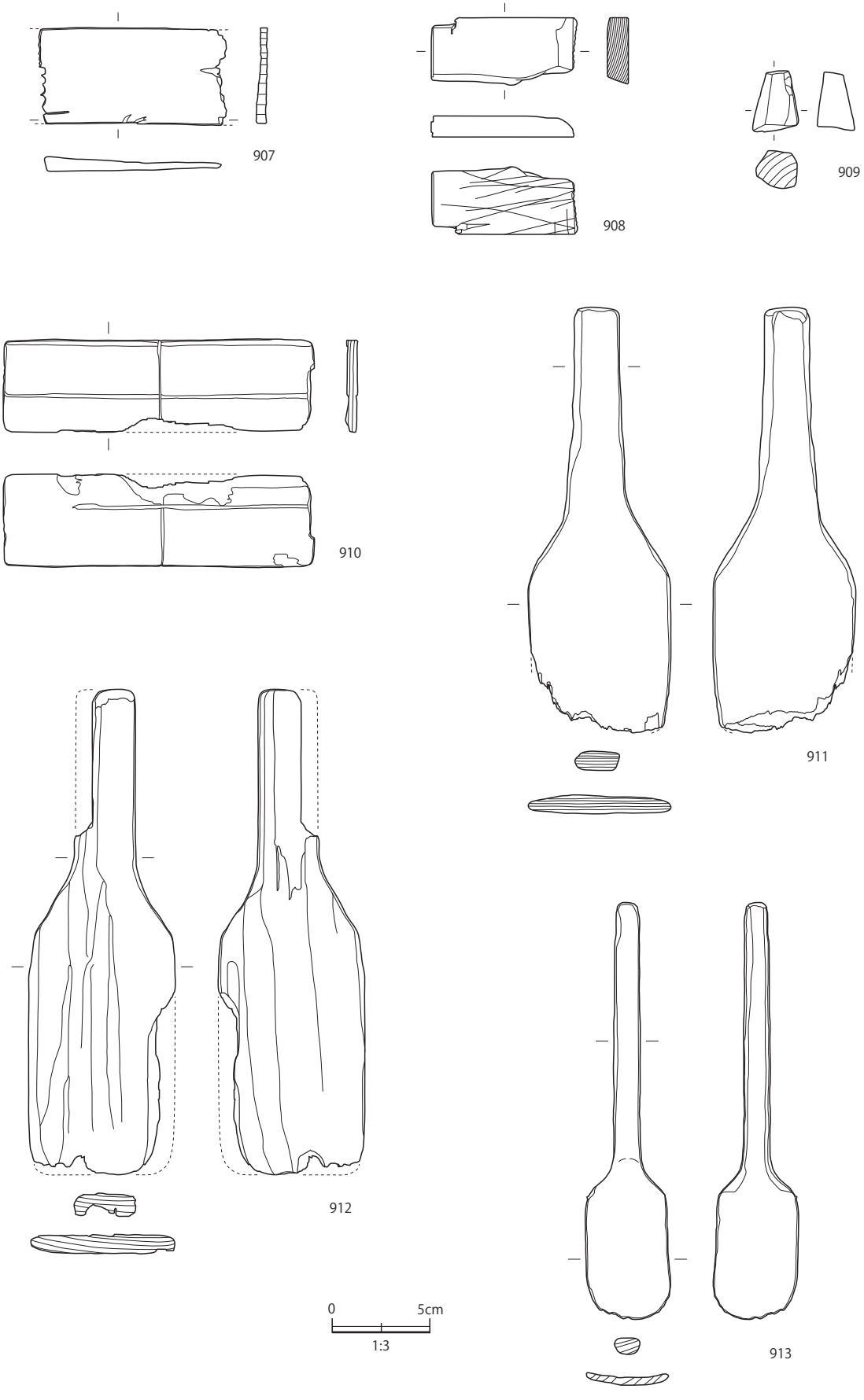
第 178 図　SG6 出土遺物（52）



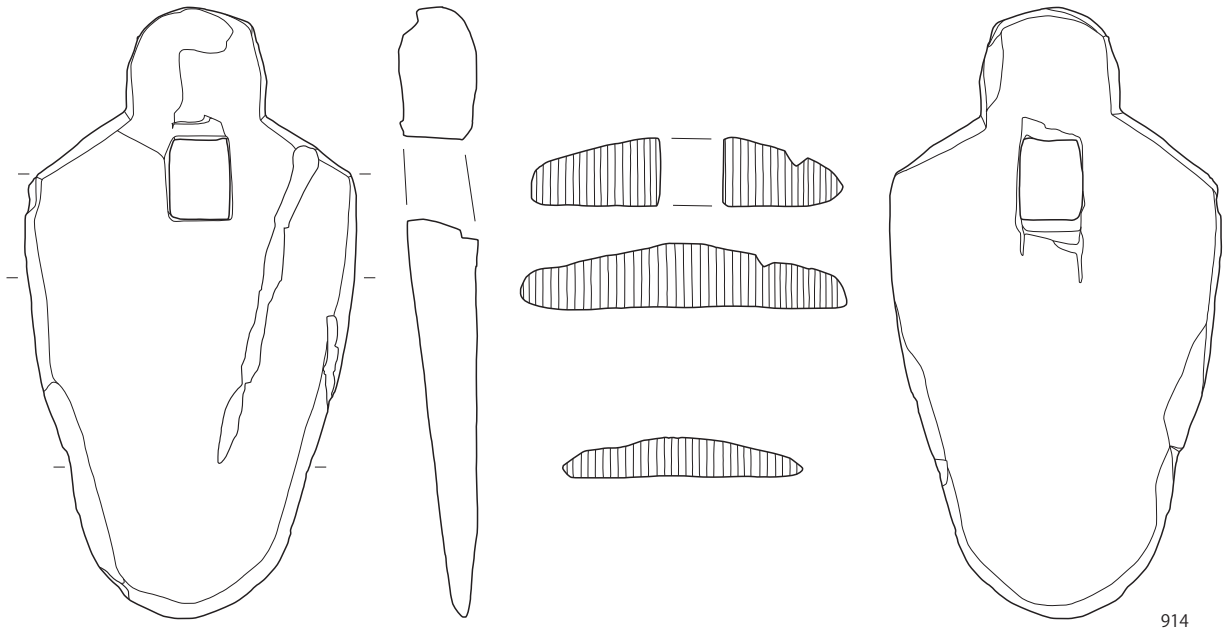
第 179 図　SG6 出土遺物（53）

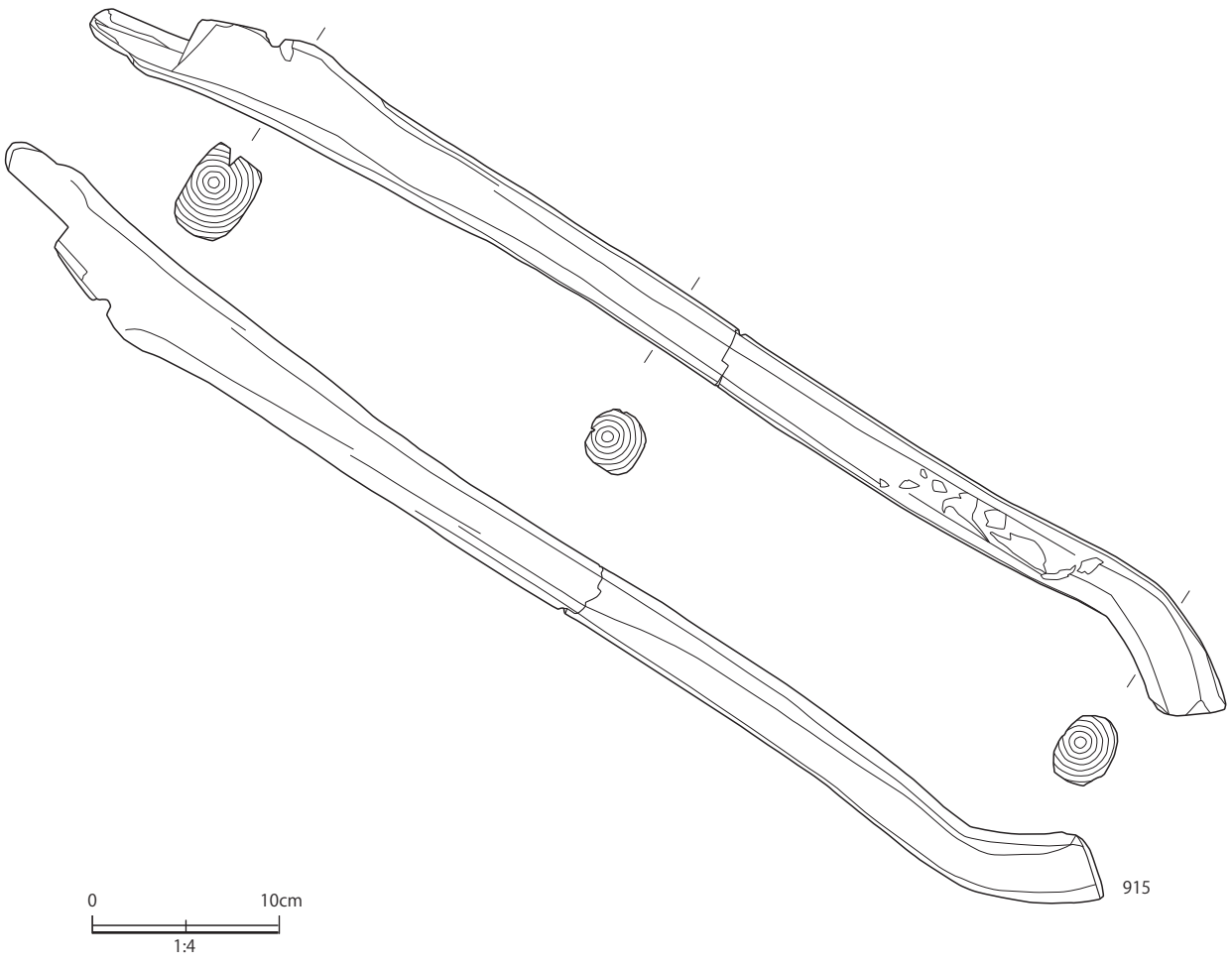


第 180 図　SG6 出土遺物（54）

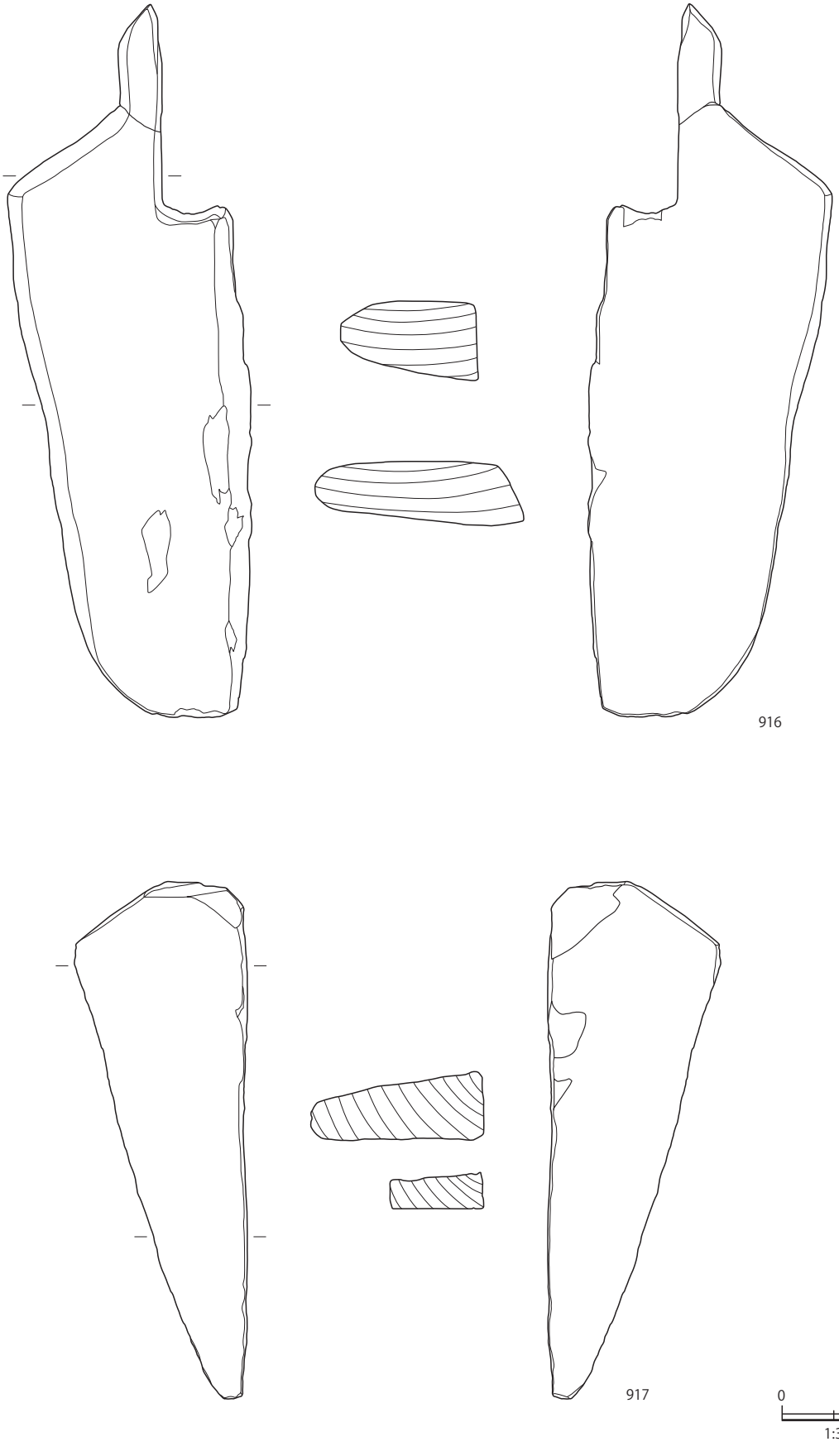


第 181 図　SG6 出土遺物（55）

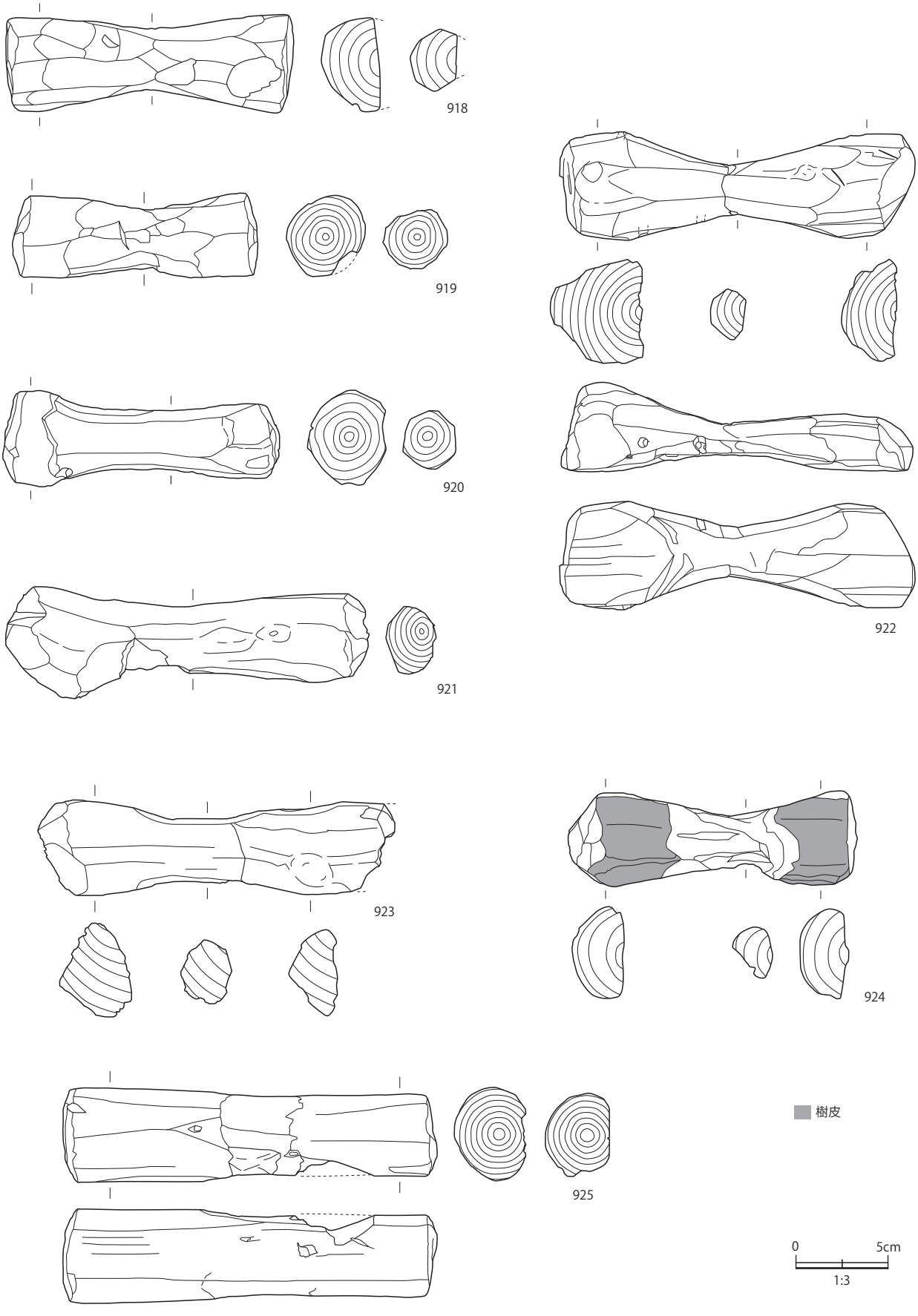




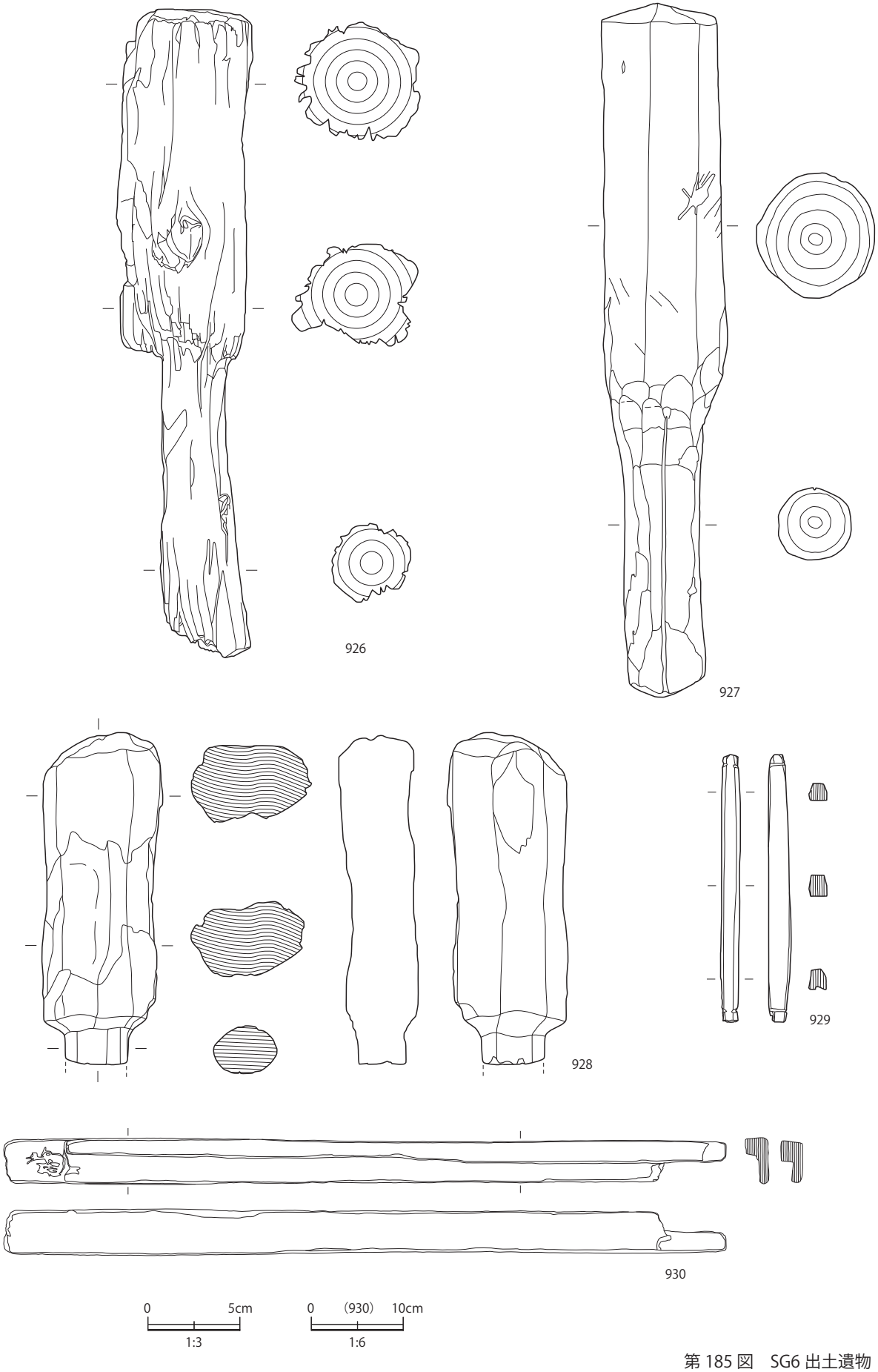
第 182 図　SG6 出土遺物（56）



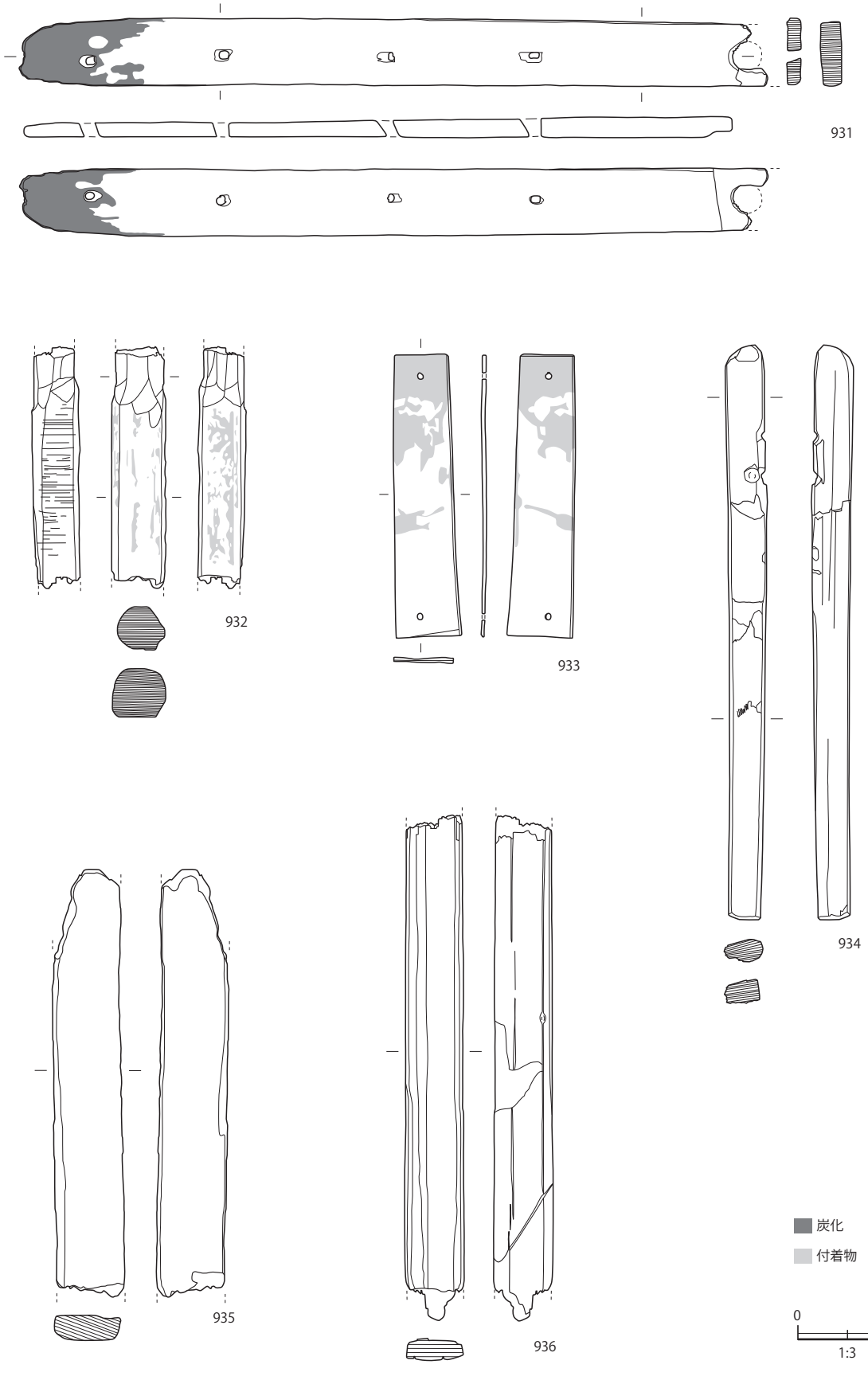
第 183 図　SG6 出土遺物（57）



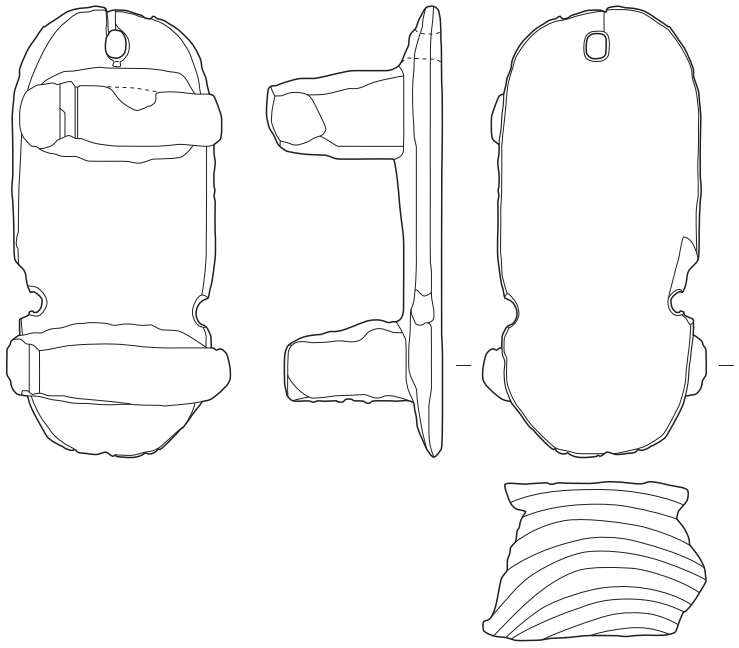
第 184 図　SG6 出土遺物（58）

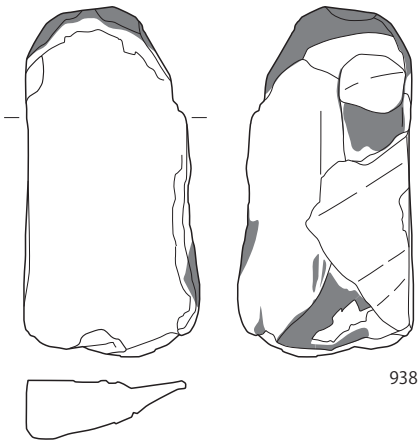


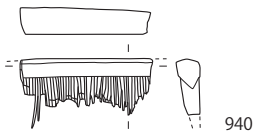
第 185 図　SG6 出土遺物（59）

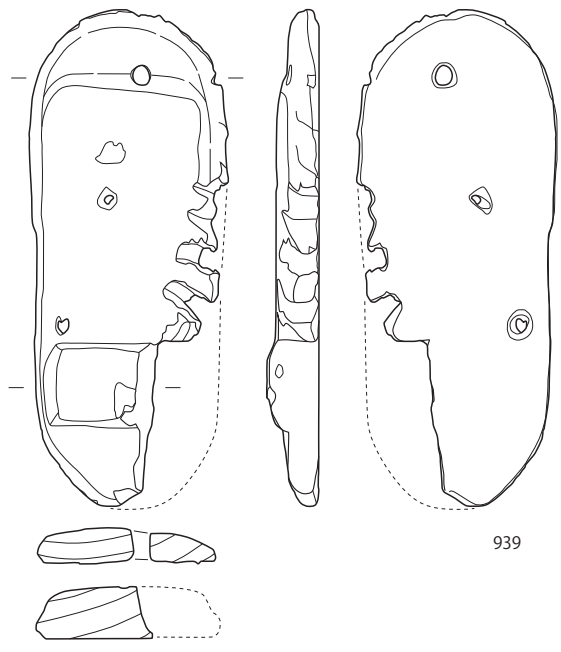


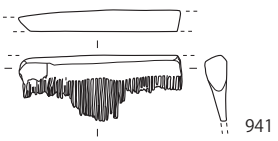
第 186 図　SG6 出土遺物（60）

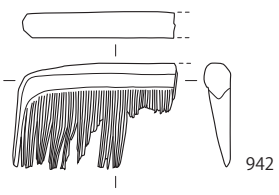








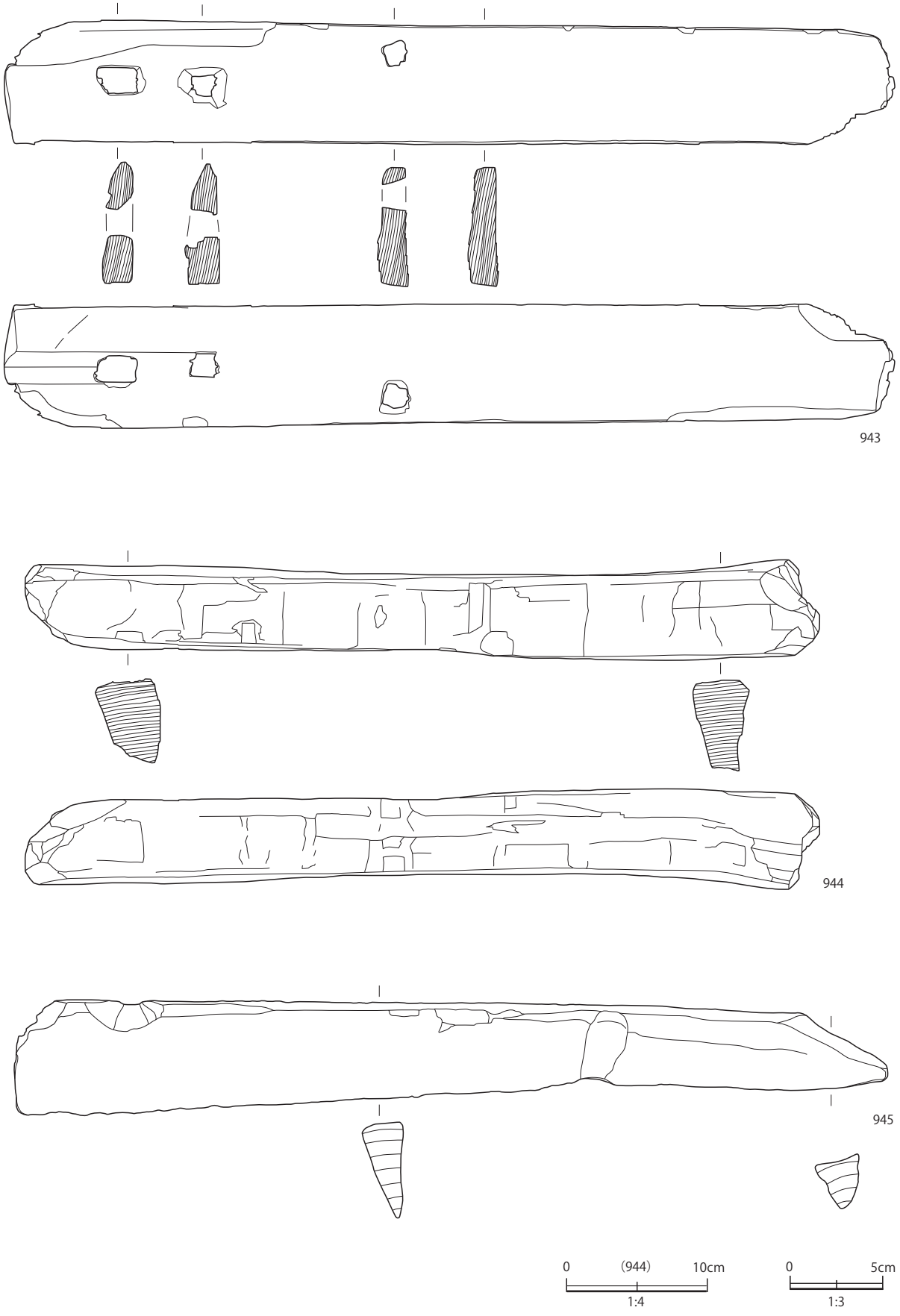




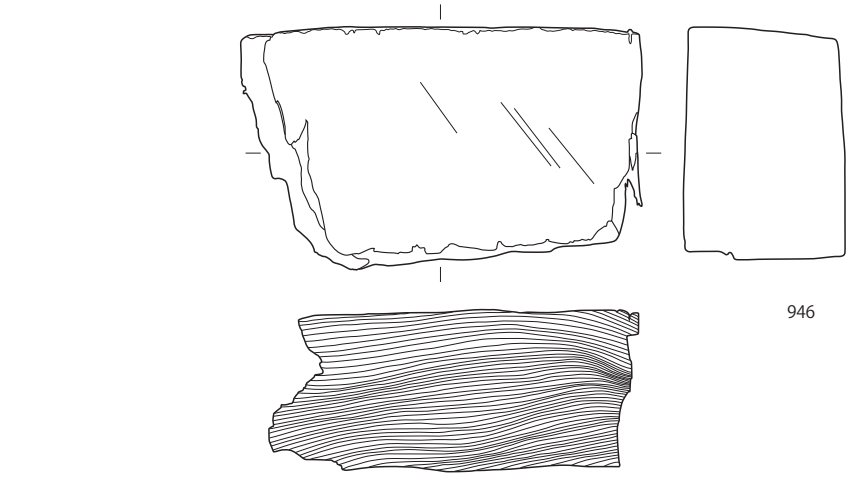
炭化

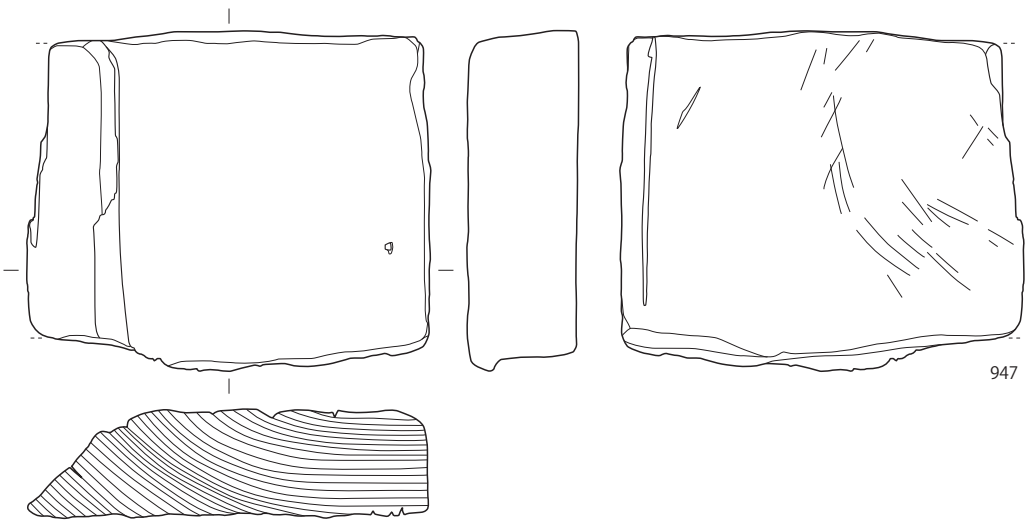
0 5cm
1:3

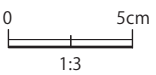
第 187 図　SG6 出土遺物（61）



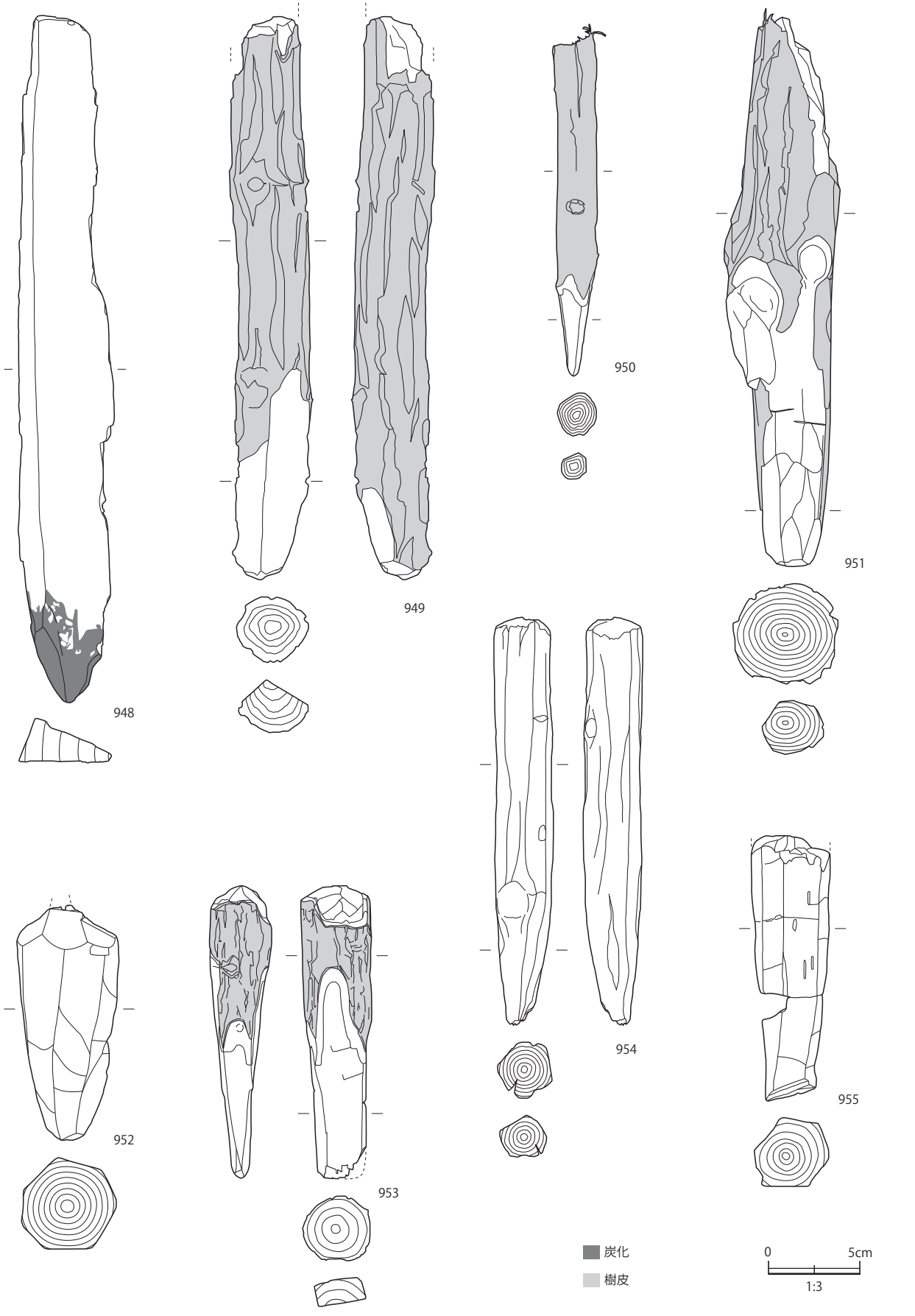
第 188 図　SG6 出土遺物（62）



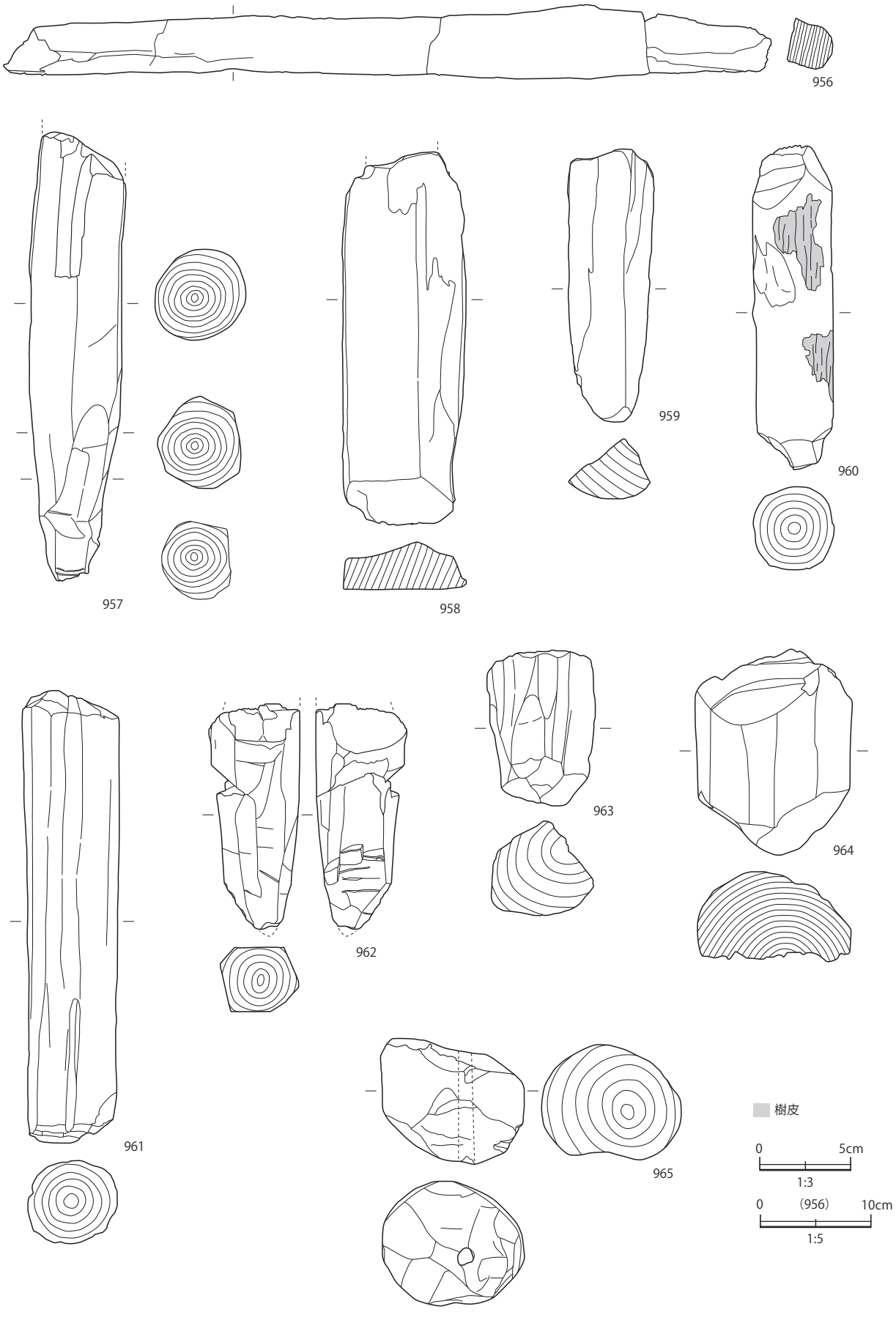




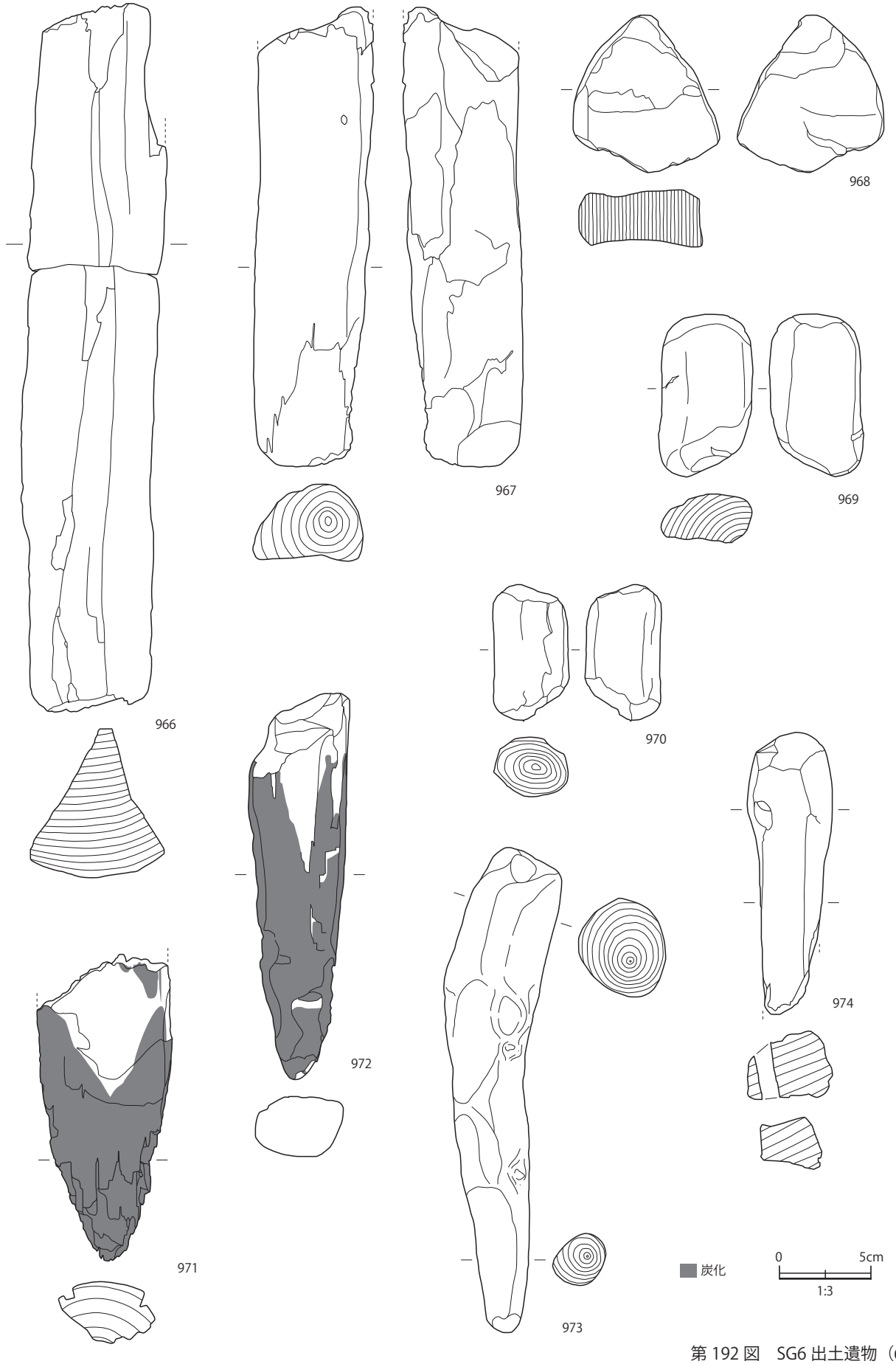
第 189 図　SG6 出土遺物（63）



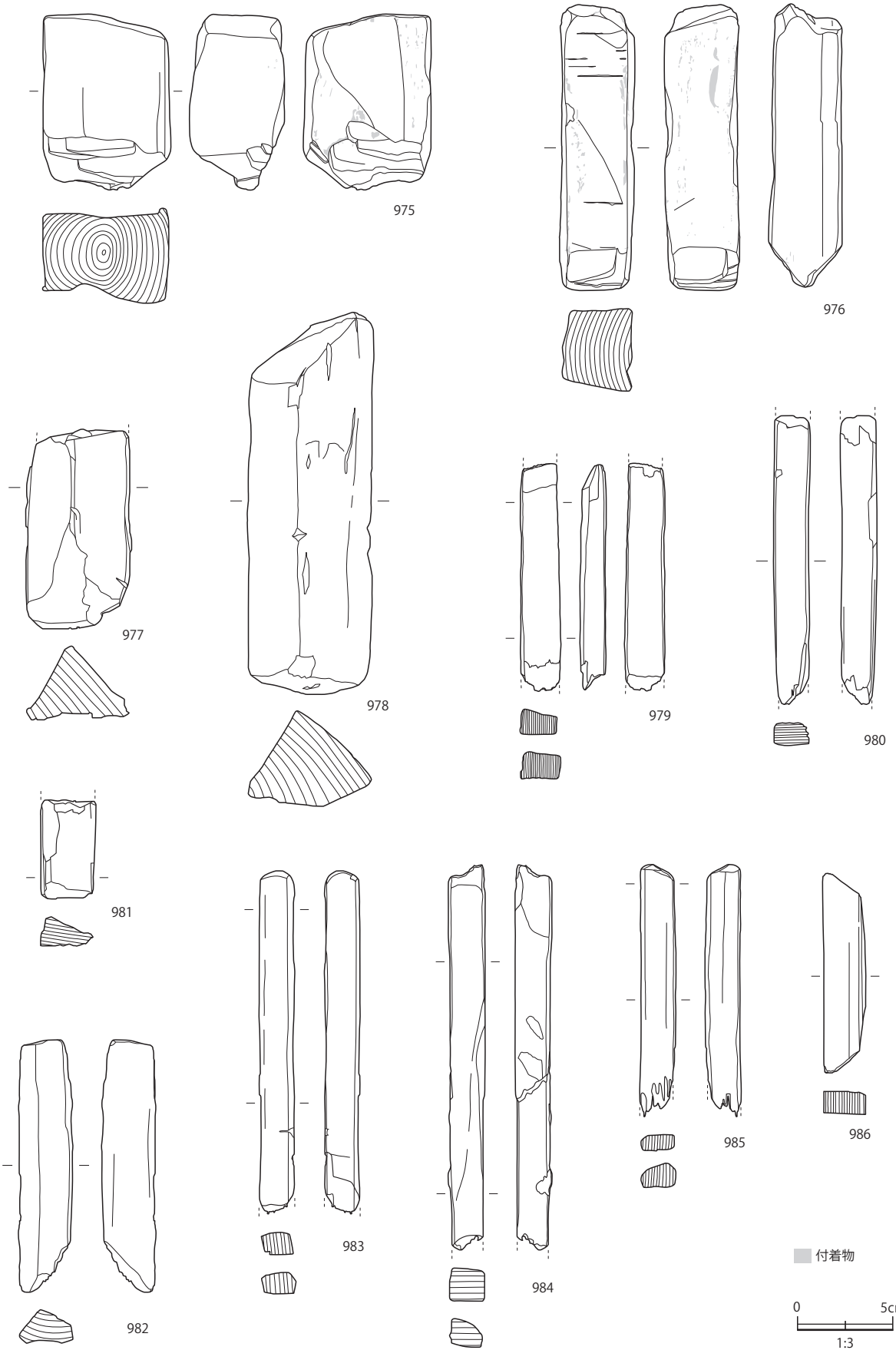
第 190 図　SG6 出土遺物（64）



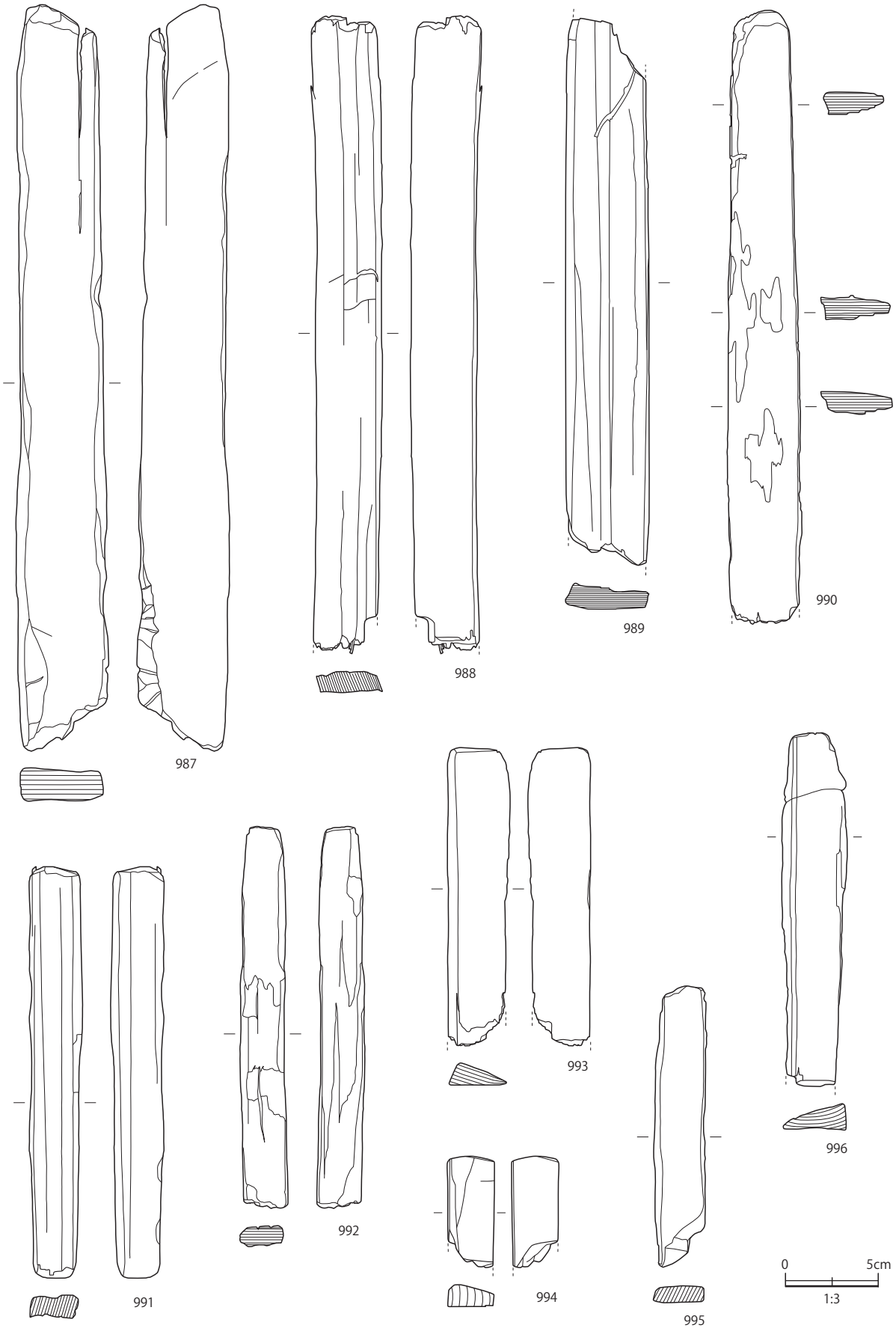
第 191 図　SG6 出土遺物（65）



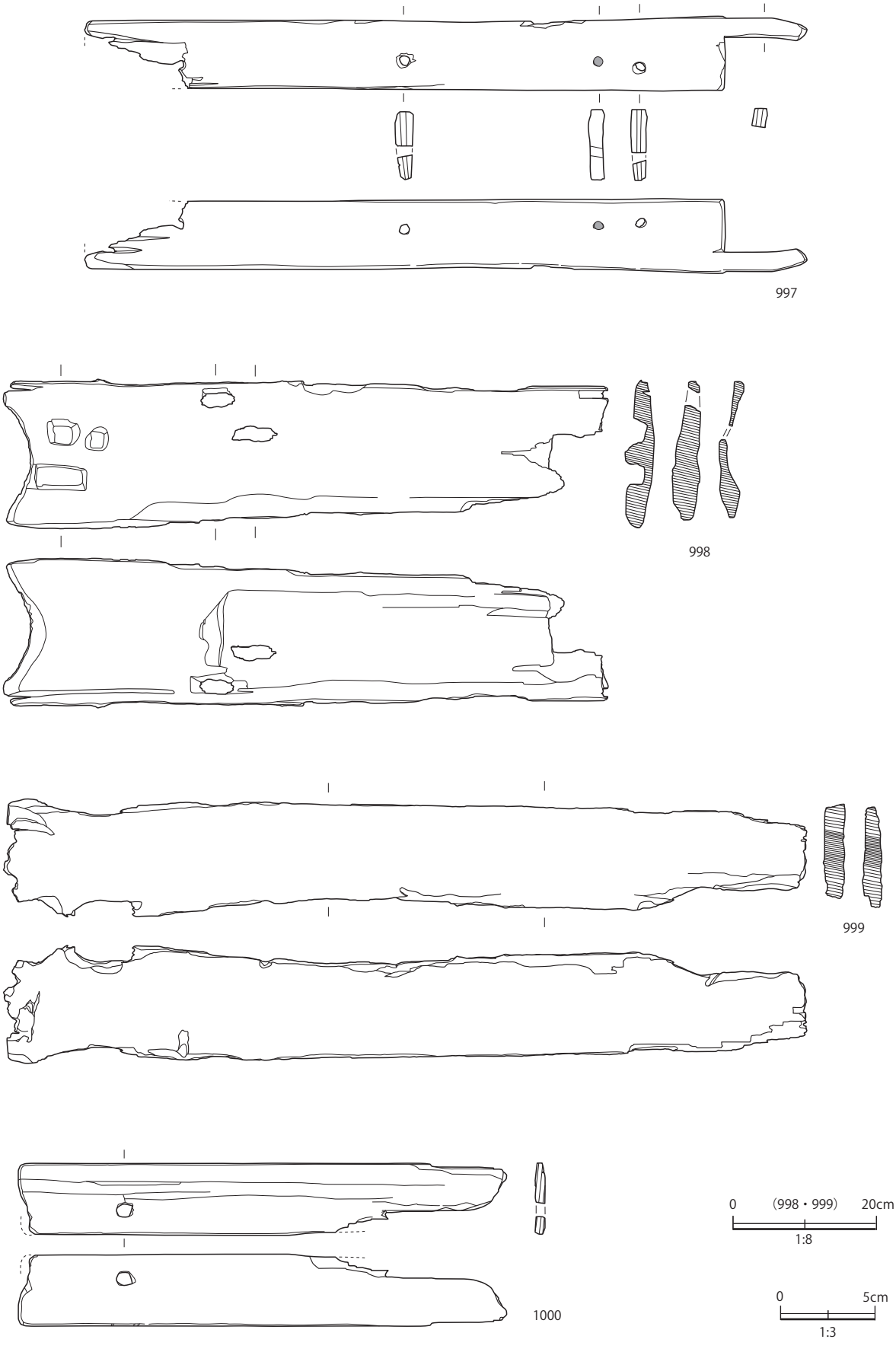
第 192 図　SG6 出土遺物（66）



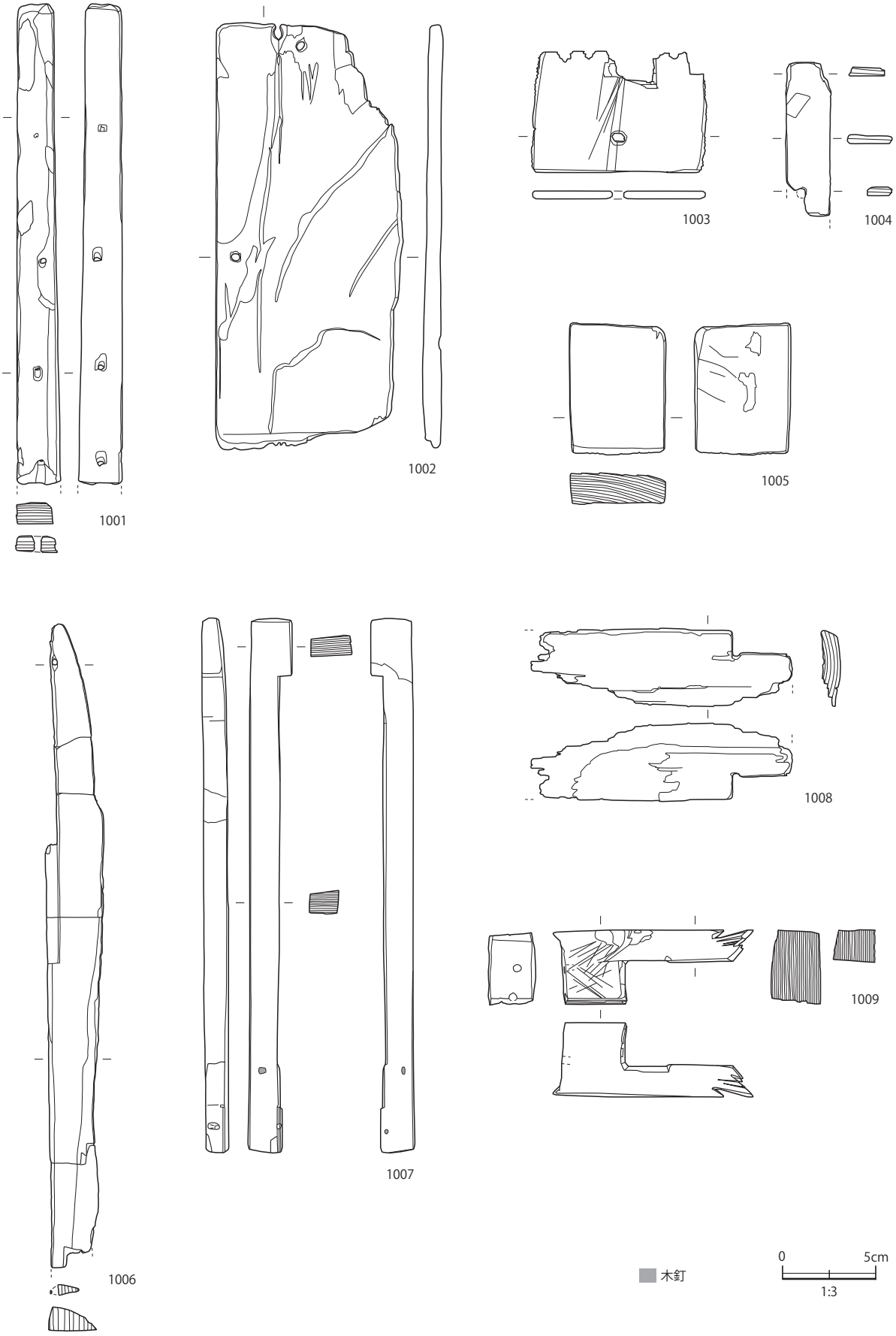
第 193 図　SG6 出土遺物（67）



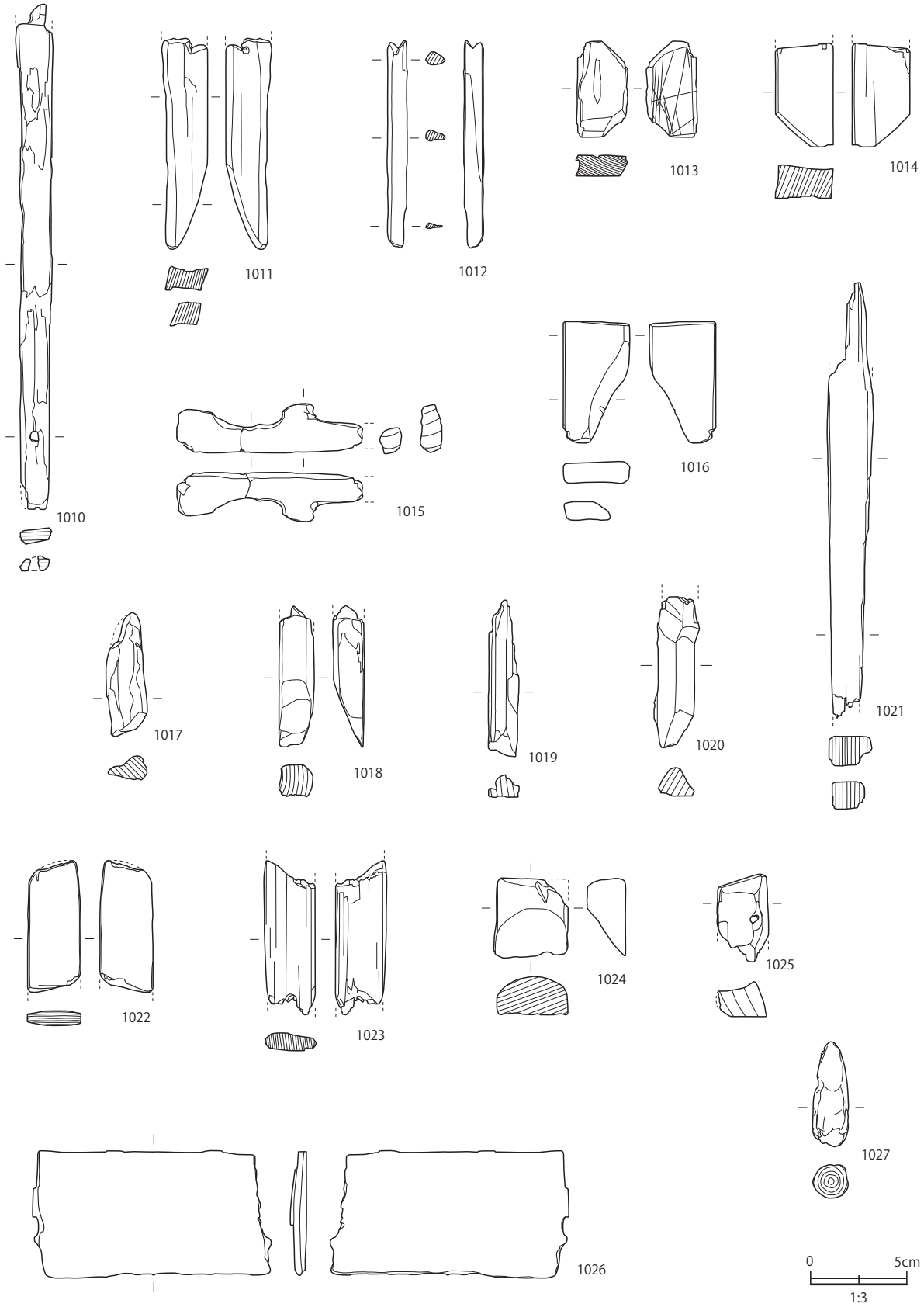
第 194 図　SG6 出土遺物（68）



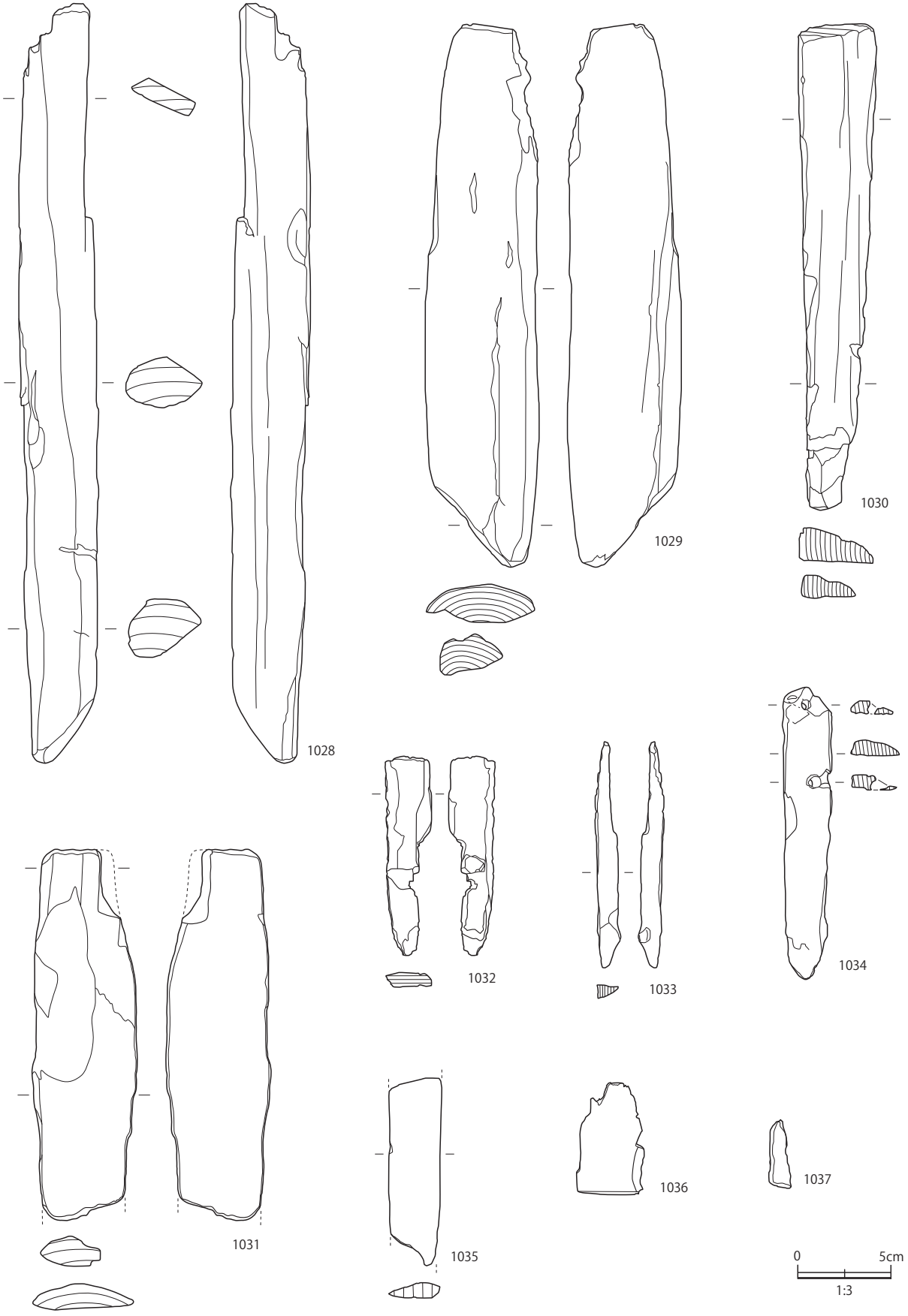
第 195 図　SG6 出土遺物（69）



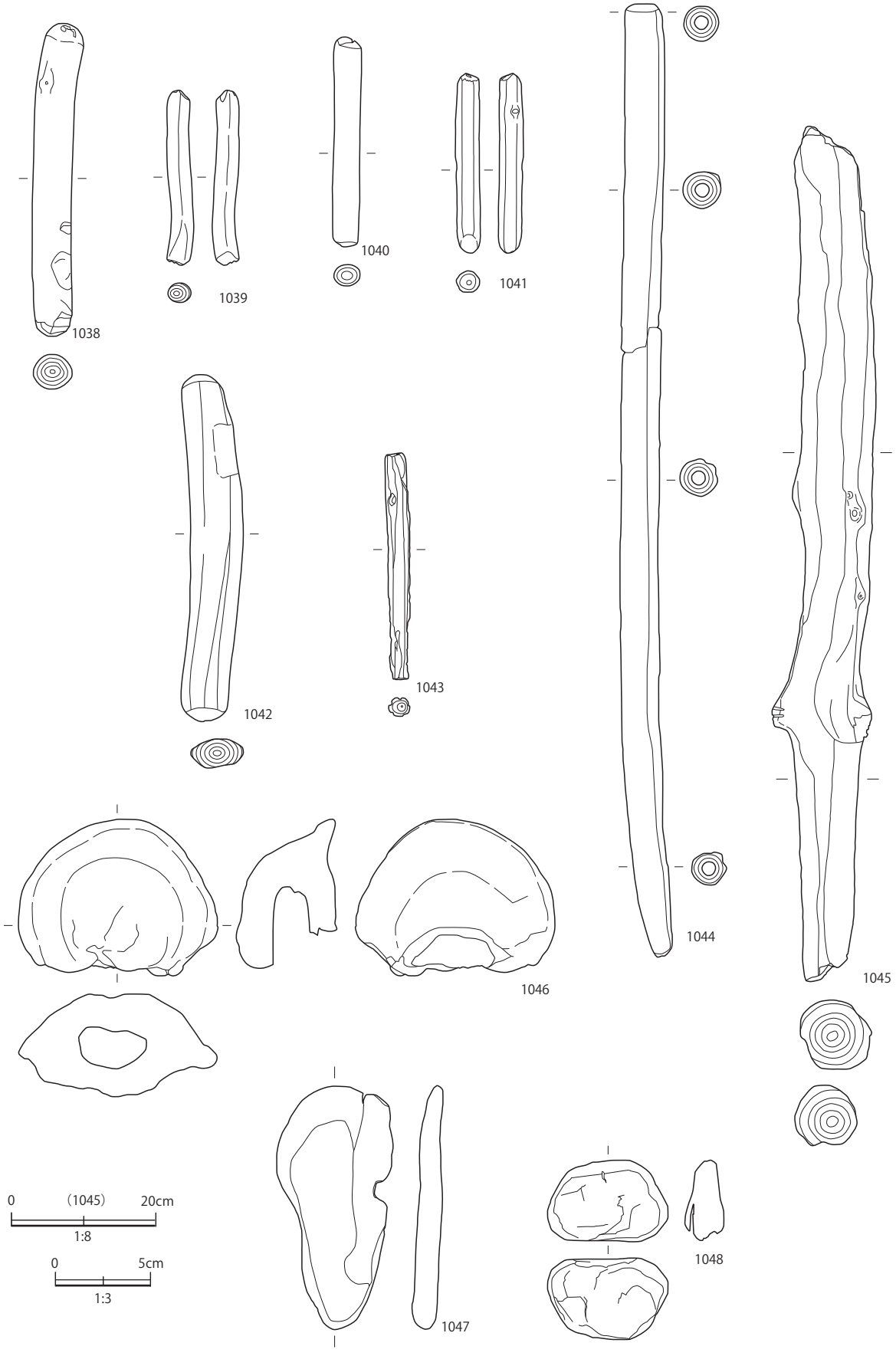
第 196 図　SG6 出土遺物（70）



第 197 図　SG6 出土遺物（71）

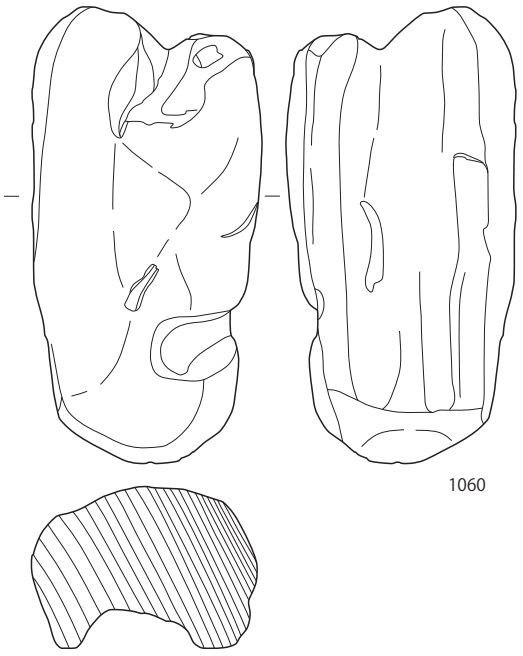


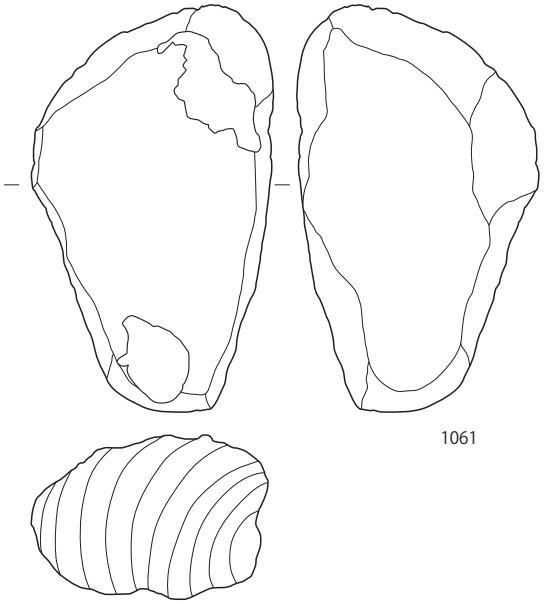
第 198 図　SG6 出土遺物（72）

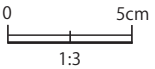


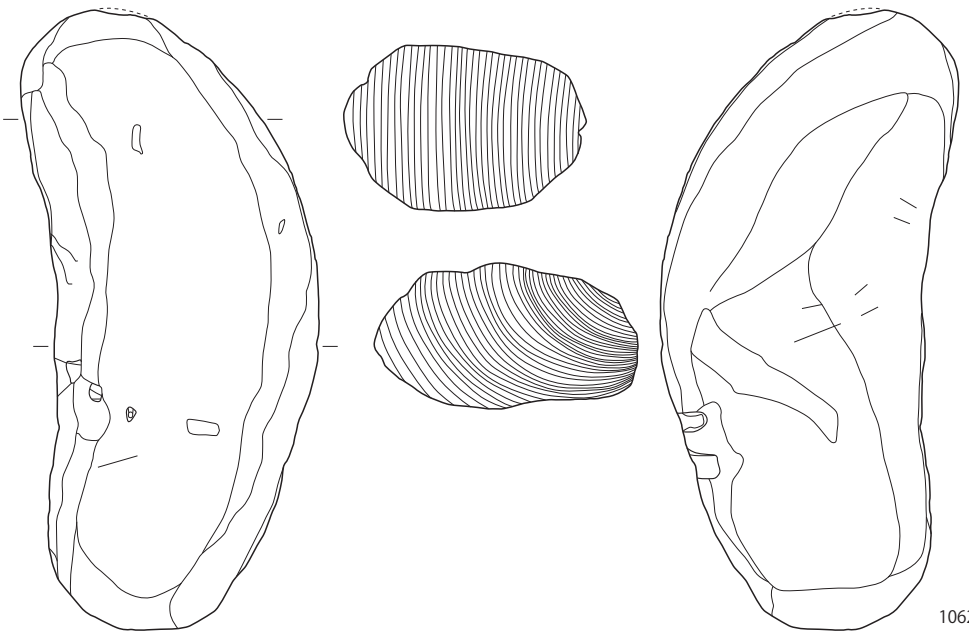
第 199 図　SG6 出土遺物（73）

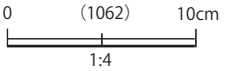
第 200 図　SG6 出土遺物（74）



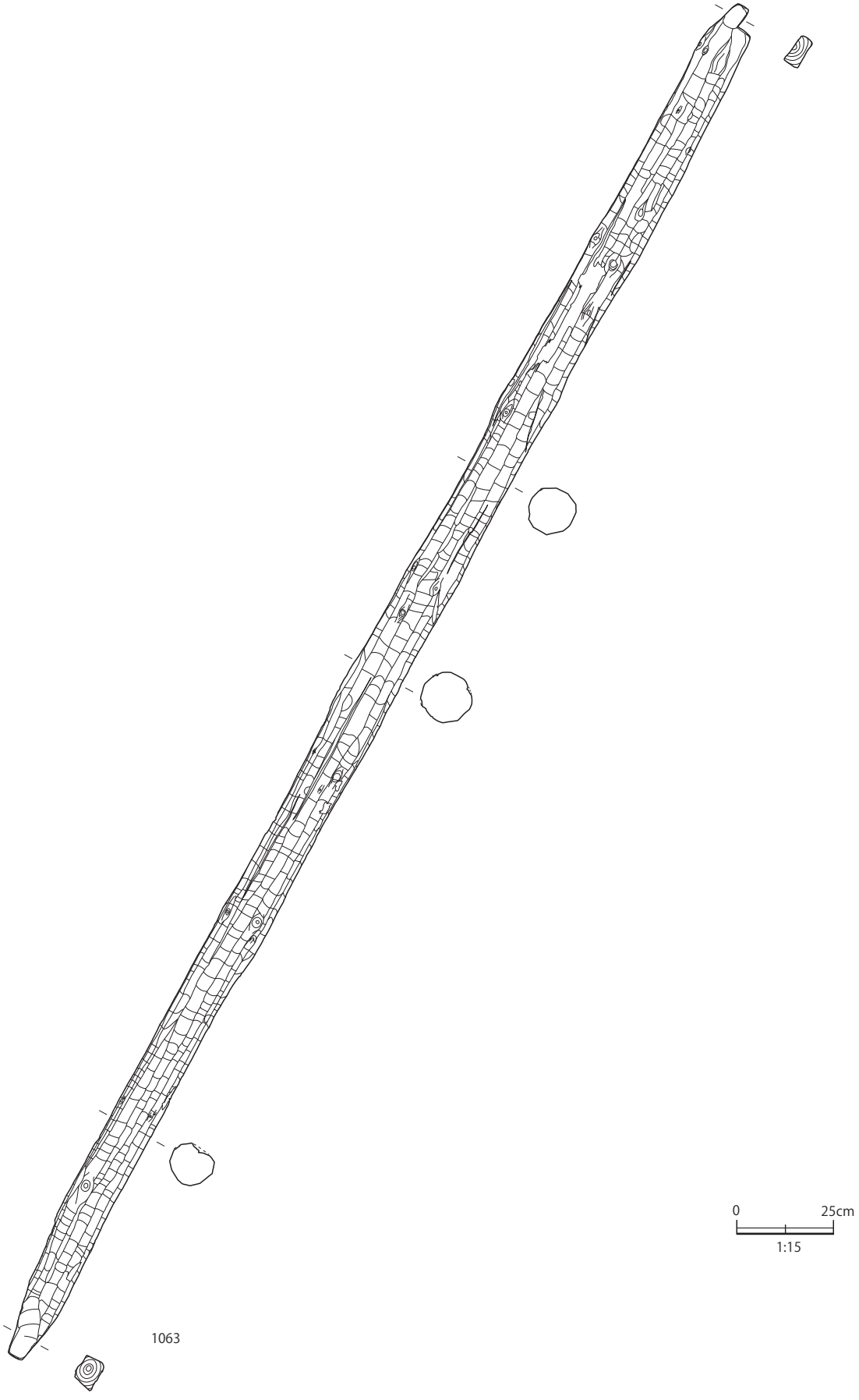




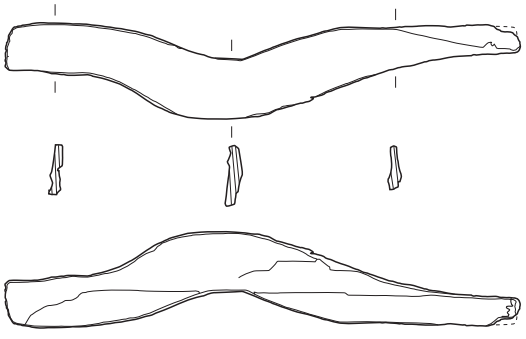




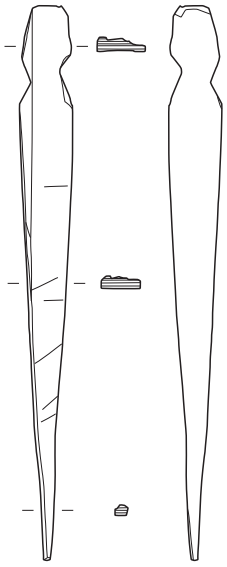
第 201 図　SG6 出土遺物（75）

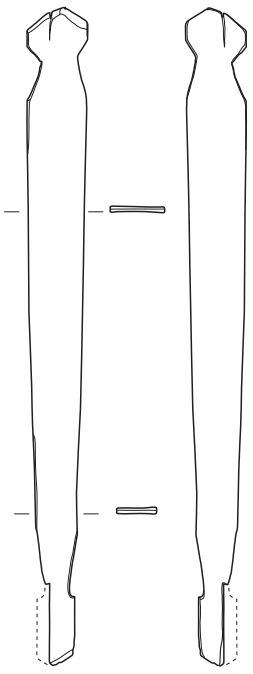


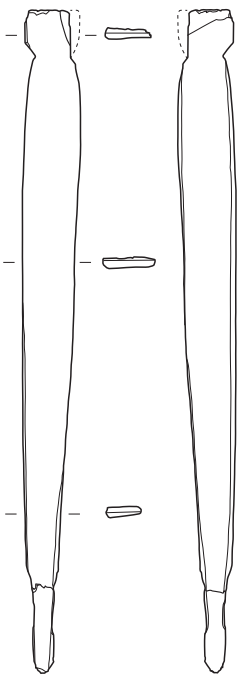
第 202 図　SG6 出土遺物（76）

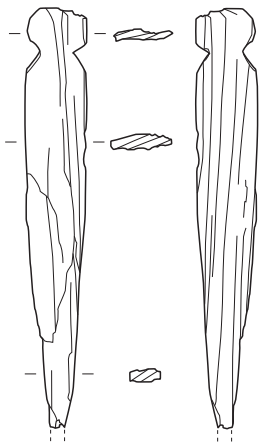

1064

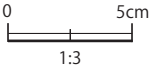
1065


1066

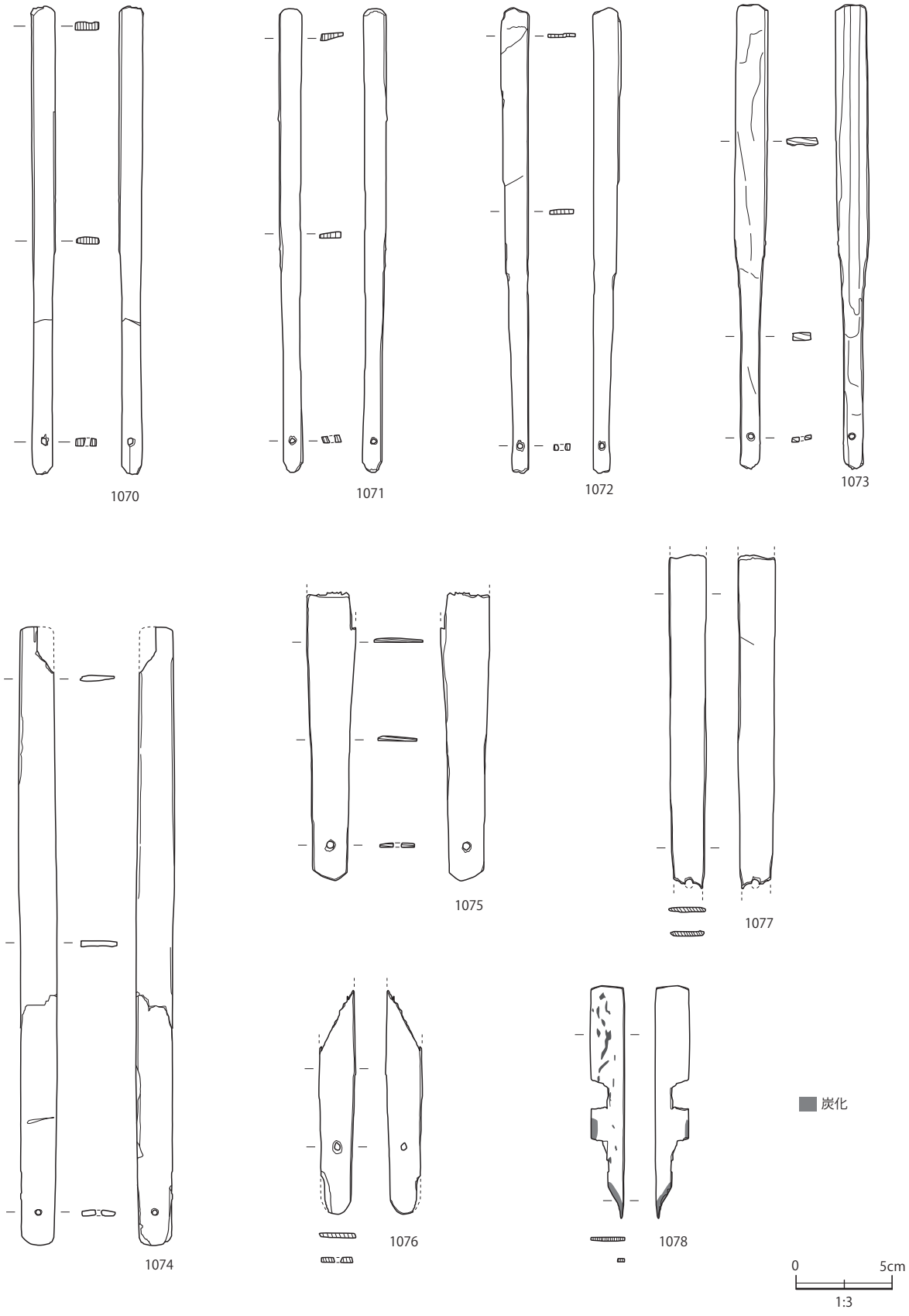

1067


1068

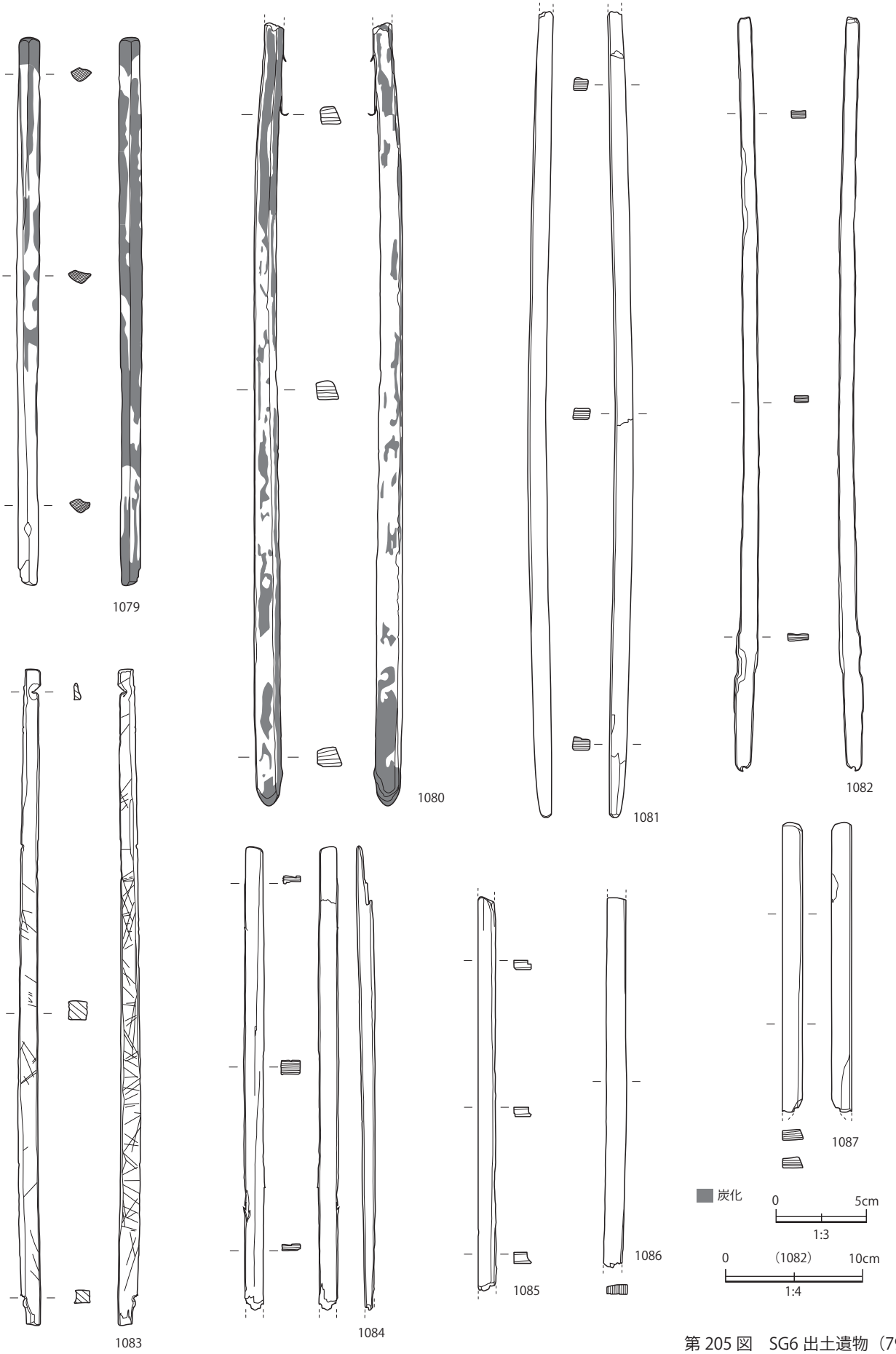

1069



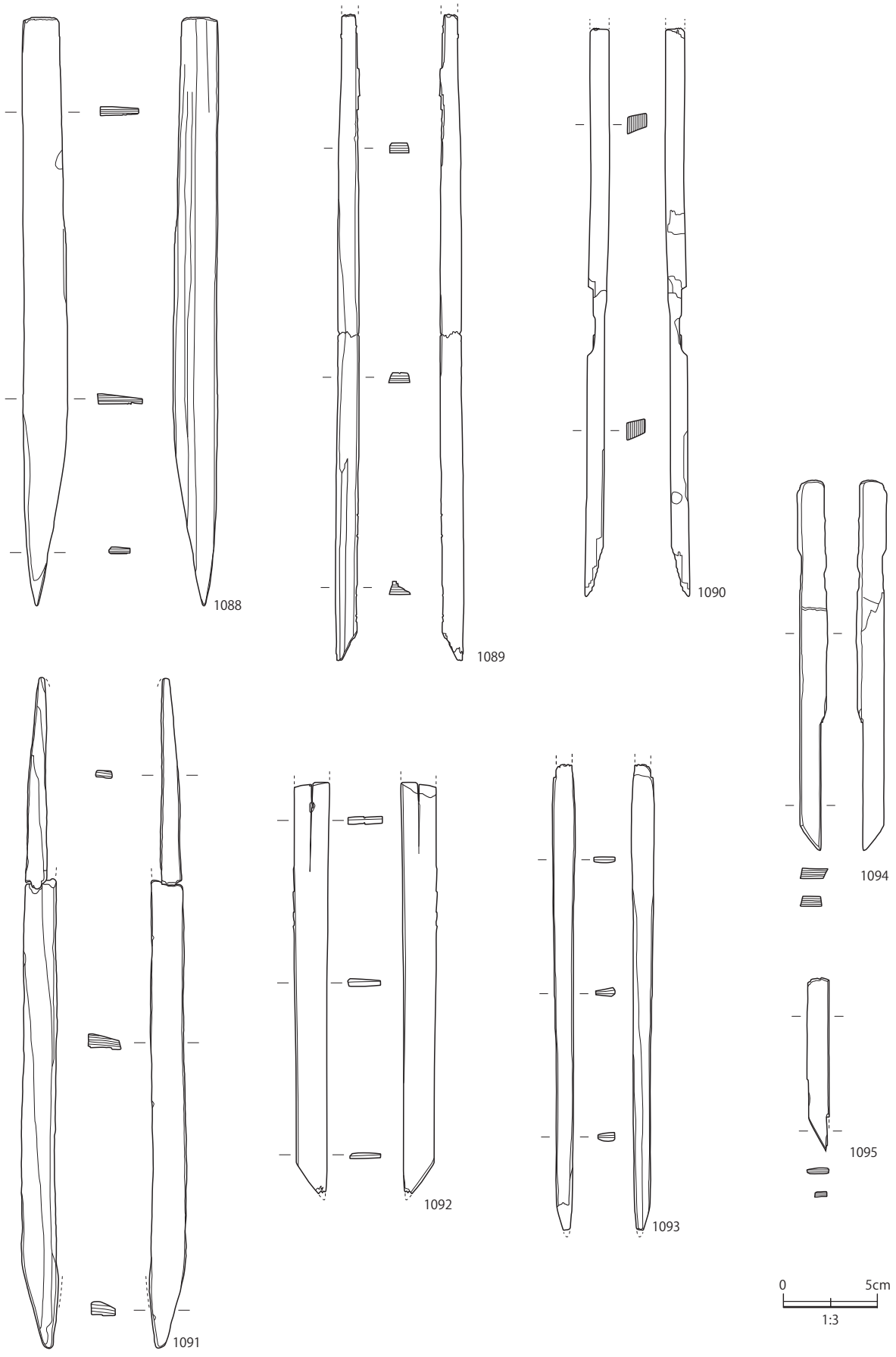
第 203 図　SG6 出土遺物（77）



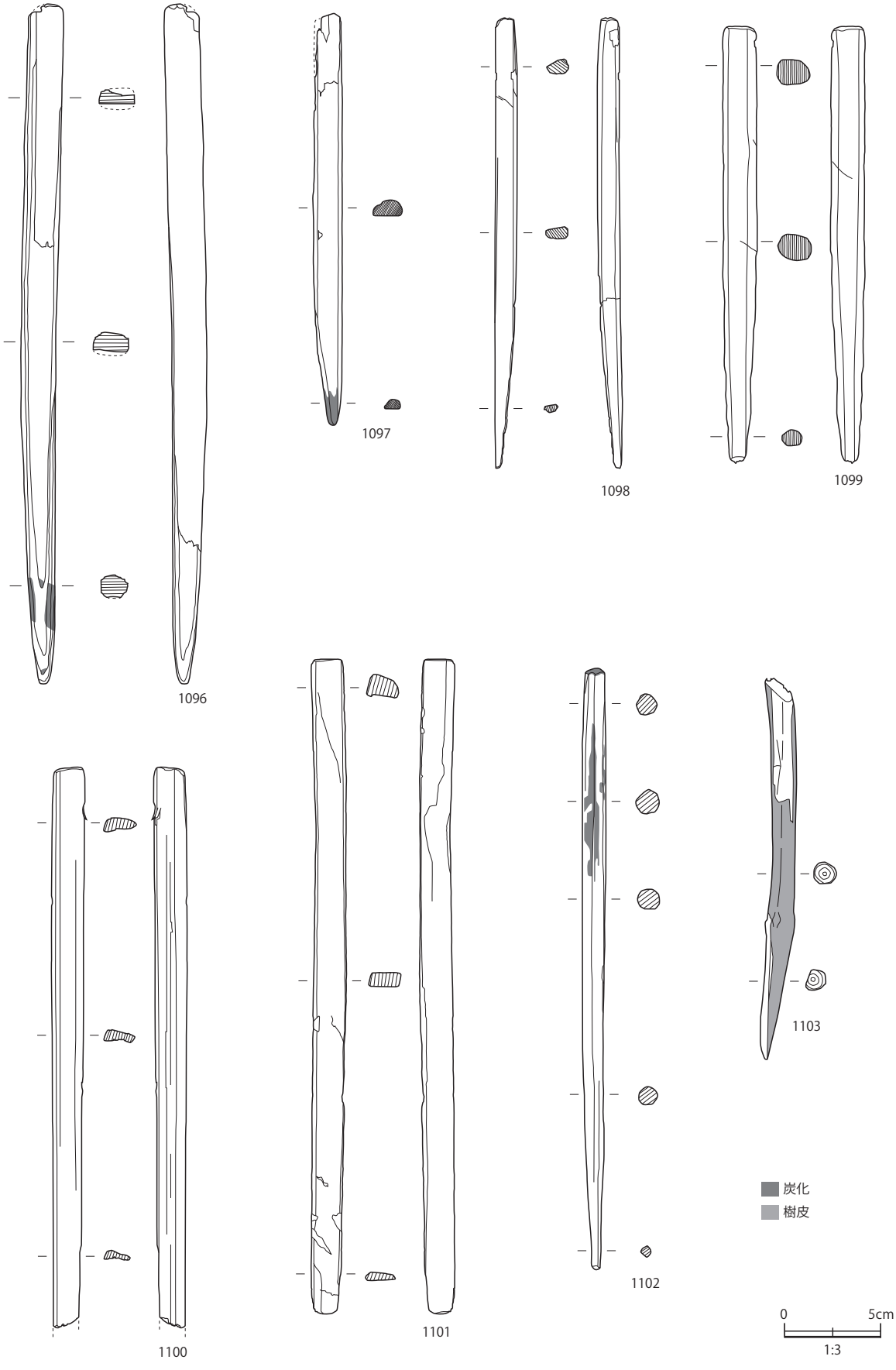
第 204 図　SG6 出土遺物（78）



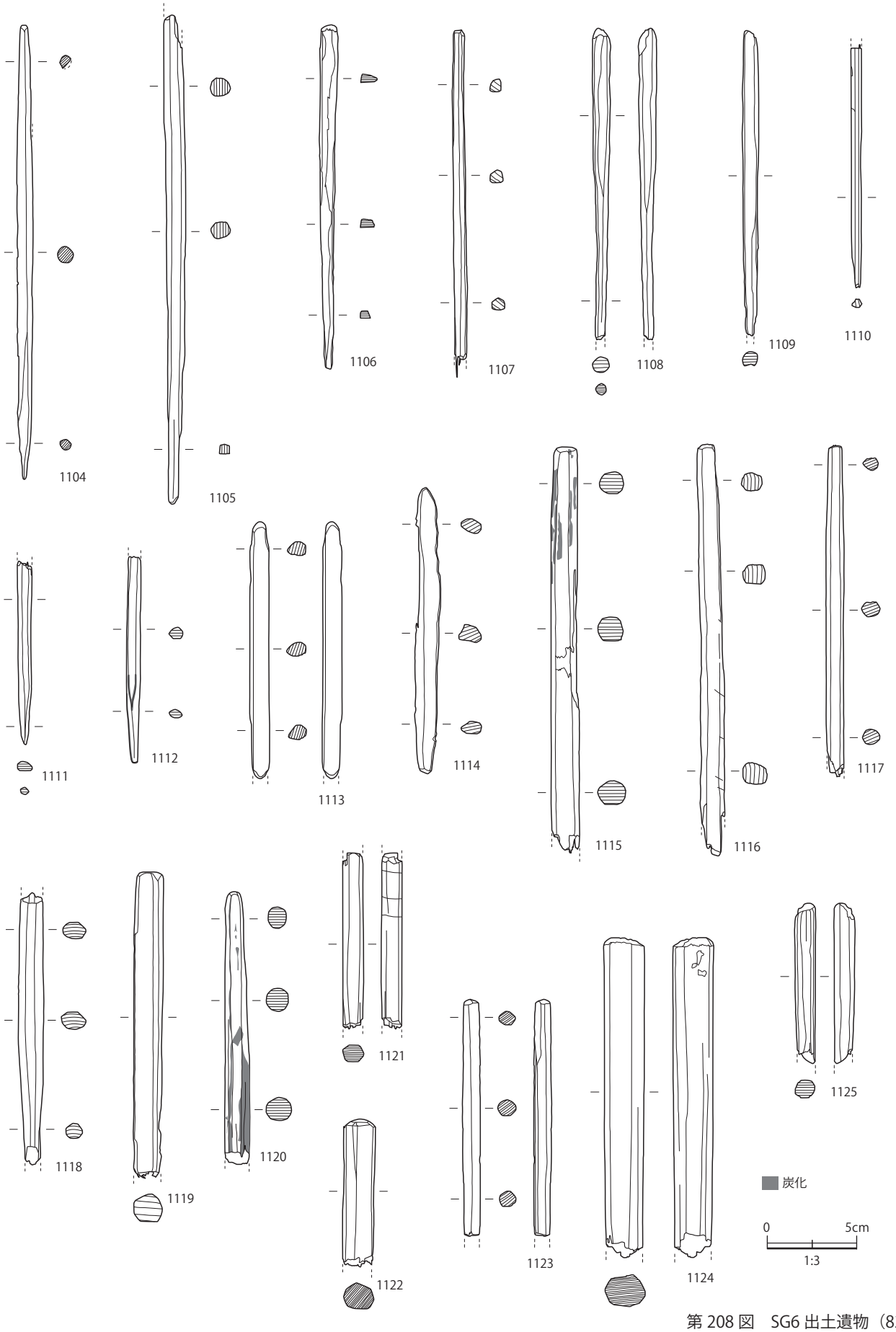
第 205 図　SG6 出土遺物（79）



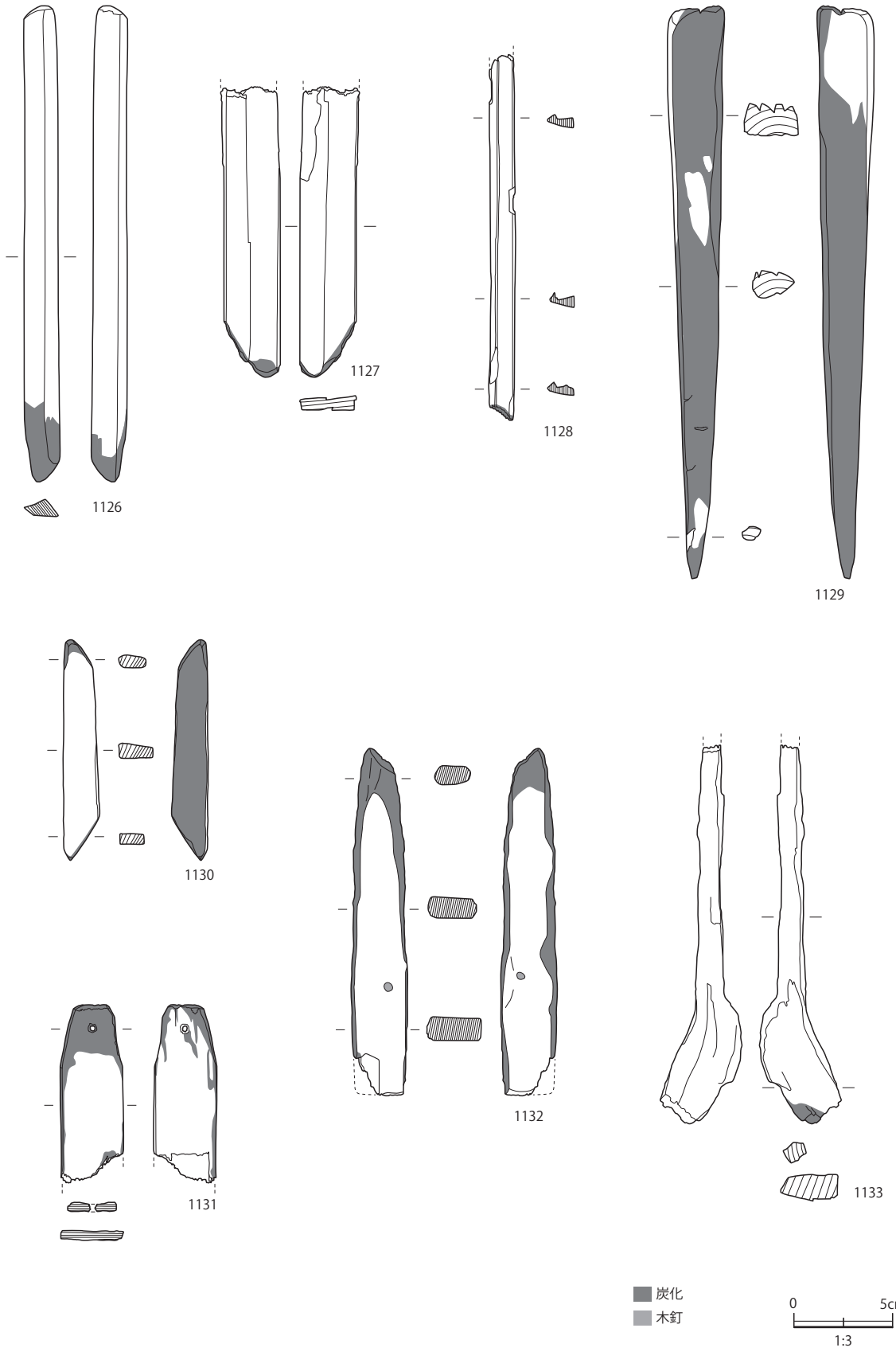
第 206 図　SG6 出土遺物（80）



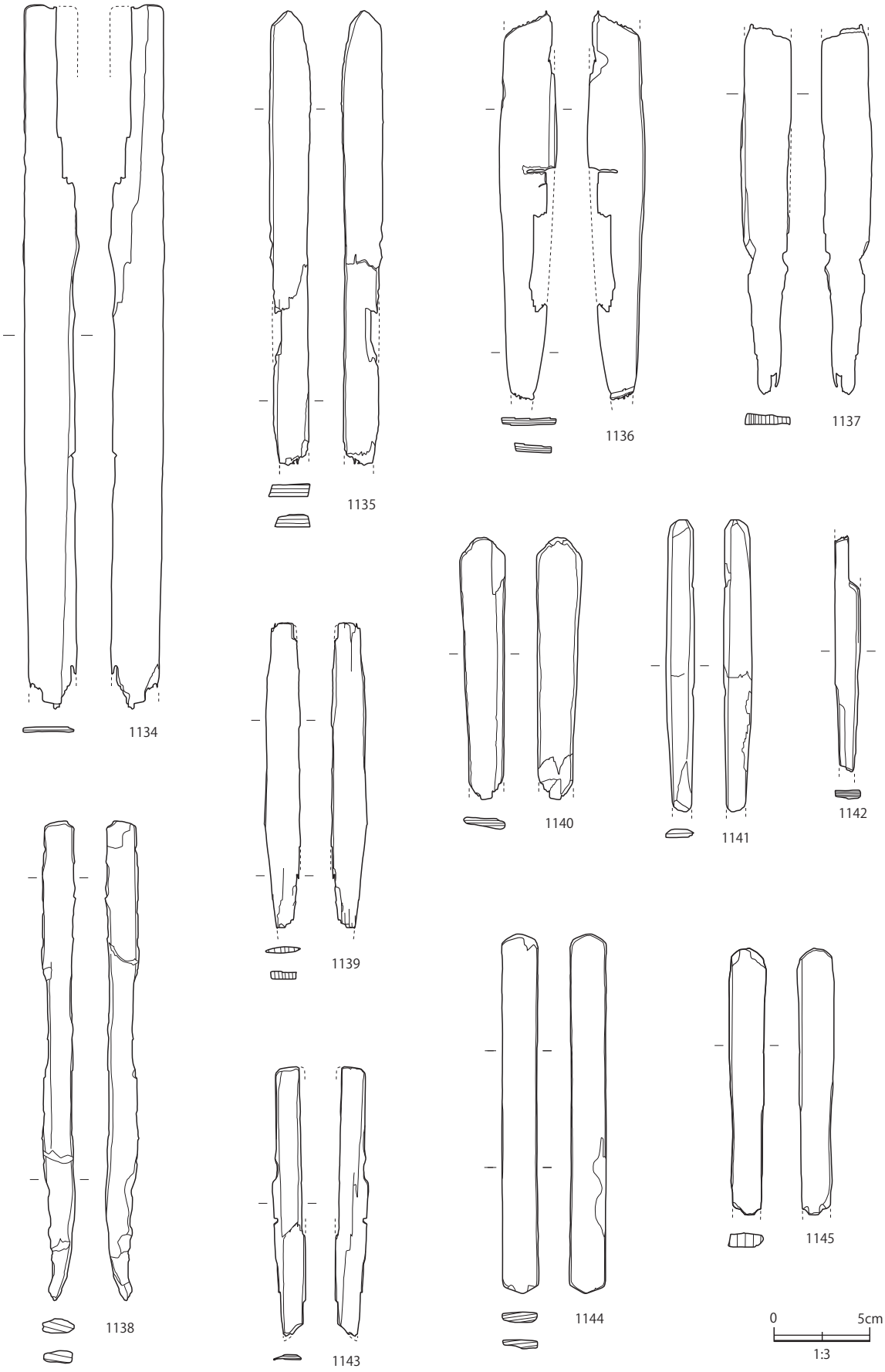
第 207 図　SG6 出土遺物（81）



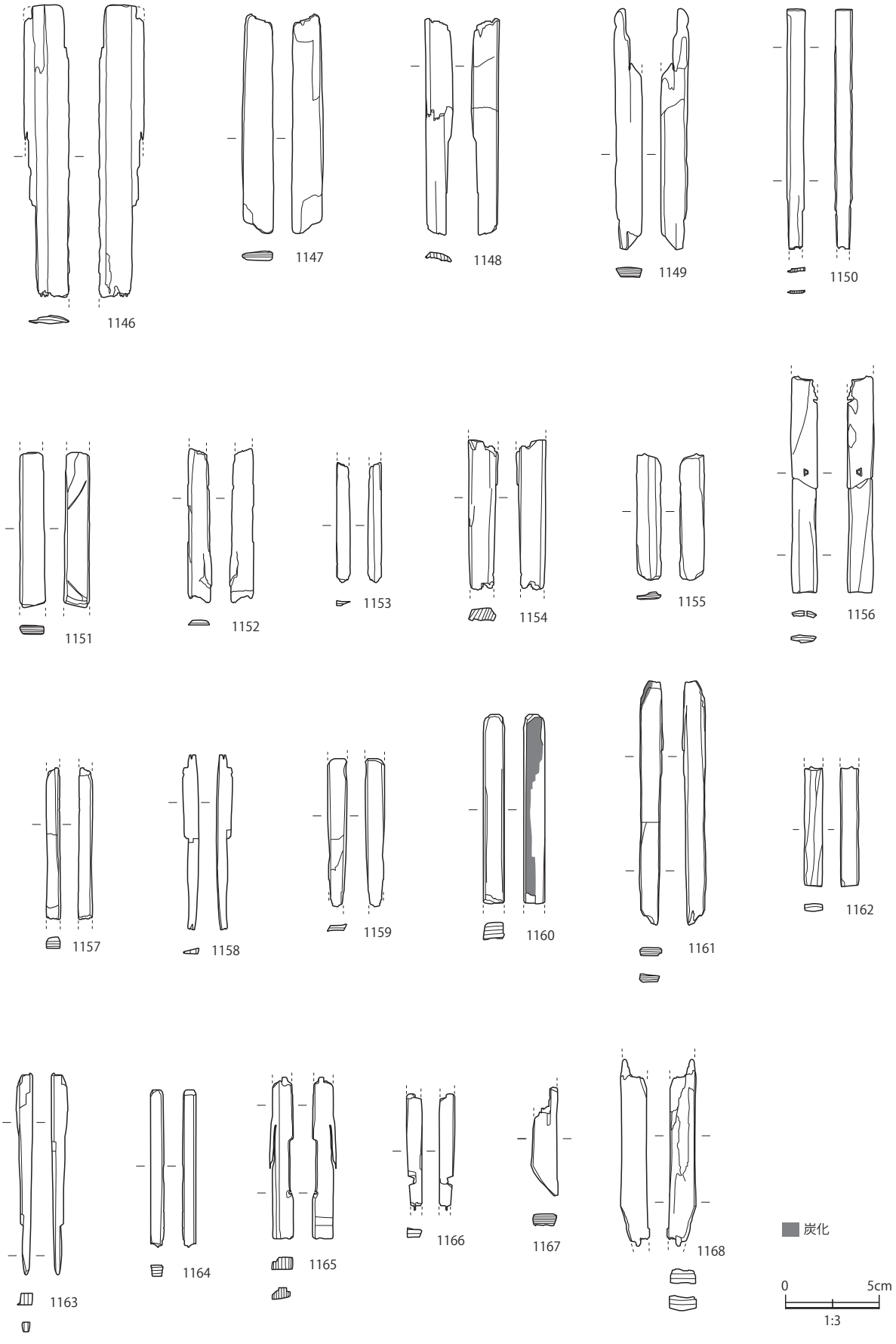
第 208 図　SG6 出土遺物（82）



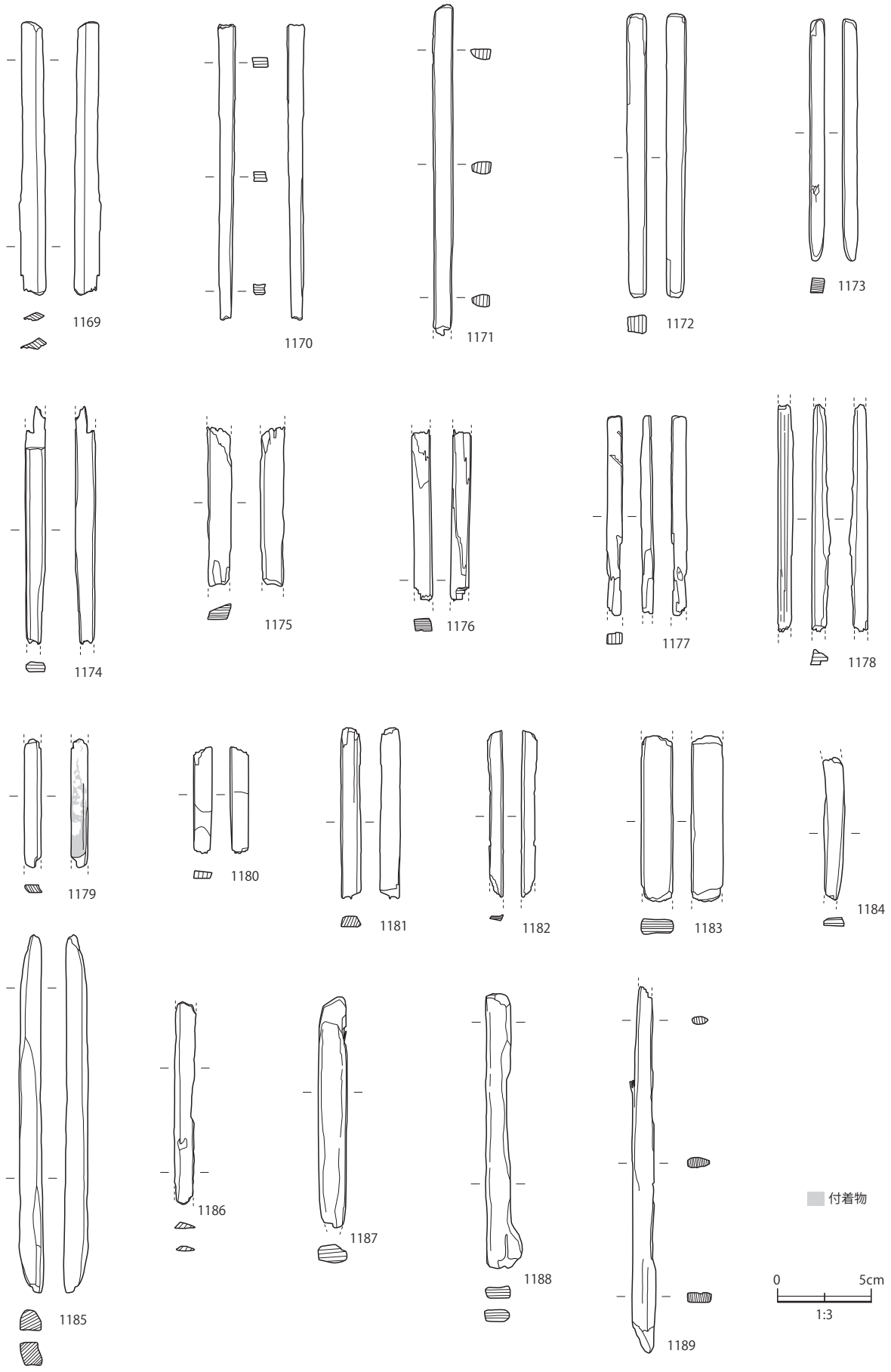
第 209 図　SG6 出土遺物（83）



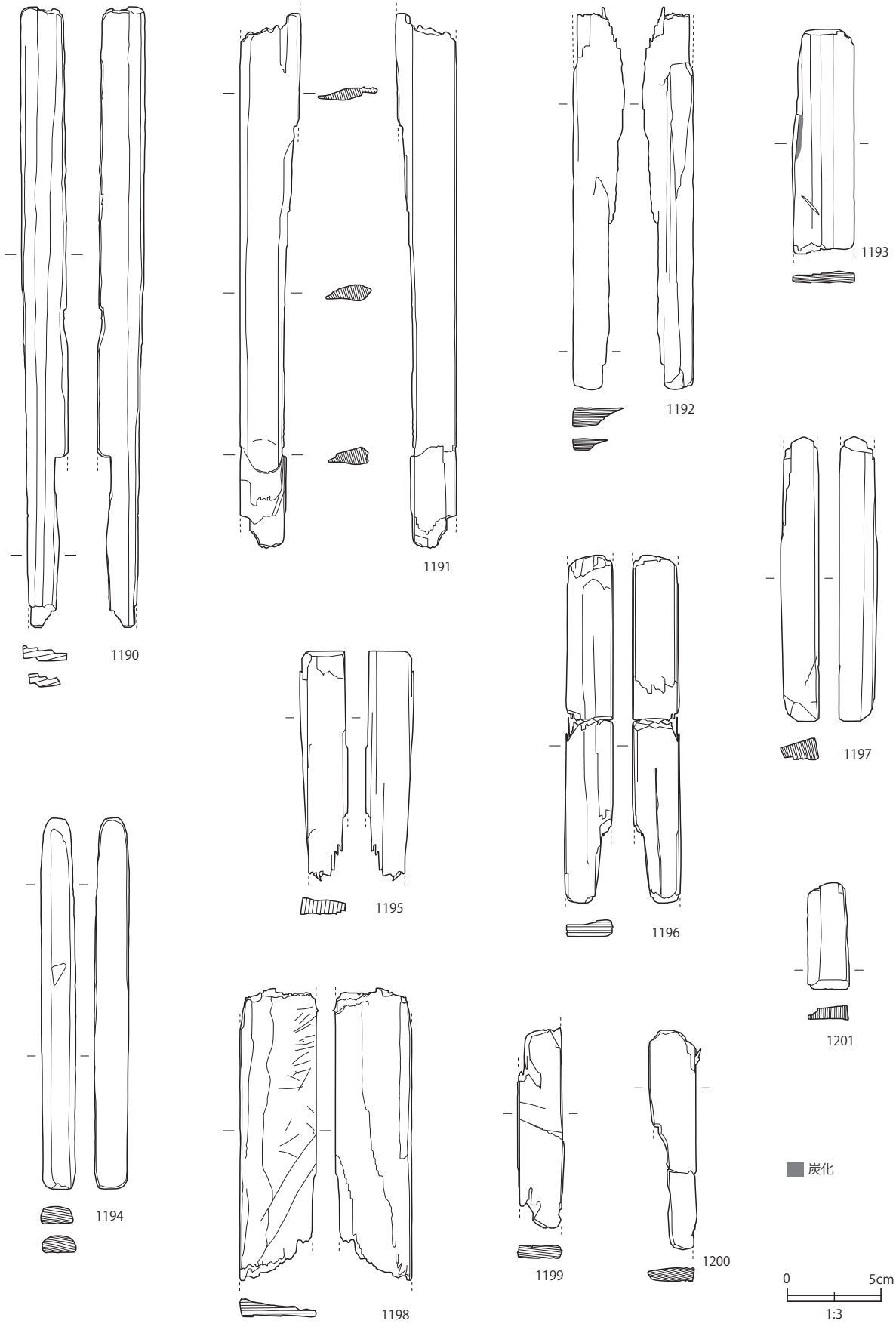
第 210 図　SG6 出土遺物（84）



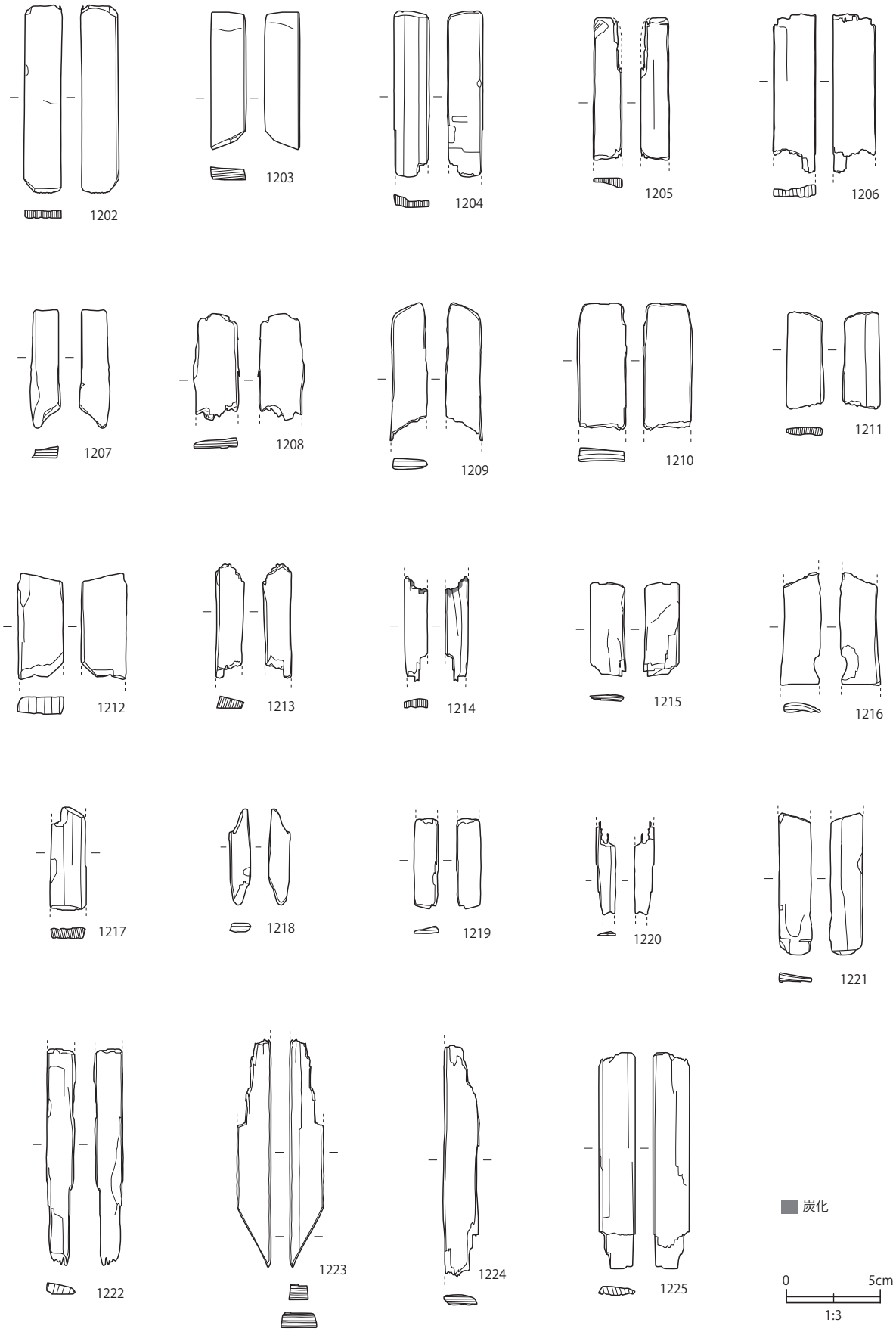
第 211 図　SG6 出土遺物（85）



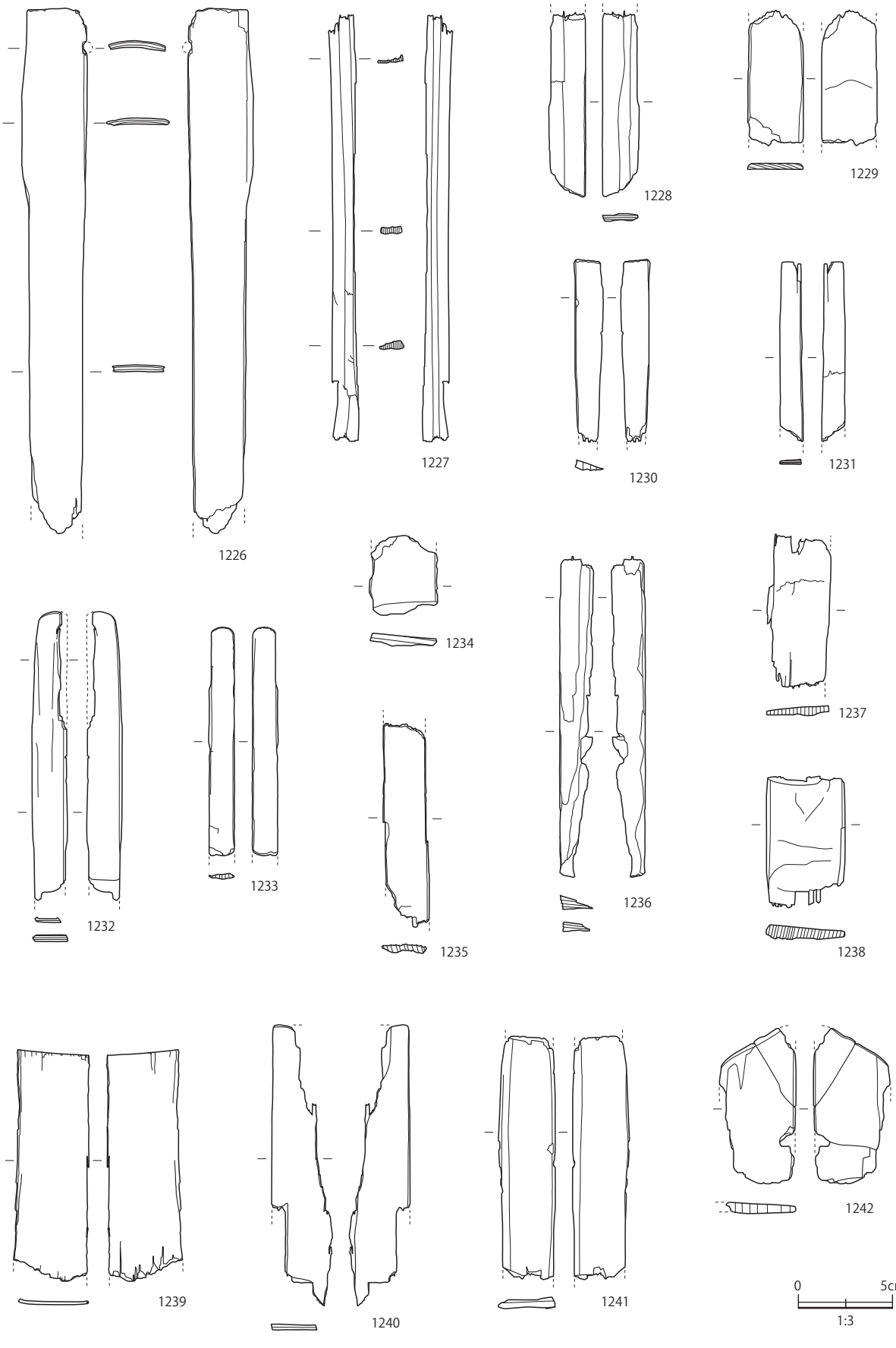
第 212 図　SG6 出土遺物（86）



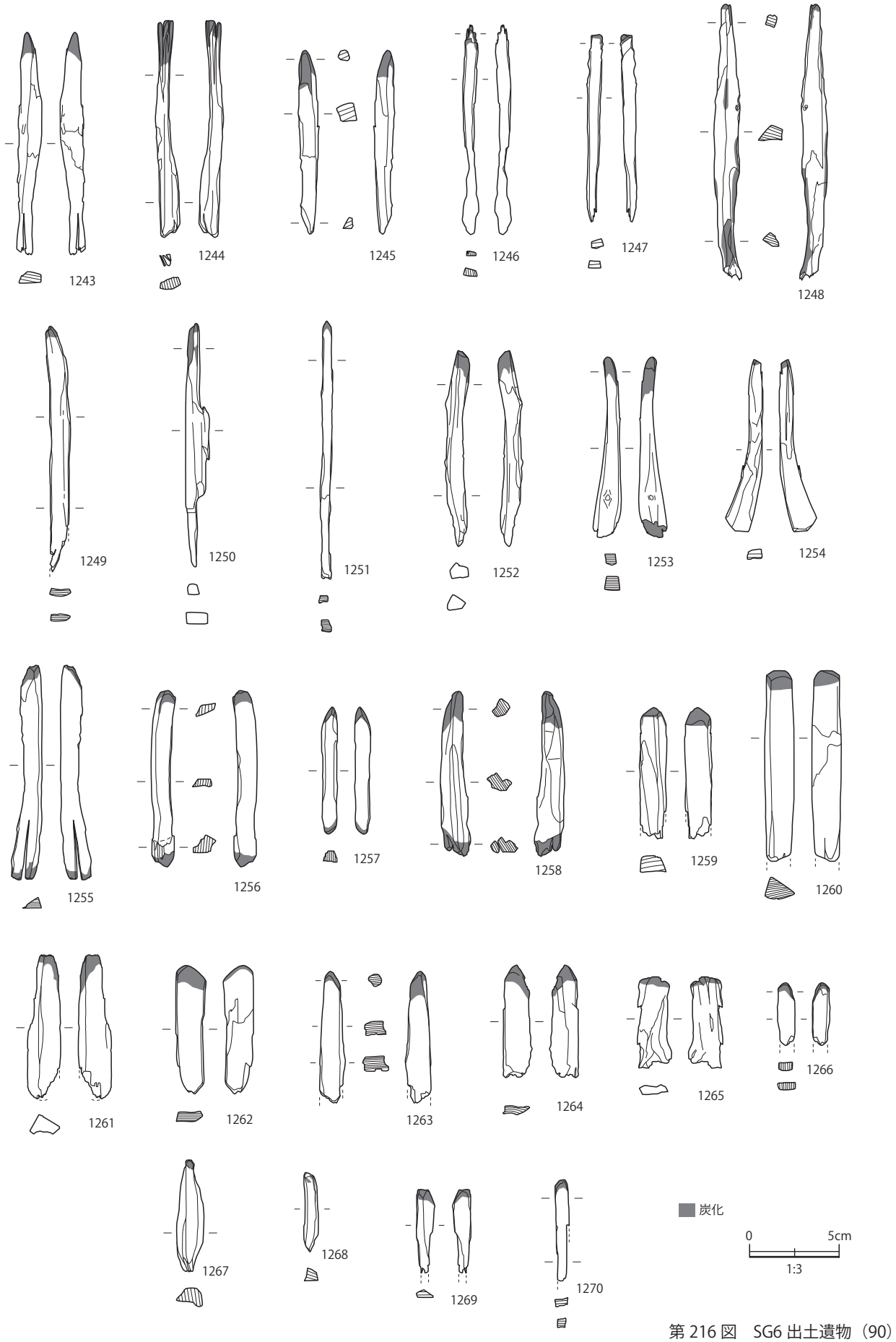
第 213 図　SG6 出土遺物（87）



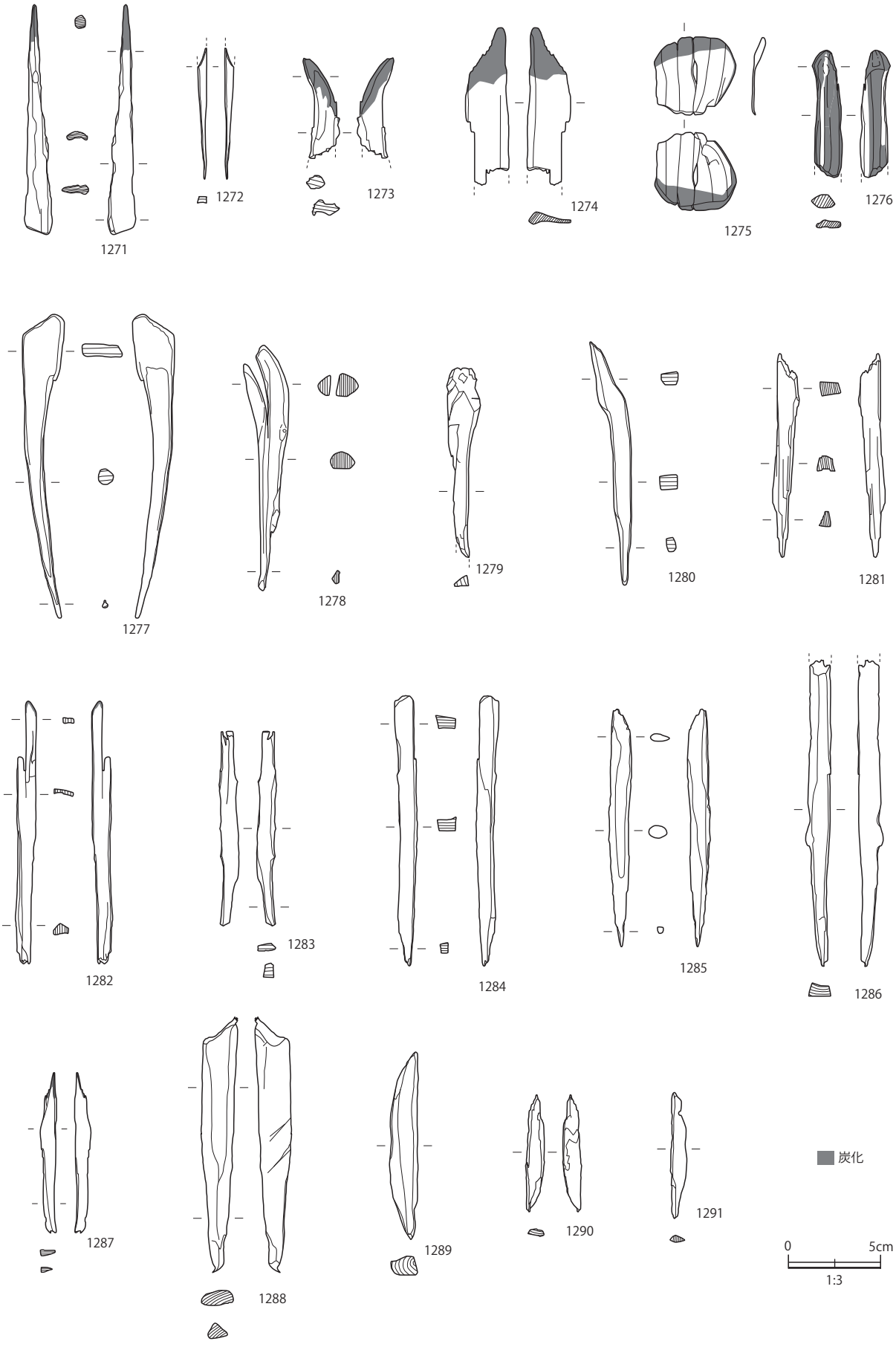
第 214 図　SG6 出土遺物（88）



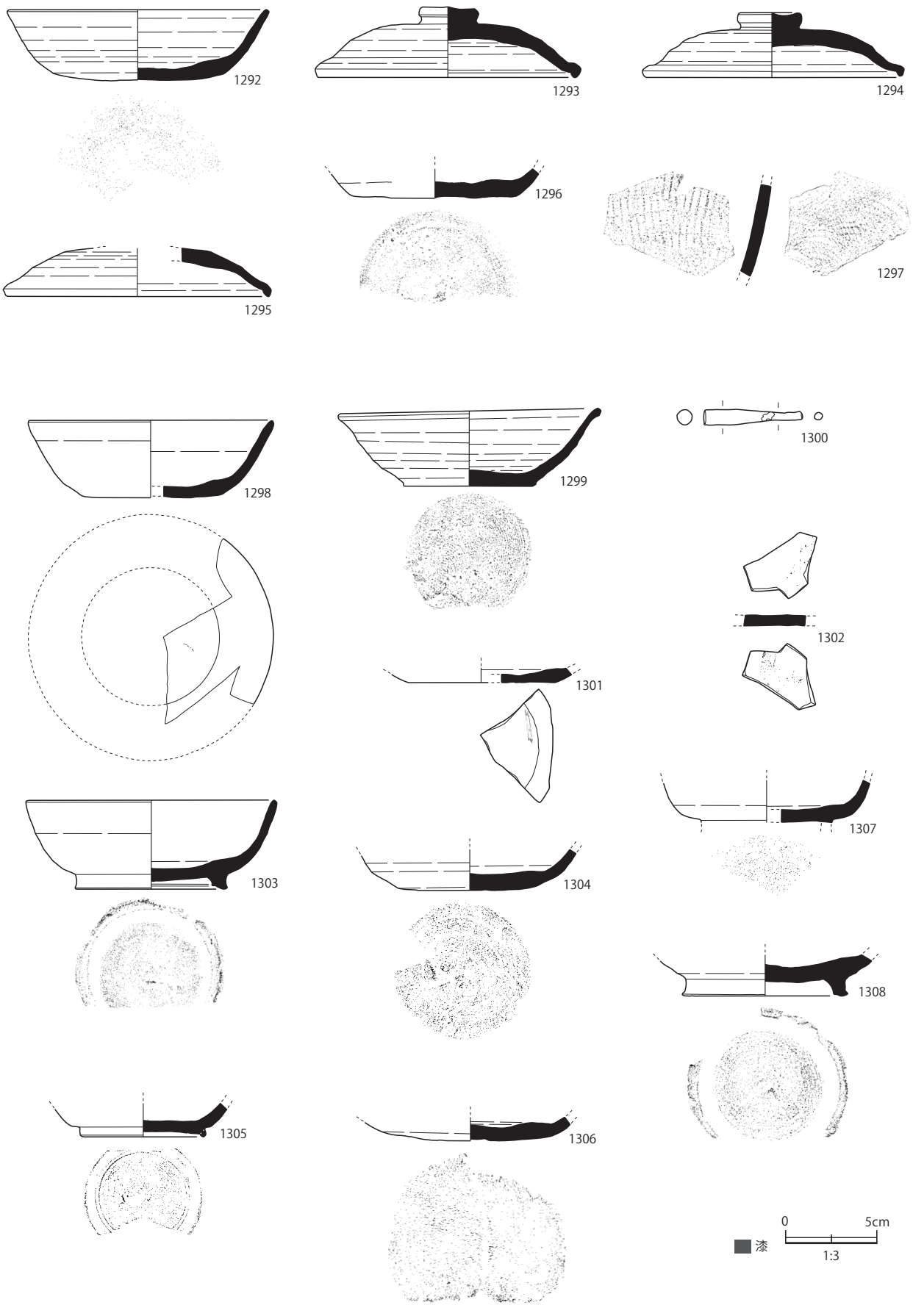
第 215 図　SG6 出土遺物（89）



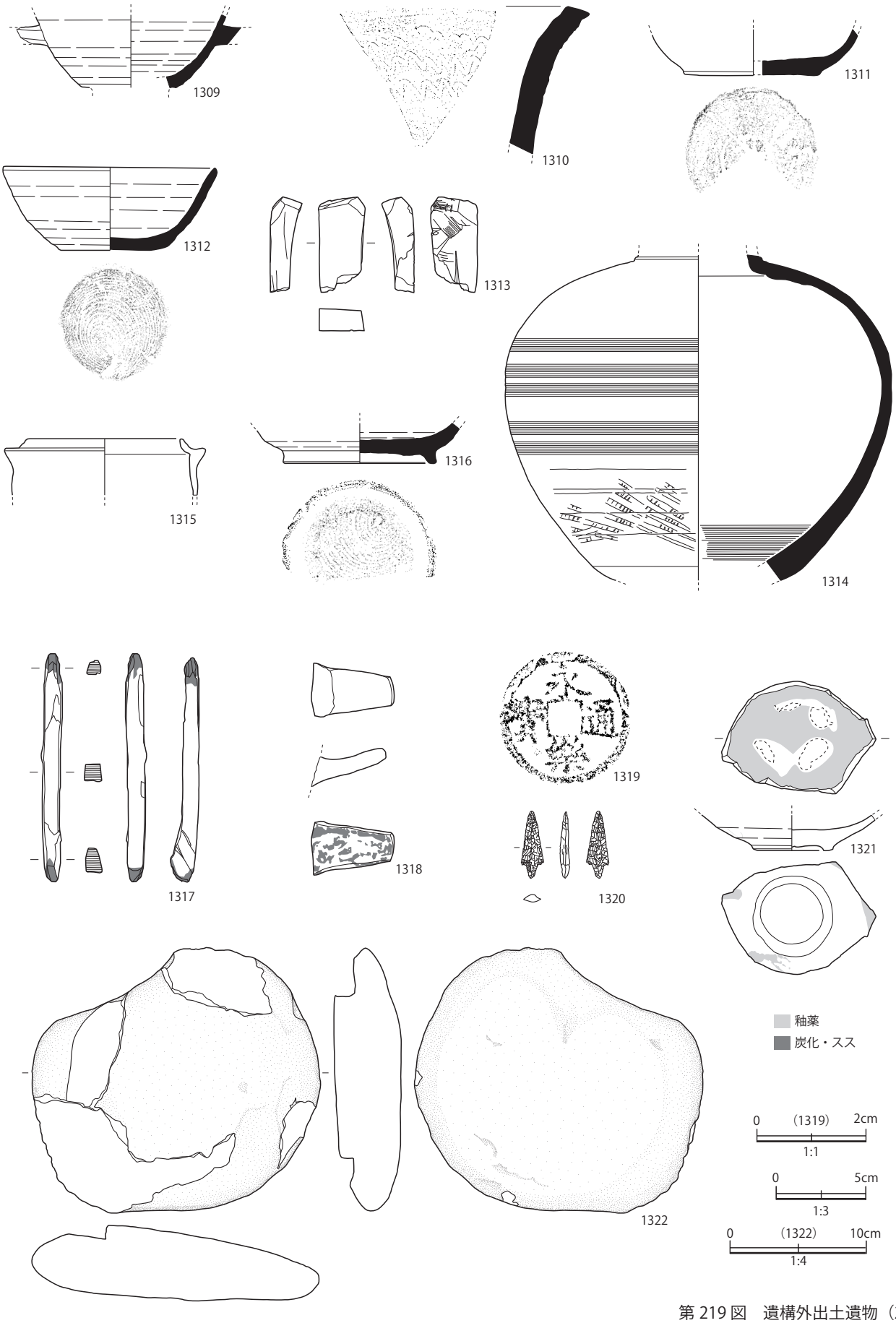
第 216 図　SG6 出土遺物（90）



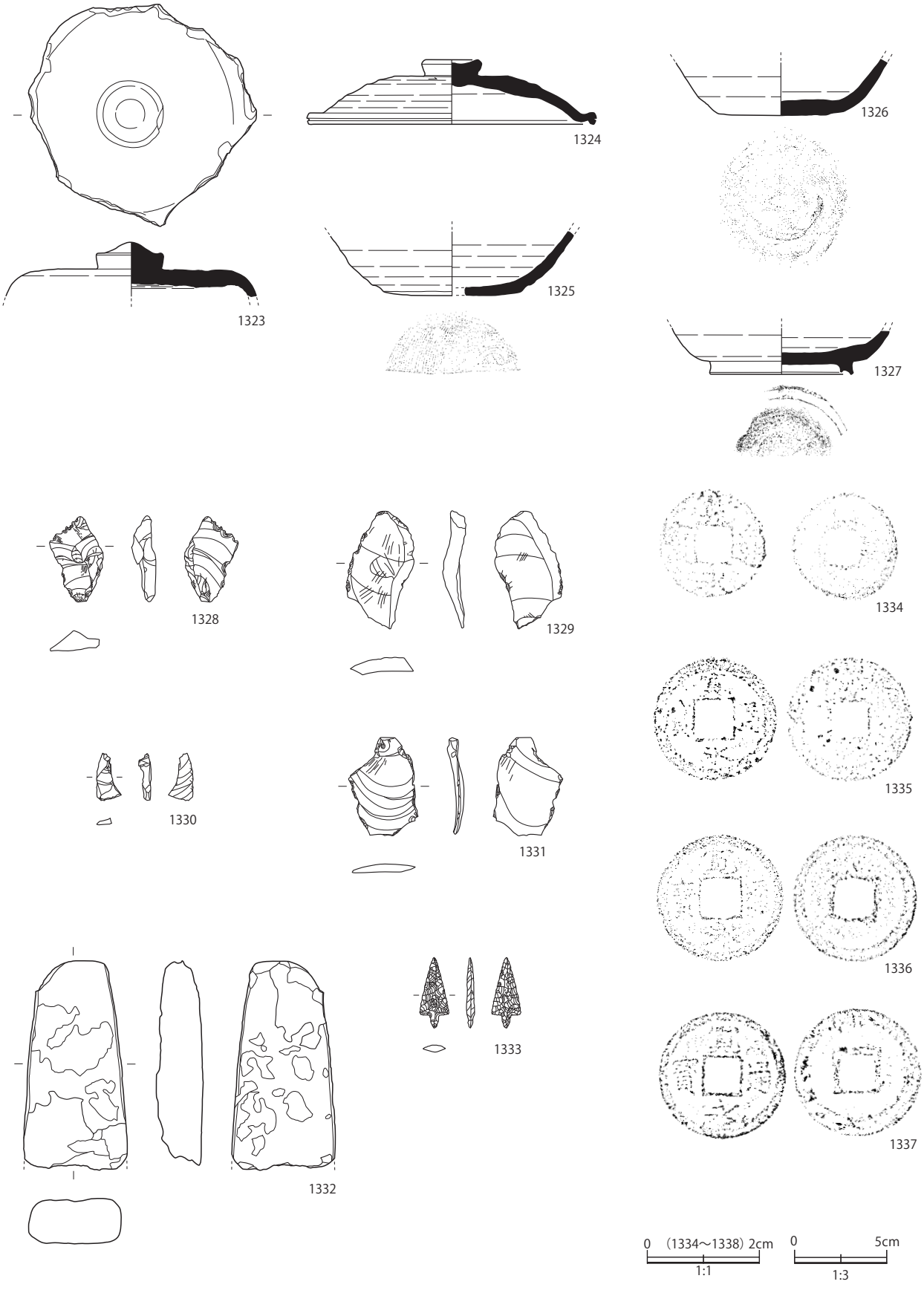
第 217 図　SG6 出土遺物（91）



第 218 図　遺構外出土遺物（1）



第 219 図　遺構外出土遺物（2）



第 220 図　遺構外出土遺物（3）

188
「定」

289
「定」

291
「定」

294
「定」

455
「定」

457
「定」

458
「定」

459
「定」

460
「定」

461
「定」

462
「定」

481
「定」

499
「定」

516
「定」

518
「定」

519
「定」

521
「定」

522
「定」

523
「定」

526
「定」

560
「定」

743
「定」

745
「定」

746
「定」

747
「定」

292
「定ヵ」

293
「定ヵ」

297
「定ヵ」

298
「定ヵ」

463
「定ヵ」

469
「定ヵ」

479
「定ヵ」

488
「定ヵ」

517
「定ヵ」

520
「定ヵ」

563
「定ヵ」

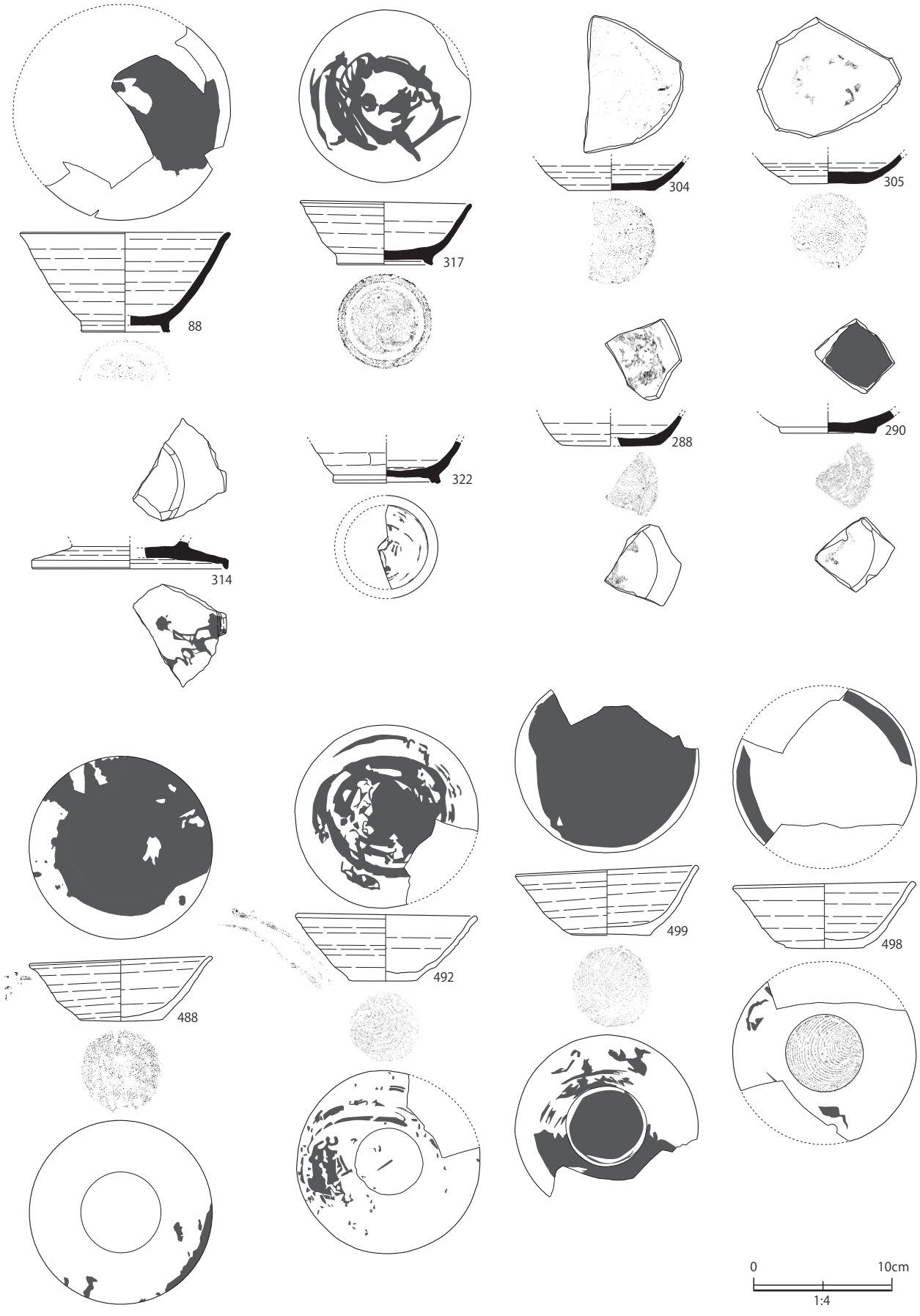
568
「定ヵ」

631
「定ヵ」

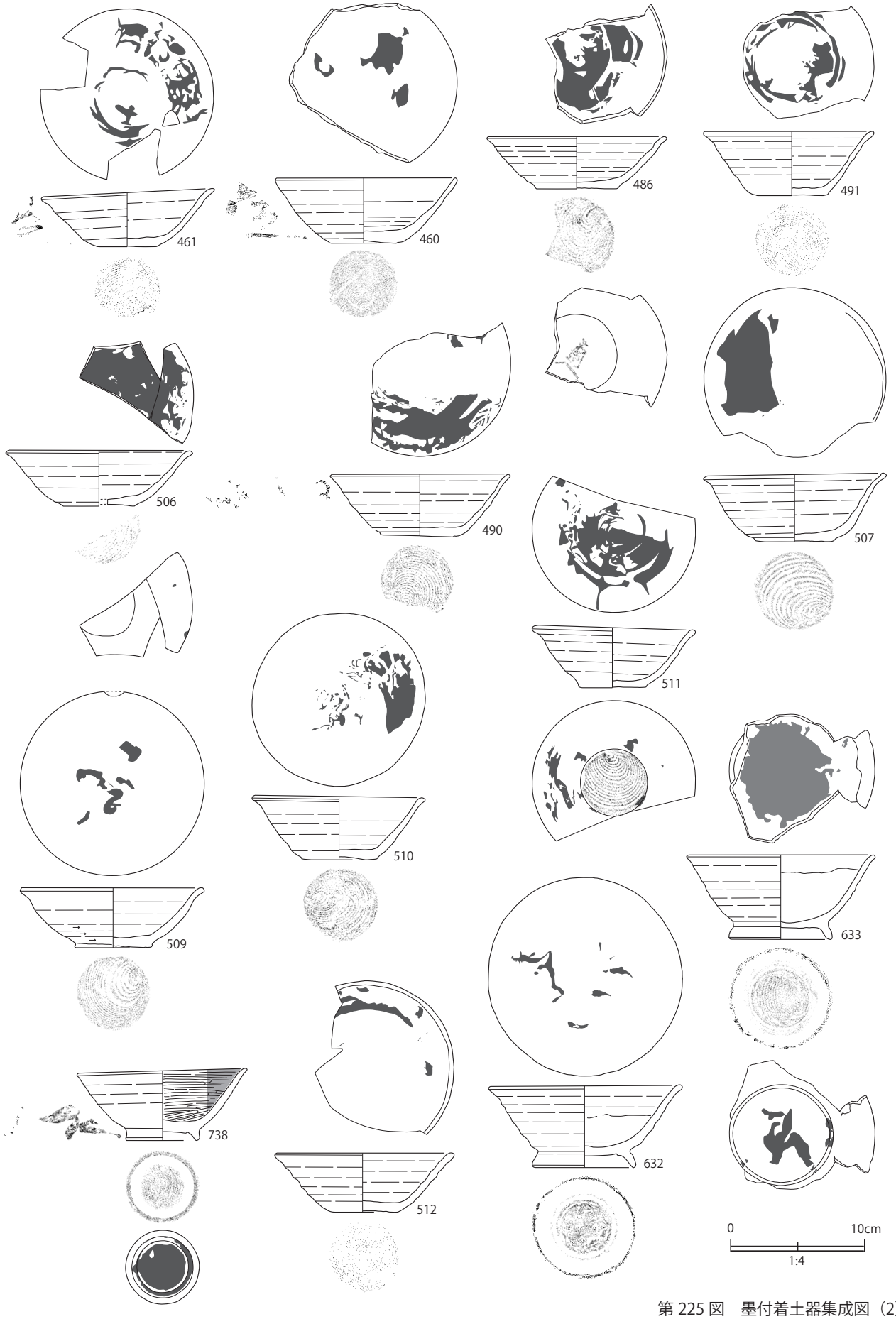
第 221 図　墨書・刻書土器文字集成（1）

第 222 図　墨書・刻書土器文字集成（2）

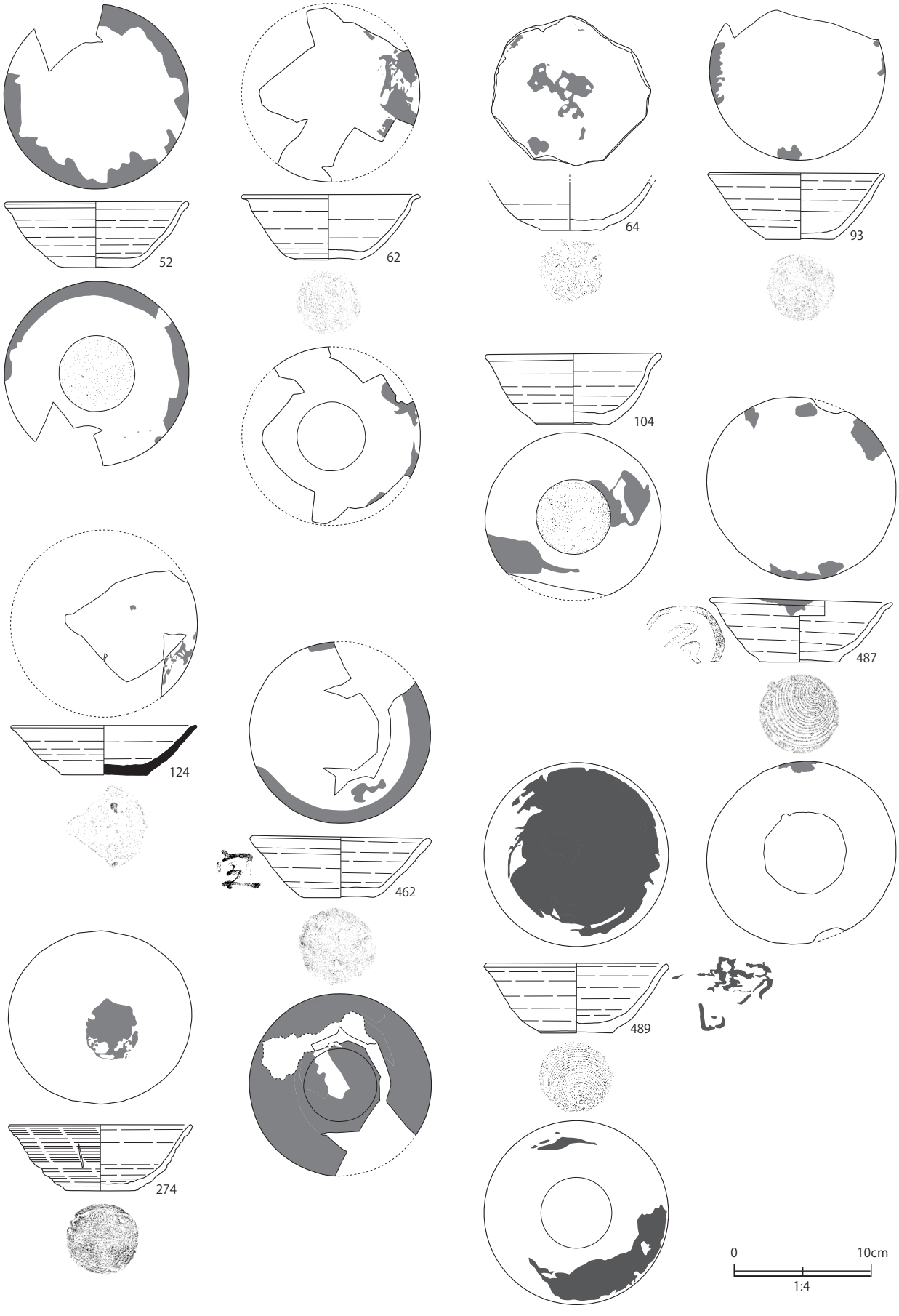
第 223 図　墨書・刻書土器文字集成（3）



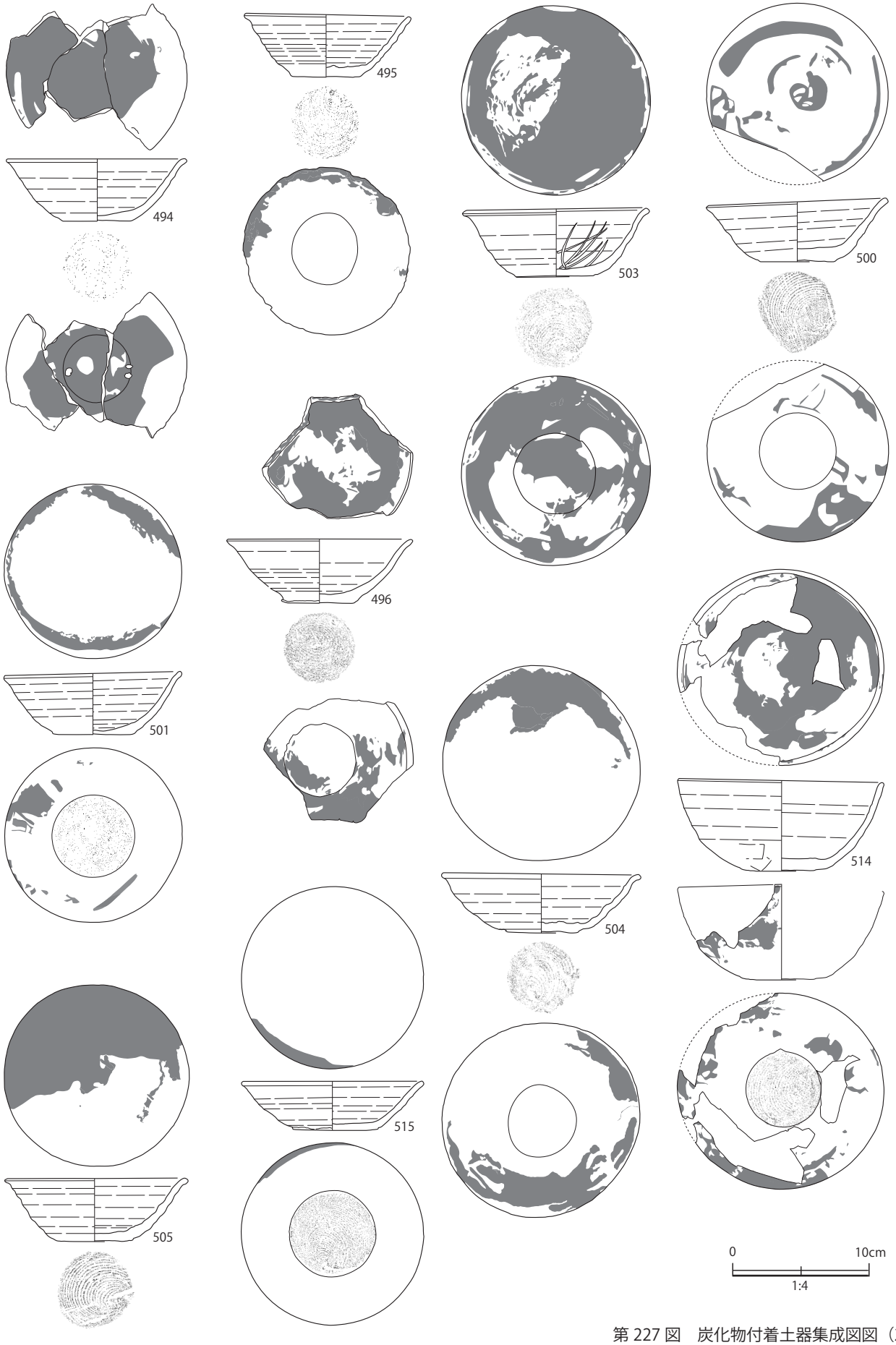
第 224 図　墨付着土器集成図（1）



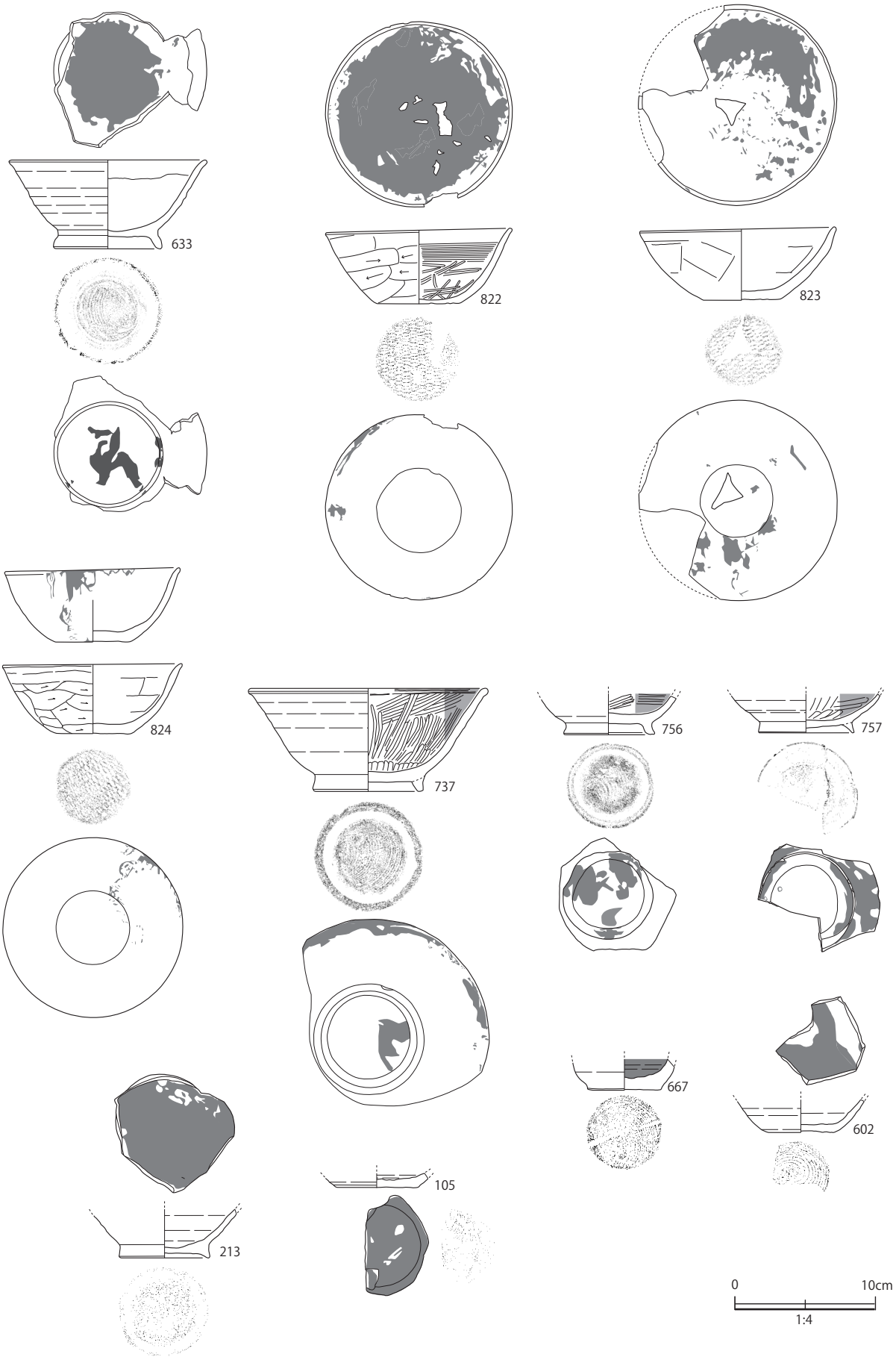
第 225 図　墨付着土器集成図（2）



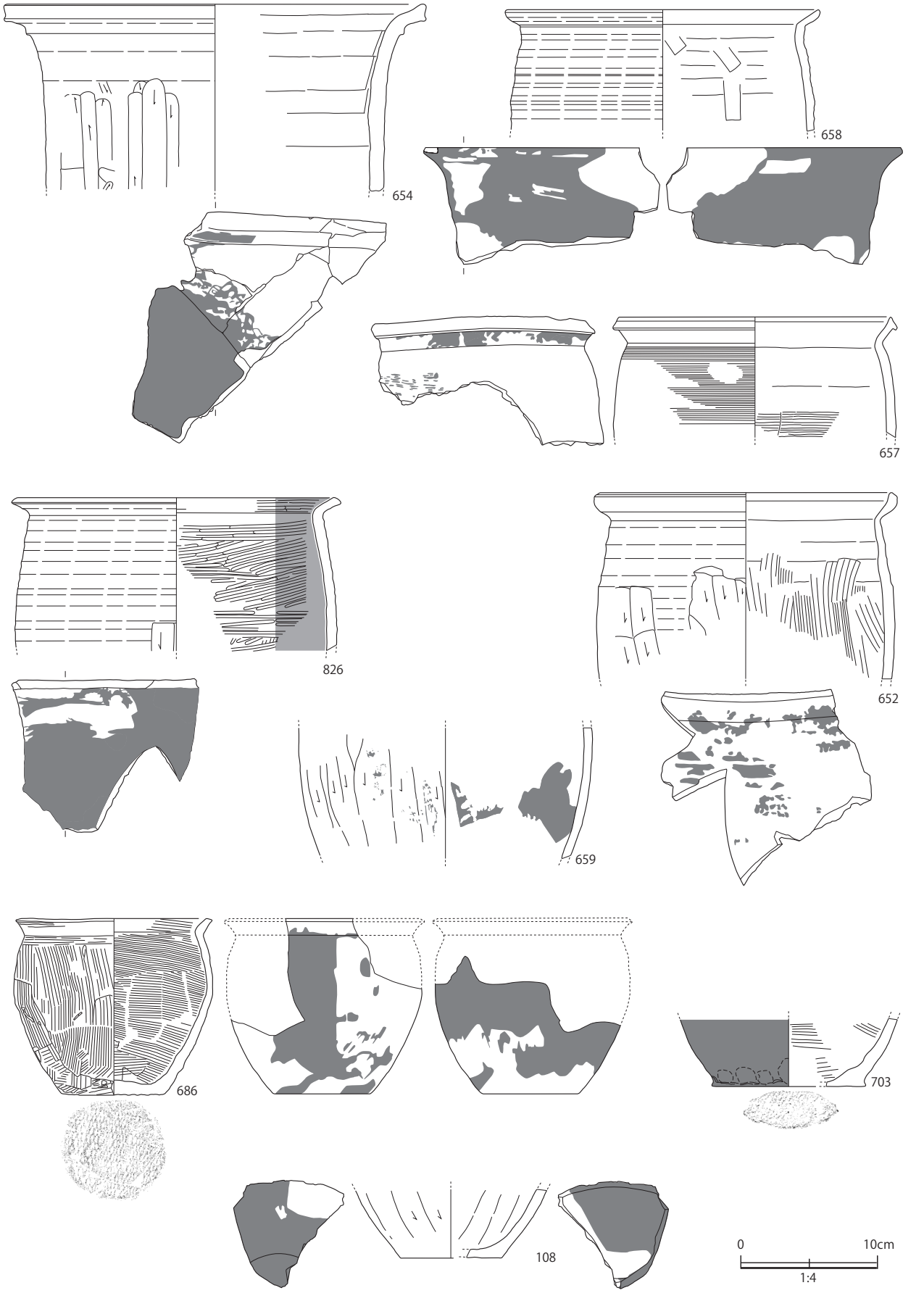
第 226 図　炭化物付着土器集成図（1）



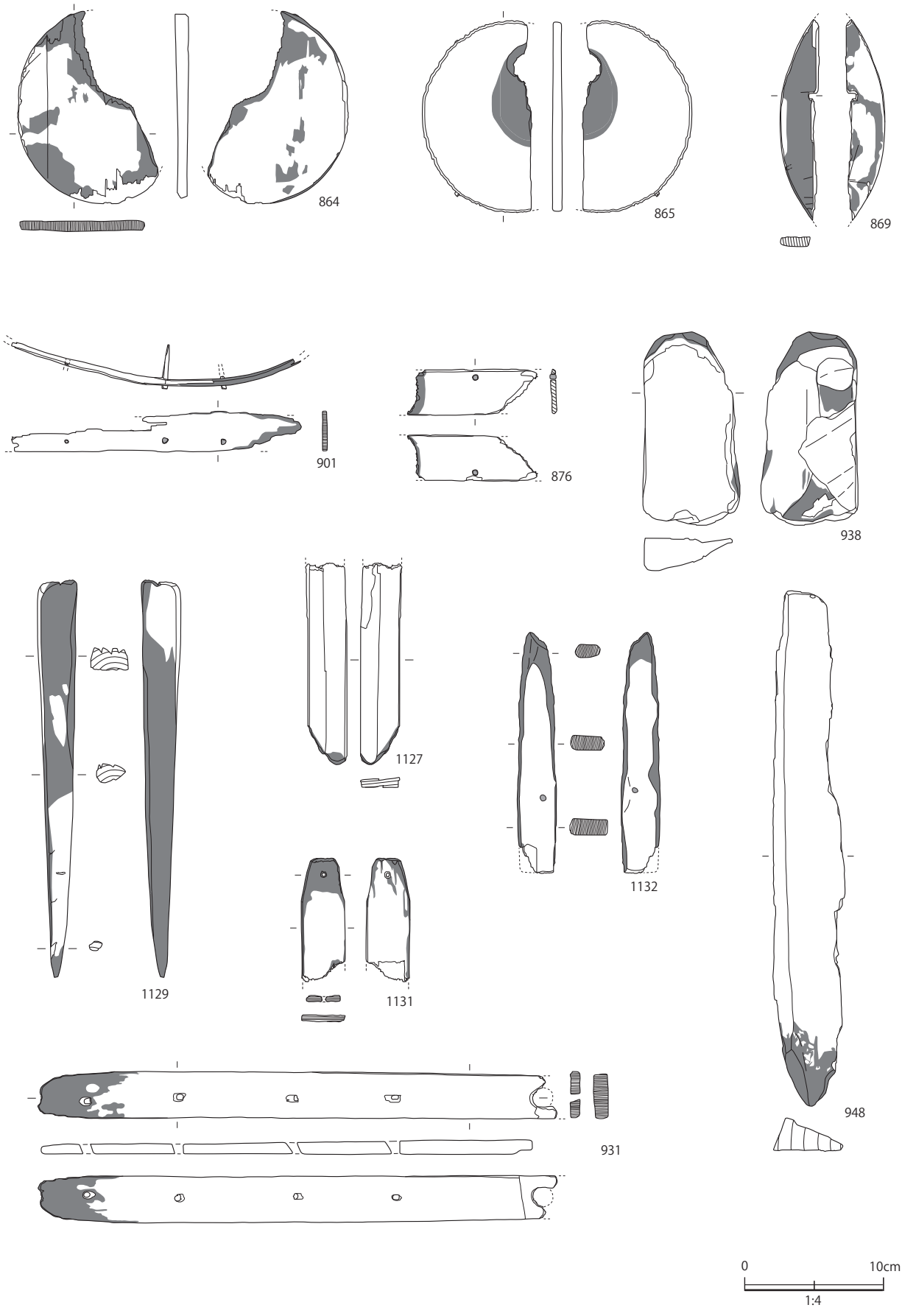
第 227 図　炭化物付着土器集成図図（2）



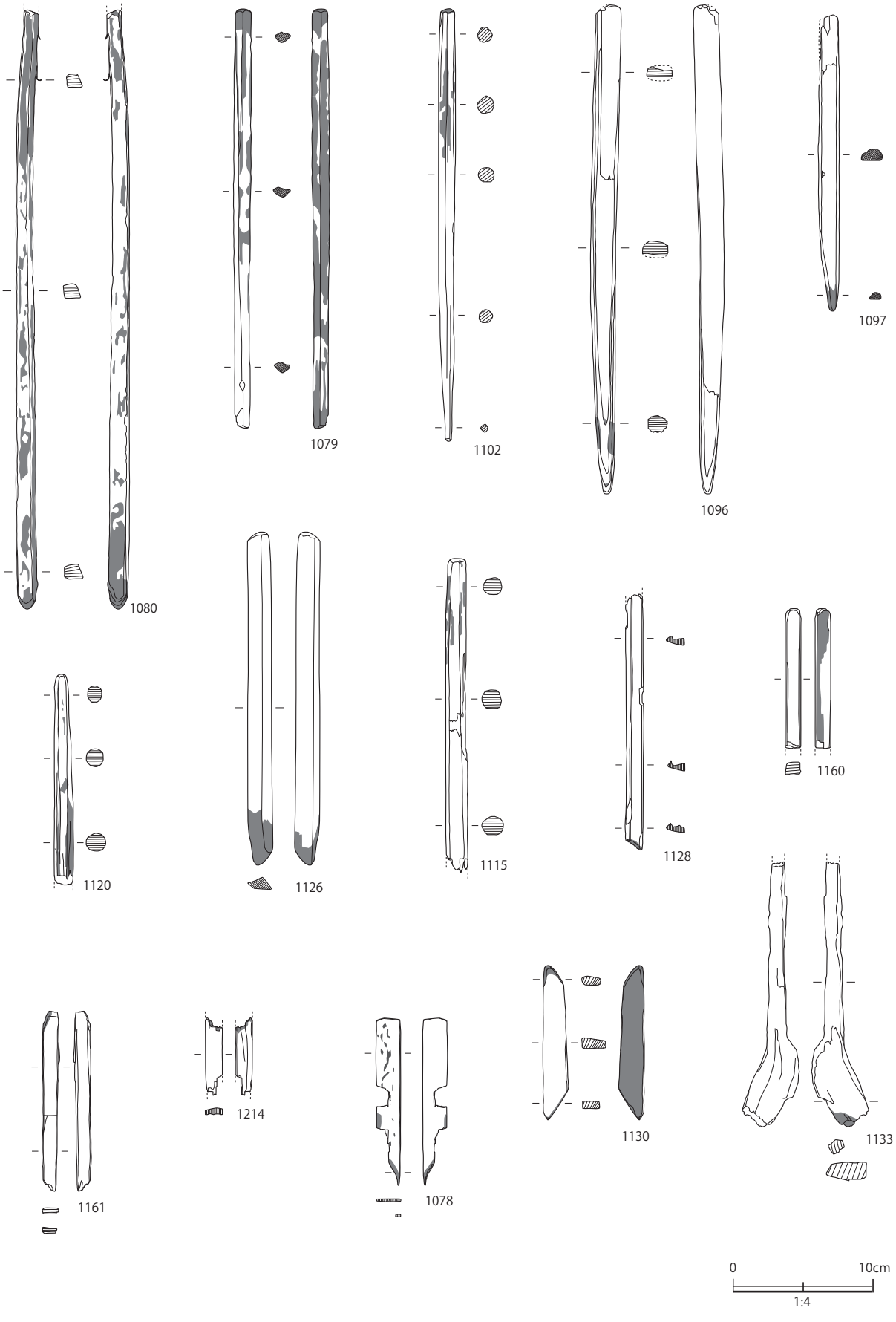
第 228 図　炭化物付着土器集成図（3）



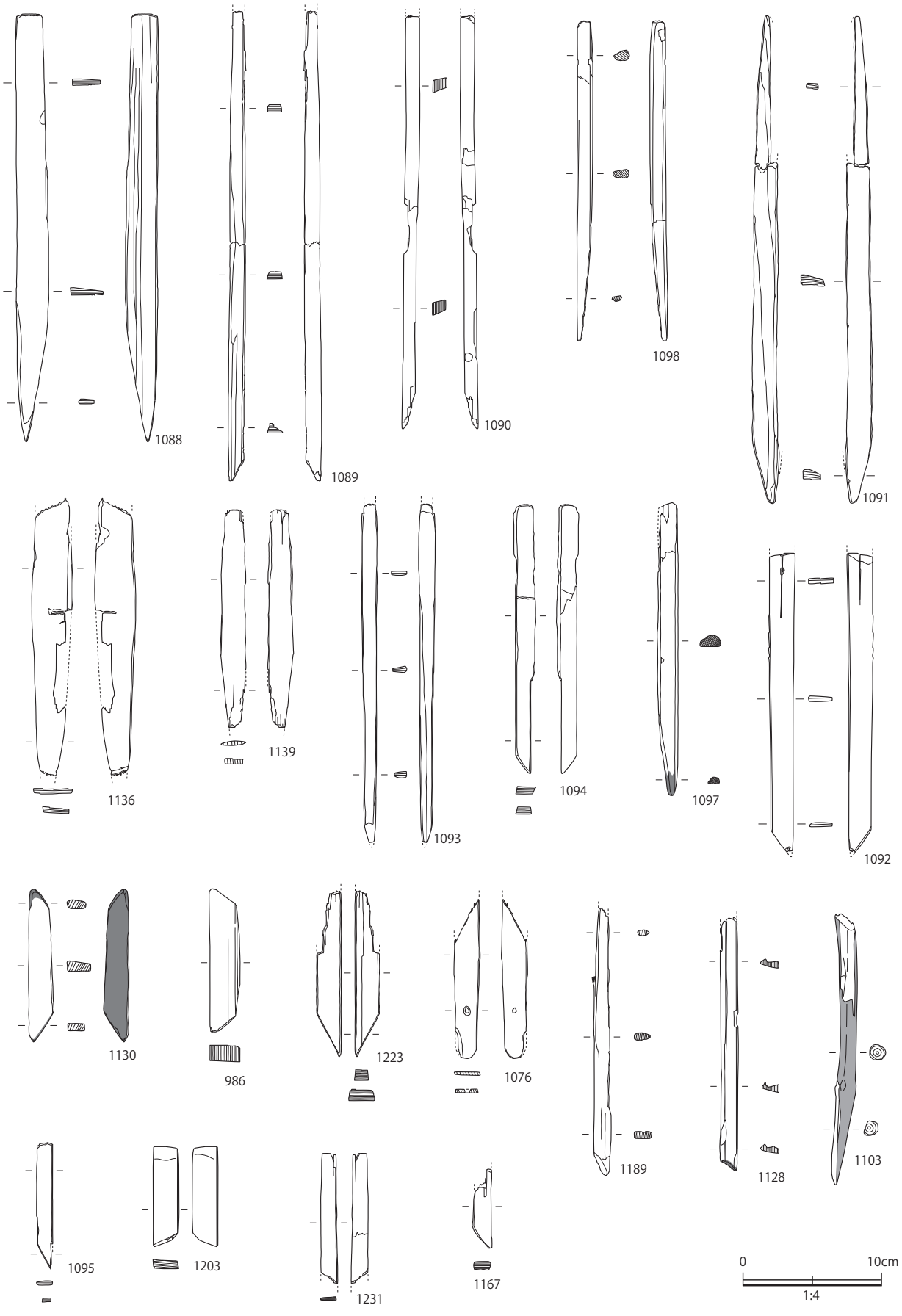
第 229 図　炭化物付着土器集成図（4）



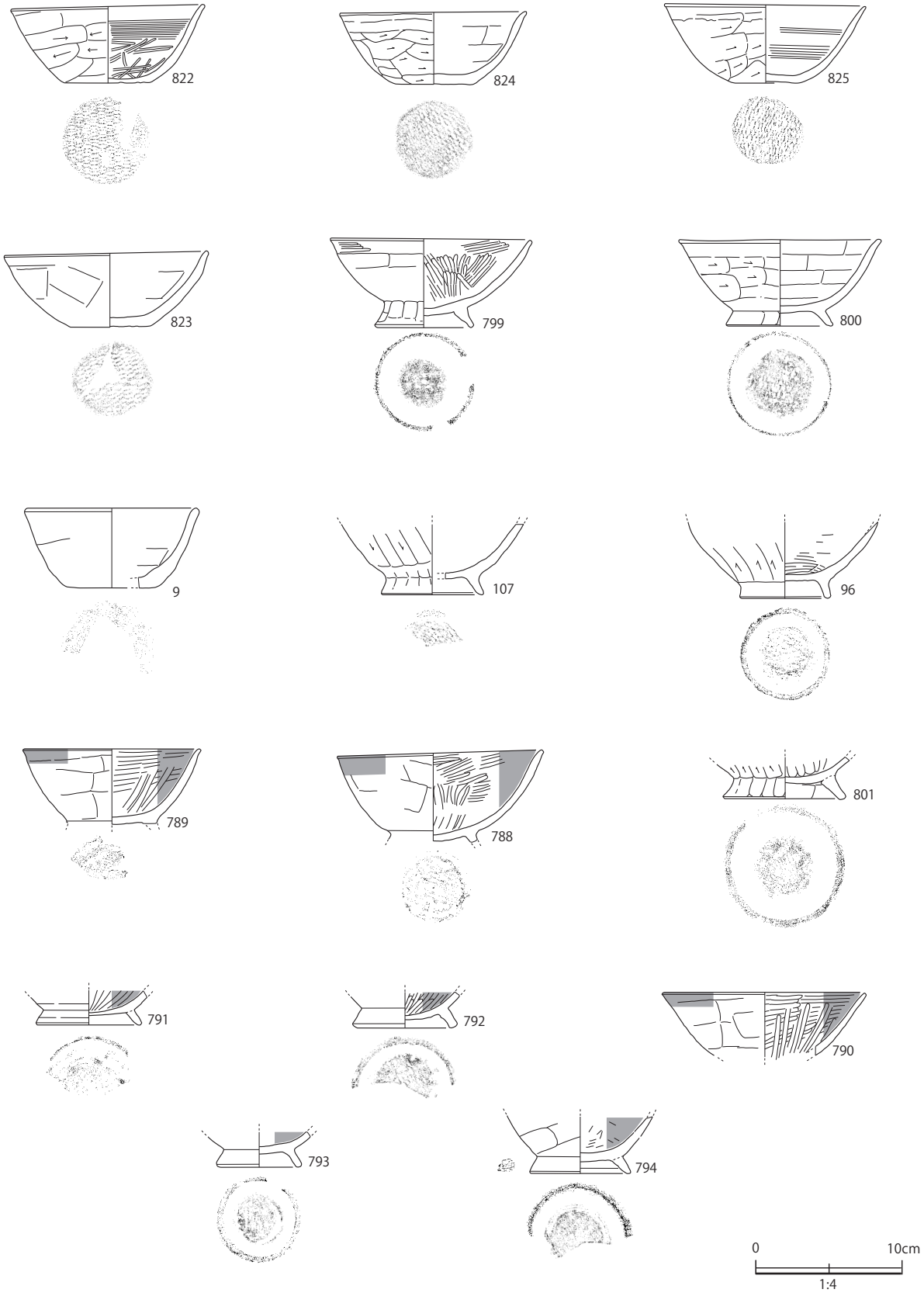
第 230 図　炭化木製品集成図（1）



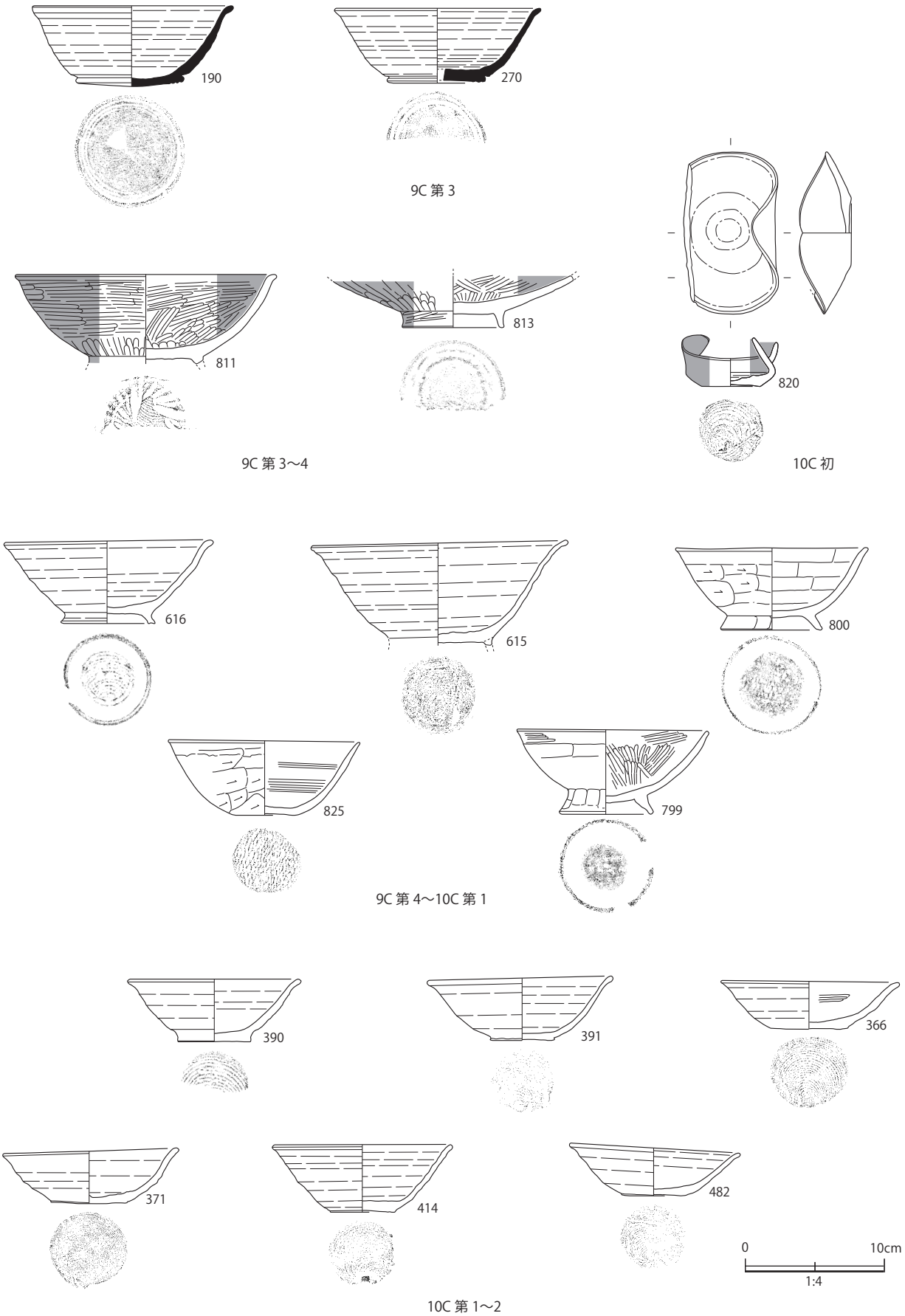
第 231 図　炭化木製品集成図（2）


1088
1089
1090
1098
1091
1136
1139
1093
1094
1097
1092
1130
986
1223
1076
1189
1128
1103
1095
1203
1231
1167
0
10cm
1:4

第 232 図　斎串集成図



第 233 図　非ロクロ土器坏集成図


190
270
9C 第 3
811
813
820
9C 第 3〜4
10C 初
616
615
800
825
799
9C 第 4〜10C 第 1
390
391
366
371
414
482
0
10cm
1:4
10C 第 1〜2

第 234 図　土器集成図

表 24　遺物観察表

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
105	1	土師器	坏	EB25	-	8406	口縁～ 底部 1/2	外面 - ミガキ 内面 - ミガキ 底部 - 不明	(14.6)	-	5.6	7.6	0.4	細砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙 5YR7/6 橙	5YR8/4 淡橙 5YR6/6 橙	やや良	-	丸底、磨滅	64
105	2	須恵器	坏	EB25	-	8406	口縁～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.2)	-	3.3	(6.8)	0.5	微砂を含む	7.5YR6/6 橙 N5/0 灰	7.5YR5/6 明褐 N5/0 灰	良	-	-	-
105	3	須恵器	坏	EP37	-	8306 8307	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	14.0	-	4.2	-	0.4	細砂を多量に含む	2.5Y6/2 灰黄	5YR5/2 灰褐 10Y6/1 灰	良	-	体部墨痕	-
105	4	須恵器	坏	EP39	-	8206 8207	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.6)	(2.4)	(6.3)	0.4	微砂を含む	7.5Y6/1 灰	N5/0 灰	良	-	-	-
105	5	土師器	坏	SP45	-	8403	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - 不明 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.8	5.3	0.4	粗砂・細砂を多く含む	10YR8/1 灰白 N1.5/0 黒	10YR8/1 灰白 N1.5/0 黒	良	-	内外面磨滅	64
105	6	須恵器	壷	SP45	下層	8403 8703	体部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ナデ	-	-	(11.9)	-	0.8	微砂・海綿骨針を含む	N6/0 灰	N5/0 灰	良	-	SG6 と接合	-
105	7	須恵器	高台坏	SP49	-	8304 8305	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	-	(1.9)	(7.6)	0.5	微砂を含む	N6/0 灰	N6/0 灰	良	-	-	-
105	8	土師器	坏	SP52	-	8407	口縁～ 底部 1/2	外面 - ナデ 内面 - カキメ 底部 - 不明	12.5	-	5.0	(6.0)	0.5	微砂・細砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙 10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	全体磨滅	64
105	9	土師器	坏	SP52	-	8407	口縁～ 底部 1/5	外面 - ナデ 内面 - カキメ 底部 - 不明	(11.9)	-	5.5	(6.2)	0.5	微砂・細砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR6/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙 5YR7/4 にぶい橙	やや良	-	-	64
105	10	土師器	甕	SP52	-	8407 8507	底部	底部 - 不明	-	-	(1.3)	7.7	0.7	粗砂・細砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙	良	-	全体磨滅	64
105	11	土師器	甕	SP52	-	8307 8407 8408	体部～ 底部 1/3	外面 - ヘラケズリ 内面 - ヘラナデ 底部 - ナデ	-	(19.0)	(22.0)	(11.0)	0.8	微砂・細砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR3/1 黒褐	良	-	全体磨滅	64
105	12	土師器	甕	SP52	-	8407	口縁～ 体部	外面 - ヘラケズリ 内面 - 不明	(14.0)	-	(9.8)	-	0.5	細砂・赤色粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR5/2 灰黄褐 10YR5/4 にぶい黄褐	良	-	内面磨滅	64
105	13	須恵器	坏	SP52	-	8407	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(16.0)	-	(4.6)	-	0.6	微砂を含む	5Y5/1 灰	5Y7/1 灰白 5Y5/1 灰	良	-	-	64
105	14	土師器	坏	SP99	-	8505	底部	外面 - ケズリ 内面 - 不明 底部 - 網代痕	-	-	(1.6)	(7.4)	0.8	微砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白 10YR6/4 にぶい黄橙	良	-	-	64
108	27	黒色土器	高台坏	SK1	-	-	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	15.5	-	7.4	7.4	0.4	細砂・赤色粒・海綿骨針を含む	10Y2/1 黒	2.5Y8/2 灰白 7.5YR8/3 浅黄橙	やや良	-	外面磨滅	65
108	28	黒色土器	高台坏	SK1	-	9414	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	(13.3)	-	5.4	6.0	0.5	粗砂・赤色粒、海綿骨針を含む	7.5Y2/1 黒	2.5Y8/1 灰白 5Y6/1 灰	やや良	-	全体磨滅	65
108	29	土師器	高台坏	SK1	-	-	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.0	-	5.9	5.8	0.4	細砂・赤色粒を多く含む	7.5YR7/6 橙 10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	やや良	-	全体被熱よる磨滅	65
108	30	土師器	坏	SK1	-	9414	ほぼ完形	外面 - ロクロ・ナデ？ 内面 - ロクロ・ナデ？ 底部 - 回転糸切	13.0	-	4.6	5.6	0.4	粗砂・細砂・赤色粒、海綿骨針を含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白 7.5YR8/3 浅黄橙	良	-	全体磨滅	65
108	31	土師器	坏	SK1	-	9214	口縁～ 底部 1/5	外面 - ロクロ 内面 - 不明 底部 - 回転糸切	(12.7)	-	4.4	4.8	0.3	細砂・赤色粒を多く含む	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6 橙 10YR8/3 浅黄橙	不良	-	全体磨滅	65
108	32	土師器	坏	SK1	-	-	口縁～ 体部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ	(12.8)	-	(3.7)	-	0.4	粗砂・細砂・赤色粒を多く含む	7.5YR8/3 浅黄橙 7.5YR8/6 浅黄橙	5YR7/6 橙	良	-	全体磨滅	-

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
108	33	須恵器	甕	SK1	-	9414	体部	外面 - タタキ 内面 - 同心円アテ	-	-	(7.8)	-	1.2	細砂をわずかに含む	N6/0 灰	N7/0 灰白	良	-	-	-
108	34	土師器	甕	SK2	-	-	体部～底部	外面 - ケズリ 内面 - ケズリ・ナデ 底部 - 網代痕	-	(11.4)	(3.7)	7.0	0.5	細砂・赤色粒を多く含む	10YR8/2 灰白	5YR6/6 橙 7.5YR5/4 にぶい褐	良	-	-	65
108	35	土師器	坏	SK2	-	-	底部	底部 - 回転糸切	-	-	(1.2)	5.4	0.4	微砂を含む	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y7/2 灰黄	10YR7/3 にぶい黄橙	やや良	-	磨滅	65
108	36	土師器	坏	SK4	-	-	口縁～底部 1/3	外面 - ロクロ・ナデ？ 内面 - ロクロ・ナデ？ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	4.8	5.5	0.4	細砂・赤色粒を多く含む	7.5YR8/3 浅黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/2 灰白 7.5YR8/3 浅黄橙	良	-	外面黒斑	65
108	37	土師器	坏	SK4	-	9014	口縁～体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.8)	-	(4.2)	-	0.4	細砂・粗砂を多く含む	7.5YR7/6 橙 2.5Y8/2 灰白	7.5YR7/6 橙 2.5Y8/2 灰白	やや良	-	全体磨滅	-
108	38	土師器	坏	SK4	-	9015	口縁～体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.2)	-	(4.4)	-	0.3	細砂を多く含む	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	やや良	-	全体磨滅	-
108	39	土師器	甕	SK4	-	9014 9015	体部～底部	外面 - ヘラケズリ・ナデ 内面 - 不明 底部 - 回転糸切	-	(11.2)	(2.6)	(7.2)	0.5	細砂・粗砂・赤色粒を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐 7.5YR8/4 浅黄橙	良	RP416	全体磨滅	-
108	40	土師器	坏	SK4	-	9015	底部	底部 - 回転糸切	-	-	(0.7)	4.8	0.5	粗砂・赤色粒を少量含む	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙 2.5YR6/8 橙	良	-	外面赤彩 全体磨滅	65
109	42	土師器	坏	SK5	-	8715 8815	口縁～底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.3)	-	4.2	5.8	0.4	粗砂を多く含む	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR4/4 褐	7.5YR8/3 浅黄橙 5YR8/4 淡橙	不良	-	全体磨滅	66
109	43	土師器	坏	SK5	-	8715	口縁～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.4)	-	4.5	(5.6)	0.4	細砂を多く、海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/1 褐灰	10YR8/2 灰白 10YR6/2 灰黄褐	不良	-	全体磨滅	66
109	44	土師器	坏	SK5	-	8815	口縁～体部	外面 - ロクロ 内面 - 不明	(14.0)	-	(4.4)	-	0.3	細砂をわずかに含む	5YR7/6 橙	5YR6/6 橙 7.5YR8/6 浅黄橙	やや良	-	全体磨滅	-
109	45	土師器	坏	SK5	-	8814	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ナデ 底部 - 回転糸切	-	(10.0)	(2.2)	(5.4)	0.4	微砂・赤色粒を含む	5YR7/6 橙	5YR7/4 にぶい橙	良	-	-	66
109	46	土師器	高台坏	SK5	-	8814	底部	底部 - 不明	-	-	(1.5)	7.6	0.5	粗砂をわずかに含む	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙	不良	-	磨滅	-
109	47	土師器	甕	SK5	-	8715	体部～底部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ 底部 - ハケメ・ナデ	-	(15.4)	(7.6)	8.9	0.1	細砂・粗砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙	5YR5/4 にぶい褐	良	RP415	外面炭化物付着 全体磨滅	66
109	48	金属製品	刀子	SK5	-	8815	-	-	6.3	-	1.8	-	0.9	-	-	-	-	-	内部空洞	66
109	49	黒色土器	高台坏	SK8	-	-	体部～底部	外面 - 不明 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(10.1)	(2.9)	5.2	0.5	微砂・海綿骨針を含む	5Y3/1 オリーブ黒	2.5Y8/2 灰白 10YR7/6 明黄褐	やや良	-	器面荒れる	66
109	50	須恵器	甕	SK8	-	-	体部	外面 - タタキ 内面 - アテ	-	-	(7.1)	-	1.0	白色粒・海綿骨針を含む	10YR6/1 褐灰	N5/0 灰	良	-	-	-
109	51	須恵器	壷	SK8	-	9112	頸部～体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	(16.2)	(4.1)	-	0.7	微砂をわずかに含む	7.5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白	良	-	-	66
109	52	土師器	坏	SK9	-	-	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.4	-	4.8	5.6	0.4	粗砂をわずかに含む	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白 10YR6/2 灰黄褐	やや良	RP514	口縁部に油煙付着	66
109	53	土師器	高台坏	SK9	-	9314	口縁～体部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.1)	-	(5.9)	-	0.4	粗砂・細砂・赤色粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	やや良	RP515	全体磨滅	66
109	54	土師器	高台坏	SK9	-	-	ほぼ完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	14.5	-	(5.2)	-	0.5	粗砂・細砂を多く含む	5YR7/6 橙 10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	やや良	RP518	-	66
109	55	土師器	坏	SK9	-	-	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - ヘラナデ	-	(11.0)	(3.1)	5.5	0.3	細砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/6 橙	やや良	-	全体磨滅	66

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
109	56	黒色土器	高台坏	SK9	-	9414	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	14.1	-	(5.3)	-	0.3	微砂を含む	5Y2/1 黒	2.5Y7/2 灰黄	やや良	RP516	外面磨滅	67
109	57	内黒土器	高台坏	SK9	-	-	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 不明	-	(14.0)	(5.2)	(7.2)	0.4	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	10YR8/2 灰白	やや良	-	外面磨滅	67
110	58	石製品	石片	SK9	-	9214	-	-	(12.0)	-	(11.0)	-	4.0	-	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	良	RQ517	-	67
110	59	石製品	砥石	SK9	-	-	-	-	(4.5)	-	(2.8)	-	1.0	-	10YR8/1 灰白 10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/1 灰白 10YR7/3 にぶい黄橙	-	-	穿孔の痕跡 3 ヶ所	67
110	60	土師器	坏	SK11	表土	8202 8302	完形	外面 - ロクロ 内面 - ナデ 底部 - 不明	13.3	-	4.5	4.5	0.4	微砂を多く含む	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	やや良	RP525	全体磨滅	67
110	61	土師器	坏	SK11	-	8202 8302	体部～底部 1/2	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	-	(7.5)	(4.9)	6.6	0.3	粗砂を含む	10YR8/4 浅黄橙	10YR5/2 灰黄褐 10YR8/2 灰白	良	RP525	全体磨滅	67
110	62	土師器	坏	SK11	-	8202 8302	口縁～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.0)	-	4.8	5.1	0.4	細砂・赤色粒を含む	10YR8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白 7.5YR8/3 浅黄橙	やや良	RP526・527	口縁部に油煙付着	67
110	63	土師器	小型壺	SK11	-	8202	体部～底部 1/2	外面 - ロクロ・ナデ？ 内面 - ロクロ・ナデ？ 底部 - 不明	-	(9.0)	(7.2)	-	0.7	微砂・細砂・赤色粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/6 橙	良	RP12	肩部穿孔 1 ヶ所 底部刻書「□」 体部刻書「佛」「□」 全体磨滅	68
110	64	土師器	坏	SK11	-	8202	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ナデ 底部 - 回転糸切	-	(11.6)	3.5	4.6	0.5	細砂を含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白 0YR5/8 黄褐	良	RP13	全体磨滅 鉄分付着 内面炭化物付着	67
110	65	須恵器	蓋	SK11	-	7800	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.8)	-	(1.4)	-	0.7	細砂を多く含む	7.5Y5/1 灰	N7/0 灰白	良	-	-	67
110	66	須恵器	壷	SK11	-	8201	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	6.1	-	0.8	微砂・海綿骨針を含む	N6/0 灰	N5/0 灰	良	-	-	-
111	67	土師器	甕	SK13	-	8403	体部	外面 - タタキ 内面 - ナデ	-	-	(6.7)	-	1.1	微砂・赤色粒を含む	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	良	-	-	-
111	68	須恵器	高台坏	SK14	表土	8105 8205	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転ヘラ切	12.2	-	4.4	8.1	0.5	細砂をわずかに含む	N7/0 灰白	N7/0 灰白 10Y5/1 灰	良	-	-	68
111	69	土師器	坏	SK15	-	8102	底部	外面 - 不明 内面 - 不明 底部 - 回転糸切	-	(6.5)	(1.0)	4.5	0.3	微砂・赤色粒を含む	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	やや良	-	全体磨滅	-
111	70	須恵器	甕	SK15	-	8102	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(5.7)	-	0.9	微砂を含む	N7/0 灰白	N7/0 灰白	良	-	-	-
111	71	土師器	甕	SK15	-	8102	口縁～体部	外面 - ハケメ・ヨコナデ 内面 - ハケメ	(25.0)	-	(10.9)	-	0.7	微砂を多く含む	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR5/6 黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR6/6 明黄褐	良	RP14	-	68
111	72	須恵器	甕	SK34	-	-	口縁部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ヘラナデ	(49.0)	-	(11.9)	-	1.4	細砂を多く含む	N5/0 灰	N7/0 灰	良	RP474	SG6 出土と接合	68
111	73	須恵器	甕	SK34	-	-	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(31.8)	-	1.7	微砂を多く含む	5Y 灰 5/1	5Y 灰 5/1	良	RP474	74 と同一個体か？	-
112	74	須恵器	甕	SK34	-	-	口縁～底部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	(49.8)	-	86.6	-	1.5	細砂・微砂を多く含む	7.5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰 7.5Y4/1 灰 7.5Y3/1 オリーブ黒	良	RP50、52、53、67、75、76、137、155、179、453、472	SG6 出土と接合 73 と同一個体か？	69
112	75	須恵器	壷	SK34	-	-	体部	外面 - ロクロ・ケズリ・タタキ 内面 - ロクロ・ナデ	-	(27.0)	(20.1)	-	1.0	微砂を多く含む	2.5YR7/1 明赤灰	N5/0 灰 10Y3/1 オリーブ黒	良	-	-	68

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
113	76	須恵器	坏	SK40	-	8306	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.0)	-	(4.1)	-	0.4	細砂をわずかに含む	5Y5/1 灰	5Y6/1 灰 5Y7/1 灰白	良	-	-	-
113	77	土師器	甕	SK40	-	8306	体部	外面 - ハケメ 内面 - ナデ・ハケメ	-	-	(8.4)	-	0.7	微砂・海綿骨針を含む	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/1 褐灰	良	-	-	-
113	78	土師器	高台坏	SK46	-	8503 8604	口縁～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - 不明 底部 - 回転糸切	(16.5)	-	(6.0)	-	0.4	細砂を含む	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	不良	-	全体磨滅	70
113	79	土師器	坏	SK46	-	8503	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ナデ？ 底部 - 回転糸切	-	(10.6)	(2.7)	5.1	0.3	細砂・微砂を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	不良	-	全体磨滅	70
113	80	土師器	坏	SK46	-	8604	底部	外面 - 不明 内面 - 不明 底部 - 回転糸切	-	(9.6)	(2.7)	4.2	0.3	細砂を多く、雲母を含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白	やや良	-	全体磨滅	70
113	81	須恵器	壺	SK46	-	8604	口縁部	外面 - ロクロ・ヨコナデ 内面 - ロクロ・ヨコナデ	(12.4)	-	(2.4)	-	0.5	微砂を含む	N6/0 灰	N6/0 灰	良	-	-	70
113	82	須恵器	甕	SK46	-	8503	底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ヘラナデ 底部 - タタキ	-	(24.3)	(5.2)	(15.2)	0.8	細砂を含む	N6/0 灰	N6/0 灰	良	RP391 ・392 ・393	-	70
113	83	土師器	坏	SK66	-	8912	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.3	-	4.8	5.6	0.4	細砂・赤色粒を含む	10YR8/3 浅黄橙 7.5YR7/6 橙	7.5YR8/2 灰白 7.5YR7/6 橙	やや良	-	全体磨滅	70
113	84	土師器	坏	SK66	含土	8912	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 不明	12.4	-	4.4	5.6	0.3	粗砂・赤色粒を含む	2.5YR6/8 橙 7.5YR7/6 橙	5Y7/6 橙 7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	全体磨滅	70
113	85	土師器	甕	SK66	-	8912	底部	底部 - ヘラケズリ	-	-	(0.8)	(12.4)	0.7	微砂・赤色粒を多く含む	7.5YR8/3 浅黄橙 10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR7/3 にぶい橙 10YR5/1 褐灰	良	-	全体磨滅	-
113	86	土師器	坏	SK67	-	8912	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 不明	(13.8)	-	(3.9)	5.3	0.4	細砂・赤色粒を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	不良	RP530	全体磨滅	70
113	87	土師器	甕	SK67	-	9012	口縁～ 底部 1/5	外面 - ハケメ・ヘラケズリ 内面 - ナデ 底部 - 網代痕	-	(17.0)	(5.4)	(11.2)	0.4	粗砂を含む	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	70
113	88	須恵器	高台坏	SK67	-	9012	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	15.2	-	7.2	(6.4)	0.5	微砂を含む	2.5Y6/1 黄灰	5Y7/1 灰白	良	-	内面墨痕	70
114	89	土師器	坏	SK81	-	-	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(14.4)	-	4.3	(6.4)	0.4	微砂・海綿骨針を含む	10YR8/2 灰白	10YR8/4 浅黄橙 7.5YR7/6 橙	良	RP467	-	71
114	90	土師器	甕	SK81	-	-	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - 不明	(23.0)	-	(10.1)	-	0.6	粗砂・赤色粒を多く含む	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	良	-	内面磨滅	71
114	91	土師器	坏	SK82	-	8200	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.0	-	5.0	5.2	0.5	微砂を含む	10YR8/4 浅黄橙 10YR4/6 褐	10YR8/3 浅黄橙	良	RP410	内面磨滅	71
114	92	土師器	坏	SK82	-	8200	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(13.7)	-	4.2	5.4	0.3	細砂・赤色粒を含む	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	良	-	内面磨滅	71
114	93	土師器	坏	SK82	-	-	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.9	-	4.9	5.0	0.4	細砂・赤色粒を多く含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	良	RP406	口縁に油煙付着 灯明皿	71
114	94	土師器	坏	SK82	-	-	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.0)	-	(2.9)	-	0.3	細砂を含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	良	-	口縁に油煙付着	71
114	95	土師器	高台坏	SK82	-	-	体部～ 底部	外面 - 不明 内面 - 不明 底部 - 不明	-	(12.2)	(3.6)	(7.8)	0.5	粗砂・赤色粒を含む	7.5YR8/4 浅黄橙 5YR6/8 橙	7.5YR8/3 浅黄橙 10R6/6 赤橙	良	-	二次焼成により全体磨滅	72

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
114	96	土師器	高台坏	SK82	-	8199	体部～底部	外面 - ヘラケズリ・ナデ・ミガキ 内面 - ハケメ・ナデ 底部 - 網代痕	-	(12.9)	(5.2)	6.2	0.5	微砂を多く含む	10YR8/4 浅黄橙 5YR7/6 橙	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR7/6 橙	良	RP407	内面磨滅	71
114	97	土師器	甕	SK82	-	8100	口縁～体部 1/4	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ	(19.5)	-	(11.7)	-	0.7	微砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙 10YR6/2 灰黄褐	良	RP408・409	体部スス付着	72
114	98	土師器	甕	SK82	-	-	体部～底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ナデ 底部 - 不明	-	(18.6)	(5.1)	(12.0)	0.7	粗砂・赤色粒を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	良	-	底部凸状	72
114	99	須恵器	坏	SK82	-	-	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(16.2)	-	(6.0)	-	0.4	細砂をわずかに、海綿骨針を含む	5Y5/1 灰	10Y5/1 灰	良	-	体部・内面墨痕 大型品か	72
114	100	須恵器	壷	SK82	中層砂	8708	体部	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ロクロ	-	(29.0)	(5.8)	-	0.8	微砂・海綿骨針を含む	N5/0 灰	N5/0 灰	良	-	-	72
115	101	磁器	碗	SK111	1 層	1008	体部	外面 - 釉薬 内面 - ロクロ・釉薬	-	-	(2.6)	-	0.4	-	5Y8/1 灰白	2.5GY7/1 明オリーブ灰	良	-	内面付着物	73
115	103	土師器	坏	SK115	-	-	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.3	-	4.8	5.5	0.5	微砂を多く含む	10YR8/2 灰白 7.5YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白 7.5YR8/3 浅黄橙	良	RP650	全体磨滅	72
115	104	土師器	坏	SK115	-	-	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.8	-	5.2	5.4	0.5	粗砂・細砂を多く含む	7.5YR8/3 浅黄 7.5YR5/4 にぶい橙	7.5YR8/3 浅黄橙 5YR5/4 にぶい赤褐	良	RP660	内外面炭化物付着	72
115	105	土師器	坏	SK115	-	1415	底部	底部 - 回転糸切	-	-		(5.8)	0.5	赤色粒・細砂を少量含む	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	良	RP661	底部多量に炭化物付着	73
115	106	土師器	坏	SK115	-	-	底部	外面 - ロクロ 内面 - 不明 底部 - 回転糸切	-	(9.6)	(2.2)	(5.8)	0.5	微砂・赤色粒を含む	10YR8/2 灰白	10YR8/4 浅黄橙	良	-	内面磨滅	73
115	107	土師器	高台坏	SK115	-	1415 1515	体部～底部	外面 - ケズリ 内面 - 不明 底部 - 網代痕	-	-	(4.8)	(7.0)	0.7	微砂を含む	5YR6/8 橙	10YR8/4 浅黄橙	良	-	内面磨滅	73
115	108	土師器	甕	SK115	-	-	体部～底部	外面 - ケズリ 内面 - ナデ 底部 - ケズリ	-	-	(5.0)	(7.4)	0.7	微砂を含む	2.5Y3/3 暗オリーブ褐 N2/0 黒	10YR5/2 灰黄褐 N2/0 黒	良	RP662	内外面多量に炭化物付着	73
115	109	須恵器	坏	SK115	-	1516	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.6)	-	(2.7)	-	0.3	微砂・海綿骨針を含む	7.5Y6/1 灰	N6/0 灰	良	RP648	-	73
115	110	須恵器	高台坏	SK115	-	-	口縁～体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.6)	-	(5.8)	-	0.5	微砂・海綿骨針を含む	7.5Y5/1 灰	N5/0 灰	良	-	-	73
116	111	土師器	坏	SK116	-	1514	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 不明	13.0	-	4.1	5.2	0.4	細砂・赤色粒を含む	7.5YR7/8 黄橙	7.5YR8/8 黄橙	不良	RP601	全体磨滅	72
116	112	須恵器	蓋	SK117	-	-	体部	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ロクロ	-	(12.4)	(1.3)	-	0.5	細砂を含む	5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰	良	-	-	74
116	113	土師器	甕	SK117	-	-	口縁～体部	外面 - 不明 内面 - カキメ	(20.0)	-	(8.2)	-	0.6	細砂・赤色粒を多く含む	7.5YR7/6 橙 7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR5/6 明褐	良	RP602	-	74
116	114	須恵器	坏	SK119	-	1513	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.6)	(1.8)	(5.0)	0.4	微砂を多く含む	2.5Y6/1 黄灰	5Y7/1 灰白	良	-	体部墨書「□」 底部墨書「□」	72
116	115	須恵器	坏	SK124	-	-	底部	底部 - 回転ヘラ切	-	-	(1.4)	(8.0)	0.6	細砂をわずかに含む	5Y7/1 灰白	5Y8/1 灰白	良	-	-	73
116	116	須恵器	坏	SK127	-	-	底部	底部 - 回転糸切	-	-	(0.8)	-	-	黒色粒・海綿骨針を含む	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	良	-	-	74
116	117	須恵器	甕	SK127	-	1314	体部	外面 - タタキ 内面 - タタキ	-	-	(4.6)	-	1.2	微砂・海綿骨針を含む	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄	良	-	-	74
116	118	須恵器	甕	SK128	-	1614	体部	外面 - タタキ 内面 - 平行・同心円アテ	-	-	(8.4)	-	1.4	細砂・海綿骨針を含む	5Y4/1 灰	5YR4/1 褐灰	良	RP615	-	73

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
116	119	土師器	甕	SK141	-	-	口縁部	外面 - 不明 内面 - 不明	(20.0)	-	(1.6)	-	0.6	細砂を含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	良	-	全体磨滅	74
116	120	土師器	甕	SK141	-	-	口縁部	外面 - ハケメ・ヨコナデ 内面 - ハケメ	(16.8)	-	(2.4)	-	0.4	細砂を含む	10YR7/4 にぶい黄褐	10YR6/6 明黄褐	良	-	-	74
116	121	土師器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ	-	(14.0)	(7.1)	-	0.4	微砂を含む	10YR6/2 灰黄褐	7.5YR7/6 橙 10YR5/2 灰黄褐	良	-	-	74
116	122	土師器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ	-	-	(4.5)	-	0.7	細砂を含む	7.5YR7/6 橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	内外被熱	74
116	123	土師器	甕	SK141	-	-	底部	底部 - 回転糸切	-	(10.5)	(2.7)	(7.6)	0.8	細砂を多く含む	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR5/1 褐灰	10YR5/2 灰黄褐 2.5Y3/2 黒褐	良	-	-	74
116	124	須恵器	坏	SK141	-	-	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	3.6	(6.3)	0.6	微砂を多く含む	2.5GY5/1 オリーブ灰	2.5GY5/1 オリーブ灰 N4/0 灰	良	-	-	74
116	125	須恵器	甕	SK141	-	-	口縁	外面 - タタキ・ナデ 内面 - ヘラケズリ・ナデ	(34.1)	-	(8.3)	-	0.9	微砂を含む	10GY5/1 緑灰 N6/0 灰	N8/0 灰白 N4/0 灰	良	-	-	74
117	126	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ・カキメ 内面 - アテ	-	-	(23.2)	-	1.4	微砂を含む	10YR7/1 灰白	N4/0 灰	良	-	-	-
117	127	須恵器	甕	SK141	-	0616	体部	外面 - タタキ 内面 - アテ	-	-	(18.8)	-	1.5	微砂を多く含む	10YR7/1 灰白	2.5Y6/1 黄灰	良	-	-	205
117	128	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ・カキメ 内面 - アテ	-	-	(32.1)	-	1.2	細砂を含む	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	良	-	-	205
117	129	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ・カキメ 内面 - アテ	-	-	(17.1)	-	1.1	細砂を含む	N6/0 灰	N6/0 灰	良	-	-	205
118	130	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ・カキメ 内面 - アテ	-	-	(14.0)	-	1.2	微砂を多く含む	2.5Y7/1 灰白	7.5Y5/1 灰	良	-	-	205
118	131	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ・カキメ 内面 - アテ	-	-	(8.4)	-	1.0	細砂を多く含む	2.5Y6/1 黄灰	N5/0 灰 2.5Y6/1 黄灰	良	-	-	205
118	132	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ 内面 - アテ	-	-	(13.1)	-	1.0	微砂を含む	N5/0 灰	5GY5/1 オリーブ灰	良	-	-	205
118	133	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ 内面 - アテ	-	-	(9.3)	-	1.6	微砂を多く含む	10YR7/1 灰白	N 灰 5/1	良	-	-	205
118	134	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ 内面 - アテ	-	-	(6.5)	-	1.1	微砂を含む	N5/0 灰	N6/0 灰	良	-	-	205
118	135	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ・カキメ 内面 - アテ	-	-	(10.5)	-	1.0	微砂を含む	2.5GY5/1 オリーブ灰	5Y4/1 灰	良	-	-	205
118	136	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ 内面 - アテ	-	-	(14.4)	-	0.9	微砂を含む	N5/0 灰	N6/0 灰	良	-	-	205
118	137	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ 内面 - アテ	-	-	(10.3)	-	0.8	微砂を含む	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	良	-	-	205
118	138	須恵器	甕	SK141	-	-	体部	外面 - タタキ 内面 - アテ	-	-	(12.2)	-	1.2	微砂を含む	10GY5/1 緑灰	10YR5/1 褐灰	良	-	-	205
119	139	須恵器	甕	SK185	-	-	体部～ 底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ナデ 底部 - 砂目底	-	(17.0)	(3.8)	(11.0)	0.9	細砂を多く含む	2.5Y6/1 黄灰	7.5Y5/1 灰	良	-	-	-
119	140	土師器	甕	SK186	-	0414	体部～ 底部	外面 - ハケメ 内面 - 不明 底部 - 網代痕？	-	-	(2.1)	(6.0)	0.8	細砂を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白 7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	底部に刃物痕	-
119	141	須恵器	坏	SK187	-	-	底部	底部 - 回転糸切	-	-	-	-	0.8	微砂を含む	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	良	-	-	-
119	142	土師器	甕	SK188	-	0615	底部	底部 - 網代痕？	-	-	(2.1)	(7.8)	0.7	細砂・赤色粒を含む	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	やや良	-	-	-
119	143	須恵器	甕	SK188	-	-	体部	外面 - タタキ 内面 - 同心円アテ	-	-	(3.4)	-	0.6	微砂を含む	5Y7/1 灰白	7.5Y5/1 灰	良	-	-	-
119	144	須恵器	甕	SK188	-	-	頸部	外面 - ナデ 内面 - ナデ	-	-	(4.3)	-	1.2	精緻	N7/0 灰白	N6/0 灰	良	-	-	-

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
119	145	須恵器	蓋	SK189	-	-	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(0.9)	-	0.3	細砂をわずかに含む	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白 5Y5/1 灰	良	-		-
119	146	須恵器	甕	SK190	-	-	頸部	外面 - ロクロ・ヨコナデ 内面 - ロクロ・ヨコナデ	-	-	(5.7)	-	1.1	微砂を含む	5Y6/1 灰 10YR6/6 明黄褐	7.5Y6/1 灰 10YR6/8 明黄褐	良	-	内外磨滅	-
119	147	土師器	坏	SK193	-	0514	底部	底部 - 回転糸切	-	-	(1.1)	(8.0)	0.6	赤色粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	良	-	内外磨滅	-
119	148	須恵器	壷	SK195	-	-	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(7.0)	-	0.7	微砂を含む	10YR5/1 褐灰	7.5YR5/1 褐灰	良	-	-	-
119	149	土師器	坏	SK201	-	-	体部～ 底部	外面 - 不明 内面 - 不明 底部 - 不明	-	(11.8)	(2.7)	(6.4)	0.5	黒色粒を含む	5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	良	-	全体磨滅	-
119	150	須恵器	長頸壷	SX43	表土	8604	頸部	外面 - カキメ 内面 - ナデ	-	(7.4)	(6.6)	-	1.0	微砂を含む	N6/0 灰	5Y5/2 オリーブ灰 5Y6/1 灰	良	RP55	長頸壷	74
119	151	土師器	坏	SX104	-	-	口縁～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 不明	(12.6)	-	4.6	(5.0)	0.3	微砂を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	良	-	-	-
119	152	土師器	甕	SX104	-	-	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - 不明	(24.0)	-	(8.6)	-	0.8	細砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	内外面磨滅	-
119	153	須恵器	長頸壷	SX104	-	9313	体部	外面 - カキメ・ヘラケズリ 内面 - カキメ・ヘラケズリ	-	(21.0)	(8.1)	-	0.7	微砂を含む	7.5Y5/1 灰	N6/0 灰	良	-	-	74
119	154	内黒土器	高台坏	SX105	-	-	底部	外面 - 不明 内面 - ヘラミガキ 底部 - 不明	-	-	(1.7)	(6.5)	-	微砂・海綿骨針を含む	5Y3/1 オリーブ黒	N4/0 灰 2.5Y8/1 灰白	良	-	全体磨滅	-
119	155	土師器	甕	SX105	-	-	体部～ 底部	外面 - ヘラケズリ・ナデ 内面 - 不明 底部 - ナデ	-	(14.0)	(7.5)	(9.0)	0.5	細砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR4/2 灰黄褐	良	-	-	-
119	156	土師器	高台坏	SX120	-	1412・13 1512・13	底部	底部 - 不明	-	-	(1.3)	7.2	0.8	粗砂・赤色粒を含む	5YR8/4 淡橙	5YR7/8 橙	良	RP603	-	74
119	157	須恵器	坏	SX120	-	-	底部	底部 - 回転糸切	-	-	(0.6)	(6.4)	0.5	微砂・海綿骨針を含む	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白	良	-	-	74
119	158	須恵器	坏	SX120	-	14・1513	底部	底部 - 不明	-	(9.0)	(1.3)	(6.4)	0.6	微砂を含む	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/1 灰白	良	-	-	74
119	159	須恵器	坏	SX121	-	1414	底部	底部 - 回転糸切	-	-	(1.1)	(6.4)	0.6	微砂を含む	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	良	-	-	73
119	160	須恵器	甕	SX134	-	1012 1112	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(2.7)	-	1.1	微砂・海綿骨針を含む	7.5Y5/1 灰	5YR4/1 褐灰	良	-	-	-
119	161	須恵器	甕	SX149	-	0715	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(7.1)	-	1.2	微砂を含む	N8/0 灰白	5GY7/1 明オリーブ灰	良	-	-	-
119	162	須恵器	甕	SX149	-	0715	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(5.1)	-	0.9	細砂を多く含む	N7/0 灰白	N7/0 灰白	良	-	-	-
119	163	須恵器	蓋	SX184	-	0808	1/4	外面 - ロクロ・回転ヘラケズリ 内面 - ロクロ	(15.0)	-	3.3	-	0.9	細砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR5/3 にぶい黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙	不良	-	-	75
120	164	土師器	坏	SK1・8 付近	-	9414	体部～ 底部	外面 - 不明 内面 - 不明 底部 - 回転糸切	-	(8.7)	(1.6)	5.0	0.4	微砂・赤色粒を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/6 明黄褐	10YR8/2 灰白	良	-	全体磨滅	-
120	165	土師器	坏	SK1・8 付近	-	9414	底部	底部 - 回転糸切	-	(8.2)	(1.5)	4.4	0.5	微砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	やや良	-	-	-
120	166	土師器	坏	SK1・8 付近	-	9414	底部	底部 - 回転糸切	-	(7.7)	(1.2)	5.5	0.4	粗砂・細砂を多く含む	7.5YR8/3 浅黄橙 5YR7/6 橙	7.5YR8/3 浅黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	やや良	-	全体磨滅 二次焼成か	-
120	167	土師器	坏	SX104 付近	-	9413	口縁～ 底部 2/3	外面 - ナデ 内面 - ナデ 底部 - 不明	13.6	-	4.7	(4.2)	0.4	細砂・赤色粒を含む	10YR8/4 浅黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/4 浅黄橙 5YR8/4 淡橙	やや良	-	-	75
120	168	土師器	坏	SX104 付近	-	9413	底部	底部 - 不明	-	-	(0.8)	(4.8)	0.4	細砂を含む	2.5YR7/3 淡赤橙 10YR5/8 黄褐	2.5YR7/4 淡赤橙	良	-	全体磨滅	-
120	169	土師器	坏	SK11 付近	-	8402	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - 不明 底部 - 回転糸切	-	(8.6)	(1.9)	5.1	0.3	細砂を含む	7.5YR7/6 橙	2.5Y8/2 灰白	やや良	-	全体磨滅	-

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
120	170	土師器	坏	SK67 SD3 付近	-	9013	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 不明	-	(10.0)	(2.4)	5.6	0.3	微砂を含む	7.5YR7/6 橙 10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙 10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	全体磨滅	-
120	171	土師器	坏	SK66 ・67 付近	-	8911	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.2)	-	4.7	4.2	0.3	微砂・赤色粒を含む	7.5YR7/6 橙 7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR5/6 明褐 7.5YR7/4 にぶい橙	不良	-	全体磨滅	75
120	172	土師器	坏	SK66 ・67 付近	-	8812	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.2)	-	(4.0)	-	0.4	微砂を含む	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白 10YR6/1 褐灰	やや良	-	全体磨滅	-
120	173	土師器	坏	SK66 ・67 付近	-	8912	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - 不明 底部 - 回転糸切・ナデ	(13.0)	-	5.0	4.4	0.4	細砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR4/2 灰褐	やや良	-	内面磨滅	75
120	174	土師器	高台坏	SK66 ・67 付近	-	8812 8912	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(13.0)	(4.2)	-	0.3	細砂・赤色粒を多く含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	やや良	-	全体磨滅 二次焼成か	75
120	175	土師器	坏	SK82 付近	-	8100	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.0)	-	(2.7)	-	0.4	微砂・赤色粒を多く、海綿骨針を含む	10YR8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/1 灰白	良	-	口縁部に油煙付着	75
120	176	土師器	坏	SK82 付近	-	8100	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.6)	-	(4.2)	-	0.4	微砂を多く含む	7.5YR8/4 浅黄橙 10YR5/4 にぶい黄褐	10YR8/2 灰白 10YR6/1 褐灰	やや良	-	内外面に炭化物付着	75
120	177	土師器	坏	SX104 付近	-	9413	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.8)	-	(2.7)	-	0.4	微砂・赤色粒を含む	10YR8/3 浅黄橙 5YR8/4 淡橙	10YR8/3 浅黄橙 2.5YR7/4 淡赤橙	良	-	全体磨滅	-
120	178	土師器	坏	SX104 付近	-	9413	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(12.2)	-	(3.6)	-	0.4	微砂を多く含む	7.5YR8/3 浅黄橙 10YR5/1 褐灰	10YR8/3 浅黄橙 10YR5/1 褐灰	良	-	全体磨滅 二次焼成か	-
120	179	土師器	高台坏	SD69 付近	-	8507	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.0)	-	8.6	(7.2)	0.5	細砂を多く含む	7.5YR8/3 浅黄橙 7.5YR5/6 明褐	2.5Y8/2 灰白 2.5Y7/1 灰白	やや良	-	全体磨滅	-
121	180	土師器	坏	SD3	-	9311	口縁～ 底部	外面 - 不明 内面 - 不明 底部 - 不明	(12.9)	-	(5.0)	5.6	0.3	細砂多く、赤色粒わずかに含む	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	不良	RP4	全体磨滅	-
121	181	土師器	坏	SD3	-	-	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	4.7	(5.4)	0.3	粗砂・赤色粒を含む	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	やや良	-	全体磨滅	75
121	182	土師器	坏	SD3	-	-	底部	底部 - 回転糸切	-	(7.8)	(1.2)	5.5	0.3	黒色粒・細砂を含む	2.5Y8/2 灰白 10YR7/6 明黄褐	10YR8/1 灰白 10YR6/6 明黄褐	良	RP6	全体磨滅	75
121	183	土師器	甑	SD3	-	9311	口縁～ 体部	外面 - ヘラケズリ・ナデ 内面 - ナデ・ヘラナデ	(20.5)	-	(21.1)	-	0.8	微砂・細砂を多く含む	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙	良	RP3	把手	76
121	184	黒色土器	高台坏	SD3	-	-	底部	底部 - 回転糸切	-	-	(1.8)	(6.8)	0.7	微砂を多く含む	N4/0 灰	5Y8/1 灰白 N4/0 灰	良	RP3	全体磨滅	75
121	185	黒色土器	高台坏	SD3	-	9311	体部～ 底部	外面 - 不明 内面 - ミガキ 底部 - 不明	-	-	(2.0)	7.7	0.5	微砂を含む	5Y3/1 オリーブ黒	2.5Y8/3 淡黄	良	RP5	全体磨滅	75
121	186	黒色土器	高台坏	SD3	-	9213	底部	外面 - ロクロ 内面 - 不明 底部 - 回転糸切	-	-	(1.9)	5.8	0.5	粗砂・細砂を含む	10Y5/1 灰	7.5YR8/4 浅黄橙 10YR8/2 灰白	やや良	-	全体磨滅	76
121	187	黒色土器	高台坏	SD3	-	-	底部	外面 - 不明 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	-	(1.5)	7.0	0.5	細砂を多く含む	N2/0 黒	2.5Y8/2 灰白	良	-	全体磨滅	76
121	188	須恵器	坏	SD3	-	9115	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.5	-	3.9	(6.8)	0.4	粗砂・細砂を含む	5Y6/1 灰 N5/0 灰	5Y6/1 灰	良	RP465	体部墨書「定」 逆位	77
121	189	須恵器	坏	SD3	-	9113	口縁～ 底部 1/5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 不明	(14.2)	-	(4.2)	(6.8)	0.5	粗砂・赤色粒を多く含む	10Y6/1 灰	10Y7/1 灰白 N4/0 灰	良	RP466	全体磨滅	75

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
121	190	須恵器	坏	SD3	-	9114 9115	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.4	-	5.8	7.7	0.3	黒色粒を多く含む	5B6/1 青灰	5B5/1 青灰	良	RP461 ・462 ・463	底部特徴的	77
121	191	須恵器	高台坏	SD3	-	-	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・ヘラケズリ	-	-	(1.4)	6.6	0.6	黒色粒・海綿骨針を含む	N7/0 灰白	N7/0 灰白	良	-	-	76
121	192	須恵器	甕	SD3	-	9114	体部	外面 - 格子目タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(7.3)	-	1.0	細砂を含む	N6/0 灰 5Y4/4 暗オリーブ	N7/0 灰白 7.5Y4/1 灰	良	RP464	-	-
121	193	須恵器	蓋	SD3	-	9212	1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(16.0)	-	(2.0)	-	0.5	細砂を多く含む	5Y7/2 灰白	7.5Y8/1 灰白	良	-	-	76
121	194	須恵器	蓋	SD3	-	9212 9213	1/6	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(15.4)	-	(1.5)	-	0.8	細砂を多く含む	5Y7/1 灰白 5YR6/3 にぶい橙	5Y7/1 灰白	良	-	-	76
122	197	須恵器	壷	SD69	中層	8208 8810	体部	外面 - ロクロ・ケズリ 内面 - ロクロ	-	(16.4)	(6.2)	-	1.0	細砂を多く含む	N6/0 灰 5Y7/1 灰白	10Y4/1 灰	良	-	外面自然釉	78
122	198	須恵器	甕	SD69	-	8008	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(6.9)	-	1.2	黒色粒を多く含む	10Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	良	-	-	-
122	199	石器	剥片	SD69	-	8708	-	-	1.9	-	1.6	-	0.3	-	-	-	-	-	-	-
122	200	土師器	坏	SD95	-	7911	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(12.0)	-	4.2	(4.8)	0.4	赤色粒・細砂を少量含む	7.5YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白	良	-	-	78
122	201	須恵器	壺	SD95	-	7810	体部	外面 - ナデ 内面 - ナデ	-	-	(8.9)	-	0.8	微砂・黒色粒を含む	N7/0 灰白	N6/0 灰	良	-	-	-
122	202	土師器	坏	SD131	-	0714	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - 不明 底部 - 回転糸切？	-	(8.6)	(1.9)	(6.0)	0.4	微砂を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	やや良	-	-	-
122	203	土師器	坏	SD131	-	0914 1014	ほぼ完形	外面 - ナデ 内面 - ナデ 底部 - 回転糸切？	13.5	-	4.8	5.4	0.5	粗砂・細砂・赤色粒を多く含む	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙	良	-	内外磨滅	79
122	204	須恵器	甕	SD131	-	0814	体部～ 底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ナデ 底部 - 砂目底	-	(13.5)	(3.7)	(10.8)	0.8	微砂を含む	10YR5/1 褐灰	5Y5/1 灰	良	-	-	-
122	205	須恵器	甕	SD131	-	0814	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ・ナデ	-	-	(5.0)	-	1.1	微砂を含む	2.5Y[6/4 にぶい黄	N6/0 灰 N3/0 暗灰	良	-	-	-
122	206	須恵器	甕	SD132	-	1014	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(3.9)	-	1.0	微砂を含む	N7/0 灰白	7.5Y5/1 灰	良	-	-	-
122	207	須恵器	甕	SD138	-	-	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 不明	-	-	(3.2)	-	0.9	微砂を含む	7.5Y6/1 灰	2.5Y4/2 暗灰黄	良	-	-	-
122	208	土師器	甕	SD139	-	0816	口縁～ 体部	外面 - 不明 内面 - 不明	(22.0)	-	(4.9)	-	0.5	粗砂・細砂を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	-	-
122	209	須恵器	甕	SD140	-	0611	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(5.2)	-	1.2	細砂を含む	N7/0 灰白	N7/0 灰白	良	-	全体磨滅	-
122	210	須恵器	甕	SD148	-	0811	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(3.6)	-	1.0	微砂を含む	7.5Y6/1 灰	N5/0 灰	良	-	-	-
122	211	肥前陶器	皿	SD148	-	1011	底部	-	-	(10.5)	(2.1)	5.0	0.4	-	10YR4/4 褐 7.5Y6/2 灰オリーブ 5Y8/1 灰白	5YR4/4 にぶい赤褐 5Y8/1 灰白 7.5Y6/2 灰オリーブ	良	RP634	-	79
122	212	須恵器	高台坏	SD191	-	-	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.8)	(2.5)	(6.8)	0.5	微砂を含む	N6/0 灰	N6/0 灰	良	-	-	-
123	213	土師器	高台坏	SD130	-	-	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 不明	-	(10.2)	(3.4)	6.4	0.4	細砂を含む	10YR8/2 灰白 2.5Y4/2 暗灰黄	10YR8/2 灰白 2.5Y6/1 黄灰	良	RP630	内面炭化物付着 外面磨滅	79
123	214	須恵器	高台坏	SD130	-	0512	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	-	(1.7)	6.7	0.6	微砂を多く、海綿骨針を含む	N4/0 灰	N5/0 灰	良	RP628	-	79

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
123	215	須恵器	壷	SD130	-	2013	体部	外面 - ケズリ 内面 - カキメ	-	-	(6.0)	-	1.0	微砂を含む	2.5Y7/1 灰白	2.5Y6/1 黄灰	良	RP610	-	79
123	216	須恵器	甕	SD130	-	2313	体部	外面 - タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(6.6)	-	1.6	黒色粒を含む	10Y5/1 灰	5B5/1 青灰	良	RP604	-	79
123	217	須恵器	甕	SD130	-	2213	体部	外面 - タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(6.5)	-	0.9	細砂を多く含む	7.5YR5/1 褐灰	5Y6/1 灰	良	RP606	-	79
123	218	須恵器	壷	SD130	-	0416	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	-	(3.1)	(7.8)	0.8	細砂を含む	5Y6/1 灰	N7/0 灰白 N5/0 灰	良	RP627	-	79
123	219	磁器	碗	SD130	-	1913	体部～ 底部	-	-	(12.0)	(3.2)	(7.6)	0.5	-	5GY7/1 明オリーブ灰	5GY7/1 明オリーブ灰	良	RP612	-	80
123	220	磁器	皿	SD130	-	1913	口縁～ 底部 1/4	-	(13.6)	-	3.5	(8.4)	0.7	-	5GY7/1 明オリーブ灰	5GY7/1 明オリーブ灰	良	RP613	鉄分付着	80
123	221	磁器	碗	SD130	-	2113	口縁部	-	(10.5)	-	(2.6)	-	0.3	-	5GY7/1 明オリーブ灰	5GY7/1 明オリーブ灰	良	RP636	-	80
123	222	磁器	皿	SD130	-	2113	口縁部	-	(11.2)	-	(2.4)	-	0.4	-	5GY8/1 灰白	5GY8/1 灰白	良	RP641	-	80
123	223	陶器	碗	SD130	-	2113	口縁部	-	(10.0)	-	(3.0)	-	0.3	-	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	良	RP638	-	80
123	224	肥前陶器	皿	SD130	-	-	底部	外面 - ロクロ 内面 - 灰釉	-	(9.6)	(2.1)	(4.0)	0.7	-	5Y6/2 灰オリーブ	7.5YR5/8 明褐	良	RP621	見込胎土目 2 ヶ所	80
123	225	陶器	甕	SD130	-	2012	底部	-	-	(16.4)	(3.3)	(12.4)	1.1	細砂を含む	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐 10YR6/4 にぶい黄橙	良	-	内面重ね焼き痕	80
123	226	陶器	甕	SD130	-	1811	体部～ 底部	-	-	(13.6)	(5.8)	(9.4)	1.0	微砂を含む	7.5YR3/3 暗褐	7.5YR3/3 暗褐	良	RP622	-	80
124	227	陶器	擂鉢	SD130	-	0112	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - クシメ	(28.8)	-	(5.2)	-	0.7	細砂を多く含む	7.5YR4/4 褐	5YR4/3 にぶい赤褐	良	-	-	80
124	228	陶器	擂鉢	SD130	-	1712	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - クシメ	(27.4)	-	(5.8)	-	0.8	細砂を含む	7.5YR5/2 灰褐	5YR5/2 灰褐 7.5YR6/1 褐灰	良	-	-	80
124	229	陶器	擂鉢	SD130	-	2113	体部～ 底部	外面 - 不明 内面 - クシメ 底部 - 回転糸切	-	-	(7.2)	(20.0)	1.0	細砂を多く含む	2.5YR5/3 にぶい赤褐	2.5YR3/1 暗赤灰	良	RP645	-	80
124	230	石製品	石皿	SD130	-	0312	-	-	17.3	-	26.9	-	7.0	-	-	-	-	RQ666	-	-
124	231	金属製品	煙管	SD130	-	2112	-	-	5.6	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	RM632	-	-
124	232	金属製品	煙管	SD130	-	2112	-	-	7.0	-	0.8	-	0.8	-	-	-	-	RM631	-	-
125	235	土師器	坏	SG50	-	8412	口縁～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(12.2)	-	4.5	(6.2)	0.4	微砂・赤色粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐	2.5Y6/2 灰黄 5Y7/1 灰白	良	-	全体磨滅	-
125	236	土師器	坏	SG50	-	8411	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.4)	-	(3.3)	-	0.4	微砂を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良	-	内外面に炭化物多量に付着	-
125	237	土師器	坏	SG50	-	8311	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	-	(1.2)	6.0	0.4	細砂を含む	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	不良	-	全体磨滅	-
125	238	土師器	甕	SG50	-	8312	口縁～ 体部	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ヘラナデ	(20.0)	-	(11.0)	-	0.7	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	7.5YR8/6 浅黄橙	2.5Y8/2 灰白 7.5YR8/6 浅黄橙	良	-	全体磨滅	81
125	239	黒色土器	坏	SG50	-	8311	底部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(9.6)	(2.3)	6.2	0.5	微砂を多く含む	2.5Y2/1 黒	10YR8/3 浅黄橙	やや良	-	-	81
125	240	黒色土器	高台坏	SG50	-	8411	体部～ 底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ヘラミガキ	-	(13.1)	(3.3)	-	0.5	微砂を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/1 灰白	良	-	-	-
125	241	須恵器	高台坏	SG50	-	8110	ほぼ完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転ヘラ切	14.4	-	5.0	8.4	0.4	微砂を多く含む	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	良	RP91	-	81

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
125	242	須恵器	壷	SG50	-	8311	体部～底部	外面 - ヘラケズリ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 不明	-	(28.2)	(9.8)	-	1.3	微砂を多く含む	2.5Y7/1 灰白 10YR5/8 黄褐	2.5Y7/1 灰白 2.5Y6/1 黄灰	良	-	-	81
125	243	石器	石匙	SG50	-	8410	-	-	8.5	-	2.7	-	0.8	-	-	-	-	RQ97	頁岩	81
125	244	石器	石篦	SG50	最下層	8313	-	-	9.8	-	4.5	-	2.0	-	-	-	-	RQ524	-	81
127	251	須恵器	坏	SG6	下層	8702 8713	体部～底部 1/3	外面 - ロクロ・回転ヘラケズリ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(13.8)	(3.9)	8.9	0.5	細砂を含む	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/1 灰白	良	-	-	85
127	252	須恵器	坏	SG6	最下層	8614	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	13.8	-	4.6	9.1	0.6	細砂・半透明粒をわずかに含む	2.5Y8/1 灰白 5YR8/3 淡橙	2.5Y7/2 灰黄 7.5YR7/6 橙	良	RP327	-	85
127	253	須恵器	坏	SG6	-	8808	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	13.6	-	4.0	9.4	0.5	細砂を多く含む	5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白 5Y7/1 灰白	良	RP298	丸底	85
127	254	須恵器	坏	SG6	下層	8709	底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(13.3)	(2.5)	(10.0)	0.8	微砂を多く含む	2.5YY6/1 黄灰	5Y6/1 灰 2.5Y6/2 灰黄	良	RP34	底部に置き台痕	85
127	255	須恵器	坏	SG6	下層	8709	底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(12.3)	(2.0)	9.0	0.4	白色細砂を多く含む	5Y6/1 灰 10YR7/4 にぶい黄橙	5Y6/1 灰 2.5Y7/2 灰黄	良	RP42	-	85
127	256	須恵器	坏	SG6	最下層砂	8612 8714	口縁～底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	3.5	(6.4)	0.5	黒・白色砂を多く含む	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	良	-	体部墨痕	85
127	257	須恵器	坏	SG6	下層	8615	口縁～底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	(13.8)	-	3.6	(7.8)	0.5	微砂を含む 胎土精緻	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	不良	-	-	85
127	258	須恵器	坏	SG6	-	8803	口縁～底部破片	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	(13.6)	-	3.2	(8.8)	0.4	微砂・細砂を含む	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	不良	-	底部墨書「□」	-
127	259	須恵器	坏	SG6	-	8802	口縁～底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	4.7	6.5	0.8	微砂・黒色粒を多く含む	2.5Y8/2 灰白 10YR7/1 灰白	5Y8/1 灰白 5Y6/1 灰	良	RP215	-	85
127	260	須恵器	坏	SG6	-	8805	口縁～底部破片	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	(14.0)	-	3.5	(8.0)	0.4	細砂を多く、半透明粒をわずかに含む	2.5Y8/1 灰白 2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/1 灰白	不良	-	-	85
127	261	須恵器	坏	SG6	最下層	8614	底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(12.0)	(1.9)	(9.0)	0.5	細砂を多く、雲母をわずかに含む	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	不良	-	-	-
127	262	須恵器	坏	SG6	中層 火山灰下	8612 8711・12	口縁～体部破片	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.0)	-	3.6	(9.4)	0.5	微砂を多く、粗砂をわずかに含む	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	不良	-	-	85
127	263	須恵器	坏	SG6	下層	8614	底部 2/3	底部 - 回転ヘラ切	-	(12.2)	(1.2)	(10.4)	0.7	細砂多く含む	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	不良	-	-	-
127	264	須恵器	坏	SG6	-	8802	底部 1/5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(11.6)	(1.1)	(9.0)	0.5	白色細砂を多く含む	2.5Y7/1 灰白 5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	良	-	-	-
127	265	須恵器	坏	SG6	-	8806	底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(11.9)	(2.6)	(9.0)	0.4	微砂、粗砂をわずかに含む	2.5Y8/2 灰白 N7/0 灰白	2.5Y8/1 灰白 N7/0 灰白	不良	-	内面鉄分付着	86
127	266	須恵器	坏	SG6	火山灰下	8713	底部 1/4	底部 - 回転ヘラ切	-	-	(0.9)	(9.0)	0.6	細砂多く、海綿骨針を含む	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	良	-	-	-
127	267	須恵器	坏	SG6	下層	8714	底部破片	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(12.2)	(1.7)	(9.2)	0.4	細砂を多く含む	2.5Y7/1 灰白	7.5Y8/1 灰白	不良	-	内面スス付着	-

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
127	268	須恵器	坏	SG6	中層	8715	底部 1/2	底部 - 回転ヘラ切	-	(9.2)	(1.0)	(7.0)	0.5	細砂・微砂を多く含む	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	良	-	全体磨滅	-
127	269	須恵器	坏	SG6	中～下層	8806	底部 1/4	底部 - 回転ヘラ切	-	(10.5)	(1.4)	(9.0)	0.8	粗砂・細砂を含む	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	不良	-	全体磨滅 鉄分付着	-
128	270	須恵器	坏	SG6	上層	8906	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.8)	-	5.4	(6.9)	0.5	微砂・海綿骨針を含む	7.5Y6/1 灰	7.5Y5/1 灰	良	-	底部造り出し高台	86
128	271	須恵器	坏	SG6	-	8712	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.0)	-	4.9	(6.6)	0.7	微砂、赤色粒をわずかに含む	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	良	-	外面磨滅	86
128	272	須恵器	坏	SG6	下層	8614	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(12.6)	-	3.4	6.0	0.6	微砂を多く、透明粒をわずかに含む	5Y7/1 灰白 10YR7/2 にぶい黄橙	5Y7/1 灰白 10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	-	86
128	273	土師器	坏	SG6	-	8709 8710	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.0)	-	4.2	5.2	0.5	粗砂・細砂・海綿骨針を含む	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	良	-	-	86
128	274	土師器	坏	SG6	-	8612	完形	外面 - ロクロ・ヘラ刻み 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.4	-	5.0	5.2	0.4	微砂、粗砂をわずかに含む	10YR8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白 10YR8/3 浅黄橙	良	RP106	内面見込炭化物付着	86
128	275	須恵器	坏	SG6	中層砂	8613	口縁～ 底部 2/5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(12.5)	-	3.8	(6.5)	0.6	微砂を多く含む	N4/0 灰	N5/0 灰	良	-	-	86
128	276	土師器	坏	SG6	下層	8614 8709 8713	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.0)	-	(5.0)	4.8	0.4	微砂を多く、金雲母をわずかに含む	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y6/3 にぶい黄	2.5YR7/2 灰黄	良	-	内面スス付着	87
128	277	須恵器	坏	SG6	中層砂	8613	完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.2	-	4.6	5.2	0.4	細砂を多く含む	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	良	RP440	口唇部一部黒斑	86
128	278	須恵器	坏	SG6	最下層	8615	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.2)	-	3.2	7.0	1.1	細砂・海綿骨針を多く含む	10Y6/1 灰 10Y5/1 灰	10Y6/1 灰 10Y5/1 灰	良	RP395	-	87
128	279	土師器	坏	SG6	中層 砂層	8808	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.9)	-	4.9	(5.9)	0.4	微砂、雲母を含む	5Y8/1 灰白 2.5Y7/1 灰白 N7/0 灰白	5Y8/1 灰白 2.5Y7/1 灰白	良	RP239	-	87
128	280	須恵器	坏	SG6	-	8715	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	4.0	(5.8)	0.3	微砂を含む	5Y5/1 灰	10Y6/1 灰 5Y6/1 灰	良	RP361	-	87
128	281	土師器	坏	SG6	最下層砂 中層	8806 8710・15	口縁～ 体部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(15.2)	-	(5.2)	-	0.4	細砂・粗砂を多く含む	2.5Y8/2 灰白 10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	良	-	全体磨滅	87
128	282	須恵器	坏	SG6	-	8810	底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(11.2)	(2.0)	7.4	0.5	細砂をわずかに含む	5Y7/1 灰白 7.5YR6/3 にぶい褐	5Y7/1 灰白 7.5YR6/3 にぶい褐	良	-	転用硯か？	-
128	283	須恵器	坏	SG6	-	8802	体部～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(12.5)	(3.8)	5.8	0.6	微砂をわずかに含む	5Y6/2 灰オリーブ	5Y7/1 灰白	良	RP214	-	87
128	284	須恵器	坏	SG6	-	8614	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(12.3)	(4.0)	4.8	0.4	微砂・細砂を含む	7.5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	良	RP359	全体磨滅	87
128	285	須恵器	坏	SG6	-	8713 8807	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(11.2)	(2.6)	5.3	0.4	白色細砂・粗砂・海綿骨針を含む	5YR5/3 にぶい赤褐 N4/0 灰	N4/0 灰 5YR5/1 褐灰	良	-	-	87
129	286	須恵器	坏	SG6	-	8614	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.3)	(2.0)	5.4	0.3	細砂・粗砂を含む	2.5Y6/2 灰黄	10Y6/1 灰 5Y6/2 灰オリーブ	良	RP356	底部墨書「真」 打ち欠き	88

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
129	287	須恵器	坏	SG6	下層	8714	底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.0)	(1.5)	6.0	0.4	微砂を多く、海綿骨針を含む	7.5YR6/4 にぶい橙 5Y5/1 灰	7.5YR6/3 にぶい褐 5Y5/1 灰	良	-	底部墨書「今」 内面墨痕	88
129	288	須恵器	坏	SG6	中層	8714	体部～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.2)	(2.2)	(7.0)	0.4	微砂を多く含む	7.5Y6/1 灰	7.5Y7/1 灰白	良	-	底部墨書「□」 内面墨痕、筆ならし、転用硯か？	-
129	289	須恵器	坏	SG6	-	8809	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(8.9)	(1.3)	5.3	0.4	細砂をわずかに、海綿骨針を多量に含む	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	良	-	底部墨書「□」	88
129	290	須恵器	坏	SG6	中層	8808	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.4)	(1.6)	(6.7)	0.6	赤色粒を少量含む	5Y5/1 灰	5Y6/1 灰	良	-	底部墨書「□」 内面墨痕、転用硯か	-
129	291	須恵器	坏	SG6	最下層	8614	体部～ 底部	外面 - ロクロ・ケズリナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.5)	(1.3)	(5.8)	0.5	微砂を少量、海面骨針を含む	7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰	良	-	底部墨書「定」	88
129	292	須恵器	坏	SG6	下層	8714	底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.7)	(1.9)	(6.3)	0.4	黒色粒・海綿骨針を含む	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	良	-	底部墨書「定」カ	88
129	293	須恵器	坏	SG6	-	8709	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.6)	(1.8)	(6.8)	0.4	微砂を少量含む	10Y6/1 灰	7.5Y7/1 灰白 N5/0 灰	良	-	底部墨書「定」カ	-
129	294	須恵器	坏	SG6	-	8615	底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.7)	(2.0)	5.4	0.4	微砂多く、黒色粒少量、海綿骨針を含む	5Y7/1 灰白 7.5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白 7.5Y6/1 灰	良	RP397	底部墨書「定」	88
129	295	須恵器	坏	SG6	-	8713	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.5)	(2.0)	(6.0)	0.4	微砂を少量含む	10Y6/1 灰 7.5YR5/3 にぶい褐	10Y6/1 灰	良	-	底部墨痕	89
129	296	須恵器	坏	SG6	中層砂	8715	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.6)	(2.5)	(5.8)	0.5	細砂をわずかに含む、精緻	2.5GY5/1 オリーブ灰	2.5GY5/1 オリーブ灰	良	-	底部墨痕	-
129	297	須恵器	坏	SG6	最下層砂	8710	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.0)	-	(2.2)	-	0.4	細砂を含む	10Y6/1 灰	10Y5/1 灰	良	-	体部墨書「定」	89
129	298	須恵器	坏	SG6	最下層砂	8701	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(4.1)	-	0.5	細砂・透明粒を含む	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	良	-	体部墨書「定」カ 逆位、全体磨滅	89
129	299	須恵器	坏	SG6	下層	8713	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.0)	-	0.5	微砂を含む	5Y6/2 灰オリーブ	5Y6/2 灰オリーブ	良	-	体部墨書「太」カ 逆位	89
129	300	須恵器	坏	SG6	下層	8714	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.9)	-	0.5	微砂をわずかに含む	5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	良	-	体部墨書「□」	-
129	301	須恵器	坏	SG6	中層	8713	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.9)	-	0.4	粗砂を少量含む	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	良	-	体部墨書「□」	-
129	302	須恵器	坏	SG6	火山灰下	8712	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(4.2)	-	0.5	微砂・白色粒・海綿骨針を含む	N5/0 灰	N5/0 灰	良	-	体部墨書「□」	-
130	303	須恵器	坏	SG6	-	8806	体部～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.7)	(2.6)	5.3	0.5	微砂を多く、赤色粒・海綿骨針を含む	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙 2.5Y6/1 黄灰	良	-	体部・内面炭化物付着	89
130	304	須恵器	坏	SG6	中層	8614	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.6)	(2.1)	6.2	0.3	細砂をわずかに含む	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	良	-	内面墨痕、転用硯	89
130	305	須恵器	坏	SG6	下層砂	8701 8801	体部～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.4)	(2.1)	5.5	0.3	粗砂を少量、海綿骨針を含む	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	良	-	内面墨痕、転用硯	90
130	306	土師器	坏	SG6	下層砂	8600 8700	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(12.1)	(3.1)	4.8	0.4	細砂を多く、海綿骨針を含む	2.5Y5/2 暗灰黄 5YR7/4 にぶい橙	2.5Y7/4 浅黄 2.5Y5/2 暗灰黄 5YR7/4 にぶい橙	良	-	底部墨痕	89

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
130	307	須恵器	坏	SG6	最下層	8615	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.4)	(1.8)	(6.6)	0.5	微砂をわずかに含む	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5Y6/1 灰	良	-	内面墨痕、転用硯	-
130	308	須恵器	坏	SG6	最下層	8803	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.2)	-	0.4	精緻	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	良	-	体部墨書「□」	-
130	309	須恵器	坏	SG6	中層砂	8613	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(1.2)	-	0.4	微砂をわずかに含む	N5/0 灰	N5/0 灰	良	-	体部墨書「□」	-
130	310	須恵器	坏	SG6	-	8802	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.1)	-	0.3	微砂を少量含む	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/1 灰白	良	-	体部墨痕	-
130	311	須恵器	坏	8701	火山灰下	8712	体部	外面 - ロクロ 内面 - 不明	-	-	(1.5)	-	(0.2)	微砂・海綿骨針を含む	不明	2.5Y7/2 灰黄	良	-	体部墨痕 内面剥離	-
130	312	須恵器	蓋	SG6	-	8709	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	14.9	-	3.0	-	0.8	粗砂・細砂・黒色粒を含む	2.5YR5/6 明赤褐 5Y7/1 灰白	N7/0 灰白	良	RP64	内面赤色顔料付着	90
130	313	須恵器	蓋	SG6	中層	8710	1/2	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ	(14.4)	-	(2.1)	-	0.7	細砂・微砂を多く含む	2.5Y6/2 灰黄	7.5Y7/1 灰白	良	-	-	90
130	314	須恵器	蓋	SG6	-	8806	1/6	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.2)	-	(2.0)	-	0.5	細砂を多く、黒色粒を含む	10Y6/1 灰	5Y7/1 灰白 10Y6/1 灰	良	-	内面墨痕、転用硯	90
130	315	須恵器	高台坏	SG6	上層	8106 8514	口縁～底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	(15.2)	-	7.0	(8.0)	0.5	細砂を多く含む	2.5Y8/1 灰白 10YR5/6 黄褐	7.5Y8/1 灰白 5Y6/1 灰 10YR5/6 黄褐	良	-	-	90
130	316	須恵器	高台坏	SG6	火山灰下	8712	体部～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(12.0)	(3.9)	(8.2)	0.5	細砂を多く含む	N6/0 灰	N6/0 灰	良	-	-	90
131	317	須恵器	高台坏	SG6	中層砂	8708	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	12.4	-	4.7	6.9	0.4	粗砂・細砂・赤色粒・海綿骨針を含む	2.5Y6/2 灰黄 7.5Y5/1 灰	10YR7/4 にぶい黄橙 N5/1 灰	良	RP522	内面墨痕	91
131	318	須恵器	高台坏	SG6	-	8713	体部～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(10.0)	(4.1)	7.4	0.4	細砂を多く含む	N5/0 灰	N6/0 灰 N7/0 灰白	良	-	小型品	90
131	319	須恵器	高台坏	SG6	-	8611	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - ヘラケズリ	-	(10.8)	(1.9)	(9.0)	0.4	細砂を多く含む	N5/0 灰	N5/0 灰	良	-	底部刻書「官」	91
131	320	須恵器	高台坏	SG6	-	8600	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転ヘラ切	-	(10.8)	(2.2)	9.0	0.8	微砂を含む	5Y6/1 灰	5Y5/1 灰	良	RP87	-	91
131	321	須恵器	高台坏	SG6	火山灰下	8711	体部～底部	外面 - ロクロ・回転ヘラケズリ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(9.8)	(3.0)	(6.4)	0.5	細砂を多く、半透明粒を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙 2.5Y6/1 灰黄	不良	-	-	91
131	322	須恵器	高台坏	SG6	火山灰下	8711	体部～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・ナデ	-	(10.8)	(3.0)	(7.5)	0.4	細砂・微砂を含む	10YR4/2 灰黄褐	2.5Y6/1 黄灰	良	-	底部墨痕、転用硯	91
131	323	須恵器	高台坏	SG6	-	8806	口縁～体部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・ナデ	(14.0)	-	(7.0)	(7.0)	0.4	粗砂を多く含む	N6/0 灰	N6/0 灰 N4/0 灰	良	RP297	内面鉄分付着	91
131	324	須恵器	長頸壷	SG6	下層砂	8613	口縁～肩部 1/2	外面 - ロクロ・カキメ・ナデ 内面 - ロクロ・カキメ	10.6	(15.6)	(12.2)	-	0.7	微砂を少量含む	N4/0 灰 N2/0 黒	N4/0 灰 N2/0 黒 7.5Y6/1 灰	良	RP456	-	92
131	325	須恵器	長頸壷	SG6	下層 最下層砂 中層	8613 8713・15 8802・10 9012・13 9112	口縁～肩部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(11.0)	(15.4)	(12.1)	-	0.7	細砂を多く、海綿骨針を含む	N5/0 灰 N3/0 暗灰 5YR4/1 褐灰	N4/0 灰 2.5YR4/1 赤灰 5Y5/3 灰オリーブ	良	-	-	92
131	326	須恵器	長頸壷	SG6	下層	8615	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(12.0)	-	(2.6)	-	0.4	黒色粒を含む	N3/0 暗灰	N7/0 灰白 N3/0 暗灰	良	-	内外面自然釉	92

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
131	327	須恵器	長頸壷	SG6	中層	8612	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(10.2)	-	(3.8)	-	0.6	細砂を多く含む	N7/0 灰白	N6/0 灰 7.5Y4/2 灰オリーブ	良	-	内外面自然釉	92
131	328	須恵器	長頸壷	SG6	下層	8713	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(11.0)	-	(2.7)	-	0.6	微砂を含む	10Y6/1 灰 10Y4/1 灰	10Y8/1 灰白 10Y4/2 オリーブ灰	良	-	内外面自然釉	92
131	329	須恵器	長頸壷	SG6	-	8802	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(10.0)	-	(1.6)	-	0.4	細砂を多く含む	7.5Y8/1 灰白 5Y7/3 浅黄	7.5Y8/1 灰白 5Y6/4 オリーブ黄	良	-	内外面自然釉	-
132	330	須恵器	長頸壷	SG6	-	8711	口縁～ 頸部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	10.3	-	(6.7)	-	0.8	微砂・黒色粒・海綿骨針を含む	5Y6/1 灰 5Y6/2 灰オリーブ	5Y6/1 灰 5Y3/1 オリーブ黒 5Y5/2 灰オリーブ	やや良	RP191	内外面自然釉 歪む	92
132	331	須恵器	長頸壷	SG6	-	8805	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(8.9)	-	(4.3)	-	0.7	細砂を多く含む	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰 5Y8/1 灰白	良	-	-	92
132	332	須恵器	広口壷	SG6	-	8708	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(15.6)	-	(3.2)	-	0.9	細砂少量、海綿骨針を含む	10Y5/1 灰 N7/0 灰白	7.5Y5/1 灰	良	-	-	92
132	333	須恵器	広口壷	SG6	上層砂	8710	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(18.0)	-	(4.2)	-	0.7	粗砂・細砂を多量に含む	7.5Y6/1 灰	7.5Y5/1 灰	良	-	-	-
132	334	須恵器	長頸壷	SG6	中~下層	8701 8806	頸部～ 体部	外面 - ロクロ・カキメ・ケズリ 内面 - ロクロ・指押え	-	(28.6)	(15.9)	-	1.2	細砂を多く含む	5Y7/2 灰白	5Y6/1 灰 2.5Y6/3 灰にぶい黄	良	RP21 ・454	335 と同一か	92
132	335	須恵器	壷	SG6	下層	8702	体部	外面 - ロクロ・カキメ・ヘラケズリ 内面 - ロクロ・ナデ	-	(28.0)	(12.1)	-	1.2	細砂・黒色粒・海綿骨針を含む	5Y7/1 灰白 5Y6/4 オリーブ黄	5Y6/1 灰	良	RP28	334 と同一か	93
132	336	須恵器	広口壷	SG6	下層	8615 8715	体部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ	-	(17.0)	(5.2)	-	0.6	細砂・黒色粒・海綿骨針を含む	N5/0 灰	N5/0 灰 7.5Y7/1 灰白	良	-	-	92
132	337	須恵器	広口壷	SG6	中層 最下層	8615 8710	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ	-	(29.0)	(6.4)	-	0.9	細砂をわずかに含む	N6/0 灰	N8/0 灰白 N6/0 灰	良	-	-	93
132	338	須恵器	広口壷		最下層	8614	頸部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・カキメ	-	(22.2)	(4.5)	-	0.6	細砂・黒色粒を含む	10Y6/1 灰	10Y5/2 オリーブ灰 7.5Y5/1 灰	良	-	内外面自然釉	92
132	339	須恵器	広口壷	SG6	上層	8907	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	(16.0)	(4.0)	-	0.7	微砂をわずかに含む	N6/0 灰	N7/0 灰白 N5/0 灰	良	-	-	92
132	340	須恵器	壷	SG6	最下層 下層	8805・06 8710 8613・14 9311	体部～ 底部	外面 - ロクロ・ケズリ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転ヘラ切・ナデ	-	(23.4)	(15.9)	12.0	0.6	細砂・粗砂を多く含む	5PB4/1 暗青灰 N4/0 灰	5PB1.7/1 青黒 N5/0 灰	良	-	-	-93
133	341	須恵器	壷	SG6	-	8615	体部～ 底部	外面 - ロクロ・ケズリ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(20.4)	(11.1)	9.4	1.0	細砂・粗砂を多く含む	7.5Y6/1 灰	N5/0 灰 N4/0 灰 N3/0 暗灰	良	RP363	下方にシッタの痕跡→木葉痕	93
133	342	須恵器	壷	SG6	下層	8709	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(19.4)	(8.9)	12.0	0.7	粗砂を多く含む	5Y7/1 灰白 5Y7/3 浅黄	5Y7/1 灰白 5Y7/3 浅黄 5Y5/1 灰	良	RP43	-	93
133	343	須恵器	壷	SG6	最下層	8711	体部～ 底部	外面 - ロクロ・ヨコケズリ 内面 - ロクロ・ケズリ 底部 - 回転ヘラ切	-	(14.4)	(4.6)	(11.4)	0.9	微砂・粗砂を少量含む	N6/0 灰	N5/0 灰	良	RP285	内面に墨痕 345 と同一	93
133	344	須恵器	壷	SG6	下層	8613	体部～ 底部	外面 - ケズリ・ハケメ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転ヘラ切・ナデ	-	(14.8)	(3.5)	(13.0)	0.8	微砂・海綿骨針を含む	10YR6/1 褐灰 10YR5/1 褐灰	2.5Y6/1 黄灰	良	-	内面にスス付着、二次焼成か？	-
133	345	須恵器	壷	SG6	火山灰下	8701	体部～ 底部	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ナデ 底部 - 回転ヘラ切	-	(16.2)	(4.4)	(13.2)	0.8	微砂・粗砂を少量含む	N6/0 灰	N5/0 灰	良	-	内面に墨痕 343 と同一	-
133	346	須恵器	壷	SG6	-	8712	体部～ 底部	外面 - ロクロ・ケズリ 内面 - ロクロ 底部 - ヘラケズリ	-	(11.6)	(2.6)	(8.4)	1.2	粗砂を多く含む	N6/0 灰	N6/0 灰 N5/0 灰	良	-	-	94
133	347	土師器	甕	SG6	-	8805	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.7)	(3.4)	(7.6)	1.0	赤色粒をわずかに、微砂を含む	10YR8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	良	RP83	部分的被熱	94

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
133	348	須恵器	手付瓶	SG6	中層砂	8614	体部～底部	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラケズリ・ナデ	-	(11.8)	(9.2)	9.4	0.5	細砂を多く、黒色粒を含む	N 灰 5/0	N 灰 5/0 N 灰 6/0	良	RP435	-	94
133	349	須恵器	広口壺	SG6	-	8802	肩部	外面 - ナデ 内面 - ナデ	-	(11.0)	(3.6)	-	0.6	微砂を含む	N5/0 灰	N5/0 灰 7.5Y7/1 灰白	良	-	-	94
134	350	須恵器	甕	SG6	-	8702	口縁～体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 同心円アテ	(24.6)	(42.4)	(12.3)	-	0.5	粗砂・細砂を多く含む	N4/0 灰	N4/0 灰 N1.5/0 黒	良	RP212	-	94
134	351	須恵器	甕	SG6	-	8709	口縁～頸部	外面 - タタキ・ナデ 内面 - ヘラケズリ・ナデ	(22.0)	(30.6)	(8.4)	-	0.9	微砂・海綿骨針を含む	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/1 黄灰	良	RP16	-	95
134	352	須恵器	甕	SG6	下層	86・8714 8807	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(34.4)	-	(11.5)	-	1.4	細砂・粗砂を含む	N5/0 灰	N6/0 灰	良	-	-	95
134	353	須恵器	甕	SG6	-	8608	口縁部	外面 - タタキ・ナデ 内面 - ケズリ・ヘラナデ	(27.6)	-	(7.3)	-	1.1	微砂を含む	5Y6/1 灰	7.5Y5/1 灰	良	-	-	-
134	354	須恵器	甕	SG6	中層	8614	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(22.0)	-	(3.1)	-	0.9	細砂・海綿骨針を含む	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	良	-	-	-
134	355	須恵器	甕	SG6	中層砂	8708	体部～底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ナデ 底部 - ナデ	-	(22.4)	(7.8)	(14.0)	1.0	微砂を多く、黒色粒を含む	N5/0 灰	N7/0 灰白	良	-	-	-
135	356	須恵器	甕	SG6	下層	8612	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 同心円アテ	-	(44.0)	(32.2)	-	1.1	粗砂・白色粒を含む	N5/0 灰 N6/0 灰	N3/0 暗灰 N7/0 灰白	良	RP170・264	-	95
135	357	須恵器	甕	SG6	-	8513	頸部～体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 同心円アテ	-	-	(11.5)	-	0.9	粗砂・微砂を含む	7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰	良	-	-	-
135	358	須恵器	甕	SG6	-	8806	頸部～体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 同心円アテ	-	-	(5.3)	-	0.6	微砂を含む	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/2 灰白	不良	-	-	95
135	359	須恵器	甕	SG6	-	8712	肩部	外面 - 平行タタキ・ナデ 内面 - ナデ	-	-	(4.3)	-	1.2	粗砂・細砂を多く含む	5Y5/1 灰	N5/0 灰	良	-	-	-
135	360	須恵器	甕	SG6	中層	8715	頸部	外面 - 櫛描文 内面 - カキメ・ナデ	-	-	(6.1)	-	1.2	微砂を多く含む	7.5Y5/1 灰	5Y4/3 暗オリーブ	良	-	外面自然釉	95
136	361	須恵器	甕	SG6	中層	8710	体部	外面 - タタキ 内面 - 同心円アテ	-	-	(10.3)	-	0.8	赤色粒・海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/1 灰白 10YR7/8 黄橙	良	RP493	-	95
136	362	須恵器	甕	SG6	下層	8802・05・06	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 同心円アテ	-	-	(9.0)	-	0.9	粗砂・細砂を多く含む	5Y5/1 灰	N6/0 灰	良	-	-	-
136	363	須恵器	甕	SG6	-	8803	体部	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	-	-	(14.7)	-	1.6	白色細砂を多く含む	7.5 Y 5/1 灰	N 6/0 灰 N 5/0 灰	良	RP136	-	-
136	364	須恵器	甕	SG6	中層	8710	体部	外面 - タタキ 内面 - アテ	-	-	(20.3)	-	0.8	細砂多く、海綿骨針を含む	N4/0 灰 N3/0 暗灰	N4/0 灰 10R3/1 暗赤灰	良	RP494	全体磨滅	-
137	365	土師器	坏	SG6	-	8612	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.1	-	3.9	5.5	0.3	細砂を多く、雲母を含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	良	RP133	-	96
137	366	土師器	坏	SG6	-	8807	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	12.8	-	3.0～3.8	5.4	0.8	細砂を含む	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR6/8 橙	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR6/8 橙	良	RP299	-	96
137	367	土師器	坏	SG6	-	8612	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.0	-	3.9	6.0	0.4	粗砂・細砂を多く、赤色粒を含む	10YR8/3 浅黄橙 7.5YR7/6 橙	10YR8/3 浅黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙 2.5YR7/4 淡赤橙	良	RP107	-	96
137	368	土師器	坏	SG6	火山灰下	8712	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.8	-	4.1	6.0	0.5	粗砂・赤色粒を含む	5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/6 橙	5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/6 橙	良	-	内面にスス付着 外面二次焼成	96
137	369	土師器	坏	SG6	-	8711	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.6	-	3.8	6.1	0.4	粗砂・細砂・赤色粒を多く含む	10YR7/4 にぶい黄橙 5YR4/6 赤褐	10YR7/4 にぶい黄橙 5YR4/6 赤褐	良	RP244	-	96
137	370	土師器	坏	SG6	最下層	8710	ほぼ完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	12.8	-	3.5	5.4	0.4	粗砂・赤色粒を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	口縁部穿孔 1 ヶ所	96

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
137	371	土師器	坏	SG6	-	8807	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	12.8	-	4.0	5.5	0.4	微砂・赤色粒をわずかに含む	10YR8/2 灰白 10YR6/6 明黄褐	10YR8/2 灰白 10YR6/6 明黄褐	良	RP276	全体磨滅、歪む	96
137	372	土師器	坏	SG6	火山灰下 最下層砂	8701 8714	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.3)	-	4.4	4.8	0.5	細砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	良	-	-	96
137	373	土師器	坏	SG6	-	8803	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.5	-	5.1	5.0	0.4	微砂・海綿骨針を含む	10YR8/3 淡黄 10YR5/4 にぶい黄褐 2.5Y5/1 黄灰	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y7/1 灰白	やや良	-	-	96
137	374	土師器	坏	SG6	最下層 下層 中層	8611・13・ 14・15 8701・13	口縁～ 底部 3/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.0	-	4.7	4.9	0.5	微砂を多く、粗砂をわずかに含む	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR5/2 灰褐	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	-	96
137	375	土師器	坏	SG6	中層砂	8713	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(15.9)	-	5.1	5.8	0.4	細砂・赤色粒・雲母を多く含む	10YR8/3 淡黄 5YR7/6 橙	7.5YR8/4 浅黄橙 5YR7/6 橙	良	RP422	-	96
137	376	土師器	坏	SG6	下層砂 火山灰下	8700・13 8805	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.4	-	5.0	5.8	0.6	粗砂を多く、海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙 5YR7/4 にぶい橙	良	-	-	96
137	377	土師器	坏	SG6	-	8711	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.1	-	4.8	5.5	0.6	粗砂・赤色粒を少量含む	7.5YR7/6 橙 10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白 10YR7/4 にぶい黄橙	良	RP513	-	97
137	378	土師器	坏	SG6	下層	8709	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.4	-	4.8	5.5	0.6	微砂多く、雲母をわずかに含む	2.5Y8/1 灰白	10YR8/1 灰白	良	RP45	-	97
137	379	土師器	坏	SG6	-	8806	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	14.0	-	4.5	5.3	0.5	粗砂をわずかに含む	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白 7.5YR7/4 にぶい橙	良	RP295	歪む	97
138	380	土師器	坏	SG6	-	8805	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.6	-	4.8	6.0	0.5	細砂を多く、粗砂・雲母を少量含む	10YR8/2 灰白 10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR7/2 にぶい黄橙	良	RP78	-	97
138	381	土師器	坏	SG6	下層	8709	完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.7	-	4.7	6.1	0.4	細砂を多く、雲母・赤色粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/6 明黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR8/3 浅黄橙	良	RP41	-	97
138	382	土師器	坏	SG6	-	8712	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.7	-	4.1	5.0	0.4	細砂を多く含む	2.5Y7/2 灰黄 10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐 10YR7/2 にぶい黄橙	良	RP219	-	97
138	383	土師器	坏	SG6	-	8709	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	4.2	5.8	0.3	細砂を多く含む	2.5YR7/6 橙 7.5YR7/3 にぶい橙	2.5YR7/6 橙 7.5YR7/3 にぶい橙	良	RP20	-	97
138	384	土師器	坏	SG6	-	8701	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.6	-	4.7	6.4	0.4	微砂・赤色粒を含む	5YR6/8 橙 7.5YR6/8 橙	5YR6/8 橙 7.5YR6/6 橙	良	RP455	-	97
138	385	土師器	坏	SG6	-	8711	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.0	-	4.3	5.9	0.4	赤色粒・雲母・微砂を含む	10YR6/2 灰黄褐 7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/3 にぶい褐 7.5YR7/4 にぶい橙	良	RP243	-	97
138	386	土師器	坏	SG6	中～下層	8806	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.0)	-	4.7	(5.3)	0.5	微砂・雲母を含む	2.5Y6/1 黄灰 10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y7/1 灰白 2.5Y6/2 灰黄 10YR6/4 にぶい黄橙	良	-	全体磨滅	97
138	387	土師器	坏	SG6	-	8613	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.5	-	4.7	5.5	0.9	細砂・粗砂・赤色粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	良	RP134	外面スス付着	97
138	388	土師器	坏	SG6	-	8614	口縁～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.0)	-	4.9	5.4	0.4	微砂多く、粗砂わずかに含む	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄	良	RP342	-	97

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
138	389	土師器	坏	SG6	中層砂	8614	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.7	-	4.6	5.6	0.4	微砂を多く、粗砂をわずかに含む	10YR8/3 浅黄橙 2.5YR7/4 淡赤橙	10YR8/3 浅黄橙 2.5YR7/4 淡赤橙	良	RP432	-	98
138	390	土師器	坏	SG6	-	8710	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(12.4)	-	4.5	(5.2)	0.6	細砂・粗砂を多く、赤色粒を含む	10YR4/2 灰黄褐 7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	-	98
138	391	土師器	坏	SG6	中層砂 下層砂	8613 8806	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.3)	-	4.6	4.6	0.4	微砂を含む	2.5Y7/3 浅黄 5Y7/1 灰白	10YR8/2 灰白 7.5YR7/6 橙	良	-	-	98
138	392	土師器	坏	SG6	-	8710	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.6	-	4.2	5.7	0.5	微砂を多く、粗砂をわずかに、海綿骨針を含む	2.5Y7/3 浅黄 2.5Y6/8 明黄褐	2.5Y7/3 浅黄 2.5Y6/8 明黄褐	良	RP508	全体被熱、下部剥落	98
138	393	土師器	坏	SG6	-	8806	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(12.8)	-	4.0	4.8	0.5	細砂を含む	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR7/6 明黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR8/2 灰白	良	RP26	人為的な割れか	98
138	394	土師器	坏	SG6	-	8711	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.9	-	4.9	5.2	0.5	雲母・赤色粒・細砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR4/2 灰黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙	良	RP245	内面に柿渋付着 全体磨滅	99
139	395	土師器	坏	SG6	-	8715 8804	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.3	-	4.7	5.8	0.5	粗砂・赤色粒を少量、細砂を多量に含む	2.5Y8/2 灰白 10YR4/2 灰黄褐	2.5Y8/2 灰白 10YR4/2 灰黄褐	良	RP528	外面磨滅	98
139	396	土師器	坏	SG6	-	8807	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.1	-	5.3	5.6	0.6	粗砂・赤色粒を少量、細砂を多量に含む	10YR8/2 灰白 7.5YR7/6 橙	10YR8/2 灰白 7.5YR7/6 橙 2.5Y7/4 浅黄	良	RP85	口縁に油煙付着	99
139	397	土師器	坏	SG6	中層砂	8613	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.4	6.3	0.5	粗砂・赤色粒を含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR8/3 浅黄橙	良	RP439	-	99
139	398	土師器	坏	SG6	下層	8613	口縁～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.2)	-	4.8	(6.5)	0.5	細砂を多く含む	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白 7.5YR7/3 にぶい橙	良	-	-	99
139	399	土師器	坏	SG6	最下層	8611 8710	ほぼ完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.9	4.7	0.5	微砂・海綿骨針を含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	良	-	歪む	99
139	400	土師器	坏	SG6	下層	8702	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.3	-	5.1	5.0	0.4	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	10YR5/4 にぶい黄褐 2.5Y8/2 灰白	2.5Y5/2 暗灰黄 10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP29	内外面付着物	99
139	401	土師器	坏	SG6	-	8715	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.4	-	4.8	5.2	0.4	赤色粒を含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/3 淡黄	良	RP529	-	99
139	402	土師器	坏	SG6	下層	8709	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.8	-	5.0	5.6	0.6	細砂・粗砂を多く、赤色粒を含む	10YR6/4 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR7/3 にぶい黄橙		RP39	歪む	99
139	403	土師器	坏	SG6	-	8712	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.1	-	4.6	4.3	0.4	微砂・赤色粒を少量含む	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白 10YR7/1 灰白	良	RP224	-	99
139	404	土師器	坏	SG6	中層砂利	8613	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.7	-	4.6	6.4	0.5	粗砂・細砂を少量含む	2.5Y8/2 灰白 10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y8/2 灰白 5YR7/6 橙	良	RP441	底部焼台痕	99
139	405	土師器	坏	SG6	中層砂	8710	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.7)	-	5.1	5.3	0.4	細砂を多く、赤色粒・海面骨針を含む	10YR6/4 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	-	100
139	406	土師器	坏	SG6	-	8711	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.5	-	4.9	5.0	0.4	微砂・粗砂をわずかに、海面骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 5YR6/6 橙	2.5Y7/3 浅黄	良	RP190	-	100

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
139	407	土師器	坏	SG6	-	8703	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ヘラナデ 底部 - 回転糸切	13.3	-	5.0	6.4	0.9	細砂・赤色粒を少量含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR5/2 灰黄褐	7.5YR7/4 にぶい橙	良	RP216	全体被熱 体部穿孔	100
139	408	土師器	坏	SG6	-	8805	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.7	-	4.5	6.4	0.4	粗砂・赤色粒を少量含む	10YR5/2 灰黄褐 10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP74	被熱痕	100
139	409	土師器	坏	SG6	-	8709	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.4)	-	4.5	5.9	0.5	細砂・赤色粒を多く含む	10YR7/4 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙 2.5Y7/3 浅黄	良	-	全体磨滅	100
140	410	土師器	坏	SG6	-	8612	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.1	-	4.7	5.5	0.4	粗砂を多く含む	2.5Y8/2 灰白 10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y7/4 浅黄	良	RP201	-	100
140	411	土師器	坏	SG6	-	8710	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.7	5.2	0.9	粗砂・細砂を少量含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	良	RP488		100
140	412	土師器	坏	SG6	-	8806	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.4)	-	4.5	5.2	0.5	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	5YR7/6 橙 10YR7/3 にぶい黄橙	5YR7/6 橙 2.5Y6/1 黄灰 7.5YR7/3 にぶい橙	良	-	二次焼成	100
140	413	土師器	坏	SG6	中層 最下層砂	8710 8715	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.3)	-	5.6	6.2	0.5	粗砂・赤色粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	良	-	-	100
140	414	土師器	坏	SG6	-	8805	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.9	-	4.9	4.7	0.3	細砂・金雲母を多く含む	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙 5YR7/4 にぶい橙	良	RP144	-	100
140	415	土師器	坏	SG6	最下層砂	8710	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(13.1)	-	4.8	5.5	0.5	赤・白色粒・海綿骨針を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	良	-	-	101
140	416	土師器	坏	SG6	中層	8614 8807・08	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.4)	-	5.1	(6.0)	0.4	細砂・粗砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙 2.5YR6/6 橙	10YR8/3 浅黄橙 2.5YR6/6 橙	良	-	-	101
140	417	土師器	坏	SG6	-	8808	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.0)	-	4.2	(5.8)	0.3	細砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙 7.5YR7/6 橙	2.5Y7/3 浅黄 7.5YR7/6 橙	良	-	底部焼台痕	101
140	418	土師器	坏	SG6	-	8809 8810	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.8	-	4.7	5.6	0.5	細砂・粗砂を多く、赤色粒を含む	7.5YR7/8 黄橙 10YR5/2 灰黄褐 10YR4/4 褐	10YR7/4 にぶい黄橙 2.5Y5/1 黄灰 7.5YR7/8 黄橙	良	RP63	-	101
140	419	土師器	坏	SG6	最下層	8702	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切・ナデ	(12.6)	-	4.0	(7.0)	0.4	赤色粒・細砂を多く含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	良	RP51	-	101
140	420	土師器	坏	SG6	中層粘土	8713	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(12.6)	-	4.6	5.8	0.5	細砂を多く含む	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP420	-	101
140	421	土師器	坏	SG6	下層	8709	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・ナデ	14.0	-	4.7	6.0	0.5	微砂・雲母を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR5/3 にぶい黄褐	良	RP38	内面黒斑	101
140	422	土師器	坏	SG6	-	8805	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.8	-	4.0	6.0	0.5	微砂を多く、粗砂をわずかに含む	10YR7/3 にぶい黄橙 5YR7/6 橙 7.5YR6/1 褐灰	10YR7/3 にぶい黄橙 5YR7/6 橙	良	RP82	-	101
140	423	土師器	坏	SG6	下層砂 最下層	8701 8807	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	4.7	6.6	0.5	黒色粒・細砂を多く、雲母・海綿骨針を含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	良	-	-	101
140	424	土師器	坏	SG6	-	8712	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	5.3	5.6	0.4	微砂・細砂・赤色粒を多く含む	7.5YR7/4 にぶい橙 5YR6/6 橙	7.5YR7/4 にぶい橙 5YR6/6 橙	良	RP202	-	101

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
141	425	土師器	坏	SG6	最下層砂	8615	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(14.0)	-	4.5	(6.0)	0.5	微砂・赤色粒・ 海綿骨針を含む	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	良	-	-	101
141	426	土師器	坏	SG6	-	8612 8806	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.0)	-	4.4	6.5	0.5	赤色粒・粗砂 を多く含む	7.5YR7/6 橙 5YR6/8 橙	7.5YR7/6 橙 5YR6/8 橙	良	-	-	101
141	427	土師器	坏	SG6	-	8803・04・ 05・07	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.5	-	4.5	4.8	0.5	細砂・赤色粒・ 雲母を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐	良	-	-	102
141	428	土師器	坏	SG6	中層砂	8613・14 8713	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.1)	-	5.4	5.7	0.5	微砂・雲母・ 海綿骨針を含む	2.5Y8/1 灰白 2.5Y5/1 黄灰	5Y6/1 灰 2.5Y6/3 にぶい黄	良	-	-	102
141	429	土師器	坏	SG6	下層	8613	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.3	-	5.2	5.0	0.4	微砂・透明粒 を多く含む	10YR8/2 灰白 2.5Y6/1 黄灰	10YR8/2 灰白 2.5Y6/1 黄灰	良	-	-	102
141	430	土師器	坏	SG6	-	8712	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	13.1	-	4.4	6.4	0.4	細砂・雲母を 含む	7.5YR8/6 浅黄橙 2.5YR7/4 淡赤橙 10YR7/1 灰白	7.5YR8/6 浅黄橙 2.5YR7/4 淡赤橙 10YR6/2 灰黄褐	良	RP196	二次焼成	102
141	431	土師器	坏	SG6	火山灰下	8709	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	14.3	-	4.8	5.8	0.5	粗砂・細砂を 多く、海綿骨 針を含む	2.5Y7/3 浅黄 2.5YR3/3 暗オリーブ褐	2.5YR7/3 浅黄	良	RP57	内面柿渋付着？ 内外面被熱で剥 離	102
141	432	土師器	坏	SG6	中層砂	8708 8808・06・ 07	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.0	-	4.8	5.5	0.3	微砂を多く含 む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR5/3 にぶい褐 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR8/2 灰白	良	-	-	102
141	433	土師器	坏	SG6	-	8808	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.4	5.8	0.5	微砂・赤色粒・ 雲母を多く含 む	10YR4/2 灰黄褐 10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y6/2 灰黄 10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP268	内外面油煙付着 全体磨滅	102
141	434	土師器	坏	SG6	下層 最下層	8613 8710	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(13.2)	-	4.2	5.9	0.6	細砂・赤色粒・ 海綿骨針を含 む	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/3 にぶい橙	良	-	-	102
141	435	土師器	坏	SG6	最下層	8614	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.1	-	5.0	5.1	0.5	粗砂を含む	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR8/3 浅黄橙	5YR8/3 淡橙	良	RP400	内面柿渋付着？	102
141	436	土師器	坏	SG6	最下層	8712 8803・05	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.4	-	5.0	4.8	0.5	粗砂を多く含 む	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/1 灰白 10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	102
141	437	土師器	坏	SG6	中層 最下層	8614 8804・06	口縁～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.2)	-	5.1	4.8	0.5	微砂・粗砂を 含む	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y8/1 灰白 10YR7/4 にぶい黄橙	良	-	二次焼成か	102
141	438	土師器	坏	SG6	中層	8806	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.3	-	4.6	5.3	0.4	微砂・海綿骨 針を含む	10YR8/2 灰白 10YR7/6 明黄褐 2.5Y7/2 灰黄	10YR7/6 明黄褐 10YR8/2 灰白	良	RP274	-	102
141	439	土師器	坏	SG6	下層 最下層砂	8614・15 8709・14	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.3	-	4.6	5.6	0.5	細砂を多く含 む	10YR7/4 にぶい黄橙 2.5Y6/1 黄灰	2.5Y7/2 灰黄 7.5YR7/6 橙	良	RP396	-	103
142	440	土師器	坏	SG6	中層	8807	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.6	-	4.6	6.2	0.6	微砂を多く含 む	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y7/3 浅黄 2.5Y7/6 明黄褐	良	RP269	被熱 体部に傷	103
142	441	土師器	坏	SG6	-	8803	完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	12.0	-	4.6	5.7	0.5	粗砂・細砂を 多く含む	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	不良	RP177	小型	103
142	442	土師器	坏	SG6	-	8711	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.1	-	4.9	5.8	0.4	粗砂・細砂を 多く含む	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/2 灰黄褐 5YR7/4 にぶい橙	良	RP287	-	103

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
142	443	土師器	坏	SG6	最下層	8701 8802	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	4.8	5.2	0.4	細砂を多く含む	10YR8/2 灰白 10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y8/2 灰白 10YR6/2 灰黄褐	良	-	底部二重の回転糸切	103
142	444	土師器	坏	SG6	-	8805	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(12.1)	-	4.1	5.5	0.5	細砂・赤色粒を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙 2.5YR6/4 にぶい橙	良	RP143	-	103
142	445	土師器	坏	SG6	中層砂 火山灰下層	8613・14 8708・10・12	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.3	-	4.8	6.2	0.6	赤色粒・微砂を多く含む	7.5YR8/3 浅黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/4 浅黄橙 10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	全体磨滅	103
142	446	土師器	坏	SG6	砂層	8613	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.2)	-	4.8	4.9	0.3	細砂を多く含む	7.5YR7/6 橙 7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙 7.5YR6/4 にぶい橙	良	-	-	103
142	447	土師器	坏	SG6	-	8615	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.8)	-	4.5	6.1	0.6	粗砂を少量含む	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP343	内外面にスス付着	103
142	448	土師器	坏	SG6	下層砂 中層砂	8708・12 8808・06	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.9	5.4	0.5	細砂・雲母を多く含む	2.5Y8/1 灰白 5Y5/1 灰	10YR8/1 灰白 2.5Y7/1 灰白	良	-	-	103
142	449	土師器	坏	SG6	下層砂	8806	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.0)	-	4.6	4.9	0.5	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙 2.5Y6/1 黄灰	良	-	-	103
142	450	土師器	坏	SG6	中層砂	8613	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.8	-	4.4	5.0	0.5	粗砂・赤色粒をわずかに含む	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR7/1 明褐灰	良	RP437	歪みが大きい	103
142	451	土師器	坏	SG6	-	8614	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.2)	-	5.1	5.8	0.5	粗砂・赤色粒をわずかに含む	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	良	RP341	-	104
142	452	土師器	坏	SG6	-	8614	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切・ナデ	(12.0)	-	4.7	5.4	0.7	細砂・赤色粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	良	RP325	-	104
142	453	土師器	坏	SG6	-	8704・05・10	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	5.0	5.4	0.5	粗砂・透明粒をわずかに含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	良	-	-	104
142	454	土師器	坏	SG6	下層	8805 8807	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(15.4)		6.5	(6.4)	0.6	細砂・粗砂を多く含む	10YR8/2 灰白 10YR4/2 灰黄褐	10YR8/2 灰白 10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	内面柿渋付着？	104
143	455	土師器	坏	SG6	-	8613	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.7	-	5.3	4.9	0.5	粗砂をわずかに含む	10YR4/3 にぶい黄褐 10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y6/3 にぶい黄 7.5YR6/4 にぶい橙	良	RP404	体部墨書「定」 内面付着物	104
143	456	土師器	坏	SG6	中層砂利	8713	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.1	-	4.8	5.8	0.3	微砂・赤色粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「定」	104
143	457	土師器	坏	SG6	-	8711	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.5	-	5.0	5.8	0.5	粗砂を少量、細砂を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP217	体部墨書「定」	104
143	458	土師器	坏	SG6	最下層	8710	ほぼ完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(14.4)	-	5.2	6.5	0.4	細砂・粗砂を多く含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	良	RP511	体部墨書「定」	105
143	459	土師器	坏	SG6	-	8803	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.3	-	5.3	5.3	0.5	細砂を多く、海綿骨針を含む	7.5YR6/6 橙 10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y7/3 浅黄 7.5YR7/6 橙	良	RP154	体部墨書「定」	104
143	460	土師器	坏	SG6	-	8613	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	4.9	5.0	0.3	粗砂をわずかに含む	2.5Y7/3 浅黄 10YR5/4 にぶい黄褐	2.5Y8/2 灰白	良	RP458	体部墨書「定」、内面墨痕、底部焼台痕	105

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
143	461	土師器	坏	SG6	上層	8809	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.9	-	4.3	4.5	0.4	微砂・赤色粒を多く、海綿骨針を含む	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR6/1 褐灰	7.5YR7/4 にぶい橙 5YR7/6 橙 10YR6/1 褐灰	良	-	体部墨書「定」、内面墨痕	105
143	462	土師器	坏	SG6	下層	8613	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.5	5.2	0.4	微砂を多く含む	10YR4/3 にぶい黄褐 10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐 10YR1.7/0 黒	良	-	体部墨書「定」、内外面油煙付着、体部被熱剥離	105
143	463	土師器	坏	SG6	中層砂利	8713	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.5	-	5.0	6.7	0.4	粗砂・赤色粒を含む	7.5YR8/4 浅黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙 2.5Y7/2 灰黄	良	RP449	体部墨書「定」カ被熱	106
144	464	土師器	坏	SG6	-	8808	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.1	-	4.5	6.6	0.4	細砂・赤色粒を含む	7.5YR7/6 橙 7.5YR5/2 灰褐	10YR5/2 灰黄褐 7.5YR8/4 浅黄橙	良	RP239	体部墨書「□」横位	106
144	465	土師器	坏	SG6	-	8702	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.8	5.4	0.5	微砂・雲母を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙 5Y5/1 灰	2.5Y6/3 にぶい黄 10YR8/3 浅黄橙 5Y6/1 灰	良	RP224	体部墨書「中」「□」逆位	106
144	466	土師器	坏	SG6	-	8805	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.3	-	5.3	4.8	0.5	粗砂をわずかに含む	7.5YR7/6 橙 10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙 10YR6/1 褐灰	良	RP77	体部墨書「不」カ逆位 内面墨痕	106
144	467	土師器	坏	SG6	下層	8615 8610	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(12.6)	-	4.3	5.0	0.4	赤色粒・細砂・粗砂を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR4/2 灰黄褐	10YR8/3 浅黄橙 10YR5/3 にぶい黄褐	良	-	体部墨書「直」	106
144	468	土師器	坏	SG6	-	8807	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ・ミガキ 底部 - 回転糸切	13.3	-	4.7	5.5	0.7	微砂を含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR7/6 明黄褐	10YR8/3 浅黄橙 10YR7/8 黄橙	良	RP312	体部墨書「丁」カ	106
144	469	土師器	坏	SG6	火山灰下 最下層	8713 8805	口縁～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.3)	-	4.8	(6.5)	0.4	粗砂・細砂を多く含む	7.5YR7/6 橙 10YR4/3 にぶい黄褐	7.5YR7/6 橙 7.5YR8/3 浅黄橙	良	-	体部墨書「定」カ、底部に焼台痕	107
144	470	土師器	坏	SG6	-	8710	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.3	5.6	0.4	細砂・雲母をわずかに含む	10YR4/2 灰黄褐 10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR7/3 にぶい橙 10YR8/1 灰白 10YR5/2 灰黄褐	良	RP487	体部墨書「□」底部穿孔	107
144	471	土師器	坏	SG6	-	8615	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ・ケズリ 内面 - ロクロ・ヘラミガキ 底部 - 回転糸切・ヘラナデ	(12.3)	-	4.5	4.8	0.4	粗砂・赤色粒・海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR8/4 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR8/2 灰白	良	-	体部墨書「□」	107
144	472	土師器	坏	SG6	下層	8614	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.6	-	5.3	4.8	0.5	粗砂をわずかに含む	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR7/6 橙	良	-	体部墨書「□」	108
144	473	土師器	坏	SG6	最下層砂	8611 8615	口縁～ 底部 1/6	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.2)	-	4.6	(5.6)	0.4	細砂・赤色粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部墨書「定」	107
144	474	土師器	坏	SG6	下層	8613	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.2)	-	5.1	5.3	0.4	細砂を多く、赤色粒をわずかに含む	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	良	-	体部墨痕 二次焼成	108
145	475	土師器	坏	SG6	下層	8808	口縁～ 体部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.9	-	4.4	5.0	0.4	細砂を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP266	体部墨書「□」、内外面炭化物付着	107
145	476	土師器	坏	SG6	下層	8805	完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	12.8	-	4.7	5.7	0.7	微砂・雲母を含む	2.5Y8/2 灰白 10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙 10YR6/4 にぶい黄橙	良	RP47	体部墨書「田」横位	108
145	477	土師器	坏	SG6	火山灰下	8711	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.6	-	4.6	6.3	0.4	粗砂・赤色粒・海綿骨針を含む	10YR6/3 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部・内面墨痕	108
145	478	土師器	坏	SG6	下層 最下層	8613 8710 8805	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.4)	-	4.3	5.5	0.5	粗砂・細砂・赤色粒を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」二次焼成か？	108

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
145	479	土師器	坏	SG6	中層	8810	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.1	-	5.3	5.2	0.4	微砂・赤色粒を多く含む	10YR8/2 灰白 10YR4/3 にぶい黄褐	10YR8/2 灰白 2.5Y7/1 灰白	良	-	体部墨書「定」カ 二次焼成 内面付着物	108
145	480	土師器	坏	SG6	-	8715	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・カキメ？ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.7	5.4	0.4	微砂を多量に含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR5/3 にぶい黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	良	RP181	体部墨書「□」 全体被熱	109
145	481	土師器	坏	SG6	下層	8709	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.0	5.8	1.0	細砂・粗砂を含む	10YR8/3 浅黄橙 2.5YR7/3 淡赤橙	10YR8/3 浅黄橙 2.5YR8/4 浅黄	良	RP44	体部墨書「定 or 中」	109
145	482	土師器	坏	SG6	中層	8808	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.2	-	3.8	4.6	0.4	白色砂粒を少量含む	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y7/2 灰黄	良	RP267	体部墨書「□」	109
145	483	土師器	坏	SG6	-	8806	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・カキメ・ナデ 底部 - 回転糸切・ナデ	11.8	-	4.3	5.5	0.5	微砂を含む	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	良	RP296	内面墨痕	109
145	484	土師器	坏	SG6	-	8613	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.9	-	4.8	5.7	0.4	細砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	良	RP457	体部墨書「○にヒ or 左」	109
145	485	土師器	坏	SG6	-	8715	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.2)	(2.0)	6.0	0.5	細砂・赤色粒を多く含む	5YR6/6 橙 2.5Y7/2 灰黄	5YR6/6 橙 2.5Y7/2 灰黄	良	-	底部刻書「×」	109
146	486	土師器	坏	SG6	中層	8614	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.4)	-	3.9	(6.0)	0.4	粗砂・赤色粒を含む	2.5Y7/1 灰白 5YR6/6 橙	2.5Y7/1 灰白 5YR6/6 橙	良	-	底部墨書「真」カ、 内面墨痕	109
146	487	土師器	坏	SG6	下層	8709	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.3	-	4.7	5.8	0.8	粗砂・微砂を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR6/3 にぶい黄橙	良	RP33	体部墨書「□」、 口縁部に油煙付着、灯明皿	110
146	488	土師器	坏	SG6	-	8715	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.7	5.8	0.5	微砂をわずかに、海綿骨針を含む	10YR7/2 にぶい黄橙 7.5Y5/1 灰	10YR7/2 にぶい黄橙	良	RP309	体部墨書「定」カ、 内面墨痕	110
146	489	土師器	坏	SG6	下層	8710	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.4	-	5.1	5.3	0.5	細砂・赤色粒を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR4/2 灰黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙	良	RP489	内外面墨痕	110
146	490	土師器	坏	SG6	-	8710	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.5)	-	4.7	5.4	0.4	粗砂･赤色粒･雲母を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	良	RP486	体部墨書「□」、 内面墨痕	110
147	491	土師器	坏	SG6	中層	8713	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(12.7)	-	4.8	5.3	0.4	細砂・微砂を多く含む	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR6/4 にぶい橙	10YR8/2 灰白 7.5YR8/4 浅黄橙	良	-	内面墨痕	111
147	492	土師器	坏	SG6	下層	8703	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.1	-	4.9	4.9	0.3	微砂を含む	2.5Y8/2 灰白 2.5Y6/2 灰黄	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y6/4 にぶい黄	良	RP369	体部墨書「□」、 内面墨痕	111
147	493	土師器	坏	SG6	-	8806	完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.9	6.0	0.5	微砂・赤色粒を多く、海綿骨針を含む	7.5YR5/4 にぶい褐 10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP314	体部墨痕	111
147	494	土師器	坏	SG6	下層 中層砂	8613 8614	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.6	5.0	0.5	微砂を多く、雲母をわずかに含む	10YR6/2 灰黄褐 2.5Y2/1 黒	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y2/1 黒	良	-	内外面炭化物多量に付着	111
147	495	土師器	坏	SG6	下層	8808	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.2	-	4.7	5.0	0.5	微砂・海綿骨針を含む	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	良	RP46 ・290	外面スス付着 鉄分付着	112
147	496	土師器	坏	SG6	-	8710	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.6)	-	4.7	5.2	0.5	粗砂を多く含む	5Y8/1 灰白 2.5Y7/3 浅黄	2.5YR7/3 淡赤橙	良	RP509	内外面油煙・炭化物多量に付着	112

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
148	497	土師器	坏	SG6	-	8806	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.6	-	4.1	5.1	0.6	微砂を多く、粗砂をわずかに含む	10YR4/2 灰黄褐 10YR6/8 明黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/8 明黄褐	良	RP275	内面油煙付着 全体に磨滅・被熱	112
148	498	土師器	坏	SG6	最下層砂	8701 8806	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.9	5.6	0.4	粗砂・細砂を多く、海綿骨針を含む	2.5Y6/2 灰黄 7.5YR6/4 にぶい橙	2.5Y7/4 浅黄 5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部・内面墨痕	112
148	499	土師器	坏	SG6	-	8810	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	13.3	-	5.1	5.8	0.5	粗砂を少量含む	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良	-	体部・内面墨痕 外面磨滅、二次焼成か？	112
148	500	土師器	坏	SG6	中層砂	8613	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.0	-	4.8	5.8	0.6	微砂を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR4/3 にぶい黄褐	10YR7/1 灰白 10YR6/3 にぶい黄橙	良	RP433	内外面油煙・炭化物多量に付着	112
148	501	土師器	坏	SG6	下層	8709	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.1	-	4.6	6.0	0.5	赤色粒を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR5/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙 7.5Y5/1 灰	良	RP59	内外面炭化物多量に付着	113
148	502	土師器	坏	SG6	-	8712	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.7	-	4.7	5.5	0.4	微砂を多く、赤色粒・雲母を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP226	内面墨痕 茶褐色の付着物	112
149	503	土師器	坏	SG6	-	8614	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	13.8	-	5.1	5.9	0.5	雲母・微砂・赤色粒を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	良	RP326	内外面炭化物多量に付着 籾殻痕の空洞	113
149	504	土師器	坏	SG6	-	8712	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.6	-	4.4	5.2	0.4	微砂・雲母を多く含む	10YR4/3 にぶい黄褐 10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白 10YR8/2 灰白	良	RP199	内外面油煙付着	114
149	505	土師器	坏	SG6	-	8806	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.5	-	4.7	5.5	0.5	微砂を多く、粗砂をわずかに含む	10YR3/3 暗褐 10YR8/3 浅黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄 10YR6/8 明黄褐	良	RP366	内面炭化物付着 底部に置台痕	114
149	506	土師器	坏	SG6	下層砂	8807 8613 8714	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.9)	-	4.1	(5.4)	0.4	粗砂をわずかに含む	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白 10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	内面漆付着	114
149	507	土師器	坏	SG6	最下層粘土	8701	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.6	-	5.1	5.9	0.5	細砂を多く含む	10YR8/2 灰白 10YR4/2 灰黄褐	5Y7/1 灰白 10YR7/2 にぶい黄橙	良	RP471	内面墨痕	114
149	508	土師器	坏	SG6	-	8709	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.9	-	4.8	5.4	0.4	細砂を多く含む	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/6 橙	7.5YR6/8 橙 10YR6/4 にぶい黄橙	良	RP61	体部墨痕	115
150	509	土師器	坏	SG6	-	8806	完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.7	-	4.5	5.7	0.6	微砂を多く、海綿骨針を含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR4/1 褐灰	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR4/2 灰黄褐	良	RP313	内面墨痕	115
150	510	土師器	坏	SG6	-	8614	完形	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	12.9	-	4.8	5.6	0.6	微砂を含む	10YR4/2 灰黄褐 10YR7/1 灰白	7.5YR6/6 橙 10YR6/2 灰黄褐 10YR7/2 にぶい黄橙	良	RP307	内面墨痕、筆直し	115
150	511	土師器	坏	SG6	最下層	8701	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.2	-	4.6	5.1	0.4	粗砂・雲母をわずかに含む	2.5Y7/2 灰黄	10YR7/2 にぶい黄橙 2.5Y7/3 浅黄	良	-	体部・内面墨痕	115
150	512	土師器	坏	SG6	最下層	8805・ 07・08	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.3)	-	4.4	4.9	0.5	微砂を多く含む	7.5YR4/3 褐 7.5YR6/2 灰褐	10YR6/1 褐灰 7.5YR6/4 にぶい橙	良	-	内面墨痕	116
150	513	土師器	坏	SG6	火山灰	8809 8810	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.0	-	4.5	5.1	0.5	細砂を含む	2.5Y8/2 灰白 2.5Y6/4 にぶい黄	2.5Y8/2 灰白 2.5Y5/4 黄褐	良	-	内面墨痕	115
150	514	土師器	坏	SG6	-	8611	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	15.1	-	6.8	5.5	1.0	細砂を多く、赤色粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/1 褐灰	良	RP90	内外面炭化物多量に付着	116

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
150	515	土師器	坏	SG6	-	8709	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	13.3	-	3.6	6.3	0.4	細砂・粗砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR6/2 灰黄褐	10YR8/3 浅黄橙	良	RP17	口縁部に油煙付着	115
151	516	土師器	坏	SG6	最下層砂	8710	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.8)	-	(4.2)	-	0.4	細砂・赤色粒・海綿骨針を含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	良	-	体部墨書「定」	117
151	517	土師器	坏	SG6	最下層	8804	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.2)	-	(4.3)	-	0.4	細砂を含む	2.5Y8/4 淡黄	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR6/1 褐灰	良	-	体部墨書「定」カ	-
151	518	土師器	坏	SG6	中層砂	8713	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.3)	-	(3.1)	-	0.4	微砂を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「定」	117
151	519	土師器	坏	SG6	最下層	8805	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.3)	-	(2.9)	-	0.4	微砂・赤色粒を含む	7.5YR7/3 にぶい橙 7.5YR7/6 橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「定」 内面二次焼成	117
151	520	土師器	坏	SG6	火山灰下	8713	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.4)	-	(3.0)	-	0.4	微砂を多く含む	7.5YR6/6 橙 2.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙	良	-	体部墨書「定」カ 二次焼成	117
151	521	土師器	坏	SG6	-	8712	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.0)	-	(3.6)	-	0.4	粗砂をわずかに含む	10YR6/4 にぶい黄橙 2.5YR7/6 橙	2.5YR6/6 橙	良	-	体部墨書「定」	117
151	522	土師器	坏	SG6	上層	8714	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.5)	-	(3.5)	-	0.4	微砂・赤色粒を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「定」	117
151	523	土師器	坏	SG6	下層砂	8700	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.1)	-	(3.0)	-	0.4	細砂を多く含む	2.5Y8/2 灰白	10YR8/2 灰白	良	-	体部墨書「定」	117
151	524	土師器	坏	SG6	-	8704	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.2)	-	(4.4)	-	0.4	微砂を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙 N2/0 黒	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「定」、 内面油煙付着	-
151	525	土師器	坏	SG6	下層	8613	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.1)	-	(4.1)	-	0.3	微砂・海綿骨針を含む	10YR6/6 明黄褐 10YR8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」	-
151	526	土師器	坏	SG6	下層砂	8201	口縁～体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.0)	-	(4.6)	-	0.4	細砂を多く、雲母をわずかに含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR4/4 褐	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「定」、 内面墨痕	117
151	527	土師器	坏	SG6	中層	8713	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(12.0)	-	(3.9)	-	0.3	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部墨書「□」	-
151	528	土師器	坏	SG6	最下層	8611	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.0)	-	(4.0)	-	0.3	細砂をわずかに含む	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	良	-	体部墨書「□」	117
151	529	土師器	坏	SG6	下層	8703	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.1)	-	(3.7)	-	0.4	細砂・粗砂をわずかに含む	2.5Y5/3 黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨痕	117
151	530	土師器	坏	SG6	下層 最下層	8803 8805	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.0)	-	(3.7)	-	0.4	微砂を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部墨書「□」、 口縁部油煙付着	-
152	531	土師器	坏	SG6	中層	8808	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.3)	-	(2.6)	-	0.5	微砂を含む	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	良	-	体部墨痕	-
152	532	土師器	坏	SG6	-	-	口縁部	外面 - ナデ 内面 - ナデ	(14.0)	-	(2.5)	-	0.4	粗砂をわずかに含む	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部墨痕	-
152	533	土師器	坏	SG6	-	8709	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.0)	-	(3.4)	-	0.4	細砂を多く含む	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	良	-	体部墨痕	-
152	534	土師器	坏	SG6	火山灰下	8713	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.0)	-	(3.5)	-	0.4	細砂を多く、粗砂をわずかに含む	5YR7/6 橙 7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/2 灰白 7.5YR7/3 にぶい橙	良	-	体部墨痕	-
152	535	土師器	坏	SG6	-	8715	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(11.0)	-	(3.0)	-	0.5	微砂・海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部墨痕	-
152	536	土師器	坏	SG6	下層砂	8806	口縁～体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.1)	-	(4.2)	-	0.3	細砂を多く、雲母・赤色粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙 2.5Y7/3 浅黄	10YR7/4 にぶい黄橙 2.5Y7/2 灰黄	良	-	体部墨書「□」	-
152	537	土師器	坏	SG6	最下層	8614	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.2)	-	(2.5)	-	0.4	細砂を多く含む	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR8/1 灰白 10YR7/4 にぶい黄橙	良	-	体部墨痕	117
152	538	土師器	坏	SG6	中層	8701	口縁～体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.0)	-	(4.3)	-	0.3	微砂・赤色粒を少量含む	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	良	-	体部墨痕	-

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
152	539	土師器	坏	SG6	-	8809	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.0)	-	(3.4)	-	0.3	微砂・赤色粒を多く、海綿骨針を含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙 7.5YR7/6 橙	良	-	体部墨痕	-
152	540	土師器	坏	SG6	中~下層	8806	口縁～体部	外面 - ロクロ 内面 - カキメ・ヘラミガキ	(13.7)	-	(4.0)	-	0.4	微砂を含む	2.5Y5/3 黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」	-
152	541	土師器	坏	SG6	下層	8611	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	(10.2)	(2.4)	(7.0)	0.4	微砂を含む	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部墨書「□」	118
152	542	土師器	坏	SG6	下層 最下層	8715	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.5)	(2.6)	4.7	0.3	赤色粒を多く、微砂を含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	良	-	体部墨書「□」	119
152	543	土師器	甕	SG6	-	8703	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.7)	(2.8)	6.1	0.5	粗砂をわずかに、海綿骨針を含む	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙 5YR7/6 橙	良	RP178	体部墨書「□」	116
152	544	土師器	坏	SG6	中層砂	8713	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.0)	(1.9)	(5.5)	0.5	微砂・赤色粒を含む	5YR7/4 にぶい橙 2.5YR7/6 橙	5YR7/6 橙 7.5YR6/2 灰褐	良	-	体部墨書「本」カ	119
152	545	土師器	坏	SG6	-	8600	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.2)	(1.5)	(6.0)	0.4	赤色粒を多く含む	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部墨痕	-
152	546	土師器	坏	SG6	下層	8613	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(8.5)	(2.1)	5.3	0.5	微砂・雲母を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」 全体磨滅	116
152	547	土師器	坏	SG6	下層	8613 8804	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.9)	(2.4)	5.7	0.5	微砂を多く、赤色粒・海綿骨針を含む	2.5Y8/2 灰白 2.5Y5/2 暗灰黄	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」 全体磨滅	116
152	548	土師器	坏	SG6	下層砂	8702	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.6)	(2.1)	(6.0)	0.5	微砂を多く、海綿骨針を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	良	-	体部・内面墨痕 全体磨滅	-
152	549	土師器	坏	SG6	最下層	8805	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(6.9)	(1.2)	(5.2)	0.5	微砂を少量含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」	-
152	550	土師器	坏	SG6	中層	8612	底部	-	-	-	-	-	0.3	微砂を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/3 浅黄橙	良	-	底部墨痕	-
153	551	土師器	坏	SG6	最下層	8805	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.1)	-	0.4	微砂･赤色粒･海綿骨針を含む	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	良	-	体部・内面墨痕	-
153	552	土師器	坏	SG6	中層砂	8710	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(4.0)	-	0.3	微砂を含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	良	-	体部墨書「□」	-
153	553	土師器	坏	SG6	上層	8714	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.4)	-	0.3	微砂・赤色粒わずかに含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部炭化物付着	-
153	554	土師器	坏	SG6	下層砂	8701 8801	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.4)	-	0.4	白色粒・海綿骨針を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	良	-	体部墨痕	-
153	555	土師器	坏	SG6	-	8802	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.9)	-	0.4	微砂を含む	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	良	-	体部墨痕	-
153	556	土師器	坏	SG6	-	8709	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.3)	-	0.4	微砂・海綿骨針を含む	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	良	-	体部墨書「□」	-
153	557	土師器	坏	SG6	-	8810	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.5)	-	0.4	微砂を多く含む	7.5YR6/3 にぶい褐	5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/1 褐灰	良	-	内外面炭化物付着	-
153	558	土師器	坏	SG6	-	8701	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.7)	-	0.4	微砂・海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	口縁部に油煙付着	-
153	559	土師器	坏	SG6	下層	8715	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(1.7)	-	0.4	微砂を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」	118
153	560	土師器	坏	SG6	中層砂	8613	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.8)	-	0.3	微砂を含む	2.5YR7/3 淡赤橙	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/8 明黄褐	良	-	体部墨書「定」	118
153	561	土師器	坏	SG6	中層砂	8710	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.6)	-	0.4	微砂・海綿骨針を含む	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	良	-	口縁部に炭化物付着	-

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
153	562	土師器	坏	SG6	下層	8711	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.1)	-	0.4	粗砂をわずかに含む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/3 浅黄橙	良	-	口縁部に炭化物付着	-
153	563	土師器	坏	SG6	-	8713	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.6)	-	0.3	細砂多く、海綿骨針を含む	7.5YR7/4 にぶい橙 2.5Y7/2 灰黄	7.5YR7/4 にぶい橙 2.5Y7/2 灰黄	良	-	体部墨書「定」カ	-
153	564	土師器	坏	SG6	下層	8613	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.7)	-	0.4	微砂・赤色粒を多く、海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 5YR7/3 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「左」カ	118
153	565	土師器	坏	SG6	-	8709	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(4.9)	-	0.4	微砂･赤色粒･海綿骨針を含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	良	-	体部墨書「□」	-
153	566	土師器	坏	SG6	-	8908	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.1)	-	0.4	微砂を含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	良	-	体部墨痕、口縁油煙付着	-
153	567	土師器	坏	SG6	-	8908	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.8)	-	0.4	微砂多く、海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/3 浅黄	良	-	体部墨痕	-
153	568	土師器	坏	SG6	-	8715	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.2)	-	0.4	微砂を多く含む	2.5Y8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	良	-	体部墨書「定」カ	118
153	569	土師器	坏	SG6	下層	8613	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.7)	-	0.5	微砂を含む	2.5Y8/1 灰白 10YR5/2 灰黄褐	2.5Y8/1 灰白	良	-	体部墨書「□」、口縁油煙付着	118
153	570	土師器	坏	SG6	下層	8807	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.2)	-	0.5	赤色粒を含む	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/2 灰白 2.5Y7/3 浅黄	良	-	内面墨痕	-
153	571	土師器	坏	SG6	中層	8713	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.1)	-	0.3	赤色粒を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨痕	-
153	572	土師器	坏	SG6	-	8804	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.5)	-	0.4	微砂を含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	良	-	体部墨書「□」	-
153	573	土師器	坏	SG6	中層砂	8613	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.6)	-	0.4	細砂少量を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」	-
153	574	土師器	坏	SG6	-	8808	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(1.8)	-	0.4	微砂・海綿骨針を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部墨痕	-
153	575	土師器	坏	SG6	-	8802	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(1.5)	-	0.5	微砂を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」	-
153	576	土師器	坏	SG6	-	8701	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.1)	-	0.5	微砂を含む	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	良	-	体部墨痕	-
153	577	土師器	坏	SG6	-	8714	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.0)	-	0.3	細砂・雲母を多く含む	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	良	-	体部墨書「□」	118
153	578	土師器	坏	SG6	-	8600	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.1)	-	0.5	微砂・赤色粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白	良	-	体部墨書「□」	-
153	579	土師器	坏	SG6	-	8705	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.0)	-	0.5	微砂・雲母を含む	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	良	-	体部墨痕	-
153	580	土師器	坏	SG6	上層	8700	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.2)	-	0.4	微砂を含む	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白	良	-	体部墨書「□」	-
153	581	土師器	甕カ	SG6	-	8612	体部	外面 - ケズリ 内面 - ナデ	-	-	(3.3)	-	0.5	細砂・赤色粒を多く含む	2.5Y7/1 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨痕	-
153	582	土師器	坏	SG6	最下層	8804	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.2)	-	0.5	細砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」	-
153	583	土師器	坏	SG6	中層砂	8808	体部	外面 - ケズリ 内面 - ケズリ	-	-	(2.7)	-	0.6	微砂・赤色粒を含む	10YR8/2 灰白	10YR 灰白 8/2	良	-	体部墨書「□」	-
153	584	土師器	坏	SG6	中層砂	8715	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.8)	-	0.5	粗砂をわずかに含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	良	-	体部炭化物付着	-
153	585	土師器	坏	SG6	下層	8613	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(1.9)	-	0.5	細砂を多く含む	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	良	-	体部墨書「□」	-
153	586	土師器	坏	SG6	中層	8807	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(1.5)	-	0.4	粗砂・海綿骨針を含む	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y8/2 灰白	良	-	内面墨痕	-
153	587	土師器	坏	SG6	-	8614	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.2)	-	0.4	微砂を含む	2.5Y7/3 浅黄	5YR8/4 淡橙	良	-	体部墨書「□」	-

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
153	588	土師器	坏	SG6	-	8806	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.0)	-	0.4	微砂を含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	良	-	体部墨書「□」	-
153	589	土師器	坏	SG6	-	8612	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.5)	-	0.5	微砂を多く含む	10YR8/2 灰白	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部炭化物付着	-
153	590	土師器	坏	SG6	-	8806	体部	外面 - ケズリ 内面 - ケズリ	-	-	(2.8)	-	0.4	細砂・粗砂を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y8/2 灰白	良	-	体部墨痕	-
153	591	土師器	坏	SG6	-	8709	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.4)	-	0.4	微砂・海綿骨針を含む	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	良	-	体部墨書「□」	-
154	592	土師器	坏	SG6	-	8709	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.0)	-	0.4	細砂・赤色粒・海綿骨針を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部墨書「□□」	118
154	593	土師器	坏	SG6	下層砂	8701	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.9)	-	0.5	粗砂をわずかに含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/3 にぶい褐	良	-	体部墨書「□」	-
154	594	土師器	坏	SG6	-	8600 8700	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(4.1)	-	0.5	微砂・金雲母わずかに含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「身」カ	118
154	595	土師器	坏	SG6	最下層	8710 8806	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(3.9)	-	0.4	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	10YR6/2 灰黄褐 5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部墨書「㊧」	119
154	596	土師器	坏	SG6	中層	8612	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(4.0)	-	0.5	微砂を多く含む	10YR6/3 にぶい黄橙 7.5YR5/2 灰褐	10YR7/2 にぶい黄橙 7.5YR6/3 にぶい褐	良	-	体部・内面墨痕	-
154	597	土師器	坏	SG6	中~下層	8806	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(4.5)	-	0.4	微砂を多く含む	2.5Y6/4 にぶい黄	2.5Y7/3 浅黄	良	-	体部墨書「□」	-
154	598	土師器	坏	SG6	-	8804	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(2.4)	-	0.4	微砂を含む	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y8/2 灰白	良	-	体部・内面墨痕	-
154	599	土師器	甕	SG6	-	8701	体部	外面 - ハケメ・ナデ 内面 - カキメ	-	-	(4.3)	-	0.9	細砂を多く含む	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6 橙	良	-	体部墨痕、絵カ	-
154	600	土師器	坏	SG6	上層	8804	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.2)	-	(3.8)	-	0.4	微砂・赤色粒を含む	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	良	-	内面に漆付着	119
154	601	土師器	坏	SG6	中層砂	8801	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.4)	-	(2.7)	-	0.4	微砂多く、海綿骨針を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良	-	内面墨痕	-
154	602	土師器	坏	SG6	火山灰下	8713	体部~ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.0)	(2.4)	(4.6)	0.3	粗砂・細砂を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良	-	内面炭化物多量に付着	119
154	603	土師器	坏	SG6	-	8805	体部~ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.9)	(3.5)	5.3	0.5	細砂を多く含む	2.5Y3/1 黒褐	10YR6/2 灰黄褐	良	RP80	内面炭化物付着	120
154	604	土師器	坏	SG6	-	8705	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - ヘラケズリ	-	(10.9)	(2.7)	(5.8)	0.5	細砂・赤色粒を多く含む	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	良	-	内面墨痕	-
154	605	土師器	坏	SG6	下層	8709	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.8)	(2.1)	5.7	0.5	細砂・粗砂・赤色粒を多く含む	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	良	RP60	内面墨痕	120
154	606	土師器	坏	SG6	-	8709	体部~ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(11.9)	(4.1)	6.1	0.5	微砂・細砂・赤色粒を多く含む	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	良	RP228	内面炭化物付着	120
154	607	土師器	坏	SG6	-	8806	底部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(8.9)	(1.7)	(5.0)	0.3	微砂を多く含む	N1.5/0 黒	2.5YR7/3 浅黄	良	-	内外面漆付着	120
154	608	土師器	坏	SG6	火山灰下	8713	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.8)	(2.3)	5.2	0.4	微砂・海綿骨針を含む	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐 5YR7/3 にぶい橙	良	-	-	120
154	609	土師器	坏	SG6	-	8715	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.3)	(2.3)	4.6	0.4	微砂を多く、赤色粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	良	-	外面赤彩	121

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
154	610	土師器	坏	SG6	-	8807	体部～底部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(4.2)	(2.5)	(4.2)	0.4	細砂を多く含む	2.5Y6/2 灰黄	10YR8/2 灰白 5YR7/6 橙	良	-	外面赤彩カ ミニチュア	120
155	611	土師器	高台坏	SG6	-	8714	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(15.9)	-	5.9	7.7	0.6	赤色粒を多く含む	7.5YR7/6 橙 7.5YR7/2 明褐灰 7.5YR5/2 灰褐	7.5YR7/6 橙 7.5YR7/2 明褐 N5/0 灰	良	RP332	-	121
155	612	土師器	高台坏	SG6	最下層	8614	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.8	-	(6.2)	-	0.4	粗砂･赤色粒･海綿骨針を含む	10YR8/2 灰白 10YR5/4 にぶい黄褐	10YR8/2 灰白 10YR6/2 灰黄褐 5YR8/4 淡橙	良	RP344	-	121
155	613	土師器	高台坏	SG6	-	8807	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	16.0	-	(6.3)	-	0.4	粗砂・赤色粒をわずかに含む	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR4/3 にぶい黄褐	10YR8/1 灰白 10YR7/4 にぶい黄色 7.5YR6/6 橙	良	RP86	歪みが大きい	121
155	614	土師器	高台坏	SG6	中層	8710	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	(15.9)	-	6.5	6.0	0.4	細砂を多く、赤色粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR5/4 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP490	-	121
155	615	土師器	高台坏	SG6	-	8809	口縁～体部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	18.4	-	(7.5)	-	0.4	粗砂・細砂を多く含む	10YR8/2 灰白 10YR4/3 にぶい黄褐 7.5YR7/6 橙	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙 7.5YR7/6 橙	やや良	RP62	内外面被熱でフレーク状に穴あき	122
155	616	土師器	高台坏	SG6	中層	8802	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	15.0	-	6.0	6.7	0.4	細砂を多く、赤色粒を含む	7.5YR7/6 橙 10YR4/2 灰黄褐	10YR8/3 浅黄橙 10YR8/6 黄橙	良	RP149	内外面被熱でフレーク状に穴あき	121
155	617	土師器	高台坏	SG6	-	8712	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	15.4	-	5.2	6.5	0.5	微砂・細砂を多く含む	10YR8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐	良	RP197	全体に被熱、内面フレーク状に穴あき	122
155	618	土師器	高台坏	SG6	-	8801	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ミガキ・ナデ 底部 - 回転糸切	14.7	-	4.9	(7.4)	0.4	細砂・赤色粒をわずかに含む	10YR8/2 灰白 10YR6/6 明黄褐	10YR8/1 灰白 10YR6/6 明黄褐	良	RP413	歪む	122
155	619	土師器	高台坏	SG6	中層砂	8613	口縁～底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・ナデ	(15.0)	-	(5.6)	-	0.5	細砂を多く含む	10YR8/2 灰白	2.5Y7/1 灰白 5YR7/4 にぶい橙	良	RP423	全体磨滅	122
155	620	土師器	高台坏	SG6	中層	8807	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	15.1	-	6.0	8.0	0.4	微砂･赤色粒･海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/8 明黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/8 明黄褐	良	RP273	-	122
155	621	土師器	高台皿	SG6	-	8711	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	12.6	-	4.5	6.4	0.9	微砂を含む	10YR8/2 灰白 7.5YR6/3 にぶい褐	10YR8/2 灰白 10YR7/2 にぶい黄橙	やや良	RP105	内面赤彩	122
155	622	土師器	高台坏	SG6	-	8612	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(10.6)	(3.3)	7.0	0.6	微砂・雲母を多く含む	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	良	-	底部に籾痕	122
155	623	土師器	高台坏	SG6	下層砂	8806	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ヘラミガキ 底部 - 菊花状	-	(12.7)	(4.3)	6.4	0.6	微砂・海綿骨針を含む	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙	良	-	-	123
155	624	土師器	高台坏	SG6	-	8804	底部	底部 - 網代痕	-	-	(1.6)	(7.0)	0.5	微砂を含む	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	良	-	-	122
155	625	土師器	高台坏	SG6	-	8806	底部	-	-	-	(1.7)	(4.8)	-	微砂多く、海綿骨針を含む	10YR7/6 明黄褐	5YR6/6 橙	良	-	全体磨滅	123
155	626	土師器	高台皿	SG6	-	8614	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(13.8)	-	(2.3)	-	0.7	微砂･赤色粒･海綿骨針を含む	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR7/6 橙	10YR7/3 にぶい黄橙 5YR6/8 橙	良	RP352	-	123
156	627	土師器	高台坏	SG6	上層	8709	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(14.0)	-	6.3	5.5	0.3	細砂を多く含む	10YR5/3 にぶい黄褐 10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙	良	RP15	-	123
156	628	土師器	高台坏	SG6	-	8804	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.7	-	6.0	6.2	0.3	粗砂・細砂を多く、海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙	良	RP66	体部墨書「日」	123

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
156	629	土師器	高台坏	SG6	-	8807	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.6	-	6.0	6.7	0.6	微砂・海面骨針を含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	良	RP84	体部墨書「□」	123
156	630	土師器	高台坏	SG6	-	8612	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・ナデ	14.2	-	5.3	7.1	0.4	細砂を多く含む	10YR8/2 灰白 10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙 10YR8/2 灰白	良	RP198	体部墨書「□」	123
156	631	土師器	高台坏	SG6	火山灰下	8712	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(15.0)	-	6.2	(6.2)	0.3	細砂・赤色粒を含む	10YR8/2 灰白 7.5YR7/3 にぶい橙	10YR8/2 灰白 5YR7/4 にぶい橙	良	-	体部墨書「定」カ 内面漆付着	124
156	632	土師器	高台坏	SG6	-	8807	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.5	-	6.2	7.8	0.4	粗砂をわずかに含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR4/4 褐 7.5YR5/8 明褐	10YR8/2 灰白 7.5YR6/8 橙	良	RP323	内面墨痕 内外面鉄分付着 外面磨滅	123
156	633	土師器	高台坏	SG6	最下層	8710	口縁～ 底部 1/4	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・ヘラケズリ	(14.0)	-	6.3	7.7	0.5	粗砂を多く、海綿骨針を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/1 灰白 10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	内面炭化物付着 底部墨痕、筆ならし	124
156	634	土師器	高台坏	SG6	下層	8709	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(16.2)	-	6.4	-	0.5	粗砂を多く、赤色粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR7/3 にぶい黄橙	5YR7/6 橙 7.5YR7/4 にぶい橙	良	RP37	体部墨書「□」	124
156	635	土師器	高台坏	SG6	-	8711	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 菊花状	14.7	-	6.5	7.2	0.4	微砂・赤色粒を含む	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙	良	RP242	内面墨痕	124
156	636	土師器	高台坏	SG6	-	8802	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(7.5)	(1.7)	(6.1)	0.5	粗砂・赤色粒を多く含む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	良	-	体部墨書「□」	-
157	637	土師器	甕	SG6	-	8614 8805	口縁～ 体部 1/4	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ナデ	(24.4)	-	(23.5)	-	0.8	細砂・赤色粒・海綿骨針を含む	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR6/3 にぶい褐	10YR2/1 黒 10YR6/4 にぶい黄橙	不良	RP141 ・357	外面炭化物多量に付着	125
157	638	土師器	甕	SG6	砂層	8613	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(22.0)	-	(10.4)	-	0.8	細砂を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	7.5YR7/2 明褐灰 2.5YR6/8 橙	良	-	外面に炭化物付着	-
157	639	土師器	甕	SG6	下層	8614	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ナデ	(19.0)	-	(7.2)	-	0.5	微砂・赤色粒を含む	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	外面に炭化物付着	125
157	640	土師器	甕	SG6	最下層 中層 下層砂	8711 8710	体部	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ナデ	-	(25.4)	(25.5)	-	0.7	微砂・細砂を含む	2.5Y6/2 灰黄 2.5Y7/3 浅黄	10YR4/2 灰黄褐 5YR5/6 明赤褐	良	RP283 ・507	外面に炭化物付着	125
157	641	土師器	甕	SG6	中層砂 下層	8613	口縁～ 体部	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ナデ	(16.2)	-	(13.9)	-	0.5	白色粒・赤色粒を含む	7.5YR8/3 浅黄橙 7.5YR3/2 黒褐	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/2 灰褐	良	-	外面に炭化物付着	125
157	642	土師器	甕	SG6	中層砂	8613 8810	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.7)	-	(6.0)	-	0.5	細砂を多く含む	2.5Y8/1 灰白 2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/1 灰白 10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	内外面炭化物付着	-
157	643	土師器	甕	SG6	火山灰下	8712	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(13.0)	-	(7.4)	-	0.5	微砂・赤色粒を多く含む	10YR8/2 灰白	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR5/1 褐灰	良	-	-	125
157	644	土師器	甕	SG6	-	8809	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.4)	-	(5.2)	-	0.6	細砂を多く含む	10YR8/2 灰白 10YR3/3 暗褐	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR4/2 灰黄褐	良	-	-	125
157	645	土師器	甕	SG6	中層砂	8708	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(15.2)	-	(6.0)	-	0.5	微砂を多く、粗砂をわずかに含む	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良	-	内面に多量の炭化物付着	125
158	646	土師器	甕	SG6	火山灰下	8713	口縁～ 体部	外面 - ロクロ・ケズリ 内面 - ヘラナデ・カキメ	(26.2)	-	(20.1)	-	0.8	粗砂・細砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR5/2 灰黄褐	2.5Y8/2 灰白 7.5YR8/4 浅黄橙	良	-	-	126
158	647	土師器	甕	SG6	-	8702	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(18.6)	-	(8.0)	-	0.5	微砂を含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	2.5Y7/1 灰白 2.5Y3/2 黒褐	良	RP180	外面に炭化物多量に付着	126
158	648	土師器	甕	SG6	火山灰下	8713	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ヨコナデ	(18.4)	-	(9.8)	-	0.8	微砂・雲母・赤色粒を多く含む	7.5YR8/2 灰白 5YR7/4 にぶい橙	10YR7/2 にぶい黄橙 5YR7/4 にぶい橙	良	-	-	-
158	649	土師器	甕	SG6	下層	8614	口縁～ 体部	外面 - ナデ・ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ナデ・ヘラナデ	23.9	-	(16.4)	-	0.6	微砂・細砂を多く含む	10YR8/4 浅黄橙 10YR7/1 灰白	10YR8/4 浅黄橙 10YR7/1 灰白	良	RP301	外面に炭化物多量に付着	126

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
158	650	土師器	甕	SG6	下層	8613 8810	口縁部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラナデ・カキメ	(23.3)	-	(5.6)	-	0.7	細砂・粗砂を多く含む	10YR8/4 浅黄橙 10YR7/1 灰白	10YR8/4 浅黄橙 10YR7/1 灰白	良	-	内外面に炭化物付着	126
158	651	土師器	甕	SG6	中層	8614	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(23.2)	-	(7.3)	-	0.5	微砂を多く含む	10YR6/2 灰黄褐 10YR6/1 褐灰	10YR6/2 灰黄褐 10YR6/1 褐灰	良	-	外面に炭化物付着	126
158	652	土師器	甕	SG6	下層	8710 8806	口縁～ 体部	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ロクロ・ナデ	(22.1)	-	(13.6)	-	0.7	粗砂・赤色粒を含む	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	良	-	外面に炭化物付着	126
158	653	土師器	甕	SG6	最下層砂	8701 8709	口縁～ 体部	外面 - ロクロ・ケズリ・ヘラナデ 内面 - ナデ	(23.2)	-	(15.5)	-	0.8	粗砂・赤色粒をわずかに含む	7.5YR8/3 浅黄橙 7.5YR5/1 褐灰	7.5YR8/2 灰白 7.5YR4/1 褐灰	良	-	外面に炭化物付着	127
159	654	土師器	甕	SG6	最下層	8715	口縁～ 体部	外面 - ロクロ・ナデ・ヘラケズリ 内面 - ナデ	(30.8)	-	(13.6)	-	1.0	粗砂を多く、雲母をわずかに含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/2 灰黄	良	-	外面に炭化物付着	127
159	655	土師器	羽釜ヵ	SG6	火山灰下	8711 8712	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(11.0)	(13.6)	(4.7)	-	0.5	細砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙 2.5Y3/1 黒褐	7.5YR8/3 浅黄橙 10YR3/1 黒褐	良	RP217	内外面に炭化物付着	127
159	656	土師器	甕	SG6	最下層	8803	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ナデ	(16.2)	-	(2.4)	-	0.7	細砂をわずかに含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	127
159	657	土師器	甕	SG6	下層	8709 8715	口縁～ 体部	外面 - カキメ 内面 - カキメ・ヘラナデ	(20.8)	-	(8.8)	-	0.7	細砂を多く、赤色粒・海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR4/1 褐灰	10YR7/3 にぶい黄橙 2.5Y7/2 灰黄	良	-	外面に炭化物付着	127
159	658	土師器	甕	SG6	中層砂	8613	口縁～ 体部	外面 - ロクロ 内面 - ナデ（タテ・ヨコ）	(23.0)	-	(8.9)	-	0.6	細砂を含む	2.5Y3/1 黒褐 2.5Y7/4 浅黄	2.5Y3/1 黒褐 10YR7/4 にぶい黄橙	良	RP434	内外面に炭化物多量に付着	127
160	659	土師器	甕	SG6	火山灰下	8805 8710	体部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ロクロ	-	(21.4)	(9.5)	-	0.6	粗砂・赤色粒・海綿骨針を含む	10YR5/2 灰黄褐 10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	良	-	内外面に炭化物付着	127
160	660	土師器	甕	SG6	-	8614	体部～ 底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ヘラナデ 底部 - 砂目底	-	(22.0)	(7.2)	(11.0)	1.1	細砂・赤色粒・海綿骨針を含む	7.5YR7/6 橙	10YR5/3 にぶい黄褐 2.5Y5/2 暗灰黄	良	RP358	-	128
160	661	土師器	甕	SG6	中層	8808	底部	外面 - ケズリ 内面 - ナデ 底部 - ケズリ・ナデ	-	-	(1.7)	8.4	0.9	細砂を含む	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	外面にスス付着、底部に砥石様ミゾ	128
160	662	土師器	甕	SG6	最下層	8803	底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ロクロ 底部 - ヘラケズリ・ナデ	-	(13.0)	(2.4)	(10.0)	0.8	微砂・赤色粒を含む	7.2YR8/3 浅黄橙 10YR5/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR3/1 黒褐	良	RP390	底部に圧痕 被熱	128
160	663	土師器	甕	SG6	最下層	8710	体部～ 底部	外面 - ケズリ 内面 - ナデ 底部 - ナデ	-	(18.0)	(6.4)	(11.4)	1.0	粗砂を多く、海綿骨針を含む	10YR4/1 褐灰	7.5YR6/4 にぶい橙 10YR4/1 褐灰	良	-	内面炭化物付着	-
160	664	土師器	甕	SG6	-	8613	体部～ 底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ヘラナデ 底部 - ナデ	-	(16.0)	(5.0)	9.4	1.1	微砂を含む	10YR5/1 褐灰 10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白 10YR6/1 褐灰	良	-	-	128
160	665	土師器	甕	SG6	-	8711	体部～ 底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ヘラナデ 底部 - ナデ	-	(18.3)	(9.1)	10.5	1.1	粗砂・赤色粒・海綿骨針を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR3/2 黒褐	7.5YR5/3 にぶい褐 7.5YR2/1 黒	良	RP193	外面に炭化物多量に付着	128
160	666	土師器	甕	SG6	最下層砂	8714 8806	底部	外面 - ヘラケズリ・ナデ 内面 - ナデ 底部 - 不明	-	(14.8)	(4.6)	(9.2)	0.8	細砂を多く、赤色粒・海綿骨針を含む	10YR8/3 浅黄橙 10YR6/2 灰黄褐	10YR8/2 灰白 7.5YR6/3 にぶい褐	良	-	底部特徴的	128
160	667	土師器	壺	SG6	下層	8614	底部	外面 - ロクロ・ヘラミガキ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(7.6)	(2.3)	5.3	0.8	微砂を含む	10YR5/2 灰黄褐 10YR2/1 黒	10YR6/2 灰黄褐 10YR4/1 褐灰	良	-	内面炭化物多量に付着	129
160	668	土師器	甕	SG6	下層	8713	底部	外面 - ケズリ 内面 - ナデ 底部 - 不明	-	-	(1.9)	7.6	0.9	粗砂・赤色粒を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/1 灰白	良	-	外面にスス付着	128
160	669	土師器	甕	SG6	-	8807	底部	外面 - ヘラケズリ 底部 - 回転糸切	-	(10.3)	(3.7)	(6.4)	1.0	粗砂・細砂を多く、赤色粒・海綿骨針を含む	10YR8/2 灰白	10YR4/1 褐灰 10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	-	128

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
160	670	土師器	甕	SG6	砂層	8613	底部	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転糸切	-	(11.5)	(2.6)	(7.3)	0.7	細砂・赤色粒・海綿骨針を含む	7.5YR7/6 橙 10YR5/1 褐灰	7.5YR8/6 浅黄橙 2.5YR6/6 橙	良	-	内面炭化物付着	-
160	671	土師器	甕	SG6	-	8802	底部	外面 - ヘラナデ・ケズリ 内面 - カキメ 底部 - ケズリ・ナデ	-	(14.4)	(2.5)	9.8	1.0	微砂・細砂を多く含む	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい褐 10YR6/3 にぶい黄橙	良	RP213	-	128
160	672	土師器	甕	SG6	中層砂 下層	8613 8806	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(17.6)	(6.7)	9.5	0.7	細砂を多く含む	2.5Y7/3 浅黄 10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y6/3 にぶい黄 10YR4/2 灰黄褐	良	-	-	128
160	673	土師器	甕	SG6	中層	8613	底部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(12.0)	(3.8)	7.0	0.7	微砂を含む	2.5Y3/2 黒褐 5Y8/1 灰白	2.5Y4/2 暗灰黄 2.5Y7/3 浅黄	良	RP174	外面炭化物付着 置き台痕	129
160	674	土師器	壺	SG6	-	8713	底部	内面 - ロクロ 底部 - 不明	-	-	(1.7)	(10.0)	0.5	細砂・赤色粒を多く含む	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	底部高台	129
160	675	土師器	甑	SG6	最下層砂	8701	底部	外面 - タタキ	-	-	(1.9)	(15.4)	1.1	細砂多く含む	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	良	-	-	-
161	676	土師器	甕	SG6	-	8807	口縁部	外面 - ヨコナデ・ハケメ 内面 - ハケメ	(24.8)	-	(7.3)	-	0.7	微砂・雲母を含む	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	良	-	内外面スス付着	129
161	677	土師器	甕	SG6	-	8807	口縁～ 体部	外面 - ハケメ 内面 - ナデ・ハケメ	(20.9)	-	(13.3)	-	0.6	微砂・雲母・海綿骨針を含む	10YR6/2 灰黄褐	2.5Y8/2 灰白 10YR6/2 灰黄褐	良	-	-	130
161	678	土師器	甕	SG6	火山灰下	8713	口縁～ 体部	外面 - ナデ・ハケメ 内面 - ハケメ	(25.0)	-	(8.1)	-	0.6	細砂・赤色粒を多く含む	10YR6/2 灰黄褐 7.5YR8/2 灰白	7.5YR7/6 橙	良	-	外面炭化物付着	130
161	679	土師器	甕	SG6	-	8712	口縁部	外面 - ヨコナデ・ハケメ 内面 - ハケメ	(21.0)	-	(4.9)	-	0.7	微砂を含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR5/1 褐灰	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	外面スス付着	130
161	680	土師器	甕	SG6	下層	8615	口縁部	外面 - ナデ・ハケメ 内面 - ハケメ・ナデ	(14.0)	-	(5.1)	-	0.5	細砂・微砂を多量に含む	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	良	-	内外面炭化物付着	130
161	681	土師器	甕	SG6	下層	8709	口縁～ 体部	外面 - ナデ・ハケメ 内面 - ナデ・ハケメ	(20.0)	-	(6.5)	-	0.7	微砂・雲母を含む	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/3 淡黄	良	RP32	外面スス付着	129
161	682	土師器	甕	SG6	-	8715 8810	口縁～ 体部	外面 - ナデ・ハケメ 内面 - ハケメ	(27.0)	-	(10.7)	-	0.8	微砂を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR5/1 褐灰	10YR8/2 灰白 5YR7/4 にぶい橙	良	-	-	131
161	683	土師器	甕	SG6	-	8710	口縁～ 体部	外面 - ハケメ・ヘラケズリ 内面 - ハケメ・ヘラケズリ	(20.0)	-	(8.0)	-	0.5	粗砂をわずかに含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR4/2 灰黄褐	10YR8/2 灰白 5YR7/4 にぶい橙	良	-	内面炭化物付着	131
161	684	土師器	甕	SG6	火山灰下	8712	口縁～ 体部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ	(18.2)	-	(13.4)	-	0.7	細砂を含む	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR4/1 褐灰	良	-	内外面炭化物多量に付着	129
161	685	土師器	甕	SG6	中層砂	8715	体部～ 底部	外面 - ハケメ・ナデ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(16.0)	(4.0)	(11.1)	0.5	微砂を多く含む	10YR8/3 浅黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良	-	外面スス付着	133
162	686	土師器	甕	SG6	中層砂	8613	口縁～ 底部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	(14.5)	-	12.8	7.3	0.6	微砂・雲母を含む	5YR3/3 暗赤褐 10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR5/3 にぶい褐 7.5YR7/3 にぶい橙 7.5YR5/1 褐灰	やや良	RP431	外面炭化物付着	132
162	687	土師器	甕	SG6	最下層 下層	8615 8715	体部～ 底部	外面 - ハケメ 内面 - ヘラナデ（木口片） 底部 - ムシロ痕	-	(14.2)	(4.7)	(8.0)	0.6	細砂を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	5YR5/4 にぶい赤褐 10YR3/2 黒褐	良	-	-	131
162	688	土師器	甕	SG6	-	8710	体部～ 底部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(15.4)	(5.0)	(11.0)	0.9	粗砂を少量含む	2.5Y7/3 浅黄 2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y6/4 にぶい黄 7.5YR5/6 明褐	良	RP512	-	131
162	689	土師器	甕	SG6	-	8611	体部～ 底部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(11.6)	(2.4)	(8.0)	1.1	細砂を多く含む	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR5/1 褐灰	良	-	-	-
162	690	土師器	甕	SG6	上層	8803	体部～ 底部	外面 - ケズリ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(8.6)	(1.2)	(6.4)	0.8	微砂を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	-
162	691	土師器	甕	SG6	下層	8613 8807	体部～ 底部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(12.8)	(4.2)	7.4	0.6	微砂を多く含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄 2.5Y5/2 暗灰黄	良	-	-	132

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
162	692	土師器	甕	SG6	最下層	8700	体部～底部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(16.0)	(3.2)	(11.0)	1.0	細砂・赤色粒を多く含む	10YR8/2 灰白 10YR6/1 褐灰	10YR8/2 灰白 N6/0 灰	良	-	全体磨滅	133
162	693	土師器	甕	SG6	-	-	体部～底部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(15.0)	(2.7)	(11.8)	0.9	細砂を多く含む	10YR8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	133
162	694	土師器	甕	SG6	中層砂	8615	底部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(10.0)	(1.8)	(8.6)	0.8	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y5/2 暗灰黄	良	-	-	133
162	695	土師器	甕	SG6	下層	8614	底部	外面 - ハケメ 内面 - 不明 底部 - 網代痕	-	(9.6)	(1.7)	(7.4)	0.7	細砂・赤色粒を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	良	-	-	133
162	696	土師器	甕	SG6	火山灰下	8712	体部～底部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(11.8)	(4.0)	(6.0)	0.7	微砂を多く含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐 7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	内面に漆付着	-
162	697	土師器	甕	SG6	-	8600 8700	体部～底部	外面 - ケズリ・ナデ 内面 - ハケメ・ヘラナデ 底部 - 網代痕	-	(13.2)	(2.4)	(8.2)	0.6	細砂を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR6/4 にぶい橙	良	-	-	133
162	698	土師器	甕	SG6	上層砂	8708	体部～底部	外面 - ハケメ 内面 - ナデ？ 底部 - 網代痕	-	(12.2)	(4.0)	8.0	0.6	細砂・赤色粒を多く含む	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/6 橙 2.5Y4/2 暗灰黄	良	-	全体磨滅	134
162	699	土師器	甕	SG6	上層砂	8710	底部	外面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(10.0)	(0.7)	(9.0)	0.6	微砂を含む	2.5Y6/4 にぶい黄	10YR6/2 灰黄褐 7.5YR5/6 明褐	良	-	-	133
162	700	土師器	甕	SG6	-	8715 8115	体部～底部	外面 - ハケメ・ナデ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	(15.6)	(7.6)	(8.6)	0.5	細砂を多く含む	10YR8/2 灰白 7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/2 灰白 2.5YR6/6 橙	良	-	全体磨滅 二次焼成か	133
162	701	土師器	甕	SG6	-	8710	体部～底部	外面 - ハケメ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 網代痕	-	(14.5)	(3.2)	(14.0)	0.7	微砂・赤色粒を含む	2.5Y5/1 黄灰 7.5YR7/4 にぶい橙	10YR6/2 灰黄褐	良	-	外面スス付着	132
162	702	土製品	紡錘車	SG6	火山灰下	8712 8711	破片	外面 - 網代痕 内面 - ハケメ	-	-	-	-	1.5	細砂を多く含む	7.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	良	-	大型品か	132
163	703	土師器	甕	SG6	-	8809	体部～底部	外面 - ナデ・指押え 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	(15.9)	-	(5.0)	(11.2)	0.7	粗砂・赤色粒を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/3 浅黄橙	良	-	外面炭化物多量に付着 内面磨滅	134
163	704	土師器	甕	SG6	中層	8810	体部～底部	外面 - ハケメ・ヘラケズリ 内面 - ハケメ・ヘラナデ 底部 - 網代痕	-	(11.3)	(2.4)	(7.5)	0.5	赤色粒を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	-	133
163	705	土師器	甕	SG6	上層	8807	体部～底部	外面 - ハケメ 内面 - ヘラナデ 底部 - 網代痕	-	(11.1)	(3.0)	(7.2)	0.7	細砂を含む	10YR6/8 明黄褐	2.5Y7/3 浅黄 10YR6/8 明黄褐	良	-	-	-
163	706	土師器	甕	SG6	-	-	体部～底部	外面 - ケズリ 内面 - ヘラナデ・ナデ 底部 - ナデ	-	(18.2)	(6.7)	(8.8)	0.7	細砂を多く含む	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y7/2 灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	良	-	-	134
163	707	土師器	甕	SG6	火山灰下	8712	体部～底部	外面 - ハケメ・ナデ 内面 - ヘラナデ 底部 - 網代痕・ナデ	-	(12.2)	(3.6)	(6.5)	0.5	細砂を多く含む	10YR8/2 灰白	10YR5/3 にぶい黄褐	良	-	外面にスス付着	-
163	708	土師器	甕	SG6	-	8715	底部	外面 - ヘラナデ 内面 - ヘラナデ 底部 - 網代痕・ナデ	-	(11.2)	(2.4)	(7.0)	0.7	赤色粒を多く含む	10YR5/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	133
163	709	土師器	甕	SG6	-	8806	底部	内面 - ケズリ 底部 - 網代痕	-	-	(1.0)	(14.6)	0.6	微砂を多く含む	2.5YR6/6 橙	5YR7/4 にぶい橙 2.5Y4/1 黄灰	良	-	外面にスス付着	133
163	710	土師器	甕	SG6	中層	8806	底部	外面 - ケズリ 内面 - ナデ 底部 - 網代痕	-	(18.0)	(2.5)	(13.1)	0.9	微砂を多く含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/2 灰黄	良	-	-	133

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
163	711	土師器	甕	SG6	火山灰下	8712	体部～底部	外面 - ケズリ 内面 - ヘラナデ 底部 - 網代痕	-	(10.6)	(3.0)	(5.8)	0.6	微砂を多く含む	7.5YR6/6 橙	10YR4/2 灰黄褐	良	-	-	-
163	712	土師器	甕	SG6	火山灰下	8710	底部	外面 - ケズリ 内面 - ナデ？ 底部 - 網代痕	-	(8.4)	(1.0)	(6.4)	0.8	微砂を含む	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白 5Y5/1 灰	良	-	外面にスス付着	-
163	713	土師器	甕	SG6	下層	8613	底部	底部 - 網代痕	-	(8.6)	(0.8)	(7.4)	0.6	微砂を含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	良	-	内面剥がれる	-
163	714	土師器	甕	SG6	-	8714	底部	内面 - ヘラナデ 底部 - ムシロ痕	-	-	(0.7)	-	0.4	細砂・赤色粒を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	-	132
163	715	土師器	甕	SG6	下層	8711	底部	内面 - ナデ 底部 - 網代痕	-	(9.0)	(0.7)	(7.4)	0.6	微砂・海綿骨針を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/1 灰白	良	-	-	132
163	716	土師器	甕	SG6	-	8804	底部	外面 - ハケメ・ナデ 内面 - ハケメ・ナデ 底部 - 網代痕	-	(8.7)	(1.8)	(7.0)	1.1	細砂を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良	-	-	-
163	717	土師器	甕	SG6	最下層砂	8615	底部	底部 - 網代痕	-	(7.8)	(1.0)	(6.3)	0.7	微砂多く含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄	良	-	全体磨滅	132
163	718	土師器	甕	SG6	中層	8614	底部	底部 - 網代痕	-	(8.8)	(1.1)	(7.7)	0.5	微砂多く含む	2.5Y7/3 浅黄	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	134
163	719	土師器	甕	SG6	下層	8613	底部	底部 - 網代痕	-	-	(1.2)	-	0.9	細砂多く含む	2.5Y7/3 浅黄	5YR6/4 にぶい橙	良	-	-	-
163	720	土師器	甕	SG6	中層	8613	底部	底部 - 網代痕	-	-	(1.1)	-	0.9	微砂・雲母を含む	10YR8/2 灰白	10YR3/2 黒褐	良	-	外面に炭化物付着	134
163	721	土師器	甕？	SG6	-	8908	底部	内面 - タタキ？ 底部 - 網代痕	-	-	(0.7)	-	0.6	黒色粒を含む	10YR6/2 灰黄褐 2.5Y8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	-
163	722	土師器	甕	SG6	上層	8809	底部	底部 - 網代痕	-	-	(1.0)	-	0.8	細砂を多く、雲母・赤色粒を含む	2.5Y7/2 灰黄 10YR4/3 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	133
163	723	土師器	甕	SG6	下層	8613	底部	外面 - ヘラケズリ 底部 - 網代痕	-	-	(0.9)	-	0.7	微砂・赤色粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	134
163	724	土師器	甕	SG6	火山灰	8810	底部	底部 - 網代痕	-	-	(0.9)	-	0.7	微砂を含む	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y8/2 灰白	良	-	-	-
163	725	土師器	甕	SG6	最下層	8611	底部	底部 - 網代痕	-	-	(0.7)	-	0.6	細砂をわずかに含む	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	良	-	外面に炭化物付着	134
163	726	土師器	甕	SG6	-	8714	体部～底部	外面 - ハケメ 内面 - ヘラナデ 底部 - 網代痕	-	(11.0)	(2.5)	(6.4)	0.5	微砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰 5YR7/4 にぶい橙	良	-	内面に炭化物多量に付着	134
163	727	土師器	甕？	SG6	-	8514 8614	底部	外面 - ナデ 内面 - ナデ 底部 - 網代痕	-	(8.2)	(1.6)	(5.8)	0.8	微砂を多く含む	2.5Y5/1 黄灰	5Y4/1 灰	良	-	-	134
163	728	土師器	甕	SG6	-	8714	底部	外面 - ケズリ 内面 - ナデ 底部 - 網代痕	-	(9.6)	(1.4)	(7.0)	0.9	微砂・赤色粒を多く含む	2.5Y3/1 黒褐	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	内面に炭化物多量に付着	134
164	729	黒色土器	高台坏	SG6	-	8809	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - ヘラケズリ	(14.1)	-	6.1	7.0	0.4	粗砂・赤色粒をわずかに含む	5Y2/1 黒	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	穿孔 1 ヶ所	135
164	730	黒色土器	高台坏	SG6	中層粘土	8613	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ミガキ 底部 - 回転糸切	13.2	-	5.1	6.7	0.3	微砂を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/2 灰黄	良	RP418	体部墨書「□」	135
164	731	黒色土器	高台坏	SG6	最下層	8712	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	(17.4)	-	7.6	7.8	0.4	微砂を多く、粗砂をわずかに含む	5Y2/1 黒 10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐 10YR1.7/1 黒	良	RP282	一部黒色処理なし	135
164	732	黒色土器	高台坏	SG6	-	8713	口縁～底部 1/5	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ	(16.7)	-	7.3	(7.8)	0.5	微砂を多く含む	5Y2/1 黒	7.5Y2/1 黒 10YR6/2 灰黄褐	良	-	外面炭化物付着	135
164	733	黒色土器	高台坏	SG6	火山灰下	8810	口縁～底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 菊花状	16.6	-	7.2	7.8	0.5	細砂を多く含む	N1.5/0 黒	2.5Y5/2 暗灰黄 2.5Y8/1 灰白	良	-	-	135

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
164	734	黒色土器	高台坏	SG6	下層	8713	完形	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	13.9	-	6.3	6.1	0.7	微砂を含む	2.5Y2/1 黒	10YR5/3 にぶい黄橙	良	RP223	体部墨書「□」	135
164	735	黒色土器	高台坏	SG6	下層	8709	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 菊花状	(16.0)	-	7.4	(7.7)	0.5	微砂を多く、 海綿骨針を含む	N1.5/0 黒 7.5Y3/2 オリーブ黒	10YR6/4 にぶい黄橙 2.5Y6/3 にぶい黄	良	RP40	-	135
164	736	黒色土器	高台坏	SG6	-	8805	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ・ヘラナデ 底部 - 回転糸切・ナデ	14.4	-	6.6	6.0	0.7	微砂・海綿骨 針を含む	10YR2/1 黒	2.5Y7/3 浅黄	良	RP142	体部墨痕	135
164	737	黒色土器	高台坏	SG6	-	8712	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	(17.0)	-	7.3	7.8	5.5	細砂を多く、 赤色粒を含む	N1.5/0 黒	10YR6/2 灰黄褐	良	RP221	外面炭化物付着	136
164	738	黒色土器	高台坏	SG6	最下層	8710	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	12.6	-	5.4	5.5	0.5	細砂を多く含む	2.5Y2/1 黒	10YR5/2 灰黄褐	良	RP521	体部墨書「□」、 底部墨痕	136
164	739	黒色土器	高台坏	SG6	火山灰下	8712	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	15.3	-	5.8	6.5	0.4	細砂・赤色粒・ 雲母を多く含む	7.5Y2/1 黒	10YR8/2 灰白 7.5YR8/6 浅黄橙	良	-	内面火はね	136
165	740	黒色土器	高台坏	SG6	-	8709	口縁～ 底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切・ナデ	(14.6)	-	5.4～ 5.8	7.2	0.5	微砂・赤色粒 を多く含む	2.5Y4/1 黄灰 2.5Y2/1 黒	10YR7/3 にぶい橙	良	-	外面スス付着	136
165	741	黒色土器	高台坏	SG6	-	8701	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	13.9	-	5.5	6.4	0.3	微砂を多く含む	10Y2/1 黒 N 6/0 灰	2.5 Y 8/3 淡黄 N 8/0 灰白	良	RP23	内面磨滅	136
165	742	黒色土器	高台坏	SG6	-	8709	口縁～ 底部 1/2	外面 - ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	14.8	-	6.3	7.0	0.4	細砂を多く含む	N1.5/0 黒	7.5YR7/2 明褐灰 10YR7/2 にぶい黄橙 N1.5/0 黒	良	RP18	外面口縁付近黒色処理	136
165	743	黒色土器	高台坏	SG6	下層	8702	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	15.5	-	6.5	5.7	0.5	粗砂を多く、 微砂・海綿骨 針を含む	2.5Y2/1 黒	2.5Y6/4 にぶい黄	良	RP30	体部墨書「定」	136
165	744	黒色土器	高台坏	SG6	-	8805	完形	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	12.4	-	5.1	6.0	0.8	微砂を含む	N1.5/0 黒	2.5Y5/1 黄灰 2.5Y8/1 灰白	良	RP140	-	136
165	745	黒色土器	高台坏	SG6	-	8710	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	(13.7)	-	6.2	5.7	0.4	粗砂・赤色粒 をわずかに含む	N1.5/0 黒	10YR7/3 にぶい黄橙 2.5Y7/2 灰黄	良	-	体部墨書「定」 体部籾型痕	137
165	746	黒色土器	高台坏	SG6	中層砂	8713	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	12.8	-	(4.9)	-	0.4	赤色粒をわず かに含む	N 2/0 黒	2.5Y7/3 浅黄	良	RP421	体部墨書「定」	137
165	747	黒色土器	高台坏	SG6	-	8711	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	14.2	-	5.6	5.9	0.5	細砂・赤色粒 を含む	7.5Y2/1 黒 5Y6/2 灰オリーブ	5Y6/2 灰オリーブ 10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP195	体部墨書「定」	137
165	748	黒色土器	坏	SG6	下層	8614	口縁部	外面 - ロクロ・ミガキ 内面 - ミガキ	(12.3)	-	(3.5)	-	0.3	微砂を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y6/1 黄灰	良	-	体部墨書「□」	-
165	749	黒色土器	高台坏	SG6	-	8807	口縁～ 体部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラミガキ	(14.2)	-	(5.0)	-	0.6	微砂を多く含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y4/1 黄灰	良	-	-	-
165	750	黒色土器	高台坏	SG6	-	8709	口縁～ 体部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ	(12.0)	-	(4.5)	-	0.7	細砂を少量含む	10YR2/1 黒	2.5Y7/2 灰黄	良	RP65	-	137
165	751	黒色土器	高台坏	SG6	中層砂	8710	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	-	(12.6)	(3.6)	8.0	0.3	微砂・赤色粒 をわずかに含む	7.5YR1.7/1 黒 10YR6/1 褐灰	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙	良	RP501	-	138
165	752	黒色土器	高台坏	SG6	-	8713	体部～ 底部	外面 - ロクロ・ケズリ・ナデ 内面 - ミガキ 底部 - 回転ヘラ切	-	(10.2)	(3.2)	7.1	0.5	微砂を多く含む	2.5Y2/1 黒	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	138

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
165	753	黒色土器	高台坏	SG6	-	8709	完形	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	10.6	-	3.9	5.8	0.4	微砂を多く含む	2.5Y5/1 黄灰 2.5YR7/4 淡赤橙	2.5Y5/3 黄褐 7.5YR8/4 浅黄橙	良	RP19	外面に漆付着全体磨滅 内黒失敗	138
166	754	黒色土器	高台坏	SG6	下層	8813 8809	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	-	(9.6)	(2.6)	7.2	0.4	微砂を多く含む	5Y2/1 黒	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	-
166	755	黒色土器	高台坏	SG6	火山灰下	8713	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(12.0)	(4.3)	(6.7)	0.6	微砂を多く、赤色粒・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	10YR8/2 灰白 7.5YR7/4 にぶい橙	良	-	-	-
166	756	黒色土器	高台坏	SG6	-	8804	体部～底部	外面 - ロクロ・ナデ？ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	-	(9.6)	(2.7)	6.4	0.4	粗砂・赤色粒をわずかに含む	N1.5/0 黒	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR4/2 灰黄褐	良	-	底部に油煙付着、灯明皿	138
166	757	黒色土器	高台坏	SG6	-	8613 8710	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切・ヘラケズリ	-	(10.5)	(2.8)	6.8	0.3	粗砂をわずかに含む	N1.5/0 黒	2.5Y6/2 灰黄	良	-	外面に炭化物付着	138
166	758	黒色土器	高台坏	SG6	-	8711	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	-	(10.4)	(3.3)	6.4	0.9	赤色粒をわずかに含む	10YR2/1 黒	10YR7/3 にぶい黄橙	良	RP189	体部墨書「□」	138
166	759	黒色土器	高台坏	SG6	下層砂	8806	底部	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切・ナデ	-	(8.6)	(2.2)	7.2	0.6	微砂を含む	5B2/1 青黒	5Y7/1 灰白 10YR6/6 明黄褐	良	RP336	-	138
166	760	黒色土器	高台坏	SG6	砂層	8613	体部～底部	外面 - ナデ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(9.0)	(2.4)	7.1	0.5	微砂・海綿骨針を含む	N2/0 黒	2.5Y6/3 にぶい黄 10YR3/2 黒褐	良	-	外面に炭化物付着	139
166	761	黒色土器	高台坏	SG6	-	8810	底部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(8.0)	(1.7)	6.3	0.5	微砂・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/3 浅黄 2.5Y4/3 オリーブ褐	良	-	底部墨痕	139
166	762	黒色土器	高台坏	SG6	-	8713	底部	底部 - ヘラケズリ	-	(8.2)	(1.9)	6.9	0.5	細砂をわずかに含む	N3/0 暗灰	10YR8/2 灰白	良	-	底部刻書	-
166	763	黒色土器	高台坏	SG6	下層	8613	体部～底部	外面 - ナデ？ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 菊花状	-	(7.8)	(2.0)	6.8	0.4	微砂を含む	5Y2/1 黒	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y8/1 灰白	良	-	外面に炭化物付着	139
166	764	黒色土器	高台坏	SG6	下層	8613	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(11.3)	(3.5)	5.8	0.4	微砂を含む	N1.5/0 黒	5Y4/1 灰 5Y8/1 灰白	良	-	-	139
166	765	黒色土器	高台坏	SG6	-	8703	体部～底部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラミガキ	-	(14.2)	(4.9)	(6.4)	0.5	細砂をわずかに含む	N3/0 暗灰	2.5Y8/1 灰白 2.5Y7/1 灰白	良	-	-	139
166	766	黒色土器	高台坏	SG6	-	8805	体部～底部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	-	(11.3)	(2.7)	7.0	0.5	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	2.5Y3/1 黒褐 2.5Y2/1 黒	10YR7/6 明黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	良	RP81	削り出し高台か 外面磨滅	140
166	767	黒色土器	高台坏	SG6	-	8710	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 不明	-	(10.8)	(3.1)	(5.6)	0.4	赤色粒をわずかに含む	N3/0 暗灰	2.5Y7/3 浅黄	良	-	-	140
166	768	黒色土器	高台坏	SG6	下層	8613	体部～底部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	-	(12.2)	(3.3)	(6.7)	0.5	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	7.5YR7/6 橙 10YR8/2 灰白	良	-	-	140
166	769	黒色土器	高台坏	SG6	-	8613 8807	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(9.8)	(2.1)	(6.6)	0.4	微砂・赤色粒を含む	N1.5/0 黒	2.5Y6/2 灰黄	良	-	造り出し風高台	141
166	770	黒色土器	高台坏	SG6	-	8804 8807	体部～底部	外面 - ナデ 内面 - ヘラミガキ（タテ） 底部 - 回転糸切	-	(8.8)	(2.0)	(5.8)	0.4	微砂を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/2 灰黄	良	-	-	141
166	771	黒色土器	高台坏	SG6	中層砂	8807	体部～底部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラケズリ 底部 - 回転糸切	-	(8.0)	(2.0)	(6.2)	0.4	微砂を多く含む	2.5Y2/1 黒	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	141

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
167	772	黒色土器	高台坏	SG6	最下層	8710	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(11.7)	(4.9)	(5.2)	0.5	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	2.5Y6/2 灰黄	良	RP520	削り出し高台	140
167	773	黒色土器	高台坏	SG6	最下層砂	8715	体部～底部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - ヘラ切？	-	(11.8)	(4.5)	(5.1)	0.5	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	2.5Y6/3 にぶい黄 N1.5/0 黒	良	-	-	140
167	774	黒色土器	高台坏	SG6	最下層	8711	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切・ナデ	-	(12.1)	(4.8)	6.6	0.5	粗砂・赤色粒を多く含む	N1.5/0 黒	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/1 褐灰	良	RP286	内面に半円刺突上の痕跡	140
167	775	黒色土器	坏	SG6	-	8711	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	(13.2)	-	5.5	5.7	0.5	微砂・海綿骨針を含む	2.5Y2/1 黒	2.5Y6/2 灰黄 2.5Y5/2 暗灰黄	良	RP192	外面一部黒色処理	140
167	776	黒色土器	坏	SG6	-	8613	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	14.4	-	5.5	5.4	0.4	微砂を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/3 浅黄	良	RP419	全体に被熱し火はね	140
167	777	黒色土器	坏	SG6	-	8814	ほぼ完形	外面 - ロクロ・ミガキ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	14.5	-	5.7	7.0	0.4	粗砂を含む	5Y2/1 黒	2.5Y8/1 灰白 2.5Y5/2 暗灰黄	良	RP468	外面一部黒色処理	140
167	778	黒色土器	坏	SG6	-	8805	口縁～底部 1/3	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	(13.3)	-	4.7	5.6	0.4	粗砂・赤色粒・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	7.5YR7/6 橙 10YR7/2 にぶい黄橙 N 1.5/0 黒	良	RP92	内外面被熱	140
167	779	黒色土器	坏	SG6	下層	8712	完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	13.2	-	4.7	5.9	0.4	微砂・赤色粒を含む	N1.5/0 黒	10YR6/4 にぶい黄橙	良	RP218	-	140
167	780	黒色土器	坏	SG6	最下層	8805	口縁～底部 1/3	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	(13.2)	-	5.1	5.6	0.4	微砂・海綿骨針を含む	5Y2/1 黒	2.5Y7/3 浅黄 5Y2/1 黒	良	-	-	140
167	781	黒色土器	坏	SG6	-	8806	体部～底部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切	-	(10.8)	(2.4)	(6.0)	0.5	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/2 灰黄 N3/0 暗灰	良	-	-	-
167	782	黒色土器	坏	SG6	-	-	体部～底部	外面 - ヘラミガキ 内面 - ミガキ 底部 - ヘラミガキ	-	(10.0)	(3.1)	5.8	0.6	粗砂・細砂を多く含む	N1.5/0 黒 5YR6/8 橙	5YR6/6 橙 10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	141
167	783	黒色土器	坏	SG6	-	8809	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ミガキ	-	-	(4.5)	-	0.4	微砂を含む	N2/0 黒	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」 内外面磨滅	-
167	784	黒色土器	坏	SG6	火山灰下	8712	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ミガキ	-	-	(2.4)	-	0.4	微砂を含む	N1.5/0 黒	2.5Y6/2 灰黄	良	-	体部墨書「□」	-
167	785	黒色土器	坏	SG6	砂層	8613	体部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ	-	-	(3.0)	-	0.4	微砂・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/3 浅黄	良	-	体部墨書「□」	-
167	786	黒色土器	坏	SG6	火山灰下	8711	体部	-	-	-	(2.4)	-	0.6	微砂を多く含む	N4/0 灰	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部墨書「□」	-
167	787	黒色土器	坏	SG6	最下層	8615	体部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ	-	-	(1.8)	-	0.4	微砂を含む	N1.5/0 黒	5Y8/1 灰白	良	-	体部墨書「□」	-
168	788	黒色土器	高台坏	SG6	-	8710 8612	口縁～底部 1/3	外面 - ヘラケズリ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 網代痕	14.0	-	(6.3)	-	0.5	微砂・赤色粒・海綿骨針を含む	N3/0 暗灰	10YR7/2 にぶい黄褐	良	-	外面口縁一部黒色	143
168	789	黒色土器	高台坏	SG6	-	8806	口縁～底部 1/3	外面 - ヘラケズリ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 網代痕	(12.1)	-	(5.2)	(6.0)	0.6	細砂・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/3 浅黄	良	-	外面口縁一部黒色	143
168	790	黒色土器	坏	SG6	下層	8613 8908	口縁～体部	外面 - ヘラケズリ・ナデ 内面 - ヘラミガキ	(13.9)	-	(4.3)	-	0.4	細砂・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y7/4 浅黄	良	-	外面口縁一部黒色	-
168	791	黒色土器	高台坏	SG6	-	8806	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 網代痕	-	(7.9)	(2.4)	(7.2)	0.5	微砂を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/2 灰黄	良	-	-	142

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
168	792	黒色土器	高台坏	SG6	-	8804	体部～底部	外面 - ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 網代痕	-	(7.4)	(2.4)	(7.1)	0.4	粗砂をわずかに含む	5Y2/1 黒 2.5Y5/6 黄褐	10YR8/3 浅黄橙 10YR7/6 明黄褐	良	-	-	142
168	793	黒色土器	高台坏	SG6	中層	8614	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 網代痕	-	(7.0)	(2.4)	5.8	0.5	微砂を多く含む	N3/0 暗灰	2.5Y8/1 灰白	良	-	-	142
168	794	黒色土器	高台坏	SG6	-	-	体部～底部	外面 - ケズリ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 網代痕	(9.9)	-	(3.9)	(6.8)	0.5	微砂を多く含む	10YR1.7/1 黒	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	体部墨痕 内面に 0.5cm の細かい線刻多数	143
168	795	黒色土器	高台坏	SG6	最下層砂	8710	底部	内面 - ミガキ 底部 - 網代痕	-	(7.0)	(1.4)	(7.0)	0.5	細砂を多く含む	N4/0 灰	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y5/1 黄灰	良	-	-	142
168	796	黒色土器	高台坏	SG6	中層砂	8613	体部～底部	外面 - ナデ 内面 - ミガキ 底部 - 網代痕	-	(6.0)	(1.8)	(6.2)	0.5	微砂・海綿骨針を含む	N5/0 灰	2.5Y7/2 灰黄	良	-	-	142
168	797	黒色土器	坏	SG6	最下層	8611	底部	内面 - ミガキ 底部 - 網代痕	-	-	(0.7)	-	0.6	微砂を含む	2.5Y2/1 黒	10YR6/2 灰黄褐	良	-	-	142
168	798	黒色土器	坏	SG6	中層	8805	底部	底部 - 網代痕	-	-	(0.9)	-	0.8	微砂多く含む	N1.5/0 黒	10YR8/3 浅黄橙	良	-	-	-
168	799	土師器	高台坏	SG6	中層砂	8801	口縁～底部 1/2	外面 - ミガキ・ヘラケズリ・ナデ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 網代痕	(13.8)	-	6.1	6.7	0.5	微砂を多く、雲母・海綿骨針を含む	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR5/6 にぶい黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	良	-	-	143
168	800	土師器	高台坏	SG6	-	8612	完形	外面 - ヘラケズリ・ミガキ・ナデ 内面 - ヨコナデ 底部 - 網代痕？	13.8	-	5.9	7.3	0.5	白色砂粒・細砂を少量含む	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR4/4 褐	10YR8/2 灰白 10YR5/3 にぶい黄褐	良	RP132	外面被熱でフレーク状に剥離	143
168	801	土師器	高台坏	SG6	下層	8613	体部～底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ナデ 底部 - 網代痕	-	(8.6)	(2.9)	8.3	0.4	細砂を多く含む	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	良	-	底部墨痕、転用硯か	143
168	802	土師器	坏	SG6	下層	8613	底部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 底部 - 回転ヘラ切	-	(8.6)	(1.8)	(4.8)	0.5	微砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR1.7/1 黒	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	内外面炭化物付着底部焼台痕	-
168	803	土師器	坏	SG6	中～下層	8806	体部～底部	外面 - ナデ 内面 - ヘラナデ 底部 - 網代痕	-	(10.5)	(3.0)	(5.8)	0.8	微砂・赤色粒を含む	10YR6/6 明黄褐	5YR5/6 明赤褐	良	-	-	-
168	804	土師器	坏	SG6	最下層	8710	底部	外面 - ナデ 内面 - ヘラナデ 底部 - 網代痕	-	(9.6)	(1.1)	(7.1)	0.6	微砂を多く含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/2 灰黄	良	-	-	-
168	805	土師器	坏	SG6	-	8612	底部	外面 - ケズリ？ 内面 - ナデ 底部 - 網代痕	-	(7.7)	(1.2)	(5.6)	0.7	微砂を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	良	-	-	-
168	806	土師器	坏	SG6	中層砂	8715	底部	外面 - ナデ 内面 - ナデ 底部 - 網代痕	-	(8.2)	(1.2)	(6.8)	0.7	微砂を多く含む	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	良	-	-	134
168	807	土師器	坏	SG6	-	-	底部	外面 - ナデ 内面 - ヘラナデ 底部 - 網代痕	-	(8.2)	(1.4)	(6.0)	0.7	微砂を多く含む	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	良	-	-	134
168	808	土師器	坏	SG6	下層	8807	底部	底部 - 網代痕	-	-	(0.8)	(6.0)	0.5	微砂を含む	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	良	-	-	134
168	809	土師器	坏	SG6	中層砂	8613	底部	外面 - ハケメ 内面 - ハケメ 底部 - 網代痕	-	-	(0.9)	(5.0～6.0)	0.7	白色粒・赤色粒を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	-	134
168	810	土師器	坏	SG6	-	8807	底部	外面 - ケズリ 内面 - ナデ 底部 - 網代痕	-	(8.0)	(1.0)	(6.0)	0.7	微砂・赤色粒を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙 2.5YR5/4 にぶい赤褐	良	-	底部赤彩	134
169	811	両黒土器	高台坏	SG6	最下層砂	8715	口縁～底部 1/3	外面 - ヘラミガキ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切・菊花状	(18.8)	-	(6.4)	-	0.5	微砂を多く含む	N1.5/0 黒	N1.5/0 黒	良	-	-	144

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
169	812	両黒土器	坏	SG6	下層	8613	口縁～体部	外面 - ミガキ 内面 - ミガキ	(18.4)	-	(5.2)	-	0.5	微砂を含む	10Y2/1 黒	10Y2/1 黒	良	-	-	144
169	813	両黒土器	高台皿	SG6	下層	8613	体部～底部	外面 - ミガキ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(17.2)	(3.7)	7.3	0.5	微砂を含む	N3/0 暗灰	N3/0 暗灰	良	-	-	144
169	814	両黒土器	高台坏	SG6	火山灰下	8810	体部～底部	外面 - ミガキ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(12.0)	(2.7)	(8.6)	0.4	微砂・海綿骨針を含む	N3/0 暗灰	N4/0 灰	良	-	-	144
169	815	両黒土器	高台坏	SG6	-	8806	体部～底部	外面 - ミガキ 内面 - ミガキ 底部 - 網代痕	-	(8.0)	(2.3)	6.4	0.5	粗砂をわずかに含む	2.5YR3/1 黒褐	2.5YR4/1 黄灰	良	-	-	145
169	816	両黒土器	高台坏	SG6	-	8809	底部	外面 - ヘラミガキ 内面 - ヘラミガキ 底部 - 回転糸切・ナデ	-	(7.5)	(1.7)	(6.6)	0.6	微砂・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	5Y3/1 オリーブ黒	良	-	-	145
169	817	両黒土器	高台坏	SG6	最下層	8710	底部	外面 - ミガキ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(7.1)	(1.8)	6.2	0.3	微砂を多く含む	N2/0 黒	N4/0 灰	良	-	-	145
169	818	両黒土器	高台坏	SG6	火山灰	8810	底部	外面 - ヘラミガキ 内面 - ミガキ 底部 - ヘラケズリ・ミガキ	-	(7.5)	(1.9)	5.8	0.5	微砂を含む	N1.5/0 黒	N3/0 暗灰	良	-	全体磨滅	146
169	819	両黒土器	坏	SG6	-	8803	体部～底部	外面 - ミガキ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切	-	(8.8)	(2.3)	5.9	0.2	微砂を含む	N1.5/0 黒	N1.5/0 黒	良	-	底部刻書「中」	146
169	820	両黒土器	耳皿	SG6	-	8613	口縁～底部 4/3	外面 - ヘラミガキ 内面 - ヘラミガキ・ロクロ 底部 - 回転糸切	11.6	-	3.7	4.7	0.4	微砂を含む	N1.5/0 黒	N1.5/0 黒	良	RP172	-	146
169	821	土師器	小型壺	SG6	-	8713	ほぼ完形	外面 - ヘラミガキ 内面 - ヘラナデ・ナデ	8.2	9.0	6.9	-	0.5	微砂・粗砂を含む	2.5Y3/1 黒褐	10YR6/2 灰黄褐 2.5YR6/4 にぶい橙	良	RP200	-	146
170	822	土師器	坏	SG6	-	8701	ほぼ完形	外面 - ヘラケズリ・ナデ 内面 - ナデ・ヘラミガキ 底部 - 網代痕	13.2	-	5.4	6.0	0.5	微砂・海綿骨針を含む	10YR7/2 にぶい黄橙 N1.5/0 黒	10YR7/2 にぶい黄橙	良	RP475	内外面炭化物付着	147
170	823	土師器	坏	SG6	中層	8614 8715	ほぼ完形	外面 - ヘラケズリ・ナデ 内面 - ケズリ・ナデ 底部 - ムシロ痕	13.9	-	5.2	5.4	0.6	細砂を多く含む	5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙 5YR7/6 橙	良	-	内外面炭化物付着	147
170	824	土師器	坏	SG6	-	8804	完形	外面 - ヘケズリ 内面 - ナデ 底部 - 網代痕	12.7	-	5.0	5.2	0.4	細砂を含む	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/2 灰白	良	RP139	外面炭化物付着	148
170	825	土師器	坏	SG6	-	8701	完形	外面 - ヘラケズリ 内面 - ミガキ・ナデ 底部 - 網代痕	13.7	-	5.4	4.5	0.6	微砂を多く含む	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/8 明黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR5/8 黄褐	良	RP428	-	148
171	826	黒色土器	甕	SG6	中層砂	8613	口縁～体部	外面 - ロクロ・ヘラケズリ 内面 - ヘラミガキ	(24.0)	-	(11.2)	-	0.7	微砂・海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	2.5Y7/3 浅黄 2.5Y2/1 黒	良	-	外面炭化物付着	148
171	827	黒色土器	甕	SG6	下層	8714	口縁～体部	外面 - ロクロ・指ナデ 内面 - ミガキ	(21.1)	-	(7.3)	-	0.6	微砂を多く含む	N1.5/0 黒	N1.5/0 黒 10YR8/1 灰白	良	-	-	148
171	828	黒色土器	甕	SG6	-	8613	口縁～体部	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ヘラミガキ	(21.0)	-	(8.1)	-	6.0	微砂を多く含む	N2/0 黒	2.5Y7/2 灰黄 N2/0 黒	良	-	-	148
171	829	黒色土器	甕	SG6	中層砂	8715	口縁部	外面 - ヨコナデ・ケズリ 内面 - ヘラミガキ	(27.0)	-	(4.2)	-	0.3	細砂多く、海綿骨針を含む	N2/0 黒	2.5Y6/2 灰黄 10YR7/2 にぶい黄橙	良	-	-	147
171	830	黒色土器	甕	SG6	最下層 下層	8611 8714	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ	(21.0)	-	(2.2)	-	0.5	微砂・海綿骨針を含む	N3/0 暗灰	N3/0 暗灰 10YR7/4 にぶい黄橙	良	-	-	147
171	831	両黒土器	甕	SG6	下層	8613	体部	外面 - ケズリ 内面 - ハケメ・ミガキ	-	(24.7)	(7.7)	-	0.7	微砂を含む	N3/0 暗灰	N2/0 黒 5Y3/1 オリーブ黒	良	-	-	149
171	832	内黒土器	甕	SG6	下層	8615	体部～底部	外面 - ヘラケズリ 内面 - ヘラミガキ 底部 - ヘラケズリ	-	(21.3)	(5.9)	(12.7)	0.5	細砂を多く、海綿骨針を含む	N1.5/0 黒	2.5Y5/2 暗灰黄 2.5Y2/1 黒	良	-	外面炭化物多量に付着	149

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
172	833	灰釉陶器	壷	SG6	下層	8613	口縁部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(10.4)		(4.9)	-	0.6	精緻	N7/0 灰白 N6/0 灰	N7/0 灰白 N6/0 灰	良	-	-	150
172	834	灰釉陶器	壷	SG6	-	8700	体部	外面 - 釉 内面 - ロクロ	-	-	(4.9)	-	0.8	精緻	2.5Y7/1 灰白	5Y6/3 オリーブ黄	良	-	-	150
172	835	灰釉陶器	壷	SG6	-	8500	体部	外面 - 釉 内面 - ロクロ	-	-	(3.8)	-	0.8	精緻	2.5Y7/1 灰白	5Y6/2 灰オリーブ	良	-	-	150
172	836	灰釉陶器	壷	SG6	-	8500	体部	外面 - 釉 内面 - ロクロ	-	-	(7.4)	-	0.9	精緻	2.5Y7/1 灰白	5Y6/2 灰オリーブ 2.5Y7/1 灰白	良	-	外面付着物	150
172	837	灰釉陶器	壷	SG6	-	8500	頸部	外面 - 釉 内面 - ロクロ	-	-	(1.5)	-	0.4	精緻	2.5Y7/1 灰白 5Y6/2 灰オリーブ	5Y6/2 灰オリーブ	良	-	-	150
172	838	灰釉陶器	壷	SG6	-	8614	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(15.3)	(5.7)	8.0	0.7	精緻	N7/0 灰白	7.5Y5/1 灰 5Y5/6 オリーブ	良	RP354	長頸壷 美濃焼	149
172	839	土製品	紡錘車	SG6	-	8711	-	-	4.2	-	4.2	-	1.6	細砂を多く含む	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	-	RQ288	-	150
172	840	石製品	砥石	SG6	-	8614	-	-	4.6	-	4.6	-	2.4	-	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	-	RQ303	-	150
172	841	石製品	装飾品	SG6	-	8712	完形	-	2.4	-	2.8	-	0.4	-	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	-	RQ241	-	150
172	842	金属製品	小刀？	SG6	-	8614	-	-	8.8	-	1.0	-	0.2	-	-	-	-	RM398	-	-
172	843	骨	-	SG6	-	8714	-	-	7.8	-	1.4	-	0.3	-	-	-	-	-	-	-
172	844	骨	-	SG6	-	8708	-	-	6.9	-	2.0	-	0.4	-	-	-	-	RN265	-	-
172	845	骨	-	SG6	-	8713	-	-	1.9	-	1.1	-	0.6	-	-	-	-	-	-	-
172	846	骨	-	SG6	-	8809	-	-	3.4	-	1.5	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-
173	847	石製品	石皿	SG6	最下層	8709	-	-	26.1	-	31.9	-	10.8	-	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y6/2 灰黄 2.5YR1.7/1 赤黒 10YR6/6 明黄褐	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y6/2 灰黄 2.5YR1.7/1 赤黒 10YR6/6 明黄褐	-	-	炭化物付着	150
173	848	石製品	石皿	SG6	最下層	8709 8809	-	-	28.9	-	26.2	-	10.1	-	2.5Y4/1 黄灰 N3/0 暗灰	2.5Y4/1 黄灰 N3/0 暗灰	-	-	-	150
173	849	石製品	不明	SG6	-	8808	-	-	14.3	-	9.5	-	5.9	-	10YR7/4 にぶい黄橙 10R6/6 赤橙	10YR7/4 にぶい黄橙 10R6/6 赤橙	-	-	被熱・砂岩	-
218	1292	須恵器	坏	-	-	9108	口縁～ 底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	(14.1)	-	3.8	(9.2)	0.4	微砂を多く含む	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	良	RP7	-	81
218	1293	須恵器	蓋	-	-	9207	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	14.3	-	3.8	-	0.6	細砂・微砂を多く含む	10Y7/1 灰白	N7/0 灰白 N6/0 灰	良	RP8	-	81
218	1294	須恵器	蓋	-	-	9207	ほぼ完形	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	14.1	-	3.5	-	0.5	細砂・微砂を多く含む	10Y4/1 灰	10Y7/1 灰白 N5/0 灰	良	RP9	-	81
218	1295	須恵器	蓋	-	-	9407	1/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(14.4)	-	(2.6)	-	0.6	細砂を多く含む	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	良	-	-	81
218	1296	須恵器	坏	-	検出面	9007	底部	内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	-	(1.6)	(8.6)	0.5	微砂を含む	2.5Y7/1 灰白 2.5Y7/6 明黄褐	2.5Y7/1 灰白	良	-	-	82
218	1297	須恵器	甕	-	-	8203	体部	外面 - タタキ 内面 - アテ	-	-	(5.0)	-	0.5	微砂を含む	N7/0 灰白	N6/0 灰	良	-	-	-
218	1298	須恵器	坏	-	-	7702	口縁～ 底部 1/5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	(13.2)	-	4.2	(7.4)	0.4	細砂を多く含む	N7/0 灰白	2.5Y6/1 黄灰	良	-	底部墨痕	82
218	1299	須恵器	坏	-	-	8710	口縁～ 底部 2/3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	14.3	-	4.2	7.1	0.4	微砂を多く含む	7.5Y6/1 灰 N5/0 灰	7.5Y5/1 灰	良	RP510	-	82
218	1300	金属製品	煙管	-	-	8305	吸口	-	5.3	-	0.8	-	0.8	-	-	-	-	RM89	-	-
218	1301	須恵器	坏	-	-	7702	底部	内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	-	(0.8)	(7.8)	0.5	微砂を含む	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	良	-	底部墨書「□」	-

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
218	1302	須恵器	坏	-	-	7998	底部	底部 - 回転ヘラ切	-	-	-	-	0.6	微砂を含む	10YR8/1 灰白	10YR8/2 灰白	良	-	底部墨書「□」、内面墨痕	-
218	1303	須恵器	高台坏	-	-	8008	口縁～底部 1/2	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	(13.5)	-	4.8	(8.2)	0.4	細砂・白色粒を多く含む	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	良	-	-	82
218	1304	須恵器	坏	-	-	8107	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	-	(2.2)	7.5	0.4	微砂を多く含む	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	良	-	-	82
218	1305	須恵器	高台坏	-	-	8011	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・ナデ	-	-	(1.8)	(6.7)	0.5	黒色粒を含む	N6/0 灰	N6/0 灰	良	-	-	82
218	1306	須恵器	坏	-	-	8007	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	-	(1.3)	9.2	(0.6)	細砂を多く含む	N8/0 灰白	N6/0 灰	不良	-	-	82
218	1307	須恵器	高台坏	-	-	8207	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(11.2)	(2.3)	-	0.4	細砂を多く含む	10YR6/6 明黄褐 2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白 10YR7/6 明黄褐	良	-	-	82
218	1308	須恵器	高台坏	-	-	8200	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(11.4)	(2.2)	8.9	1.0	細砂を多く含む	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	良	-	-	82
219	1309	須恵器	双耳坏	-	表土	8410	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	-	(4.0)	-	0.3	精緻	N6/0 灰	N6/0 灰	良	-	-	82
219	1310	須恵器	甕	-	-	8506	口縁部	外面 - 波状文 内面 - ロクロ	-	-	(8.1)	-	(1.3)	微砂を含む	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y7/2 灰黄	良	RP11	-	-
219	1311	須恵器	壺？	-	-	9312	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(11.3)	(2.5)	(7.4)	0.4	微砂を含む	N7/0 灰白	N7/0 灰白	良	-	-	82
219	1312	須恵器	坏	-	-	9312	口縁～底部 1/5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	(11.8)	-	4.5	6.4	0.4	粗砂を含む	7.5Y6/1 灰	N7/0 灰白	良	-	-	82
219	1313	石製品	砥石	-	-	9413	-	-	(5.2)	-	(2.6)	-	1.2	-	-	-	-	-	-	83
219	1314	須恵器	壷	-	-	9312	体部	外面 - カキメ・タタキ 内面 - ロクロ・カキメ	-	(21.2)	(17.9)	-	0.6	細砂・海綿骨針を含む	N7/0 灰白	N6/0 灰	良	-	-	83
219	1315	土師器	羽釜	-	-	9413	口縁部	-	(8.4)	(11.0)	(3.1)	-	(0.4)	微砂を含む	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/2 灰白 10YR5/2 灰黄褐	良	-	小型品	83
219	1316	須恵器	高台坏	-	-	9816	底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(11.1)	(2.2)	8.4	0.7	微砂を多く含む	5YR6/4 にぶい橙	2.5Y7/2 灰黄 7.5YR7/3 にぶい橙	良	-	全体磨滅	83
219	1318	土師器	双耳坏	-	-	9413	取手	-	(4.5)	-	(2.9)	-	0.9	微砂を多く含む	5Y8/2 灰白	10YR4/6 褐	良	-	外面スス付着	83
219	1319	金属製品	古銭	X - O	-	-	-	-	2.5	-	-	-	0.1	-	-	-	-	-	永楽通宝	84
219	1320	石器	石鏃	-	-	8814	-	-	3.7	-	1.2	-	0.4	-	-	-	-	-	頁岩	84
219	1321	陶磁器	碗	X - O	-	-	底部	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	(9.5)	(2.0)	4.4	0.4	微砂を含む	5Y6/3 オリーブ黄	2.5Y5/2 暗灰黄	良	-	焼台痕	83
219	1322	石製品	石皿？	X - O	-	-	ほぼ完形	-	19.2	-	21.0	-	0.6	-	-	-	-	-	-	-
220	1323	須恵器	蓋	-	-	0407	体部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	-	(13.4)	(2.9)	-	0.8	微砂・細砂を多く含む	2.5Y7/1 灰白	2.5Y6/1 黄灰	良	RP635	-	83
220	1324	須恵器	蓋	-	-	2014	2/5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(15.4)	-	(3.5)	-	0.8	微砂を含む	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	良	-	-	83
220	1325	須恵器	坏	-	-	1613	体部～底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	-	-	(3.4)	(7.4)	0.5	細砂を含む	N6/0 灰	7.5Y6/1 灰	良	-	転用硯か	84

図	No.	種類	器種	遺構	層	グリッド	部位	調整	法量（cm）					胎土	色調		焼成	遺物番号	備考	写真
									口径	最大径	高さ	底径	厚さ		内	外				
220	1326	須恵器	坏	X - O	-	-	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	-	(3.0)	6.7	0.6	微砂・海綿骨針を含む	10YR7/1 灰白 10YR7/6 明黄褐	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y6/1 黄灰	良	-	-	83
220	1327	須恵器	高台坏	X - O	-	-	体部～ 底部	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	-	(11.6)	(2.3)	(7.6)	0.6	微砂を多く含む	10Y6/1 灰	10Y5/1 灰 N7/0 灰白	良	-	-	84
220	1328	石器	剥片	-	-	1810	-	-	4.6	-	2.9	-	1.0	-	-	-	-	-	頁岩	84
220	1329	石器	剥片	-	-	1215	-	-	6.3	-	3.6	-	0.9	-	-	-	-	-	頁岩	84
220	1330	石器	剥片	-	-	1810	-	-	2.5	-	1.4	-	0.3	-	-	-	-	-	頁岩	84
220	1331	石器	剥片	-	-	1215	-	-	5.2	-	3.8	-	0.5	-	-	-	-	-	頁岩	84
220	1332	石製品	磨製石斧	-	-	0207	-	-	10.9	-	5.0	-	2.5	-	7.5Y 灰白 8/1 7.5Y 灰白 7/1	7.5Y 灰白 8/1 7.5Y 灰白 7/1	-	RQ655	-	-
220	1333	石器	石鏃	X - O	-	-	-	-	3.7	-	1.5	-	0.3	-	-	-	-	-	頁岩	84
220	1334	金属製品	古銭	X - O	-	-	-	-	2.0	-	-	-	0.1	-	-	-	-	-	寛永通宝	84
220	1335	金属製品	古銭	X - O	-	-	-	-	2.2	-	-	-	0.1	-	-	-	-	-	寛永通宝	84
220	1336	金属製品	古銭	X - O	-	-	-	-	2.2	-	-	-	0.1	-	-	-	-	-	寛永通宝	84
220	1337	金属製品	古銭	-	-	0902	-	-	2.2	-	-	-	0.1	-	-	-	-	-	寛永通宝	84

表 25　木製品観察表　　※長・幅・厚の単位はセンチメートル

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
106	15	柱根	EB71	-	-	(22.5)	7.3	4.8	-	芯去り材	RW813	-	-
106	16	柱根	EB73	-	-	(13.2)	(9.7)	(7.5)	-	-	RW814-1	下部は平坦な切断面	-
106	17	柱根	EB73	-	-	(12.9)	(7.3)	(4.0)	-	-	RW814-2	下部は平坦な切断面	-
106	18	柱根	EB74	-	-	(24.7)	(11.4)	(6.4)	クリ	-	RW759	径 15cm 程度か	-
106	19	柱根	EB76	-	-	22.1	5.2	2.6	-	板目	RW810	-	-
106	20	柱根	EB77	-	-	(16.3)	(8.6)	(4.8)	-	-	RW812-1	下部は平坦な切断面	-
106	21	柱根	EB77	-	-	(18.2)	(16.0)	(5.6)	-	-	RW812-2	下部は平坦な切断面	-
106	22	柱根	EB79	-	-	(23.6)	(10.4)	(7.0)	-	-	RW811-1	下部は平坦な切断面	-
106	23	柱根	EB79	-	-	(10.1)	(9.7)	(4.8)	-	-	RW811-2	下部は平坦な切断面	-
107	24	柱根	SP93	-	-	(21.9)	9.6	9.1	コナラ節	芯持ち材	RW761	-	-
107	25	柱根	SP106	-	-	(40.8)	17.3	15.3	クリ	芯持ち材	RW762	-	-
107	26	柱根	SP107	-	-	(58.7)	(19.3)	(14.7)	クリ	芯持ち材	RW760	-	64
108	41	付け木	SK4	-	-	12.1	1.8	1.0	マツ属（五葉松類）	板目	RW742	上部炭化	64
115	102	箱状木製品	SK111	1008	-	41.6	27.3	24.4	マツ属複維管束亜属	-	RW600	一面に方形の穴を空ける、下部を斜めに切り落とす	190
122	195	漆器椀	SD69	7707	上面	口径 (10.4)	器高 (8.2)	(2.0)	ブナ属	横木取り	RW1	内面赤色漆（炭粉漆下地にベンガラ赤色漆）、外面黒色漆（炭粉漆下地に透明漆）	78
122	196	漆器椀	SD69	-	-	口径 (8.9)	器高 (3.4)	(3.5)	ブナ属	横木取り	RW2	内面赤色漆（炭粉漆下地に黒色漆、その上に水銀朱赤色漆）、外面黒色漆（炭粉漆下地の上に土の下地、黒色漆）	78
124	233	曲物底板	SD130	1913	-	9.6	(9.4)	0.3	-	-	RW668	半分に折れる、柄杓か？	-
124	234	下駄	SD130	1012	-	14.2	(4.3)	2.3	-	-	RW669	穿孔 1 ヶ所（半損）	-
126	245	曲物底板	SG50	7710	-	19.2	(9.1)	0.6	スギ	柾目	RW500	-	-
126	246	板材	SG50	8410	-	11.1	3.8	1.4	クリ	柾目	RW94	右側に円形に抉った痕がある、下部は斜めに落とされる	-
126	247	板状	SG50	8110	-	(19.4)	3.0	1.3	スギ	板目	RW751	表面曲線状、裏面平坦、上端円頭状、下端欠損	-
126	248	太棒	SG50	8410	-	(47.1)	3.8	3.3	サワグルミ	芯持ち材	RW95	下部に向い細くなる、上部中が空洞	-
126	249	自然遺物	SG50	8410	-	27.1	6.8	4.3	-	芯去り材	RW99	-	-
126	250	自然遺物	SG50	8410	-	13.3	4.1	1.7	-	-	RW98	-	-
174	850	漆器	SG6	8711	-	(2.2)	(5.7)	0.3	-	-	RW111	被せ蓋式の方形の小型の漆箱の側板、身か蓋かは不明。また、外面端部には覆輪が見られる、覆輪と逆側には山折りの稜線が見られる、面取りの可能性もある、素地は布（2 枚以上）、内面（炭粉漆下地、透明漆 3 層）、外面（炭粉漆下地、透明漆 2 ～ 3 層）	151
174	851	漆板	SG6	8806	-	(9.6)	(10.0)	0.5	-	-	RW316	隅丸方形の板状の漆器、素地は布（2 枚以上）、表面（炭粉漆下地 4 ～ 5 層）多数の刃物傷が残る、裏面（紙、炭粉下地 2 層、透明漆層）	151
174	852	漆器	SG6	8711	-	(4.8)	(9.1)	0.3	ケヤキ	-	RW255	盤か？木胎、内面（下地：下；砥の粉漆、上；炭粉漆、透明漆層 2 層※劣化のため黒色化）、外面（下地：下；砥の粉漆、上；砥の粉、漆層 2 層※劣化のため黒色化） 器壁は極めて薄い、一部に底部から体部への立ち上がりが残る	151
174	853	槽	SG6	8807	-	(5.6)	(13.0)	1.5	ケヤキ	-	RW291	挽物で直径約 30 ～ 40cm、外面下部に炭化物付着、口縁部に段をつける	152
174	854	木器	SG6	8806	-	口径 (12.4)	器高 4.9	0.7	ケヤキ	-	RW300	挽物の椀（坏か？）、変形している、内側錘状、底径：7.5cm	153
174	855	木器	SG6	8805	-	口径 (16.9)	器高 3.1	0.7	ケヤキ	横木取り	RW27	挽物の盤、穿孔 3 ヶ所、歪む、見込みを丁寧につくる、須恵器坏の模倣か？ 底径：11.4cm	154
174	856	木器	SG6	8712	-	口径 (15.4)	器高 5.0	1.0	ケヤキ	横木取り	RW240	挽物の有台椀、穿孔の痕跡 2 ヶ所、底径：7.8cm	153
174	857	木器	SG6	8708	中層砂	口径 (13.5)	器高 (2.0)	0.9	ケヤキ	-	RW523	底径：8.2cm	154
175	858	曲物蓋	SG6	8614	-	14.8	14.8	(2.6)	スギ	柾目	RW330	4 ヶ所桜皮で閉じる、蓋面上部に二次転用の際の刃物痕が残る、内面に付着物	157

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
175	859	曲物蓋	SG6	8804	中層	13.1	12.3	1.0	アスナロ	柾目	RW58	周縁部に 5 ヶ所、中心に 4 ヶ所穿孔（つまみの跡か？）、左右周縁部を薄く削る、落とし蓋か？一部炭化する	157
175	860	曲物底板	SG6	8711	-	(13.6)	(5.2)	0.6	アスナロ	柾目	RW101	桜皮が 2 ヶ所残る	159
175	861	曲物底板	SG6	8804	-	14.7	(7.4)	0.8	スギ	柾目	RW73	桜皮が 3 ヶ所残る、左側変形している	159
175	862	曲物底板	SG6	8711	-	14.7	5.4	0.6	スギ	柾目	RW160	留め具の桜皮が残る、二次使用か？両面に刃物キズ	158
175	863	曲物底板	SG6	8805	-	(2.8)	(11.2)	0.6	アスナロ属	柾目	RW339	桜皮が 1 ヶ所残る、裏面に刃物痕	158
176	864	曲物底板	SG6	8807	中層	(13.8)	(9.0)	1.0	スギ	柾目	RW56	側面に木釘 2 ヶ所、両面共まだらに炭化する	158
176	865	曲物底板	SG6	8711	-	13.8	(7.9)	0.8	スギ	柾目	RW102	側面に木釘 2 ヶ所、中央部炭化する	158
176	866	曲物底板	SG6	8809	-	(12.8)	(5.1)	0.6	スギ	柾目	RW551	側面に木釘穴 1 ヶ所、両面に付着物？	159
176	867	曲物底板	SG6	-	-	(13.4)	(6.6)	0.7	スギ	柾目	RW545	側面に木釘穴 2 ヶ所、表面に刃物痕	-
176	868	曲物底板	SG6	8807	-	(32.2)	(11.1)	1.4	マツ属単維管束亜属	板目	RW270	側面に木釘穴 3 ヶ所、穿孔 1 ヶ所	158
176	869	曲物底板	SG6	8803	-	(14.5)	(2.5)	0.8	スギ	柾目	RW377	側面に木釘穴 1 ヶ所、中央に穿孔 1 ヶ所、両面炭化	158
177	870	曲物底板	SG6	8806	-	11.7	11.7	0.4	アスナロ	柾目	RW311	表面中央に付着物、小型品	159
177	871	曲物底板	SG6	8803	-	11.4	3.5	0.5	アスナロ属	柾目	RW370	表面に刃物痕	158
177	872	曲物側板	SG6	8711	-	3.1	(20.8)	0.8	スギ	板目	RW108	桜皮 1 ヶ所残る、穿孔 2 ヶ所、裏面一部炭化	161
177	873	曲物側板	SG6	8807	中層砂利	3.8	(15.4)	0.5	スギ	柾目	RW764	穿孔 4 ヶ所、一部炭化する、大型品か？	160
177	874	曲物側板	SG6	8806	中層砂利	7.2	25.3	0.3	アスナロ	柾目	RW765	桜皮 1 ヶ所残る、裏面にケビキ、付着物か？	160
177	875	曲物側板	SG6	8711	下層	2.5	(5.8)	0.4	スギ	柾目	RW262	等間隔に穿孔 3 ヶ所、下方に紐留めの細い孔 1 ヶ所、裏面にケビキ・炭化	-
177	876	曲物側板	SG6	8714	-	3.3	(9.4)	0.5	スギ	柾目	RW550	木釘 1 ヶ所、左端炭化	186
177	877	曲物側板	SG6	8805	-	3.0	(25.0)	0.4	-	柾目	RW702	上部に穿孔 1 ヶ所、下方に紐留めの細い穿孔 1 ヶ所、裏面にケビキ	-
178	878	曲物側板	SG6	8614	-	5.0	(15.2)	0.4	スギ	柾目	RW204	裏面にケビキ・炭化物付着、穿孔 1 ヶ所	160
178	879	曲物側板	SG6	8803	-	2.5	(7.3)	0.4	-	柾目	RW583	紐留め具痕 3 ヶ所、裏面一部にケビキ	-
178	880	曲物側板	SG6	8700	-	3.0	(8.7)	0.3	-	柾目	RW594	両面に漆付着、裏面にケビキ	-
178	881	曲物側板	SG6	8614	-	2.1	(14.4)	0.5	スギ	柾目	RW206	裏面にケビキ、左端に穿孔 1 ヶ所	160
178	882	曲物側板	SG6	8612	-	3.2	(9.5)	0.3	スギ	柾目	RW169	裏面にケビキ・付着物・斜めに刃物痕？	160
178	883	曲物側板	SG6	8715	-	6.6	9.4	0.4	スギ	柾目	RW548	裏面にケビキ、裏面炭化する、二次転用か？	182
178	884	曲物側板	SG6	8711	-	1.8	(12.4)	0.3	スギ	板目	RW183	穿孔 1 ヶ所、左端部 L 字状に加工か？	159
178	885	曲物側板	SG6	8805	-	2.9	(8.3)	0.4	-	板目	RW703	裏面にケビキ	-
178	886	曲物側板	SG6	8612	-	1.8	(2.7)	0.3	-	柾目	RW577	裏面にケビキ	-
178	887	曲物側板	SG6	8712	-	1.7	(14.7)	0.3	スギ	柾目	RW227	穿孔 2 ヶ所	160
178	888	曲物側板	SG6	8712	-	3.4	(11.9)	0.6	スギ	柾目	RW167	表面やや剥がれる	-
178	889	曲物側板	SG6	8714	-	(3.9)	(15.7)	0.2	スギ	柾目	RW247-1	-	160
178	890	曲物側板	SG6	8611・12	-	3.0	(10.3)	0.5	スギ	柾目	RW554-1	右側欠損	180
178	891	曲物側板	SG6	8714	-	(2.9)	(2.8)	0.2	スギ	柾目	RW247-2	-	-
179	892	曲物側板	SG6	8712	-	2.9	(11.4)	0.4	スギ	板目	RW187	両端欠損	180
179	893	曲物側板	SG6	8711	-	3.0	(15.5)	0.4	アスナロ属	板目	RW498	表面に刃物痕	180
179	894	曲物側板	SG6	8711	-	2.5	(12.6)	0.2	カラマツ	板目	RW499	裏面剝れる	180
179	895	曲物側板	SG6	8611・12	-	2.3	(11.5)	0.4	スギ	板目	RW554-2	-	160
179	896	曲物側板	SG6	8806	-	2.8	(16.1)	0.2	アスナロ属	柾目	RW561	非常に薄い、両端欠損	180
179	897	曲物側板	SG6	8611・12	-	(2.0)	(10.0)	0.6	-	板目	RW554-3	穿孔 1 ヶ所	-
179	898	曲物側板	SG6	8711	下層	1.8	(28.8)	0.4	スギ	板目	RW724	-	-
179	899	曲物側板	SG6	8612	-	9.4	(35.1)	0.7	スギ	板目	RW129	大型品、上方に穿孔 3 ヶ所、下方に細い穿孔 1 ヶ所、裏面一部にケビキ	161

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
180	900	曲物側板	SG6	8611	-	3.3	(32.0)	0.7	スギ	柾目	RW109	大型品、樹皮の留め具１ヶ所、大型品	161
180	901	曲物側板	SG6	8803	-	(2.9)	(20.8)	0.3	本体：アスナロ属 木釘：スギ	柾目	RW373-1	大型品、穿孔３ヶ所、その内２ヶ所に木釘が残る、右側炭化、内面にケビキ	160
180	902	桜皮	SG6	8701	-	7.1	2.5	1.5	ヤマザクラ or カバ皮	-	RW425-1	皮幅 4.5 ～ 8.0mm	162
180	903	桜皮	SG6	8701	-	4.7	2.5	1.1	ヤマザクラ or カバ皮	-	RW425-2	皮幅：8.0 ～ 10.0mm	162
180	904	桜皮	SG6	8701	-	5.3	2.6	1.0	ヤマザクラ or カバ皮	-	RW425-3	皮幅：3.0 ～ 10.0mm	162
180	905	鞘	SG6	8805	-	(23.4)	4.0	0.5	スギ	柾目	RW24	小刀の鞘か？表面やや曲線状、裏面平坦に削られる、右側面に３ヶ所抉り？がある	161
180	906	枠木	SG6	8806	-	46.9	5.1	1.9	クリ	柾目	RW315	曲物を担ぐ際の枠木	161
181	907	指物	SG6	8806	-	4.9	(9.6)	0.8	スギ	柾目	RW319	左下部に留め具残る	-
181	908	指物	SG6	8611	-	(3.4)	(7.4)	1.1	アスナロ属	二方柾	RW532	箱の一部、左上に釘穴１ヶ所、釘穴は内向きに傾く、裏面に刃物痕	162
181	909	栓	SG6	8805	-	3.1	2.3	1.9	クヌギ節	芯去り材	RW72-4	三角錐形に全面を面取り、上下面は平坦に切断	162
181	910	箱材	SG6	8711	-	4.7	15.7	0.6	スギ	板目	RW544	上方に段を付ける、箱の側板か？	-
181	911	木べら	SG6	8801	-	(21.5)	7.2	1.0	スギ	板目	RW10	柄は短く、身は幅広で周縁を薄くする→杓子形木製品か？	156
181	912	木べら	SG6	8806	-	24.4	7.4	1.8	スギ	板目	RW277	表面を平坦に、裏面をやや曲線状につくる、身の先端を直線状につくる	156
181	913	匙	SG6	8804	-	21.1	4.3	0.9	スギ	板目	RW68	身の先端半円状、中央部をやや窪ませる、柄部は表面を平坦、裏面を曲線状につくる	156
182	914	鍬先	SG6	8802	上層	32.3	17.5	4.5	アサダ	柾目	RW31	中央上寄りに方形の柄穴をあける、裏面を平坦、表面を弧状につくる 下半に鍬先をつけた跡か、段が残る	165
182	915	柄	SG6	8714	-	5.0	70.7	3.5	コナラ節	芯持ち材	RW324	農具の曲柄か、持ち手部分が曲がる	166
183	916	鍬先	SG6	8615	-	(34.2)	(10.8)	4.5	コナラ属クヌギ節	板目	RW210	身の下半周縁に歯をつける、方形の柄孔をもつ、通常と木取りが逆	165
183	917	鋤	SG6	8803	-	24.9	8.3	3.2	コナラ属クヌギ節	板目	RW69	又鋤の未成品	166
184	918	木錘	SG6	8805	-	5.3	15.4	3.0	コナラ属クヌギ節	半割材	RW130	削り出しで成形、半面欠損	167
184	919	木錘	SG6	8612	-	4.5	13.1	4.4	コナラ属コナラ節	芯持ち材	RW166	中央部の抉りは細かく削るが、両端は大きな削りなし	167
184	920	木錘	SG6	8711	-	5.2	14.8	4.2	コナラ属コナラ節	芯持ち材	RW182	中央の抉りがやや緩やかである	167
184	921	木錘	SG6	8710	-	5.8	19.4	4.6	カエデ属	芯持ち材	RW497	中央部一部破損、抉りが緩やか	167
184	922	木錘	SG6	8806	-	5.8	19.0	4.9	コナラ節	芯持ち材	RW338	穿孔１ヶ所、穿孔の痕跡２ヶ所、裏面は平坦に加工	167
184	923	木錘	SG6	8807	-	5.1	(19.1)	3.8	コナラ節	芯去り材	RW322	右端欠損	167
184	924	木錘	SG6	8806	-	5.0	15.5	(2.9)	コナラ節	芯持ち材	RW700	裏面欠損、中央抉り部分の欠損が著しい	167
184	925	木錘	SG6	8712	-	5.1	20.0	3.8	アサダ	芯持ち材	RW194	裏面に穿孔の痕跡１ヶ所、抉りがほとんどない、裏面平坦、未成品か？	167
185	926	木槌	SG6	8806	-	34.7	6.9	6.3	コナラ属コナラ節	芯持ち材	RW225	身の中央部に鼓打痕、遺存状態悪い	166
185	927	木槌	SG6	8701	-	37.2	6.8	6.8	クヌギ節	芯持ち材	RW451	上下端とも三角状に加工	166
185	928	木槌	SG6	8801	-	(17.8)	6.4	4.3	コナラ節	板柾	RW537	中央部に打撃痕、下端切り落としているか	167
185	929	浮子	SG6	8711	下層	14.3	1.0	1.2	スギ	板柾	RW261	両端に抉りを持つ、丁寧なつくり	159
185	930	農具か？	SG6	8807	-	5.0	77.3	2.5	スギ	板目	RW271	両端に加工痕	163
186	931	枠	SG6	8612	-	3.3	(37.3)	1.1	スギ	柾目	RW127	大型の機織り機、糸調節のための釘穴４ヶ所、円形のホゾ穴？１ヶ所、一部炭化する	164
186	932	糸巻軸受	SG6	8805	-	(12.1)	2.7	2.4	スギ	板柾	RW131	上部削り細く作る、側面に付着物、一側面に横方向の刻みが入る	162
186	933	荷札	SG6	8705	-	14.2	3.3	0.3	スギ	板目	RW351	上下に穿孔、両面上部に墨書のシミか？	159
186	934	火きり板？	SG6	8700	-	28.6	2.0	1.2	スギ	板目	RW595	V 字状の切れ込みと円形の穴がある	189
186	935	建築部材	SG6	8710	-	(21.3)	3.5	1.3	スギ	板目	RW503	桟材の欠損品	-
186	936	建築部材	SG6	8803	-	(25.2)	3.0	1.1	スギ	板目	RW157-3	壁の桟の端材か？チョウナ痕あり、裏面に平行の切り込みが入る	189
187	937	下駄	SG6	8701	-	17.9	8.9	7.0	クリ	板目	RW411	穿孔３ヶ所、鼻緒の穴がほぼ真ん中にある、隅丸長方形型、歯を台形につくる	155
187	938	下駄？	SG6	8614	-	13.9	7.0	2.3	ハンノキ属	板目か	RW399	表面平坦、一部炭化	155
187	939	下駄	SG6	8806	-	(19.7)	7.9	2.1	オニグルミ	板目	RW365	下駄としての穿孔３ヶ所、不明な穿孔１ヶ所、左側縁に二次使用の際の穿孔痕と思われるもの５ヶ所、右足用	155

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
187	940	横櫛	SG6	8711	-	(2.3)	(5.3)	1.1	イスノキ	-	RW222	長方形状の横櫛、3cm 辺り約 30 枚の歯を挽きだす、左右欠損	156
187	941	横櫛	SG6	8614	-	(2.6)	(6.5)	0.9	カバノキ属	-	RW333	方形の横櫛、毛引きが明瞭でない、3cm 辺り約 27 本の歯を挽きだす	156
187	942	横櫛	SG6	8612	最下層	4.2	(6.3)	1.1	イスノキ	-	RW280	方形で肩部丸みを持つ、親歯はやや外向き、3cm 辺り約 35 枚歯を挽きだす、右側欠損	156
188	943	建築部材	SG6	8802	-	6.5	47.3	1.8	スギ	板目	RW752	板状、ホゾ穴 3 ヶ所	190
188	944	建築部材	SG6	8615	中～下層	6.8	(56.3)	4.3	コナラ節	柾目	RW756	-	163
188	945	建築部材？	SG6	8614	-	6.2	46.0	2.7	クヌギ節	芯去り材	RW205	左端は平坦、右端は斜めに切り落とし尖頭状に加工、	164
189	946	床材	SG6	8711	-	(9.6)	(16.0)	6.5	スギ	板目	RW112	高床式倉庫の床材片、転用したか？厚さをそろえるため、くさびを打ち、チョウナと槍鉋で面を作る、表面に刃物痕残る	168
189	947	床材	SG6	8713	-	13.5	(16.0)	4.5	スギ	板目	RW531	裏面に刃物傷、何かに転用か？	168
190	948	割材	SG6	-	-	36.9	5.2	2.4	クヌギ節	板目	RW546	下方尖頭状で炭化している、上端は平らに切られる、杭か？	164
190	949	杭	SG6	8803	-	(30.3)	4.1	4.0	コナラ節	芯持ち材	RW158	先端部 2 回の削り加工か？	168
190	950	杭	SG6	8612	-	18.4	2.1	2.1	コナラ属コナラ節	芯持ち材	RW279	下部を削り尖らせる、上端は平坦に切断か？表皮残る	168
190	951	杭	SG6	8614	-	(30.1)	5.9	5.1	コナラ節	芯持ち材	RW403	下半削り細くする、下端は平坦に切る、上端斜めに加工	168
190	952	杭？	SG6	8806	-	(12.7)	5.5	5.5	コナラ節	芯持ち材	RW337	先端に向い細く削られる、全体を加工する	167
190	953	杭	SG6	8711	-	(15.8)	3.8	3.5	コナラ節	芯持ち材	RW254	下部を断面方形の尖頭状に細くする	168
190	954	杭	SG6	8614	-	21.9	3.2	3.1	コナラ節	芯持ち材	RW402	断面はほぼ円形、先端を削り尖らせる、先端やや潰れる	168
190	955	杭？	SG6	8514	-	(14.3)	4.3	4.2	コナラ節	芯持ち材	RW405	下方を細く削る、表面は六角形に面を削り加工（道具の跡が残る）、先端切られる	168
191	956	建築部材	SG6	8613	上層	6.7	(69.2)	4.1	コナラ節	板目	RW757	角材、杭か？	164
191	957	杭	SG6	8613	-	(24.3)	5.0	5.0	ハンノキ属	芯持ち材	RW424	下端を尖らせる、下端潰れる、表面の刃物痕残る	168
191	958	建築部材	SG6	8613	-	20.2	6.7	2.6	クリ	柾目	RW557	角材の分割材、表面に刃物傷、下部斜めに落とす	168
191	959	割材	SG6	8709	-	14.8	4.7	3.3	-	芯去り材	RW714	下部を尖らせる	
191	960	杭か？	SG6	8614	-	17.6	4.4	4.6	ハンノキ属	芯持ち材	RW207-1	切断痕あり、上下部細かく加工、一部樹皮残る、杭か？	167
191	961	太棒	SG6	8614	-	(24.5)	5.3	4.8	コナラ節	芯持ち材	RW328	断面円形、上下端とも削り加工	167
191	962	杭	SG6	8513	-	(12.2)	4.9	4.2	コナラ節	芯持ち材	RW459	下方を細く多角形に削る、下端を尖らせ、上端は斜めに切り落とす	168
191	963	太棒	SG6	8614	-	8.4	5.8	5.1	クリ	芯持ち材	RW207-2	下部を細くするように、全体を粗く削る、上端は平坦に切断	167
191	964	杭状	SG6	8802	-	11.2	8.5	4.9	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	半割材	RW591-1	上端斜めに削られる、下端尖頭状にする	167
191	965	杭状	SG6	8612	-	(6.1)	7.7	6.2	オニグルミ	芯持ち材	RW737	下部は杭状に加工、貫通する穿孔 1 ヶ所	167
192	966	杭	SG6	8703	-	38.0	7.3	8.0	-	板目	RW159-1	-	-
192	967	杭	SG6	8700	-	(24.8)	6.2	5.0	-	芯持ち材	RW564	下部は先端に向い細く加工、上部欠損	-
192	968	杭	SG6	8711	-	8.5	7.8	3.1	-	柾目	RW562	杭の端材、削った痕跡が両面に残る	-
192	969	杭状	SG6	8600	-	8.6	4.9	2.1	ニレ属	芯去り材	RW799	全体的に丸く加工した跡	169
192	970	杭状	SG6	8613	-	7.3	4.1	3.2	トウヒ属	芯持ち材	RW798	-	169
192	971	杭か？	SG6	8702	下層	(16.5)	5.1	3.3	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	芯去り材	RW750	下部三角状に加工、一部炭化	-
192	972	杭か？	SG6	8709	-	20.8	5.3	3.5	-	不明	RW731	下端を細く尖らせる、全体的に炭化	-
192	973	杭か？	SG6	8701	-	26.0	4.8	5.0	トウヒ属	芯持ち材	RW426	下部に向い細く加工	169
192	974	杭	SG6	8703	-	(15.2)	4.6	3.6	-	板目	RW159-2	下部を細くする、下端欠損	-
193	975	角材	SG6	8804	-	9.1	6.6	5.0	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	芯持ち材	RW153	端材、上部を平坦、下部を杭状に斜めに切り落とす 表面にノミで削った工具痕・付着物	167
193	976	角材	SG6	8803	-	14.8	3.7	4.3	クリ	柾目	RW372	下端は斜めに落とされ断面圭頭状になる、上部も削られる、表面に刃物痕・付着物	167
193	977	角材	SG6	8803	-	(10.3)	5.4	3.5	クリ	板目	RW380-1	断面三角状、上端平滑、下端は斜めに落とされる	-
193	978	角材	SG6	8615	-	19.8	6.4	5.0	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	板目	RW209	上部は斜めに落す、下部は平ら	168

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
193	979	角材	SG6	8612	-	(11.8)	2.1	1.4	スギ	柾目	RW125	上端部斜めに加工、下端欠損	185
193	980	角材	SG6	8708	-	(14.9)	1.9	1.2	スギ	板目	RW519-3	断面方形の角材、両端欠損	-
193	981	角材	SG6	8803	-	(5.1)	2.9	1.5	コナラ属コナラ亜属コナラ節	板目	RW380-2	上部欠損	-
193	982	板材	SG6	8712	-	13.1	2.8	1.6	クリ	板目	RW721	先端を尖らせる	185
193	983	角材	SG6	8611	-	(17.7)	1.8	1.2	スギ	板柾	RW533	上部丸く加工、下端欠損、下方に側面から刻みを入れる	185
193	984	角材	SG6	8612	-	(19.9)	1.8	1.7	スギ	板柾	RW278	断面上半方形、下半半円形	-
193	985	角材	SG6	8715	-	(13.1)	1.8	1.1	アスナロ属	柾目	RW549-1	上部三角状、下端欠損、表面に刃物痕	185
193	986	角材	SG6	8711	-	10.3	2.2	1.4	スギ	柾目	RW103	両端部を斜めに加工	185
194	987	板材	SG6	8614	-	39.4	4.8	2.1	クリ	板目	RW305	上端斜め薄く削る、右側に加工痕	162
194	988	板材	SG6	8803	-	(33.6)	3.6	1.1	スギ	柾目	RW381-1	下部欠損、下方に加工痕、表面に刃物痕	163
194	989	板材	SG6	8712	最下層	(29.0)	4.4	1.4	スギ	板目	RW281	両端欠損	162
194	990	板材	SG6	8806	-	(32.5)	3.9	1.2	スギ	板目	RW293	下部欠損	163
194	991	板材	SG6	8613	-	21.8	2.8	1.3	スギ	柾目	RW417	両面共に中心に溝状の加工？	189
194	992	板材	SG6	8807	中層砂利	(20.2)	2.4	1.0	-	板目	RW770	両端欠損	-
194	993	板材	SG6	8711	-	(15.8)	3.3	1.2	スギ	板目	RW722	断面三角形、下部欠損	-
194	994	板材	SG6	8611・12	-	(5.9)	2.5	1.3	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	柾目	RW801	表面ケズリ痕、下部欠損	162
194	995	板材	SG6	8712	-	14.9	2.8	1.1	-	柾目	RW720	-	-
194	996	板材	SG6	8806	-	(18.7)	3.5	1.4	-	板目	RW701	断面三角状、下部欠損	-
195	997	板材	SG6	8708	-	3.9	(37.6)	1.0	スギ	板目	RW519-1	穿孔３ヶ所、木釘１ヶ所	163
195	998	板材	SG6	8807	-	19.8	84.0	3.9	スギ	柾目	RW272	穿孔２ヶ所、未穿孔３ヶ所	163
195	999	板材	SG6	8612	粘土層	15.5	111.5	2.8		柾目	RW763	右端加工か？	-
195	1000	板材	SG6	8708	-	3.7	(25.4)	0.6	スギ	板目	RW519-2	穿孔１ヶ所	163
196	1001	板材	SG6	8715	-	(25.3)	2.3	1.2	アスナロ	板目	RW236	斜め方向の穿孔４ヶ所、部分的に焦げた跡がある、下部欠損、抉られた痕跡か？	163
196	1002	曲物底板	SG6	8614	-	22.6	9.9	1.0	アスナロ	板目	RW203	穿孔３ヶ所、裏面に刃物傷（多数）	161
196	1003	板材	SG6	8710	-	6.4	9.2	0.4	アスナロ属	柾目	RW482	上部凸状に加工、中央に穿孔、表面に刃物傷	159
196	1004	板材	SG6	8803	-	(8.1)	2.4	0.5	スギ	板目	RW157-2	穿孔１ヶ所	186
196	1005	加工材	SG6	8808	-	6.9	5.1	1.7	スギ	板目	RW559	角材、裏面に刃物痕	-
196	1006	板材	SG6	8615	-	(34.0)	3.1	1.4	オニグルミ	柾目	RW249	上部は剣先状に加工し１ヶ所穿孔する	-
196	1007	角材	SG6	8806	-	28.2	2.2	1.3	スギ	板目	RW704	建築部材、下部に木釘２ヶ所、刃物痕残る、裏面上部削る	189
196	1008	板材	SG6	8710	-	(4.0)	(13.8)	0.9	スギ	板目	RW484	上部右側を方形に切り落とす、穿孔１ヶ所	-
196	1009	建築部材	SG6	8804	-	3.9	10.6	2.6	スギ	柾目	RW586	穿孔の痕跡２ヶ所	162
197	1010	加工材	SG6	8806	-	(25.8)	1.9	0.8	スギ	板目	RW705	板状、穿孔跡１ヶ所、両端欠損	189
197	1011	加工材	SG6	8711	-	(10.8)	2.3	1.2	スギ	柾目	RW552	板状、下端を斜めに切り落とす、楔か	185
197	1012	加工材	SG6	8612	-	10.4	1.0	0.7	スギ	柾目	RW732	串状、上部Ｙ字状の切り込み	181
197	1013	加工材	SG6	8711	下層	4.9	2.6	1.1	スギ	板目	RW779	上下端部面取り、裏面に刃物傷	162
197	1014	加工材	SG6	8611	-	(5.3)	3.0	1.7	スギ	柾目	RW553	角材状、下端を斜めに落とす、表面にケズリ痕	185
197	1015	加工材	SG6	8613	-	(2.5)	(9.5)	1.1	オニグルミ	板目	RW436	穿孔１ヶ所（半損）、上部を加工する	162
197	1016	加工材	SG6	8710	-	6.2	3.4	1.1	カエデ属	不明	RW556	板状品、上部と両側面平滑に面取り、右下部抉るように削る	185
197	1017	加工材	SG6	8805	-	6.4	2.1	1.3	-	板目	RW364-1	下部は斜めに落とされる	-
197	1018	加工材	SG6	8805	-	(7.2)	1.8	1.6	スギ	板柾	RW364-2	正方形の角材状、上部先端は突起状の加工、下部は斜めに落とされる	185

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
197	1019	角材	SG6	8805	-	8.0	1.5	1.2	マツ属複維管束亜属	柾目	RW364-3	左側は溝状に加工、上下部とも斜めに落とされる	-
197	1020	加工材	SG6	8803	-	(7.7)	2.2	1.5	ヤナギ属	板目	RW385	下端斜めに切り落とす、上端欠損	-
197	1021	加工材	SG6	8711	-	(22.3)	2.4	1.5	スギ	柾目	RW184	角材片	-
197	1022	板状	SG6	8713	火山灰下	(6.3)	2.7	0.8	-	板目	RW565	側縁薄く削る、下部欠損	-
197	1023	板材	SG6	8803	-	(7.9)	2.6	0.9	-	柾目	RW584	両端欠損	-
197	1024	板材	SG6	8703	-	4.1	3.8	2.0	ケヤキ	板目	RW371	断面半円状、上部平ら、下部は斜めに落とされる	162
197	1025	角材	SG6	8805	-	(4.5)	(2.6)	1.8	ブナ属	柾目	RW72-2	三方向から平滑に面取りされる	162
197	1026	板材	SG6	8711	-	6.5	12.2	0.8	トウヒ属	板目	RW726	-	-
197	1027	棒状	SG6	8701	-	(5.3)	1.8	1.7	-	芯持ち材	RW804	尖頭状	-
198	1028	加工材	SG6	8803	-	40.1	4.1	3.1	クリ	板目	RW394	下部を斜めに切り落とす	164
198	1029	板材	SG6	8803	-	28.5	5.9	2.0	ヤナギ属	芯去り材	RW374-1	下端を斜めに落とす	-
198	1030	板材	SG6	8714	-	25.7	4.2	1.9	クリ	柾目	RW231-2	下方を尖らせる	162
198	1031	加工材	SG6	8805	-	(19.7)	5.5	1.6	ミズキ属	板目	RW72-1	板状、両面共に削られる、未成品	-
198	1032	板材	SG6	8713	-	10.6	2.4	0.8	-	板目	RW448	下方を細く作る	-
198	1033	板状	SG6	8612	-	12.0	1.1	0.7	-	柾目	RW739	上端細い、下端三角状に加工	-
198	1034	板材	SG6	8714	-	15.7	2.7	1.1	クリ	柾目	RW231-1	上端剣先状、下端尖頭状、穿孔２ヶ所、斎串を転用か？	178
198	1035	板材	SG6	8612	-	(9.9)	2.8	0.8	クリ	柾目	RW736	両端欠損、両側面を薄く削る	-
198	1036	板材	SG6	8803	-	5.9	3.4	0.7	ヤナギ属	-	RW381-2	下部は直線状に切られる	-
198	1037	板材	SG6	8803	-	3.5	1.1	0.3	ヤナギ属	-	RW381-3	薄い	-
199	1038	削り出し棒	SG6	8612	-	16.2	2.1	1.8	ハリギリ	芯持ち材	RW563-1	上下端とも丸くする、下部欠損	189
199	1039	棒状	SG6	8805	-	9.1	1.2	1.0	イヌエンジュ	芯持ち材	RW807	断面円形、両端欠損	189
199	1040	棒状	SG6	8802	-	10.9	1.5	1.2	カエデ属	芯持ち材	RW754	両端丸い	189
199	1041	棒状	SG6	8805	-	9.3	1.2	1.1	コナラ属	柾目	RW808	両端磨滅	189
199	1042	棒状	SG6	8614	-	18.0	2.8	2.0	トウヒ属	芯持ち材	RW797	全体的に丸く削られる	169
199	1043	棒状	SG6	8612	-	11.7	1.1	1.0	-	芯持ち材	RW741	縦方向に溝状の線が入る	-
199	1044	棒状	SG6	8802	-	49.3	2.1	2.1	ウコギ属	芯持ち材	RW753	中心部空洞	182
199	1045	杭状	SG6	87・8801	砂層	111.8	13.7	9.8		芯持ち材	RW758	-	-
199	1046	自然遺物	SG6	8805	-	8.1	10.3	5.2	サルノコシカケ科	-	RW25	猿の腰掛	162
199	1047	自然遺物	SG6	8805	-	12.6	6.0	1.2	樹皮	-	RW350	猿の腰掛か？	-
199	1048	自然遺物	SG6	8612	-	4.2	6.2	2.0	カバノキ属	不明	RW800	-	169
200	1049	自然遺物	SG6	8701	-	25.0	6.5	5.9	トウヒ属	芯去り材	RW427	全体的に丸みを帯びる、左下部に加工痕残る	169
200	1050	自然遺物	SG6	8701	-	21.7	5.8	4.3	トウヒ属	不明	RW429	全体的に丸みを帯びる	169
200	1051	自然遺物	SG6	8700	-	17.4	4.0	2.5	マツ科	芯持ち材	RW803	表面にケズリ痕？	169
200	1052	棒状品	SG6	8803	-	11.9	3.2	1.5	モミ属	板目	RW383	上部丸くつくる、左側面に削った痕跡が残る	-
200	1053	板	SG6	8802	-	9.6	4.0	1.5	モミ属	板目	RW755	全体的に丸みを帯びる、表面に溝状の跡	-
200	1054	自然遺物	SG6	8806	-	15.9	4.9	3.1	マツ属複維管束亜属	芯持ち材	RW320	細い幹を加工、一部樹皮が残る	169
200	1055	自然遺物	SG6	8802	-	16.0	7.0	5.1	トウヒ属	芯去り材	RW793	全体に丸みを帯びる	169
200	1056	板材	SG6	8715	-	8.1	3.5	1.2	ヤナギ属	柾目	RW346	穿孔を開けようとした痕跡がある	-
200	1057	自然遺物	SG6	8711	-	7.3	7.1	3.1	コナラ節	板目	RW717	正円上で両面が平坦	169
200	1058	自然遺物	SG6	8802	-	10.8	4.5	3.3	ニレ属	芯持ち材	RW592	全体に丸みを帯びる	169
200	1059	自然遺物	SG6	8806	-	10.9	6.8	4.5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	不明	RW708	-	169

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
201	1060	自然遺物	SG6	8711	-	18.1	9.1	6.7	カツラ	芯去り材	RW795	ケズリ痕が残る、穿孔 1 ヶ所か？	169
201	1061	自然遺物	SG6	-	-	16.1	9.5	6.5	トウヒ属	芯去り材	RW796	全体に丸みを帯びる、建築材が磨滅したか？	169
201	1062	自然遺物	SG6	8802	-	32.5	14.0	8.9	トウヒ属	柾目	RW794	全体に丸みを帯びる、未穿孔の跡、全体に刃物傷や加工痕が残る	169
202	1063	棟木	SG6	8600	-	346.8	11.7	11.6	クリ	芯持ち材	RW460	両端を方形状につくる→ホゾ穴に差し込み、表面ケズリ残る	190
203	1064	動物型木製品	SG6	8804	-	2.8	20.6	0.7	スギ	板目	RW70	両面共剥がれる、鳥形の形代か？	171
203	1065	斎串	SG6	8614	-	26.8	2.1	0.4	スギ	板目	RW220	頭部尖頭状、下部を剣先状。頸部・胴部に切り込み、左右側面に削り欠けがある	170
203	1066	斎串	SG6	8700	-	22.0	2.1	0.6	スギ	板目	RW450-1	上部に「く」字状に切り込み、下端は尖頭状	170
203	1067	斎串	SG6	8711	-	26.1	2.4	0.2	スギ	板目	RW100	上部に「く」字状に切り込み、下端は一度くびれ張り出し凧状の形をつくる	170
203	1068	斎串	SG6	8611	-	26.3	2.3	0.5	スギ	板目	RW115	上部に「く」字状に切り込み、下端は一度くびれ張り出し凧状の形をつくる	170
203	1069	斎串	SG6	8614	-	(16.7)	2.5	0.8	スギ	板目	RW340	上部に左右から切り込みを入れる、下端を剣先状につくる	170
204	1070	扇	SG6	8713	-	24.0	1.3	0.4	スギ	柾目	RW443	本・末共に円頭状、両面平坦、径 0.35cm の要孔 1 ヶ所、左側面に段状のケズリ痕	170・172
204	1071	扇	SG6	8713	-	23.7	1.2	0.4	スギ	柾目	RW445	本・末共に円頭状、両面共平坦、径 0.3cm の要孔 1 ヶ所、左側面に段状ケズリ痕が段状	170・172
204	1072	扇	SG6	8713	-	23.8	1.4	0.3	スギ	柾目	RW444	本を円頭状、末を圭頭状につくる、両面共平坦、径 0.35cm の要孔 1 ヶ所、左側面にケズリ痕が段状にのこる、本を細く、末をやや広くつくる	170・172
204	1073	扇	SG6	8713	-	23.8	1.7	0.5	スギ	板目	RW447	本を円頭状、末をやや圭頭状につくる、径 0.35cm の要孔 1 ヶ所、左側面にケズリ痕が段状にのこる、本を細く、末を広くつくる、両面共荒れている	170・172
204	1074	扇	SG6	8711	-	31.7	2.0	0.3	スギ	板目	RW93-1	全体に丁寧に削る、径 0.35cm の要孔 1 ヶ所、綴穴なし、本を丸く、末に向い直線状	170
204	1075	扇	SG6	8613	-	(14.7)	2.5	0.2	スギ	板目	RW430	上端欠損、本は圭頭状、末に向い広がる、径 0.4cm の要孔 1 ヶ所、綴穴なし	170
204	1076	扇	SG6	8804	-	(11.5)	(1.9)	0.3	スギ	柾目	RW558	本を丸く、末に向い広がるようにつくる、径 0.3cm の要孔 1 ヶ所、上部を斜めに折る	170
204	1077	扇	SG6	8713	-	(17.1)	1.9	0.3	スギ	柾目	RW442	上下端とも欠損、要孔 1 ヶ所、綴穴なし、本から末にほぼ直線状につくる	170
204	1078	扇	SG6	8710	-	(11.9)	1.8	0.2	スギ	柾目	RW485	墨書（仮名文字ヵ）あり、一部炭化	171
205	1079	斎串	SG6	8612	-	29.9	1.3	0.7	スギ	板柾	RW116	断面菱形、先端部と身部まだらに炭化物する	173
205	1080	斎串か？	SG6	8612	-	(42.7)	1.4	1.1	スギ	板目	RW123	全体的にまだらに炭化する、下端を尖らせる、建築部材の端材か？	173
205	1081	斎串か？	SG6	8802	中層	(43.9)	1.0	0.8	スギ	板柾	RW150	断面方形、上端円頭状、下端欠損	173
205	1082	斎串か？	SG6	8707	-	54.8	1.6	0.6	スギ	板目	RW238	大型品、下端に穿孔、断面方形	172
205	1083	斎串か？	SG6	8711	-	35.8	1.1	1.1	スギ	板目	RW251	上下端部に刻み（穿孔跡）あり、両面に多数の刃物痕、木舞か？	172
205	1084	斎串か？	SG6	8714	-	(25.3)	1.1	0.8	スギ	板目	RW230	上端・下端を薄く削る、上端は円頭状、下端欠損	174
205	1085	斎串	SG6	8803	-	(21.5)	1.0	0.6	ヒノキ	板目	RW388	断面方形、両面平坦に加工、両端欠損	184
205	1086	斎串か？	SG6	8700	-	(20.2)	1.1	0.5	スギ	柾目	RW450-2	全面丁寧に面取りされる、両端欠損	175
205	1087	斎串か？	SG6	8614	-	(15.8)	1.2	0.6	スギ	板目	RW304	断面方形の棒状、下端を斜めに切り落とす	181
206	1088	斎串	SG6	8612	-	30.8	2.3	0.6	スギ	板目	RW168	上端部平坦、下端は一側面から斜めに切り落としている、両面共丁寧に削る	174
206	1089	斎串か？	SG6	8702	-	33.8	1.2	0.7	スギ	板目	RW176	断面方形、下端斜めに落とされる、表面剥がれている、上端欠損	174
206	1090	斎串か？	SG6	8802	-	(29.7)	1.0	1.0	スギ	板柾	RW151	断面方形、下端斜めに落とされる、上端欠損	174
206	1091	斎串か？	SG6	8805	下層	35.1	(2.0)	0.8	スギ	板目	RW49	上端部を剣先状につくる、下端も尖頭状か？上端部一部変色→木目・炭化か？	174
206	1092	斎串か？	SG6	8702	-	(21.6)	1.9	0.4	スギ	板目	RW542	下端斜めに落とす、上方に穿孔の痕跡か？	173
206	1093	斎串	SG6	8806	-	(24.4)	1.2	0.4	スギ	板目	RW715	両端欠損、下方やや細くなり先端を斜めに切り落とす	174
206	1094	斎串か？	SG6	8701	-	19.3	1.5	0.5	スギ	板目	RW452-2	断面方形、下端斜めに落とされる、上部は円頭状	173
206	1095	斎串か？	SG6	8710	-	9.0	1.2	0.3	スギ	板目	RW496	板状、下端斜めに落とされる	181
207	1096	柄	SG6	8612	-	34.8	1.9	(1.2)	スギ	板目	RW118	柄杓の柄、下端やや炭化する、裏面欠損	173
207	1097	柄	SG6	8804	-	21.2	1.5	(0.8)	スギ	柾目	RW71	柄杓の柄、下端をとがらせ尖頭状にする、断面は半円状（裏面欠損か？）、下端炭化する	176
207	1098	斎串	SG6	8714	-	23.1	1.1	0.8	スギ	柾目	RW233	上端丸く、下端剣先状に削る、表面にケズリ痕が残る	176
207	1099	斎串	SG6	8709	-	22.4	1.8	1.3	スギ	柾目	RW538	上端を平らに、下に向い細く、下端を円頭状につくる	175

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
207	1100	斎串か？	SG6	8612	-	(28.7)	1.7	0.7	スギ	柾目	RW165	板状、転用材か？	173
207	1101	斎串か？	SG6	8715	-	33.5	1.7	1.1	スギ	柾目	RW345	上部半円状、下部をヘラ状に薄く加工、表面に刃物傷のこる	173
207	1102	斎串か？	SG6	8715	-	30.8	1.2	1.2	スギ	柾目	RW246	上半部・頭頂部炭化	174
207	1103	斎串か？	SG6	8708	-	19.5	1.5	1.4	イチイ	芯持ち材	RW519-5	棒状、両端共に斜めに切り落とす	176
208	1104	斎串	SG6	8710	-	25.0	0.9	0.9	スギ	柾目	RW491	上端を尖頭状、下端を円頭状につくる、断面円形	176
208	1105	斎串	SG6	8711	-	(26.9)	1.1	1.1	スギ	柾目	RW110	断面は上端部は方形、下方は円形に加工される、先端を尖らせる、上部刃物で切断か？体部中央付近一部炭化する	174
208	1106	箸状製品	SG6	8615	-	19.0	1.0	0.5	スギ	板目	RW250	両面を平坦につくり、先端部を尖らせる	184
208	1107	箸状製品	SG6	8710	-	(19.1)	0.7	0.7	スギ	板目	RW504	削り成形、下端折損	176
208	1108	斎串か？	SG6	8710	-	(17.2)	1.0	0.9	スギ	板目	RW473	断面円形、下方を細くつくる	176
208	1109	斎串	SG6	8702	下層	(16.8)	0.8	0.8	スギ	板目	RW743	断面円形の棒状、下端部尖頭状	176
208	1110	箸状製品	SG6	8806	-	(13.4)	0.6	0.5	スギ	柾目	RW706	城部欠損、先端をやや尖らせる	176
208	1111	斎串	SG6	8711	-	(10.0)	0.8	0.5	スギ	板目	RW188	先端尖頭状に丁寧に削り出す、下部折損	184
208	1112	箸状製品	SG6	8806	-	(11.3)	0.8	0.6	スギ	板柾	RW321	円形（六角形？）状で、削り痕が残る、下部は一部炭化、上部欠損	176
208	1113	斎串	SG6	8614	-	(14.2)	1.1	0.8	スギ	-	RW306	上端を丸みを帯びた尖頭状にする	176
208	1114	斎串か？	SG6	8611	-	15.7	1.3	1.0	モミ属	板目	RW258	上端尖頭状、下端円頭状、斎串か？	182
208	1115	斎串？	SG6	8714	-	(22.3)	1.6	1.3	スギ	板目	RW232	断面円形の棒状に丁寧に削り出す、上部一部炭化、下部欠損	177
208	1116	斎串か？	SG6	8804	-	(22.7)	1.3	1.2	スギ	柾目	RW147	断面円形の棒状、裏表面をやや平坦につくる、斜め方向の刃物キズが残る、下部欠損	177
208	1117	斎串か？	SG6	8712	-	(18.2)	1.0	1.0	スギ	板目	RW128	断面円形の棒状に丁寧につくる、下部欠損	177
208	1118	斎串か？	SG6	8612	-	(15.0)	1.4	1.0	スギ	板目	RW126	両端折損、下方を細く削る、全体を丁寧に面取りする	177
208	1119	削り出し棒	SG6	8700	-	(16.9)	1.6	1.5	スギ	柾目	RW593	断面円形（一面のみ平坦に面取り）、上端円頭状、下部欠損	178
208	1120	棒状製品	SG6	8614	-	(15.0)	1.4	1.4	スギ	板目	RW329	下部欠損、上端部丸く加工、部分的に炭化する	177
208	1121	削り出し棒	SG6	8612	-	(9.7)	1.2	0.9	スギ	板柾	RW563-2	串状品、表面に刃物傷、両端欠損	177
208	1122	柄	SG6	8715	-	(8.2)	1.7	1.4	スギ	柾目	RW235	杓子の柄、丁寧に削り出し成形する	178
208	1123	斎串か？	SG6	8711	-	(13.1)	1.0	0.8	スギ	板柾	RW162	断面多角形、上端やや丸くつくる	176
208	1124	柄	SG6	8712	-	(17.6)	2.3	1.9	スギ	板柾	RW186	裏表両面やや平坦に作り出す、丁寧なつくり	178
208	1125	棒状製品	SG6	8803	-	(8.8)	1.1	1.0	スギ	板柾	RW379	断面円形、下部欠損、斎串か？	177
209	1126	板状	SG6	8711	-	23.7	1.8	0.9	スギ	柾目	RW543	上端をやや丸く、下端を尖頭状につくる、下端炭化	175
209	1127	板材	SG6	8613	-	(14.3)	2.8	0.7	スギ	板目	RW438	上端部炭化	175
209	1128	板材	SG6	8711	-	(18.2)	1.2	0.4	スギ	柾目	RW114	板状、上端斜めに落とし炭化する、下部欠損	175
209	1129	板材	SG6	8802	-	28.5	2.8	1.6	ウコギ属	板目	RW590	下端尖頭状、全体的に炭化する	179
209	1130	板材	SG6	8715	-	11.0	1.8	0.8	スギ	柾目	RW234	両端斜めに落とされる、両端・裏面炭化	185
209	1131	札状品	SG6	8612	-	(8.9)	3.1	0.5	スギ	板目	RW252	上端両角を落とす、穿孔１ヶ所、上部炭化、札状製品か？	175
209	1132	板材	SG6	8806	-	17.3	2.8	1.1	スギ	柾目	RW317	下端を直線状、上端を尖頭状につくる、両面平坦、上部・側面炭化、中央に木釘１ヶ所	189
209	1133	加工材	SG6	8701	-	(18.9)	3.3	1.3	マツ属（二葉松類）	柾目	RW452-1	上部炭化	186
210	1134	斎串か？	SG6	8804	-	(36.3)	(2.8)	0.3	スギ	板目	RW146	薄い板材、上部平坦、下部欠損	182
210	1135	斎串	SG6	8711	-	(23.3)	2.1	0.6	スギ	板目	RW284	上端部圭頭状、下部欠損	179
210	1136	斎串	SG6	8713	-	(20.0)	(3.0)	0.4	スギ	板目	RW555-1	板状、下方を尖頭状に尖らせる、上下端欠損、中頃に側面から方形に刻みが入る	179
210	1137	斎串か？	SG6	8804	-	(19.0)	2.4	0.6	スギ	柾目	RW587	下部に向い細くなる、下半部に両側面から切込が入る？	179
210	1138	斎串か？	SG6	8701	-	24.6	1.6	0.7	コナラ節	板目	RW412	上端をやや圭頭状、下端を剣先状につくる	178
210	1139	斎串か？	SG6	8701	-	(15.7)	1.8	0.4	スギ	柾目	RW469	下部斜めに落とす、左右側面を薄く削る	180
210	1140	斎串	SG6	8711	-	(13.5)	2.4	0.5	トウヒ	板目	RW161	上端圭頭状、下部欠損、下に向いやや細くなる、丁寧な造り	180

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
210	1141	斎串か	SG6	8806	-	(15.0)	1.5	0.5	スギ	板目	RW541	上端を丸く、下方をやや細くつくる、下部欠損	181
210	1142	斎串か？	SG6	8806	-	(12.2)	1.3	0.5	スギ	板目	RW716	両端欠損、下方やや細くなる	181
210	1143	斎串か？	SG6	87・8600	-	(13.8)	1.1	0.2	スギ	板目	RW597	上端角を落す、下端斜めに切り落とす、表面に刃物痕	180
210	1144	斎串	SG6	8806	-	18.5	1.9	0.5	スギ	板目	RW540	上下端部ともに圭頭状につくりだす	179
210	1145	斎串か？	SG6	8709	-	(13.7)	1.9	0.7	スギ	柾目	RW598	上端円頭状、下方に向いやや細くなる、下端欠損	185
211	1146	斎串か？	SG6	8710	-	(15.4)	2.2	0.4	スギ	板目	RW481	上端角を落しやや丸くつくる、下部欠損	180
211	1147	串片	SG6	8714	-	11.5	1.6	0.5	スギ	板目	RW786	両面平滑な板状	-
211	1148	串片	SG6	8711	-	(11.4)	1.4	0.4	スギ	柾目	RW775	薄い板状、下方やや細くなる、折れ曲がる	183
211	1149	串片	SG6	8611・12	-	(12.7)	1.4	0.6	トウヒ属	板目	RW776	下端加工痕	181
211	1150	斎串か？	SG6	8805	-	(12.6)	1.0	0.2	スギ	柾目	RW145	薄い板状、上端直線状、下方に向いやや細くなる、下端欠損	181
211	1151	板状	SG6	8807	中層砂利	(8.1)	1.3	0.4	スギ	板目	RW769	両面平滑、両端欠損	-
211	1152	板状	SG6	8614	-	(8.1)	1.1	0.3	スギ	板目	RW784-1	薄い板状	-
211	1153	板状	SG6	8614	-	(6.3)	0.7	0.3	スギ	板目	RW784-2	薄い板状	-
211	1154	板状	SG6	8702	-	(7.9)	1.6	0.7	スギ	柾目	RW747	両端欠損、下方やや細くなる、断面台形状	183
211	1155	板状	SG6	8611	-	6.6	1.3	0.4	スギ	板目	RW790	板状	-
211	1156	板材	SG6	8713	-	(11.4)	1.4	0.4	ヤナギ属	板目	RW446-1	方形の穿孔１ヶ所、斎串か？	178
211	1157	串片	SG6	8615	中層	(8.0)	0.7	0.6	スギ	板柾	RW774	丁寧に面取りする、上下端欠損	184
211	1158	串片	SG6	8611	-	9.2	0.8	0.4	マツ属複維管束亜属	柾目	RW792	折れている	-
211	1159	串	SG6	8806	-	(7.8)	1.0	0.4	スギ	板目	RW707	両端欠損、下方やや細く削る	181
211	1160	串片	SG6	8711	下層	(10.0)	1.0	1.0	スギ	板柾	RW778	断面方形の棒状に面取り、上端丸くする、下部欠損、裏面炭化する	184
211	1161	串状	SG6	8615	中層	12.9	1.2	0.5	スギ	板目	RW773	両端斜めに加工か、上部炭化	181
211	1162	板状	SG6	8713	-	(6.3)	1.0	0.5	ヤナギ属	板目	RW446-2	斎串か？	178
211	1163	串片	SG6	8804	最下層	(10.8)	0.9	0.6	スギ	柾目	RW777	先端削られ尖る	184
211	1164	串片	SG6	8614	-	8.3	0.7	0.7	スギ	板柾	RW783	棒状、断面方形に面取り	184
211	1165	串片	SG6	8714	-	(8.5)	1.2	0.6	スギ	柾目	RW787	穿孔跡２ヶ所、下部に横方向に２本線が入る	-
211	1166	串片	SG6	8611	-	(6.1)	0.8	0.5	スギ	板目	RW788	断面方形の棒状、両端欠損	184
211	1167	串片	SG6	8713	-	(5.7)	1.4	0.6	スギ	板目	RW730	下端斜めに落とす	186
211	1168	棒状製品	SG6	8612	-	(9.8)	1.5	0.9	マツ属複維管束亜属	板目	RW120	断面方形、上部斜めに切られる、両端欠損	183
212	1169	斎串	SG6	8808	-	14.2	1.4	0.5	スギ	板目	RW772	断面菱形	183
212	1170	斎串か？	SG6	8807	中層砂利	15.5	0.9	0.5	スギ	板柾	RW768	断面方形に面取りする、下方やや細くなる	184
212	1171	斎串か？	SG6	8612	-	(17.4)	1.1	0.7	スギ	柾目	RW119	全面面取りされ平坦、刃物によるケズリ痕残る、下部欠損	182・184
212	1172	斎串か？	SG6	8701	-	14.9	1.0	1.0	スギ	柾目	RW560	断面方形の角材状、下端に向いやや細くなる、斎串か？	184
212	1173	斎串か？	SG6	8715	中層砂	12.8	0.8	0.8	-	板柾	RW573	下端細く加工	-
212	1174	斎串か？	SG6	8712	-	(12.5)	1.1	0.5	スギ	板目	RW712	丁寧に削り出す、両端欠損、下方やや細くなる	184
212	1175	斎串か？	SG6	8612	-	(8.4)	1.2	0.7	スギ	板目	RW738	両端欠損、下方やや細くなる	183
212	1176	斎串か？	SG6	8714	-	(9.0)	1.0	0.7	スギ	板目	RW229	下端にＬ字状の抉りあり、両面剥がれている	-
212	1177	斎串か？	SG6	8803	-	(10.5)	0.8	0.7	スギ	柾目	RW387	上部側面を削り尖らせる、下端欠損、裏面に穿孔の痕跡、表面に刃物傷？	184
212	1178	斎串か？	SG6	8803	-	(11.9)	1.0	0.8	スギ	板目	RW378	両端欠損	184
212	1179	斎串か？	SG6	8612	-	(6.8)	0.9	0.4	スギ	柾目	RW733	裏面に付着物（漆？柿渋？）	-
212	1180	斎串か？	SG6	8611	-	(5.6)	1.0	0.4	スギ	柾目	RW791	板状、下部やや薄く削られる	-
212	1181	斎串か？	SG6	8611	-	9.0	1.1	0.6	スギ	柾目	RW789	断面方形に面取り、側面一部炭化	-

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
212	1182	斎串か？	SG6	8810	-	(8.8)	0.8	0.3	-	板目	RW579	両面平滑、下部欠損	-
212	1183	斎串か？	SG6	8715	-	(8.7)	1.7	0.9	スギ	板目	RW549-2	両端欠損	-
212	1184	斎串か？	SG6	8711	-	(7.5)	1.1	0.5	-	板目	RW263	下方に向い細くなる	-
212	1185	斎串か？	SG6	8807	中層砂利	18.7	1.2	1.2	スギ	板目	RW767	上下端部尖らせる	183
212	1186	斎串か？	SG6	8803	-	(10.7)	1.1	0.3	スギ	板目	RW386	断面三角形、両端欠損	183
212	1187	斎串か？	SG6	8702	-	(12.1)	1.5	1.0	スギ	板目	RW745	下端欠損	182
212	1188	斎串か？	SG6	8614	-	14.5	1.9	0.7	スギ	板目	RW237-2	-	182
212	1189	斎串か？	SG6	8710	-	(19.3)	1.3	0.5	スギ	柾目	RW506-1	上端部斜めに切られる、下端欠損	173
213	1190	板材	SG6	8807	-	(32.6)	2.4	(0.6)	スギ	板目	RW292	下端に向い細く加工される	163
213	1191	板材	SG6	8803	-	(28.1)	3.2	0.9	スギ	柾目	RW375	下端丸くつくる、上方欠損	182
213	1192	板材	SG6	8711	-	(20.1)	2.7	1.1	スギ	板目	RW104	下端を斜めに加工、片面剥がれる	-
213	1193	板材	SG6	8615	-	(11.8)	3.3	0.6	スギ	板目	RW211	上部平坦、下部欠損、中央左側炭化	180
213	1194	棒状	SG6	8807	中層砂利	19.5	1.8	0.9	スギ	板目	RW766	表面丸みを帯び、裏面は平坦、上端円頭状	175
213	1195	板状	SG6	8702	-	(12.1)	2.4	0.9	スギ	柾目	RW746	上端加工、下方やや薄くなる、下端欠損	183
213	1196	不明部材	SG6	8708	-	(18.3)	2.5	0.9	スギ	板目	RW519-4	板状、両端欠損	183
213	1197	板状	SG6	8612	-	(14.9)	2.0	1.3	スギ	柾目	RW734	上端欠損、下端薄く削る	185
213	1198	板材	SG6	8803	-	(15.4)	4.0	1.0	スギ	板目	RW382	上下とも欠損	-
213	1199	板状	SG6	8713	-	(10.5)	2.5	0.7	-	板目	RW728	上下欠損、穿孔１ヶ所	-
213	1200	板状	SG6	8713	-	(11.5)	2.5	0.7	-	板目	RW729	下部欠損、穿孔１ヶ所	-
213	1201	板材	SG6	8711	-	5.6	2.1	0.7	スギ	柾目	RW253	上下端部削り成形	-
214	1202	板材	SG6	8711	-	9.9	2.0	0.5	スギ	柾目	RW93-2	上端は直線的、下端は一部斜めに落とす、斎串か？	186
214	1203	板片	SG6	8702	-	7.2	1.9	0.8	スギ	板目	RW744	上部やや薄く削る、下端斜めに切り落とす	185
214	1204	板材	SG6	8711	-	(8.7)	1.9	0.5	スギ	柾目	RW257-1	下端欠損、上端は端部か？	186
214	1205	加工材	SG6	8805	-	(7.5)	1.5	0.5	アスナロ	柾目	RW72-3	板状品、上端斜めに薄く削られる、下部欠損、未成品	-
214	1206	板材	SG6	8803	-	(8.3)	2.2	0.6	スギ	柾目	RW376	下部欠損	-
214	1207	板材	SG6	8709	-	6.2	1.6	0.6	-	板目	RW709	下端斜めに落とす	-
214	1208	板材	SG6	8702	-	(5.6)	2.4	0.4	-	板目	RW589	下部欠損	-
214	1209	板材	SG6	8709	-	(7.3)	1.9	0.6	マツ属単維管束亜属	板目	RW713	上端斜め落とされる、下部欠損	186
214	1210	板材	SG6	8711	-	(6.7)	2.6	0.7	スギ	板目	RW725	両面平滑、下部欠損	162
214	1211	板状	SG6	8711	下層	5.1	2.0	0.4	スギ	柾目	RW781	両面平滑	162
214	1212	板状	SG6	8611・12	-	(5.6)	2.4	0.9	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	柾目	RW802	断面方形に面取り、上部斜めに落とす、下端欠損	162
214	1213	板材	SG6	8710	-	(5.9)	1.5	0.6	スギ	柾目	RW495	上部やや丸状に加工、下部欠損	186
214	1214	炭化材	SG6	8710	-	(5.5)	1.2	0.5	スギ	柾目	RW502-2	両端欠損、上端炭化	-
214	1215	板状	SG6	8711	下層	4.9	1.9	0.4	トウヒ属	板目	RW782	両面平滑	-
214	1216	板材	SG6	8710	-	(5.9)	1.9	0.6	-	板目	RW477	右側を薄くつくる、上下端欠損	-
214	1217	板材	SG6	8711	-	(5.4)	1.9	0.6	コナラ節	柾目	RW257-2	両端欠損	-
214	1218	板状品	SG6	8803	-	(5.1)	1.1	0.5	マツ属複維管束亜属	板目	RW373-2	-	-
214	1219	板材	SG6	8704	-	(4.7)	1.3	0.3	-	板目	RW585	上部欠損	-
214	1220	板材	SG6	8710	-	(4.9)	1.1	0.2	スギ	板目	RW506-2	-	-
214	1221	板状	SG6	8711	下層	(7.4)	1.7	0.5	スギ	板目	RW780	表面ケズリ痕か？	186
214	1222	板状	SG6	8612	-	(11.4)	1.5	0.6	スギ	柾目	RW740	下部に向い細く加工、上部欠損	183

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
214	1223	板材	SG6	8611	-	(11.9)	1.8	0.8	スギ	板目	RW122	上端を斜めに落とす	185
214	1224	板材	SG6	8711	-	(12.1)	(1.9)	0.5	マツ属複維管束亜属	板目	RW185	両端欠損、上端磨滅→二次利用か？	180
214	1225	板状	SG6	8714	-	11.3	1.9	0.5	スギ	柾目	RW806	-	183
215	1226	板材	SG6	8701	-	(27.5)	3.4	0.4	スギ	板目	RW470	上部に穿孔１ヶ所、下方をやや細く削る	182
215	1227	板材	SG6	8712	-	22.3	1.4	0.5	アスナロ属	柾目	RW113	串か？	184
215	1228	板材	SG6	8805	-	(9.7)	1.8	0.4	スギ	板目	RW367	上端斜めに落とされる、下部欠損	186
215	1229	板材	SG6	8805	-	(7.2)	2.9	0.3	スギ	板目	RW368	両面平滑	-
215	1230	板材	SG6	8709	-	(9.5)	1.5	0.4	スギ	柾目	RW710	下部にやや向い細くなる、下端欠損	183
215	1231	板材	SG6	-	-	(9.2)	1.2	0.2	-	板目	RW567	両面平滑、下部欠損	-
215	1232	板材	SG6	8710	-	(15.1)	1.8	3.5	スギ	板目	RW478	上端やや丸くつくる、下部欠損	180
215	1233	板材	SG6	8612	-	(12.0)	1.4	0.3	-	柾目	RW578	上部円頭状で薄く加工、下部欠損	-
215	1234	角材？	SG6	8803	-	(4.2)	4.6	0.6	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	板目	RW380-3	上端欠損	-
215	1235	板材	SG6	8715	-	(10.7)	2.3	0.5	-	柾目	RW248	両端欠損	-
215	1236	板材	SG6	8804	-	16.8	1.7	0.7	スギ	板目	RW148	表面剥がれる	181
215	1237	板材	SG6	8803	-	(8.0)	(3.3)	0.5	-	板目	RW152	上下欠損	-
215	1238	板材	SG6	8711	-	(6.9)	4.1	0.8	スギ	柾目	RW718	下方を薄くする、刃物痕残る	-
215	1239	板材	SG6	8803	-	(12.1)	(3.8)	0.1	-	-	RW389	薄い板材、下部欠損	-
215	1240	板材	SG6	8700	-	(14.7)	(3.2)	0.3	スギ	板目	RW596	薄い板材、丁寧な削り	180
215	1241	板材	SG6	8711	-	(12.7)	2.9	0.6	スギ	板目	RW719	-	-
215	1242	板材	SG6	8711	-	(8.1)	4.0	0.6	-	柾目	RW256	上部斜めに落とす	-
216	1243	付け木	SG6	8709	-	12.2	1.3	0.9	-	板目	RW571	上端炭化、粗く割った木片	187
216	1244	付け木	SG6	8715	中層砂	11.9	1.1	0.6	-	柾目	RW574	上端炭化、粗く割った木片	-
216	1245	付け木	SG6	8802	-	10.1	1.2	1.1	-	柾目	RW575	上端炭化、下端斜めに切り落とされる	187
216	1246	付け木	SG6	8715	-	11.5	0.9	0.4	マツ属（二葉松類）	柾目	RW580	上端炭化	188
216	1247	付け木	SG6	8715	-	(10.3)	0.8	0.5	マツ属（二葉松類）	板目	RW581	上端炭化	188
216	1248	付け木	SG6	8612	-	15.1	1.4	0.8	マツ属複維管束亜属	板目	RW121	部分的に炭化、粗く割った木片	188
216	1249	付け木	SG6	8612	-	(13.5)	1.2	0.5	マツ属複維管束亜属	板目	RW124	先端炭化、粗く割った木片	188
216	1250	付け木	SG6	8611	-	13.4	1.3	0.7	マツ属複維管束亜属	不明	RW163	先端炭化	188
216	1251	付け木	SG6	8710	-	14.2	0.5	0.6	マツ属複維管束亜属	板目	RW479	下端を尖らせる、先端炭化	188
216	1252	付け木	SG6	8710	-	10.8	1.1	0.9	マツ属（二葉松類）	不明	RW492	先端炭化、粗く割った木片	187
216	1253	付け木	SG6	8611	-	9.9	1.4	1.1	マツ属（五葉松類）	板目	RW534	両端炭化	187
216	1254	付け木	SG6	8804	-	9.5	1.5	0.6	マツ属（二葉松類）	板目	RW588	上端炭化、粗く割った木片	188
216	1255	付け木	SG6	8700	-	11.8	1.5	0.6	マツ属（五葉松類）	板目	RW711	両端炭化、粗く割った木片	187
216	1256	付け木	SG6	8612	-	9.7	1.1	0.9	マツ属複維管束亜属	柾目	RW117	両端炭化、粗く削った木片	187
216	1257	付け木	SG6	8612	-	7.0	0.9	0.7	マツ属（二葉松類）	柾目	RW535	全体に棒状に削る、両端炭化	187
216	1258	付け木	SG6	8710	-	9.0	1.5	1.1	マツ属（二葉松類）	板目	RW505	両端炭化、粗く割った木片	187
216	1259	付け木	SG6	8714	-	7.2	1.5	0.9	マツ属（二葉松類）	板目	RW547-2	上端炭化、粗く割った木片	187
216	1260	付け木	SG6	8710	-	(10.5)	1.6	1.2	スギ	板目	RW502-1	上部炭化	187
216	1261	付け木	SG6	8714	-	7.9	1.8	1.1	マツ属（二葉松類）	不明	RW547-1	上端炭化、粗く割った木片	187
216	1262	付け木	SG6	8611	-	7.1	1.7	0.6	マツ属（二葉松類）	板目	RW536	上部炭化	187
216	1263	付け木	SG6	8803	-	(7.2)	1.4	0.8	マツ属複維管束亜属	板目	RW157-1	先端炭化	187

図版	No.	器種	遺構	グリッド	層	長	幅	厚	樹種	木取	登録番号	備考	写真
216	1264	付け木	SG6	8806	-	6.2	1.6	0.5	マツ属（二葉松類）	板目	RW539	上部炭化	187
216	1265	付け木	SG6	8709	-	5.0	1.7	0.6	マツ属（二葉松類）	-	RW599	上端炭化	187
216	1266	付け木	SG6	8614	-	(3.5)	1.0	0.5	マツ属（二葉松類）	柾目	RW237-1	先端炭化	187
216	1267	付け木	SG6	8615	-	6.1	1.5	1.0	マツ属複維管束亜属	柾目	RW308	先端炭化、割れた木片	187
216	1268	付け木	SG6	8711	-	4.4	0.8	0.7	マツ属	板目	RW727	上端炭化	187
216	1269	付け木	SG6	8714	-	4.6	1.0	0.4	マツ属（二葉松類）	板目	RW547-3	上端炭化	187
216	1270	付け木	SG6	8711	-	(5.5)	0.8	(0.4)	マツ属複維管束亜属	板目	RW260	先端炭化、下部欠損、粗く割った木片、裏表面炭化後剝れる	187
217	1271	付け木	SG6	8710	-	12.3	1.5	0.6	マツ属（二葉松類）	板目	RW476	先端細く削られ炭化している、上端やや斜めにカットされる	179
217	1272	付け木	SG6	8715	-	(7.0)	0.5	0.3	スギ	板目	RW582	下端鋭く尖らせる	179
217	1273	付け木	SG6	8807	-	(5.4)	1.5	0.8	-	板目	RW576	上端炭化、下部欠損	-
217	1274	付け木	SG6	8808		(8.5)	2.3	0.6	スギ	柾目	RW771	左端炭化	186
217	1275	付け木	SG6	8805	-	4.2	4.4	0.5	-	-	RW572	上端・側面炭化	-
217	1276	付け木	SG6	8710	-	(6.8)	1.5	0.7	モミ属	板目	RW480	全体が炭化している	-
217	1277	付け木？	SG6	8615	-	16.3	2.2	1.3	モミ属	-	RW208	加工材の端材か？	188
217	1278	付け木？	SG6	8612	-	13.1	2.2	0.3	マツ属（二葉松類）	-	RW164	-	188
217	1279	付け木？	SG6	8612	-	(10.1)	1.8	1.4	マツ属複維管束亜属	板目	RW735	粗く割った木片、下方細い、上端斜めに切り落とす	188
217	1280	付け木？	SG6	8615	-	13.0	1.5	0.8	モミ属	板目	RW310	全体を削り加工	188
217	1281	付け木？	SG6	8614	-	10.9	1.2	0.9	マツ属複維管束亜属	柾目	RW570	下部に向い細くなる、粗く割った木片	188
217	1282	付け木？	SG6	-	-	14.0	1.0	0.7	-	柾目	RW566	上部炭化	-
217	1283	付け木？	SG6	8805	-	10.4	1.0	0.7	マツ属単維管束亜属	板目	RW809	下端欠損	-
217	1284	付け木？	SG6	8611	-	14.5	1.1	0.8	マツ属（五葉松類）	板目	RW259	下端剣先状、上端圭頭状か？斎串か？	184
217	1285	付け木？	SG6	8805	-	12.7	1.1	0.7	カツラ	不明	RW349	上部ヘラ状、下端尖頭状	179
217	1286	付け木？	SG6	8711	-	(16.4)	1.3	0.8	マツ属複維管束亜属	板目	RW723	断面方形、下方を細く尖らせる、下部欠損	188
217	1287	付け木？	SG6	8612	-	8.6	0.8	0.3	マツ属（二葉松類）	板目	RW748	上部炭化	188
217	1288	付け木？	SG6	8714	-	13.7	1.9	0.9	クリ	板目	RW805	下端尖頭状に削る、表面に刃物傷	179
217	1289	付け木？	SG6	8806	-	10.0	1.6	1.2	マツ属（五葉松類）	芯持ち材	RW318	上下端とも尖らせる、付け木か？	-
217	1290	付け木？	SG6	8803	-	6.3	1.0	0.4	マツ属複維管束亜属	板目	RW384	木片	-
217	1291	付け木？	SG6	8612	-	6.7	0.9	0.4	-	柾目	RW749	下部に向い細くなる	-
219	1317	付け木	-	8206	-	12.5	1.1	1.3	マツ属（二葉松類）	板目	RW569	両端炭化	-

報告書抄録

ふりがな	せみたいせきだい１・２じはっくつちょうさほうこくしょ
書名	蝉田遺跡第１・２次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 226 集
編著者名	齋藤主税　後藤枝里子
編集機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒 999-3246　山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地　ＴＥＬ　023-672-5301
発行年月日	2017 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
せみたいせき 蝉田遺跡	やまがたけん 山形県 村山市 大字にしごう 西郷 字蝉田	6208	208-151	38° 29′ 45″	140° 22′ 13″	第１次調査 20120522 ～ 20121130	6,000	東北中央自動車道（東根～尾花沢間）
						第２次調査 20130523 ～ 20131213	5,000	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
せみたいせき 蝉田遺跡	集落跡	平安時代	掘立柱建物跡　4 掘立柱列跡　3 河川跡　2 溝跡 土坑 ピット	土師器 須恵器 黒色土器 墨書土器 木製品 石製品	平安時代の河川跡より多量の墨書土器・祭祀具を含む木製品が出土した。 （文化財認定箱数：141）
		近世	溝跡 土坑	陶磁器 木製品 金属製品	

要約

最上川・蝉田川が蛇行しながら流れる右岸の平地に立地する。掘立柱建物跡や土坑が確認され、平安時代の河川跡から墨書土器や、祭祀具を含む多くの木製品が出土した。「居住」目的の場所（集落）ではなく、祭祀行為に関わる場所である可能性が考えられる。

出土した土器は 9 世紀第 4 四半期から 10 世紀第 1 四半期のものを主体とし、底部網代の土器や、二次焼成を受けた土器が確認された。両黒土器・灰釉陶器なども出土し、付近の官衙関連施設の存在が伺われる。

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 226 集

蝉田遺跡第 1・2 次発掘調査報告書

2017 年 3 月 31 日発行

発行　公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒 999 - 3246　山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地
電話　023-672-5301
印刷　大場印刷株式会社
〒 990 - 2251　山形県山形市立谷川二丁目 485-2
電話　023-686-6155

この PDF データは下記の報告書を底本として作成しました。
閲覧を目的としていますので、詳細な写真や図面が必要な場合は、底本を参照して下さい。
底本は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター、山形県内の市町村教育委員会、図書館、各都道府県の埋蔵文化財センター、考古学を教える大学、国立国会図書館等に所蔵されています。
所蔵状況や利用方法は、直接各施設にお問い合わせ下さい。

書名：蝉田遺跡第 1・2 次発掘調査報告書
発行：公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
〒 999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地
電話 :023-672-5301
URL:http://www.yamagatamaibun.or.jp/
mail:yac@yamagatamaibun.or.jp
電子版作成日：2017 年 5 月 11 日